甲州市文化財調査報告書　第17集

五反田遺跡

—ナフコ甲州店建設に伴う発掘調査報告書—

2016年12月

株式会社ナフコ
甲州市教育委員会
公益財団法人 山梨文化財研究所

五反田遺跡

―ナフコ甲州店建設に伴う発掘調査報告書―

2016年12月

株式会社ナフコ
甲州市教育委員会
公益財団法人山梨文化財研究所

序

本書は株式会社ナフコ甲州店建設に伴って発掘調査が実施された、甲州市塩山熊野に所在する五反田遺跡の発掘調査報告書です。

市内を流れる重川右岸の微高地上に立地する五反田遺跡は、平成12・13年度に山梨県埋蔵文化財センターが塩山東バイパス（国道411号線）建設に伴う発掘調査を行った結果、古墳時代や奈良・平安時代の竪穴住居跡等が発見され、この地域に古代の集落跡が存在することが明らかとなりました。

今回の調査地点はこれに近接しており、調査の結果、73軒にもおよぶ竪穴住居跡や掘立柱建物、大溝、土坑、ピット等が発見されました。これらは一部古墳時代初頭のものもありますが、多くは奈良時代から平安時代にかけてのもので、その時代に営まれた集落跡としては、市域の中では大規模な集落跡であり、平安時代後半に隆盛を迎えたことが窺えます。

このような古墳時代から奈良・平安時代の集落跡である五反田遺跡の報告書を刊行できたことは大変喜ばしいことです。この報告書は本市の歴史を研究するための基礎資料となるものであり、ぜひ手に取ってご一読いただければ幸いです。

最後となりましたが、遺跡発掘調査ならびに報告書作成に関係して、多大なるご理解とご協力を賜った関係諸機関および関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成28年12月25日

甲州市教育委員会

教育長　保　坂　一　仁

例　　言

1　本書は平成 25 年度に発掘調査を実施した山梨県甲州市塩山熊野所在の五反田遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査はナフコ甲州店建設に伴うもので、試掘調査は甲州市が実施し、本調査は株式会社ナフコより委託を受けて公益財団法人山梨文化財研究所が実施した。

3　本書第３章第５節の原稿執筆はバンダリ スダルシャン・佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ）が行い、その他の原稿執筆・編集は櫛原功一（公益財団法人山梨文化財研究所）が行った。

4　発掘調査における基準点測量、空中写真撮影、全体図作成業務は株式会社テクノプラニングに委託した。また竈内出土炭化種実の同定、考察については株式会社パレオ・ラボに委託した。また石材の石質鑑定は河西学（公益財団法人山梨文化財研究所）が実施した。

5　本書に関わる出土品、記録類は甲州市教育委員会で保管している。

6　発掘調査から報告書作成に至るまで､以下の諸氏、諸機関からご教示、ご配慮を賜った。記して感謝申し上げたい（順不同、敬称略）。

三浦成二・増田智（株式会社ナフコ）、小野正文・飯島泉・入江俊行（甲州市教育委員会）、河西学・宮澤公雄・平野修・望月秀和・鈴木稔・畑大介・中山千恵（公益財団法人山梨文化財研究所）、村田松雄（有限会社朝日商事）、植野世紀（株式会社伏見設計）､田中眞哉（株式会社大原建設）､三枝哲雄（三枝興業）､若狭吉輝（株式会社アミノ測量）､森谷忠･柴田直樹（株式会社テクノプラニング）、佐々木由香（株式会社パレオ・ラボ）、長谷川規愛、野崎進、室伏徹、雨宮弘聡、三澤達也

凡　　例

1　遺跡全体図におけるＸ・Ｙ数値は、平面直角座標第８系（原点：北緯36度00分00秒）、東経（138度30分00秒）に基づく座標数値である（世界測地系数値）。各遺構平面図中の北を示す方位はすべて座標北で、真北の方向角は西偏　－0°08′08″である。

2　遺構および遺物の縮尺は次のとおりである。

竪穴	１：60
竈	１：30
土坑・ピット	１：30
土器・石器・石製品	１：３
土製品・鉄製品	１：２

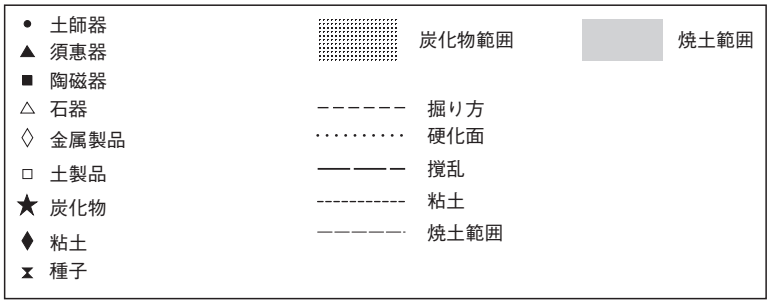
3　土器断面図中の黒塗りは須恵器、ドット網掛けは陶器（灰釉・緑釉陶器）を表す。

4　竪穴建物等、遺構平面図、断面図における各種記号は遺物の種別を、実線・破線等の各種線種は掘り方、硬化面、粘土分布、焼土分布等の範囲、遺構関連線種を示す（下図参照）。

5　土層説明における土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』を用いた。

6　遺物番号は、遺物図版、遺物観察表番号と一致する。

7　本書の図１は国土地理院発行１/200,000 地勢図、図２は１/25,000 地形図を使用した。



本文目次

例言
凡例
第１章　経　過 …… 1
　第１節　調査の経過 …… 1
　第２節　発掘作業の経過 …… 2
　第３節　整理等作業の経過 …… 4
第２章　遺跡の位置と環境 …… 4
　第１節　地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　調査の方法と成果 …… 11
　第１節　調査の方法 …… 11
　第２節　層序 …… 11
　第３節　遺構と遺物 …… 11
　第４節　五反田遺跡から出土した大型植物遺体 42
第４章　総　括 …… 53
　第１節　五反田遺跡の土器類の変遷 …… 53
　第２節　五反田集落の変遷 …… 54
　第３節　五反田遺跡の文字関連資料 …… 57
　第４節　五反田遺跡の鉄製品・砥石と鍛冶関連遺物 …… 58
　第５節　祭祀遺物（手捏ね土器・土製品）…… 58
　第６節　製塩土器とみられる小形土器 …… 58
　第７節　施釉陶器（灰釉・緑釉陶器）…… 59
　第８節　その他 …… 59
　第９節　おわりに …… 60
報告書抄録
奥付

挿図目次

図１　五反田遺跡の位置 …… 5
図２　周辺の遺跡分布 …… 6
図３　遺跡の位置 …… 8
図４　試掘坑配置図および等高線図 …… 9
図５　店舗平面図 …… 10
図６　集落の変遷 …… 56

表目次

表１　周辺遺跡一覧表 …… 7
表２　ピット一覧表 …… 41
表３　五反田遺跡から出土した炭化種実（１）… 43
表４　五反田遺跡から出土した炭化種実（２）… 43
表５　五反田遺跡から出土したダイズ属の大きさ 44
表６　土器観察表 …… 46
表７　石器観察表 …… 52
表８　土製品観察表 …… 52
表９　金属製品観察表 …… 53

図版目次

第１図　全体図 …… 61・62
第２図　１号竪穴 …… 63
第３図　１・２号竪穴 …… 64
第４図　３・５・６・61号竪穴（１）…… 65
第５図　３・５・６・61号竪穴（２）…… 66
第６図　３・５・６・61号竪穴（３）…… 67
第７図　３・５・６・61号竪穴（４）…… 68
第８図　４号竪穴 …… 69
第９図　７号竪穴 …… 70
第10図　８号竪穴 …… 71
第11図　９・45号竪穴（１）…… 72
第12図　９・45号竪穴（２）…… 73
第13図　10・11号竪穴（１）…… 74
第14図　10・11号竪穴（２）…… 75
第15図　10・11号竪穴（３）…… 76
第16図　12号竪穴 …… 77
第17図　13号竪穴 …… 78
第18図　14・15・18号竪穴（１）…… 79
第19図　14・15・18号竪穴（２）…… 80
第20図　14・15・18号竪穴（３）…… 81
第21図　16・17号竪穴 …… 82
第22図　19～21号竪穴 …… 83
第23図　22号竪穴 …… 84
第24図　25号竪穴 …… 85

第25図　26・50・72号竪穴（１）…… 86
第26図　26・50・72号竪穴（２）…… 87
第27図　26・50・72号竪穴（３）…… 88
第28図　26・50・72号竪穴（４）…… 89
第29図　27・28・30～32号竪穴（１）…… 90
第30図　27・28・30～32号竪穴（２）…… 91
第31図　27・28・30～32号竪穴（３）…… 92
第32図　29号竪穴 …… 93
第33図　33・69号竪穴（１）…… 94
第34図　33・69号竪穴（２）…… 95
第35図　47・48号竪穴（１）…… 96
第36図　47・48号竪穴（２）…… 97
第37図　33・34・47～49・69号竪穴 …… 98
第38図　35号竪穴 …… 99
第39図　38号竪穴 …… 100
第40図　36・44号竪穴 …… 101
第41図　36・40・44号竪穴 …… 102
第42図　40号竪穴 …… 103
第43図　39号竪穴 …… 104
第44図　37・41号竪穴（１）…… 105
第45図　37・41号竪穴（２）…… 106
第46図　42号竪穴 …… 107
第47図　42・67号竪穴 …… 108
第48図　65号竪穴 …… 109
第49図　67号竪穴 …… 110
第50図　43・64号竪穴（１）…… 111
第51図　43・64号竪穴（２）…… 112
第52図　43・46・64号竪穴 …… 113
第53図　51・52・68号竪穴（１）…… 114
第54図　51・52・68号竪穴（２）…… 115
第55図　51・52・68号竪穴（３）…… 116
第56図　53号竪穴 …… 117
第57図　54・56号竪穴 …… 118
第58図　57号竪穴 …… 119
第59図　58・59号竪穴 …… 120
第60図　60・62号竪穴 …… 121
第61図　62・63号竪穴 …… 122
第62図　70・71号竪穴（１）…… 123
第63図　70・71号竪穴（２）…… 124
第64図　73号竪穴 …… 125
第65図　74・76号竪穴 …… 126
第66図　74号竪穴 …… 127
第67図　75・76号竪穴 …… 128
第68図　75・77号竪穴 …… 129
第69図　１号掘立柱建物跡 …… 130
第70図　２号掘立柱建物跡 …… 131
第71図　１・４・５・12号溝 …… 132
第72図　２・３・６～11号溝 …… 133
第73図　１～３号土坑 …… 134
第74図　４～７号土坑 …… 135
第75図　ピット（１）…… 136
第76図　ピット（２）…… 137
第77図　ピット（３）…… 138
第78図　ピット（４）…… 139
第79図　ピット（５）…… 140
第80図　ピット（６）…… 141
第81図　ピット（７）…… 142
第82図　ピット（８）…… 143
第83図　ピット（９）…… 144
第84図　ピット（10）…… 145
第85図　ピット（11）…… 146
第86図　ピット（12）…… 147
第87図　ピット（13）…… 148
第88図　ピット（14）…… 149
第89図　ピット（15）…… 150
第90図　ピット（16）…… 151
第91図　ピット（17）…… 152
第92図　１号谷 …… 153
第93図　１・２号竪穴　遺物 …… 154
第94図　２・３号竪穴　遺物 …… 155
第95図　４・５号竪穴　遺物 …… 156
第96図　５・６号竪穴　遺物 …… 157
第97図　６・７号竪穴　遺物 …… 158
第98図　８号竪穴　遺物 …… 159
第99図　９・10号竪穴　遺物 …… 160
第100図　10号竪穴　遺物 …… 161
第101図　10号竪穴　遺物 …… 162
第102図　11号竪穴　遺物 …… 163
第103図　12号竪穴　遺物 …… 164
第104図　14～16号竪穴　遺物 …… 165
第105図　17・18・22号竪穴　遺物 …… 166
第106図　25・26号竪穴　遺物 …… 167
第107図　27～29号竪穴　遺物 …… 168
第108図　29号竪穴　遺物 …… 169
第109図　30号竪穴　遺物 …… 170
第110図　31・32号竪穴　遺物 …… 171
第111図　33号竪穴　遺物 …… 172
第112図　33号竪穴　遺物 …… 173
第113図　33・34号竪穴　遺物 …… 174
第114図　35・36号竪穴　遺物 …… 175

第115図　36・37号竪穴　遺物 …… 176
第116図　37・38号竪穴　遺物 …… 177
第117図　39・40号竪穴　遺物 …… 178
第118図　40・41号竪穴　遺物 …… 179
第119図　41・42号竪穴　遺物 …… 180
第120図　42・43号竪穴　遺物 …… 181
第121図　44・45号竪穴　遺物 …… 182
第122図　46～48号竪穴　遺物 …… 183
第123図　48号竪穴　遺物 …… 184
第124図　49号竪穴　遺物 …… 185
第125図　50号竪穴　遺物 …… 186
第126図　50号竪穴　遺物 …… 187
第127図　50・51号竪穴　遺物 …… 188
第128図　51号竪穴　遺物 …… 189
第129図　52号竪穴　遺物 …… 190
第130図　53・54・57号竪穴　遺物 …… 191
第131図　58～61号竪穴　遺物 …… 192
第132図　62・63号竪穴　遺物 …… 193
第133図　64号竪穴　遺物 …… 194
第134図　65・67号竪穴　遺物 …… 195
第135図　67・68号竪穴　遺物 …… 196
第136図　68号竪穴　遺物 …… 197
第137図　69～72号竪穴　遺物 …… 198
第138図　73・74号竪穴　遺物 …… 199
第139図　75号竪穴　遺物 …… 200
第140図　76号竪穴　遺物 …… 201
第141図　76号竪穴　遺物 …… 202
第142図　76号竪穴　遺物 …… 203
第143図　土坑・ピット　遺物 …… 204
第144図　ピット・１号谷・溝　遺物 …… 205
第145図　溝　遺物 …… 206
第146図　溝・遺構外　遺物 …… 207

写真図版目次

図版１　１・２　空撮写真
図版２　１・２　空撮写真
図版３　１～４　１竪　５・６　２竪　７・８　３竪
図版４　１～５　４竪　６・７　５・６竪　８　５竪
図版５　１～３　６竪　４～７　７竪　８　８竪
図版６　１～３　８竪　４・５　９竪　６　９・45竪
７・８　９竪
図版７　１～３　10・11竪　４　10竪　５～７　11竪
８　12竪
図版８　１～３　12竪　４　13竪　５～７　14竪
８　15竪
図版９　１・２　15竪　３～５　16竪　６・７　17竪
８　18竪
図版10　１～３　18竪　４・５　19～21竪　６　19竪
７　20竪　８　22竪
図版11　１・２　22竪　３～５　25竪　６・８　26竪
７　26・50竪
図版12　１～３　26竪　４　27竪　５・６　28竪
７・８　29竪
図版13　１・２　29竪　３・５　30竪　４　30～32竪
６・７　31竪　８　32竪
図版14　１　32竪　２　33・48・49竪　３・４　33竪
５～７　34竪　８　35竪
図版15　１・２　35竪　３・５・６　36竪
４　36・44竪　７　37竪　８　37・41竪
図版16　１～４　37竪　５～８　38竪
図版17　１・２　38竪　３～７　39竪　８　40竪
図版18　１・２・４　40竪　３　40・44竪
５～７　41竪　８　42竪
図版19　１・２　42竪　３　42・65・67竪
４～８　43竪
図版20　１　43竪　２～４　43・64竪　５～８　44竪
図版21　１　45竪　２～５　46竪　６・７　47竪
８　48竪
図版22　１～５　48竪　６～８　49竪
図版23　１・２　49竪　３～７　50竪　８　51・52竪
図版24　１・２　51・52竪　３　52竪　４～７　53竪
８　54竪
図版25　１～３　54・56竪　４　54竪　５～７　57竪
８　58竪
図版26　１～３　58竪　４～７　59竪　８　60竪
図版27　１・２　60竪　３～７　61竪　８　62竪
図版28　１～３　62竪　４～７　63竪　８　64竪
図版29　１～３　64竪　４　67竪　５　65・67竪
６　65竪　７・８　67竪
図版30　１・２　68竪　３・４　69竪　５　70・71竪
６・７　70竪　８　72竪
図版31　１～５　73竪　６～８　74竪
図版32　１～４　74竪　５～７　75竪　８　76竪
図版33　１～４　76竪　５　77竪　６　１掘立
７・８　２掘立
図版34　１　２・11溝　２　３・11溝　３　５溝

４～８　10溝
図版35　１～３　10溝　４～７　12溝　８　ピット群
図版36　１　表土剥ぎ　２　空撮　３　見学会
４～６　調査風景　７・８　調査区
図版37　１　１土　２　２土・106ピ
３　３土・140ピ　４　５土　５　６土
６　21ピ　７　25ピ　８　28ピ　９　37ピ
10　38ピ　11　39ピ　12　40ピ　13　41ピ
14　43ピ　15　47ピ　16　105ピ　17　128ピ
18　132ピ　19　139ピ　20　150・151ピ
21　152ピ　22　155ピ　23　172ピ
24　178ピ　25　182ピ　26　183ピ
27　186ピ　28　197ピ　29　198ピ
30　211ピ　31　246ピ　32　257ピ
図版38　出土遺物（１）
図版39　出土遺物（２）
図版40　出土遺物（３）
図版41　出土遺物（４）
図版42　出土遺物（５）
図版43　出土遺物（６）
図版44　出土遺物（７）
図版45　出土遺物（８）
図版46　出土遺物（９）
図版47　五反田遺跡から出土した炭化種実

第１章　経　過

第１節　調査の経過

ホームセンターを全国展開する株式会社ナフコ（本社　北九州市）では、平成24年（2012）、山梨県甲州市塩山熊野地内の塩山東バイパス（新塩山バイパス）沿いに山梨県内では初となる新店舗建設を予定した。開発計画を受け、甲州市教育委員会では平成24年３月、８～10月に予定地内で３回にわたる試掘調査を実施したところ、竪穴住居跡８軒、土坑６基、溝等のほか平安時代の水田の可能性のある畦畔状遺構を確認した。

甲州市教育委員会では試掘調査の結果、開発対象面積のうち店舗建設部分4300㎡について本調査が必要と判断した。その後、株式会社ナフコとの協議を経て、平成25年３月、公益財団法人山梨文化財研究所が調査業務を実施することとなった。

本調査にあたっては、株式会社ナフコと公益財団法人山梨文化財研究所の間で委託契約を締結し、平成25年３月25日付けで文化財保護法第92条に基づき発掘届を提出、甲州市教育委員会を交えた三者で協定書を結び、甲州市教育委員会の指導監督のもと調査を進めることとなった。

なお本調査を実施した地番は、山梨県甲州市塩山熊野字横井505・507-1・518-1・516・520・524・525・526・528・559・560-1である。

本調査に先立つ甲州市教育委員会による１次～３次の試掘調査の概要は以下の通り（甲州市教育委員会）。なお、試掘調査で遺構と認識された落ち込みが本調査では確認できなかった部分、溝とされたものが竪穴の一部と判明した部分などがあるが、本書では本調査の成果を優先して報告し、試掘データとの対比はしていない。したがって以下の試掘報告における遺構名は、あくまでも試掘時点での仮№であり、本調査には踏襲していない（図４）。

【１次調査】

調査期間　平成24年３月13日～31日

調査面積　103㎡

３本のトレンチ（Ａ～Ｃ）を設定。Ａトレンチは30ｍ×1.2ｍ。地表下90㎝で遺構確認面となり、確認面から50㎝で溝１、ピット２を検出、平安時代の土師器が出土した。Ｂトレンチは20ｍ×1.2ｍ。地表下1.2ｍで遺構確認面となり、重複した３軒の竪穴住居跡、溝1、ピット１を確認した。土師器、須恵器出土。Ｃトレンチは27.5ｍ×1.2ｍ。地表下90㎝で遺構確認面となり、竪穴住居跡１、ピット２を確認した。１号住は4.4ｍ以上で、確認面からの深さは約50㎝。土師器が主に出土した。

【２次調査】

調査期間　平成24年８月29日～９月５日

調査面積　139㎡

４本のトレンチ（Ｄ～Ｇ）を設定。Ｄトレンチは23.5ｍ×1.4ｍ。地表下60㎝で遺構確認面となり、竪穴住居跡２（５・６号住）、小ピット２（６・７号ピット）を検出した。Ｅトレンチは21ｍ×1.4ｍ。地表下70㎝で遺構確認面となり、竪穴住居跡１（７号住）、溝１（３号溝）、ピット１（８号ピット）を検出した。Ｆトレンチは25ｍ×1.4ｍ。地表下60㎝で遺構確認面となる。２軒分の重複の可能性のある住居（８号住）、坑２（１・２号土坑）、ピット１（９号ピット）を検出。土師器が出土。Ｇトレンチは30ｍ×1.4ｍ。地表下約50㎝で遺構確認面となる。竪穴住居跡１（９号住）、土坑４（３～６号土坑）、ピット２（10・11号ピット）を検出した。

【３次調査】

調査期間　平成24年９月18日～10月１日

調査面積　38㎡

ＨからＲトレンチまでの11か所を設定。Ｈトレンチは２ｍ×２ｍ。地表下95㎝で遺構確認面となり、平安時代の水田遺構の可能性のある粘土層を検出。Ｉトレンチは1.9ｍ×1.8ｍ。地表下80㎝で遺構確認面。トレンチ断面に畦畔状痕跡が確認された。Ｊトレンチは1.9ｍ×1.9ｍ。地表下１ｍで遺構確認面となり、深さ1.6ｍまで掘り下げた。Ｋトレンチは1.6ｍ×２ｍ。地表下１ｍで遺構確認面。深さ1.55ｍまで掘り下げた。Ｌトレンチは1.9ｍ×1.7ｍ。地表下1.25ｍで遺構確認面となった。Ｍトレンチは1.6ｍ×2.1ｍ。地表下105㎝で遺構確認面となり、1.45ｍまで掘り下げた。Ｎトレンチは1.9ｍ×1.9ｍ。Ｏトレンチは1.7ｍ×2.3ｍ。1.6ｍまで掘り下げた。地表下１ｍで遺構確認面となり、ピット（13号ピット）を検出した。下層には数層からなる砂層が堆積し、平安時代以前の河道と考えられた。Ｐトレンチは1.5ｍ×2.1ｍ。地表下1.25ｍで遺構確認面となり、1.4ｍまで確認した。住居の可能性がある土坑（７号土坑）、ピット（14号ピット）を確認。Ｑトレンチは1.6ｍ×2.2ｍ。地表下95㎝で遺構確認面となり、土師器・須恵器が出土。Ｒトレンチは1.4ｍ×2.3ｍ。地表下85㎝で遺構確認面となり、1.05ｍまで掘り下げ、土師器片が出土した。

第２節　発掘作業の経過

平成25年（2013）４月に甲州市教育委員会、コンサル、測量会社、造成業者による打ち合わせを数回行ない、各作業工程を確認し、４月30日より８月３日まで本調査を実施した。現地はブドウ畑で、とくに北側半分はビニールハウスの畑であったため、その撤去作業を造成業者側で発掘調査と併行しながら実施した。遺跡は重川に近い扇状地面にあたり、南東側は広く埋没谷となっているが、谷の形状を確認するためのトレンチを下層まで抜いたところ、摩耗した土師器片が少量出土したが、市教育委員会の判断でトレンチ調査にとどめた。調査区中央の微高地面には北東から南西にかけて平安時代末を中心とした集落域が存在し､73軒（遺構名では77号竪穴まで付いているが､うち４軒は欠番）の竪穴住居跡が検出され、市内での発掘調査としては大規模な古代の集落跡として注目された。６月20日には甲州市議会議員が見学に訪れた。また調査終盤の７月13日には、市民を対象とした遺跡見学会を実施し、約80名の参加者があった。なお調査期間中、とくに７月前半は猛暑日続きで、甲州市勝沼は全国最高気温を連日記録するなどの酷暑となり、熱中症にならぬように配慮して調査を実施した。現地では乾燥が著しく進むなど、過酷な条件下での発掘調査となった。

【調査日誌抄録】

平成25年（2013）４月30日（火）曇　工事図面から調査範囲を割り出し、ビニール紐で表示し、工事側にブドウ抜根指示。

５月１日（水）晴　重機掘削開始。一部深掘りを行い、市教委立ち会いのもと、遺構確認面を確認。

５月２日（木）晴　重機による表土剥ぎ。器材の搬入。駐車場用地の確保。

５月３日（金）晴　重機稼働。

５月６日（月）晴　重機稼働。見学者１名。

５月７日（火）晴　重機稼働。作業員による作業開始。器材搬入、プレハブ等設置。精査、基準点測量。

５月８日（水）晴　重機稼働。市教委掘削の試掘坑を再発掘したところ、遺構確認面はさらに下層と判ったため、再度重機を入れ直して表土剥ぎを実施。竪穴住居20数軒、ピット群を確認。

５月９日（木）晴　重機稼働。遺構確認。竪穴住居（１～４号竪穴）調査開始。見学者あり。

５月10日（金）曇　重機稼働。１～４号竪穴断面写真、実測。５～８号竪穴設定。

５月11日（土）雨　重機のみ稼働。

５月12日（日）晴　重機のみ稼働。

５月13日（月）晴　重機稼働。遺構確認作業､土嚢作り。１～３号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。７号竪穴断面写真、図化、出土状況写真撮影。

５月14日（火）晴　５・６号竪穴断面写真・図化、出土状況写真、遺物取り上げ。１号土坑断面写真、図化。ブドウ棚、ビニールハウスの撤去はほぼ終了。見学者あり。

５月15日（水）晴　８号竪穴断面写真・図化、出土状況写真、遺物取り上げ。１号土坑・９号竪穴出土状況写真・取り上げ。見学者あり。

５月16日（木）晴　10号溝付近遺構確認、精査。調査区壁精査、土層確認。

５月17日（金）晴　12号竪穴断面写真、図化、出土状況写真、遺物取り上げ。

５月18日（土）晴　重機稼働。

５月20日（月）晴　10・11号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。見学者あり。

５月21日（火）晴　２～11号ピット断面、図化。遺構確認。13号竪穴断面写真、図化。

５月22日（水）晴　１号溝断面写真･図化。単独壷精査、写真。13～17号竪穴断面・図化。

５月23日（木）晴　14～18号竪穴出土状況、遺物取り上げ。20号竪穴等調査。12～24号ピット断面写真･図化。

５月24日（金）晴　埋没谷内断面写真・図化。19・21～23号竪穴・２号溝断面写真・図化。15号竪穴等調査。ピット完掘写真。市教委３名来跡。

５月27日（月）晴　24号竪穴・25～31号ピット断面写真、図化。24号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。１号溝断面写真・図化。基準点設置。

５月28日（火）曇　26・29・30号竪穴断面写真・図化。25・31・40・41号ピット出土状況写真、遺物取り上げ。33～38号ピット断面写真・図化。

５月29日（水）曇時々小雨　27・28・31・34号竪穴断面写真・図化。27・28・30・31号竪穴出土状況写真・遺物取り上げ。

５月30日（木）曇　33号竪穴断面写真、図化。26・33～35号竪穴出土状況写真・遺物取り上げ。35～41号ピット完掘、写真。

５月31日（金）晴　42～48号ピット断面写真、図化。32号竪穴断面写真、図化。32・35・36号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。

６月３日（月）晴　37・38・40号竪穴断面写真、図化。37・38号竪穴出土状況、遺物取り上げ。33～48

号ピット完掘。見学者あり。

6月4日(火) 晴　41・43号竪穴・52～54号ピット・3号溝断面写真、図化。21・40号竪穴・3号溝出土状況写真、遺物取り上げ。51～54号ピット完掘。見学者あり。

6月5日(水) 晴　42号竪穴・3号溝断面写真、図化。42・43号竪穴出土状況写真、取り上げ。見学者あり。

6月6日(木) 曇　55～74号ピット断面写真、図化。市教委4名来跡。

6月7日(金) 曇のち雨　25・46号竪穴・2号土坑・75～112号ピット断面写真、図化。

6月10日(月) 晴　45・48・49号竪穴断面写真、図化。25・46号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。97号ピット完掘。調査区脇で地盤調査のためのボーリング実施。

6月11日(火) 曇　47・54号竪穴断面写真、図化。45・48・49・54・56号竪穴・2号土坑・104・105・108号ピット出土状況、遺物取り上げ。106号ピット完掘。見学者あり。

6月12日(水) 雨のち曇

6月13日(木) 曇時々小雨　53・57～60号竪穴、3号土坑・113～138号ピット断面写真、図化。53・57～60号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。

6月14日(金) 曇時々晴　51・62・63号竪穴・140～153号ピット断面写真、図化。62号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。

6月17日(月) 晴　44・50号竪穴、154～177号ピット断面写真、図化。44・50～52・63号竪穴、128・132・139号ピット出土状況写真、遺物取り上げ。5号溝完掘写真。見学者あり。

6月18日(火) 曇　64号竪穴、178～185号竪穴断面写真、図化。38・64号竪穴、172・178号ピット出土状況写真、遺物取り上げ。1号掘立、3号土坑、154～175・179～186号ピット完掘写真。

6月19日(水) 曇　65号竪穴、38・42・43号竪穴竈、4号土坑、187～196号ピット断面写真、図化。183号ピット出土状況写真。

6月20日(木) 曇　39・43・64号竪穴竈、197号ピット断面写真、図化。市会議員約20名見学。

6月25日(火) 晴　10号溝断面写真、図化。

6月27日(木) 晴　43号竪穴竈、7～9号溝、198～210号ピット断面写真、図化。43・64号竪穴、8・9号溝、188～195号ピット完掘写真。40号竪穴掘り方、43号竪穴竈内出土状況写真、遺物取り上げ。

6月28日(金) 晴　44号竪穴、40～42号竪穴竈断面写真、図化。39・43・64号竪穴竈内、44号竪穴、28・29号ピット出土状況写真、遺物取り上げ。197～209号ピット完掘写真。

7月1日(月) 曇時々晴　37・42号竪穴竈、211～214号ピット断面写真、図化。42・43号竪穴竈内出土状況写真、取り上げ。39号竪穴竈完掘写真。住居7軒分のポール撮影。見学者あり。

7月2日(火) 曇　26・28～30・32号竪穴竈、215～220号ピット断面写真、図化。36・42号竪穴完掘写真。

7月3日(水) 曇　33号竪穴礫出土状況写真。5号土坑断面写真、図化。9・26・34・45・46号竪穴竈断面写真、図化。67号竪穴出土状況写真、取り上げ。見学者あり。

7月4日(木) 曇　4・6・7号竪穴礫出土状況写真。26・34・35・42・45・50号竪穴竈、211～214・221～226号ピット断面写真、図化。221～224号ピット、5号土坑完掘写真。41号竪穴竈出土状況写真、取り上げ。

7月8日(月) 晴　猛暑(気温38℃)。8・26・33・45・49号竪穴竈、227～230号ピット断面写真、図化。26・34・41号竪穴竈遺物出土状況写真、取り上げ。

7月9日(火) 晴　記録的猛暑(気温39℃)。4・47・48・63号竪穴竈、61号竪穴断面写真、図化。46・61号竪穴竈出土状況写真、遺物取り上げ。

7月10日(水) 晴　5・58号竪穴竈断面写真、図化。6号竪穴竈出土状況写真、取り上げ。

7月11日(木) 晴　見学会の準備のためシート撤去。草取りを実施。3・7・53号竪穴竈断面写真、図化。

7月12日(金) 晴　見学会のための準備、草取りなど。1・2・54・57号竪穴竈断面写真、図化。58号竪穴出土状況写真、遺物取り上げ。

7月13日(土) 晴　10時～12時に見学会実施(主催　甲州市教育委員会、協力　公益財団法人山梨文化財研究所)。約80名参加。16号竪穴竈完掘写真。

7月16日(火) 晴　5・44・47・49・62号竪穴竈、231～243号ピット断面写真、図化。3・5・6号竪穴竈出土状況、遺物取り上げ。48号竪穴竈完掘。住居7軒分のポール撮影実施。見学者あり。

7月17日(水) 曇　6号竪穴竈、22・47・51・61・63・69号竪穴、1・4・49・59号竪穴竈出土状況写真、遺物取り上げ。5・6・48・49・53号竪穴、1・3・51・53・54・59・63・64号竪穴竈、完掘写真。空撮。見学者あり。

7月18日(木) 晴　10～12・28・60号竪穴竈、70号竪

穴断面写真、図化。９・30・32・36・45号竪穴竈出土状況写真、遺物取り上げ。２号掘立完掘写真。住居10軒、掘立１棟のポール撮影。

７月19日（金）晴　８・12～18・20・22・23・31・37・38・71号竪穴竈断面写真、図化。10・45・62号竪穴竈出土状況写真、遺物取り上げ。７・35・37・48・52・62・64・70号竪穴竈完掘写真。

７月22日（月）晴　補足調査。

７月23日（火）晴　71号竪穴竈断面写真、図化。10～12号竪穴竈完掘写真。住居35軒分のポール撮影実　施。14～16・18・22・23・26・29・35～41・43・44・50・64号竪穴竈完掘写真。

７月24日（水）曇　65号竪穴竈断面写真、図化。住居11軒分のポール撮影実施。

７月25日（木）晴　65・73号竪穴竈、６号土坑、246～250号ピット断面写真、図化。14・16・18・50・72号竪穴、68号竪穴竈、246～248号ピット完掘写真。11号溝の掘り下げ。

７月26日（金）晴　68･74号竪穴竈、11号溝、252号ピット断面写真、図化。65号竪穴竈出土状況写真、遺物取り上げ。６号土坑完掘写真。見学者７名あり。

７月27日（土）晴　75号竪穴断面、写真。75号竪穴出土状況写真、取り上げ。

７月29日（月）曇　76号竪穴、73・75号竪穴竈、255～258号ピット断面写真、図化。

７月30日（火）晴　74・75号竪穴竈、７号土坑、259号ピット断面写真、図化。68・73・74・76号竪穴、257号ピット出土状況、取り上げ。51・75号竪穴、68・74・76号竪穴竈、259～261号ピット完掘。

７月31日（水）晴　１・７・８・10・12・53・58・61・62・64号竪穴床下、４溝、262号ピット断面写真。43・44号竪穴掘り方、30号ピット出土状況、遺物取り上げ。40号竪穴竈、211号ピット完掘写真。ラジヘリによる調査区全体の空撮。シート、器材等を搬出。見学者あり。

８月１日（木）晴　12号溝設定、掘り下げ、遺物上げ。12号溝、20号竪穴竈出土状況写真、取り上げ。１・４～12・14～18・25 ～ 36・40～52・54～64・67･70～77号竪穴、11･12号溝完掘写真。図面チェックなど。

８月２日（金）晴　16・26・30・31・43・49・64・72・74・76号竪穴竈完掘補足写真。

【発掘作業参加者】井上文夫・岩崎誠至・長田秋文・河西元彦・岸本美苗・櫛原ゆかり・窪田信一・三枝哲雄・坂本行臣・鮫田勝夫・菅沼芳治・武井美知子・筒井聡・長澤晴雄・原義仁・古郡明・松本栄一

第３節　整理等作業の経過

平成25年８月の調査終了後、平成27年３月までを契約期間として、報告書刊行のための整理作業が公益財団法人山梨文化財研究所内で行われた。出土遺物の水洗、注記、接合ののち、実測遺物の抽出を行い、実測作業を進めた。また併行して遺構図面の整理を行った。遺物については、従来通り手取りで原図を作成、２倍図をトレースしたのち、スキャナーで読み込み、２分の１に縮小、パソコンで版組を行った。遺構平面図は空撮写真の図化データと現地での「遺構くん」データを合成し、図を修正するとともに、遺物出土平面位置、断面投影図、遺物接合関係をパソコン上で整理し、図版作成を行った。

【整理作業参加者】小沢正臣・河西元彦・河西町男・岸本美苗･窪田信一･河野次雄･末木美保･武井美知子･近山辰男・筒井聡・出井光・長澤晴雄・林紀子・深沢修･保坂悌司･箭本公幸･横内光夫･渡辺智之･古郡明・佐野眞雪・櫛原ゆかり・菅原由美子・川口三和・藤原五月・岩崎満佐子・田中真紀美・大村加代子・斉藤ひろみ

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

甲州市は山梨県東部に位置する。平成17年（2005）に塩山市、勝沼町、大和村の三市町村が合併して誕生した人口約３万３千人の市で、北側に埼玉県秩父市、東側に大月市、丹波山村、小菅村、南に笛吹市、西に山梨市が隣接している（図１）。

遺跡が所在する甲州市塩山（旧塩山市）は、甲府盆地東縁に連なる大菩薩嶺の西麓に位置し、笛吹川の支流、重川が形成した緩やかな南面傾斜の扇状地面上、重川に近い右岸低位面に所在する。富士川上流の笛吹川左岸域にあたり、甲州市塩山市街地は同じ扇状地面に広がっている。

遺跡はJR塩山駅の南、約1.2kmに位置し、青梅街道と勝沼方面を結び、市街地東側を迂回する塩山東バ

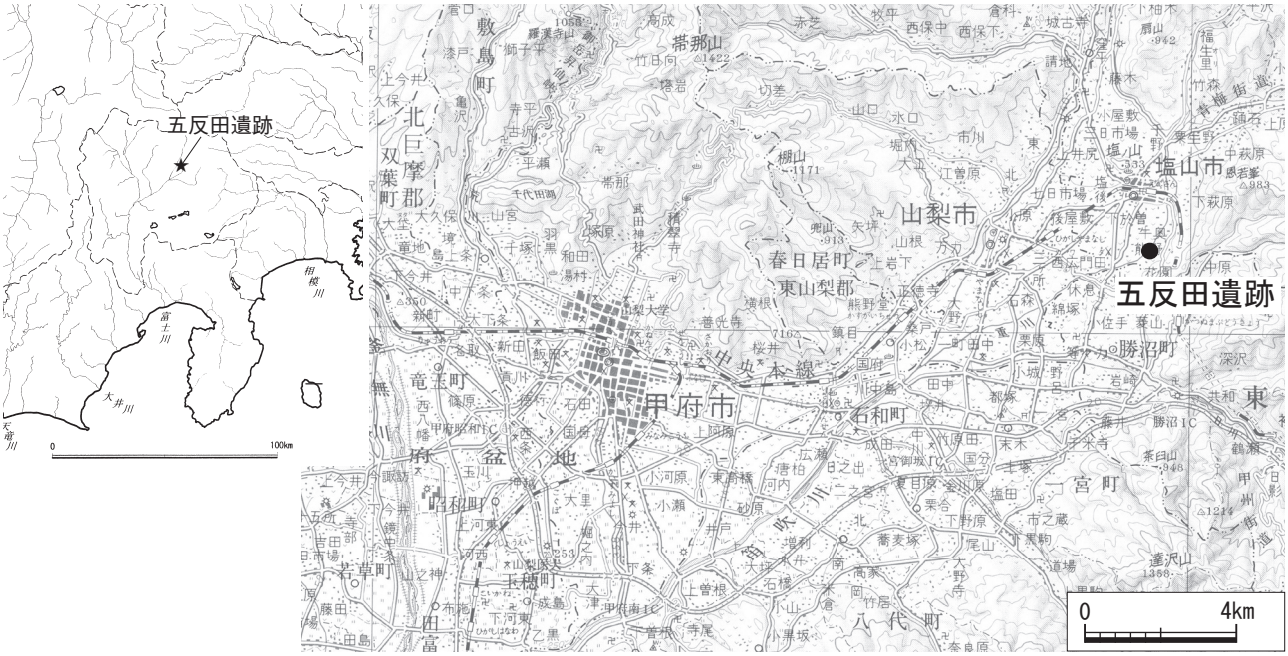


図１　五反田遺跡の位置

イパス（国道411号線）に面する。旧塩山市街地からやや離れた農村地帯で、周辺はブドウ、モモの果樹地帯である。また重川沿いにはいくつかの工場が立地するほか、奥野田、熊野地区などの古くからの集落が分布する（図２・３）。

平成10年に塩山東バイパスが一部開通、平成20年に全面開通した後、道路沿いには飲食店やコンビニ、ホームセンター、薬局などの商業施設、店舗が建設され、周囲にはアパート等の集合住宅が建つなど、本地域は果樹地帯から新興住宅地へと変貌しつつある。また市街地を東西に結ぶ市道建設が予定されていることから、商業地区としての開発、発展がいっそう見込まれる地域である。

遺跡が所在するのは塩山東バイパスに面した甲州市塩山熊野字五反田地内のブドウ畑で、標高は 375 m。店舗予定地は、開発南側が露地のブドウ畑、北側は耕作放棄されたビニールハウスのブドウ畑で、重川まで約 200 mと近いため、砂層を主とした堆積土を地盤とし、現状では緩やかな南傾斜の平坦地を呈している。

調査の結果、奈良・平安時代の集落跡が密に検出されたが、全体図の等高線（図４）によれば南東側が低いほか、10号溝が検出された北西側が低く、北東側から南西側に向かって微高地面が帯状に存在し、それが集落跡の分布と一致する。つまり本遺跡は微高地状を呈した重川の自然堤防上に形成された集落跡といえる。

第２節　歴史的環境

本遺跡は小字名「五反田」から五反田遺跡と命名されている。周囲には道の区画などに条里地割が良好に残り、バイパスをはさんだ斜め南側には「八反田」という地名があることから、これらは条里の中を区切る地割を呼ぶ呼称名の遺称と考えられる。この一帯の表層条里の成立時期は定かではないが、古代～中世での基盤整備の痕跡であることに異論はなかろう。

遺跡の西方、約 700 mに所在する熊野神社は大同２年（807）創建と伝え、拝殿１棟と本殿２棟は国指定重要文化財である。なかでも本殿は鎌倉時代建立で、文保２年（1318）に造替されたことが判明している。かつて、この一帯を横井郷とよび、熊野社を勧請したのち、当地を熊野と呼ぶようになったと伝えられるが、延喜式によればこの一帯は於曽郷に相当する。地元では、現在の熊野神社は水害を避けるために現地点へ移動したもので、もとは五反田遺跡の北側にあたる字横井の地にあったとする伝承がある。

この甲州市塩山地区は、縄文時代から中世を中心とした遺跡が多数知られる地域であり、近年開発に先立つ埋蔵文化財の発掘調査が実施されている。

調査区西側を南北に通過する塩山東バイパスは、東京都青梅市から塩山、勝沼、石和を経て甲府方面に至る青梅街道（国道411号線）の一部である。塩山から東京都青梅市へ通じる道は青梅街道と呼ばれるが、かつては大菩薩峠越えで江戸と甲州を結ぶ甲州街道の脇往還であり、江戸時代以前から塩山と丹波側の人々が

図２　周辺の遺跡分布

表１　周辺遺跡一覧表

甲州市塩山		
No.	遺跡名	時代
1	前田遺跡	縄文
2	牛奥遺跡	縄文
3	滝ヶ上遺跡	縄文(前～中)
4	西堀遺跡	平安
5	住蓮木平遺跡	縄文(中)
6	西田遺跡	縄文(中)・弥生・古墳・奈良
7	東田遺跡	縄文(中)
8	芦原田遺跡	縄文(中)
9	下整田遺跡	縄文
10	村北遺跡	奈良・平安
11	向原遺跡	奈良・平安
12	扇田Ａ遺跡	縄文(中)
13	扇田Ｂ遺跡	奈良・平安
14	扇田Ｃ遺跡	縄文・奈良・平安
15	十王前遺跡	平安
16	町田遺跡	縄文
17	薬師平遺跡	
18	清水田遺跡	奈良・平安
19	道替遺跡	弥生(後)～古墳
20	知光田遺跡	
21	上塩後境遺跡	
22	中道遺跡	平安
23	熊野前田遺跡	平安
24	熊野八反田遺跡	平安
25	熊野神社遺跡	弥生(後)～古墳
26	梶畑Ａ遺跡	古墳・奈良・平安
27	梶畑Ｂ遺跡	古墳・奈良・平安
28	ケカチ遺跡	古墳・平安
29	坂之上・后畑遺跡	平安
30	五反田遺跡	古墳
31	石骨Ａ遺跡	縄文・平安
32	石骨Ｂ遺跡	
33	横井・大木戸遺跡	平安
34	池田遺跡	中世
35	下於曽八反田遺跡	平安
36	正泉Ａ遺跡	古墳・平安
37	正泉Ｂ遺跡	
38	檜遺跡	縄文
39	影井遺跡	縄文(中)・平安
40	久保田遺跡	平安
41	下西畑遺跡	縄文・弥生(後)～古墳
42	横堰遺跡	中世
43	受地遺跡	平安
44	林際遺跡	縄文・平安・中世
45	天神原遺跡	縄文(中)・平安
46	宮沢遺跡	縄文(中)・古墳・平安
47	宇賀屋敷遺跡	奈良・平安・中世
49	西畑Ａ遺跡	平安・中世
50	於曽屋敷遺跡	平安・中世
51	神之木遺跡	縄文(中)・古墳・平安
52	西畑Ｂ遺跡	縄文(中)・中世
53	相ノ田遺跡	縄文・古墳・平安
54	南畑遺跡	弥生
56	稲荷林遺跡	
57	宮之前遺跡	
58	清水尻遺跡	縄文・古墳・平安
59	千手院前遺跡	

No.	遺跡名	時代
61	高林遺跡	縄文(中)・中世
62	塩山前遺跡	縄文(中)
63	金山遺跡	平安・中～近世
64	青木沢遺跡	
65	番匠屋遺跡	
66	上三狐神遺跡	
68	向嶽寺庭園	近世
69	向嶽寺大方丈跡	近世
70	乙川戸前遺跡	縄文・平安
71	屋敷添A遺跡	縄文(中)・平安
72	武士原前下遺跡	縄文・平安
73	北原遺跡	
74	諏訪神社遺跡	
75	東林遺跡	
76	屋敷添B遺跡	縄文(前)・奈良・平安
77	欠通遺跡	縄文・平安
78	天神前遺跡	縄文(前)
79	腰巻遺跡	縄文・近世
80	腰越遺跡	
81	中堀A遺跡	
82	中堀B遺跡	
83	宮之下遺跡	
84	天神遺跡	
85	中原遺跡	縄文・平安
86	松葉田遺跡	縄文・平安
87	滝之上前遺跡	縄文(中)
104	梅ノ木遺跡	
105	中村遺跡	縄文
106	獅子之前遺跡	縄文(前)・弥生・平安
107	小山平南遺跡	縄文(前・中)・平安
108	札之辻東A遺跡	平安
109	札之辻東B遺跡	縄文(前)・平安
110	観音堂東遺跡	縄文・平安
111	八桑田西遺跡	縄文(中)・平安
112	青田A遺跡	平安
113	青田B遺跡	縄文(中)・平安
114	中原遺跡	平安
115	身洗田遺跡	平安
116	御嶽前田遺跡	縄文(中)
117	洗在家遺跡	縄文(前・中)・平安
118	宮之前遺跡	平安・中世
119	安道寺遺跡	縄文(前・中)・平安
122	牛久保遺跡	
123	原中割遺跡	縄文
173	馬場平遺跡	旧石器・縄文(前)
180	切付平遺跡	
181	髪切塚	中世・近世
182	おせん稲荷塚	
183	おまん稲荷塚	
184	下萩原浅間塚	平安
185	鈴の宮塚	
189	お文殊稲荷塚	
190	梅ノ木塚	
191	栗塚稲荷塚	
192	車塚	
197	西野原煉瓦工場跡	近代
199	田草川氏屋敷	
201	西の原の堡	中世

No.	遺跡名	時代
202	深沢氏屋敷	
204	中村氏屋敷	
205	風間氏屋敷	
206	依田宮内佐衛門屋敷	
207	田辺氏屋敷	中世
208	池田氏屋敷	中世
209	宇賀屋敷	
210	於曽屋敷	
211	八代氏屋敷	
212	保坂氏屋敷	
213	於曽三郎屋敷	
214	橋爪氏屋敷	
215	古屋清佐衛門屋敷	
216	平城	
217	武田信春館跡	中世
218	村田氏屋敷	中世
219	古屋氏屋敷	
220	網野氏屋敷	
221	仏師原塁址	
222	網野新五佐衛門屋敷	
223	十組屋敷	
224	武田兵庫助屋敷	
甲州市勝沼		
1	大塚南遺跡	縄文
2	大塚北遺跡	平安
3	松原遺跡	平安
4	若林遺跡	縄文
5	山富士塚	中世・近世
6	上野経塚	中世
7	天神遺跡	縄文
8	塚穴古墳	古墳
9	姥屋敷遺跡	縄文
10	下立石西遺跡	縄文・弥生
11	下立石東遺跡	縄文・弥生
12	下立石遺跡	縄文
15	上中居遺跡	
17	大門後遺跡	平安
18	坂上遺跡	平安
62	大塚経塚	
63	塚穴遺跡	
67	立正寺旧境内	近世
68	休息経塚	
69	本立寺後	近世
70	大聖院跡	近世
山梨市		
83	十王堂遺跡	奈良・平安
84	中沢遺跡	平安
85	神明遺跡	奈良・平安
95	阿弥陀堂遺跡	縄文・古墳・奈良・平安
96	天神原遺跡	平安
97	宮ノ西遺跡	古墳・中世
103	大橋遺跡	平安・中世
104	樋口屋敷	古墳・平安・中世
107	三ヶ所遺跡	平安・中世
109	東後屋敷遺跡	縄文・奈良・平安
123	宮ノ前遺跡	平安
171	武田金吾屋敷跡	中世
175	連方屋敷	中世

図３　遺跡の位置

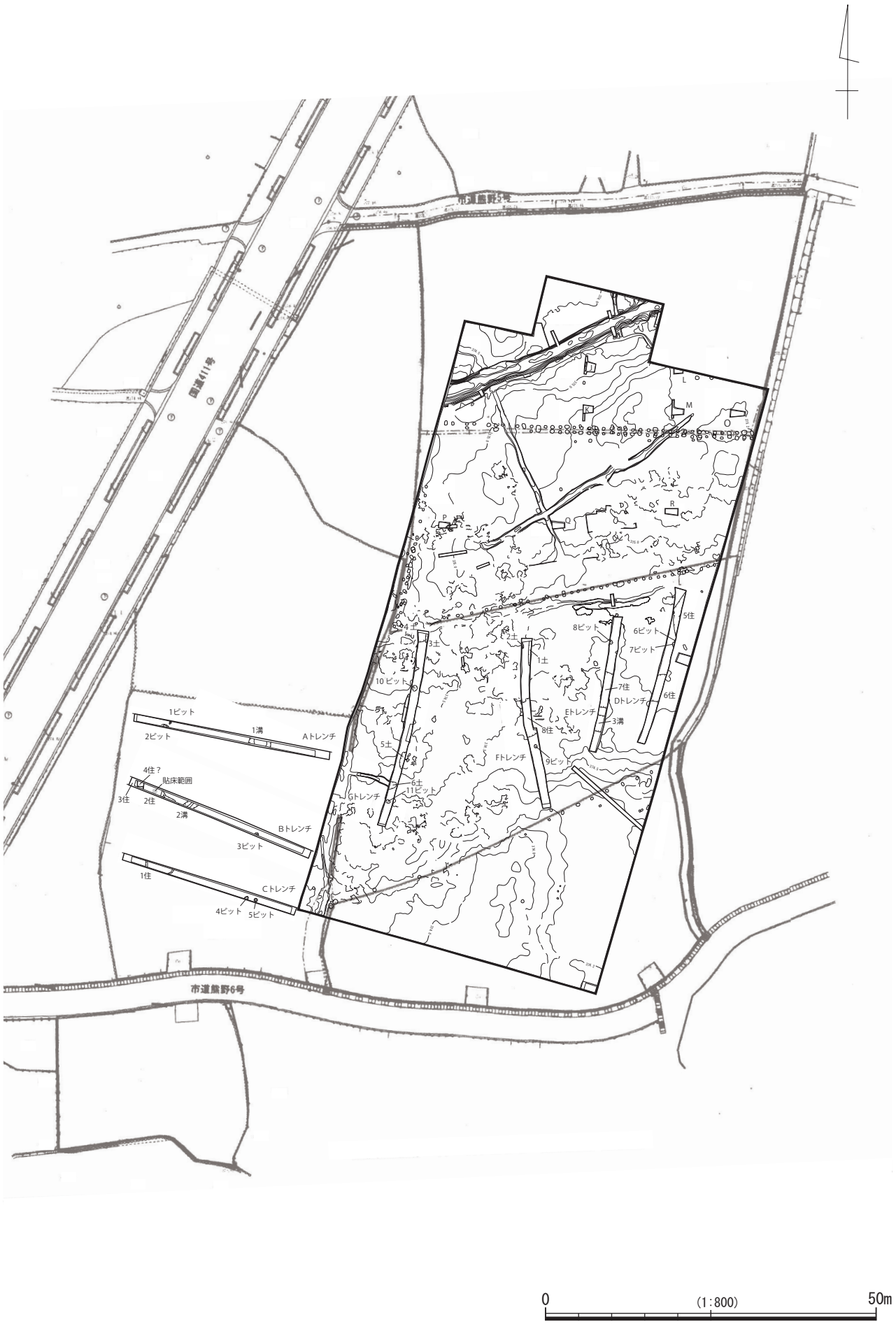


図４　試掘坑配置図および等高線図

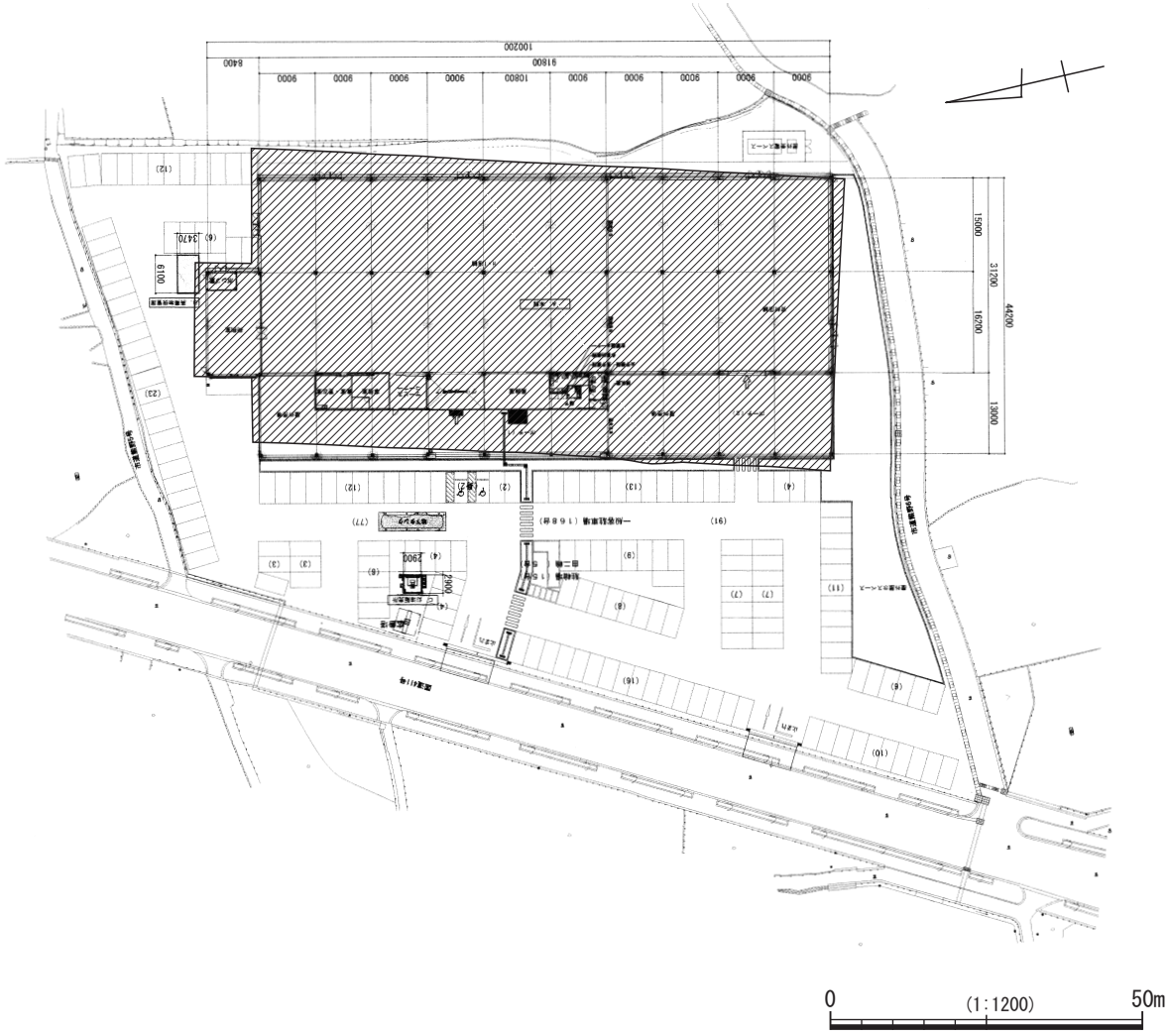


図５　店舗平面図

行き交うルートであった。明治 11 年に県令藤村紫朗による道路改修に伴い大菩薩峠越えから柳沢峠越えにルート変更されたのち、名称は青梅街道となった。そのうち旧塩山市街地の東側を通過する新千野橋から西広門田橋までの区間が塩山東バイパスとして整備された。

塩山東バイパス建設にあたっては､昭和63年（1988）に獅子之前遺跡の発掘調査が最初に行われ、縄文前期と平安時代の集落跡が調査された。また平成８年（1996）から平成11年（1999）、平成14年（2003）には下西畑、西畑、影井、大木戸遺跡の調査が行われた結果、縄文時代前・中期、古墳時代前期、奈良・平安時代の集落遺跡など、重川右岸に多数の遺跡が密集して存在する状況が明らかとなった。

近年ではバイパス沿いに出店する店舗建設等に伴う試掘調査、発掘調査が増加し、平成24年（2012）には本遺跡の斜め向かいにあたる熊野八反田遺跡で古墳前期の大型住居や供献土器とみられる多数の土師器を伴う溝が見つかっている。また平成22年（2010）には、明治40年の大水害ののち、大正から昭和初期に設置された重川関連の赤尾堰口堤防遺跡が調査されている。重川の水は古くから集落や耕作のための重要な水源であったと考えられるが、大雨のたびに大水害を引き起こす川でもあった。そうした度重なる氾濫により形成されたのが、本遺跡が所在する重川扇状地である。

この重川扇状地面には中世城館跡が多く存在する。塩山駅南口にある山梨県史跡於曽屋敷をはじめ、中村氏屋敷、保坂氏屋敷、八代氏屋敷などの館跡が濃密に分布することで知られ、大菩薩嶺北側にあった黒川金山との関連を伝える屋敷が多い。また塩山千野の武田信春館跡は甲斐国守護館とも推定されているが、塩山地区には古代末から中世前期の遺跡が多数存在する状況が梶畑Ｂ遺跡などで明らかになりつつあり、中世甲斐国の政治経済の中心としての様相の一端を示している。

参考文献
山梨県教育委員会･山梨県土木部　1991『一般国道411号（塩山バイパス）建設に伴う獅子之前遺跡発掘調査報告書』
山梨県教育委員会・山梨県土木部　2002『五反田遺跡　塩山東バイパス（国道411号）建設に伴う発掘調査報告』
山梨県教育委員会・山梨県土木部　2002『下西畑遺跡　西畑遺跡　影井遺跡　保坂家屋敷墓―国道411号（塩山東バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書―』
山梨県教育委員会・山梨県土木部　2003『大木戸遺跡―国道411号（塩山東バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書―』
甲州市教育委員会・ウエルシア関東株式会社　2012『赤尾堰口堤防』
甲州市教育委員会　2015『熊野八反田遺跡』

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

本調査の対象地区はホームセンターの店舗部分に相当し、駐車場部分に関しては盛土対応により削土しないため、試掘時のトレンチ調査のみに留めている。調査区は東西46ｍ、南北120ｍと南北に長い長方形で、面積は4527㎡である。調査の手順としては､ブドウ棚、果樹を除去しつつ、併行して重機による掘削を南側から開始し、西側の駐車場予定地内に廃土を盛土した。確認面は試掘時のトレンチの遺構確認面の深さを基準としたが、全体的に確認面はさらに下層面で把握できた部分があり、重機による削土を慎重に実施した。重機による表土剥ぎが済んだ部分から人力による精査を開始した。現代の掘り込みである埋没谷上面の暗渠跡やブドウ棚設置の際のピット列は、最初に全掘した。埋没谷については、確認面で遺物が散布することから一部壷掘りを行ったところ、わずかに遺物が出土した。そこで本調査の必要性の有無を見極めるためにトレンチを１本設定し、遺物の出土状況を調べた。その結果、摩耗した土器片が少量出土する程度であったことから、市教育委員会の判断で埋設保存とした。

奈良平安時代の竪穴住居跡は調査区中央を中心に著しく重複した状況で確認された。それらを竈の遺存状況等を手がかりにして重複の順番を推定し、新しい順に調査していった。遺物の取り上げについては、調査区周辺に設置した基準杭に光波測量機を設置し、パソコンをつないで遺跡調査システム「遺構くん」を用いて３次元データを記録し、遺物は通し番号で取り上げを行った。また竪穴のセクション図、エレベーション図、竈や土坑、ピットの断面図については従来通りの手取り実測とし、遺構平面図、調査区全体図についてはラジヘリによる空中写真、作図を依頼し、また遺物出土状況、竪穴掘り方などに対してはポール撮影、図化を依頼した。竪穴住居跡は床面検出、図化用写真撮影等を行ったのち、掘り方面の検出、図化を実施したが、調査期間の関係上すべての竪穴に対して床下面の掘方完掘を行うことができなかった。

遺物については細かな破片を除き、ドットマップを作成した。それを整理段階で遺構平面図に合成し、断面に投影した。遺構図には接合関係のある遺物どうしを直線でつなぎ、断面にも表示することで平面、断面での位置を示している。床面については硬化面、焼土分布、粘土分布、炭化物分布を破線等で表示し、また床下の掘り方については平面・断面図に破線で表示した。

第２節　層序

調査区壁にかかる遺構で、断面図を地表から作図した部分により、層序の説明としたい。

調査区西壁にかかる38号竪穴（第39図）の断面によれば、１層　灰黄褐色砂質土（表土・耕作土)、２層　黄褐色砂質土（旧水田床土か)、３層　暗褐色砂質土　４層黒褐色砂質土（遺構覆土）となる。遺構確認面までは深さ約70㎝となる。同じ西壁面にかかる35号竪穴（第38図）では、遺構確認面まで約40㎝で、層序は同じである。調査区北側に張り出した調査区北壁にかかる７号溝では、１層　灰黄褐色土、２層　褐色土、３層　黒褐色砂質土、４層　褐色砂質土、５層　暗褐色砂質土、６層　褐色砂質土、７層　黒褐色砂質土と、遺構確認面まで７層、約1.5ｍある。また遺構確認面は鈍い黄褐色砂質土であるが、１号谷では覆土最上層に鈍い黄褐色砂質土が堆積し､それより下層に砂質土、砂層、粘土層が最も深いところで約2.3ｍ堆積し、最下層は礫層面となる（第92図)。

第３節　遺構と遺物

１号竪穴（第２・93図、図版３・38）

位置:調査区南側中央付近、埋没谷に面して立地する。重複：56号竪穴のコーナー部分が１号竪穴南西隅に接する。経緯:南北方向にベルトを残して土層を図化。規模：東西4.2ｍ、南北3.75ｍの隅丸方形。主軸：北

を基準にするとN−9°−E。覆土：厚さは20～45cmあり、灰黄褐色砂質土を主とする。出土：全体的に遺物はまばらで少なく、北側覆土中に散在する。床直遺物はほとんどなく、覆土中位から確認面に近いレベルの遺物が多い。北東隅寄りにやや大形の花崗岩礫2点が存在する。壁：東壁高35cm、南壁高24cm、西壁高48cm、北壁高50cm。周溝：北壁側、北東寄りと南東隅を一部欠いて断続的に存在し、幅広の位置では幅26cm、深さ6cmを測る。床：ほぼ平坦で、竈前面、南北1.3ｍ、東西１ｍの方形の範囲にロームの硬化面（貼り床面）がある。硬化面は竈の焚口から連続するように広がり、竈前面での作業空間を示している。竈：東壁南寄りに位置する粘土竈で、竈の掘り方は幅78cm、奥行き70cm。袖石を用いていないが、袖石に相当する黄色粘土ブロックが壁際に２つあり、間隔は約40cmを測る。粘土で構築した粘土竈で、粘土の表面は被熱・赤変していた。また粘土ブロック間には支脚石が直立状態で遺存した。高さ23cm、幅11cm、厚さ10cmの棒状の自然礫である。焚口の掘り込みは顕著ではなく、また東壁への煙道の突出は約15cmと弱い。竈断ち割り前の状況では突出した部分には焼土はなく、東壁のライン上付近が著しく被熱、赤変して確認されたことから、もともと煙道の壁面への掘り込みはほとんどないか､もっと上層に存在したとみられる。掘り方:床面から10cm程度下げて掘り方面を確認した。ほぼ平坦で、図示するような凹凸はない。遺物：１～４は土師器坏で、１・３は10世紀前半代の坏、２は内面放射状暗文をもつ９世紀代後半の坏。５・７・９は10世紀前半代の土師器甕、８は土師器鉢。４・６は混入とみられ、４は８世紀後半の内面放射状ミガキが顕著な奈良時代の甲斐型坏、６は甕である。４の底部外面には２本の平行した線刻があるが、擦痕であろう。これらは北、西側などの壁際からの出土傾向があるが、５の甕は竈上層からの出土で、竈使用時の遺物と考えられる。口縁は肥厚し、外面は縦ハケ、内面は弱い横ハケとし、指頭痕が顕著である。高さ32cmの甕で、底部から14cmの屈曲部が接合帯となり、製作時に乾燥段階をはさんだのちに上段を積み上げている。時期：９世紀末～10世紀前半。

２号竪穴（第３・93・94図、図版３・38）

位置：調査区南側、１号竪穴北西に位置する。重複：なし。経緯:南北方向にベルトを設定。規模:東西2.75ｍ、南北3.1ｍの隅丸長方形プラン。主軸：N−6°−W。覆土：厚さは15～25cmあり、鈍い黄褐色砂質土、暗褐色砂質土の２層を主とする。出土：竈周辺を中心に分布するが、遺物量は少ない。中央北寄りの床面上から土師器高台坏が完形で出土した。壁：東壁高19cm、南壁高15cm、西壁18cm、北壁23cm。周溝：東・南・西壁の一部を除き全体的に存在するが、全体的に不明瞭で浅い。平均的には幅12cm、深さ４cm程度で、周溝中に小ピット状の凹みがあるが、支柱穴ではない。床：黄色土（ローム）による貼り床はない。竈：東壁の南東隅にごく近い位置に焼土・炭混じりの粘土が薄く分布することから南東隅寄りの東竈で、粘土構築による粘土竈と考えられる。焼土範囲は幅75cm､長さ1.5ｍで、右側には周溝が迫り、竈構造や規模はわからない。また壁への煙道の掘り込みはない。わずかに焚口～火処が窪み､炭化物がやや多い部分がある。掘り方:床面を12cm掘り下げ､掘り方面を検出。不整形のピット状の落ち込みが東壁側を中心に検出された。遺物：１～３は土師器坏、４は土師器皿で、いずれもロクロナデ、底部糸切りのままである。１～３は丸味を持ちつつ外反し、口唇部は角頭に近い。それに対し４は直線的である。５は土師器高台坏。６･７は土師器甕で、胴部はやや厚く、外面ヘラナデはハケメがほとんどない。８は砥石。時期：10世紀後半。

３号竪穴（第４～７・94図、図版３・４・38）

位置：調査区南側の竪穴住居が集中した一角に位置する。重複：南西側、４分の１が下層の61号竪穴と重複する。経緯：南北方向にベルトを設定したところ、南西隅側を中心とした床面に地山土ではなく二次堆積土が認められた（のちに61号竪穴として設定)。床面の硬化面が不明瞭なせいもあって61号竪穴との重複部分は床面を掘り過ぎてしまっている。規模:東西3.1ｍ、南北3.3ｍの隅丸方形。北東にコーナー竈をもつ。主軸：N−2°−E。覆土：約30cmの厚さがあり、灰黄褐色砂質土、暗褐色砂質土の２層を主とする。出土：散在的で少ない。また床面から浮上した小破片を主とする。壁：東壁高23cm、南壁高26cm、北壁高28cm。周溝：北東隅の竈周辺と西壁の一部を除き、幅22cm、深さ5cm程度の周溝が存在するが､明確ではない。床:中央北東壁寄り、竈の前面を中心として黄色ローム土の貼り床をもつ。竈粘土の流失したものというよりは貼り床と考えておく。周溝の切れ目に対応するように硬化面があることから､出入り口か。竈:北東隅にコーナー竈をもち、左袖に１石のみ直立して遺存する。焚口は幅約35cm、壁高は24cm。煙道は長さ60cm、幅54cmで、竪穴隅を利用したコーナー竈で、煙道部分のやや長い掘り込みをもつ。確認時点では煙道部分から焚口付近にかけて､焼土がブロック状に確認されている。

焚口部分の掘り込みは特になく、支脚石もないが、火処にあたる部分は全体的に被熱・赤変する。土器片、礫が出土しているが、礫は小振りで、竈の構築材ではないらしい。掘り方：床面下４cm、貼り床直下で掘り方面となる。遺物：１～５は土師器坏で、丸味を持って外反する２のほか、体部が直線的な３・４、土師質土器（かわらけ）に近い１がある。６は内面放射状暗文をもつ土師器黒色坏で、９世紀後半代の混入。７は土師器甕で、胴部の器壁は厚く、口縁部は短く、折り返し状に重ねて肥厚する。内外面のナデは弱く、ハケメはない。８は須恵器壷または甕頸部片。９・10は鉄製角釘とみられ、10は２本が錆着している。11は表面に擦痕をもつ砥石。７の甕を中心に竈周辺からの出土が多い。時期：11世紀前半。

４号竪穴（第８・95図、図版４・38）

位置：調査区南西隅に近い緩やかな南傾斜面に立地。５・６号竪穴、63号竪穴が隣あう。重複：４号竪穴の北西隅が63号竪穴の竈付近を切る。経緯：規模：東西2.8ｍ、南北3.5ｍの南北にやや長い隅丸長方形プランで北東隅にコーナー竈をもつ。主軸：N-12°-W。覆土：厚さ35cm程度で、主に灰黄褐色砂質土、鈍い黄褐色砂質土、黒褐色砂質土の３層からなる。出土：全体に散在的で少なく、竈周辺以外では床面から高い位置での出土が多い。床面には炭化物のまとまりがあり、火災住居かもしれない。壁：東壁高36cm、南壁高33cm、西壁高33cm、北壁高38cm。周溝：竈周辺と南壁の一部を除き全周するが、やや不明瞭。周溝は幅25～28cm、深さ10cm。床：全体的に堅い。とくに竈前面が硬化し、わずかに黄色土の貼り床が残るが、竈粘土の崩土分布と重なっている。竈：竪穴の北東コーナーを煙道として利用したコーナー竈で、両袖の石組が良好に遺存する。３石を左右に並べて袖石とし、奥壁側、３石目を高く据える。手前の両袖石は天井石が安定するように平らな頭の礫を据えるが、天井石に相当する礫はない。焚口幅は33cm、石の高さは約20cm。焚口内がわずかにくぼむ。竈の掘り方は幅65cm、長さ56cm。竈内および右袖石外側から土師器甕片などが出土した。支脚石はない。掘り方：床面下10cmで全体的にに凹凸のある掘り方面となり、南西に不整形のピット状落ち込みをもつ。遺物：１は土師器坏、２・３は土師器高台坏で、２は１と同様の坏状の体部だが、３は皿状となる。４・５は灰釉陶器碗で、４は口縁部内面の沈線が特徴となる。６は土師器小形ロクロ甕。７の土師器甕、８の土師器羽釜はともに器壁が厚く、内外面はヘラナデとする。ともに竈内、焚口付近から出土。時期：10世紀後半。

５号竪穴（第４～７・95・96図、図版４・38）

位置：調査区南西側にあり、６号竪穴と重複。重複：東側に６号竪穴があり、６号竪穴西壁が５号竪穴東壁付近を切る。経緯：５・６号竪穴を通して東西ベルトを設定。規模：現状では東西2.25ｍ、南北3.25ｍの南北に長い隅丸長方形だが、東壁部分が６号竪穴周溝に切られている。主軸：N-2°-W。覆土：暗褐色砂質土を主とし、厚さ15cm。出土：竈周辺に遺物が散在するが、量は多くない。壁：壁高は北西隅で20cm。周溝：幅23cm、深さ10cm程度の周溝がほぼ全周するが、南側、中央西寄りに断絶する部分がある。床：北側半分が硬いが、貼り床はない。竈周辺に薄い炭化層が堆積する。竈：北東隅に竈をもつが、右袖を６号竪穴周溝との重複で欠失し、焚口から左袖を残している。左袖粘土のあり方からすれば、コーナー竈と考えられる。左袖付近に礫３個があるが、石組が遺存しないことから粘土竈の可能性がある。竈の幅は推定1.2ｍ、長さ1.4ｍ程度で、焚口～火処はやや深く、火処から竈前面にかけて焼土が堆積する。煙道付近は６号竪穴の重複により不明。掘り方：未調査。遺物：１～４は土師質土器皿または坏、５・６は土師器甕、７は羽釜、８は甕底部。５は口縁部が短く外反する甕。６は口縁部が長く伸びた甕で、内外面には細かく弱いハケメ状のヘラナデを行う。７は正確な器高は不明だが、底径が大きく器高が低い鉢状の羽釜で、竈付近から出土した。時期：11世紀前半か。

６号竪穴（第４～７・96・97図、図版５・38）

位置：５号竪穴の東側に隣接し、ほぼ同じ主軸方向をとる。重複：西壁が５号竪穴東壁を切る。経緯：５・６号竪穴を通して東西ベルトを設定。規模：東西2.95ｍ、南北3.7ｍの隅丸長方形で、北竈をもつ。主軸：N-5°-W。覆土：５号竪穴とほぼ同質の土層が堆積する。竈周辺から床面中央にかけて礫が散在する。出土：竈周辺を中心に土器類が出土した。壁：東壁高32cm、西壁高30cm。周溝：幅28cm、深さ16cmの周溝がほぼ全周する。床：中央東寄りに黄色ローム土による貼り床が東西90cm×南北１ｍの範囲に部分的に認められる。床面は５号竪穴より11cmほど高い。竈：東北隅に竈をもつコーナー竈。石組が良好に残り、竈内には胴下半を欠失した甕が遺存する。左右袖に３石並べ、奥壁側に天井石を渡し、詰め石として粘板岩礫を重ねている。焚口側の天井石は欠失する。焚口幅は37cm、袖石の高さ18cm、奥行き40cm。竈内の甕直下には平たい礫が存在し、構築材の一部と思われる。土師器甕

については礫が崩れたのち、竈内に落ち込んだとみられるが、竈口に常時はめ込まれていた土器か。掘り方：未調査。遺物：１～９は土師器坏、又は皿。10～12は土師器甕。10は口径に比べ器高が低い甕で、口縁部の外反は屈曲が弱く、甕鉢形に近い。内外面のハケメは細かく弱いヘラナデ状である。11は壺形を呈する甕で、口縁部の屈曲は強く、外面には弱いヘラナデ状のハケメをもつ。12はナデの痕跡が弱い甕胴部。時期：11世紀前半か。

７号竪穴（第９・97図、図版５・38）

位置：調査区南西側、53号竪穴と８号竪穴の間に位置する。重複：西壁に262号ピットが重複するが、前後関係は不明。経緯：南北方向にベルト設定。規模：東西3.35ｍ、南北2.6ｍの東西に長い隅丸長方形プランで、南東隅にコーナー竈がある。主軸：Ｎ-0°-Ｅ。覆土：浅いところでは厚さ３㎝程度で床面となり、覆土は全体的に薄い。覆土には灰黄褐色砂質土が薄く堆積し、南壁、西壁近くに数個の礫が分布する。出土：竈周辺に床直に近い遺物があり、また床面中央付近に床から浮上して少量の遺物が出土した。壁：東壁高18㎝、南壁高15㎝、西壁高15㎝、北壁高10㎝。周溝：東・北壁側は不明瞭だが、西・南壁側には明瞭な周溝がある。幅25～50㎝、深さ５～10㎝。四隅はとくに深く、床下掘り方と同化している。床：全体的に硬化面が残る。竈前面には貼り床らしき黄色ローム土が部分的に残存するが、竈構築粘土の崩土の広がりかもしれない。炭化層が竈周辺に存在する。竈：南東隅のコーナー竈で、粘土袖。煙道は東壁を20㎝程度突出し、煙道との境に礫がある。竈の掘り方は幅70㎝、奥行き55㎝。両袖間は幅38㎝で、焚口は深さ20㎝ほど窪む。掘り方：5㎝ほど下げると全体的にあばた状の掘り方面となる。西側がやや下がるが、とくに深い部分はない。遺物：１～５は土師質土器坏または皿。６は口径が大きく器高が低く、鉢形に近い。内外面はヘラナデとする。時期：11世紀前半か。

８号竪穴（第10・98図、図版５・６・38）

位置：調査区中央南西寄りに位置する。重複：南西隅に円礫が入ったピットが重複し、住居に伴うとみられる。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西4.1ｍ、南北3.7ｍの東西が長い隅丸長方形。主軸：Ｎ-6°-Ｅ。覆土：厚さ40㎝で、灰黄褐色砂質土を主とする。出土：覆土中に床から浮上した遺物がやや目立つが、南壁際では床直面にまとまった土師器類が出土した。壁：東壁高44㎝、南壁高35㎝、西壁高35㎝、北壁高45㎝。周溝：全体的に存在するが、東～北壁側には良好に残るものの西～南側は断続的でやや浅い。床：とくに明瞭な貼り床面はないが、全体的に堅緻。竈：東壁、南寄りに石組竈があり、右袖に高さ34㎝の風化した袖石が遺存する。掘り方面はわずかに窪み、焚口には焼土が残る。幅0.8ｍ、長さ1.15ｍで、煙道は東壁から30㎝突出する。掘り方：深さ３～10㎝程度で掘り方面となり、床面中央付近に深さ23～32㎝のピットが３箇所存在した。遺物：１～13は土師器坏または皿、14は須恵器坏、15は土師器小形甕、16は土師器置き竈。１～５・10～13はいずれも体部下半に手持ちヘラ削りを施し、口唇部が玉縁をなす10世紀前半代の坏皿で、６・９を除き内面に暗文はなく、玉縁化は顕著ではない。13の皿底部外面には墨書の一部が残る。16の置き竈には胴部に円孔が穿たれている。時期：10世紀前半。

９号竪穴（第11・12・99図、図版６・38）

位置：調査区中央やや南、西壁脇に位置する。重複：45号竪穴の西壁付近を切る。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西3.25ｍ、南北4.4ｍの南北に長い隅丸長方形プランで、北東隅にコーナー竈をもつ。主軸：Ｎ-4°-Ｅ。覆土：灰黄褐色砂質土を主とする。出土：竈周辺を中心に遺物が出土したが、量は少ない。壁：南壁高38㎝、北壁高34㎝。周溝：北壁側を除き、幅25㎝、深さ10㎝程度の周溝が良好に存在する。床：竈前面から床面中央にかけて、黄色ローム土の不整形の貼り床面が存在する。また竈前面を中心に炭化物層が床面全体に広がる。床面中央には内部空間を南北に２分する東西方向の直線的な溝がある。幅24㎝、深さ14㎝で、間仕切り溝かと思われる。竈：北東隅にコーナー竈があり、煙道が斜め方向に突き出している。袖にあたる部分に小礫が数個存在するが、袖石は遺存せず、粘土竈の可能性がある。竈は幅0.9ｍ、長さ1.4ｍで、煙道は壁から40㎝程度細長く突出する。袖の粘土は60～80㎝の長さで、間隔は60～70㎝を測る。焚口相当部分には炭化層が堆積し、竈崩土の黄色粘土が１×1.5ｍの範囲で広がる。天井石、支脚石はない。掘り方：未調査。遺物：１～３は土師器坏、４は土師器高台坏、５は灰釉陶器皿、６・７は土師器甕、８は灰釉陶器壷、９は台石状の砥石。６は口縁部が断面三角形で厚く、７は厚みがない。ともに内外面のハケメ調整を残す甲斐型甕の最終段階の姿である。時期：10世紀後半。

10号竪穴（第13～15・99～101図、図版７・38・39）

位置：調査区中央、東寄りに位置し、11号竪穴と重複する。重複：西側を11号竪穴に切られる。南壁に１・

２号ピットが重複するが、前後関係は不明。経緯：確認時点で２軒の重複と判ったため、２軒を通るように東西ベルトを設定。完掘後､掘り方面で柱穴を探った。規模：東西 6.8 m、南北 6.8 mの北竈をもつ大形の隅丸方形プラン。本遺跡では最大で、集落では中心的な建物と考えられる。主軸：N-3°-W。覆土：灰黄褐色砂質土を主とする。中央、竈寄りでは黄色粘土とともに礫が複数出土したが、竈の構築材と考えられる。出土：壁：東壁高 35cm、南壁高 37cm、西壁高 44cm、北壁高 46cm。周溝：幅20～30cm、深さ10～15cmで明瞭な周溝が全周するが､東壁では断続的である。周溝中、南東隅や東壁側にはやや深い小ピットがあり、支柱穴の可能性がある。床：竈前面を中心に全体的に貼り床が存在。とくに竈前面には 1.4 × 1.6 mの範囲で黄色ローム土が広がり、貼り床面には薄く炭化物層が堆積する。竈：北壁中央に北竈をもつ。竈周辺には袖部を中心に黄色粘土が多量に残り、袖部粘土上には左袖側壁寄りに底面から浮いた状態で１石があり、右袖壁寄りに長さ 30cmの礫が直立する。粘土を主体としつつ一部礫を用いた石組竈である。袖石間は約 70cm、高さは約 35cmである。その手前には 1.2 m × 0.8 mの範囲で床面から約 15cm窪んだ焚口～火処があり、30cm × 30cmの焼土範囲がある。また火処の壁寄りには長さ 30cmの支脚石が立つ。煙道は幅 40cm、長さ 60cmで壁外に突出する。竈の袖石と粘土の両袖部および火処の位置にズレがあり、左袖の位置が一致していない。これは竈の作り変えが行われた可能性を示唆している。掘り方：床を断ち割ったところ、床面直下に別の床面が部分的に確認できた。別の住居に伴う床ではなく、貼り床面の補修と考えられる。貼り床下から 253～257 号ピットを検出した。そのうち 254～257 号ピットの４本が主柱穴で、254・256号ピットは11号竪穴掘り方面で確認された。254 号ピットは直径 45 ～ 55 cm、深さ 67cm、255 号ピットは直径 55cm、深さ 43cm、256 号ピットは直径 40cm、深さ 51cm、257 号ピットは直径55cm、深さ45cmで、255号ピット断面には直径22 cmの柱痕が確認されたほか、257号ピットでは土師器１（第144図）が上層から出土した。柱穴中央、上層からの出土であり、柱穴に伴う土器ではなく、のちの流入とみておくが、検討の余地はある。柱穴間は254－255号ピット間が 3.4 m、256－257 号ピット間が 3.3 m、254－256 号ピット間が 2.2 m、255－257号ピット間が 2.2 mである。また 261 号ピットに接するように焼土層が堆積していた。そのほか 258･260･261 号ピットなどが掘り方面で検出されている。遺物：１～12 は土師器坏、13 は土師器鉢、14 は須恵器蓋、15 ～ 21 は土師器甕、22 ～ 27 は土師器小形甕、28・29 は須恵器甕、30・31 は手捏ね土器、32 は台石。１～ 12 の坏はいわゆる盤状坏とみられ、器形には大小がある。またヘラナデ、ヘラミガキが顕著なもの、そうでないものがある。１・９には内面見込み部に放射状の密なヘラミガキがあり、放射状暗文の先駆けとなる。４は底部が丸く突出し、より古相を呈すほか、器高が低い５も古手である。10 には底部外面に文字は不明ながら墨書文字がある。15・16・23は口縁部が緩やかに外反する甕で、ヘラナデで整形を行う。20は弱いハケメ状の痕跡をもつヘラナデによる甕で、口縁部は長く伸びる。21 は胴部が丸く膨らんだ内外面にハケメを多用した甕。26 は手捏ねによる円筒形の小形土製品で、製塩土器と考えられる。30 は凹みをもつ円形の土製品であり、31 は円筒形を呈した俵状の土製品で、ともに何らかの器物を模した土製模造品であろう。30 と同じタイプの土製品は 51 号竪穴（第 128 図）でも出土している。257 号ピット１は土師器坏で、体部は丸く、器高が低い盤状坏の類である。時期：８世紀前半～中葉。

11号竪穴（第13～15・102 図、図版７・39）

位置：調査区中央、やや東寄りのわずかに南傾斜面に位置し、10号竪穴と重複する。重複：10号竪穴の西側を切り、10号竪穴の 254・286 号ピットが重複する。また北西に 231 号ピットが接する。経緯：10 号竪穴と共に東西ベルトを設定し、同時並行で調査を行った。規模：東西 3.9 m、南北 3.7 mの北竈をもつ隅丸方形プラン。主軸：N-3°-E。覆土：灰黄褐色砂質土、暗褐色砂質土、鈍い黄褐色砂質土の３層からなる。出土：竈周辺を中心に分布するが、覆土中出土遺物が多い。壁：東壁高 30cm、南壁高 52cm、西壁高 60cm、北壁高 57cm。周溝：周溝はないが、北西隅の壁際に幅30cm程度の溝がある。床：貼り床面はないが、全体的に硬化する。竈：北竈で、北壁中央、やや東寄りに粘土竈がある。黄色粘土で構築した粘土竈で、粘土の袖間は 50 ～ 80cm、長さは 90cm。粘土を逆Ｕ字形に盛り上げて袖および煙道とし、中央、奥壁寄りに支脚石が直立する。支脚石は 16 × 9 × 7 cmの棒状礫で、底面から 12cmの高さがある。煙道は壁から 15cm程度突出する。掘り方：南半が全体的に下がり、掘り方底面まで中央付近で３～５cm､周辺で８cm程度の深さがある。遺物：１～３は土師器坏、４は須恵器坏、５は須恵器蓋、６～８は土師器甕、９は紡錘車とみられる土製品、10 は鉄製刀子、11 は叩き石。１は底径が大きく、内

面、見込部に放射状暗文をもつ９世紀前半代の甲斐型坏。３は盤状坏とみられ、８世紀前半代の混入品か。９は球形に近い円筒形の紡錘車である。時期：８世紀第４四半期。

12号竪穴（第16・103図、図版７・８・39）

位置：調査区中央東寄り、10・11号竪穴の南側に位置する。重複：なし。経緯：南北にベルト設定。規模：東西3.4ｍ、南北3.4ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：Ｎ−4°−Ｅ。覆土：灰黄褐色砂質土、鈍い黄褐色砂質土、暗褐色砂質土の３層からなる。出土：竈周辺の覆土中から少量の遺物が出土したほか、竈内から土師器坏類が出土した。壁：東壁高37㎝、南壁高30㎝、西壁高36㎝、北壁高33㎝。周溝：幅20～30㎝、深さ８㎝程度の周溝が全周する。床：特別な硬化面はなく、全体的にやや軟弱。また黄色ローム土による貼り床面はない。竈：東壁のほぼ中央に東竈がある。黄色ローム土を構築材とした粘土竈で、袖部の構造はあまり明瞭ではないが、礫がないことから粘土竈か。火処の幅は50㎝程度で、火処底面はやや高い。煙道は壁外に50㎝程度突出する。竈は煙道を含めて長さ1.6ｍ、幅80㎝で、煙道部分の壁はよく被熱・赤変するものの火処の被熱は弱い。掘り方：床面から深さ10㎝程度で掘り方面となる。遺物：1～4は土師器坏、5は土師器皿、６～９は土師器甕、10～12は須恵器甕。１～３は底径が大きく、体部から口縁にかけて急に立ち上がり、内面、見込部には放射状暗文をもつ８世紀末～９世紀前半代の坏で、１には体部外面に横ヘラミガキを施す。３には底部外面に文字または記号的な線刻があるが、判読できない。５の皿にも底部外面に線刻がある。土師器甕は口径の大きさから小形の９、中形の６・７、大形の８があり、９を除き口縁部の開きが水平に近く開き、やや長い特徴をもつ。時期：８世紀第４四半期。

13号竪穴（第17図、図版８）

位置：調査区北西の竪穴住居の一群中、南端に位置する。重複：なし。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西3.6ｍ、南北2.9ｍのやや東西に長い隅丸長方形で、南東隅にコーナー竈をもつ。北壁の西半分、周溝から外の部分については、掘り過ぎかとみられる。主軸：Ｎ−15°−Ｗ。覆土：ほぼ中央に床面から18㎝程度浮いて90×90㎝の範囲で焼土ブロックがあり、土師器片を伴う。出土：中央の焼土ブロック付近に床面から浮上して遺物が出土した程度で、全体的には非常に少ない。壁：ごく浅く、東壁高３㎝、南壁高５㎝、西壁高４㎝、北壁高７㎝を測る。周溝：南側の一部を除き全体に存在し、幅25㎝、深さ７㎝程度を測る。床：貼り床面はなく、著しい硬化面もない。竈：南東隅の東壁際に焼土が60×80㎝程度の範囲で薄く広がることから、南東隅寄りに設けられた東竈と推定したが、袖の粘土、石がほとんどない。火処の掘り込みはほとんどなく、竈の規模、構造は不明。壁への煙道の掘り込みもない。掘り方：未調査。遺物：実測できる遺物はない。時期：不明。

14号竪穴（第18～20・104図、図版８・39）

位置：北東の竪穴住居群中にあり、15号竪穴の西壁に14号竪穴東壁が接するようにして存在する。重複：15号竪穴に切られる。また床面にブドウ棚の四角い穴が穿たれている。経緯：規模：東西2.95ｍ、南北3.15ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：Ｎ−4°−Ｅ。覆土：厚さ20㎝程度の鈍い黄褐色砂質土。出土：竈周辺等に少量存在するのみで、非常に少ない。壁：東壁高14㎝、南壁高13㎝、西壁高18㎝、北壁高14㎝で、全体に浅い。周溝：南西隅側は不明確であるが、竈周辺を除きほぼ全周し、幅20㎝、深さ８㎝を測る。床：地山の山砂面を床面とし、硬化面は顕著ではなく、貼り床もない。竈：東壁北寄りに位置し、煙道付近が15号竪穴に切られているため、構造は不明だが、幅70㎝、長さは現状で65㎝程度の規模で、火処は深さ８㎝程度窪み、袖を粘土で構築している。右袖よりも左袖の粘土の残りがよく、55㎝程度の長さがある。煙道付近は15号竪穴に切られるため、構造は不明。掘り方：未調査。遺物：１は土師器高台皿、２は土師器盤状坏、３は土師器甕、４・５は手捏ね土器。１は削り出し高台によって底部に小さな高台を設けた皿。４はミニチュア土器だが、５は内外面にヘラナデ痕をもち、製塩土器か。２の坏および３の口縁部形態から、８世紀前半代とみられる。時期：８世紀前半か。

15号竪穴（第18～20・104図、図版８・９・39）

位置：調査区北西側の竪穴住居群中に存在し、18号竪穴と14号竪穴の間に位置する。重複：14・18号竪穴を切る。南東隅側の床面にはブドウ棚関連の四角い孔が並ぶ。経緯：南北にベルトを設定。南東隅付近は浅いうえに攪乱坑が存在したことからプランを明確につかむことができなかった。規模：東西3.3ｍ、南北3.9ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。南東隅の床面が削られて欠失した可能性があり、住居プランが正しい隅丸方形を呈していない。主軸：西壁をもとにするとＮ−5°−Ｗ。覆土：厚さ12㎝程度の灰黄褐色砂質土を主とする。北西隅近くにローム土のブロックがある。出土：西半に少量の遺物が散在し、小礫とともに大形礫も存在する。壁：南壁高10㎝、北壁高12㎝。周溝：東壁を除き、

幅30～40cm、深さ5cm程度の不明瞭な周溝が存在する。床：竈周辺にローム土がブロック状に分布し、貼り床の一部、あるいは竈粘土の崩土と考えられる。竈：東竈で、東壁の南寄りに位置する。検出時は攪乱等の影響で分かりにくい状況であったが、粘土ブロックが焼土・小礫を伴って確認された。左袖側に焼土を伴う粘土ブロックがあり小礫が出土しているが、粘土竈と考えられる。火処と思われる焼土分布は東壁を掘り込むようにして壁外にかけて存在し、焼土面直上から土師器甕片が多く出土した。壁から30cm程度突出し、煙道というよりは竈そのものを壁外に作る構造とみられる。竈の規模は幅40cm、長さ60cm程度。掘り方：未調査。遺物：１～５は土師質土器皿、６・７は土師器甕。６はヘラナデを多用する厚手の器壁をもつ甕。７は口縁部が肥厚した甲斐型甕。時期：11世紀前半。

16号竪穴（第21・104図、図版９・39）

位置：調査区北西側、14号竪穴北側に位置する。重複：なし。経緯：規模：東西2.9ｍ、南北2.1ｍの東西にわずかに長い隅丸長方形で、北竈をもつ。主軸：N-10°-W。覆土：約30cmの厚さがあり、灰黄褐色砂質土を主とする。出土：遺物が少なく、散在的な出土状況である。床直出土遺物もほとんどない。壁：東壁高36cm、南壁高25cm、西壁高26cm、北壁高32cm。周溝：明確な周溝はないが、南壁、西壁の壁際に幅20cm、深さ４cm程度の断続的な周溝があるものの、不明瞭である。床：地山の山砂面を床面とし、貼り床はない。竈：北壁の東隅寄りに位置し、両袖石が壁際に立つ。燃焼部を壁に掘り込んで構築した竈で、壁から煙道状に幅90cm、奥行き60cm掘り込み、長さ35cm程度の袖石を壁際に約60cmの間隔で立てている。両袖間には19×８×10cmの棒状礫が支脚石として遺存する。火処は40×50cmで、深さ７cm程度窪み、焼土が分布する。竈の規模は幅90cm、長さ1.1ｍ程度である。掘り方：未調査。遺物：１はヘラナデ調整の小形土師器甕。２は須恵器甕胴部、３は土製紡錘車片、４は竈支脚に用いられた礫。時期：出土遺物が少なく、時期判断が難しいが、全体的に８世紀前半の様相をもつ。時期：８世紀前半か。

17号竪穴（第21・105図、図版９・39）

位置：調査区北東側に位置する。重複：西壁に接するように243号ピットが重複する。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西2.1ｍ、南北2.65ｍのわずかに南北に長い隅丸長方形で、東竈をもつ。主軸：N-8°-E。覆土：厚さ10cm程度で、灰黄褐色砂質土を主とし、南西隅に４個の礫がまとまる。出土：全体的に非常に少ない。壁：東壁高５cm、南壁高５cm、西壁高５cm、北壁高10cmと非常に浅い。周溝：幅20cm、深さ６cmで全周するが、不明確。南壁側は幅広となっている。床：竈前面から北側にかけてかすかに貼り床状を呈しているが、全体的には地山の山砂面を床面とする。竈：東壁南寄りに粘土竈をもつ。粘土の袖部が幅55cmの間隔で40cm程度遺存し、礫はない。60×80cmの規模で、煙道はわずかに10cm程度張り出す。掘り方：未調査。遺物：１は土師器坏。時期：11世紀前半か。

18号竪穴（第18～20・105図、図版９・10・39）

位置：調査区北西側の竪穴住居群中に存在し、15号竪穴と重複する。重複：15号竪穴に南西隅を切られる。また東壁中央に攪乱溝が竈煙道の位置に存在する。経緯：規模：東西3.85ｍ、南北2.7ｍのやや南北に長い隅丸長方形で、東竈をもつ。主軸：N-4°-E。覆土：厚さ５cm程度と極めて薄く、灰黄褐色砂質土を主とする。出土：遺物はほとんどない状態。壁：南壁高４cm、北壁高６cmと床面までは浅い。周溝：幅15～25cm、深さ５cm程度の不明瞭な周溝がほぼ全周する。床：中央付近に黄色ローム土が貼り床状に存在する。竈：東壁中央、やや南寄りに位置する。90×60cmの範囲で黄色土、焼土ブロックが分布し、左袖に花崗岩の円礫が存在することから、石組竈とみられるが、構造は不明。規模は80×80cm程度で、火処の窪みはほとんどなく、煙道の掘り込み、支脚石、天井石はない。掘り方：未調査。遺物：１は土師器甕で、外面はヘラ削り、内面は横ハケとする厚手の器壁をもつ。２は土師器高台坏脚部、３は須恵器突帯壺で、断面三角形の突帯上に上面に刺突をもつ貼り付け文がある。時期：11世紀前半。

19号竪穴（第22図、図版10）

位置：調査区北西に位置する。20・21号竪穴と重複し、70号竪穴と南西隅が接する。重複：20・70号竪穴に切られる。経緯：北壁中央の竈石組脇から19号竪穴の北壁付近に広がるローム土、焼土が確認されたため、北竈をもつ住居とみて東西方向にベルトを設定し断面観察を行い、掘り下げた。その後、石組竈は20号竪穴のコーナー竈と判明したが、20号竪穴の竈に切られるようにして粘土や焼土が残存していたため、20号竪穴の竈とほぼ同じ位置に19号竪穴の北竈が存在したと判断した。規模：東西2.9ｍ、南北2.45ｍの東西にわずかに長い隅丸方形で、北竈をもつ。主軸：N-3°-E。覆土：灰黄褐色砂質土を主とし、確認面から床面まで10cm程度と浅い。東壁寄りに数個の礫が存在する。出土：非常に少ない。壁：東壁高10cm、

西壁高８㎝と床面まで浅い。周溝：北東隅および西壁側の一部に幅25㎝のごく浅い周溝が断続的に認められるが、全体的に不明瞭。床：竪穴南半、とくに南東側に床面と思われるローム土が分布し、その上面に炭化物の広がりが認められた。竈：北壁中央に粘土竈と思われる粘土ブロックがあり、袖状の粘土ブロック間に焼土が伴う。火処の掘り込みはごく浅く、竈の構造は不明瞭で、20号竪穴竈との重複で煙道にあたる部分は20号竪穴竈に切られているため、この位置に19号竪穴に伴う竈があったのかどうかも疑わしい。南東隅に広がる炭化層からすれば、礫が分布するあたりに東竈があったとも考えられる。掘り方:未調査。遺物:図化遺物はない。時期：不明。

20号竪穴（第22・105図、図版10・39）

位置:調査区北東隅に位置し､19･21号竪穴と重複する。また東壁中央から東にかけて、東西方向にのびた２号溝が重複し、床面北西には241号ピットがある。重複：19・21号竪穴、２号溝を切る。経緯：当初、19～21号竪穴は数軒分のかたまりとして確認され､個々のプランは不明確で切り合い関係も不明なままであったため、20・21号竪穴の切り合いを確認するため２軒分を通るように東西方向にベルトを設定した。規模：東西3.15ｍ、南北2.75ｍの隅丸方形で、北・西壁ラインは21号竪穴との重複により不明確であった。主軸：N-7°-W。覆土：厚さ13㎝程度の灰黄褐色砂質土を主とする。出土：竈北側の床面上から灰釉陶器埦片が複数出土しているが、それ以外の遺物分布は少ない。壁:東壁高15㎝と床面までは浅い。周溝:幅23㎝、深さ８㎝程度で、竈付近を除いてほぼ全周するが、不明瞭であった。床：19・21号竪穴の床面とほぼ同レベルで、確認面から浅い。竈北側、住居の北東側1/4程度の床面上に炭化物が薄く分布した。竈：東壁、南東隅にコーナー竈の石組竈がある。左袖に２石、右袖に３石の立石が底面から24㎝の高さで内傾して立ち、奥に天井石と思われる横長の礫が遺存する。両袖石の外周には竈構築土の粘土が分布している。19号竪穴竈との重複で、煙道付近の構造ははっきりしない。焚口･火処の窪みは60×60㎝で、深さ数㎝とごく浅い。竈の規模は幅70㎝、長さ１ｍ程度であろう。掘り方：未調査。遺物：１・２は土師器坏、３は皿、４は灰釉陶器埦、５は砥石。３は玉縁口縁で体部ヘラ削りがあり、混入品か。時期：10世紀後半。

21号竪穴（第22図、図版10）

位置：調査区北東隅にあり、19・21号竪穴と重複する。重複：19・20号竪穴に東側を切られる。経緯：19・20号竪穴とともに複数軒の重複として確認された。北・西壁はぼんやりと確認できたが、東壁は20号竪穴との重複で失われたと考えられ、また南壁も不明瞭であった。規模：20号竪穴に切られるため全体像は不明。現状では東西2.7ｍ、南北3.1ｍの隅丸方形で、竈はない。主軸：N-25°-Wと、他の住居にくらべ大きく西偏する。覆土：厚さ12㎝程度と浅く、灰黄褐色砂質土を主とする。出土:ほとんどない。壁:西壁高14㎝で、浅い。周溝:北西隅、南壁東半を除き、不明瞭ながら幅15～20㎝、深さ5㎝程度の周溝が存在する。床：20号竪穴よりもわずかに高い。竈：不明だが、東竈または東南コーナー竈と考えられる。掘り方：未調査。遺物：図化遺物はない。時期：不明。

22号竪穴（第23・105図、図版10・11・39・40）

位置：調査区北東にあり、73号竪穴の上層に主軸方向をわずかに異にして重なるように存在する。また71号竪穴の南西隅と重複する。重複：71・73号竪穴上層に存在する。経緯：南北にベルト設定し、調査を進めたが、調査の終盤で周辺の深いところから71号竪穴などが検出され、23号竪穴下層にも73号竪穴が重複することがわかった。規模:東西3.1ｍ、南北3.45ｍの隅丸方形で、南東隅にコーナー竈をもつ。主軸：N-7°-W。覆土：厚さ15～25㎝で灰黄褐色砂質土を主とする。礫が東壁側に散在し、竈構築材の可能性もある。出土：南壁際に完形に復元できる土師器坏が３個、正位の状態で床面上に並ぶなど、やや多くの遺物が分布する。壁：南壁高15㎝、北壁高24㎝。周溝：幅20～35㎝、深さ8㎝程度の周溝が北西隅を除きほぼ全周し、周溝中の北東隅には242号ピットが存在する。床：下層の73号竪穴覆土を床面とするが、とくに粘土等の貼り床面はない。床面は全体的に弱い硬化面があり、竈前面に炭化物が薄く分布する。中央東壁寄りには小ピットが存在する。竈:南東隅にあるコーナー竈。左右に高さ20㎝程度の袖石を３石ずつ配し袖石とするが、天井石・支脚石は遺存しない。煙道は隅の壁を40㎝程度掘り込んでいる。竈の規模は幅60㎝、長さ80㎝。火処の深さは６㎝程度と浅い。上層には構築土の粘土が覆い、底面には焼土層の下層に炭化物層が存在し、竈前面に広がっている。竈内の遺物分布は少ない。掘り方：未調査だが、下層の73号竪穴調査に伴って全掘した。遺物：１・２・４～７は土師器坏、８・９は灰釉陶器埦・皿、10は土師器蓋、11は砥石。土師器坏には体部から口縁部が丸味をもって外反する２・４・６、直線的にのびる１・５・７がある。３は脚部が長く開いた高台坏。時期：11世紀前半。

23号竪穴（欠番）

76号竪穴上層に存在した住居を当初23号竪穴として調査したが、23号竪穴の竈と推測した石組は、のちに隣接する74号竪穴竈の石組の一部とわかり、また23号竪穴直下で76号竪穴が検出された。したがって23号竪穴は欠番とし、23号竪穴の出土遺物は76号竪穴覆土上層帰属と訂正する。

24号竪穴（欠番）

当初、調査区北東隅の246～248号ピットがあるあたりを黒味があるとして住居設定したが、竈や焼土分布はなく、床・壁も存在しないことから現地にて住居ではないと判断し、欠番とした。

25号竪穴（第24・106図、図版11・40）

位置：調査区中央、西壁寄りに位置する。重複：1号溝が住居の南東角を通過する。溝を切るとみられる。北壁付近には217・218号ピットが重複し、中央にはブドウ棚支線の方形の攪乱孔がある。経緯：南北に長い不整形プランとして確認された。南北方向にベルトを残し、断面観察をしたところ、南側では南壁の立ち上がりとみられる段差が確認でき、住居と判断した。規模：東西3.4ｍ、南北3.3ｍの隅丸方形だが、全体にひとまわり大きな不整形のプランの中に入れ子となる。地山が砂質土のため、四周の壁が大きく崩落したらしい。主軸：N-7°-E。覆土：厚さ40cm程度の黒褐色砂質土を主とする。西壁中央手前に竈と思われる粘土等のブロックがあり、その背後などに礫がある。出土：中央から南壁にかけ、竈と思われる粘土ブロックの南側を中心に、完形品を含むいくつかの土師器坏類等が出土している。壁：壁はいずれも大きく崩れ、段状を呈しているが、本来の壁ラインでの壁厚は、南壁高25cm、北壁高40cmである。周溝：西北隅を除き周溝がある。幅20cm、深さ10cm程度であるが、全体的に不明瞭で、壁および周溝を掘り過ぎている可能性がある。床：中央西寄りに礫、焼土、炭化物、ローム土からなるブロックがある。ローム粘土中に炭化材を含む炭化物が非常に多く存在し、竈ではないものの、竈に類似した状況を呈している。また焼土等のブロック脇から北東側にかけた床面中央付近には貼り床らしい黄色ローム土が分布したが、顕著な硬化面はない。またブロックの範囲と重なるように薄い炭化層が存在するが、大形の炭化材はなく、火災住居とはいいがたい。竈：ブロックを竈の残骸と考えると、現状では壁に作りつけた状況では検出されていないものの西竈の可能性がある。竈であれば南西隅に寄りの石組竈であろう。壁の崩落により竈そのものも大きく崩れたとみられ、規模は不明。掘り方：未調査。遺物：1～4は土師器坏、5は土師器高台坏、6～9は土師器甕、10は砥石。1～4はいずれも体部が丸味をもちつつわずかに外反する皿で、4は大形、他は小形である。6は器壁の厚い甕で、細かなハケメをもつ。7～9はその底部である。時期：10世紀後半。

26号竪穴（第25～28・106図、図版11・12・40）

位置：調査区中央、西壁寄りの25号竪穴の東側にあり、50・72号竪穴と重複する。重複：1号溝を26号竪穴が切るようにして重複し、竪穴中央付近を1号溝が東西に通過している。また50・72号竪穴の南西隅に北壁を切られる。床面には2か所のブドウ棚支線の攪乱孔がある。経緯：南北にベルトを設定。北西隅側には72号竪穴竈があって、プランが明確に検出できなかった。規模：東西3ｍ、南北3.7ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-4°-W。覆土：厚さ55cm程度の暗褐色砂質土を主とする。床面上5cmほど浮上して炭化物層が全体的に広がり、小さな炭化材が多数含まれていることから、火災住居と考えられる。また竈前から東壁寄りにいくつかの礫が点在する。出土：南壁寄りにいくつかの土師器類が出土したが、全体的に遺物は少ない。壁：北壁は50・72号竪穴との重複で壁を欠失する。東壁高43cm、南壁高30cm、西壁高32cm、北壁高38cm。周溝：北側に72号竪穴竈が位置する関係上、北壁側の周溝がわかりにくくなっている。南壁から西壁側には一部断続的に存在し、南壁側の周溝中には小ピットがある。床：竈前面から中央付近かけて黄色ローム土の貼り床面が広がり、竈前面から中央にかけて薄く炭化物が広がる。南東隅には90×70cmの楕円形ピットがあり、北側の72号竪穴竈寄りには小ピット2か所がある。竈：東壁中央やや南寄りに竈がある東竈。袖石は高さ25cm程度の3石を左右に立てて並べた石組竈で、火処中央に支脚石をもつ。煙道部分は1号溝の砂層中に作られ、壁から30cm突出する。竈の幅は70cm、長さ1ｍ、深さ8cm。支脚石は長さ22cmの角礫を用い、煙道側に傾いて検出された。焚口から竈前面には炭化物が1.3×1.2ｍの範囲で広がっている。天井石はない。掘り方：未調査。遺物：1～6は土師器坏、7は灰釉陶器皿。3は内面放射状暗文をもつ坏で混入か。1は口縁部が緩やかに丸く外反した坏で、大形である。4は内面黒色の高台皿。時期：10世紀後半。

27号竪穴（第29～31・107図、図版12・40）

位置：調査区中央、やや西寄りに位置し、28・50号竪穴と重複する。重複：1号溝を切り、南半を28号

竪穴に切られる。また北西隅に50号竪穴南東隅が接する。北壁東西にはブドウ棚支線の攪乱孔が住居を切っている。経緯：27・28号竪穴の切り合いを探るため､南北にベルトを残して土層観察を行ったところ、28号竪穴の床面レベルが27号竪穴よりも８㎝程度深く、28号竪穴に切られている状況がわかった。規模：南半を欠失するため全体規模は不明で、東西2.95ｍ、南北は現状で1.8ｍ以上の隅丸方形の小形住居。主軸：N−4°−W。覆土：東壁寄りに炭化物がまとまる。出土：竈周辺に少数があるのみで、非常に少ない。壁：南壁は28号竪穴に切られ欠失する。北壁高45cm。周溝：北西角、北東角付近に部分的に幅10〜30cm、深さ約10cmの周溝が認められるが､断続的で不明瞭。床：中央東壁寄り、北壁寄りの中央付近に部分的に黄色粘土の貼り床面が存在する。また東壁寄りの南側には床面の直上に炭化材を多数含む炭化物のまとまりがあった。竈：28号竪穴に切られたため欠失するが、東壁側の床面上の粘土の分布状況から東竈と思われる。28号竪穴および32号竪穴との重複で、32号竪穴→27号竪穴→28号竪穴の順で重なるため、27号竪穴の竈の位置は不明。掘り方：床面から５㎝程度で掘り方面となる。遺物：１は須恵器高台坏。時期：９世紀代とみられるが不明。

28号竪穴（第29〜31・107図、図版12・40）

位置：調査区中央、西寄りにあり、27・32号竪穴と重複する。重複：１号溝、27･32号竪穴を切る。経緯：27号竪穴とともに南北にベルトを残して土層を観察した。規模：東西3.9ｍ、南北3.85ｍの隅丸方形で東竈をもつ。南壁がやや短く、西壁が西に偏していて台形状となる。主軸：N−1°−W。覆土：厚さ約20cmあり、鈍い黄褐色砂質土を主とする。出土：北壁寄りに小破片がややまとまるほか、竈周辺に少量の遺物が点在するのみで、竪穴規模の割に遺物量は少ない。壁：32号竪穴との重複で東壁を失い、また北壁の大半を27号竪穴との重複で壁を失うが、東壁高25cm、南壁高20cm、西壁高25cm、北壁高18cm。周溝：幅20 〜 40cm、深さ約15cmの周溝がほぼ全周するが、南壁側は不明瞭で､一部は周溝が切れる。出入り口部かもしれない。床：とくに明瞭な貼り床はない。竈：東壁、南寄りに位置する東竈。粘土が上層を覆った状況を呈し、下層には小振りの円礫等以外に大形礫はなかったことから粘土竈とみられる。竈の構造はよくわからないが、火処は65 × 45cm、深さ6cm程度と浅く、底面は顕著に被熱・赤変し、炭化物のまとまりがあった。煙道部分は32号竪穴の覆土に構築されていたことから、十分に把握することはできなかった。掘り方：約４㎝程度掘り下げ、掘り方面となる。遺物：１〜６は土師器坏･皿、７は土師器小形壷、８〜11は土師器甕、12は須恵器壷。１は内面黒色土器坏。２〜６は皿で、体部外面にはヘラ削りが行われない。９〜11は内外面にハケメ痕をもつ肥厚口縁の甕で、８は細かなハケメ痕をもつヘラナデで整形した甕であり、器壁は厚く口縁部は斜め上方にのびている。時期：10世紀後半。

29号竪穴（第32・107・108図、図版12・13・40）

位置：調査区中央、わずかに西寄りの緩い南傾斜面に位置する。重複：重複はないが、竈脇、東南隅と南西隅側にブドウ棚支線の攪乱孔がある。経緯：南北にベルトを設定して土層を観察した。規模：東西3.3ｍ、南北2.95ｍのわずかに東西に長い隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N−18°−W。覆土：厚さ約50cmあり、暗褐色砂質土を主とする。竈前面を中心に床面直上から約２㎝程度浮上して薄い炭化物層が分布する。出土：北壁寄りに分布するが、いずれも確認面近くからの出土で、床直遺物は少ない。壁：東壁高28cm、南壁高30cm、北壁高46cmで、北側がやや深い。周溝：幅20cm、深さ約6cmとわずかにくぼむ程度で、全体的にぼんやりしている。床：全面的に薄いローム土の貼り床面が残る。竈：東壁、南東隅寄りに東竈がある。幅70cm、長さ75cm程度の範囲かと思われるが、構造等は不明。煙道は東壁を20cm掘り込んでいる。袖石、支脚石はなく、煙道壁面には黄色粘土が残ることから、粘土竈と考えられる。竈内からは少数の破片が出土した程度であった。掘り方：床を断ち割って掘り方面の完掘を行ったところ、明瞭な掘り方面はなかったが、細かな凹凸面を全面的に確認した。遺物：１・２は土師器坏、３・４は灰釉陶器埦、５は土師器甕、６は須恵器甕、７は鉄製刀子、８は土師器甕、９は土師器羽釜、10・11は土師器羽釜または甕底部、12は土師器置き竈。２は底部に近い体部下側に穿孔をもつ坏。時期：10世紀後半。

30号竪穴（第29〜31・109図、図版13・40）

位置：調査区中央に位置し、31号竪穴と重複する。重複：１号溝を切り、31号竪穴がほとんど同じレベルで上層にのる。31号ピットが覆土を切る。経緯：東西方向にベルトを設定。重複する31号竪穴とはほぼ同一レベルで切り合っているが、床面精査をしたところ、２面ほど床面が確認でき、下の面を追ったところ30号竪穴の黄色ローム土の貼り床面を検出した。南西隅はやや掘り過ぎているが、周溝の検出で南壁の位置は確認できた。規模：東西３ｍ、南北2.75ｍの

隅丸方形で、北竈をもつ。主軸：N-3°-W。覆土：厚さ25cm程度の暗褐色砂質土を主とする。北壁寄りには竈の構築材とみられる礫が黄色粘土ブロックとともに床面に崩れた状態で出土したが、竈の天井石等とすると量が多い。北東隅側を中心に床より浮上して炭化物が分布し、東壁際や東側にはやや大形の炭化材が床面から浮上して検出され、火災住居の可能性が高い。出土：竈周辺に点在するほか、西南隅に完形品があるが、31号竪穴の遺物と考えられる。壁：南壁は31号竪穴との重複でほとんど欠失するが、東壁高23cm、南壁高30cm、西壁高28cm、北壁高20cm。周溝：西壁側は不明瞭で、北壁側の一部から東・南壁側には幅15～30cm、深さ約４cmの周溝がある。床：貼り床の黄色ローム土が床面中央付近に広がる。竈：北壁、西寄りに石組の北竈がある。円礫を袖石として左右に２～３石立て並べ、焚口側が開くようにハの字形にする。両袖の石は幅55cm程度の間隔で並べるが、焚口側での内径は38cm、煙道側では18cmを測る。立石の上に円礫を積み上げて高さ調整をし、支脚石、天井石は遺存していない。袖部には礫の周りに黄色粘土を貼り、内外面の粘土は著しく被熱・赤変する。煙道部分はごくわずか壁を削り込んで作られ、Ｖ字形に被熱した粘土が認められる。竈内からは甕の破片が出土した。掘り方：約８cm程度で掘り方面となる。遺物：１～３は土師器坏または皿、４は土師器高台皿、５は黒色土器坏、６は土師器甕、７は鉄製鎌、８は鉄製鏃・９は台石。５は内面にヘラミガキを多用し、内面黒色とした黒色土器坏。６はヘラナデで整形しハケメ痕はないが、口縁部は肥厚し胴下半に屈曲部をもち、甲斐型甕の器形を継承している。９は表面に２孔の凹みをもつ。時期：10世紀後半。

31号竪穴（第29～31・110図、図版13・40）

位置：調査区のほぼ中央にあり、30・32号竪穴と重複する。重複：32号竪穴に切られ、30号竪穴床面上に床を貼る。経緯：ベルトを東西に設定。当初、30号竪穴との前後関係は判らなかったので、30号竪穴とほぼ同時進行で調査を行った。30号竪穴の床面上層に31号竪穴の貼り床が存在したが、30号竪穴床面を追っていく中で30号竪穴の床については調査が十分できなかった。したがって本来31号竪穴の北壁側の周溝が30号竪穴床面上に確認できたはずだが、確認できていない。規模：東西3.35ｍ、南北3.75ｍの南北がやや長い隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-3°-W。覆土：厚さ約15cmで、暗褐色砂質土を主とする。北西隅に黄色粘土ブロックがあり、南壁寄りに礫がある。出土：竈脇の南壁にまとまった土器があるほか、ごくわずかに点在するのみ。壁：北壁は30号竪穴との重複で欠失するが、わずかに壁の一部が確認できる。また西壁も32号竪穴との切り合いでほとんどない。東壁高12cm、西壁高18cm。周溝：不明瞭ながら西から南壁側にＬ字状にあり、幅20～40cm、深さ約４cmを測る。床：貼り床はなく、硬化面も顕著ではない。竈：石組の東竈で南東隅に寄る。右袖に奥壁側２石が立ち、左袖には円礫がいくつかあるが袖石としての原位置は留めていない。奥壁寄りに支脚石が立つ。右袖石は支脚石と約30cmの間隔で立ち、床面から高さ25cmある。竈の幅は60cm程度、長さ80cm程度で、焚口などの構造は不明。支脚石は左袖寄りに立ち、幅16cm、長さ21cmで12cmほど火処面から出ていて、石の周辺はよく被熱・赤変している。掘り方：床面の断ち割りは実施していない。遺物：１～４は土師器坏・皿、５は土師器高台坏、６は土師器小形甕。１・５は土師質土器、２～４は甲斐型土器で、二時期の遺物がある。４は皿か坏か判然としないが、底部外面には線刻による文字または記号がある。時期：10世紀後半。

32号竪穴（第29～31・110図、図版13・14・40）

位置：調査区のほぼ中央に位置し、29・31号竪穴と重複する。重複：31号竪穴を切り、28号竪穴に切られる。経緯：南北方向にベルトを設定。規模：西半は28号竪穴との重複で欠失するため、全体像は不明だが、現状では東西2.6ｍ以上、南北4.1ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-4°-W。覆土：厚さ20cm程度の暗褐色砂質土を主とする。出土：竈周辺に数点の破片があるのみ。壁：西竈は欠失する。東壁20cm、南壁高16cm、北壁高15cm。周溝：床面残存部分では幅20cm、深さ約8cmの周溝がほぼ全周する。床：床面のレベルは28・31号竪穴とほぼ同じで、貼り床はとくになく、硬化面も顕著ではない。竈：東壁のほぼ中央に東竈をもつ。31号竪穴との重複で掘り上がりの状態では竈の形態がわかりにくくなっているが、右袖を中心に黄色粘土が広がり、粘土上層には土師器甕片が多く存在した。礫が遺存しなかったことから、石組竈ではなく、粘土竈と思われる。火処の掘り込みはほとんどない状態で、竈の規模は１×１ｍ程度と思われるが、明確ではない。煙道の構造もよくわからないが、20cm程度、東壁に掘り込まれていたと思われる。掘り方：全体的に床面よりも８cmほど下がり、ほぼ平坦な掘り方面となる。遺物：１・２は土師器甕。１は胴部が丸く、口縁部が緩やかに外反した甕で、外面は無文となる。２は胴部が直線的に外反し、口縁部が開く口

径の大きな甕で、ヘラナデ調整を行う。時期：11 世紀前半か。

33号竪穴（第33・34・111～113図、図版14・40）

位置：調査区ほぼ中央に位置し、48・67 号竪穴、２号掘立と重複する。重複：48 号竪穴は 33 号竪穴南西側の上層に構築し、69 号竪穴は東側に存在し、33 号竪穴が 69 号竪穴を切る。２号掘立は柱穴列のうち西列の２本分が 33 号竪穴覆土中に存在する形となる。ピット群の精査時点では 33 号竪穴内にピットを確認することはできていないが、33 号竪穴の調査を先行したため、２号掘立のピットが覆土中に存在した可能性がある。経緯：南北方向にベルトを設定。南西側上層に 48 号竪穴がのるため、重複部分を掘り残した状態で全体を掘り下げ、48 号竪穴の調査をまって 33 号竪穴の完掘をした。規模：東西 4.6 m、南北 3.95 mの東西にやや長い隅丸長方形の住居で、北竈をもつ。主軸：N-2°-E。覆土：厚さ 65cm程度で暗褐色砂質土を主とする。北東隅側に竈構築材と思われる円礫が覆土中位に散在する。出土：西半を中心に分布するが、床直遺物は少なく、覆土中位からの出土例が多い。破片主体で、完形品はない。壁：東壁高 46cm、南壁高 44cm、西壁高 70cm、北壁高 70cmと周辺では最も深い住居のひとつである。周溝：明瞭ではないが、幅 20 ～ 40cm、深さ約５cmの周溝が南東隅を除いて全周する。床:竈前面には粘土による貼り床面が広がるほか、南西隅側にも硬化面がある。竈：北壁中央やや東寄りに北竈をもつ。壁面を約 60cm掘り込む壁外竈と呼びうる竈形態で、煙道端部にのみ配石を行う。手前の袖には礫はなく、基本的には粘土竈かと思われる。煙道の配石は、煙道の傾斜面に礫を幅 20cmで左右に３石ずつ２列並べたもので、煙道端部には確認面付近に２石を置く。竈は幅 1.1 m、長さ 1.5 m程度で、火処の掘り込みはほとんどない。天井石、支脚石は遺存していないが、竈前面に散在した礫がそうしたものであったかもしれない。掘り方：北東隅に深い落ち込みがあり、土坑状を呈しているが、確認面下 50cm以下に存在する地山の黒色帯を掘り過ぎている可能性がある。掘り方面は全体的に４～５cmの深さであった。遺物：時期：８世紀第３四半期。

34号竪穴（第37・113図、図版14・41）

位置：調査区中央、やや西寄りに位置し、28・46・47 号竪穴の間にある。重複：ないが、南壁側下層に床らしき面が続いており、住居が重複した可能性がある。経緯：東西にベルトを設定。南壁側に覆土状の埋土があり、ローム土の貼り床状の面が認められたため、全体的に拡張した。住居南東隅および南壁東寄りにサブトレンチを入れ、壁の立ち上がりを探したが検出できず、また南壁に伴う周溝が手前に見つかったため、南壁をそれ以上追及することは断念した。南東隅のサブトレンチ内では別の遺構状の落ち込みがあり、47 号住下層に別の住居が存在する可能性があったが、十分な調査をしていない。規模：東西 2.95 m、南北 2.7 mで、わずかに東西に長い隅丸方形の小形住居だが、南壁はやや掘り過ぎている。北東隅にコーナー竈をもつ。主軸：南壁をやや掘り過ぎと考え、周溝の位置を参考にするとN-12°-W。覆土：厚さ 30cm程度で、暗褐色砂質土を主とする。北東隅の竈側に大量の黄色粘土が竈の崩土として存在した。出土：竈南側の竈崩土下からに土師器類がやや多く出土した。壁：東壁高 34cm、西壁高 30cm。周溝:東壁を除き、コの字状に存在する。幅 20 ～ 30cm、深さ 15cmで、北・西壁側にはピット状に深い部分がある。そのうち西側例は幅 50cm、長さ 70cmで、深さは床面から 26cmをはかる。南壁側では、壁よりも内側に存在するが、前述したとおり、南壁側の床らしき面を追った結果である。床：竈前面から中央にかけてローム土の貼り床が広がる。また竈南側には 46×35cm、厚さ 14cmの台石状の礫が存在した。竈:北東隅にコーナー竈があるが、厳密にはコーナーよりもわずかに東壁側寄りに構築する。粘土竈で石組はないが、台石状の平石および礫が存在し、竈の天井石であったかもしれない。台石南側には甕の破片が集中し、また竈周辺には土師器坏類がまとまっている。竈の全長は１m、幅 60cmで、煙道は壁から 20cm突出する。火処はわずかに窪み、火処から壁面にかけて被熱・赤変し、火処前面には炭化物が薄く広がる。掘り方：ベルトの位置で東西に断ち割り、床下の掘り方を調査した。床面からの深さは５～ 10cm程度。遺物：１～５は土師器坏･皿、６は土師器高台坏、７は灰釉陶器埦、８～ 10 は土師器甕。１～４は甲斐型直後の坏とみられ、体部外面のヘラ削りはないが、口縁部に玉縁が残る。時期：10世紀後半。

35号竪穴（第38・114図、図版14・15・41）

位置：調査区中央、西壁付近にあり、住居の約半分が調査区外にかかる。重複：東壁に２本のブドウ棚支線の攪乱孔がある。経緯：断面は調査区西壁に設定。規模:調査区壁にかかるため、東西幅は現状で1.7 m以上、南北 3.85 mの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-15°-E。覆土：現地表から遺構確認面まで 45cm、遺構確認面から 45cmの深さに床面が存在する。覆土は暗褐色砂質土、黒褐色砂質土の２層からなる。竈前に礫

３個がある。調査区西壁の住居断面を観察すると、南寄りに壁の重複状を示す土層ラインがある。とくに10層は地山と同質で、南壁を段状に掘り残した可能性があるが、別遺構の重複とみるよりは35号竪穴に伴う階段状遺構の存在を示すものではないかと考えられるほか、南壁ラインが全体的に50cm内側であることを示すものか。出土：竈前の礫周辺に土師器片がまとまっている。壁：南壁高35cm、北壁高40cm。周溝：竈北側の東壁側、北壁側と南壁に幅20cm、深さ約４cmの周溝がある。床：南壁寄りに段状遺構が断面にあり、掘り過ぎたらしい。その他、とくに明瞭な貼り床はない。竈：東壁のほぼ中央に竈が存在する。幅90cm、長さ80cmで、袖は60cm突出し、火処の掘り込みはほとんどない。煙道は約20cm東壁を掘り込み、袖から煙道にかけて逆Ｕ字状に粘土を盛り上げており、煙道壁から左右の袖粘土が強く被熱・赤変し、炭化層が幅30cm、長さ1.1ｍの範囲で存在する。左袖側に袖石状または支脚石状の礫１点があるが、ほかに礫がないことから粘土竈の可能性であろう。掘り方:未調査。遺物：１～８は土師器坏・皿、９は土師器羽釜、10・11は鉄製刀子。２～６は手持ちヘラ削りの甲斐型土器で、５は手持ちヘラ削りの範囲が底部近くに縮小している。１・８は甲斐型直後の土器、７はやや時期的に新しい。10･11は柄が刀身に比べて長い刀子。時期:10世紀前半～後半。

36号竪穴（第40・41・114・115図、図版15・41）

位置：調査区西寄りにあり、44号竪穴と重複する。重複：44号竪穴の床面に貼り床をして36号竪穴を作る。また住居南半は現況の畑境にあたり、覆土上層が削土されている。経緯：南北方向にベルトを設定。規模：東西3.3ｍ、南北3.3ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-28°-W。覆土：厚さ25cmで、黒褐色砂質土を主とする。竈北側、北壁中央付近などに礫がまとまる。出土：竈周辺、南壁側に遺物が分布し、南東隅寄りの竈近くからは床面近くより完形に近い土師器坏類が出土しているが、全体的にはやや少ない。壁：南壁高25cm、北壁高36cm。周溝：幅30cm程度、深さ約15cmの周溝が全周する。周溝中には北側に直径45cm程度のピットがあり、南西隅近くには礫を伴う直径70cmのピットがある。床：中央付近に粘土による貼り床面がある。竈：東壁、南東隅に東竈をもつ。44号竪穴との切り合いで構造が不明確だが、逆Ｕ状に堆積した粘土によれば、コーナー竈ではなく隅に近い東壁に設置した粘土竈で、幅80cm、長さ１ｍ程度の規模である。竈内には礫が１個存在し、竈の構築材の可能性がある。掘り方：床下を断ち割り完掘したところ、やや平坦な掘り方面上に249～251号ピットの３基を検出した。いずれも柱穴ではなく、皿状ないしボール状断面のピットで、床面確認時には未確認であったことから、掘り方に伴う落ち込みとみられる。また掘り上がりの掘り方面は､44号竪穴のほうが5～10cm深い。遺物：１～５は土師器坏･皿、６は高坏、７は緑釉埦、８は須恵器蓋、９は土師器甕、10・11は土師器羽釜、12は土師器鉢。11は鍔の短い羽釜で、胴部は丸味を帯びている。12はヘラナデ調整による鉢で、口径は大きく、胴部は直線的に広がる。時期：10世紀後半。

37号竪穴（第44・45・115・116図、図版15・16・41）

位置：調査区北西側、西壁近くに位置し、41号竪穴と重複する。重複：41号竪穴南西側を切る。また西壁付近にブドウ棚支線の攪乱孔２か所が重複。経緯：南北方向にベルトを設定。規模：東西3.8ｍ、南北4.1ｍの隅丸方形で東竈をもつが、北壁の幅がやや短く、台形に歪んでいる。北東隅が41号竪穴との切り合いで北東隅から東壁にかけて正しく検出できなかったようだ。主軸：N-6°-W。覆土：厚さ45cm程度あり黒褐色砂質土を主とする。南東隅の竈粘土の崩土が中央付近にまで認められる。また竈の石組の礫かと思われる大形礫などが竈粘土の広がりとともに存在する。出土:竈周辺の床面近くから灰釉陶器皿の完形品が出土したほか、覆土中からやや浮上して遺物が点在するが、量的には多くない。また南西側では土間状の面近くから土師器皿、灰釉陶器皿が出土した。壁：東壁高42cm、南壁高36cm、北壁高40cm。周溝：南から西壁にかけて幅約30cm､深さ28cmの周溝が良好に存在するが､北、東側ははっきりしない。また東壁については東北隅にはピット状に深い部分が３カ所ある。床:南西側に1.2×１ｍの範囲で方形に一段高い部分がある。出入口に伴う段状のステップだろうか。また竈周辺から北側に黄色ロームの床面が部分的に残っている。竈:東竈で、南東隅近くに石組竈を構築する。左右袖石に丸味のある礫を高さ26cmで１石ずつ立て、粘土の袖上に高さ調整のために円礫を袖上に３石以上置いたうえで、粘板岩の板状礫を手前の天井石に、円礫を煙道寄りの天井石として設置し、黄色粘土で覆う。袖石間の内径は50cm。竈の遺存状況としてはきわめて良好。手前の天井石（長さ70cm、幅26cm）は中ほどで折れたように火処内に崩れている。竈は幅80cm、長さ約1.2ｍで、煙道は壁から30cm突出する。また火処は50×50cm程度で掘り込みはほとんどなく、炭化物が焚口を中心に40×70cm程度の範囲に分布する。掘り方:未調査。遺物:

１～７は土師器坏・皿、８～10は灰釉陶器皿、11は台付甕脚部、12～16は土師器羽釜、17は棒状鉄製品。１～７はいずれも玉縁を留め、ヘラ削りをもたない甲斐型直後の土器である。８・９の皿はともに小形で、高台部は断面逆三角形となる。羽釜は鍔の断面形状が三角形に近い12・15・16と、板状を呈した13・14があり、内外面をハケメ整形とするが、12の外面は縦方向のヘラナデとする。時期：10世紀後半。

38号竪穴（第39・116図、図版16・17・41）

位置：調査区北西側にあり、西壁に住居の西側半分以上がかかる。重複：住居等との重複はないが、ブドウ棚支線の攪乱孔が住居東壁の周溝中に３か所並ぶ。経緯：土層堆積は調査区西壁で観察。規模：東西は現状で1.7ｍ以上、南北4.2ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N -9° - E。覆土：確認面は地表下85cm、床面は地表下約１ｍで、断面観察によれば旧耕作土下には旧水田層と思われる酸化土壌が３面程度あり、住居覆土は厚さ40cm程度の黒褐色砂質土である。竈から床面中央付近に礫が床面からわずかに浮上して多数分布し、竈石組が崩れたものかと思われた。出土：竈脇にまとまった遺物が存在するほか、覆土中にはやや浮上して小破片が点在する。壁：東壁高33cm、南壁高22cm、北壁高13cmで、西壁は調査区外になる。周溝：周溝中に攪乱孔が重複する。東・南・北側ともに明確な周溝が存在し、幅25cm、深さ14cmを測る。床：竈前面、住居の中央付近には70cm× 1.3ｍの方形の範囲で黄色ロームの貼り床面が良好に遺存する。北側の貼り床がない部分と対照的で、住居内の空間利用の在り方を示唆する。竈：南東隅に近い位置に石組の東竈がある。右袖石に２石を幅50cm（内径30cm）で二重に立て並べ、左袖石には１石のみが遺存し、天井石はないが、住居内の礫が左袖や天井石の礫であろう。袖石は長さ30cm程度で、竈底面から高さ23cmを測る。竈の大きさは幅70cm、煙道を含む長さ1.2ｍ、火処の掘り込みはなく、火処部分は強く被熱赤変する。煙道は幅16cm程度で、壁に40cm程度掘り込んでいる。掘り方：未調査。遺物：１～６は土師器坏、７は土師器高台坏、８は土師器小形甕、９は土師器甕底部。土師器坏は口唇部が丸味をもつ１・２、丸味の弱い３～５があり、いずれも器壁がやや厚い。７は口唇部が丸く外反し、脚部は緩やかな曲線で外反する。時期：11世紀前半。

39号竪穴（第43・117図、図版17・41・42）

位置：調査区北西側、42・65・67号竪穴と40竪穴の間に位置し、11号溝と重複する。重複：11号溝に切られる。経緯：当初、遺構確認時点でプランが不明確であったが、とりあえず南北にベルトを設定して掘り下げたところ、南壁側に一段高い地山面が確認され、掘り過ぎと判明した。また西壁は不鮮明だったことから42号竪穴壁まで掘り進んだが、結局、床面精査時に周溝が確認できたことで西壁の位置が判明した。規模：完掘状況では東西3.6ｍ、南北3.5ｍの隅丸方形となっているが、周溝から判断すると東西3.1ｍ、南北2.9ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-10°-W。覆土：厚さ40cmで、黒褐色砂質土、暗褐色砂質土を主とする。出土：竈周辺、覆土中を中心に遺物が散在し、量は多くない。壁：南・西壁は掘り過ぎのため、本来の壁高が残っていないが、南壁高23cm、北壁高43cmを測る。周溝：ほぼ全周するように幅30cm、深さ約5cmの周溝が検出され、南西隅と南壁中央には周溝中に小ピットが入る。床：貼り床の粘土が竈を中心に床面南東側に貼られている。竈：南東隅に近い東竈をもつ。幅１ｍ、長さ1.2ｍで、火処は50×60cm程度、ほとんど床面と水平で掘り込みは明瞭ではない。竈範囲には小礫がいくつか存在したものの石組が遺存せず、袖部から煙道にかけて逆Ｕ字状の黄色粘土が存在することから、粘土竈と思われる。竈前面には炭化物がやや多く存在した。煙道は約25cm程度突出し、東壁をわずかに掘り込む。掘り方：床面下数cmで掘り方面となり、南壁側は約20cm程度全体的に落ち込んでいる。遺物：１～４は土師器坏･皿、５は灰釉陶器埦、６は灰釉陶器皿、７は灰釉陶器壷、８は土師器甕、９は須恵器甕、10は鉄滓。９は須恵器甕の破片を利用した転用硯で、裏面には周辺部を除き摩耗痕があるほか、墨痕が残る。破片の割れ口は調整を施していない。時期：10世紀後半。

40号竪穴（第41・117・118図、図版17・18・42）

位置：調査区北西側、44号竪穴の北側にあり、44号竪穴北壁と接する。また11号溝と重複する。重複：11号溝に切られる。南西隅の197号ピットは屋内土坑か。経緯：南北方向にベルトを設定して調査。南壁寄りに一段高い黄色粘土の床面状の段差が検出された。床や壁を追って絞り込んでいったところ、南西隅側の部分が地山を掘り残して作られた出入り口に伴うステップの可能性がある。規模：東西4.4ｍ、南北3.6ｍの東西に長い隅丸長方形で東竈をもつ。主軸：N-7°-W。覆土：厚さ55cmの黒褐色砂質土を主とし、断面図を作成した位置が段状の部分にかかっているためか、南壁手前50cmのところで間層の立ち上がりが認められる。出土：覆土上層からいくつかの土器片が出土したほか、竈周辺および南西隅付近の床面近くからまとまった坏類が出土しているが、量的には多くない。

壁：北壁高 35㎝、南壁高 55㎝、東壁高 37㎝。周溝：南壁の段差脇から西壁南半、北壁東半から東壁にかけて周溝があり、北～東壁側では幅 20～30㎝、深さ 10㎝で、全体的にあまり明確ではない。床：東壁中央付近からその前面にかけて黄色ローム土の貼り床面があるほか、西壁側を除き全体的に硬化面が存在した。南西隅に袋状ピット（197 号ピット）をもつ。下層の黒色帯を掘り込んだピットで、住居に伴う貯蔵穴と考えるが、下層についてはやや掘り過ぎている。南壁、南西隅寄りに幅 1.4 ｍ、長さ 30㎝程度で地山を掘り残したような段差があり、黄色粘土が厚く遺存する。住居出入り口のステップであろう。竈：東壁、南東隅近くに石組竈があるが構造が不明確である。幅１ｍ、長さ 1.3 ｍの竈とみられ、煙道は 10㎝程度東壁に突出する。右袖に円礫を積み上げたような袖部の石組が遺存するが、左側にはない。また袖石状に立つ石がほとんどないことから袖石の石組が遺存した状況ではなく、コーナー部分に竈の石組を片付けたような遺存状況を呈している。火処中央には支脚石状の礫が遺存する。掘り方：掘り方面の調査を実施したところ、あばた状の掘り方面が検出され、北西隅、北東隅が深く落ち込んだ状況を呈し、西側がやや深い。また竈南側、住居の南東隅下層には掘り方に伴う長方形の落ち込みがある。110 × 62㎝、深さ 105㎝で、掘り方面から 50㎝下がる。集石状の下部にあたり、礫と何らかの関連がある可能性がある。その他、竈北側に床面を斜めに横切るような幅 30㎝、深さ 10㎝の周溝状の溝が検出されている。遺物：１～６は土師器坏皿類で、３の体部外面には判読不明ではあるが墨書がある。７は土師器高台皿。８は灰釉陶器埦。９は土師器甕。10 は土師器羽釜。時期：10 世紀後半。

41号竪穴（第44・45・118・119図、図版18・42）

位置：調査区北西側、37 号竪穴、42・65・67 号竪穴と重複する。重複：37・42 号竪穴に切られる。経緯：41 号竪穴と 42 号竪穴にかかるように市教委による試掘坑があり、試掘坑を掘り返して断面を観察した結果、床面が確認された。試掘坑とは別に東西方向のベルトを設定。規模：東西 3.1 ｍ、南北 3.5 ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。南西側を欠き、また北東側は試掘坑により既に掘られているため、住居の全貌がわかりにくくなっている。主軸：N-3°-E。覆土：厚さ約 30㎝で、黒褐色砂質土を主とする。床面直上に炭化層が存在し、火災住居の可能性がある。出土：覆土中に遺物が散在する程度で、遺物量は少ない。壁：東壁高 28㎝。周溝：壁が残存する南・西・北壁側には幅約 20㎝の明瞭な周溝が存在する。床：残存する床面には全体的に硬化面が残り、とくに竈側、住居の南東側には黄色粘土による貼り床がある。竈周辺を中心に床面上には薄い炭化層が存在した。竈：南東隅寄りに東竈がある。煙道が壁に対して斜めに取りついていることから、斜めに構築されていると考えられ、コーナー竈として理解すべきかもしれない。袖部に礫が存在するが、石組が遺存しなかったことから、粘土竈か。竈内からは土師器片がやや多く出土したほか、煙道部分には完形の土師器坏が伏せた状態で出土した。人為的な配置と思われるが、その意図は定かではない。竈は掘り込みが明確ではなく、構造がよくわからないが、幅 80㎝、長さ 1.5㎝程度と思われる。煙道は約 60㎝程度東壁に掘り込む。火処の掘り込みはほとんどない。煙道付近に角礫があるが、支脚石ではないと思われる。炭化層が竈から北側にかけて１×１ｍの範囲に広がる。掘り方：未調査。遺物：１～７は土師器坏皿。８・９は灰釉陶器埦皿。10 は土師器小形甕（鉢）。11・12 は土師器甕。13・14は土師器甕、15・16は土師器鉢形甕。17は鉄滓。時期：10 世紀後半～11世紀前半。

42号竪穴（第46・119・120図、図版18・19・42）

位置：調査区北西側に位置し、41・65・67 号竪穴と重複する。重複：65・67 号竪穴上層にあり、41 号竪穴を切る。経緯：市教委の試掘坑南壁を延長するようにして東西にベルトを設定。試掘坑壁面には 42 号竪穴に伴う黄色ローム土の薄い貼り床面があり、北竈が確認されたことから、北竈の住居として調査した。調査中にさらに下層に東竈の２軒の住居があることが判明し、それらを埋め土して上層に 42 号竪穴を構築していることがわかった。規模：41 号竪穴および下層の住居との重複のため、壁が正しく検出できなかった可能性があるが、東西 3.3 ｍ、南北 3.6 ｍと南北方向が長い隅丸長方形で、北東にコーナー竈をもつ。主軸：N-0°-E。覆土：厚さ約 40㎝で、暗褐色砂質土を主とする。出土：竈周辺、中央やや東寄り、南壁際などから少量の遺物が出土した。壁：東壁高 45㎝、西壁高 45㎝。周溝：西壁の一部を除き、幅 20㎝程度、深さ 15㎝の周溝がほぼ全周するが、下層の住居覆土中に構築するため、明確に把握できたわけではない。床：全面的に薄く黄色粘土で貼り床をするが、特に中央西壁寄りの 1.5 × 1 ｍの方形の範囲に顕著な貼り床面が存在した。竈：北壁、北東隅寄りに石組竈がある。住居プランに対してやや斜め方向に竈が配置することから北東隅のコーナー竈と思われる。右袖石側が良好に遺存し、３石を立てて並べ、円礫を載せている。石組

を覆う粘土が両袖から煙道にかけてＶの字状に厚く残り、それらの崩土下には焼土や炭化層が良好に遺存した。竈の火処には支脚石らしき礫があり、その奥に正位で土師器坏が出土している。本来は支脚石に被せていたのかもしれない。竈の大きさは幅80cm、長さ1.2ｍで、両袖間は内径50cmほどである。煙道は火処から壁外に斜めに立ち上がるが、厚い黄色粘土で両壁を貼り、さらに天井にも粘土を貼って内部を煙道とし、30cmの長さをもつ。左袖石は一番奥の煙道寄りに１石が立つが、手前は移動したらしく、竈周辺にいくつかの礫が点在した。掘り方：セクションベルトで厚さ数cmの貼り床断面の堆積状況および掘り方面の土層を確認できる。遺物：１～７は土師器坏で、６は１段階古く、７は混入とみられる。６の体部外面には「主」の墨書文字がある。８は灰釉陶器埦皿。９は内面にハケメ痕をもつ小形土器で、焼塩土器か。10・11は土師器甕。時期：10世紀前半～後半。

43号竪穴（第50・51・120図、図版19・20・42）

位置：調査区北西側、64号竪穴に隣接する。重複：64号竪穴との前後関係が不明だが、両者はほとんど接した状態のため、同時併存はありえない位置関係にある。経緯：南北方向にベルトを設定。規模：東西３ｍ、南北3.1ｍの隅丸方形で、南東隅にコーナー竈をもつ。主軸：Ｎ-12°-Ｗ。覆土：厚さ30cmで、暗褐色砂質土を主とする。小礫が数点覆土中および床面に存在する。出土：覆土上層に数点の遺物が点在するのみで、ほとんど住居に伴う遺物がない状態であった。壁：東壁高32cm、南壁高25cm、北壁高22cmで、北壁は64号竪穴南壁とぎりぎり接した状態である。周溝：北壁中央を除き幅約20cm、深さ数～10cmの周溝が明確に存在する。周溝中には北東隅、南西隅にピット状のやや深い落ち込みをもつ。床：竈前面から中央にかけて黄色粘土の貼り床が良好に残る。竈：南東隅のコーナー竈で、３石を左右に立て並べて袖とし、手前の袖石上には赤変した方柱状の加工石材（第120図11）を置き、黄色粘土を煙道に被覆した石組竈である。袖石は煙道寄りの一つが片岩だが、ほかは全て花崗岩の円礫である。天井石は欠失するが、加工石材が天井石であった可能性がある。全体的に竈の遺存状況は良好。竈は幅70cm、長さ1.4ｍで袖石間の内径は39cmを測る。煙道は南東コーナーをそのまま利用するため、壁外に突出していない。袖石は埋め込み面から高さ26cmである。支脚石は遺存しない。右袖奥に袖石に接するようにして完形の土師器皿が出土した。人為的な設置のように思われる。焚口部分から竈手前にかけて1.4ｍ×70cmの範囲に炭化層が堆積していた。掘り方：掘り方面を調査したところあばた状の掘り方面があり、東壁から東北隅にかけて最深60cmの落ち込みが検出されたが、下層の黒色土層を掘り過ぎたかもしれない。そのほか大小のピットが掘り方面に確認されている。遺物：１～６は土師器坏皿。７・８は灰釉陶器埦。９・10は土師器甕。11は竈石材で、角柱状に整形した石材を竈袖石に利用したもの。時期：10世紀後半。

44号竪穴（第40・41・121図、図版20・42・43）

位置：調査区中央北寄りに位置し、36号竪穴・211号ピットと重複する。重複：36号竪穴に西側を切られ、東壁を211号ピットが切る。また現況の畑境に位置するため、住居南半は床面近くまで削土され、覆土を失っている。経緯：南北にベルトを設定。床面上にやや厚い炭化層があり、炭化材が分布することから火災住居と判断。規模：36号竪穴に西壁を切られることから、完掘状況では東西方向が不明だが、掘り方面で西壁に伴う周溝を検出し、東西2.8ｍ、南北3.4ｍの隅丸方形と確定した。主軸：Ｎ-8°-Ｗ。覆土：黒褐色砂質土、暗褐色砂質土を主とし、火災住居のため炭化材の出土が特に北半で目立ち、床面より10cm程度浮上して炭化材がやや多く出土した。出土：中央付近で床面に近いところから土器片が少量出土し、北半では覆土中に点在しているが、全体的には少ない。ただし竈北、211号ピット脇の東壁からは、壁にもたれかかって横に立つようにして、ほぼ完形の灰釉陶器埦が床面近くから出土している。壁：36号竪穴との重複で西壁を欠失するが、東壁高15cm、南壁高35cm、北壁高40cmを測る。周溝：全体的に周溝は不明確で、北壁から東壁にかけては幅20～30cm、深さ数cmの周溝が巡り、南壁側にも部分的に存在するが、非常に不鮮明な状況であった。床：竈前面から床面中央にかけて黄色粘土を貼り床とした床面が残る。竈：東壁、南東隅寄りに竈をもつ。幅1.2ｍ、長さ1.3ｍで、壁に30cm掘り込んで短い煙道を設ける。粘土竈と思われ、竈粘土が崩土として検出されたが袖部に礫はなく、天井石、支脚石もない。竈内からの遺物も小破片以外は出ていない。火処から煙道にかけて貼られた粘土が被熱・赤変していた。掘り方：床下掘り方を調査。床面下約15cmにあばた状の掘り方面があり、南西側がやや深くくぼんでいる。遺物：１～５は土師器坏皿。６は灰釉陶器埦。７は須恵器坏。８は須恵器蓋。９は土師器甕。10は須恵器甕。11は打製石斧で混入。時期：10世紀後半。

45号竪穴（第11・12・121図、図版21・43）

位置：調査区中央、西壁寄りに位置し、９号竪穴、１

号溝と重複する。重複：45号竪穴北東隅が1号溝を切り、9号竪穴に南西側を切られる。9号竪穴の床面と深さはほぼ同じである。経緯:南北にベルトを設定。規模：東西3.2ｍ、南北4.25ｍの南北にやや長い隅丸長方形。主軸:N-4°-E。覆土:暗褐色砂質土を主とし、床面からわずかに浮上してやや細かな炭化材が住居中央から北側にかけて分布する。出土：住居中央付近と北側の覆土中、竈周辺から土器片が出土したが、量は少ない。壁：東壁高36cm、南壁高33cm、北壁高33cm。周溝：北・南壁に幅20～25cm、深さ10cm程度の不明確な周溝があるほか、東壁に断続的な周溝がある。床:全体的に床面は堅緻で、床面上には北西側を中心に薄い炭化層が堆積していた。竈：南東隅に近い東竈で、右袖に高さ22cmの袖石が立つ石組竈。幅約0.8ｍ、長さ0.7ｍで、火処から煙道にかけて貼られた粘土が被熱・赤変する。煙道は壁外へ40cmほど突出して作られている。支脚石、天井石はない。焚口付近には炭化層が薄く広がる。掘り方:未調査。遺物:1は土師器坏。２は灰釉陶器埦。３は土師器甕。時期：10世紀後半。

46号竪穴（第52・122図、図版21・43）

位置：調査区中央、西壁寄りに位置し、47号竪穴と南東隅が接近している。重複：なし。経緯：南北方向にベルト設定。規模：東西2.4ｍ、南北2.6ｍの隅丸方形で、北東隅にコーナー竈をもつ小形住居。東壁が西壁よりも短く、歪んでいる。主軸:N-5°-E。覆土:厚さ約30cmの黒褐色砂質土を主とする。出土：竈周辺を中心に竪穴中央付近などに分布し、竈周辺ではやや大形の土師器甕片があるものの、出土量は多くない。壁：東壁高32cm、南壁高26cm、西壁高30cm、北壁高30cm。周溝：北壁側は不明だが、東・南・西壁には断続的に幅15cm、深さ約4㎝の不明瞭な周溝がある。南壁側では直線的ではなく湾曲している。床：地山の山砂面を床面とし、粘土による貼り床面はない。竈：北東コーナーを利用したコーナー竈で、両袖から煙道までを粘土で構築した粘土竈である。両袖の間は43cm、深さは確認面から32cmで、内部からは甕片がやや多く出土し、天井石・支脚石はない。焚口・火処の掘り込みはほとんどなく、竈の構造が明確ではないが幅70cm、長さ90cm。両袖は壁を掘り残すようにし、煙道は北東コーナーを利用する。掘り方:未調査。遺物:１は土師器坏。２・３は土師器甕で、１は長胴、２は口径が大きく高さは短い。時期：8世紀後半。

47号竪穴（第35・36・122図、図版21・43）

位置：調査区中央、西寄りに位置する。重複：48号住を切る。経緯：南北にベルトを設定。床面上から炭化物がやや多く出土したため住居としたが、北側に位置する34号竪穴南壁側には竪穴住居状の覆土があり、47号竪穴下層に広がりを見せることがサブトレンチで確認されたことから、47号竪穴下層に別の住居があったか、あるいは47号竪穴のプランが正確に把握できなかった可能性がある。また南半の床面が不明瞭で、多少掘り過ぎている。規模:東西4.85ｍ、南北4.15ｍの東西に長い隅丸長方形プランの大形住居で、南東隅にコーナー竈をもつ。主軸：N-5°-W。覆土：厚さ５㎝程度で、黒褐色砂質土を主とする。出土：ごくわずかに少量の破片が散在するのみ。壁：全体に浅く、北西隅で壁高７㎝、北東隅で８㎝であった。周溝：幅20cm、深さ約４㎝の周溝が南東隅を除いて全周するが、やや作為的で不明瞭。床：黄色粘土の貼り床状の面が全体的にあり、炭化材や炭化層が浮上して堆積し、とくに炭化材は２か所程度のまとまりをもつ。北半には硬化面があるが、南半はやや掘り過ぎたため、硬化面が顕著ではない。南東側の床面には226号ピットがある。竈：火処を残すのみで、25×32cmの範囲に焼土が分布する。竈の構造等は不明。掘り方：北壁近くにサブトレンチを入れているが、全体的には未調査。遺物:１・２は土師器坏。３は鉄製刀子か。時期：10世紀後半か。

48号竪穴（第35・36・122・123図、図版21・22・43）

位置：調査区ほぼ中央に位置し、33・47・49号竪穴と重複する。重複：33・49号竪穴を切り、47号竪穴に切られる。経緯：南北方向にベルトを設定。竈を調査後、竈下層の33号竪穴を調査するため、重複部分を除去したところ、下層に同一住居の床面が現れ、床面が２重に貼られた住居と判明した。上層の床に伴って炭化層、炭化材が分布する。規模：東西2.7ｍ、南北3.2ｍの隅丸方形で、北東隅寄りの北竈をもつ。主軸:N-5°-W。覆土：厚さ20cm程度の暗褐色砂質土を主とする。出土:覆土下層を中心に遺物が散在する。壁:南壁高22cm、西壁高11cm、北壁高20cm。周溝：幅18㎝、深さ８㎝で全周するが、不明瞭。床：２面の貼り床をもつ住居で、下層では壁際を除くほぼ全面に黄色粘土を貼った貼り床面が検出され、床面上には北西隅寄りに炭化物がまとまって出土した。竈：袖石に石組が良好に残る石組竈で、３石に加工石材を加えた４石構造である。２列の直線的な石列ではなく、煙道寄りの左右１石を幅が狭くなるように配置し、残る２石を平行するように並べる。全体では両袖石の並びが逆Ｕ字形に湾曲するように石を３石ずつ直立して配し、さらに手前に角柱状の加工石材を立て、粘土で覆ってい

る。袖石手前の加工石材は幅60㎝（内径42㎝）で袖石は内傾するように立て、奥の袖石は幅30㎝（内径20㎝）で立てる。内部からは土師器甕片が多数出土しているが、天井石・支脚石は遺存していない。竈の袖石の配置は、住居中心を向くようにやや斜め向きで、コーナー竈のあり方に近い。竈の幅は１m、長さ1.2ｍで、煙道は壁外に30㎝突出する。掘り方：未調査。遺物:１は土師器高台坏で、椀形の大形品である。２・３は土師器甕で、３は混入品か。４は土師器羽釜。５は不明鉄製品。６は竈に用いられた柱状石材。一見土製品のようだが、凝灰角礫岩を削って断面四角形に面取りした石材で、山梨市の間之田東遺跡で竈袖石に用いられた類例が出土している。時期：10世紀前半。

49号竪穴（第36・124図、図版22・23・43）

位置：調査区のほぼ中央に位置し、48・69号竪穴と重複する。重複：48号竪穴に切られ、69号竪穴を切る。経緯：南北にベルトを設定。北西隅に関しては、床面が黒色土層面に作られているため床面がわかりにくく、掘り方面付近まで掘り過ぎ土坑状の落ち込みとなっている。また南壁中央付近もプランがよく見えずに掘り過ぎてしまっている。規模：東西3.05ｍ、南北3.1ｍの隅丸方形で、北竈をもつ。主軸：N-2°-W。覆土:確認面から床面まで55㎝と深い。黒褐色砂質土、暗褐色砂質土を主とする。出土：遺物は少なく、中央に土師器坏の完形品があるほか、北東隅に坏や甕の大形破片が出土したが、全体的には多くはない。壁：東壁高52㎝、南壁高57㎝、西壁高55㎝、北壁高23㎝。周溝：東・南・西壁の一部が途切れるが、他は幅18㎝、深さ約10㎝で全周する。床：中央付近に80×70㎝の範囲で黄色粘土を貼った貼り床面が残る。竈：北壁中央、東寄りに北竈がある。粘土を袖部に盛り上げた粘土竈で、被熱・赤変が著しい。竈の火処から煙道は壁外、69号竪穴床面に１m突出して作られ、煙道には棒状の礫を２石ずつ長軸方向に並べ、煙道部の天井を支えるための袖石状の構造体としている。この構造は33号竪穴と同じであった。竈の規模は明確ではないが、幅1.3ｍ、長さ1.8ｍで、焚口から火処は90×80㎝の窪みを呈し、火処内には１個体の土師器坏が出土した。掘り方：掘り方面を調査したところ、床面より5㎝程度下がった面が全体にあばた状を呈し、とくに東、北西隅を中心に深い部分では確認面から最深70㎝ほど下がっている。また中央付近にはピット状の落ち込みが連結したような掘り方となっている。遺物：１～４は土師器坏。３は削り出し高台を持つ深身の坏で、底部外面には線刻で「木工ヵ」と記されている。５は土師器長胴甕で、高さは39.5㎝。６は須恵器甕胴部、７は須恵器壺胴部、８は鉄製刀子、９・10は鑿状の先端をもつ鉄製品。時期：９世紀後半。

50号竪穴（第25～28・125～127図、図版23・43）

位置：調査区中央、西壁寄りに位置し、72号竪穴中に東壁を共有するようにして入れ子状に存在する。重複：26・72号竪穴に切られ、27号竪穴と南東隅が接する。経緯：確認面でのプランが不明確で、２軒程度の重複と想定されたが、仮にプランを引き、南北ベルトを設定して調査を進めた。調査時点では72号竪穴の北壁としたラインよりも手前に立ち上がりがあることに気づいたが、最終的には床面精査の段階で北壁際を示す周溝が確認され、50号竪穴は72号竪穴の内側に入れ子になると考えられる。72号竪穴は50号竪穴覆土上層に床面があったとみられるが、南北セクション作図段階では確認できなかった。規模：床面中の溝を50号竪穴北壁に伴う周溝と考えると、南北４m程度で、東西については４m前後と推定できる。おそらく隅丸方形で、東壁中央やや南寄りに東竈をもつ。主軸：N-1°-W。覆土：厚さ35㎝程度の黒褐色砂質土を主とする。北西隅付近にあたる床面上には1.3×0.9ｍの範囲で黄色粘土ブロックが堆積する。出土：中央付近の覆土中に破片が多く出土したほか、北西隅寄りの床面上に黄色ロームブロック付近から土師器甕類が多く出土している。壁：北壁高は推定40㎝、南壁高35㎝。周溝：東・南壁側に断続的に存在し、北壁側には直線的に長さ2.3ｍ、幅25㎝の溝があり、北壁周溝と考えておく。床：72号竪穴とはほぼ同一レベルで床面を共有するため、50号竪穴の床面としたものが72号竪穴に帰属する可能性が高いが、床面中央に1.8×2.1ｍの不整形の範囲で粘土の貼り床面が遺存した。竈：東壁の中央付近に位置する。花崗岩風化礫が左袖側に１個あり、黄色粘土の両袖が存在することから、石組竈と思われる。両袖幅は65㎝、長さ25㎝程度の袖が延び、竈規模は幅80㎝、長さ90㎝とやや小さく貧弱で、焚口、火処の構造は明確ではない。煙道の掘り込みは約25㎝程度だが、不明瞭。掘り方：未調査。遺物：１～15は土師器坏皿。16～22は灰釉陶器で、16・17は皿、18～21は埦、22は壷。23は須恵器坏で混入品か。24～30は土師器甕で、24・25は小～中形、26～28は甲斐型長胴甕の系譜を引くハケメを多用した甕。29は無文の土師器甕。30は土師器羽釜で鍔は短い。時期：10世紀後半。

51号竪穴（第53～55・127～129図、図版23・24・43・44）

位置：調査区中央、東寄りに位置するやや大きい住居で、52・68号竪穴と重複する。重複：本遺跡中でも複雑に重複した住居のひとつで、北東側が52号竪穴を切り、68号竪穴が北東側の覆土中位に重なる。経緯：当初、52号竪穴との２軒分の重複住居と考え、切り合い関係を確認するため東西方向にベルトを設定したところ、51号竪穴の覆土中に床面と竈が検出され、また51号竪穴に伴う石組竈の袖石がベルトにかかるようにして検出された。規模：東西4.9ｍ、南北5.3ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：Ｎ-0°-Ｅ。覆土：断面図では２層存在するが、上層の１層は68号竪穴覆土である。51号竪穴の覆土は68号竪穴下層に厚さ15cm存在し、灰黄褐色砂質土を主とする。出土：67号竪穴の遺物が一部混在してしまっているが、住居北東側の67号竪穴床面よりも上層の遺物を除く遺物が51号竪穴の遺物である。ただし67号竪穴の範囲が不明確なため、西壁寄りの遺物については51号竪穴帰属と考える。西壁近くから３点出土した手捏ね土器状の土製品が注目される。壁：東壁高42cm、南壁高49cm、西壁高49cm、北壁高54cm。周溝：周溝は明確に検出されていないが、掘り方状の幅広の周溝がほぼ全周する。幅20～70cm、深さ20cmで、住居の内側に及んでいる。これは地山の山砂層下層の黒色帯（確認面下約30～45cm）に床面が構築されているため、掘り過ぎるなどして周溝が明確に把握できなかったことによる。床：竈の南西側にわずかに黄色ローム土の貼り床面が残る。また竈前面を中心に硬化面が広がり、炭化物が薄く分布する。竈：東竈で、中央よりわずか南寄りに位置する。左袖に２石が並ぶが、礫を長軸方向に直立するのではなく、横長に立てているのは珍しい。原位置ではない可能性もある。火処には焼土が厚く堆積し、右袖部分には黄色粘土が存在し、右袖煙道付近には袖石よりもさらに大きな礫を立てるようにして設置し、煙道付近の石組と考えられる。竈内には土師器片などが出土している。掘り方：未調査だが、周溝として下げた範囲は掘り方面の可能性がある。遺物：１～３は土師器盤状坏。４・５は内面暗文、外面横ミガキをもつ土師器甲斐型坏。６は脚部をもつ小形土器、７は高台をもつ須恵器埦。８・９は土師器甕。10・11は須恵器甕胴部で、10は破片周囲を丸く調整した転用硯。12～14は手捏ね土器で、臼状に中央をくぼませた土製模造品である。類例が10号竪穴にある。15～18は鉄製品で、15・17は釘、16・18は刀子。19は鉄滓。時期：８世紀前半～中葉。

52号竪穴（第53～55・130図、図版24・44）

位置：調査区のほぼ中央に位置する。重複：51・67号竪穴に南壁側を切られる。また北壁には94号ピットが住居を切る。経緯：51号竪穴との切り合い関係をみるため東西方向にベルトを設定。規模：南壁ラインが不明だが、現状では東西2.8ｍ以上、南北3.5ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：Ｎ-3°-Ｅ。覆土：厚さ48cm程度の黒褐色砂質土で、51号竪穴と覆土が連続的で、切り合いとしての土層の違いを確認することはできなかった。竈周辺から中央にかけて多くの礫が分布する。一部は竈の構築礫と思われるが、それ以上に多い印象を与える。出土：床面上付近に土師器甕片を主とする多くの土器片が出土した。壁：東壁高37cm、南壁高35cm、北壁高40cmで、西壁は不明。周溝：欠失する西壁側を除き、幅20～50cm、深さ数cmの周溝が存在する。床：硬化面はあまりなく、黄色ローム土の貼り床面はない。51号竪穴よりも床レベルは16cm程度高い。竈：東竈で、南東コーナー寄りに位置する。床面よりやや浮くように袖壁際に粘土をもって石組をしているようである。竈の石組は一部倒れているが全体的に遺存状況が良好で、花崗岩を用いた３石を左右に立て並べ、礫の上には青色で板状の粘板岩礫などを置いて天井石の支えとしている。竈は幅60～70cmで、長さは80cm程度。袖石の高さは27cm、袖石間内径は48cmを測る。焚口はほとんど平らで、凹みはない。また煙道の突出はない。掘り方：未調査。遺物：１～５は土師器で、１・２は坏、３は甕、４は羽釜、６は置き竈。２の体部外面には判読不明ながら墨書文字がある。時期：10世紀前半。

53号竪穴（第56・131図、図版24・44）

位置：調査区東側にあり、２号土坑と重複する。重複：２号土坑に切られるほか、現況の畑地に伴う暗渠が住居中央を東西に通る。また床面中央南寄りにピットがあるが、現代の攪乱孔と思われる。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西４ｍ、南北3.7～4.1ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-10°-E。覆土：厚さ35cm程度で、黒褐色砂質土を主とする。中央やや西寄りに焼土混じりの黄色粘土ブロックが床面上にあり、竈粘土の崩土かと思われた。出土：遺物の多くは住居の南半を中心に破片類が床面より浮上して出土し、床直でまとまった個体はほとんどない。壁：東壁高30cm、南壁高40cm、西壁高38cm、北壁高38cm。周溝：幅30cm、深さ８cm程度の周溝がほぼ全周するが、北側は浅く、断続的である。床：黄色ローム土の貼り床はない。南東側をやや掘り過ぎているため、床面が多少傾いている。竈：東壁の中央南寄りに東竈をもつ。大形の焼

土ブロックを多く含んだ黄色粘土ブロックで覆われ、竈内には小礫３個がまとまって出土したが、構築材としての礫はなく、焚口の凹み、煙道の掘り込みはない。粘土竈と思われる。幅90cm、長さ１m程度。掘り方：全面的に床下の掘り方を調査した。全体的に10〜15cm程度下がり、南西隅に浅いピットがある。遺物：１〜４は土師器坏で、１〜３は盤状坏、４は甲斐型の深身の坏で、内面暗文、外面横ミガキをもつ。５は土師器甕底部、６は須恵器小形壷、７は土製円板。時期：８世紀前半〜中葉。

54号竪穴（第57・131図、図版24・25・44）

位置：調査区南側、１・58号竪穴の間にあり、56号竪穴と重複し、緩やかな南東傾斜面に構築されている。重複：56号竪穴を切る。経緯：南北方向にベルトを設定、断面観察で54号竪穴と56号竪穴との切り合い関係を確認、58号竪穴と同時進行で調査した。規模：東西3.3m、南北2.6mの東西にやや長い隅丸長方形で、東竈をもつ。主軸：N−35°−Eで、本遺跡内の住居としては東側への振れが最も大きい。覆土：厚さ30cmで、黒褐色砂質土を主とする。南壁寄りに礫が出土。出土：住居北西側および竈北側の覆土中に破片が分布するが、全体的に出土量は少なく、床面出土遺物も少ない。壁：北西隅の壁高40cm、南東隅の壁高は26cmで、北西隅側がやや深い。周溝：南壁側、北西隅側がやや不明瞭だが全周し、西・北壁側では幅15〜20cm、深さ10cmを測る。西壁側周溝中に深い部分があるほか、北東隅は深い。床：確認面の深さ30cm下に堆積した黒色帯を掘り込んで床面を作る。竈前面に粘土による貼り床がみられる。床面上には焼土ブロックが散在する。竈：南東コーナー寄りに東竈がある。両袖から煙道までを粘土で構築した粘土竈で、煙道はほとんどない。竈の構造は不明確で、焚口の掘り込みはなく、支脚石もない。規模は幅65cm、長さ１m程度で、両袖間の火処の幅は40cmである。煙道付近から数片の土師器甕片が出土した。掘り方：掘り方面を調査。深さ約3cm下げるとほぼ平らな掘り方面があり、床面中央南寄りと南壁中央付近にピット状の落ち込みを検出した。遺物：１・２は土師器坏、３・４は土師器甕、５は須恵器壷口縁部。時期：９世紀後半。

55号竪穴　欠番

56号竪穴（第57図、図版25）

位置：調査区南に位置し、54号竪穴と重複する。重複：54号竪穴に東竈右袖から南側を切られ、北側1/3程度を残すのみ。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西2.8m、南北は54号竪穴に切られるため大きく欠失し、現状では90cmを測る隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N−27°−Eで、54号竪穴とほぼ同じ主軸方向を示す。覆土：厚さ約20cmで、黒褐色砂質土、灰褐色砂質土を主とする。出土：覆土中にごく小さな土師器片が数点あるのみ。壁：北西隅が壁高30cmと高いが、東壁の竈脇では15cm程度と浅い。周溝：北壁中央と西壁に幅16cm、深さ5cmの部分的な周溝があるが、非常に不明瞭。床：貼り床面は不明瞭。竈：東壁、北寄りに袖から煙道を粘土で被覆した粘土竈がある。石組・支脚石等はない。54号竪穴との切り合いで左袖のみが残るが、袖の方向がやや斜めに設定されている。規模は不明確だが幅推定60cm、長さ１m程度か。火処がわずかにくぼんでいる。掘り方：深さ数cmで掘り方面となる。とくに深い落ち込みはない。遺物：図化遺物はなし。時期：不明。

57号竪穴（第58・131図、図版25・44）

位置：調査区南西隅に位置する。重複：なし。経緯：南北にベルトを設定。床面が明確ではなく、下層に地山の黒色帯が存在したため、床面は部分的に掘り過ぎている。規模：東西４m、南北3.4mの東西にやや長い隅丸長方形の東竈をもつ住居で、北壁が3.5m、南壁が3.9mと南壁が長い。主軸：N−7°−E。覆土：厚さ64cmで、黒褐色砂質土を主とする。覆土中、北東側に黄色粘土ブロックが存在する。出土：住居中央付近の覆土中にまとまって出土する傾向があるほか、床面上に完形に近い土師器坏類が出土した。壁：東壁高60cm、南壁高53cm、北壁高68cmで、確認面から40cm以下に存在する黒色帯を覆土と誤認して掘削したため、一部壁を掘り過ぎてえぐれた部分がある。周溝：幅30cm、深さ15cmの周溝が東壁を除き存在するが、南壁側は断続的で、西壁側が比較的明瞭ではあるが全体的に不明瞭といえる。床：部分的に掘り過ぎてしまったため、硬化面は不明瞭であるが、南壁寄りに貼り床の黄色粘土が残存した部分がある。竈：東壁、やや南寄りに東竈をもつ。石組がなく、粘土に覆われた粘土竈で、大きさは幅１m、長さ1.4mである。両袖から煙道までを粘土で構築し、被熱・赤変する。粘土を断ち割ったところ、土師器片などが少量出土し、中央からは長さ12cmの礫が出土した。出土位置から支脚石の可能性がある。焚口部分が掘り方面から５〜８cm程度浮いているが、周囲を掘り過ぎたためである。また煙道の東壁への掘り込みはなく、煙道の立ち上がりが壁の内側で収まっている。掘り方：未調査だが、床面下層の掘り方面まで下げたため、中央付近では地山の黒色帯が露出している。遺物：１〜４は土師器坏。５

は須恵器坏。６は土師器甕。７～９は土師器小形甕。10・11 は土師器甕底部。12 は土師器台付甕底部。13 は円筒形を呈した土師器甕で、円筒土器の可能性がある。14 は鉄製刀子か。時期：９世紀後半。

58号竪穴（第59・132図、図版25・26・44）

位置：調査区南側、54 号竪穴の南側に位置する。重複：なし。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西 3.1 m、南北 2.75 mの東西にわずかに長い隅丸方形で、北竈をもつ。主軸：N-12°-E。覆土：厚さ 34cm程度で、黒褐色砂質土を主とする。出土：竈付近に完形の土師器坏が出土するなどくつかの破片があるほか、小破片がわずかに出土した。壁：緩やかな東南傾斜面に立地するため、北東隅側が深く、壁高は 42cm、南東隅では壁高 18cmを測る。直立ぎみの壁である。周溝：北東隅の竈を除いて幅 36cm、深さ 20cm程度の周溝が全周する。南壁側の周溝中には小ピットが４つほど一定の間隔を置いて配列し、西壁側の周溝中にも小ピットが存在する。また西壁側の周溝はやや深いが、これは地山下層の黒色帯をやや掘り過ぎたためと思われる。床：焼土が全面的に広がり、とくに東半の床面が被熱・赤変し、床面は硬化する。竈：北壁、北東隅寄りに北竈をもつ。礫による石組はないことから粘土竈と思われ、粘土崩土が広がっている。焚口から火処にかけて 75 × 70cmの範囲で方形に凹み、煙道は壁を短く掘り込んでいて壁面上部が強く赤変している。竈の規模は幅 70cm、長さ 1.1 mで、煙道は 20cm程度北壁に突出する。掘り方：掘り方面を全面調査。床面から 12cmほど下に掘り方面を検出した。遺物：１・２は土師器坏。３は土師器甕。４は須恵器壷で、肩部に孔を穿つ四角い把手をもつ。時期：９世紀後半。

59号竪穴（第59・132図、図版26・44）

位置：調査区南側にあり、埋没谷に面した住居群の南端に位置する。北西から南東への緩やかな傾斜面に立地する。重複：畑の暗渠が住居北西隅を切るほか、床面に攪乱ピットがある。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西３m、南北 2.2 mの東西にやや長い隅丸長方形で、北竈をもつ。主軸：N-12°-E。覆土：厚さ 32cmで、黒褐色砂質土、暗褐色砂質土を主とする。出土：竈周辺にごくわずかに存在するのみで、ほとんどない状態である。壁：北西隅で壁高 40cm、南東隅で 21cm。南壁高 30cm、北壁高 35cm。周溝：東壁にはないが、南・西壁側では幅 18cm、深さ 6cm程度の周溝認められるものの、全体的に不明瞭。床：硬化面、貼り床はない。床面が若干南東傾斜することから、一部掘り過ぎた可能性がある。竈：北壁、北東隅に粘土の被覆があり、完掘したところ、左右の両袖が斜め内向きに配された粘土竈とわかった。煙道の掘り込みはなく、壁の内側に煙道部が収まっていたと考えられ、コーナー竈に近い形態といえる。焚口の掘り込みはなく、支脚石もない。構造が明確ではないが、幅 60cm、長さ 80cmを測る。掘り方：床下面を調査したところ、床下数cmで掘り方面となり、ほぼ平らな状況であった。遺物：１は土師器甕。長胴甕だが、胴部が丸く膨らむ特徴がある。２は鉄製鎌で、ほぼ完存する。時期：９世紀後半か。

60号竪穴（第60・132図、図版26・27・44）

位置：調査区南側、住居群の南端の南東傾斜面に位置し、埋没谷に面して存在する。１号竪穴南側にある。重複：現代の暗渠溝に切られ、南壁を欠失する。経緯：南北方向にベルトを設定。規模：東西 2.35 m、南北 2.35 mの小形隅丸方形プランで、北東隅にコーナー竈をもつ。主軸：N-12°-W。覆土：厚さ 12cm程度で、黒褐色砂質土を主とする。床面までが浅く、とくに南半では南傾斜のためごく浅い。出土：竈周辺にあるのみで、総量は少ない。壁：壁高は北西隅で 18cm、東南隅で 6cm程度と全体に浅い。周溝：不明瞭ながら幅 20cm、深さ 11cm程度の溝が断続的に存在し、南東コーナー付近から北壁側にかけては存在しない。全体的に不明瞭といわざるをえない。床：地山の山砂層中に床面を構築した住居で、北西隅側を中心に黄色ローム土の貼り床面があるが、あまり顕著ではない。南東側は埋没谷の覆土の影響で黒味があり、やや掘り過ぎたきらいがある。竈：北東コーナー竈で、粘土竈。竈には焼土化した被覆粘土が広がり、炭化層が存在する。幅 70cm、長さ 85cmの規模をもつと考えられ、焚口、煙道の掘り込みはほとんどないため、構造は不明瞭である。掘り方：未調査。遺物：１・２は土師器羽釜で、胴部器壁が厚い。時期：11 世紀前半。

61号竪穴（第４～７・132・133図、図版27・44）

位置：調査区南側の竪穴住居が密集する部分にある。重複：北東側、４分の１が３号竪穴と重複し、西壁南半が６号竪穴と重複する。３・６号竪穴はともに 61 号竪穴を埋めて上層に構築されている。竈が 263 号ピットを切る。経緯：３号竪穴の床面精査時点で床面が地山土ではなく２次堆積土が厚く存在することがわかり、その広がりから下層に住居が存在することが推測された。３号竪穴の調査終了後、一部サブトレンチで床面を確認し、壁の存在を確かめてプランを決定した。規模：東西 3.1 m、南北 3.7 mの隅丸方形。主軸：N-5°-E。覆土：黒褐色砂質土、暗褐色砂質土の２層を主とする。出土：床面中央付近で遺物が床面から浮

上して出土しているが、量はごく少ない。壁：南壁高56㎝、西壁高57㎝、北壁高56㎝と深く、直立ぎみ。周溝：掘り方状の落ち込み部分を除き、周溝が存在する。幅15～25㎝、深さ10㎝程度で、北壁側ではやや不明瞭。床：硬化面ははっきりしない。床面中央には東西方向に長い長方形を呈した幅約1.8ｍ、長さ2.6ｍの浅い落ち込みがある。住居内施設なのか掘り方なのか明確にできなかった。竈：東壁の中央わずかに南寄りにあり、粘土のみで構築された竈とみられる。幅80㎝、長さ90㎝程度で、壁外に煙道が35㎝ほど突出する。両袖は長さ40～50㎝で､50㎝程度の間隔がある。天井石、支脚石はない。竈右脇には、覆土上層に小礫を集石とする263号ピットがあるが、性格は不明。掘り方：掘り方面を全面調査。床面直下の落ち込みは掘り方の可能性が高い。遺物：１・２は土師器坏、３は土師器小形甕。２の底部外面には線刻がある。時期：９世紀第３四半期。

62号竪穴（第60・61・133図、図版27・28・44）

位置：調査区南側、西壁寄りに位置する。重複：なし。経緯：東西方向にベルトを設定。規模：東西3.1ｍ、南北3.1ｍの隅丸方形で北竈をもつ。主軸：N-1°-E。覆土：厚さ53㎝で、黒褐色砂質土を主とする。出土：覆土上層を中心に遺物が散在するが、総量はごく少ない。壁：東壁高55㎝、西壁高55㎝、北壁高56㎝。周溝：南東隅と北東隅に深い落ち込みがあり、それらをつなぐように幅20～40㎝、深さ10㎝程度の周溝が断続的に全周する。隅の落ち込みは掘り方面を下げてしまった可能性が高い。北西隅から北壁にかけては床面の段差があり、周溝がない。床：北西隅から竈にかけて段差がある。地山を掘り残したのではなく、貼り床上に作られたもので、棚状施設に類似した遺構といえる。竈：北壁のほぼ中央に北竈が存在する。袖手前に左右１石のみを立てるタイプの竈で、左袖の袖石のみ遺存する。その他は粘土を盛り上げて構築し、とくに右袖には粘土の盛り上がりが強く赤変して遺存する。竈前面の焚口付近には土師器甕片等がやや多く出土した。幅70㎝、長さ1.3ｍで、煙道は壁を40㎝掘り込んでいる。支脚石はない。掘り方：全面的に床下面を数㎝～10㎝程度掘り下げた。南西隅を除く三隅が大きく下がり、中央付近もあばた状の掘り方面として把握できた。北西隅の棚状類似施設下層も掘り方として下がった点に注目したい。遺物：１～４は土師器坏、６は土師器小形甕、７・８は土師器甕。４の坏底部には、見込部に線刻､外面に文字不明だが墨書がある。時期：９世紀第３四半期。

63号竪穴（第61・133図、図版28・44）

位置：調査区南西隅側にあり、４号竪穴、地境の攪乱と重複する。重複：４号竪穴に住居の南東隅側を切られる。229・230号ピットが床面に重複する。経緯：南北にベルトを設定。北西隅側のプランが不明瞭で、壁の検出が難しい状況であった。規模：東西3.35ｍ、南北３ｍの隅丸方形。主軸：N-1°-E。覆土：厚さ54㎝で、黒褐色砂質土、暗褐色砂質土を主とする。３層が存在し、竈手前には床面近くから粘板岩の板状礫が出土し、竈の天井石に用いた石材片と考えられる。出土:竈付近、中央などにごくわずかにあるのみ。壁:緩やかな南面傾斜のため北壁が高く、東壁高55㎝、南壁高43㎝、西壁高30㎝、北壁高58㎝を測る。西壁と北東隅の壁は確認が難しかったため、やや掘り過ぎている。周溝：南壁側西半分を除き幅約25㎝、深さ17㎝程度の周溝がある。床：東半では硬化面が残る。床面精査時に柱穴が検出されているが、住居に伴う柱穴ではない。竈：東壁中央に東竈があり、一部４号竪穴に切られている。62号竪穴同様に左右に各１石のみを竈の袖手前に立てるタイプの竈で、右袖に風化した花崗岩の円礫､左側に角礫を袖石として直立するが、左袖はかなり浮上している。礫間は51㎝、右袖の高さは28㎝を測り、中間には13×10㎝の礫が火処底から10㎝浮上して存在し、支脚石と考えられる。煙道の掘り込みはほとんどなく、被熱・赤変が顕著であった。竈全体の規模は幅70㎝、長さ1.3ｍである。掘り方：未調査。遺物：1は土師器皿、２は土師器小形甕、３は土師器甕。４は須恵器壺胴部片で、内面に摩耗痕をもつ。時期：10世紀前半。

64号竪穴（第50・51・134図、図版28・29・44・45）

位置：調査区北西隅側、集落北端の住居で、43号竪穴と重複する。重複：前記したように43号竪穴との前後関係は不明。経緯：南北にベルトを設定。規模：東西2.85ｍ、南北3.3ｍの隅丸方形で、南東隅にコーナー竈をもつ。主軸：N-15°-W。覆土：厚さ28㎝で、暗褐色砂質土、黒褐色砂質土の２層を主とする。竈周辺には竈構築材と思われる礫が分布する。出土：竈周辺および西壁の際に少量の土器片など分布。竈周辺には完形に近い土器もいくつか目に付いた。壁：東壁高30㎝、南壁高25㎝、西壁高30㎝、北壁高30㎝。周溝:幅20～30㎝、深さ10㎝の周溝が全周する。床：竈前面、２×1.2ｍは黄色粘土による貼り床面で、竈前の土間状の作業スペースを示している。竈周辺には貼り床面上に炭化層が広がる。竈：南東の住居コーナーを30㎝程度掘り込んで煙道を設けたコーナー竈。竈の幅

は 70㎝、長さは 1.25 m、袖石間内径は約 30㎝を測る。竈内外の石組周辺には土師器坏類などがやや多く分布する。袖石は左右２石ずつ立て並べ、袖石上には手前に加工石材をおき、続けて横長の礫を置く。天井石、支脚石は遺存しない。掘り方：床下を全面調査。竈のある東北隅を除き、三隅が落ち込むが、北西隅などは地山の黒色帯に惑わされ、やや掘り過ぎたのかもしれない。床面中央付近には小ピットがまとまって検出された。遺物：１～６は土師器皿、９・10 は高台坏で、10 は足高高台となる。11～13 は灰釉陶器埦皿。14・15 は土師器甕で、器高が低い鉢形の甕である。16 は鞴羽口、17 は角釘状鉄製品、18・19 は鉄滓。時期：10 世紀後半。

65号竪穴（第 48・135 図、図版 29・45）

位置：調査区北西側、42・67 号竪穴が上下に重複する最下層の住居。重複：42・67 号竪穴に切られる。経緯:当初、東西ベルトを設定して掘り下げたところ、確認面より深さ 80㎝付近に床を検出したため 65 号竪穴とした。その後、覆土中に 67 号竪穴の床面があることがわかり、67 号竪穴の調査をまって下層の 65 号竪穴の調査を実施した。規模：東西 3.2 m、南北 3.5 mの隅丸方形で、北壁は砂質土のためかひとまわり大きく大きくなっている。主軸：N-6°-W。覆土：67 号と重複しない北側では３層程度に分層できる。黒褐色土、暗褐色砂質土、黒褐色砂質土からなるが、セクション面では 67 号竪穴の断面を捉えていない。出土:北側で土師器坏類が出土したが、総量は少ない。壁：東壁高 85㎝、西壁高 70㎝で、北壁は崩落のため斜めの立ち上がりを示している。周溝：北側が掘り方面までの掘り過ぎで周溝を欠くが、床面が残存した東・南壁側には幅 15㎝、深さ 5㎝程度の周溝が一部あるが、本来全周したと考える。床：ベルト北側ではやや掘り過ぎたため床面を抜いて掘り方面に達してしまっている。また南壁近くも同様にやや掘り過ぎ、竈付近から西側にかけ、かろうじて床面が遺存した。竈：東壁、南東隅寄りに石組の東竈が位置する。両袖に２石を立て並べ、粘土を貼ったもので、内径は 76㎝、袖石の高さは約 20㎝。両袖石の前には粘土ブロックを礫代わりに設置している。煙道は壁を 15㎝程度掘り込む程度で、掘り込みは弱い。火処に平石が存在するが、竈天井石の一部であろう。竈の幅 80㎝､長さ１m程度。竈内からは土器片がやや多く出土している。支脚石はない。掘り方：北側では床面を掘り過ぎ、掘り方面が露出しているが、最終段階での掘り方面調査は実施していない。遺物：１は土師器坏、２・３は土師器皿、４は土師器甕。１は底部外面に「秋」の墨書文字をもつ。時期：10 世紀前半。

66号竪穴（欠番）

65 号竪穴北側の焼土ブロック・炭化物のまとまりを住居の痕跡として 66 号竪穴の番号を付けたが、６号土坑の上層にあたることがわかり、住居番号は欠番とした。

67号竪穴（第47・135・136図、図版29・45）

位置：調査区北西側、41・42・65号竪穴と重複する。重複：65 号竪穴上層、42 号竪穴下層にあることから 65 号竪穴より新しく、42 号竪穴より古い。41 号竪穴との前後関係は不明。経緯：南側の 42 号竪穴の調査の後、北側に重複する住居を 65 号と命名して東西ベルトの北側を掘り下げたが、試掘坑の再精査で断面を再確認したところ、42 号竪穴と 65 号竪穴の床面の間にもう１枚貼り床面が存在することがわかったことから、67 号竪穴とした。規模：北壁に相当する部分を 65 号竪穴調査で掘り込んで欠失したことから、北壁が不明だが、東西 3.1 m、南北は現状で 2.7 m以上の隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-3°-W。覆土：厚さ約 30㎝で、黒褐色砂質土を主とする。出土：竈北西側に土器片のまとまりがあるほか、床面上から数個体の坏等が出土しているが、全体には少ない。壁：上層の42号竪穴よりも約 30㎝下層に床面があることから、壁高は約 30㎝。周溝：南・西壁側には幅約 35㎝、深さ約５㎝の幅広でやや深い周溝が存在する。北側は掘り過ぎのため欠失する。床：確認面から約 60㎝に床面がある。42 号竪穴から約 25㎝下、下層の 65 号竪穴床面から 30㎝上に 67 号竪穴の床面があり、竈前面から中央付近にかけて黄色ローム土の貼り床がある。竈：東壁、南寄りの焼土を東竈と判断したが、65 号竪穴竈の焼土上層という見方ができる。しかし 67 号竪穴の平らな床面レベルより高い位置に古い住居の竈焼土が浮上することはありえないので、65 号竪穴と同一位置に竈を設置したとみておきたい。左袖に礫２個、平石が露出するが、ともに下層の 65 号竪穴竈材である。67 号竪穴石材を欠失するのは 42 号竪穴構築で除去されたためと考えておく。規模は幅 1.3 m、長さ１m程度と思われるが、詳しい構造は不明。東壁への煙道の掘り込みはない。掘り方：断面で下層覆土の堆積状況を確認し、貼り床直下に掘り方層と考えられる厚さ 10㎝程度の黒褐色砂質土層を確認した。遺物：１～３は土師器坏、４・５は土師器皿、６・７は土師器甕。５の底部外面には「夫」の墨書文字がある。時期：10 世紀前半。

68号竪穴（第53～55・136・137図、図版30・45）
位置：調査区中央、わずかに南側に位置する51号竪穴覆土内、北東側にあり、52号竪穴と重複する。重複：51・52号竪穴より新しい。経緯：51号竪穴調査中、51号竪穴覆土上層に別の住居竈があることがわかり、68号竪穴とした。51号竪穴覆土中に入れ子になる竪穴のため、北・東壁以外は把握できなかった。規模：西・南壁が未確認ではあるが、東西2.6m以上、南北2.8m以上の隅丸方形。推定３m四方か。主軸：N-4°-W。覆土:厚さ30cm程度で、黒褐色砂質土を主とする。出土:竈を中心に分布。壁:東壁高推定 28cm、北壁高 22cmで、西壁、南壁は未確認。周溝：北壁と東壁の一部に周溝を伴う。南・西壁側は不明。床：炭化層が 1.5 × 2 m程度の範囲に存在する。竈:北東隅寄りに東竈がある。石組竈で、両袖に３石を立て並べ、さらに煙道との境に狭い幅で１石を立てて黄色粘土で被覆したもので、逆Ｕ字状とした 48 号竪穴の竈に類似する。手前の両袖石は竈の袖石間 60cm、内径 30cmを測り、長さ 30cm程度の礫を内傾するように斜立したもので、左袖には天井石と思われる大形の礫があるが、支脚石はない。竈内からは土師器甕の大形破片がやや多く存在したほか、坏類もある。煙道部分については、52 号竪穴覆土中のため不明瞭で、焚口の掘り込みもなく、竈の構造が明確ではないが、竈の規模は幅 80cm、長さ 80cm。掘り方：下層に 51 号竪穴があるため、断面を観察して掘り下げたが、掘り方面は捉えていない。遺物：１～８は土師器皿、９～ 12 は灰釉陶器埦皿、13 は無脚の灰釉陶器坏、14･15 は土師器甕。時期:10 世紀後半。

69号竪穴（第33・34・138図、図版30・45）
位置：調査区中央にあり、33 号竪穴、２号掘立、39・40号ピットと重複する。重複：33 号竪穴に住居の大半を切られ、39・40 号ピットに切られる。経緯：33 号竪穴の調査で壁面を精査していたところ、南壁中から土器が２個体出土した。確認面精査を行い、住居プランの検出に努めたが、プラン･床面ともに不明瞭で、明確な把握はできなかった。規模：西壁が不明ではあるが、東西推定 4.5 m、南北 4.4 mの隅丸方形。主軸：東壁がやや歪み、南・北壁はごく一部が残るのみで、主軸方向は不明確ながらＮ -0° - Ｅ。覆土：厚さ 25cm程度の暗褐色砂質土を主とする。南東隅寄りの 39 号ピット下層にあたる位置で焼土ブロックを検出した。出土：33 号竪穴南壁中からは底部に１孔開いた土師器甑と台付甕台部がほぼ同一レベルで並んで出土した。33 号竪穴東側の東壁寄りではほとんど遺物が出土していない。壁：東壁高 20cm、南壁高 26 ～ 38cm。周溝：西壁側に周溝を検出したが、48 号竪穴東壁に伴うとみられる。南・東壁には周溝はない。床：貼り床面はなく、顕著な硬化面もなかった。49 号竪穴の北東隅寄りのところに斜めの段差が検出されたが、もう１軒住居が存在した可能性がある。ただし、33 号竪穴と 48 号竪穴の掘り込みによりほとんど床面は存在しない。竈：なし。掘り方：未調査。遺物：１は土師器甑で、底部に貫通孔をもつ。２は台付甕脚部。時期：５世紀中頃か。

70号竪穴（第62・63・138図、図版30・45）
位置：調査区北東隅側にあり、71 号竪穴と重複。重複：71 号竪穴を切る。経緯：19 号竪穴の床面精査中に下層に住居が存在することがわかり、一部掘り抜いて探ったところ、東壁が確認され、住居の北東隅にあたることがわかった。そこで仮にプランを引き、東西にベルトを設定し、掘り下げたところ 71 号竪穴と重複することが判明した。70 号竪穴と 71 号竪穴が重複する部分では、70 号竪穴床下に掘り方面があり、71 号竪穴床面は削平されていると考えられるが、調査ではベルト両脇を 70 号竪穴掘り方面まで掘り下げたのち、床面の存在がわかったためベルト部分では 70 号住床面で止めている。規模：東西 3.8 m、南北 4.65 mの隅丸方形で東竈をもつ。主軸：N-5°-W。覆土：厚さ 43cm程度あり、断面図の１層が住居覆土で黒褐色砂質土、４層が掘り方覆土で黒褐色砂質土であり、１・４層間の薄い間層が 70 号竪穴貼り床層である。出土:遺物は少ないが、竈前面の床直面から鉄製紡錘車が出土している。壁：確認面以下、18cm～ 58cmまでの間に山砂層、58cm以下に黒色帯が存在し、住居は山砂層を主に掘り下げている。東壁高 50cm、南壁高 52cm、西壁高 57cm、北壁高 62cm。周溝：幅 30cm、深さ 18cm程度で、太く深く、明瞭で、四隅がピット状に深くなっているが、掘り方面を下げたか、黒色帯によって見極めが難しかったかと思われる。床：竈前面から西壁にかけて黄色ローム土による貼り床が住居の 1/4 程度残存するが、北側は 71 号竪穴床面を追ったため、70 号竪穴掘り方面まで下げてしまっている。竈：南東寄りに東竈があり、壁面に対し幅 50cm、奥行き 40cm程度、四角く掘り込むタイプの粘土竈で、掘り込み面は赤変している。焚口は平らで、掘り込みはない。石組、支脚石はない。竈内からは土師器甕片がやや多く出土した。竈の規模は幅 80cm、長さ 135cm程度。掘り方：71 号竪穴側で掘り方面まで下げてしまっているが、全掘はしていない。遺物：１は土師器Ｓ字甕、２は土師器甕、３は手捏ね土器。１は混入とみられる。時期：甕

の形態から判断して９世紀前半か。

71号竪穴（第62・63・138図、図版30・45）

位置：調査区北東隅側に位置し、22・70・73号竪穴と重複する。重複：22・70・73号竪穴に切られる。経緯：22号竪穴周溝調査時に北東隅の 242 号ピットを掘り下げたところ、下層に遺構が存在することがわかった。また 70 号竪穴調査時点で西側に別の住居が重複することがわかり、70 号竪穴下層に存在する住居の床面を 71 号竪穴とした。東西に設定したベルトは 71 号竪穴の南壁脇をかするようにして設定されているが、これは当初、71 号竪穴の存在に気付かなかったためである。規模：南東側は 70 号竪穴に切られ、また南西側は 73 号竪穴に切られるため、壁は北・西壁の他に東・南壁の一部が残存する状況であるが、現状では東西 3.3 m、南北 3.4 mの隅丸方形で、北竈をもつ。主軸：N-6°-W。覆土：厚さ 60cm程度の黒褐色砂質土を覆土とし、床面上８～ 12cmの高さに 70 号竪穴の黄色粘土による貼り床が貼られている。出土：少ない。壁：確認面以下 23cm～ 60cmが山砂層、60cm以下が黒色帯で、山砂層と黒色帯を壁面とする。東壁高 53cm、南壁高 70cm、西壁高 72cm、北壁高 72cmで、西壁上面は段をなしているが、掘り過ぎによる。周溝：北壁から西・南壁にかけて幅 15 ～ 30cm、深さ 10 数cmの周溝がある。床：竈前面に粘土による貼り床面がわずかに残るが、全体的には不明瞭。竈：東北隅寄りに北竈がある。粘土竈で石組はない。両袖から煙道のＶ字状の粘土は良好に残り、両袖には 30～40cmの粘土袖がある。両袖間は約 60cmで、焚口～火処は 40 × 60cmの範囲で窪んでいる。竈の規模は幅 70cm、長さ 110cmで、支脚石、天井石はない。煙道は壁面を 35cm程度掘り込む。竈内出土遺物はほとんどない。掘り方：未調査。遺物：１は土師器坏、２は台付甕脚部、３は土師器甕、４は土師器壷。１は大形、深身で底は丸い。４は体部外面に叩き状の圧痕をもつ壷。時期：８世紀中頃か。

72号竪穴（第25～28・138・139図、図版30・45）

位置：調査区中央北西寄りにあり、26・50 号竪穴、225 号ピットと重複する。重複：50 号竪穴覆土上層に重なり、26 号竪穴の南西側を切る。経緯：当初、50 号竪穴の１軒分として調査を進めたところ、北東隅側に重複する住居が想定され、また南西隅にコーナー竈の石組が検出されたため、コーナー竈に伴う竪穴を 72 号竪穴とした。北東隅側はプランが明確ではなく、掘り過ぎた可能性がある。規模：50 号竪穴北側に続く広がりを含めて 72 号竪穴とすると、南西隅にコーナー竈をもつ東西５m、南北 5.35 mの隅丸方形となる。主軸：N-2°-W。覆土：厚さ 42cm程度の黒褐色砂質土、暗褐色砂質土。50 号竪穴の北西隅側にあたる位置に焼土ブロックを伴う粘土の広がりがあったが、火処に相当するような焼土面がないことから竈ではないと判断した。出土：北西側の粘土ブロック付近から多くの遺物が出土したが、取り上げ時に多くを 50 号竪穴の遺物としてあげている。それらは 50 号竪穴の北壁を区切る周溝をまたぐようにして広がり、一部は 72 号竪穴遺物とすべきものが混在している。壁：南壁高 35cm、北壁高 45cm。周溝：未確認。床：50 号竪穴の床面とほぼ同一レベルのため、区別が難しいが、粘土の貼り床面が竈前面を中心に広がる。竈：南西隅のコーナー竈で、石組竈だが左袖側が 26 号竪穴に切られて欠失する。残存する右袖には２石を用いるが、手前袖石は高さ 20cm程度の高さで内径するように立て、手前横にも礫を組んだもので、天井石、支脚石はない。竈は現状で幅 80cm、長さ 90cmだが、粘土や焼土は煙道側に延びるように全体で 1.4 mほど広がっている。掘り方：未調査。遺物：１は土師器皿、２は鉢形を呈した土師器甕で、口縁に短い返りをもち、胴部の器壁は厚い。時期：11 世紀前半。

73号竪穴（第64・139図、図版31・45・46）

位置：調査区北西側、22 号竪穴直下に存在する。重複：71号竪穴を切り、上層に22号竪穴が重複。経緯：71号竪穴西壁の調査時点で西側に住居群があることが想定され、22号竪穴下層を掘り下げたところプランが確認された。南北にベルトを設定。規模：東西 3.4 m、南北４mの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-19°-W。覆土：22号竪穴床面以下、約30cmの厚さがあり、黒褐色砂質土を主とする。出土：南東隅の壁に立てかけるようにして完形の須恵器蓋が出土したほか、住居東側を中心に少量の遺物が出土している。壁：東壁高 43cm、南壁高 52cm、北壁高 62cm。周溝：幅 20～35cm、深さ 10cmの明瞭な溝が全周する。南壁、中央やや西側に切れ目があるが、出入り口か。床：山砂層下の黒色帯上面を床面とする。中央付近に黄色ローム土の貼り床面がある。竈：東壁のほぼ中央に東竈がある。袖に礫を立てた石組竈と思われ、長さ 28cmと 30cmの２つの石が火処内に横倒しになっている。天井石、支脚石はないが、煙道奥壁、確認面近くに長さ 29cm、幅 12cmの礫が煙道底面に貼りついたように傾斜して立つ。焚口が 60 × 60cm、煙道は壁を 40cmほど掘り込み、竈の規模は幅１m、長さ 1.5 m程度と思われる。火処から煙道にかけて強く被熱・赤変する。掘り方：未調査。遺物：１～９は土師器坏で、１・４・５・６・８は内面に放

射状暗文をもつ。いずれも口唇部は丸口縁で、器高がやや低く、底径はやや小さい。10は高坏で、内面見込み部に放射状暗文をもち、口唇部は蓋状に短い立ち上がりがある。11・12は須恵器で、11は坏、12は蓋。13～16は土師器甕。時期：９世紀後半。

74号竪穴（第65・66・139図、図版31・32・46）

位置：調査区北東側にあり、73・76号竪穴と重複する。重複：73・76号竪穴を切る。経緯：73号竪穴調査時点で当初の確認面を26cm程度掘り下げて再精査したところ、山砂面でプランを確認した。南側にも別住居（76号竪穴）が確認されたため、74・76号竪穴を南北に通るベルトを設定した。断面図によれば、74号竪穴が76号竪穴覆土を切るラインが図示されているが、実施の調査では76号竪穴床面まで下げているため、覆土中に存在した74号竪穴南壁および南壁周溝、床面は検出できていない。規模：東・南壁が不明ながら現状では東西3.2ｍ、南北3.3ｍの隅丸方形で、東竈をもつ。主軸：N-17°-W。覆土：出土：竈南側に形のわかる土師器片が多いが、多くは76号竪穴に帰属する。その他の遺物は少ない。壁：東壁は73号竪穴に切られ、南壁は76号竪穴に切られて欠失する。西壁高43cm、北壁高48cm。周溝：不明瞭で、南西コーナーがやや深いピット状となる。床：山砂下層の黒色帯を床面とする。硬化面はあまりなく、貼り床面もない。竈：東壁、南寄りに石組竈がある。天井石を欠くものの、袖石は良好に遺存する。手前に花崗岩の棒状礫および粘板岩の高さ25～35cmの角礫を袖石として、幅約60cmの幅で立てて45cm程度の幅を確保し、その奥に円礫を積み上げるようにして煙道付近を構築し、手前の袖石と奥壁側の石積みの間の火処の部分には間隔があるのが特徴で、その部分には粘土を盛り上げている。後側の石積みの状況も特異で、円礫を横位に２石設置した上に２～４石を積み上げ、袖の石積み自体が壁の傾斜に沿って階段状に斜めに立ち上がる。また火処中央、手前の袖石と奥側の石積みの中間には支脚石が直立する。長さ16cm程度で、底面から14cm程度の高さをもつ。竈の規模は幅70cm、長さ1.3ｍで、煙道の突出は不明瞭ながら壁から30cm程度かと思われる。竈内からの遺物出土は小破片にとどまる。掘り方：未調査。遺物：１は内面、見込部に暗文をもつ土師器坏、２は甲斐型甕、３は灰釉陶器壷、４は台石。時期：９世紀中頃。

75号竪穴（第67・68・140図、図版32・46）

位置：調査区北側にあり、住居群中最北端に位置し、11号溝と重複する。重複：住居の南半を11号溝が切る。また住居南西側を259号ピットが切る。経緯：11号溝の調査中にプランを確認し、南北にベルトを設定。規模：東西3.2ｍ、南北2.8ｍの隅丸方形で小形の住居。主軸：N-21°-W。覆土：約55cmの厚さで、黒褐色砂質土を主とする。出土：覆土中に数点の遺物が出土したのみである。壁：東壁高55cm、南壁高20cm、西壁高48cm、北壁高50cm。周溝：幅26cm、深さ12cmを測り、明瞭で全周する。床：山砂層以下の黒色帯上面を床面として利用する。竈：北竈で、北壁中央、わずかに南寄りに粘土竈が位置する。袖から煙道までを逆Ｕ字状の粘土で構築したもので、竈の規模は幅70cm、長さ80cm程度。袖部の長さ70cm、両袖間は55cmで、火処中央には底面から16cmの高さで支脚石が直立する。煙道はなく、壁の内側で煙道が収まる。火処はごくわずかに窪む程度で、竈の構造は不明瞭。掘り方：未調査。遺物：１は土師器坏で８世紀前半の盤状坏底部。２は小形甕。３は竈内の支脚石。４は上面に浅い凹みをもつ搗き臼状の石製品。時期：８世紀中頃か。

76号竪穴（第67・68・141～143図、図版32・33・46）

位置：調査区北東側の竪穴群中にあり、74号竪穴と重複する。重複：74号竪穴に北壁を切られる。経緯：当初、上層で確認したプランを23号竪穴として調査したところ、坏等のまとまった遺物がやや多く、また炭化物や焼土ブロックが南側に多く出土したため、床に近いと考えて掘り下げを止めた。しかし明確な床面はなく、床面と推定した面よりも下層から大形の土師器甕片が出土した。また23号竪穴竈と推定した配石が、隣接する74号竪穴の竈に伴う石組上部と判ったことから23号竪穴の存在が不確かなものとなった。さらに74号竪穴の調査時点で南北方向にベルトを延長して下層の断面観察をした際、74号竪穴の南側直下に別の住居の床面が続いていることがわかり、76号竪穴の存在が明らかとなった。76号竪穴の竈は西壁に新たに検出され、23号竪穴と76号竪穴プランが同一に重なることから、23号と76号竪穴は同一竪穴と判断し、整理段階で23号竪穴は抹消した。ただし竪穴上層での焼土ブロックのありかたは、覆土上層で何らかの窪地利用が行われた可能性を示している。規模：東西4.7ｍ、南北4.2ｍの隅丸方形で、西竈をもつ。主軸：N-13°-W。覆土：厚さ28cm程度で、黒褐色砂質土、暗褐色砂質を主とする。出土：竈周辺に同一個体の大形甕片がまとまって分布し、北壁中央付近の74号竪穴の竈脇に完形品の土師器坏類が分布するなど、やや多くの遺物がある。また当初23号竪穴とした覆土上層にも土師器坏類などが分布した。壁：南

壁高 30㎝、西壁高 23㎝、北壁高推定 23㎝。周溝：幅 20㎝、深さ 10㎝で竈部分を除いて全周する。床：竈周辺、住居南東側付近には粘土の貼り床面が残る。またいくつかの大形の亜角礫が南壁、西壁寄りなどに点在する。竈：西壁南寄りにあり、礫を用いない粘土竈。袖の長さは60㎝程度で、竈の規模は幅70㎝、長さ80㎝、火処の深さは5㎝。壁外への煙道の掘り込みはなく、煙道を含めて壁の内側で収まる。西竈は奈良・平安時代を通して県内では希な存在といえる。掘り方：未調査。遺物：１～５は土師器坏、６・７は須恵器坏、８～ 16 は土師器甕、17 は土師器手捏ね土器、18・19 は台石。土師器坏のうち、１・３・４は内面に暗文をもつ甲斐型坏で、１・３は外面を斜めヘラ削りとし、４は底部に削り出し高台をもち、体部外面を縦位ヘラナデとする。また３は底部外面に「吉千ヵ」の墨書をもつ。底径がやや大きく、古手である。２・５は土師質須恵とみておく。土師器甕は 10・14・15 が小形甕、８・９・11・12 が長胴甕で、11・14 はハケメが弱い。16 は鉢形の甕。17 は手捏ね土器。18 は置き砥的に用いたとみられる台石。19 は床面に据えた台石であろう。時期：９世紀第４四半期。

77号竪穴（第68図、図版33）

位置：中央東壁寄りにあり、12 号溝と重複する。重複：12 号溝を切る。経緯：調査の最終段階で 12 号溝を確認し、調査していく中で 12 号溝東端に住居らしきプランを確認した。規模：東西 3.5 ｍ、南北 2.9 ｍの東西にやや長い隅丸長方形を呈すが、竪穴ではなく、12 号溝の続きであったかもしれない。主軸：N-15°-W。覆土：出土：粘土面に土師器片が１点出土したのみ。壁：東壁高４㎝、南壁高５㎝、西壁高３㎝、北壁高９㎝と全体に浅い。周溝：なし。床：床面中央付近に直径 0.5～４㎝大の焼土ブロック、炭化物をやや多く含む床面と思われる貼り床面的な粘土層が広がる。貼り床面のない部分では下層の掘り方面が出ている。竈：なし。掘り方：未調査。遺物：図化遺物はない。時期：不明。

掘立柱建物跡

１号掘立（第69図、図版33）

位置：調査区北西隅、10 号溝と 65 号竪穴の間に位置する。重複：185 号ピットが建物内に存在する。経緯：遺構確認時に３本ずつの柱穴列を確認し、それぞれ南側を半截し、断面図を作成した。規模：東西２間（柱穴中心間で 2.8 ｍ、１間は 1.4 ｍ）×南北１間（2.3 ～ 2.4 ｍ）の東西方向に１間分長い６本柱穴からなる掘立柱建物跡。北側柱穴列は西から 179・180・181 号ピット、南側は西から 182・183・184 号ピット。主軸：東西軸を主軸として E-5°-N。形態：いずれも平面形は直径 60～80㎝程度の円形～不整円形で、断面形は深さ 30～50㎝程度の鍋底状。断面には柱痕状の黒褐色砂質土の周囲を黄褐色砂質土、黒褐色砂質土の互層で搗き固めたような形状を示す 179・183・184 号ピットがあり、182・183 号ピット内には 20～30㎝の細長い円礫が２個ずつ、覆土中にやや浮上して存在する。柱の根固め（詰め石）であろうか。遺物：図化資料はない。時期：弥生末、奈良・平安時代、平安末の可能性がある。１間×２間構造は奈良・平安では少ないものの、柱穴がやや大きく、埋め土に版築状断面をもつことから古代の所産と考える。

２号掘立（第70図、図版33）

位置：調査区中央、10 号竪穴の西側、33 号竪穴の東側に位置する。重複：北西側に 33 号竪穴が重複するため、２号掘立の柱穴２本を欠く。また建物内には 36・38・39・40・43・93・232 号ピット、ブドウ棚支線の攪乱坑が分布する。33 号竪穴よりも２号掘立の方が古い。経緯：33 号竪穴と 10 号竪穴間に位置するピット群を調査する中で、２間×３間の長方形配置を呈したピット列が存在することがわかった。規模：東西２間（4.2 ｍ）×南北３間（6.5 ｍ）の南北に長い掘立柱建物跡。東列に北から 35・42・45・94 号ピット、西列に北から 41・92 号ピットがあり、北列の中央に相当する位置に 37 号ピット、南列の中央に 93 号ピットがある。主軸：N-3°-W。形態：各柱穴の平面形は直径50～90㎝の円形で、断面形は深さ30～60㎝のコップ状、または鍋底状。覆土は黒褐色砂質土、暗褐色砂質土などからなり、柱痕状断面は確認できていない。遺物：図化資料はない。時期：不明だが、奈良～平安時代と推測する。10 号竪穴の脇に平行することから、同時期頃の可能性がある。

溝

１号溝（第71図）

位置：調査区中央を東西方向に横切る溝で、15 号竪穴南側から 25 号竪穴付近にかけて直線的に伸び、12 号溝に平行する。25～28・30・32 号竪穴に切られる。形態：確認面で灰白色砂層の堆積層を溝と判断し、掘り下げた。幅 0.3 ～ 1.0 ｍ程度、長さ約 40 ｍ、深さ約 0.15 ｍで、おおむね直線的ではあるが、東西両端では湾曲している。断面形は箱形。B-B´ ラインでサブトレンチを入れて断面観察をしたところ、当初溝とした幅を越えて溝状の堆積状況が認められた（２層）。したがっ

て溝としたのは溝状落ち込みの最上層と考えられ、南側に12号溝が平行するようにみえるのは1号溝の広がりとして理解できる。主軸方向：E-5°-N。遺物：時期：12号溝と同時期であれば古墳前期か。

２号溝（第72図、図版34）

位置：調査区北東側に位置する。東は調査区外へかかり、西は20号竪穴に接し、その先は不明となる。形態：長さ13ｍ、幅約0.5ｍ、深さ0.2ｍで、おおむね直線的だが、緩やかに曲がっている。覆土は黒褐色砂質土を主とする。主軸方向：E-26°-N。遺物：図化遺物はない。時期：不明。

３号溝（第72・144図、図版34）

位置：調査区北側にあり、10号溝と直交する。10号溝との時期的な関係は不明だが、10号溝の北側にのびていないこと、10号溝と直交する点から、10号溝と同時期の溝と推定しておく。南へ流下する溝で、52号ピット付近で消滅している。また11号溝と交差する。切り合い関係は不明確ではあるが、出土遺物から3号溝が新しい。196号ピットを切る。形態：長さ27.5ｍ、幅1～1.2ｍ、深さ0.35ｍで、直線的。断面形は箱形。主軸方向：N-23°-Wで、10号溝とほぼ直交する。遺物：1は土師器坏で時期は不明ながら、８世紀代か。２は平安時代、10世紀代の土師器甕。３は鉄滓。時期：奈良・平安時代か。10号溝と時期的に関連するとみられる。

４号溝（第71図）

位置：調査区南西隅近く、53号竪穴の西側に位置する。現地表の畑境の溝と重なる。形態：長さ7ｍ、幅0.5～0.8ｍ、深さ0.25ｍの東西溝で、おおむね直線的。断面形は箱形。主軸方向：E-16°-W。遺物：なし。時期：不明。

５号溝（第71・144図、図版34）

位置：調査区南西隅に位置し、現地表の畑境と一部重複しながら西側調査区外へのびる。形態：長さ12ｍ、幅0.4～1.2ｍ、深さ0.3ｍの南北溝で、断面形は箱状。おおむね直線的だが、緩やかに弓なりのカーブとなる。主軸方向：N-8°-W。遺物：1は砥石。時期：不明。

６号溝（第72図）

位置：調査区北側、10号溝に一部平行し10号溝の南側の縁に沿うようにして西へのびている。また北側から7号溝が連結する。東端はＬ字に屈曲している。形態：直線部分は長さ33ｍ、幅0.5～0.7ｍ、深さ0.25ｍで、東側は屈曲して３ｍほどのび、調査区外にかかる。断面ボール形。主軸方向：直線部分では10号溝と同じで、E-22°-N。３号溝は直交するように取り付いている。遺物：図化資料はない。時期：不明であるが、7号溝と同時期とみられ、10号溝より新しい。

７号溝（第72図）

位置：調査区北側にあり、10号溝と交差するように、10号溝上層で確認された。形態：長さ７ｍ、幅0.8ｍ、深さ0.35ｍで、断面箱形。北端は調査区外にかかり、南端は6号溝に連結する南北溝で、10号溝より新しい。主軸方向：N-15°-W。遺物：図化資料はない。時期：不明。

８号溝（第72図）

位置：調査区北側の10号溝北に位置する南北溝。西側に1.5ｍ離れて９号溝が平行する。２本は平行することから、道の側溝などかもしれない。形態：長さ５ｍ、幅0.25ｍ、深さ0.1ｍの直線的な溝で、断面形はボール形。主軸方向：９号溝と同じで、N-12°-W。遺物：図化資料はない。時期：不明。

９号溝（第72図）

位置：調査区北側、10号溝北側にある南北溝で、東側に８号溝が平行し、さらに西側に13号溝が存在する。10号溝より新しく、10号溝の上端に南端がかかる。形態：長さ７ｍ、幅0.5ｍ、深さ0.13ｍで、断面ボール状。主軸方向：N-12°-W。遺物：なし。時期：不明。10号溝より新しく、古代末頃ではないかと思われる。

10号溝（第72・144図、図版34・35）

位置：調査区北端にあり、北に偏した東西溝。他の溝に比べて格段に大規模で、大溝と仮称した。重複：３・６・７・９号溝と重複。３号溝は10号溝上面、６号溝とほぼ同じレベルで直角に取りつく。６号溝は10号溝南脇を並走する。７・９号溝は10号溝より新しい。溝内での勾配はほとんどないが、西流する溝とみられる。現地表面に痕跡をほとんど残さない溝で、表層条里成立以前の溝であろう。図３の遺跡の位置図によれば、調査区東方から10号溝へ斜めに向かう屈曲する水路があることから、重川方面から引水した古い用水路と推測しておく。形態：幅約３ｍ、長さ37.5ｍ、幅2.5～3.3ｍ、深さ0.8～0.9ｍの直線的な溝。現地表面から確認面まで１ｍ、溝の中央で地表下2.1ｍを測る。覆土はシルト、砂質土の互層で、掘り方面に近いところには泥炭状の黒色土が堆積する。断面形はＶ字形に近い箱形。断面は３カ所で観察し、掘り込み状況を確認するため、地山を一部断ち割って土層観察した。なお立ち上がりの上端については、一部掘り過ぎている。主軸方向：E-22°-N。：遺物：溝の規模が大きい割に出土遺物は非常に少ない。１は古墳前期の甕か。時期：古墳前期以降。古代の可能性が高いが、奈

良・平安時代の遺物は皆無である。

11号溝（第72・144図、図版34）

位置：調査区北側に位置する東西方向の溝。75号竪穴から39号竪穴を結ぶようにして存在し、３号溝と交差する。３号溝との前後関係は、遺構の切り合い状況としてはほぼ同レベルで不明確であるが、出土遺物から11号溝の方が古い。形態：長さ38m、幅約 1.4 m、深さ 0.4～0.5 mで、直線的にのびる。断面形は箱形。覆土上層には黒褐色砂質土、褐灰色砂層が堆積していた。他の遺構との重複関係は、40・75号竪穴が11号溝を切り、７号土坑は切られている。主軸方向：N-32°-E。遺物：１・２は土師器台付甕脚部。時期：古墳前期、４世紀後半代の溝か。

12号溝（第71・145・146図、図版35・46）

位置：調査区中央、77 号竪穴西側に位置する。形態：長さ 14 m、幅２～ 2.5 m、深さ 0.3 mの幅広の浅い落ち込みで、北側の１号溝と平行する。調査の最終段階で遺構がない部分を念のために精査したところ、ぼんやりとした暗い部分があり、掘り下げたところ、遺物が多数検出された。遺物は 12 号溝中央東寄りのところで古墳初頭の壷形土器２個体が正位の状態でまとまって出土し、西端付近では北壁寄りから壷形土器や台付甕脚部などの土器がまとまって出土している。１号溝の断面観察のさいに、溝の立ち上がりが確認面よりも広がっているのが確認されたことから、１号溝に伴う可能性が高い。また 77 号竪穴も同様に、12 号溝の一部を竪穴と誤認した可能性があり、１号溝関連遺構とすべきかもしれない。その場合、長さは 77 号竪穴を含めて 17.5 mとなる。主軸方向：１号溝とほぼ同じで、E-9°-N。遺物：１～５は土師器壷で、１～３・５は無文の壷、４は肩部に木口を押圧した疑似縄文的な文様をもつ。３は口縁部が折り返し状となる。６・７はＳ字甕の底部とみられる脚の部分。１と５は外面上半を中心に赤彩らしき赤味が付着、あるいは赤変している。時期：古墳初頭、４世紀後半。

13号溝（第72図）

位置：調査区北端、９号溝の西側にある細く短い南北溝。溝の北端は調査区外にかかり、南は 10 号溝に接する。10 号溝との切り合いは不明。形態：長さ３m、幅 0.2 m、深さ 0.1 m程度。主軸方向：N-21°-W。遺物：なし。時期：不明。

土坑

１号土坑（第73図、図版37）

位置：調査中央、西壁寄りに位置する。形態：1.7×1.1 m、深さ 0.3 mの楕円形土坑。断面は鍋形。１層の灰褐色砂質土を主とする。遺物：図化資料はない。時期：不明。

２号土坑（第73・144図、図版37・46）

位置：調査区南側、53号竪穴の北東隅に重複するようにして存在し、111 号ピットを切る。形態：2.0 m× 1.8 m、深さ 0.5 mの円形土坑で、底面中央に 0.8 × 0.52 m、深さ 0.1 mの楕円形ピットをもつ。断面形は鍋底形で、１層の黒褐色砂質土を主とする。遺物：１は底部外面に「大田」という墨書をもつ土師器坏。２は土師器球胴甕底部。時期：９世紀後半。

３号土坑（第73図、図版37）

位置：調査区南側、59 号竪穴西側に位置する。140・141 号ピットが重複する。形態：南北 1.74 m、東西 1.44 mの隅丸方形で、深さ 8㎝と浅い。断面観察では 141 号ピットを切る。覆土は黒～暗褐色砂質土を主とする。遺物：図化資料はない。時期：不明。

４号土坑（第74図）

位置：中央北側、３号溝と 11 号溝が交差する角に位置する。形態：1.6 × 1.3 m、深さ 0.4 mの不整隅丸方形で、断面鍋底形。覆土は２層の鈍い黄褐色砂質土を主とする。遺物：図化資料はない。時期：不明。

５号土坑（第74・143図、図版37）

位置：調査区中央やや北西側、50 号竪穴の北側に位置する。形態：2.15 × 1.88 mの楕円形土坑で、深さ 0.55 m。底面に 1.0 × 0.75 m、深さ 0.3 mの方形のピットを伴う。覆土は黒褐色砂質土を主とする。遺物：１は土師器壷形土器だが、遺構確認面よりも上層での出土。時期：古墳時代か。

６号土坑（第74・143図、図版37・46）

位置：調査区北西側、65 号竪穴北側に位置する。形態：長軸長 1.75 m × 短軸長 1.6 m、深さ 0.36 mの楕円形土坑で、断面は鍋底状。土坑の北西壁寄りの上層に大形礫を含む礫２個があり、礫周辺から焼成粘土塊、焼土ブロックが出土した。当初、石組竈と判断し、66 号竪穴とした。その後、確認面にて土坑プランを確認し、竪穴番号は欠番とした。確認面に露出していた炭化物層は、断面では覆土上層に堆積するのみであった。遺物：土坑の覆土下層から灯心痕のある土師器坏、鉄滓などが出土している。1・2 は土師器坏。3 ～ 5 は鉄滓。時期：10 世紀後半。

７号土坑（第74図）

位置：調査区北側、75 号竪穴西の 11 号溝中にある。11 号溝の底面精査中に確認。11 号溝よりも古いとみられるが、覆土は 11 号溝とほぼ同質である。形態：1.53

× 1.45 m、深さ 0.24 mの不整形。遺物：なし。時期：不明。

ピット

ピットの多くは竪穴群と重複するように、調査区北東から南西に向けて斜めに分布している。とくに北東側の19号竪穴の東側、中央付近の10号竪穴と30号竪穴との間、51 号竪穴と８号竪穴の間、南西隅の57号竪穴と 63 号竪穴の間に密集するが、10号竪穴西側については２号掘立の柱穴と判明した。57号竪穴北側についても掘立柱建物の柱穴となる可能性が高いが、柱穴配置は不明瞭であった。以下、遺物の図化資料があるピットのみ説明し、規模等は表２に整理しておく。

25号ピット（第76・143図、図版37）

位置：調査区北東部、21 号竪穴西側に位置する。形態：1.15 × 0.8 m、深さ 0.14 mの楕円形ピットで、断面形は皿状。覆土は黒～暗褐色砂質土を主とする。遺物：１は土師器高台坏で、高台部を失う。２は鉄滓。時期：10 世紀後半か。

103号ピット（第81・143図）

位置：調査区南側、２号竪穴南に位置する。形態：１× 0.85 m、深さ 0.15 mの不整楕円形で、断面形は鍋底形。覆土は暗褐色砂質土を主とする。遺物：１は土師器甕。時期：９世紀後半か。

107号ピット（第81・143図）

位置：調査区南側、53号竪穴、２号土坑の東側に位置する。形態：0.58×0.47 m、深さ 0.3 mの円形ピットで、断面形はＵ字形。遺物：１は土師器坏で、底部外面に判読不明ながら刻書文字がある。時期：10世紀前半か。

120号ピット（第82・143図）

位置：調査区南西隅、５号竪穴西側に位置する。形態：0.45 × 0.43 m、深さ 0.55 mの柱穴状ピット。覆土は黒褐色砂質土を主とする。遺物：1 は土師器坏。時期：９世紀後半か。

128号ピット（第83・143図、図版37・46）

位置：調査区南西隅、５号竪穴西側に位置する。形態：0.83 × 0.68 m、深さ 0.45 mの楕円形ピットで、断面形は鍋底形。覆土は黒～暗褐色土を主とし、覆土中位からやや多くの土師器類が出土した。遺物：１～３は土師器坏。４～６は土師器甕。７は土師器小形甕。８はナデ痕を内外面にもつ焼塩土器か。９は鉄製刀子。時期：９世紀後半。

131号ピット（第83・143図、図版37）

位置：調査区南西隅、５号竪穴西側にあり、129号ピットと接する。形態：0.63 × 0.45 m、深さ 0.25 mの楕円形ピットで、断面形は鍋底形。覆土は暗～黒褐色砂質土を主とする。遺物：1 は叩き目のある土師器甕で、土師質須恵と呼ぶ土器。時期：９世紀代か。

135号ピット（第83・143図）

位置：調査区南西隅、57 号竪穴の北西側に位置する。形態：深さ 0.58 mの柱穴状に深い部分をもつ 0.75 × 0.75 mの円形ピットで、断面形は鍋底形。覆土は黒～暗褐色砂質土を主とする。遺物：１は土師器坏で、内外面とも黒色処理された黒色土器である。時期：９世紀後半。

172号ピット（第86・143図、図版37）

位置：調査区南西側、53 号竪穴西側に位置する。形態：0.5×0.47 m、深さ 0.27㎝の円形ピット。断面形はボール形で、覆土は黒褐色砂質土を主とする。遺物：１は土師器甕または壷底部。時期：不明。

178号ピット（第86・143図、図版37）

位置：調査区南西側、63 号竪穴の北側に位置する。形態：0.5 × 0.42 m、深さ 0.37 mの楕円形ピットで、断面形は鍋底形。覆土は黒褐色砂質土を主とする。遺物：１は土師器坏。時期：９世紀中頃。

190号ピット（第86・143図）

位置：調査区北西側、10 号溝と３号溝の交点付近に位置する。形態：２つのピットが重複した不整形を呈するピットで、1.5 × 1.08 m、深さ 0.55 m。覆土は黒～暗褐色砂質土を主とする。遺物：1 は台付甕脚部。時期：古墳前期か。

197号ピット（第87・143図、図版37）

位置：40 号竪穴内、南西隅に位置する屋内ピット。形態：0.92 × 0.88 mの不整円形で、床面からの深さは 0.6 mの袋状ピット。覆土は黒褐色～灰黄褐色砂質土を主とする。底面から 20㎝ほど浮いた土坑の括れ部付近の深さで土師器類が出土した。遺物：1 は土師器高台坏脚部。２は灰釉陶器皿高台部。時期：竪穴に付属する貯蔵穴で、竪穴と同じく 11 世紀前半か。

242号ピット（第90・143図）

位置：22 号竪穴北東隅にあるピット。形態：0.52 × 0.48 m、床面からの深さは 0.43 mの柱穴状ピット。覆土は黒褐色砂質土を主とする。覆土上層で遺物が出土した。遺物：1 は須恵器坏。時期：９世紀代とみらえ、22 号竪穴の時期よりも古く、竪穴形成以前のピットと考えられる。

243号ピット（第143図）

位置：17 号竪穴内南西隅に位置する。形態：0.56 × 0.56 m、深さ 0.18 mの円形ピットで、断面は鍋底形。遺物：

表２　ピット一覧表

ピットNo.	長径m	短径m	深さm
pit 1	0.684	0.473	0.22
pit 2	0.9	0.613	0.99
pit 3	0.694	0.564	0.428
pit 4	0.794	0.635	0.456
pit 5	0.519	0.463	0.128
pit 6	1.056	0.775	0.1
pit 7	0.528	0.431	0.096
pit 8	0.564	0.531	0.264
pit 9	0.436	0.308	0.208
pit 10	0.826	0.653	0.344
pit 11	0.382	0.377	0.184
pit 12	0.675	0.58	0.24
pit 13	0.611	0.554	0.3
pit 14	0.819	0.599	0.388
pit 15	0.475	0.471	0.208
pit 16	0.609	0.578	0.16
pit 17	0.516	0.469	0.215
pit 18	0.591	0.538	0.336
pit 19	0.434	0.402	0.084
pit 20	0.724	0.691	0.241
pit 21	0.577	0.515	0.328
pit 22	0.412	0.358	0.262
pit 23	0.486	0.452	0.267
pit 24	0.526	0.481	0.412
pit 25	1.112	0.805	0.184
pit 26	0.635	0.637	0.262
pit 27	0.312	0.298	0.138
pit 28	0.997	0.896	0.29
pit 29	0.715	0.684	0.18
pit 30	1.209	1.035	0.204
pit 31	0.599	0.608	0.214
pit 32	1.235	0.967	0.286
pit 33	0.643	0.637	0.116
pit 34	0.457	0.448	0.227
pit 35	0.811	0.731	0.591
pit 36	0.549	0.544	0.267
pit 37	0.949	0.895	0.334
pit 38	0.73	0.736	0.226
pit 39	0.704	0.643	0.211
pit 40	0.764	0.669	0.459
pit 41	0.599	0.6	0.49
pit 42	0.722	0.736	0.339
pit 43	0.529	0.521	0.187
pit 44	0.52	0.478	0.213
pit 45	0.732	0.67	0.365
pit 46	0.361	0.359	0.214
pit 47	0.888	0.845	0.228
pit 48	0.871	0.702	0.149
pit 49	0.671	0.619	0.228
pit 50	0.737	0.701	0.488
pit 51	0.971	0.895	0.145
pit 52	0.545	0.585	0.586
pit 53	0.73	0.651	0.466
pit 54	0.339	0.332	0.3
pit 55	0.776	0.692	0.372
pit 56	0.33	0.283	0.116
pit 57	0.589	0.543	0.264
pit 58	0.447	0.442	0.233
pit 59	0.762	0.724	0.362
pit 60	0.392	0.367	0.32
pit 61	0.644	0.521	0.176
pit 62	0.5	0.417	0.2
pit 63	0.825	0.74	0.144
pit 64	1.294	0.956	0.462
pit 65	0.61	0.563	0.236
pit 66	0.28	0.265	0.192
pit 67	0.861	0.845	0.164
pit 68	0.539	0.534	0.432
pit 69	0.406	0.387	0.116
pit 70	0.531	0.515	0.16
pit 71	0.738	0.564	0.208
pit 72	0.632	0.607	0.512
pit 73	0.493	0.46	0.352
pit 74	0.925	0.866	0.44
pit 75	0.518	0.424	0.184
pit 76	0.645	0.624	0.163
pit 77	0.663	0.625	0.212
pit 78	0.376	0.368	0.18
pit 79	0.342	0.301	0.215
pit 80	0.353	0.325	0.195
pit 81	0.589	0.466	0.159
pit 82	0.311	0.308	0.159
pit 83	0.271	0.27	0.87
pit 84	0.931	0.815	0.264
pit 85	0.818	0.723	0.384
pit 86	0.464	0.422	0.96
pit 87	1.015	0.78	0.124
pit 88	0.229	0.195	0.104
pit 89	0.245	0.232	0.08
pit 90	0.382	0.376	0.136
pit 91	0.466	0.412	0.144
pit 92	0.913	0.83	0.592
pit 93	0.569	0.539	0.436
pit 94	0.753	0.696	0.427
pit 95	0.517	0.488	0.235
pit 96	0.484	0.417	0.227
pit 97	0.265	0.25	0.209
pit 98	0.242	0.222	0.096
pit 99	0.482	0.473	0.16
pit 100	0.412	0.414	0.128
pit 101	0.947	0.863	0.376
pit 102	0.34	0.341	0.152
pit 103	1.022	0.854	0.222
pit 104	0.495	0.494	0.276
pit 105	0.557	0.537	0.328
pit 106	1.129	1.036	0.492
pit 107	0.573	0.464	0.256
pit 108	0.385	0.34	0.238
pit 109	0.269	0.274	0.131
pit 110	0.441	0.38	0.195
pit 111	[0.508]	0.644	0.276
pit 112	0.501	0.497	0.168
pit 113	0.399	[0.321]	0.247
pit 114	0.811	0.806	0.333
pit 115	1.445	1.028	0.327
pit 116	0.333	0.308	0.315
pit 117	0.366	0.322	0.217
pit 118	0.487	0.427	0.299
pit 119	0.784	0.65	0.439
pit 120	0.466	0.423	0.349
pit 121	0.376	0.366	0.325
pit 122	0.67	0.688	0.439
pit 123	0.61	0.618	0.476
pit 124	0.787	0.731	0.465
pit 125	0.572	0.388	0.299
pit 126	0.92	0.878	0.304
pit 127	0.755	0.595	0.374
pit 128	0.784	0.702	0.454
pit 129	0.493	0.463	0.32
pit 130	0.38	0.321	0.249
pit 131	0.636	0.458	0.307
pit 132	0.929	0.628	0.503
pit 133	0.379	0.359	0.296
pit 134	0.663	0.602	0.238
pit 135	0.777	0.648	0.604
pit 136	0.652	0.641	0.278
pit 137	0.613	0.616	0.262
pit 138	0.629	0.589	0.214
pit 139	0.6	0.527	0.472
pit 140	0.358	0.298	0.214
pit 141	0.807	0.657	0.211
pit 142	1.042	0.897	0.22
pit 143	0.583	0.56	0.126
pit 144	0.638	0.589	0.118
pit 145	1.262	1.003	0.262
pit 146	0.912	0.849	0.324
pit 147	0.673	0.624	0.284
pit 148	0.477	0.325	0.202
pit 149	0.594	0.545	0.302
pit 150	0.511	0.45	0.201
pit 151	0.647	0.483	0.284
pit 152	0.658	0.589	0.263
pit 153	0.854	0.822	0.203
pit 154	0.688	0.668	0.414
pit 155	0.909	0.811	0.502
pit 156	0.785	0.728	0.177
pit 157	0.451	0.409	0.24
pit 158	0.787	0.657	0.184
pit 159	0.435	0.428	0.064
pit 160	0.419	0.423	0.188
pit 161	1.092	1.09	0.26
pit 162	0.376	0.37	0.192
pit 163	0.45	0.446	0.156
pit 164	0.403	0.327	0.246
pit 165	0.536	0.412	0.234
pit 166	0.62	0.617	0.194
pit 167	0.593	0.531	0.238
pit 168	0.396	0.385	0.254
pit 169	0.68	0.561	0.23
pit 170	1.111	1.048	0.23
pit 171	0.668	0.585	0.305
pit 172	0.499	0.472	0.293
pit 173	1.06	0.893	0.489
pit 174	[1.013]	1.021	0.175
pit 175	0.467	0.376	0.292
pit 176	0.265	0.202	0.208
pit 177	0.42	0.379	0.108
pit 178	0.498	0.411	0.259
pit 179	0.87	0.695	0.418
pit 180	0.727	0.665	0.231
pit 181	0.654	0.576	0.343
pit 182	0.791	0.64	0.31
pit 183	0.759	0.774	0.263
pit 184	0.853	0.749	0.447
pit 185	1.011	0.769	0.111
pit 186	0.843	0.847	0.147
pit 187	0.429	0.34	0.076
pit 188	0.78	0.8	0.398
pit 189	1.032	0.835	0.219
pit 190	1.492	1.08	0.546
pit 191	1.092	0.798	0.324
pit 192	0.489	0.48	0.116
pit 193	0.371	0.345	0.09
pit 194	0.398	0.393	0.176
pit 195	1.382	1.22	0.366
pit 196	[0.967]	1.317	0.121
pit 197	0.864	0.811	0.532
pit 198	0.678	0.645	0.268
pit 199	0.493	0.474	0.228
pit 200	0.359	0.358	0.224
pit 201	0.329	0.28	0.228
pit 202	0.305	0.283	0.268
pit 203	0.314	0.3	0.232
pit 204	0.507	0.49	0.036
pit 205	–		
pit 206	0.41	0.379	0.256
pit 207	0.368	0.325	0.192
pit 208	–		
pit 209	0.498	0.412	0.256
pit 210	–		
pit 211	1.094	0.849	–
pit 212	0.585	0.56	0.17
pit 213	0.656	0.526	0.262
pit 214	0.525	0.54	0.162
pit 215	0.408	0.404	0.216
pit 216	0.907	0.852	0.352
pit 217	1.057	0.74	0.402
pit 218	0.223	0.239	0.246
pit 219	0.432	0.375	0.147
pit 220	0.371	0.327	0.131
pit 221	0.383	0.34	0.273
pit 222	0.54	0.536	0.22
pit 223	0.299	0.299	0.24
pit 224	0.277	0.246	0.208
pit 225	0.785	0.744	0.356
pit 226	0.597	0.571	0.588
pit 227	0.609	0.589	0.365
pit 228	0.488	0.464	0.293
pit 229	0.579	0.451	0.258
pit 230	0.675	0.53	0.113
pit 231	1.495	1.193	0.165
pit 232	0.286	0.26	0.187
pit 233	0.372	0.352	0.182
pit 234	0.777	0.749	0.09
pit 235	0.401	0.327	0.223
pit 236	0.474	0.451	0.192
pit 237	0.64	0.548	0.095
pit 238	0.588	0.45	0.103
pit 239	0.469	0.436	0.187
pit 240	0.377	0.34	0.188
pit 241	0.415	0.388	0.473
pit 242	0.532	0.444	0.498
pit 243	0.558	0.546	0.178
pit 244	0.278	0.215	0.142
pit 245	0.292	0.287	0.146
pit 246	0.719	0.645	0.338
pit 247	0.602	0.545	0.212
pit 248	0.573	0.54	0.446
pit 249	0.656	0.661	0.192
pit 250	0.286	0.28	0.088
pit 251	0.629	0.618	0.16
pit 252	0.444	0.41	0.213
pit 253	0.489	0.408	0.302
pit 254	0.646	0.581	0.414
pit 255	0.551	0.527	0.29
pit 256	0.423	0.363	0.166
pit 257	0.55	0.52	0.296
pit 258	1.025	0.514	0.268
pit 259	0.741	0.677	0.148
pit 260	0.553	0.546	0.134
pit 261	0.51	0.433	0.234
pit 262	[0.546]	0.856	0.164
pit 263	[0.436]	0.722	–

1は土師器皿。時期：11～12世紀代の土師質土器で、17号竪穴と同時期。

257号ピット（第13・143図、図版37・46）

位置：10号竪穴内の４本柱穴のうち、南東隅の柱穴。形態：0.55 × 0.5 m、深さ0.5 mの円形ピット。遺物：１は土師器坏。時期：８世紀前半。

埋没谷（第92・144図、図版46）

位置：調査区南東側の竪穴群がない部分が、ここでいう埋没谷の範囲である。図４の等高線図が示すように、調査区南東隅が地形的に低くなっていて、竪穴群が分布する微高地面で確認された遺構確認面は存在しない。第１図の全体図には埋没谷上面に溝状遺構が多数図示されているが、それらは現代のブドウ畑に関わる溝である。埋没谷については、一部を掘り抜いてみたところ､わずかではあるが土師器片が出土したため、東西方向にトレンチを掘ることとした。等高線に直交するように、長さ14 m、幅１mのトレンチを設定し礫層面まで掘り下げたところ、東へ向かって徐々に深さを増し、調査区の東壁近くでは地表下2.8 mで地山の礫層面が確認された。覆土中からは摩耗した土師器細片がわずかに出土する程度であったため、埋設保存とした。覆土は黒褐色砂質土、黒褐色粘土などの自然堆積層で、一部溝状となる落ち込みが断面に確認されている。遺物：１は須恵器坏、２は灰釉陶器埦、３は土師器壷または甕。時期：８～11世紀代、あるいはそれ以前の遺物を含み、おおむね微高地上の竪穴等の時期、土師器類と一致するものである。

遺構外（第146図）

遺物：１・２は平安末の土師器坏、３・４・６～８は奈良・平安時代の甲斐型坏。５は甲斐型直前の土師器大形坏。９・10は平安末の高台坏。11・12は古墳前期の高坏。13・14はかわらけ皿。15は古墳前期の台付甕脚部、16・17は壷。18は押圧縄文をもつ縄文前期関山式。19は凹み石。20・21は砥石。

第４節　五反田遺跡から出土した大型植物遺体

バンダリ スダルシャン・
佐々木由香（パレオ・ラボ）

１．はじめに

山梨県甲州市塩山に位置する五反田遺跡は、古墳時代から奈良・平安時代の集落遺跡である。ここでは、平安時代を主体とした８世紀～11世紀の竪穴住居跡の竈から出土した炭化種実の同定結果を報告し、当時の利用植物や植生、栽培状況について検討した。

２．試料と方法

試料は、水洗選別済みの17試料である。サンプリング位置はすべて竈内覆土で、焼土層を含む炭化物を多く含んだ箇所である。

水洗試料は、４号竪穴竈（土量4200g）、５号竪穴竈（土量1820g）、７号竪穴竈（土量3618g）、10号竪穴竈（土量1600g）、18号竪穴竈（土量1200g）、29号竪穴竈（土量4400g）、30号竪穴竈（土量900g）、36号竪穴竈（土量2300g）、37号竪穴竈（土量3600g）、38号竪穴竈（土量1200g）、39号竪穴竈（土量10700g）、41号竪穴竈（土量5200g）、42号竪穴竈（土量8100g）、43号竪穴竈（土量4000g）、64号竪穴竈（土量1300g）、65号竪穴竈（土量310g）、68号竪穴竈（土量3400g）から回収された。遺構の時期は、10号竪穴竈が８世紀前半～中葉、65号竪穴竈が10世紀前半、42号竪穴竈が10世紀前半～後半、４号竪穴竈と18号竪穴竈、29号竪穴竈、30号竪穴竈、36号竪穴竈、37号竪穴竈、43号竪穴竈、64号竪穴竈、68号竪穴竈が10世紀後半、41号竪穴竈が10世紀後半～11世紀前半、38号竪穴竈と39号竪穴竈が11世紀前半、５号竪穴竈と７号竪穴竈が11世紀前半と推定されている。

試料の水洗および炭化物の抽出は、公益財団法人山梨文化財研究所によって行われた。フローテーション法により浮遊選別がなされ、肉眼で炭化種実が抽出されていた。試料は炭化種実とその他の一括に分けられており、双方の試料を確認した。

同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。試料は、公益財団法人山梨文化財研究所に保管されている。

３．結果

同定した結果、木本植物ではムクロジ炭化種子・炭化子葉の１分類群、草本植物ではホタルイ属炭化果実と、イネ炭化籾・炭化種子（頴果）、キビ炭化有ふ果・炭化種子（頴果）、オオムギ炭化種子（頴果）、コムギ炭化種子（頴果）、ノブドウ炭化種子、ダイズ属炭化種子、ハギ属炭化種子、ソバ炭化果実、シソ属炭化果実の10分類群の、計11分類群が得られた（表３、４）。この他に、科以上の詳細な同定ができない芽の一群を

表３　五反田遺跡から出土した炭化種実(1)（括弧内は破片数）

	遺構名	4号竪穴竈	5号竪穴竈	7号竪穴竈	10号竪穴竈	18号竪穴竈	29号竪穴竈	30号竪穴竈	36号竪穴竈	37号竪穴竈
	時期	10世紀後半	11世紀前半か		8世紀前半～中葉	11世紀前半	10世紀後半			
分類群	重量（g）	4200	1820	3618	1600	1200	4400	900	2300	3600
イネ	炭化種子	3 (4)		10 (3)			2 (1)	(2)	1	
オオムギ	炭化種子		20 (3)	9						
コムギ	炭化種子		2	5 (2)			2			
ダイズ属	炭化種子	1		2				1		
ハギ属	炭化種子							1		
シソ属	炭化果実						1			
同定不能	炭化種実	(4)	(20)	(34)	(2)		(18)	(3)	(5)	(5)
虫えい	炭化	3 (6)								

表４　五反田遺跡から出土した炭化種実(2)（括弧内は破片数）

	遺構名	38号竪穴竈	39号竪穴竈	41号竪穴竈	42号竪穴竈	43号竪穴竈	64号竪穴竈	65号竪穴竈	68号竪穴竈
	時期	11世紀前半		10世紀後半～11世紀前半	10世紀前半～後半	10世紀後半		10世紀前半	10世紀後半
分類群	重量（g）	1200	10700	5200	9500	2800	1300	310	3400
ムクロジ	炭化種子			(1)					
	炭化子葉			(5)					
ホタルイ属	炭化果実		3						
イネ	炭化籾		(1)						
	炭化種子	8 (3)	22 (24)	7 (23)	2 (6)	1 (14)	(2)	3	4 (3)
キビ	炭化有ふ果			1					
	炭化種子					1			
オオムギ	炭化種子			1					
コムギ	炭化種子								9
ノブドウ	炭化種子					(6)			
ダイズ属	炭化種子		1	2 (1)					
ソバ	炭化果実		(1)						
同定不能	炭化種実		(4)	(13)	(19)	(3)			(4)
不明	炭化芽	1				6			
虫えい	炭化	1							

不明炭化芽、同定の識別点を欠く種実の一群を同定不能炭化種実とした。炭化種実以外には、炭化した虫えいが得られた。

以下に、炭化種実の産出状況を遺構別に示す（不明炭化芽と同定不能炭化種実は除く）。

４号竪穴竈：イネとダイズ属がわずかに得られた。

５号竪穴竈：オオムギがやや多く、コムギがわずかに得られた。

７号竪穴竈：イネが少量、オオムギとコムギ、ダイズ属がわずかに得られた。

10号竪穴竈：同定可能な炭化種実は得られなかった。

18号竪穴竈：同定可能な炭化種実は得られなかった。

29号竪穴竈：イネとコムギ、シソ属がわずかに得られた。

30号竪穴竈：イネとダイズ属、ハギ属がわずかに得られた。

36号竪穴竈：イネがわずかに得られた。

37号竪穴竈：同定可能な炭化種実は得られなかった。

38号竪穴竈：イネがわずかに得られた。

39号竪穴竈：イネがやや多く、ホタルイ属とダイズ属、ソバがわずかに得られた。

41号竪穴竈：イネが少量、ムクロジとキビ、オオムギ、ダイズ属がわずかに得られた。

42号竪穴竈：イネがわずかに得られた。

43号竪穴竈：イネとキビ、ノブドウがわずかに得られた。

64号竪穴竈：イネがわずかに得られた。

65号竪穴竈：イネがわずかに得られた。

68号竪穴竈：イネとコムギがわずかに得られた。

次に、炭化種実の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする（図版47）。なお、分類群の学名や順番については、米倉・梶田（2003-）に準拠し、LAPG Ⅲリストの順とした。

⑴ムクロジ　*Sapindus mukorossi* Gaertn.　炭化種子・炭化子葉　ムクロジ科

種子は、完形ならば球形。上部は突出せず、やや平坦。表面は平滑。黒色で線状の着点がある。残存高 11.0㎜、残存幅 14.2㎜。子葉は円形だが、基部が平らでやや凹み、種子着痕が縦方向の溝となってみられる。残存高 15.6㎜、残存幅 14.7㎜、残存厚 8.1㎜。

⑵ホタルイ属　*Schoenoplectus* spp.　炭化果実　カヤツリグサ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は短倒卵形。頂部が

尖り、基部は狭まって着点がある。壁は硬い。光沢がある。波打った溝が横に走る。長さ2.1㎜、幅1.5㎜。

⑶イネ　*Oryza sativa* L.　炭化籾・炭化種子（頴果）　イネ科

籾は完形ならば側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長3.1㎜、残存幅2.5㎜。種子（頴果）の上面観は両凸レンズ形、側面観は長楕円形。一端に胚が残る。両面に縦方向の２本の浅い溝がある。長さ4.7㎜、幅2.7㎜。

⑷キビ　*Panicum miliaceum* L.　炭化有ふ果・炭化種子（頴果）　イネ科

有ふ果は完形ならば丸みがあり、表面は平滑。残存長1.8㎜、残存幅1.7㎜。種子（頴果）の側面観は卵形で、先端が窄まってやや尖り気味となる。断面は片凸レンズ形で厚みがある。胚の長さは全長の1/2程度と短い。胚は幅が広いうちわ型。長さ1.7㎜、幅1.5㎜。

⑸オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　炭化種子（頴果）　イネ科

上面観は円形、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る１本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面形は円形となる（Jacomet, 2006）。長さ5.1㎜、幅3.4㎜、厚さ2.6㎜。

⑹コムギ（パンコムギ）　*Triticum aestivum* L.　炭化種子（頴果）　イネ科

上面観は円形、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る１本の溝がある。背面の下端中央部には扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい形状である。断面形状は腹面側が窪み、背面側が円形となる。またコムギの場合、側面観で最も背の高い部分（幅の広い部分）が基部付近に来る。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種あるが、一般的に日本産コムギと呼称しているのはパンコムギである。ここでは一般的な呼称で記載した。長さ4.8㎜、幅2.7㎜、厚さ2.6㎜。

⑺ノブドウ　*Ampelopsis glandulosa*（Wall.）Momiyama var. *heterophylla*（Thunb.）Momiyama　種子　ブドウ科

完形ならば上面観は円形、側面観はほぼ円形。背面のカラザはへら状。腹面には深く長い溝が２つある。残存長2.2㎜、残存幅2.0㎜。

⑻ダイズ属　*Glycine* spp.　炭化種子　マメ科

変形が著しいが、本来の上面観･側面観は楕円形か。臍は楕円形で全長の1/2未満。へその中央には小畑ほか（2007）に示されたダイズ属の特徴である縦溝（裂けている）とその周囲の隆線がある。長さ7.4㎜、幅5.0㎜、厚さ4.0㎜。計測可能な種子７点の大きさは、長さ4.7～7.4（平均6.2±0.9）㎜、幅3.7～5.2（平均4.5±0.5）㎜、厚さ2.5～4.4（平均3.5±0.7）㎜である（表５）。

表５　五反田遺跡から出土したダイズ属の大きさ
（単位 mm）

		長さ	幅	厚さ	出土遺構	時期
ダイズ属	炭化種子	7.1	5.2	4.4	竪4	10世紀後半
	炭化種子	6.2	4.0	3.0	竪7	11世紀前半か
	炭化種子	6.7	4.4	3.9		
	炭化種子	7.4	5.0	4.0	竪30	10世紀後半
	炭化種子	4.7	3.7	2.5	竪39	11世紀前半
	炭化種子	5.6	4.5	3.5	竪41	10世紀後半～
	炭化種子	5.9	4.4	3.2		11世紀前半
	最小	4.7	3.7	2.5		
	最大	7.4	5.2	4.4		
	平均	6.2	4.5	3.5		
	標準偏差	0.9	0.5	0.7		

⑼ハギ属　*Lespedeza* sp.　炭化種子　マメ科

一部発泡しているが、上面観・側面観ともにいびつな楕円形。上端寄りに円形の小さい臍がある。表面は平滑。長さ1.3㎜、幅1.1㎜。

⑽ソバ　*Fagopyrum esculentum* Moench　炭化果実　タデ科

完形ならば横断面が正三角形の三稜形。着点付近には膜状の果皮が残存する。残存長3.7㎜、幅3.9㎜。

⑾シソ属　*Perilla* sp.　炭化果実　シソ科

いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.9㎜、残存幅1.6㎜。

４．考察

平安時代を主体とした８世紀～11世紀の17軒の竪穴住居跡の竈から出土した炭化種実の同定を行った結果、14軒から炭化種実が得られた。炭化種実のうち、栽培植物としてはイネとキビ、オオムギ、コムギ、ダイズ属、ソバが得られた。炭化種実はイネが多く、穀類が複数種伴って得られた。ダイズ属は那須ほか（2015）の基準で比較すると、39号竪穴竈から出土した１点が長さ4.7㎜、幅3.7㎜、厚さ2.5㎜で野生種のツルマメに近い大きさ、これ以外は栽培種のダイズまたは栽培種と野生種の中間型の大きさであった。以下、時期別に考察を行う。

８世紀前半～中葉の10号竪穴竈からは、同定可能な種実は得られなかった。

10世紀前半の65号竪穴竈と10世紀前半～後半の42号竪穴竈からは、イネがわずかに得られたが、他の穀類はみられなかった。

炭化種実の量や遺構数が増加するのは、10世紀後半である。炭化種実が７軒から得られ、いずれもイネが含まれていた。このうち２軒からはダイズ属とコムギが得られ、シソ属とハギ属、ノブドウ、キビも各１軒から得られた。食用にならないハギ属とノブドウは、竈内で偶発的に炭化したと考えられる。

10世紀後半～11世紀前半の41号竪穴竈からは、イネとキビ、オオムギ、ダイズ属といった穀類に伴い、木本植物のムクロジが得られた。ムクロジは、民俗例で薬用に用いる事例があり、種子を取り除いてサポニンを含む果実を乾燥したり、種子を焼いたりする（長沢, 2012）。不要な種子を燃やした可能性や、種子を焼くために竈に入れた可能性などが考えられるが、復元個体数で１個以下のため、産出状況からはどのように利用したかは不明であった。

11世紀前半の38号竪穴竈と39号竪穴竈からは、イネが得られ、炭化種実の残りが良かった39号竪穴竈からはホタルイ属とダイズ属、ソバがわずかに得られた。ホタルイ属は抽水植物であり、水田などに生育していたものが偶発的に炭化した可能性がある。

11世紀前半の可能性がある５号竪穴竈からは、イネはみられず、オオムギとコムギのみが、７号竪穴竈ではイネとオオムギとコムギ、ダイズ属が得られた。ムギ類は、10世紀後半以降にやや増加する傾向がみられた。

引用文献

Jacomet, S. and collaborators Archaeobotany Lab.（2006）Identification of cereal remains from archaeological sites. 2nd edition, IPAS, Basel Univ.

長沢　武（2012）野外植物民俗事苑. 443p, ほおずき書籍.

那須浩郎・会田　進・佐々木由香・中沢道彦・山田武文・輿石　甫（2015）炭化種実資料からみた長野県諏訪地域における縄文時代中期のマメの利用. 資源環境と人類５：37-52.

小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子（2007）土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培. 植生史研究 15-2, 97-114.

米倉浩司・梶田　忠（2003-）BG Plants 和名―学名インデックス（YList）, http://ylist.info

表6　土器観察表

図	地点	№.	種別	器種・部位	時期	口/底/高	技法	色調・焼成	胎土	注記	備考
93	1竪	1	土師	坏	平安	14.4/6.0/5.0	ナデ,削り,底部糸切後削り	橙,良	赤・雲・長	1竪335・336・337・一括	外面黒変,6割残
93	1竪	2	土師	坏	平安	(12.4)/6.0/4.2	ナデ,削り,内面放射暗文,底部糸切後削り	明褐,良	赤・石	1竪353・一括	約3割残
93	1竪	3	土師	坏	平安	(12.4)/?/?	ナデ,削り	黄褐,やや不良	赤・白	1竪一括	2割残
93	1竪	4	土師	坏	奈良	?/(9.0)/?	ナデ,削り,内面横ミガキ,見込放射暗文	明褐,良	赤・雲	1竪348・一括	内面一部黒変
93	1竪	5	土師	甕	平安	31.8/9.3/31.7	ハケメ,ナデ,底部木葉痕	赤褐,良	長・雲・赤・角	1竪364・365,竈2624・2627・2629～2632・一括	約5割残存,外面上半粘土・下半スス
93	1竪	6	土師	甕	平安	(20.0)/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	雲・長・角	1竪361	小片
93	1竪	7	土師	甕	平安	(25.4)/?/?	ハケメ	鈍い褐	雲多・長・角	1竪346・350・一括	内外面薄く黒変
93	1竪	8	土師	鉢	平安	(38.6)/?/?	ハケメ	橙,良	長・雲・石・角	1竪351	外面スス
93	1竪	9	土師	甕底	平安	?/(8.0)/?	ハケメ,底部木葉痕	鈍い褐,良	長・雲・角	1竪338	内外面変色
93	2竪	1	土師	坏	平安末	(6.4)/5.0/3.7	ナデ,底部糸切	鈍い褐,やや良	長・角・雲	2竪竈389・391	竈内出土,内面一部黒変,約6割残
93	2竪	2	土師	坏	平安末	(14.0)/(6.0)/4.1	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	長・雲・角	2竪382・386・387・一括	内外面薄く黒変
93	2竪	3	土師	坏	平安末	(11.0)/(5.0)/3.1	ナデ	鈍い褐,不良	長・雲・赤・角	2竪366	磨耗・外面変色
93	2竪	4	土師	皿	平安末	(10.8)/5.0/2.5	ナデ,底部糸切	橙,良	赤・長・雲	2竪381・383	約4割残
94	2竪	5	土師	高台坏	平安末	9.9/5.6/4.2	ナデ,付高台	赤褐,良	赤・白・礫	2竪369・370	内面一部黒変,内外面赤変
94	2竪	6	土師	甕	平安末	(33.4)/?/?	ナデ	黄褐～橙褐,良	雲・長・角・石	2竪372・377	外面スス・黒変,内面変色
94	2竪	7	土師	甕	平安末	(34.0)/?/?	ナデ	赤褐,良	長・角・赤	2竪392・393,60竪1768	外面変色,内面コゲ厚い
94	3竪	1	土師	坏	平安末	10.0/4.6/3.0	ナデ,底部糸切	褐,良	長・赤・雲・角	3竪竈2480・7竪406・一括	約8割残
94	3竪	2	土師	坏	平安末	10.0/4.2/3.1	ナデ,底部糸切	鈍い褐,やや良	長・赤・石・角	3竪326・327,竈2477	内外面薄く黒変,8割残
94	3竪	3	土師	坏	平安末	(9.8)/4.5/3.2	ナデ,底部糸切	鈍い褐,不良	長多・角・赤・雲	3竪竈2479	磨耗
94	3竪	4	土師	坏	平安末	10.6/4.2/3.5	ナデ,底部糸切	橙,ややに良	長・角・雲・赤・石	3竪竈2482	口縁歪み,9割残,内面薄く変色
94	3竪	5	土師	坏	平安末	?/5.6/?	ナデ,底部糸切	褐,良	長・赤・石	3竪竈2486	
94	3竪	6	土師	黒色坏	平安	?/(5.0)/?	削り,内面放射暗文・黒色	褐,良	赤・長	3竪323	内面黒色
94	3竪	7	土師	甕	平安末	(29.6)/?/?	ナデ	暗褐,良	長・角・赤	3竪竈2483・4竪288	内面コゲ,外面スス
94	3竪	8	須恵	壷	平安	?/?/?	ナデ,叩き	灰,良	長	3竪330	外面自然釉
95	4竪	1	土師	坏	平安末	(13.2)/(6.0)/4.2	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	長・雲・赤	4竪298・床308・一括	内面薄く黒変
95	4竪	2	土師	高台坏	平安末	(13.7)/?/?	ナデ,付高台	鈍い褐,やや良	長・雲・角・花	4竪303,竈2603・2604,一括	全体摩耗,約5割残
95	4竪	3	土師	高台皿	平安末	(14.8)/?/?	ナデ,付高台	黄褐,良	赤・長・石	4竪301・床309	内面一部黒斑
95	4竪	4	灰釉	碗	平安末	(15.0)/?/?	ナデ,内面沈線,内外面施釉	白灰,良		4竪306	
95	4竪	5	灰釉	碗	平安末	(15.2)/?/?	ナデ,内面一部施釉	白灰,良	白	4竪一括	
95	4竪	6	土師	坏	平安末	(12.4)/(5.6)/7.9	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	長・花・石・赤	4竪竈2595・2600～2602・2604	内外面薄く黒変,竈内
95	4竪	7	土師	甕	平安末	(32.6)/?/?	ナデ	鈍い褐,良	長・雲・角・赤	4竪竈2611・2612・3253	竈内,外面スス・内面コゲ
95	4竪	8	土師	羽釜	平安末	(28.0)/?/?	ナデ	黒褐,良	長・赤・雲	4竪竈2589・2598・2610・3253,5竪竈2500	内外面変色,竈内出土
95	5竪	1	土師	皿底	平安末	?/4.7/?	ナデ,底部糸切	鈍い橙,やや良	長・赤	5竪竈444	竈内
95	5竪	2	土師	坏底	平安末	?/4.6/?	ナデ,底部糸切	黄褐,良	長・雲・赤	5竪竈2494	竈内
95	5竪	3	土師	坏底	平安末	?/4.2/?	ナデ	鈍い橙,不良	長・礫	5竪竈2496	竈内,磨耗
95	5竪	4	土師	坏底	平安末	?/5.1/?	ナデ	鈍い橙,やや不良	長・赤	5竪床443	摩耗
95	5竪	5	土師	甕	平安末	(34.0)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲	5竪436	内外面薄く黒変,小片
95	5竪	6	土師	甕	平安末	(34.2)/?/?	ナデ	鈍い褐,良	雲・長	5竪437・竈449,4竪竈2592・2597	内外面薄く黒変
96	5竪	7	土師	羽釜	平安末	(23.5)/?/?	ナデ,底部木葉痕	黒褐,良	長・雲	5竪竈2490・2497～2499,4竪299・302,3竪竈2484・4竪床310	内外面黒変,外面灰?,竈内,底部は3・4竪出土,同一?
95	5竪	8	土師	甕底	平安末	?/10.0/?	ナデ	褐,やや不良	長・白多・赤粗大	5竪438・489,竈445	底部外面摩耗顕著
96	6竪	1	土師	坏	平安末	(12.8)/6.8/4.0	ナデ,底部糸切	鈍い褐,やや良	長・赤	6竪459	内外面薄く変色
95	6竪	2	土師	坏	平安末	11.1/4.3/3.5	ナデ,底部糸切	鈍い橙,やや良	長・雲・石・赤	6竪464・466・竈一括	ほぼ完存,磨耗,内外面薄く変色
96	6竪	3	土師	坏	平安末	(13.1)/(7.4)/3.5	ナデ,底部糸切	灰褐,やや良	長・角	6竪452	内外面変色
96	6竪	4	土師	坏	平安末	(11.6)/(6.4)/3.2	ナデ,底部糸切	鈍い褐,やや良	長・雲・石	6竪476	内外面薄く黒変
96	6竪	5	土師	坏	平安末	(13.0)/?/?	ナデ	鈍い灰褐,良	長・雲・赤	6竪竈2505	内外面黒変
96	6竪	6	土師	坏底	平安末	?/4.7/?	ナデ,底部糸切	鈍い橙,良	長・赤・雲微	6竪468	
96	6竪	7	土師	坏底	平安末	?/5.5/?	ナデ,底部糸切	黄褐,良	長・赤・石	6竪474	外面薄く黒変
96	6竪	8	土師	坏底	平安末	?/5.7/?	ナデ,底部糸切	鈍い褐,不良	長・角	6竪456	内面薄く黒変
96	6竪	9	土師	坏底	平安末	?/5.0/?	ナデ,底部糸切	鈍い褐,やや不良	赤・長	6竪460	
96	6竪	10	土師	甕	平安末	33.0/8.3/25.5	ハケメ,底部木葉痕	褐～暗褐,良	雲・長・角	6竪465・469・470～473・487・488,竈477・478・2508・2504・2511・2515・2563・2619～2621・3230・3237・一括	ほぼ完存,内面変色,外面黒変,灰？付着
97	6竪	11	土師	甕	平安末	(20.0)/?/?	ナデ,ハケメ	鈍い黄橙,良	長・礫・赤大	6竪457	外面薄く黒変
97	6竪	12	土師	甕	平安末	?/?/?	ナデ	赤褐～暗褐,やや良	長・赤・雲・礫	6竪462・467・478・2509・2510・2512・2514・2531,竈2507・2513・2618	外面全体に薄く粘土付着,赤変,内面コゲ
97	7竪	1	土師	坏	平安末	(12.8)/6.0/4.1	ナデ,底部糸切	鈍い黄褐,良	長・赤	7竪410・2789	内面変色,約3割残
97	7竪	2	土師	坏	平安末	(12.0)/(7.0)/3.3	ナデ,底部糸切	灰褐,良	長・赤・角	7竪竈2790	竈内,内外面変色,須恵?
97	7竪	3	土師	坏	平安末	(12.7)/?/?	ナデ	褐,やや不良	長・赤・石	7竪竈2792・一括	内面一部変色
97	7竪	4	土師	坏	平安末	(12.4)/?/?	ナデ	褐,良	雲・長・赤	7竪竈一括	外面一部黒変
97	7竪	5	土師	坏底	平安末	?/5.0/?	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	長・雲	7竪412	外面薄く黒変
97	7竪	6	土師	甕	平安末	(41.0)/?/?	ナデ	褐～黒褐,良	長・角・赤	7竪399～402,3竪竈2478・一括	内面黒変,外面薄く変色
98	8竪	1	土師	坏	平安	12.6/5.0/4.2	ナデ・削り	明褐,良	赤・長・雲	8竪竈2894・床3064	5割残
98	8竪	2	土師	坏	平安	(14.0)/4.4/4.8	ナデ・削り	鈍い褐,良	長・石・赤	8竪床3064	4割残,内外面薄く黒変
98	8竪	3	土師	坏	平安	(14.0)/(5.0)/4.9	ナデ・削り	明褐,良	長・赤・雲	8竪竈3229・一括	竈出土,外面一部黒変
98	8竪	4	土師	坏	平安	(12.2)/?/?	ナデ・削り	橙,良	赤・白	8竪床3064	内面薄く黒変
98	8竪	5	土師	坏	平安	(13.1)/?/?	ナデ・削り	明褐,良	赤・白	8竪505	
98	8竪	6	土師	坏	平安	?/(5.0)/?	ナデ・削り,底部削り,内面放射暗文	褐,良	赤	8竪507	
98	8竪	7	土師	坏	平安	?/5.0/?	ナデ・削り,底部糸切後削り	鈍い橙,良	赤・雲微・白	8竪514,竈2891	内面変色
98	8竪	8	土師	坏	平安	?/(6.0)/?	ナデ・削り,底部糸切後削り	橙,良	赤・白・雲微	8竪竈2889	
98	8竪	9	土師	坏	平安	?/4.0/?	ナデ・削り,内面放射状暗文	明褐,良	赤・白	8竪504	
98	8竪	10	土師	坏	平安	(12.0)/?/?	ナデ・削り	黄褐,良	赤・白	8竪500・509,竈一括	
98	8竪	11	土師	坏	平安	(17.0)/?/?	ナデ・削り	明褐,良	赤・長・雲微	8竪竈2889・2890・一括	内面一部黒変
98	8竪	12	土師	皿	平安	11.8/4.0/2.5	ナデ・削り,底部糸切後削り	明褐,良	長・赤・雲	8竪502,竈2889・2891・一括	約8割残,内外面薄く黒変
98	8竪	13	土師	皿	平安	(13.8)/(5.0)/2.5	ナデ・削り,底部削り	明褐,良	赤・長	8竪床520	底部外面墨書
98	8竪	14	須恵	高台坏	平安	(12.7)/(8.0)/4.2	ナデ,底部付高台	赤灰褐,良	長	8竪517	
98	8竪	15	土師	小形甕	平安	(13.8)/?/?	ハケメ・ナデ	暗褐,良	長・雲・角	8竪一括	外面粘土,内外面変色
98	8竪	15	土師	小形甕	平安	?/8.0/?	ハケメ,底部木葉痕	暗褐～黒褐,良	長・雲	8竪床519・一括	内面黒変顕著
98	8竪	16	土師	置き竈	平安	(29.2)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲・角	8竪床524・一括	胴部孔,内面褐色粘土
99	9竪	1	土師	坏	平安末	(12.8)/?/?	ナデ	褐,やや良	長・赤・雲・礫	9竪竈2655	内面薄く変色,小片
99	9竪	2	土師	坏	平安末	(12.0)/?/?	ナデ	明褐,やや良	長・赤	9竪竈2667	摩耗
99	9竪	3	土師	坏底	平安末	?/5.0/?	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	長・赤・角	9竪536・537・一括	外面薄く黒変
99	9竪	4	土師	高台坏底	平安末	?/(5.0)/?	ナデ,付高台?	鈍い赤褐,良	赤・白	9竪526	内面変色,剥離
99	9竪	5	灰釉	皿	平安末	(12.0)/?/?	ナデ・内外面施釉,底部糸切後付高台	白,良		9竪床544,竈2683	施釉
99	9竪	6	土師	甕	平安末	(32.0)/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	長・角	9竪竈549・一括	内面薄く黒変
99	9竪	7	土師	甕	平安末	29.4/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	長多・角・雲・赤	9竪床546,竈550・551・2656～2660・2662・2663・2665・2666・2668～2671・2674～2676・2678・2679・2681・2682	胴部上半全周,内外面黒変
99	9竪	8	灰釉	壷底	平安末	?/(15.0)/?	ナデ,内面施釉?,回転削り,付高台	灰褐,良	白	9竪竈2684	
99	10竪	1	土師	坏	奈良	15.4/9.0/5.3	横磨き・内面見込放射暗文・削り・底部糸切後削り	明褐,良	赤・白	10竪3218,床一括	内外面赤色・塗彩?,約9割残
99	10竪	2	土師	黒色坏	奈良	(12.4)/(8.2)/4.9	削り・ナデ,底部糸切?後外周削り,内面黒色	橙褐,良	赤	10竪681	内面黒色,約2割残
99	10竪	3	土師	坏	奈良	(15.0)/(8.0)/3.4	削り・ナデ	橙褐,良	赤・雲微・長	10竪718・3217	約2割残
99	10竪	4	土師	坏	奈良	13.8/10.6/3.6	ナデ・底部外面削り	鈍い橙,良	赤・白・雲	10竪693～696・一括	8割残
99	10竪	5	土師	坏	奈良	(14.0)/(8.0)/2.9	ナデ	橙,良	赤・白	10竪769	小片
99	10竪	6	土師	坏	奈良	(16.4)/?/?	横磨き・ナデ	明橙,良	赤	10竪691	小片
99	10竪	7	土師	坏	奈良	(14.0)/?/?	ナデ・横磨き	橙,良	赤・長	10竪床一括	
99	10竪	8	土師	坏	奈良	(17.0)/?/?	削り・横磨き	褐,良	赤・白	10竪687	
99	10竪	9	土師	坏	奈良	?/(9.0)/?	横磨き・放射暗文・底部削り	褐,良	赤・雲	10竪749	小片
99	10竪	10	土師	坏	奈良	?/(9.0)/?	ナデ・削り・底部削り	橙,良	赤・白	10竪724	底部外面墨書
99	10竪	11	土師	坏	奈良	?/(8.6)/?	底部削り	鈍い褐,良	赤・白	10竪731・733	内面摩耗
99	10竪	12	土師	坏	奈良	?/(10.6)/?	削り・底部削り	明褐,良	赤・白	10竪698・699	外面赤彩?
100	10竪	13	土師	鉢	奈良	?/(9.6)/?	削り・ナデ,底部削り	褐,良	長・雲・角・赤	10竪235・701・726	外面黒変
100	10竪	14	須恵	蓋	奈良	(15.6)/?/?	ナデ	灰褐,良	長	10竪781・一括	上面重ね焼痕,変色
100	10竪	15	土師	甕	奈良	(21.0)/?/?	ナデ・削り	明褐,良	長・石・雲	10竪竈2811・竈2814	内外面黒変
100	10竪	16	土師	甕	奈良	(24.4)/?/?	ナデ	褐,良	雲・長・赤	10竪742	内外面粘土
100	10竪	17	土師	甕	奈良	(24.0)/?/?	ナデ・削り	明褐,良	長・雲・赤	10竪735	外面灰?
100	10竪	18	土師	甕	奈良	(20.8)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲・礫	10竪798	小片
100	10竪	19	土師	甕	奈良	(27.2)/?/?	ハケメ・ナデ	褐,良	長・雲・赤	10竪692・2471	
100	10竪	20	土師	甕	奈良	(37.6)/?/?	ハケメ・ナデ	褐,良	長・花・雲	10竪735	外面灰?,内面変色

図	地点	№	種別	器種・部位	時期	口/底/高	技法	色調・焼成	胎土	注記	備考
100	10竪	21	土師	甕	奈良	?/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	長・角・雲	10竪684	外面灰?
100	10竪	22	土師	甕底	奈良	?/5.6/?	ハケメ・ナデ,底部木葉痕	鈍い褐,良	長・赤・雲	10竪748・750・754	内外面薄く黒変,擬似口縁
100	10竪	23	土師	小形甕	奈良	(17.0)/?/?	ナデ	鈍い橙,不良	長・角・赤	10竪721・723・797	内面変色,外面摩耗
101	10竪	24	土師	小形甕	奈良	(13.6)/?/?	ハケメ・	鈍い褐,良	長・雲・礫	10竪730	外面薄く黒変・灰?
101	10竪	25	土師	小形甕	奈良	(11.6)/?/?	削り・ナデ	褐,良	長・雲・礫	10竪755	内面薄く黒変
101	10竪	27	土師	小形甕	奈良	(11.6)/?/?	ナデ	鈍い褐,良	長・雲・礫	10竪一括	内面薄く黒変
101	10竪	28	須恵	甕	奈良	?/?/?	叩き・当て痕	灰,良	白	10竪周溝2475	
101	10竪	29	須恵	壷	奈良	?/?/?	叩き・ナデ	灰,良	白	10竪780	
102	11竪	1	土師	坏	奈良	(13.0)/7.4/5.2	横磨き・削り・放射暗文・底部削り・磨き	明橙,良	赤・白・雲	11竪637・664・665	内外面一部黒変,約5割残
102	11竪	2	土師	坏	奈良	(15.0)/?/?	ナデ・放射暗文	明褐,良	赤・白	11竪634	薄く黒変,小片
102	11竪	3	土師	黒色坏?	奈良	(14.0)/?/?	ナデ	黒褐,良	赤	11竪629	内外面黒色
102	11竪	4	須恵	坏	奈良	(12.6)/?/?	ナデ	灰,良	長	11竪一括	小片
102	11竪	5	須恵	蓋	奈良	(19.8)/?/?	ナデ	灰,良	白	11竪一括	小片
102	11竪	6	土師	甕	奈良	(23.2)/?/?	ハケメ・ナデ・指頭痕	褐,良	長・雲多・赤	11竪652・653・661・674	外面ススor変色
102	11竪	7	土師	甕	奈良	?/?/?	ハケメ・ナデ・指頭痕	赤褐,良	長・角・赤	11竪竈2867・2872・2873・2897～2899・一括	竈内,内外面薄く変色
102	11竪	8	土師	甕底	奈良?	?/(9.0)/?	ハケメ・ナデ,底部木葉痕	鈍い褐,良	長・雲・角	11竪648・一括	外面灰・黒変
103	12竪	1	土師	坏	奈良	11.0/6.6/4.9	削り・横磨き・放射暗文,底部削り	明褐,良	白・赤	12竪612・竈2862・外181	9割残,内面線刻?
103	12竪	2	土師	坏	奈良	12.5/7.8/4.8	ナデ・削り,放射暗文,底部糸切後外周削り	鈍い橙,良	雲・赤	12竪613	完存,内面黒漆状付着,外面一部黒変
103	12竪	3	土師	坏	奈良	12.0/6.4/5.0	ナデ・削り・放射暗文,底部削り	明褐,良	赤・雲	外166	7割残,底部外面線刻
103	12竪	4	土師	坏	奈良	(12.0)/?/?	ナデ	黄褐,やや良	赤・白	12竪竈2860	小片
103	12竪	5	土師	皿	奈良	?/7.0/?	削り,底部糸切	明褐,良	赤・雲	12竪竈2853	底部外面線刻
103	12竪	6	土師	甕	奈良	(22.2)/?/?	ハケメ・指頭痕	暗褐	雲・長	12竪616・竈627・竈2858	外面変色,内外面薄く黒変
103	12竪	7	土師	甕	奈良	(22.0)/?/?	ハケメ・指頭痕	暗褐	長・雲・赤	竈2851	外面薄く黒変,6と同一?
103	12竪	8	土師	甕	奈良	(30.0)/?/?	ハケメ・指頭痕	明褐,良	雲・赤・長・角	12竪竈625・626・2852・2859・一括	外面薄く変色
103	12竪	9	土師	小形甕	奈良	(15.0)/?/?	ハケメ	鈍い褐	雲・長・角	竈627・外160	内外面薄く黒変
103	12竪	10	須恵	甕	奈良	(29.0)/?/?	ナデ	灰,良	白	12竪624	小片
103	12竪	11	須恵	甕	奈良	?/?/?	叩き・当て痕	灰,良	白	12竪623	
103	12竪	12	須恵	甕	奈良	?/?/?	叩き・当て痕	灰,良	黒	12竪615	割れ口の角磨耗
104	14竪	1	土師	皿	奈良?	14.5/6.7/3.8	回転削り,削出し高台	鈍い黄褐,良	雲・赤	14竪853	外面一部黒斑,高台内黒変,約7割残
104	14竪	2	土師	坏	奈良	(16.2)/?/?	削り・ナデ	黄褐,良	赤	14竪860	内外面一部黒変
104	14竪	3	土師	甕	平安末	(32.5)/?/?	ナデ	暗褐,良	長・雲	14竪854	外面スス,内面変色
104	15竪	1	土師	坏	平安末	(11.0)/5.1/2.9	ナデ,底部糸切	黄褐,やや良	長・赤・雲	15竪862	約7割残
104	15竪	2	土師	坏	平安末	(10.4)/?/?	ナデ	明褐,良	長・赤・雲	15竪869	小片
104	15竪	3	土師	皿	平安末	(11.0)/?/?	ナデ	明褐,やや良	長・赤・雲	15竪865	小片
104	15竪	4	土師	坏	平安末	?/5.0/?	ナデ,底部糸切	褐,やや良	長やや多・赤・角・雲	15竪竈2830	底部外面わずかに黒変
104	15竪	5	土師	皿?	平安末	?/4.7/?	底部糸切	褐,良	長・赤・雲	15竪870	
104	15竪	6	土師	甕	平安末	(22.0)/?/?	ナデ	暗褐,良	雲・長・角・赤	15竪竈2827	外面変色・粘土付着
104	15竪	7	土師	甕	平安末	(31.4)/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	長・角	15竪竈2829・2831	内外面黒斑
104	16竪	1	土師	甕	平安?	(15.6)/?/?	ナデ	橙,やや良	長・角・赤	16竪833	外面薄く変色
104	16竪	2	須恵	甕	平安	?/?/?	叩き,当て具痕	灰	白	16竪834	
105	17竪	1	土師	坏	平安末	(11.8)/(5.0)/3.6	ナデ,底部糸切	明橙,良	長・石・雲・赤	17竪843・844	約3割残
105	18竪	1	土師	甕	平安末	(28.0)/?/?	ナデ・ハケメ	暗褐,良	長・石・角	18竪竈2836	外面黒変,小片
105	18竪	2	土師	高台坏	平安末	?/8.2/?	ナデ,付高台	暗褐,良	長・石・雲	18竪848	脚部一部黒斑
105	18竪	3	須恵	凸帯壷	平安	?/?/?	叩き	灰白,良	白	18竪851	小片,径4mmの孔
105	20竪	1	土師	坏	平安末	11.4/5.8/2.9	ナデ,底部糸切	鈍い黄褐,良	長・雲・赤	20竪竈3260	内外面薄く変色,内面線刻?,約5割残
105	20竪	2	土師	坏	平安末	10.4/(4.8)/3.0	ナデ,底部糸切	橙,不良	長・赤・雲	20竪969・970	摩耗顕著
105	20竪	3	土師	坏	平安	(13.4)/?/?	ナデ	暗褐,良	長・赤	20竪竈	外面黒変,小片
105	20竪	4	灰釉	碗	平安	(16.4)/8.3/6.8	ナデ・付高台	灰,良	白	20竪964～967	6割残,内外面変色
105	22竪	1	土師	坏	平安末	12.8/6.2/4.7	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	雲・長・赤・白	22竪892・一括	内外面薄く変色,約7割残
105	22竪	2	土師	坏	平安末	14.2/6.4/4.3	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	長・雲	22竪890,床918	外面薄く変色,約5割残
105	22竪	3	土師	高台坏	平安末	14.9/(10.2)/8.5	ナデ,付高台	鈍い褐,やや良	雲・長・赤	22竪床920～923・927・928,竈2913	内外面薄く黒変,約7割残
105	22竪	4	土師	皿	平安末	11.3/4.3/3.1	ナデ,底部糸切	暗橙,良	長・雲・石	22竪905	ほぼ完存,内外面黒変
105	22竪	5	土師	皿	平安末	11.0/5.4/3.0	ナデ,底部糸切	明橙,良	長・赤・雲	22竪904	約8割残
105	22竪	6	土師	皿	平安末	10.8/3.8/3.5	ナデ,底部糸切	明橙,やや不良	長・雲	22竪906	約6割残
105	22竪	7	土師	皿	平安末	(10.4)/(6.0)/2.9	ナデ,底部糸切	鈍い橙,良	長	22竪床912・916	内面薄く黒変
105	22竪	8	灰釉	碗	平安末	(15.3)/7.0/5.9	ナデ,付高台,内面一部釉	白,良	白	22竪908	約6割残
105	22竪	9	灰釉	段皿	平安末	10.2/5.2/1.6	ナデ,底部糸切,内面わずかに釉	灰白,良	白	22竪2562	完存
105	22竪	10	土師	蓋	平安	(18.1)/?/?	ナデ,内面磨き	明褐	赤・白	22竪898・911	
106	25竪	1	土師	坏	平安末	10.0/4.4/3.2	ナデ,底部糸切	鈍い橙,やや良	長・赤・雲	25竪床1602	内外面薄く黒変,完存
106	25竪	2	土師	坏	平安末	10.5/4.4/3.2	ナデ,底部糸切	橙,良	長・赤・石・雲	25竪床1601	約6割残,内面薄く変色
106	25竪	3	土師	坏	平安末	(10.6)/4.5/3.0	ナデ,底部糸切	鈍い橙,やや良	長・雲・雲	25竪2249	約5割残,外面薄く変色
106	25竪	4	土師	坏	平安末	(13.4)/6.0/3.2	ナデ	明橙,不良	長・赤	25竪2246	約2割残
106	25竪	5	土師	高台坏?	平安末	(13.2)/7.0/5.7	ナデ,底部付高台	鈍い橙,やや良	雲・長・赤	25竪床1605	約8割残,高台部剥離
106	25竪	6	土師	甕	平安末	(32.0)/(9.1)/?	ハケメ・ナデ,底部木葉痕	暗褐,良	長多・角・雲	25竪1592・1593・1595・2245・2250・2251,床3254・3255・3256,竈3233,一括	内外面黒変,外面粘土?
106	25竪	7	土師	甕底	平安末	?/(7.6)/?	削り,底部糸切?・指紋	鈍い橙,良	長・雲・角	25竪床1604	内外面変色
106	25竪	8	土師	甕底	平安末	?/(9.0)/?	ナデ・ハケメ,底部木葉痕	暗褐,良	長・角・石	25竪1578	外面スス・灰
106	25竪	9	土師	甕底	平安末	?/11.0/?	ナデ,底部木葉痕	暗褐,良	長・角	25竪1586	内外面薄く黒変,底部外面灰
106	26竪	1	土師	坏	平安末	(18.6)/(9.1)/5.2	ナデ,底部糸切	鈍い橙,良	長・雲・赤	26竪982,竈一括	内外面変色,底部外面灰
106	26竪	2	土師	坏	平安末	(12.4)/?/?	ナデ	橙,不良	長・赤	26竪1072	
106	26竪	3	土師	坏底	奈良	?/(7.0)/?	削り,内面放射暗文	明褐,良	赤・白・雲	26竪1064	
106	26竪	4	土師	高台坏	平安末	?/6.7/?	底部回転糸切後付高台,内面黒色?	明褐,やや不良	赤・白・雲	26竪1202・一括	内面黒色?
106	26竪	5	土師	皿	平安末	(11.8)/5.8/2.9	ナデ,底部糸切	赤褐,やや良	赤・長	26竪竈2289・2391,床2284	底部歪み,約5割残
106	26竪	6	土師	皿	平安末	?/(6.0)/?	ナデ,底部糸切	明褐,良	赤・白・雲	26竪1067	小片
106	26竪	7	灰釉	小皿	平安	(12.2)/(7.4)/1.3	ナデ,付高台,内外灰釉	灰白,良	白	26竪1082	小片
107	26竪	8	土師	甕	平安末	(29.0)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲	26竪床2282,竈2392	内面黒変,外面変色
107	26竪	9	土師	羽釜	平安	?/?/?	ハケメ・ナデ	暗褐,良	雲・長・角	26竪1071	内外面薄く黒変
107	26竪	10	土師	甕底	平安	?/7.9/?	ハケメ,底部木葉痕	褐,良	雲・長・角	26竪1075	内外面薄く黒変
107	26竪	11	土師	甕底	平安	?/9.0/?	ハケメ・ナデ,底部木葉痕	褐,良	雲・長	26竪竈2290・2394	竈内
107	26竪	12	土師	置き竈	平安	(31.0)/?/?	ハケメ	黄褐,やや良	長・赤	26竪1077・1078	内外面薄く変色
108	27竪	1	須恵	高台坏	平安?	?/(8.4)/?	底部回転削り,付高台	灰褐,良	長	27竪1145	
108	28竪	1	土師	黒色坏	平安	(12.9)/(5.6)/4.8	ナデ・削り,内面磨き	明褐～黒褐,良	赤・白・雲・礫	28竪周溝2916	外面黒斑,内面黒色
108	28竪	2	土師	皿	平安末	(10.8)/(5.0)/2.1	ナデ,底部糸切	褐,良	白・長	28竪1165	外面薄く変色
108	28竪	3	土師	皿	平安末	(16.8)/?/?	ナデ	鈍い褐,良	長・雲・赤	28竪1149	内外面変色
108	28竪	4	土師	皿	平安末	(13.2)/?/?	ナデ	褐,良	白・赤・雲	28竪1153	小片
108	28竪	5	土師	皿	平安末	(12.0)/?/?	ナデ	褐,良	白・赤・雲	28竪1160	小片
108	28竪	6	土師	皿	平安末	(12.0)/?/?	ナデ	褐,良	長・雲	28竪床1168	
108	28竪	7	土師	小形壷	平安?	?/?/?	ナデ	黄褐,良	赤・雲・角	28竪竈2229	外面薄く変色
108	28竪	8	土師	甕	平安末	(33.0)/?/?	ハケメ	暗褐,良	雲・長	28竪竈2705	内外面薄く黒変
108	28竪	9	土師	甕	平安末	(31.0)/?/?	ハケメ	暗褐,良	長・雲	28竪1148	外面スス,内面煮沸痕
108	28竪	10	土師	甕	平安末	(30.0)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲・赤	28竪1164	小片
108	28竪	11	土師	甕	平安末	(30.8)/?/?	ハケメ	褐,良	長・赤・角	28竪床1167	小片
108	28竪	12	須恵	壷底	平安	?/(10.0)/?	ナデ,外面回転削り,付高台,内面釉	暗灰,良	白	28竪1170	底外面ヘラ描き?
108	29竪	1	土師	坏	平安末	(11.2)/4.8/4.1	ナデ,底部糸切	明橙,やや良	長・雲・赤	29竪1037・2170	
108	29竪	2	土師	坏	平安末	?/(4.4)/?	ナデ,底部糸切	鈍い褐,やや良	長・雲	29竪1045	焼成後穿孔?,内外面薄く変色
108	29竪	3	灰釉	碗	平安	(16.0)/?/?	ナデ,内外面施釉,内面沈線	灰白,良	白	29竪1056	
108	29竪	4	灰釉	碗底	平安	?/(7.4)/?	ナデ,付高台	灰,良	白	29竪1055	内面滑らか
108	29竪	5	土師	甕	平安末	(33.4)/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	雲・長	29竪1036	内面コゲ,外面スス
108	29竪	6	須恵	甕口縁	平安?	(27.0)/?/?	ナデ	灰白,良	白	29竪1057	小片
109	30竪	1	土師	坏	平安末	(14.0)/6.6/4.0	ナデ,底部糸切	明橙,不良	赤・白・雲微	30竪2169・2213	摩耗,約5割残
109	30竪	2	土師	坏	平安末	(16.0)/?/?	ナデ	橙,良	赤・白	30竪一括	外面薄く変色
109	30竪	3	土師	坏底	平安末	?/5.6/?	ナデ,底部糸切	橙,良	赤・白	30竪1010・一括	
109	30竪	4	土師	高台坏	平安末	(14.1)/?/?	ナデ,付高台	鈍い褐,良	赤・白	30竪1018～1020・1025,竈2548	内外面薄く黒変
109	30竪	5	土師	黒色坏	平安末	(13.9)/?/?	ナデ,内面放射磨き・黒色	黄褐～黒褐.良	赤・白	30竪1017・1026・一括	内面黒色
109	30竪	6	土師	甕	平安末	(30.0)/8.0/27.4	ナデ,底部木葉痕	鈍い褐,良	長・角・赤・雲・石	30竪1013・1015・1016・1021・1031・2212,竈2721	内外面変色,外面灰?,底部灰
110	31竪	1	土師	坏	平安末	11.0/5.5/3.8	ナデ,底部糸切	明橙,良	長・赤・雲	31竪1028	完存,底部歪み
110	31竪	2	土師	坏	平安	(13.8)/5.6/5.0	ナデ・削り,底部削り	明褐,良	赤・白	31竪1135	約4割残
110	31竪	3	土師	皿	平安	(12.8)/?/?	ナデ・削り	褐,良	赤・白	31竪1136	内面薄く黒変,小片
110	31竪	4	土師	坏底	奈良?	?/?/?	ナデ, 底部外面削り	橙	赤	31竪一括	底部外面線刻「赤」?

図	地点	No.	種別	器種・部位	時期	口/底/高	技法	色調・焼成	胎土	注記	備考
110	31竪	5	土師	高台坏	平安末	(14.7)/?/?	ナデ, 付高台	鈍い橙, やや良	赤・長大・雲・角	31竪1029	外面薄く変色,約7割残
110	31竪	6	土師	小形甕	平安	(12.4)/?/?	ロクロナデ	暗褐,良	長・雲	外245	小片, 内外面変色
110	32竪	1	土師	甕	平安末	(30.0)/?/?	ナデ	暗褐、良	長・角・赤	32竪竈2731・2740, 床下3223	外面粘土・変色, 内面一部黒変
110	32竪	2	土師	甕	平安末	(33.0)/?/?	ナデ	褐, 良	長・雲・角・赤	32竪竈2733・2739	内外面薄く黒変
111	33竪	1	土師	坏	奈良	(11.7)/6.8/6.0	外面横ヘラ磨き,内面見込放射暗文,底部外面削り・磨き	明褐,良	白・赤	33竪1244・1283	内面一部黒変,7割残
111	33竪	2	土師	坏	奈良	(12.5)/7.4/5.7	外面縦磨き,内面・見込放射暗文,底部糸切後削り・磨き	橙褐,良	赤・雲・長・礫	33竪床1280,一括	外面一部黒斑
111	33竪	3	土師	坏	奈良	(15.0)/7.5/6.0	外面横磨き,内面見込放射暗文,底部削り後磨き	明橙,良	赤大・白	33竪1242・1243	外面剥離,約4割残
111	33竪	4	土師	坏	奈良	(10.8)/(6.0)/4.5	ヘラ削り,内面見込放射暗文,底部削り	橙褐,良	赤	33竪1114	約2割残
111	33竪	5	土師	坏	奈良	(12.8)/(8.2)/5.0	ヘラ削り・横磨き,放射暗文	橙褐,良	赤	33竪1249・1252	外面一部黒斑,3割残
111	33竪	6	土師	坏	奈良	(13.8)/?/?	削り,内面放射暗文	鈍い褐,良	赤・白・雲	33竪一括	約2割残
111	33竪	7	土師	坏	奈良	?/(7.2)/?	削り後磨き,内面・見込放射暗文,底部外面磨き	明褐,良	赤・白	33竪2326	
111	33竪	8	土師	坏	奈良	?/(9.0)/?	削り・磨き,内面・見込放射暗文,底部外面削り	明褐,良	赤・白	33竪1245,外1001	
111	33竪	9	土師	坏	奈良	?/(9.8)/?	削り	橙,やや不良	赤・白	33竪1213	内外面一部黒変,摩耗
111	33竪	10	土師	坏	奈良	(13.7)/?/?	ナデ・削り	赤褐,良	雲・赤	33竪2833	小片
111	33竪	11	土師	蓋	奈良	(16.0)/?/?	ナデ・内面放射暗文	明褐,良	赤・白	33竪1236	外面赤彩?,高坏?
111	33竪	12	須恵	坏	奈良	(13.8)/8.5/3.0	ナデ, 底部糸切後回転削り	灰	白大・礫	33竪1129・1130・1267	内外面に十字状火襷,底部外面焼成前ヘラガキ「十」
111	33竪	13	須恵	坏	奈良	?/(7.2)/?	ナデ,底部糸切	灰,やや良	長	33竪1265	
111	33竪	14	須恵	坏	奈良	?/7.4/?	ナデ,底部糸切	灰,良	長・黒	33竪1268	
111	33竪	15	土師	小形甕	奈良?	(14.4)/?/?	ナデ	暗褐,良	長・角・雲・赤	33竪2354・2355	内外面黒変
111	33竪	16	土師	小形甕	奈良?	(16.0)/?/?	ナデ	暗褐,良	長・赤・角	33竪床1278,一括	内外面薄く黒変
111	33竪	17	土師	甕	奈良?	(17.0)/?/?	ハケメ	橙,良	長・赤・角・雲	33竪1125	
111	33竪	18	土師	甕	奈良?	(18.4)/?/?	ハケメ・ナデ	明褐	長・角・雲・赤	33竪1099	外面一部黒変
111	33竪	19	土師	甕	奈良?	(22.0)/?/?	ハケメ・ナデ	暗褐,良	雲・長・角	33竪1107	外面黒変,内面変色
111	33竪	20	土師	甕	奈良?	(23.0)/?/?	ハケメ・指頭痕	褐,良	長・雲	33竪1109	外面粘土?
111	33竪	21	土師	甕	奈良	(30.0)/?/?	ハケメ・指頭痕	褐,良	長・雲・角	外990・995	
112	33竪	22	土師	甕	奈良	(34.0)/?/?	ハケメ・指頭痕	橙,良	長・角・赤	33竪1216・1237・1240・一括	外面一部黒変
112	33竪	23	土師	甕	古墳?	(25.8)/?/?	ハケメ・ナデ	橙,良	長・赤	33竪1276	
112	33竪	24	土師	甕底	奈良?	?/(9.0)/?	ナデ,底部木葉痕	橙,良	長・雲・角	33竪1247・1248	外面薄く変色,底部灰
112	33竪	25	土師	甕	古墳	?/?/?	削り・ハケメ・指頭痕	橙,良	長・赤・礫	33竪一括	外面黒変・竈目痕
112	33竪	26	土師	壷	古墳	(22.0)/?/?	削り・ナデ・磨き・櫛歯刺突,赤彩	褐～赤褐,良	長・雲・長・角	33竪1215・2351・一括	外面赤彩
112	33竪	27	須恵	甕	奈良?	?/?/?	叩き・ナデ?	灰	白	33竪1269	内面薄く赤変
112	33竪	28	須恵	甕底	奈良?	?/(14.0)/?	叩き・ナデ	灰	白	33竪1121	内面薄く黒変
113	34竪	1	土師	坏	平安末	12.0/6.1/3.4	ナデ,底部糸切	暗橙,良	雲・長・赤	34竪2362・2363,竈一括	ほぼ完存,内外面薄く変色
113	34竪	2	土師	坏	平安末	12.2/5.2/3.5	ナデ,底部糸切	明褐,やや良	雲・長・赤	34竪床1196・2366・2367	歪み,6割残
113	34竪	3	土師	坏	平安末	(13.7)/6.0/3.1	ナデ,底部糸切	明褐,やや良	雲・長・赤	34竪床2275・2276,2356～2358	8割残
113	34竪	4	土師	皿	平安末	(12.2)/5.4/3.2	ナデ,底部糸切	鈍い褐,不良	長・雲・赤	34竪床2365・2367・2373・2376	内外面薄く黒変,5割残
113	34竪	5	土師	坏底	平安末	?/6.5/?	ナデ,底部糸切	褐,良	長・雲・赤	34竪1189・1190	
113	34竪	6	土師	高台坏	平安末	16.0/8.2/6.1	ナデ,付高台	赤褐,良	長・赤・雲	34竪1191・1192・2360,竈2419	口縁歪み,内外面薄く変色,7割残
113	34竪	7	灰釉	碗	平安	(15.0)/7.1/5.0	ナデ・内外面灰釉・付高台	灰,良	白	34竪1194	5割残
113	34竪	8	土師	甕	平安末	(32.0)/?/?	ハケメ	赤褐,良	赤・石・角・雲	34竪2361,竈2388	内外面薄く変色
113	34竪	9	土師	甕	平安末	(31.0)/?/?	ハケメ	暗褐,良	長・角	34竪床1198・2369	内外面黒変,外面灰
113	34竪	10	土師	甕	平安末	(37.5)/?/?	ハケメ・ナデ	暗褐,良	長・雲・角	34竪竈2280	内外面黒変,小片
114	35竪	1	土師	坏	平安末	14.6/6.7/4.8	ナデ・底部糸切	鈍い赤褐,良	赤・雲・長	35竪1285・2257	内面薄く変色,外面黒変,7割残
114	35竪	2	土師	坏	平安	12.2/4.4/4.3	ナデ・削り,底部削り	褐,良	赤・白	35竪2256・2769,竈一括	外面一部黒変
114	35竪	3	土師	皿	平安	(12.2)/(4.4)/3.5	ナデ・削り,底部削り	明橙,良	赤・白	35竪竈	3割残,竈内
114	35竪	4	土師	黒色坏	平安	15.1/6.4/4.9	ナデ・ヘラ削り,底部削り	明橙,不良	赤・長多	35竪1184・2258・2768	内面黒色・剥離,8割残
114	35竪	5	土師	坏	平安	(13.6)/5.4/4.4	ナデ・削り,底部削り	明橙,良	赤・白	35竪1284	外面黒変,5割残
114	35竪	6	土師	皿	平安	(11.0)/?/?	ナデ	鈍い橙,不良	長・赤	35竪2259	内面黒変
114	35竪	7	土師	皿	平安末	(10.8)/(5.2)/2.6	ナデ,底部糸切	明橙,良	赤・白・雲	35竪1287	約2割残
114	35竪	8	土師	皿	平安末	11.5/6.5/2.5	ナデ,底部糸切	明橙,良	赤・白・雲	35竪1289・1290・一括	内面燈芯痕,6割残
114	35竪	9	土師	羽釜	平安末	(28.8)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲・角	35竪1176	内面薄く変色
114	36竪	1	土師	坏	平安末	12.2/5.2/4.3	ナデ,底部糸切後板目	鈍い黄褐,やや良	長・赤・雲	36竪1316・1317	内外面薄く変色,6割残
114	36竪	2	土師	坏	平安末	12.6/5.5/3.8	ナデ,底部糸切後板目	鈍い橙,良	長・赤・雲	36竪竈2723・2724	内外面薄く変色,底部布・板目状圧痕,8割残
114	36竪	3	土師	皿	平安末	10.4/4.6/3.3	ナデ	鈍い褐,やや良	長・赤・雲	36竪床1331・1332	内面薄く黒変,底部摩耗
114	36竪	4	土師	坏	平安末	(13.7)/6.6/4.0	ナデ	黄褐,やや良	長・赤・雲	36竪1315	
114	36竪	5	土師	皿	平安末	(10.8)/4.4/3.0	ナデ,底部糸切	橙,良	長・雲	36竪1310	内面薄く黒変,5割残
114	36竪	6	土師	高坏?	平安?	?/?/?	ナデ・削り	鈍い褐,良	長・雲	36竪床1334	内面黒変
114	36竪	7	緑釉	碗	平安	?/?/?	内外面施釉	白褐,やや良		外563・一括	小片, 胎土白泥状
114	36竪	8	須恵	蓋	平安?	?/?/?	ナデ・回転削り	青灰,良	白	36竪2172	
114	36竪	9	土師	甕	平安末	(28.4)/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	長・雲・赤	36竪竈1324・2727	外面粘土?内面変色
115	36竪	10	土師	羽釜	平安末	(28.4)/?/?	ハケメ・ナデ	暗褐,良	長・赤	36竪竈2730	内外面スス・コゲ
115	36竪	11	土師	羽釜	平安末	(32.2)/?/?	ハケメ・ナデ	暗褐,良	長・雲	36竪竈1326・2725・一括	竈内,内外面変色
115	36竪	12	土師	鉢	平安末	(37.5)/?/?	ナデ	暗褐,良	長・赤・石	36竪1308・1321,竈2729,一括	内外面黒変
115	37竪	1	土師	坏	平安末	12.8/6.3/4.0	ナデ,底部糸切	暗褐,良	赤・長	37竪1346・一括	9割残,内外面一部黒変
115	37竪	2	土師	皿	平安末	10.8/5.2/2.6	ナデ,底部糸切	明褐,やや良	赤・白・雲	37竪1345,41竪一括	7割残,底部黒変
115	37竪	3	土師	坏	平安末	(10.9)/(5.4)/3.6	ナデ,底部糸切	鈍い赤褐,良	赤・白・雲	37竪竈2799・3227	内外面薄く黒変
115	37竪	4	土師	坏	平安末	(14.5)/?/?	ナデ	鈍い褐,良	雲	37竪1344	小片
115	37竪	5	土師	坏	平安末	(14.0)/?/?	ナデ	暗褐,良	白・雲	37竪2163	内外面薄く黒変,小片
115	37竪	6	土師	坏	平安末	(13.6)/?/?	ナデ	明橙,良	赤・白・雲	37竪1358	小片
115	37竪	7	土師	坏	平安末	(12.2)/?/?	ナデ	黄褐,良	赤・白・雲	37竪1347・一括	
115	37竪	8	灰釉	小皿	平安末	(10.4)/(5.6)/2.0	ナデ,施釉,付高台	灰白,良		37竪床1367	小片
115	37竪	9	灰釉	皿	平安末	11.6/5.8/2.4	ナデ,施釉,付高台	灰白,良	白	37竪床1368	完存
115	37竪	10	灰釉	段皿	平安末	13.7/6.8/2.8	ナデ,内外面施釉,付高台	灰白,良	黒	37竪1363,竈2808	7割残
115	37竪	11	土師	台付甕	古墳	?/?/?	削り・ナデ	赤褐,良	長・雲・角	37竪床2160	内外面薄く黒変,被熱
116	37竪	12	土師	羽釜	平安末	(20.2)/?/?	ハケメ・ナデ	暗褐,良	長・角・石・赤	37竪竈2803・3228	内外面変色,外面灰?
116	37竪	13	土師	羽釜	平安末	(22.8)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲・角	37竪3251	
116	37竪	14	土師	羽釜	平安末	(24.0)/?/?	ハケメ	赤褐,良	長・雲・角・石	37竪1356,床1364・1366・2161,竈2802・2804・2894・2806,一括	内外面変色,外面灰,内面黒変
116	37竪	15	土師	羽釜	平安末	(24.6)/?/?	ハケメ・ナデ	赤褐,良	長・角	37竪竈2801・3252	内外面変色
116	37竪	16	土師	羽釜	平安末	(30.6)/?/?	ハケメ・ナデ	赤褐,良	長・雲・角	37竪1350	内面薄く黒変,外面変色
116	38竪	1	土師	坏	平安末	13.0/6.4/4.0	ナデ	黄褐,不良	長・赤・角・雲	38竪竈2972・2973	8割残,摩耗顕著
116	38竪	2	土師	坏	平安末	12.3/6.0/4.0	ナデ,底部糸切	鈍い橙,良	長・赤・礫・雲	38竪1380	ほぼ完存,内外面薄く変色
116	38竪	3	土師	坏	平安末	11.7/5.2/4.0	ナデ,底部糸切	橙,良	赤・白・雲	38竪床1384	完存,外面黒変, 歪み
116	38竪	4	土師	坏	平安末	(11.4)/5.6/3.3	ナデ, 底部糸切	黄褐, 不良	白・赤・角	38竪竈2971	6割残,摩耗顕著
116	38竪	5	土師	坏	平安末	(14.4)/?/?	ナデ	褐,良	白・赤・雲・花	38竪一括	外面一部黒変
116	38竪	6	土師	坏	平安末	?/(5.0)/?	ナデ, 底部糸切	鈍い褐, 良	赤	38竪竈2974	内外面変色
116	38竪	7	土師	高台坏	平安末	13.8/8.8/6.2	ナデ, 付高台	明黄褐, 不良	長多・赤・礫	38竪1382	摩耗顕著, 9割残
116	38竪	8	土師	赤彩壷	平安?	(8.9)/?/?	ナデ	黄白, 不良	長・赤	38竪1373	内面赤彩, 外面摩耗
116	38竪	9	土師	甕底部	平安末	?/7.8/?	ナデ, ハケメ, 底部木葉痕	鈍い橙, 良	長多・角	38竪1376	外面・底部ススス
117	39竪	1	土師	坏	平安末	12.7/5.9/4.1	ナデ, 底部糸切	橙, やや良	長・雲・赤	39竪1391	底部歪み, 9割残
117	39竪	2	土師	坏	平安末	(11.8)/5.5/3.3	ナデ, 底部糸切	鈍い黄褐, やや良	長・赤	39竪1403・1404, 竈一括	7割残
117	39竪	3	土師	皿	平安末	(11.8)/?/?	ナデ	褐, やや良	赤・雲	39竪床1417	内外面変色
117	39竪	4	土師	皿	平安末	(12.0)/?/?	ナデ	褐, 良	長	39竪1405	外面薄く黒変
117	39竪	5	灰釉	碗	平安	15.8/7.6/5.8	ナデ, 施釉	灰白, 良	白	39竪1408～1411	内外面ススス,約5割残
117	39竪	6	灰釉	皿	平安	(13.3)/?/?	ナデ, 施釉	白,良		39竪1406	内面釉
117	39竪	7	灰釉	壷	平安	?/7.9/?	ナデ・回転削り,施釉,底部糸切後付高台	灰白, 良	白	39竪1407・1413・1444・2078,周溝2080・2081	内外面ススス,内面一部赤彩?
117	39竪	8	土師	甕	平安末	(25.4)/?/?	ハケメ	暗褐, 良	長・雲・赤	39竪竈2178	内外面黒変
117	39竪	9	須恵	甕	平安?	?/?/?	叩き	灰, 良	白	39竪1414	内面研磨・墨痕・朱墨?, 割れ面一部摩耗, 転用硯
117	40竪	1	土師	坏	平安末	11.8/5.4/3.2	ナデ,底部糸切,穿孔	明橙,良	赤・白・雲・礫	40竪1431～1434	底部中央に径7mmの穿孔,内外面一部黒変,完存,口縁歪み
117	40竪	2	土師	皿	平安末	12.4/6.0/3.2	ナデ,底部糸切	明橙,良	赤・白・雲	40竪2124	9割残,底部歪み,内面黒変
117	40竪	3	土師	皿	平安末	11.4/5.8/3.0	ナデ,底部糸切	明橙,やや良	赤・長・雲・石	40竪竈2134	口縁歪み,体部外面墨書?,約7割残

図	地点	№.	種別	器種・部位	時期	口/底/高	技法	色調・焼成	胎土	注記	備考
117	40竪	4	土師	皿	平安末	11.9/5.4/3.2	ナデ,底部糸切	黄褐,やや良	赤・白・雲・礫	40竪竈2132	底部歪み,8割残
117	40竪	5	土師	皿	平安末	11.5/5.3/3.0	ナデ,底部糸切	褐,やや良	赤・長・雲	40竪床2132,一括	約6割残,底部歪み,内面一部黒変
117	40竪	6	土師	皿	平安末	(11.0)/(5.5)/2.8	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	赤・白・雲	40竪一括	内外面薄く変色
117	40竪	7	土師	高台皿	平安末	13.2/?/?	ナデ,付高台	赤褐,良	赤・白・雲	40竪竈2128・2131	内外面黒変
117	40竪	8	灰釉	皿?	平安	?/(7.4)/?	ナデ,底部回転削り後付高台	白灰,良	白	40竪1442	
118	40竪	9	土師	甕	平安末	(28.0)/?/?	ナデ	鈍い褐,良	長・角・雲	40竪1439,竈2130・3241・3243	内外面変色
118	40竪	10	土師	羽釜	平安末	(29.0)/?/?	ナデ,ハケメ	鈍い褐,良	長・雲・角・石	40竪1435	
118	41竪	1	土師	坏	平安末	10.6/5.2/3.5	ナデ,底部糸切	明褐,良	長・赤・角	41竪竈2413	竈内,内面黒色付着,完存
118	41竪	2	土師	坏	平安末	(11.2)/5.3/3.2	ナデ,底部糸切	明褐,良	長・雲	41竪竈2401・2404・一括,39竪1390	内外面薄く変色,5割残
118	41竪	3	土師	皿	平安末	(11.2)/5.3/2.7	ナデ,底部糸切	橙,やや良	赤・長・雲	41竪竈2415	約6割残
118	41竪	4	土師	皿	平安末	10.4/5.2/3.1	ナデ,底部糸切	鈍い褐,やや不良	赤・長	41竪竈2414,一括	口縁歪み
118	41竪	5	土師	皿	平安末	(10.9)/(5.0)/2.7	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	赤・長	41竪竈2403・一括	外面薄く変色,約4割残
118	41竪	6	土師	皿	平安末	(10.4)/?/?	ナデ	明褐,良	赤・長	41竪床1459,竈一括	約2割残
118	41竪	7	土師	坏	平安末	(14.2)/7.0/3.8	ナデ,底部糸切	黄褐,やや不良	長・赤	41竪1446・1451,37竪1353	全体磨耗,約4割残
118	41竪	8	灰釉	碗	平安	(15.0)/?/?	ナデ	灰,良	白	41竪1455	胎土やや粗
118	41竪	9	灰釉	碗?	平安	?/7.4/?	底部糸切後付高台	灰,良	長	41竪1464	見込部磨耗・黒変,転用硯?
118	41竪	10	土師	小形鉢	平安末	(12.0)/(7.0)/7.3	ナデ	鈍い黄褐,不良	長・赤	41竪床1460・1461	外面薄く変色
118	41竪	11	土師	甕	平安末	(30.4)/?/?	ナデ	褐,良	長・雲・角	41竪1446・1447・2407・2417,床1462	外面スス,内面灰・黒色付着
118	41竪	12	土師	甕底	平安末	?/9.6/?	ハケメ,底部木葉痕	褐,良	長・雲・角	41竪床1456	外面スス
119	41竪	13	土師	甕	平安末	(32.0)/?/?	ハケメ	赤褐,良	長・雲	41竪竈2400	内面黒変
119	41竪	14	土師	甕	平安末	(30.0)/?/?	ハケメ	暗褐,良	雲・長	41竪竈2409	外面スス,内面灰・黒変
119	41竪	15	土師	鉢甕	平安末	(38.0)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲多・角	41竪竈2400・2408・2416,39竪1419	外面薄く黒変,内面煮沸痕
119	41竪	16	土師	鉢甕	平安末	(44.0)/?/?	ハケメ	黒褐,良	長・角	41竪竈2406・2410	外面スス・灰,内面薄く黒変
119	42竪	1	土師	坏	平安末	10.9/5.5/3.3	ナデ,底部糸切	明橙,やや良	赤・白	42竪2224	口唇部に刻み?,完存
119	42竪	2	土師	坏	平安末	11.4/5.5/3.6	ナデ,底部糸切	鈍い橙,やや良	長・赤・雲・角	42竪床1514	内外面黒斑,9割残
119	42竪	3	土師	坏	平安末	12.5/5.5/3.8	ナデ,底部糸切	橙,良	長・赤・雲	42竪1516・一括	9割残
119	42竪	4	土師	坏	平安末	11.3/6.1/3.7	ナデ,底部糸切	赤褐,良	赤・白	42竪竈2227	6割残,内面スス?
119	42竪	5	土師	坏	平安末	(15.3)/?/?	ナデ	褐,良	長・赤・雲	42竪1495,外2109	外面一部スス
119	42竪	6	土師	坏	平安	(12.4)/5.4/4.3	ナデ,削り,底部剥離	橙,良	赤・白	42竪1496,65竪,一括67竪一括	口唇部黒変,体部外面墨書「主」,器面荒れ,5割残
119	42竪	7	土師	坏	奈良	?/(8.8)/?	ナデ,内面見込放射暗文	明橙,良	赤・白	42竪竈2159	
119	42竪	8	灰釉	碗	平安	?/6.5/?	付高台	灰	白	42竪竈2079	高台周囲を調整・高台内朱?付着
120	42竪	10	土師	甕	平安末	(34.4)/?/?	ハケメ,ナデ	赤褐,良	長・雲・石	42竪1501・1508・1510・1528・1529	内面コゲ,外面スス・灰
120	42竪	11	土師	鉢甕	平安末	(36.0)/?/?	ハケメ	褐,良	長・角	42竪竈2225	内面コゲ,外面薄くスス
120	43竪	1	土師	坏	平安末	(11.8)/6.0/3.4	ナデ,底部糸切	暗褐,やや良	赤・長	43竪竈2106・一括	内外面黒変,5割残
120	43竪	2	土師	坏	平安末	11.6/5.5/3.3	ナデ,底部糸切	黄褐,良	赤・長・礫	43竪1482,竈2153・2149	9割残,内外面一部黒変
120	43竪	3	土師	坏	平安末	11.2/5.2/3.3	ナデ,底部糸切	褐,良	赤・長・雲	43竪竈2152・一括	7割残,竈内
120	43竪	4	土師	皿	平安末	(10.6)/(4.8)/2.5	ナデ,底部糸切	明褐,良	赤・長・雲	43竪竈2097	歪み,3割残
120	43竪	5	土師	皿	平安末	(10.4)/(5.5)/2.7	ナデ,底部糸切	橙,良	長・赤・雲	43竪2075	3割残
120	43竪	6	土師	坏	平安末	(13.0)/(5.0)/(5.0)	ナデ	明橙,不良	赤・白	43竪竈2105,一括	口縁一部黒斑
120	43竪	7	灰釉	碗	平安	(15.8)/?/?	ナデ,無釉	灰,良	白	43竪2076・2077	
120	43竪	8	灰釉	碗	平安	(17.0)/?/?	ナデ,内面施釉	灰,良		43竪1484・一括	
120	43竪	9	土師	甕	平安末	(38.0)/?/?	ハケメ	暗褐,良	長・雲	43竪床1485	外面一部粘土
120	43竪	10	土師	甕底	平安末	?/7.7/?	ナデ,底部木葉痕	褐,良	長・雲	43竪床1486,竈2150	外面灰?,内面薄く変色
121	44竪	1	土師	坏	平安末	11.6/6.9/3.4	ナデ,底部糸切	明橙,やや不良	赤・長・雲・黒	44竪2003・一括	約8割残,内面薄く黒変
121	44竪	2	土師	坏	平安末	(12.6)/6.5/4.1	ナデ,底部糸切	橙,良	赤・白・雲	44竪3220	内面薄く変色,約7割残
121	44竪	3	土師	皿	平安末	(14.2)/6.6/3.7	ナデ,底部糸切	橙,やや良	赤・白・黒大	44竪1997・一括	約5割残
121	44竪	4	土師	坏	平安末	(10.8)/6.0/3.0	ナデ,底部糸切	橙,不良	赤・白	44竪1996・一括	摩耗顕著
121	44竪	5	土師	坏	平安末	(13.0)/?/?	ナデ,削り?	橙,良	赤・長	44竪2003	小片
121	44竪	6	灰釉	碗	平安	12.6/6.8/4.4	ナデ,付高台,内外面施釉	灰白,良	白	44竪2164	9割残
121	44竪	7	須恵	坏	平安?	?/(9.0)/?	ナデ,付高台	青灰,良	白	44竪2004	内面磨耗?,割れ口調整
121	44竪	8	須恵	蓋	平安?	?/?/?	ナデ,回転削り	青灰,良	白	44竪2005	小片
121	44竪	9	土師	甕	平安末	(33.0)/?/?	ハケメ	暗褐,良	長・雲	44竪竈2528	内外面黒変
121	44竪	10	須恵	甕	平安?	?/?/?	叩き,当て痕	灰褐,良	白	44竪床2008,一括	
121	45竪	1	土師	坏	平安末	11.8/6.5/3.9	ナデ, 底部糸切	明橙, 不良	赤・白・雲	45竪竈2643・2646・2651	全面磨耗, 内面黒色付着
121	45竪	2	灰釉	碗	平安	(17.0)/?/?	ナデ, 内面施釉	灰白	白	45竪竈2654	内面施釉
121	45竪	3	土師	鉢甕	平安末	(29.3)/?/?	ハケメ	褐, 良	長・赤・角	45竪竈2644・2787	内外面変色
122	46竪	1	土師	坏	奈良	?/(8.2)/?	ナデ,内面見込放射暗文,外面・底部磨き	明橙,良	赤	46竪1539	
122	46竪	2	土師	甕	奈良	(34.6)/?/?	ハケメ・指頭痕	褐,良	雲・長・角	46竪竈2441～2443・2446・2447・2452,1552	内面薄く変色,外面灰
122	46竪	3	土師	甕	奈良	23.0/?/?	ハケメ,ナデ,指頭痕	褐,良	雲・長・角・赤	46竪1545・1548・1551・1553,床1557・1558・1560,竈2434・2436～2440・2442～2444・2448～2450	外面薄く粘土・灰
122	47竪	1	土師	坏	平安末	?/4.4/?	ナデ,底部糸切	褐,良	長・赤・礫	47竪床2303	
122	47竪	2	土師	坏	平安	?/(3.6)/?	削り・ナデ	明橙,良	赤	47竪周溝2488	
122	48竪	1	土師	高台坏	平安	16.8/?/?	削り,付高台	赤褐,良	赤・白	48竪1623・1630・1631・1634,床1637～1639・1662・2527	内面黒変,約9割残
122	48竪	2	土師	甕	平安	(29.0)/?/?	ハケメ	暗褐,良	長・角・赤・石	48竪竈2519～2522,2523	内外面黒変
122	48竪	3	土師	甕	古墳	(16.9)/?/?	ハケメ,ナデ	褐,良	長・赤・雲	48竪1624	外面黒変
122	48竪	4	土師	羽釜	平安	(26.4)/?/?	ハケメ,ナデ	橙,良	赤・長・石・角・雲	48竪1632,竈2524	内外面黒変,被熱粘土
124	49竪	1	土師	坏	平安	10.8/4.6/4.4	ナデ・削り,底部糸切	明橙,良	赤・白	49竪床1659	燈芯痕,完存
124	49竪	2	土師	坏	平安	10.9/5.1/4.2	ナデ・削り,底部削り	明橙,良	赤	49竪床1653・1654	6割残
124	49竪	3	土師	高台坏	奈良	15.8/8.0/6.5	回転削り,放射暗文,底部削出高台	明橙,良	赤	49竪竈2532	底部外面線刻「木工」?,7割残
124	49竪	4	土師	坏	平安	?/5.0/?	削り,底部糸切後削り,放射暗文	橙,良	赤・白	49竪1642	薄く変色
124	49竪	5	土師	甕	平安	(23.6)/8.6/39.0	ハケメ,指頭痕,底部木葉痕	鈍い褐,良	長・雲・赤・角	49竪床1656～1658・2334	外面粘土・スス多量
124	49竪	6	須恵	甕	平安	?/?/?	叩き	灰赤褐,良	長	49竪1650	
124	49竪	7	須恵	壷	平安	?/?/?	ナデ	灰,良	長	49竪1649	
125	50竪	1	土師	坏	平安末	(12.3)/6.5/3.3	ナデ,底部糸切	橙,やや良	長・赤・雲	50竪床1988・2271	内外面一部黒変,約5割残
125	50竪	2	土師	坏	平安末	(12.3)/(4.9)/4.3	ナデ,底部糸切	鈍い橙,やや良	長・赤・雲	50竪2265・2300・一括	3割残,外面一部黒変
125	50竪	3	土師	坏	平安末	(12.5)/5.2/3.6	ナデ	明橙,不良	赤・長	50竪1958・一括	約5割残,底部摩耗
125	50竪	4	土師	坏	平安末	(13.3)/5.2/4.4	ナデ,底部糸切	橙,やや良	長多・赤・礫	50竪床2184・2187・2192	外面一部黒変
125	50竪	5	土師	坏	平安末	(12.1)/(8.0)/3.6	ナデ	鈍い橙,不良	長・赤・石・黒大	50竪2270	底部磨耗
125	50竪	6	土師	皿	平安末	(10.6)/4.3/3.1	ナデ,底部糸切	橙,良	長	50竪2301	内外面変色
125	50竪	7	土師	皿	平安末	11.8/5.3/3.7	ナデ,底部糸切	暗褐,良	赤・長	50竪2273	完存,内外面黒変
125	50竪	8	土師	皿	平安末	11.5/4.5/3.4	ナデ,底部糸切	橙,良	長多・角	50竪床1983・1984	完存,内外面一部黒変
125	50竪	9	土師	皿	平安末	(11.3)/6.5/2.8	ナデ,底部糸切	鈍い橙,不良	長多・赤	50竪床2191	約5割残
125	50竪	10	土師	皿	平安末	(11.6)/6.2/3.2	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	赤・白	50竪1957,床2238	内外面薄く変色,6割残
125	50竪	11	土師	皿	平安末	(10.9)/5.9/3.2	ナデ,底部磨耗	鈍い橙,やや良	長・赤	50竪床2180,2297	内面薄く黒変,6割残
125	50竪	12	土師	皿	平安末	(11.9)/5.5/3.2	ナデ,底部糸切	明橙,良	赤・白・雲	50竪1960・1966	底部歪み,5割残
125	50竪	13	土師	皿	平安末	(12.2)/5.7/3.3	ナデ	明橙,不良	赤・長・礫	50竪1969,床1985・2054,一括	約5割残,摩耗顕著
125	50竪	14	土師	皿	平安末	(13.7)/?/?	ナデ	鈍い橙,良	赤・白・雲	50竪床1983・一括	内面一部黒変
125	50竪	15	土師	皿底	平安末	?/5.3/?	底部糸切	橙,やや良	赤・白	50竪1973	外面薄く黒変
125	50竪	16	灰釉	皿	平安	(11.4)/(6.3)/2.6	ナデ,付高台,内面施釉	白,良	白	50竪1977	約2割残
125	50竪	17	灰釉	段皿	平安	(12.4)/(6.2)/2.3	ナデ,内外面施釉,付高台	灰,良	黒	50竪2244・一括	約2割残
125	50竪	18	灰釉	碗	平安	14.6/7.5/6.6	ナデ,付高台,内外面施釉	灰,良	白	50竪1980・2294,床2190・2205・2206	約8割残
125	50竪	19	灰釉	碗	平安	(16.8)/?/?	ナデ,無釉	白,良		50竪1979	小片
125	50竪	20	灰釉	碗	平安	(17.8)/?/?	ナデ,内外面施釉,口縁内面沈線	灰,良	白	50竪一括	小片
125	50竪	21	灰釉	碗	平安	?/6.9/?	ナデ,付高台,内外面施釉	白褐,やや良	白・黒	50竪2239・一括	やや粗
125	50竪	22	灰釉	壷	平安	?/?/?	ナデ,内外面施釉	灰白,良	白	外976	
125	50竪	23	須恵	高台坏	平安	?/(9.0)/?	ナデ,付高台	灰,良	白	50竪1975	
126	50竪	24	土師	小形甕	平安末	16.4/9.7/12.1	ナデ,底部木葉痕・指頭痕	暗褐,良	長・赤・雲	50竪床1984・1986・1991・2057・2181	外面スス多量・灰,内面変色,ほぼ完存
126	50竪	25	土師	甕	平安末	(23.1)/?/?	ナデ,指頭痕	暗褐,良	雲・長・角	50竪1964・1990・2058・2059・2182・2195・2203・2266～2268・2274	外面スス・粘土,内面黒変
126	50竪	26	土師	甕	平安末	(30.8)/?/?	ハケメ	褐,良	雲・石・長	50竪1943・1948	外面黒変
126	50竪	27	土師	甕	平安	(30.6)/?/?	ハケメ	暗褐,良	長・角・雲	50竪竈2885・2886,65竪竈3007,67竪竈2909・2911	外面灰?,内面変色
126	50竪	28	土師	甕	平安末	29.1/10.6/25.1	ハケメ,底部ナデ	褐,良	長・角	50竪床1981・1984・1987・1989・1991・2055・2056・2185・2186・2189・2193・2202・2204,2264・2269・2272・2293・2295・2296	外面スス・剥離,内面薄く黒変
127	50竪	29	土師	甕	平安末	(36.0)/?/?	ナデ	褐,良	雲・長・角	50竪床1982・1991・2183・2194	内外面薄く黒変
127	50竪	30	土師	羽釜	平安末	(34.2)/?/?	ハケメ・ナデ	明褐,良	長・雲・角	50竪977・1939・1949・1953	内面薄く黒変

図	地点	No.	種別	器種・部位	時期	口/底/高	技法	色調・焼成	胎土	注記	備考
127	51竪	1	土師	坏	奈良	(12.7)/8.0/4.1	削り,ナデ,底部削り	褐,良	赤	51竪1802・1865	内外面薄く黒変,5割残
127	51竪	2	土師	坏	奈良	14.2/9.7/4.5	ナデ・削り	鈍い橙,やや不良	長・赤	51竪1800・2537・2538	内外面薄く黒変,完存,表面剥離
127	51竪	3	土師	坏	奈良	?/8.6/?	削り,底部削り	明褐,良	赤	51竪2969・一括	約4割残
127	51竪	4	土師	高台坏	奈良	(10.5)/6.4/4.3	内面見込放射暗文,底部～体部下半回転削り,磨き	明褐,良	赤	51竪1791	約7割残
127	51竪	5	土師	坏	奈良	?/8.4/?	体部下半・底部外面削り後磨き,内面見込放射暗文	明褐,良	赤・白	51竪2970・一括	
127	51竪	6	土師	高坏?	古墳?	?/?/?	ナデ,付け高台,外面赤彩	橙,やや良	赤・白・石	51竪1798	
127	51竪	7	須恵	高台坏	平安	?/9.0/?	ナデ,底部糸切後回転削り・付高台	灰赤褐,良	白	51竪3058,68竪一括	外面自然釉
127	51竪	8	土師	甕	平安末	(37.2)/?/?	ハケメ・ナデ	暗褐,良	長・赤・石	51竪1835・一括	外面スス
128	51竪	9	土師	鉢甕	平安末	(41.4)/?/?	ナデ,ハケメ,指頭痕	褐,良	長多・赤・角・礫	51竪1815・1866,竈2966・3201～3203・3205～3207・3209	外面灰?,黒斑
128	51竪	10	須恵	甕	平安?	?/?/?	叩き,ナデ	灰褐,良	白	51竪1582	割れ口整形,裏面わずかに磨耗,転用硯?
128	51竪	11	須恵	甕	平安?	?/?/?	叩き,内面漆塗布?	灰,良	白	51竪1850	内面黒色塗料?
129	52竪	1	土師	坏	平安	(11.4)/4.3/4.2	ナデ,削り,底部糸切後削り	明褐,良	赤・白	52竪1872・1888	4割残
129	52竪	2	土師	坏	平安	(15.8)/?/?	ナデ,削り	明褐,良	赤	52竪1886・一括	体部外面墨書「左」?
129	52竪	3	土師	甕	平安	28.0/10.0/33.0	ハケメ,底部木葉痕	暗褐,良	長・赤・雲	52竪1875～1882・1889～1891・1893・1894・1896～1898,竈2772～2774・2777・2779・2781・2783,51竪一括	外面黒変・粘土・灰,内面一部変色,底部外面被熱粘土,9割残
129	52竪	4	土師	羽釜	平安	(21.0)/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	長・角・雲・赤	52竪1874・1884・1895,竈2775・2776・2784・一括	外面スス・灰,内面変色
129	52竪	5	土師	置き竈	平安	(23.8)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲・角	52竪2959,床3037	内面灰付着
130	53竪	1	土師	坏	奈良	(14.7)/11.0/4.0	ナデ,削り,見込放射磨き,底部削り	明橙. 良	雲・赤	53竪1698～1700・1701・一括	約5割残
130	53竪	2	土師	坏	奈良	(15.4)/(9.1)/3.8	ナデ,底部削り	明橙,良	雲・赤	53竪1705	約3割残
130	53竪	3	土師	坏	奈良	?/(8.2)/?	ナデ,削り,放射暗文	明橙,やや不良	雲・赤	53竪1706・1707・一括	
130	53竪	4	土師?	坏	奈良	(12.4)/(7.5)/3.3	ナデ,底部削り	鈍い黄褐,良	長・石・角	53竪1702	須恵か,胎土やや粗
130	53竪	5	土師	甕	奈良	?/8.0/?	ナデ,底部木葉痕	鈍い褐,良	長・雲・赤	53竪1714	底部周縁磨耗顕著,外面変色
130	53竪	6	須恵	小壷	奈良	?/?/?	ナデ,削り	灰,良	白・赤	53竪1720	
130	54竪	1	土師	坏	平安	(12.2)/4.9/3.7	ナデ,削り	明褐,良	赤大・長大・雲	54竪1675・1676	4割残
130	54竪	2	土師	坏	平安	(16.7)/?/?	ナデ,内面放射暗文	褐,良	赤	54竪床1692	
130	54竪	3	土師	甕	平安	(28.6)/?/?	ハケメ	黒褐,良	長・雲多・角・赤	54竪1674	内外面黒変
130	54竪	4	土師	甕底	平安	?/(9.0)/?	ハケメ,底部木葉痕	褐,良	長・雲・角	54竪床1690・1691	一部薄く黒変
130	54竪	5	須恵	甕	平安?	(30.9)/?/?	ナデ	灰	白少	54竪1686	小片
130	57竪	1	土師	坏	平安	(11.2)/5.6/4.7	ナデ,削り,底部削り	橙,やや良	赤	57竪1739・一括	全体磨耗
130	57竪	2	土師	坏	平安	(10.4)/5.2/4.2	ナデ,削り,放射暗文,底部糸切後削り	橙,良	赤・白	57竪2432	約5割残
130	57竪	3	土師	坏	平安	?/(8.0)/?	削り,放射状暗文,底部削り	橙,良	赤・白	57竪1752・一括	
130	57竪	4	土師	坏	平安	?/(5.4)/?	ナデ,底部糸切	明橙,良	赤	57竪1737・1745・一括	見込部粘土粒付着
130	57竪	5	須恵	坏	平安	?/(8.0)/?	ナデ,底部糸切	灰,良	白	57竪一括	小片
130	57竪	6	土師	甕	平安	(38.4)/?/?	ハケメ	暗褐,良	雲多・長	57竪1735・一括	内外面黒変
130	57竪	7	土師	小形甕	平安	(11.8)/?/?	ハケメ	褐,良	長・雲・角	外1570	内面灰
130	57竪	8	土師	小形甕	平安	(12.8)/?/?	ナデ	赤褐,良	赤	57竪床2420	内外面炭化物付着
130	57竪	9	土師	小形甕	平安	(17.8)/?/?	ハケメ	暗褐,良	雲・長	57竪一括	外面黒変
130	57竪	10	土師	甕底	平安	?/(7.8)/?	ハケメ,底部木葉痕	褐,良	雲・長大多・角	57竪1740	外面薄く変色
130	57竪	11	土師	甕底	平安	?/(8.0)/?	ハケメ,底部木葉痕?	暗褐,良	雲・長大・角	57竪2688	外面黒変・灰
130	57竪	12	土師	台付甕	古墳?	?/?/?	ハケメ,ナデ	浅黄,良	長・雲・赤・角	57竪1753	内面黒色
130	57竪	13	土師	円筒土器?	平安	(14.6)/?/?	ハケメ	褐,良	雲・長多・角	57竪1751・竈2687・2689	内面変色
131	58竪	1	土師	坏	平安	10.9/5.8/4.0	削り,放射暗文,底部糸切	橙,良	赤・雲・長	58竪床1724	8割残
131	58竪	2	土師	坏	平安	10.6/5.7/4.3	ナデ・底部糸切	明橙,良	赤・長・雲	58竪竈1731	9割残,全体磨耗
131	58竪	3	土師	甕	平安	(25.8)/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	雲多・赤・長	58竪竈1726・1728	外面粘土
131	58竪	4	須恵	壷	平安	?/?/?	ナデ・把手	灰白,良		58竪一括	把手に5㎜の孔
131	59竪	1	土師	甕	平安	(24.5)/(10.8)/?	ハケメ	褐,良	雲・長・角	59竪1760,竈2580・2584・2585・3250	外面薄く変色
131	60竪	1	土師	羽釜	平安末	(23.2)/?/?	ナデ	暗褐,良	雲・長	60竪1764	内外面黒変,内面灰
131	60竪	2	土師	甕	平安末	?/?/?	ナデ,ハケメ	褐,良	雲・長	60竪1766	内面薄く黒変
131	61竪	1	土師	坏	平安	11.2/4.5/3.8	削り,放射暗文,底部削り	明橙,良	長・赤・雲	61竪2637	9割残
131	61竪	2	土師	坏	平安	(13.2)/(5.9)/6.4	削り,放射暗文	明褐,良	赤・白・雲多	61竪2429・一括	底部荒れ
131	61竪	3	土師	小形甕	平安	(12.2)/(8.0)/?	ハケメ	暗褐,良	雲・長	61竪2457・一括	内外面黒変
132	62竪	1	土師	坏	平安	(10.5)/(5.6)/4.9	削り,放射暗文,底部糸切	褐,良	赤	62竪1772	約2割残
132	62竪	2	土師	坏	平安	(11.2)/?/?	削り,放射暗文	鈍い橙,良	赤	62竪1781	内外面薄く変色
132	62竪	3	土師	坏	平安	(12.6)/?/?	削り,放射暗文	褐,良	赤・長・石	62竪一括	
132	62竪	4	土師	坏	平安	?/5.2/?	削り,底部糸切後削り	鈍い褐,良	赤・長・雲	62竪1779	見込部線刻,底部外面墨書,割口調整?
132	62竪	5	土師	甕	平安	(27.3)/(7.3)/?	ハケメ,底部木葉痕	赤褐,やや良	長・雲・角・赤	62竪1774・1782・2336～2338,床1789,竈2751・2752・2754・2759・2761・2762・一括	外面粘土?付着,底部変色
132	62竪	6	土師	小形甕	平安	(11.9)/?/?	ハケメ	鈍い褐,やや良	長・雲・角・赤	62竪2339	小片
132	62竪	7	土師	甕	平安	(23.2)/?/?	ハケメ	暗褐,良	長・雲	62竪1783・一括	内外面変色
132	63竪	1	土師	皿	平安	12.6/?/?	ナデ,削り	褐白,良	赤・白	63竪竈2571・2577	6割残,底部外面剥離,内外面黒変
132	63竪	2	土師	小形甕	平安	(15.1)/?/?	ハケメ	褐,良	雲・長	63竪竈2574	
132	63竪	3	土師	甕	平安	30.2/?/?	ハケメ	明褐,良	雲・長・赤・角・花	63竪1922,竈2566・2569・2570・2572・2576	外面薄く黒変・被熱粘土
132	63竪	4	須恵	甕	平安?	?/?/?	叩き,ナデ	灰,良	白	63竪1930	内面磨耗?
133	64竪	1	土師	皿	平安末	11.1/6.2/2.9	ナデ,底部糸切	黄褐,やや不良	長・角・赤・雲	64竪2019	9割残,見込部・内面一部黒変
133	64竪	2	土師	坏	平安末	11.0/6.0/3.2	ナデ,底部糸切	黄褐,やや良	赤・長・雲	64竪竈2086・2140・2141	竈内出土,内外面一部黒変,6割残
133	64竪	3	土師	皿	平安末	11.2/6.2/3.1	ナデ,底部磨耗	鈍い褐,不良	長大・赤	64竪床2038,竈2084・一括	6割残
133	64竪	4	土師	皿	平安末	(11.1)/5.9/2.9	ナデ,底部糸切	橙,やや良	長・赤・雲	64竪床2042・2043,一括	底部歪み
133	64竪	5	土師	皿	平安末	11.4/6.5/3.0	ナデ,底部糸切	明橙,やや良	長・赤・角	64竪2043,竈2088	8割残
133	64竪	6	土師	皿	平安末	11.9/6.4/2.8	ナデ,底部糸切	鈍い橙,不良	長・礫・赤	64竪竈2041・2090・2095・2096	7割残,内外面薄く黒変
133	64竪	7	土師	坏	平安末	?/5.3/?	ナデ,底部糸切	橙,不良	長・赤・白・雲	64竪一括	
133	64竪	8	土師	坏?	平安末	?/7.3/?	ナデ,底部糸切	橙,良	長・赤・角・礫	64竪床2043	割口調整,底部外面薄く黒変
133	64竪	9	土師	高台坏	平安末	16.6/8.4/7.2	ナデ,付高台	橙,良	長・赤・礫・雲・花	64竪2022,床2035・2037,竈2087,一括	内外面薄く黒変,高台先端欠損後調整
133	64竪	10	土師	高台坏	平安末	?/8.8/?	ナデ,付高台	明黄褐,良	赤・長・雲	64竪竈2146	内面薄く赤彩
133	64竪	11	灰釉	碗	平安	(17.0)/?/?	ナデ,内面施釉	灰白,良	白	64竪一括	
133	64竪	12	緑釉	碗	平安	(11.1)/?/?	ナデ,内外面施釉	灰,良	白	64竪床下2984・2985	内外濃緑色
133	64竪	13	灰釉	碗	平安	?/5.6/?	ナデ,内外面施釉	乳白,良		64竪2021	
133	64竪	14	土師	鉢甕	平安末	(30.9)/?/?	ハケメ	褐,良	雲・長・赤・角・石	64竪床2036・2069,竈2986・2988・一括	内外面薄く変色
133	64竪	15	土師	甕	平安末	?/8.0/?	ハケメ,ナデ,底部木葉痕	鈍い褐,良	長・角・雲多・石	64竪竈2085・2148・2222	外面スス多,内面黒変
134	65竪	1	土師	坏	平安	11.1/4.2/4.0	ナデ,削り,底部削り	黄褐,良	赤・白	65竪3016	6割残,底部外面墨書「秋」
134	65竪	2	土師	皿	平安	(11.4)/5.5/3.1	ナデ,底部糸切	黄褐,やや不良	赤多・長	65竪竈3013・3038	6割残,底部外面墨書?
134	65竪	3	土師	皿	平安	13.0/4.4/3.0	ナデ,削り,底部削り	明橙,良	赤・白	65竪竈3013,一括	8割残
134	65竪	4	土師	甕	平安	(29.0)/?/?	ハケメ	赤褐,良	雲やや多・長・角	65竪竈3008～3010・3012・3039・3044,3046～3048・一括,67竪竈3226	内外面薄く変色
134	67竪	1	土師	坏	平安	12.0/4.2/4.3	ナデ,削り,底部糸切後削り	橙,良	赤・白	67竪2324,周溝一括,65竪3015	外面一部黒変,9割残
134	67竪	2	土師	坏	平安	(11.3)/4.9/4.6	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	赤・長微	67竪床2903,竈一括	体部外面墨書,5割残,内外面黒色(内面黒色?)
134	67竪	3	土師	坏	平安	(14.3)/4.7/5.3	ナデ,削り,底部削り	橙,良	赤・白	67竪床2322・2902・2904,竈2907,周溝一括,65竪一括	7割残,内外面薄く黒変
134	67竪	4	土師	皿	平安	(12.4)/(6.2)/2.0	ナデ,回転削り?	褐,良	赤・白	67竪周溝2906	体部下半磨耗
134	67竪	5	土師	皿	平安	13.0/5.6/2.8	ナデ,削り,底部削り	明褐,良	赤・白	67竪2317・一括,42竪床2155	底部外面墨書「夫」,5割残
135	67竪	6	土師	甕	平安	(30.0)/10.0/?	ハケメ,底部木葉痕	暗褐,良	長・角・花・雲	67竪2315・2316・2318・2319,竈3011・3040・3042・3043,床2323, 42竪床2157,65竪竈3003,周溝一括	内外面薄く変色
134	67竪	7	土師	甕	平安	(27.0)/?/?	ハケメ	黄褐,良	長・赤・雲大	67竪竈2262・2819,2320・一括,65竪竈3004・3006	外面頚部粘土,内外面黒変
135	68竪	1	土師	坏	平安末	(11.7)/5.5/4.7	ナデ,底部糸切	黄褐,やや良	長・赤・石	68竪竈2951・一括,52竪一括	内外面一部黒変,5割残,底部摩耗
135	68竪	2	土師	坏	平安?	(16.0)/?/?	ナデ,削り	橙,良	赤	68竪一括	小片,外面赤彩?
135	68竪	3	土師	皿	平安末	10.6/4.2/2.7	ナデ,底部糸切	褐,やや良	長・雲	68竪竈2944・2945	内外面一部黒変,6割残
135	68竪	4	土師	皿	平安末	10.4/4.2/3.1	ナデ,底部糸切	褐,良	赤・雲微	51竪1841・一括,68竪竈2939	内外面変色,7割残
135	68竪	5	土師	皿	平安末	(10.8)/(6.0)/2.6	ナデ,底部糸切	鈍い褐,やや不良	長・石・赤	68竪竈2949	内面一部黒変,3割残
135	68竪	6	土師	坏	平安末	(10.6)/4.8/2.3	ナデ,底部糸切	橙,やや不良	赤・白	51竪1842	
135	68竪	7	土師	坏	平安末	?/4.6/?	底部磨耗	橙,不良	赤・白・礫	51竪1839・1842	全面摩耗
135	68竪	8	土師	皿	平安	(12.8)/4.4/3.0	ナデ,削り,底部糸切後削り	褐,良	赤	68竪竈3036・一括	内外面黒変
135	68竪	9	灰釉	段皿	平安	11.4/6.1/4.1	無釉,底部糸切後付高台	白,良	礫	51竪1849	ほぼ完存,無釉?

図	地点	№₁	種別	器種・部位	時期	口/底/高	技法	色調・焼成	胎土	注記	備考
135	68竪	10	灰釉	碗	平安	(11.6)/?/?	ナデ	灰褐,良		51竪一括	小片
135	68竪	11	灰釉	碗	平安	?/(7.2)/?	内外面施釉,底部糸切後付高台	灰白,良		51竪1847	
135	68竪	12	灰釉	碗	平安	?/(6.4)/?	外面施釉,底部回転削り後付高台	灰褐,良		51竪1844	見込部磨耗・墨?痕,転用硯?
135	68竪	13	灰釉	鉢?	平安	?/(7.4)/?	無釉,底部糸切?	灰白,やや良		51竪1845・1853	軟質,須恵類似
135	68竪	14	土師	小形甕	平安末	(13.6)/(11.4)/14.3	ナデ,底部木葉痕	鈍い褐,良	雲・長・赤・角	51竪1827・1829・1831,一括,68竪竈2940・2947・2955・一括	内外面薄く変色,外面灰?
135	68竪	15	土師	小形甕底	平安末	?/(11.4)/?	ナデ,底部木葉痕	暗褐,良	雲・長・角	51竪1832	内外面変色
136	68竪	16	土師	甕	平安末	(30.0)/?/?	ナデ	暗褐,良	長・雲・角	68竪竈2948	内面黒変,外面スス
136	68竪	17	土師	甕	平安末	(32.8)/?/?	ナデ・ハケメ	暗褐,良	長・石・角	68竪竈2950	内外面黒変
136	68竪	18	土師	甕	平安末	(31.8)/?/?	ナデ・ハケメ	褐,良	長・雲・角	68竪竈2941	
136	68竪	19	土師	甕	平安末	(32.2)/?/?	ハケメ	褐,良	長・角・石	51竪1830,68竪竈2942・2954	外面スス,内面薄く変色
136	68竪	20	土師	羽釜	平安末	(26.4)/?/?	ハケメ	暗褐,良	雲・長・赤	68竪床2956	内外面黒変
136	68竪	21	土師	羽釜	平安末	(31.2)/?/?	ハケメ,ナデ	暗褐,良	雲・長・角	51竪1826・1862	外面スス・灰?
137	69竪	1	土師	甑	古墳?	14.8/4.9/9.4	ナデ,ハケメ,内面磨き	橙褐,良	長・赤・石	69竪2544	外面下半表面剥離,底部穿孔径1㎝,約8割残,内面薄く変色
137	69竪	2	土師	台付甕脚	古墳	?/8.9/?	ハケメ,ナデ	明黄橙,良	長・赤・雲	69竪2543	外面黒斑
137	70竪	1	土師	S字甕	古墳	(14.0)/?/?	表面風化	黄橙,不良	長・雲・赤・礫	70竪一括	外面一部変色
137	70竪	2	土師	甕	平安	(24.0)/?/?	ハケメ	鈍い赤褐,良	長・雲多・角	70竪竈2932・2937・2976	外面黒変・粘土,内面薄く黒変
137	71竪	1	土師	坏	奈良?	18.0/13.8/7.7	ナデ,底部削り,内面一部磨き	橙,良	赤・角	71竪床2741	5割残,外面一部スス
137	71竪	2	土師	台付甕脚	古墳	?/(9.0)/?	ハケメ,赤彩	橙,良	長・雲・角	71竪2707	内外面赤彩,小片
137	71竪	3	土師	甕	奈良?	(34.7)/?/?	ハケメ	赤褐,良	長・雲・赤・礫	71竪2743・2744	内外面一部黒変
137	71竪	4	土師	叩き甕	奈良?	?/(7.2)/?	叩き,ナデ	黄褐,良	赤・石・雲・礫・長	71竪竈2978,外874	
137	72竪	1	土師	皿	平安末	(11.2)/(6.0)/2.9	ナデ	黄橙,良	赤・長・雲	72竪竈3249	3割残
137	72竪	2	土師	甕	平安末	(27.2)/?/?	ハケメ,ナデ	鈍い赤褐,良	雲・長・角	72竪竈2983・2998	内外面薄く変色
138	73竪	1	土師	坏	平安	(11.8)/(4.9)/3.9	削り,放射暗文,底部糸切後削り	明赤褐,良	長・赤	73竪一括	約2割残
138	73竪	2	土師	坏	平安	(11.8)/(6.0)/4.4	削り	明赤褐,良	赤・長・雲微	73竪一括	小片
138	73竪	3	土師	坏	平安	(10.8)/?/?	削り	橙,良	赤	73竪一括	
138	73竪	4	土師	坏	平安	(11.0)/?/?	削り,放射暗文	明橙,良	赤・長	73竪一括	外面線刻
138	73竪	5	土師	坏	平安	(12.0)/?/?	削り,放射暗文	明橙,良	赤・長・角	73竪周溝3213	
138	73竪	6	土師	坏	平安	(11.8)/?/?	削り,放射暗文	明橙,良	赤・長	73竪床3164	
138	73竪	7	土師	坏	平安	?/(5.0)/?	削り,底部糸切後削り	明赤褐,良	赤・白	73竪3053	見込部線刻?
138	73竪	8	土師	坏	平安	?/5.2/?	削り,放射暗文,底部糸切後削り	明赤褐,良	赤・白	73竪一括	底部外面線刻
138	73竪	9	土師	坏	平安	?/5.3/?	削り,底部削り	鈍い黄橙,良	赤・長	73竪周溝3212	
138	73竪	10	土師	高坏	平安	(19.0)/?/?	放射暗文	明橙,良	赤・雲微	73竪床3163	皿部4割残
138	73竪	11	須恵	坏	平安	(13.0)/?/?	ナデ	灰,良	長	73竪一括	小片
138	73竪	12	須恵	蓋	平安	15.4/-/5.2	ナデ,回転削り	灰,良	長	73竪床3169	歪み,完存
138	73竪	13	土師	甕	平安	(24.0)/?/?	ハケメ	黒褐,良	雲・角・長	73竪3067	内外面薄く変色
138	73竪	14	土師	甕	平安	(23.8)/?/?	ハケメ	黄褐,やや良	長多・角・雲	73竪竈3258,一括	外面薄く黒変
138	73竪	15	土師	甕底	平安	?/(7.4)/?	ハケメ,底部木葉痕	赤褐,良	長・雲・角	73竪3158・一括	底部灰付着
138	73竪	16	土師	甕底	平安	?/8.2/?	ハケメ,底部木葉痕	暗褐,良	長・雲・角	73竪3049	内外面薄く黒変
138	74竪	1	土師	坏	平安	13.8/6.2/5.1	削り,放射暗文,底部削り	明橙,良	長・雲	74竪竈3137・3138	ほぼ完存
138	74竪	2	土師	甕	平安	(26.4)/?/?	ハケメ,ナデ,指頭痕	赤褐,良	雲多・赤・長・角	74竪3139～3145・3147～3151・3186～3189・3264	外面スス付着・粘土,内面変色
138	74竪	3	須恵	壷	平安	?/8.2/?	ナデ,回転削り,付高台,釉	灰白,良	黒	74竪3153	灰釉?
139	75竪	1	土師	坏底	奈良	?/(9.0)/?	削り,ナデ	橙白,良	赤	75竪3060	見込線刻
139	75竪	2	土師	小形甕	奈良?	(10.2)/?/?	ナデ	褐,不良	長多・雲・角	75竪3063	外面剥離,内面薄く黒変
140	76竪	1	土師	坏	平安	10.9/4.5/4.1	ナデ,削り,放射暗文,底部削り	明赤褐,良	赤・白・長	76竪3079	完存
140	76竪	2	土師	坏	平安末	11.9/5.6/3.7	ナデ,底部糸切	明褐,やや良	長・赤・雲	76竪947	9割残,口縁歪み
140	76竪	3	土師	坏	平安	?/6.0/?	内面見込放射暗文,削り,底部糸切後ヘラ削り,墨書	橙,良	赤	外589	底部外面墨書,判読不明
140	76竪	4	土師	高台坏	平安	?/5.5/?	糸切後回転削り,内外面・見込放射暗文	明褐,良	赤	76竪3080	底部のみ残
140	76竪	5	土師	皿	平安末	(11.2)/4.3/2.9	ナデ,底部糸切	黄褐,やや良	赤・長・雲・角	外592	6割残
140	76竪	6	須恵	坏	平安	(13.0)/?/?	ナデ	灰,良	白	76竪一括	小破片
140	76竪	7	須恵	高台坏	平安	(13.2)/8.9/3.6	ナデ,底部回転削り,付高台	灰,良	長	76竪953	3割残
140	76竪	8	土師	甕	平安	22.8/11.0/33.3	ハケメ,指頭痕,底部木葉痕	明赤褐,良	長・角・赤	76竪3109,竈3113・3114・3118・3119・3125・3128・3132・3193～3195・3197・3267・3268	外面スス,内面薄く変色, 底部灰付着
140	76竪	9	土師	甕	平安	(22.8)/9.5/36.4	ハケメ,指頭痕,底部木葉痕	明赤褐,良	長・角・雲	76竪3090・3105・3107・3108,竈3115・3117・3118・3123・3131・3181・3182・3191・3272・一括	内面上半に荒れ,外面薄くスス付着,肩部粘土・灰付着,約5割残
141	76竪	10	土師	甕	平安	(22.0)/?/?	ハケメ	明褐,良	長・雲・角	76竪床3099	小破片
141	76竪	11	土師	甕	平安	(25.7)/?/?	ハケメ	明褐,不良	長・角・赤・石	76竪竈3126・一括	内外面風化顕著
141	76竪	12	土師	甕	平安	(24.9)/?/?	ハケメ, 指頭痕	明赤褐,良	赤・長・角・雲	76竪竈3119・3121・3122・3130・3269,一括	外面薄くスス, 外面肩部粘土付着
141	76竪	13	土師	甕	平安	?/8.9/?	ナデ,ハケメ,底部木葉痕,指頭痕	赤褐,良	長・角・雲・赤	76竪3116・3134・3183	外面一部スス,外面荒れ
141	76竪	14	土師	小形甕	平安	(14.8)/8.0/13.9	ハケメ,ナデ,底部木葉痕	褐,良	長・角・赤	76竪3073	内外面薄く黒変
141	76竪	15	土師	小形甕	平安	(17.3)/?/?	ハケメ	黄褐,不良	長・雲	76竪3184	内面コゲ,外面灰,外面荒れ
141	76竪	16	土師	鉢甕	平安末	(40.0)/?/?	ハケメ	茶褐,良	長・雲・角	76竪3072・3076,竈3120・3135,床3102	外面黒変
143	2土	1	土師	坏	平安	?/5.0/?	削り,放射暗文, 底部糸切り後削り	明橙,良	赤・長・雲	2土一括	底部外面墨書「大内」?
143	2土	2	土師	甕底部	奈良?	?/8.7/?	ハケメ,底部圧痕,ナデ	橙,良	長・赤・礫	2土1663・1665	外面黒斑
143	5土	1	土師	壷	古墳	(13.6)/?/?	ナデ,指頭痕	褐,良	長・赤・雲	外557・2234	外面赤彩?
143	6土	1	土師	坏	平安末	11.0/5.8/3.3	ナデ,底部糸切	明褐,良	長・赤・雲・角	6土3028	燈明皿,底部外面黒変,完存
143	6土	2	土師	坏	平安末	(11.8)/5.0/(4.2)	ナデ	明橙,不良	長・赤	6土3026,66竪一括	摩耗顕著
143	25ピ	1	土師	高台坏	平安末	(12.2)/?/?	ナデ,付高台	明褐,不良	長・赤	25ピ986	脚部剥離,摩耗
143	103ピ	1	土師	甕	平安	(25.9)/?/?	ハケメ	褐,良	長・角・雲・赤	103ピ一括	
143	107ピ	1	土師	坏	平安	?/(5.0)/?	削り,底部削り	鈍い黄褐,良	赤	107ピ一括	底部外面線刻,判読不明
143	120ピ	1	土師	坏	平安	?/(6.5)/?	ナデ,内面見込放射暗文,削り,底部糸切後削り	明赤褐,良	赤・白	120ピ一括	
143	128ピ	1	土師	坏	平安	(11.2)/?/?	ナデ,削り,放射暗文	赤褐,良	赤	128ピ2016	
143	128ピ	2	土師	坏	平安	?/(6.5)/?	ナデ,削り,内面見込部放射暗文,底部糸切後削り	明黄褐,良	赤・白	128ピ1907	
143	128ピ	3	土師	坏	平安	?/7.2/?	ナデ,削り,内面見込放射暗文,底部糸切後削り	明赤褐,良	赤・白	128ピ1906	
143	128ピ	4	土師	甕	平安	(22.0)/?/?	ハケメ,ナデ	橙,良	長・赤・雲	128ピ1901・2017	
143	128ピ	5	土師	甕	平安	(24.7)/?/?	ハケメ	鈍い褐,良	雲・長	128ピ1910	外面スス
143	128ピ	6	土師	小形甕	平安	(18.0)/(6.7)/?	ハケメ	暗褐,良	雲・長・赤	128ピ1903・1904・1912・一括	内外面黒変
143	128ピ	7	土師	小形甕	平安	(13.4)/?/?	ハケメ	赤褐,不良	長多・雲多・角多・赤	128ピ一括	内面黒変,胎土粗
144	131ピ	1	土師	叩き甕	平安	?/?/?	叩き	鈍い橙,やや良	長・赤・角	131ピ1916	内面黒変
144	135ピ	1	土師	坏	平安	(13.5)/?/?	ナデ,削り,放射状暗文	赤褐,良	赤	135ピ一括	内外面黒色,小片
144	172ピ	1	土師	甕	奈良?	?/7.2/?	ナデ,底部木葉痕	鈍い橙,良	長・雲・赤	172ピ2051,外24・56,171ピ一括	
144	178ピ	1	土師	坏	平安	(10.6)/(5.3)/4.1	ナデ,削り,放射暗文,底部削り	橙,良	赤	178ピ2049・一括	3割残
144	190ピ	1	土師	台付甕脚	古墳	?/(8.2)/?	ナデ,端部折り返し	明赤褐,良	赤・白・角・雲	190ピ2123	小片
144	197ピ	1	土師	高台坏脚	平安末	?/(8.4)/?	ナデ	明褐,良	赤・長・雲	197ピ2136・2137・一括	
144	197ピ	2	灰釉	皿	平安	?/6.8/?	ナデ,付高台,外面施釉	灰白,良	白	197ピ2135・2139	
144	242ピ	1	須恵	坏	平安	(12.5)/?/?	ナデ	灰,良	長・礫	242ピ2981	小破片
144	243ピ	1	土師	皿	平安末	(11.4)/?/?	ナデ,底部糸切	鈍い褐,良	赤・長・雲	243ピ3259	約5割残
144	257ピ	1	土師	坏	奈良?	13.6/7.8/4.1	ナデ,削り,底部削り	鈍い褐,良	長多・雲・赤・角	257ピ3214	完存,内面燈芯痕,胎土粗
144	1谷	1	須恵	坏	平安?	(9.9)/?/?	ナデ	灰,良	白・黒・雲	1谷2トレ	小片
144	1谷	2	灰釉	碗	平安	?/(8.0)/?	ナデ	灰白,良		1谷821	
144	1谷	3	土師	壷	古墳?	(16.2)/?/?	ナデ	鈍い橙,良	赤・長・角・雲	1谷803,一括	
144	3溝	1	土師	坏	古墳?	11.3/3.8/5.0	ナデ	黄橙,良	長・礫・石・雲	3溝1518～1520・一括	内外面薄く黒変,6割残
144	3溝	2	土師	甕	平安	(29.9)/?/?	ハケメ,ナデ	明赤褐,良	長・赤・雲	3溝1466・1471・1472	頸部外面白色粘土
144	10溝	1	土師	壷	古墳	(17.5)/?/?	ハケメ,ナデ	明褐,良	長・雲・赤・花	10溝2108	
144	11溝	1	土師	台坏甕脚	古墳	?/10.0/?	ナデ,ハケメ,端部折り返し	鈍い赤褐,良	長・雲・角	11溝3022,外569	内面黒変
144	11溝	2	土師	台付甕脚	古墳	?/?/?	ハケメ,ナデ	赤褐,良	長・石・雲・礫	11溝2999	内面薄く黒変, 赤変
145	12溝	1	土師	壷	古墳	(12.8)/5.3/13.5	ナデ,ハケメ	赤褐,良	雲・長・石	12溝3289	外面上半赤彩,下半黒変,頸部白色付着物,内面赤変・付着物, 8割残
145	12溝	2	土師	壷	古墳	12.5/6.8/24.9	ヘラナデ,ハケメ	黄橙,良	長・雲・赤・礫	12溝3275・3281・3283・3301・3302・3304・一括	外面部分的に黒変
145	12溝	3	土師	壷	古墳	13.6/6.5/?	ナデ,ハケメ, 磨き	赤褐,良	長・雲・赤	12溝3273・3276～3279・3282・3286・3287・3292・3293・3302～3304,外1490	頸部外面赤彩?
145	12溝	4	土師	壷	古墳	?/(7.8)/?	ナデ,ハケメ端部刺突,磨き	黄橙,良	長・赤・雲・石	外799・800・804・805・809～811,49竪竈2536	外面赤彩?

図	地点	No.	種別	器種・部位	時期	口/底/高	技法	色調・焼成	胎土	注記	備考
146	12溝	5	土師	壷	古墳	?/8.2/?	ナデ,磨き,赤彩	黄褐,良	長・礫	外801・804・808・812	外面上半赤彩,外面黒色付着物
145	12溝	6	土師	台付甕脚	古墳	?/7.1/?	ハケメ,ナデ	黄橙,良	長・赤・雲	12溝3284	内外面一部黒変
145	12溝	7	土師	台坏甕脚	古墳	?/?/?	ナデ	暗褐,良	長・雲	12溝3280	外面薄く灰付着
146	遺構外	1	土師	坏	平安末	10.2/5.2/2.8	ナデ,底部糸切り	黄橙,やや良	長・赤・石	外823	7割残
146	遺構外	2	土師	坏	平安末	(11.4)/(6.0)/3.3	ナデ,底部磨耗	赤褐,不良	赤・黒	外564	摩耗顕著
146	遺構外	3	土師	坏	平安	(10.5)/(5.8)/4.0	削り,放射暗文,底部削り	赤褐,やや良	赤	外2066	
146	遺構外	4	土師	坏	平安	(11.4)/(7.2)/4.5	削り,放射暗文,底部削り	明橙,良	赤・長・黒	外883	口縁外面籾状圧痕
146	遺構外	5	土師	坏	奈良	?/(12.4)/?	ナデ,放射暗文,磨き	明褐,良	赤	外1535	外面赤彩?
146	遺構外	6	土師	坏	奈良	?/(8.1)/?	ナデ,内面見込放射暗文,底部糸切後ナデ・外周削り	鈍い橙,良	赤	外176	見込み部磨耗・一部黒変
146	遺構外	7	土師	坏	平安	?/4.6/?	削り,底部糸切り後削り	黄褐,良	赤・長	外164	
146	遺構外	8	土師	坏	平安	?/5.1/?	削り,放射暗文,底部糸切り後削り	明橙,良	赤・白	外157	
146	遺構外	9	土師	高台坏	平安末	?/(8.8)/?	ナデ	明橙,良	長・赤	外55	
146	遺構外	10	土師	高台坏	平安末	?/7.8/?	ナデ,内面黒色・放射磨き	黄褐,良	赤・長	外表採	内面黒色,割れ口調整
146	遺構外	11	土師	高坏	古墳	(8.7)/?/?	ナデ,磨き,赤彩	赤褐,良	長・雲・礫	外875	内外面赤彩
146	遺構外	12	土師	高坏	古墳	?/?/?	ナデ,赤彩	黄橙,不良	赤大・長大・雲	外2073	内外面一部赤彩
146	遺構外	13	土師	皿	中世?	(7.0)/4.4/2.9	ナデ,底部糸切り	鈍い褐,良	長・赤・石	外37・92	5割残
146	遺構外	14	土師	皿	平安末	(9.2)/(4.7)/2.8	ナデ,底部糸切り	明赤褐,良	長・雲	外576	内外面一部薄く黒変,1/4残
146	遺構外	15	土師	台付甕脚	古墳	?/(9.0)/?	ナデ,脚端部折り返し	橙,やや良	赤・長	外	被熱赤変
146	遺構外	16	土師	小形甕	奈良?	(12.2)/?/?	ナデ	鈍い褐,良	雲・長・赤	外2048	内外面薄く変色
146	遺構外	17	土師	壷	古墳	(12.2)/?/?	ナデ,赤彩	黄橙,良	赤・雲・角	外2098	内外面赤彩,口縁部折り返し
146	遺構外	18	縄文	深鉢	縄文前	?/?/?	縄文,繊維土器	橙,やや良	長・石・繊維	外208	関山式?

表７　石器観察表

図版	地点	No.	種別	長/幅/厚	重さg	石材	色調	注記	備考
94	2竪	8	砥石	5.6/2.9/2.0	64.0	砂岩	暗灰	2竪385	使用面4
94	3竪	11	砥石	7.5/4.4/2.9	116.0	砂岩	淡灰黄	3竪333	使用面1,線条痕
99	9竪	9	砥石	12.2/8.0/4.5	652.0	砂岩	灰黄	9竪床545	使用面1
101	10竪	32	台石	38.2/31.6/13.2	24400.0	花崗閃緑岩	灰褐		
102	11竪	11	竈支脚石	16.3/9.1/7.0	1660.0	花崗閃緑岩	暗赤褐	11竪竈	被熱赤変
104	16竪	4	竈支脚石	25.5/11.5/7.7	2300.0	ホルンフェルス	黄褐	16竪竈	被熱赤変
105	20竪	5	砥石	7.5/3.2/3.3	87	砂岩	黒褐	20竪周溝2561	使用面4,表面黒変
105	22竪	11	砥石	6.7/6.2/3.5	188	砂岩	灰赤褐	22竪910	使用面4
106	25竪	11	砥石	8.6/4.8/2.1	140	細粒砂岩	淡灰褐	25竪2247	使用面4,裏面ほほとんど欠失
109	30竪	9	石柱	[11.5]/15.8/10.8	2000.0	火山礫凝灰岩	明赤褐	30竪竈2550	
113	33竪	35	磨り石	7.6/4.9/3.0	163	ホルンフェルス	灰青	33竪1270	全体に敲打痕?
120	43竪	11	石柱	[22.1]/15.8/10.2	3500.0	火山礫凝灰岩	明赤褐	43竪3045	
121	44竪	11	打斧	11.5/3.8/1.0	58.0	ホルンフェルス	灰褐	44竪2006	
123	48竪	6	石柱	[45.8]/17.6/12.7	5200.0	火山礫凝灰岩	明赤褐～明黄褐	48竪竈2766・2767	
126	50竪	31	磨り石	11.0/10.8/5.4	856.0	安山岩	暗灰褐	50竪床2196	使用面2,薄く黒変
138	74竪	4	砥石	12.3/8.0/7.8	1130.0	砂岩	灰褐	74竪3173	使用面3
139	75竪	3	竈支脚石	23.4/12.8/8.9	3170.0	花崗閃緑岩	赤褐	75竪竈	被熱赤変
139	75竪	4	凹み石	25.3/23.2/14.8	13300.0	花崗閃緑岩	灰褐	75竪3172	凹み石面の使用痕は顕著ではない
142	76竪	18	砥石?	24.0/10.7/6.1	2280.0	砂岩	黄褐	76竪3171	砥面は不明瞭
142	76竪	19	砥石	29.3/19.5/11.8	12000.0	ホルンフェルス	暗灰青	76竪3170	特に上面の磨耗顕著
144	5溝	1	砥石	8.4/3.3/2.4	118.5	細粒砂岩	浅黄	5溝2014	使用面3
146	遺構外	19	凹み石	10.5/9.1/5.7	538.0	デイサイト	灰白	外3068	
146	遺構外	20	砥石	9.3/9.5/7.0	726.0	デイサイト	灰黄褐	外525	使用面4,表面にのみ線条痕,全体に赤変
146	遺構外	21	砥石	6.8/4.3/1.7	72.0	凝灰岩	黄褐	撹乱	使用面4

表８　土製品観察表

図版	地点	No.	種別	時期	長/短/厚cm 口/底/高cm	重さg	整形技法等	色調・焼成	胎土	注記	備考
101	10竪	26	製塩土器?	奈良?	(8.0)/?/?		ナデ	鈍い褐,良	長・石・礫	10竪一括	外面灰・黒変
101	10竪	30	ミニチュア	奈良?	2.4/2.4/1.5	21.1	手捏ね	褐,良	長多・石	10竪779	完存
101	10竪	31	土製品	奈良?	5.3/2.8/2.5	42	ナデ	黄褐,良	長・赤・雲	10竪竈2815	完存,竈内
102	11竪	9	紡錘車?	奈良?	4.8/4.4/3.5	81.2	ナデ・孔	暗褐,良	長・赤・雲	11竪678	完存
104	14竪	4	ミニチュア	?	5.4/3.5/3.1		手捏ね	黄褐,不良	長・赤	14竪857	磨耗顕著,口縁欠損後再調整
104	14竪	5	小形土器	奈良?	?/7.0/?		ナデ	鈍い褐,良	長・赤・雲,花	14竪竈2821	内面漆状付着,製塩土器類似,底部外面剥離
104	16竪	3	紡錘車	平安?	(4.2)/(3.2)/2.2		削り	鈍い褐,良	長・赤・礫・角	16竪830	破片
113	33竪	29	製塩土器?	奈良?	(24.0)/?/?		ナデ	褐灰, 不良	赤・礫	33竪1103	被熱
113	33竪	30	皿状土製品	奈良?	13.6/10.0/2.7		ナデ	橙	雲・長・赤	33竪床直1273	底部状,内面黒変
113	33竪	31	ミニチュア	奈良?	(6.8)/?/?		ナデ	暗褐,良	長・角・赤	33竪一括	小片
113	33竪	32	ミニチュア	奈良	2.5/2.7/1.7		ナデ	褐, やや良	長・雲	33竪1096	完存
119	42竪	9	製塩土器?	平安?	(10.4)/?/?		ナデ,ハケメ	白褐,良	赤	42竪一括	小片
128	51竪	12	土製品	平安?	3.0/3.4/2.1		ナデ	褐,良	長多・赤・角・雲	51竪2539	完存
128	51竪	13	土製品	平安?	4.5/4.8/2.5		ナデ	褐,良	長・角・赤・礫	51竪1854	完存
128	51竪	14	土製品	平安?	3.8/4.4/2.5		ナデ	暗褐,良	長・角・赤	51竪1855	完存
130	53竪	7	土製円板	奈良?	4.9/4.4/0.8		ナデ	黒褐,良	長・赤	53竪竈一括	土師器甕片,一部欠損,周縁磨耗
133	64竪	16	鞴羽口	平安末?	12.8/8.6/8.1		ナデ	褐,良	雲・長・赤	64竪2034	上半被熱,溶融物
137	70竪	3	ミニチュア	古墳?	(4.7)/(3.0)/5.4		手捏ね,ナデ	橙,良	長・赤・礫	70竪2711	5割残
141	76竪	17	ミニチュア	平安	4.2/3.2/3.6	52.48	ナデ	明褐	赤・長・雲・角	76竪3094	完存
143	128ピ	8	製塩土器	平安	(13.0)/?/?		ナデ	灰褐,やや良	赤・円礫・白	128ピ一括	内面灰色

表９　金属製品観察表

図版	地点	No.	種別	材質	長cm	幅cm	厚さcm	注記	備考
94	3竪	9	角釘?	鉄	6.0	0.6	0.8	3竪331	完存
94	3竪	10	角釘?	鉄	4.8	1.5	1.1	3竪332	2本銹着
102	11竪	10	刀子	鉄	5.0	1.1	0.8	11竪679	両端欠失
108	29竪	7	刀子	鉄	5.9	1.3	0.6	29竪1060	刃部先端欠失
109	30竪	7	鎌	鉄	6.1	5.0	0.9	30竪一括	刃部先端欠失
109	30竪	8	鏃	鉄	4.6	1.4	0.4	30竪1033	刃部先端欠失
113	33竪	33	刀子	鉄	10.6	1.7	0.6	33竪1271	刃部先端欠失
113	33竪	34	鎌	鉄	14.2	3.2	1.2	33竪2541	ほぼ完存
114	35竪	10	刀子	鉄	10.1	1.3	0.3	35竪1187・1200	完存
114	35竪	11	刀子	鉄	10.2	1.3	0.5	35竪1292	柄部分断
115	37竪	17	軸棒状	鉄	3.3	0.7	0.5	37竪2162	紡錘車の軸?
117	39竪	10	鉄滓	鉄	4.2	5.0	2.5	39竪1415	38. 11g
118	41竪	17	鉄滓	鉄	4.6	6.7	4.1	41竪一括	10.68g
122	47竪	3	刀子?	鉄	4.1	0.8	0.5	47竪2304	2.39g
122	48竪	5	角釘?	鉄	1.8	0.6	0.5	48竪1633	角釘先端?
124	49竪	8	刀子	鉄	6.0	1.2	0.6	48竪1652	柄部欠損
124	49竪	9	刀子?	鉄	5.0	0.6	0.3	49竪2901	柄部?
124	49竪	10	ノミ状	鉄	6.5	0.8	0.6		5.39g
128	51竪	15	角釘?	鉄	4.0	0.5	0.5	51竪1857	ほぼ完存
128	51竪	16	刀子	鉄	5.8	1.5	0.6	51竪1856	両端欠失
128	51竪	17	軸棒状	鉄	7.2	1.9	0.9	51竪1858	2本銹着
128	51竪	18	刀子?	鉄	5.8	2.1	0.4	51竪3057	欠損
128	51竪	19	鉄滓	鉄	5.4	4.0	2.9	51竪1859	
130	57竪	14	刀子?	鉄	4.9	1.0	0.8	57竪1756	柄部?
131	59竪	2	鎌	鉄	13.1	3.1	0.8	59竪2588	ほぼ完存
133	64竪	17	角釘	鉄	8.0	0.4	0.9	64竪2031	先端一部欠失
133	64竪	18	鉄滓	鉄	3.3	2.9	1.8	64竪2092	
133	64竪	19	椀形滓	鉄	9.1	8.9	2.4	64竪2032	
143	6土	3	鉄滓	鉄	5.0	5.5	1.2	6土3029	50.7g
143	6土	4	鉄滓	鉄	4.7	4.1	2.0	6土3030	45.6g
143	6土	5	鉄滓	鉄	4.5	3.6	1.3	6土3033	26.1g
143	25ピ	2	鉄滓	鉄	7.0	6.7	1.8	25ピ988	72.7g
143	128ピ	9	刀子	鉄	7.3	1.2	0.8	128ピ1913	
144	3溝	3	鉄滓	鉄	8.0	6.0	3.3	3溝1475	181.4g

第４章　総　括

第１節　五反田遺跡の土器類の変遷

まず各時期の典型的な土器群の様相について、遺構別に時期を追って概観したい。

12号溝はやや幅広で浅く短く、77号竪穴とした落ち込みも溝の一部の可能性が大である。この不明遺構内の東側で大形壷２点が据えられたように出土し、溝の西側では小形～中型壷３点のほか、台付甕脚部が集中的に出土した。壷形土器はいずれも最大径を胴部中央よりわずかに下にもち、外面は縦方向、斜め方向のナデ・磨き調整が顕著で、第145図４には肩部にハケメ板端部（木端）による連続刺突文で斜縄文的な文様効果の文様帯をもつ。1・5は外面胴部上半に赤彩とみられる赤味をもつものがある。口縁部は単純口縁、折り返し状の二重口縁の例がある。４と同類の土器には33号竪穴例があり、口縁部は角口縁、肩部に羽状の連続刺突文列をもち、胴部外面はよくヘラ磨きをしたうえで赤彩を施している（以上、１段階）。

10号竪穴は大形竪穴で、土師器類には３～５の盤状坏とともに、甲斐型坏の初現的な事例として横ヘラ削り・横ヘラ磨きした底径の大きな坏類がある。内面見込部には密な放射状暗文を施し、内面の器壁も横磨き調整を行う。甕類には長胴甕、球胴甕があり、ハケメが弱いヘラナデで整形する。口縁部は緩やかに曲線的に外反する。これらは甲斐型坏出現前後の土器群として捉えられ、51･53号竪穴もほぼ同時期とみなしうる。53号竪穴は４の甲斐型坏とともに１・２の盤状坏がある。その見込部に暗文に似た放射状ヘラ磨きが認められるほか、器壁内面には横磨きがあり、甲斐型坏への系譜性がうかがえる。71号竪穴１は器形の大きな坏で、器壁の立ち上がりは甲斐型坏に似ているが、底部が丸く、盤状坏の形態をもっている。甲斐型坏出現以前の様相を示している（以上、２段階）。

33号竪穴は横ヘラ磨き、縦ヘラ磨きをもつ底径の大きな土器群で、10号竪穴に比べると底径の縮小化が認められ、内面の放射状暗文が確立する。甲斐型坏の成立段階とみられる時期である。甕類は内外面のハケメが明確化し、口縁部は内側に屈曲した角のある稜線をもつ甲斐型甕が成立するが、10号竪穴の甕に似たヘラナデ調整のものもある。これらとともに土師器、須恵器には盤状形を呈したものが存在し、10号竪穴に続く

土器群の様相を示す。11・12号竪穴もほぼ同時期で、甲斐型坏の中には２・３のように外面横磨きのない次段階の土器群が含まれている（以上、３段階）。

58号竪穴は１・２の甲斐型坏をみると底径がやや大きく見込部・内面に放射状暗文を施すが、体部外面のヘラ磨きはなく、手持ちヘラ削りのみとなっている（以上、４段階）。

73号竪穴の甲斐型坏は底径が縮小し、口縁端部が玉縁化する前の段階で、体部内面には花弁状暗文をもつが、見込部の暗文は消失する。また同じ器形で体部内面に暗文をもたないものも存在し、49号竪穴の坏は１・２に暗文がなく、３・４には暗文がある。61号竪穴は坏体部の開きが大きく、口縁端部が丸味を帯び、より新しい様相を呈している。甲斐型編年ではこれを9世紀後半代の後半に位置づけるが、ここでは73号竪穴よりは新しいが、次段階よりは古い様相として、この段階にまとめておく（以上、５段階）。

８号竪穴の甲斐型坏は、口縁端部が玉縁化し、内面の暗文消失を特徴とする段階である。１号竪穴はかすかに暗文を残す坏が暗文をもたない坏と伴っている。65・67号竪穴も同時期とみられるが、67号竪穴４・５の皿は口縁端部が一段と玉縁化が進んだ段階であり、２段階程度に分けられる可能性がある。また玉縁化した口縁部に暗文をもつ坏も存在し、過渡的な段階と考えることができる。甕は口縁部が短く肥厚する（以上、６段階）。

甲斐型坏は手持ちヘラ削りの消滅をもって終焉するといわれているが、35号竪穴は甲斐型坏最終段階と次段階が混在する。１・８は玉縁口縁を残すが、体部下半、底部にはヘラ削りがない。２～５は前段階の土器であるが、５のようにヘラ削りの位置が一段と底部近くに下がった例がある。同様に25号竪穴は小皿が主体的だが、いずれも口縁部が玉縁的で、丸く外反する。44号竪穴は２・３のように玉縁を残すものが主体をなし、ヘラ削りをもつものはない。34号竪穴も同様で、坏類には全体に玉縁が残り、灰釉模倣とみられる短い高台をもつ６の高台坏が伴う。２号竪穴も同時期といえ、口縁がわずかに外反しつつ、口唇部には玉縁の名残がある。５の高台坏は灰釉陶器埦の模倣坏であろう。50号竪穴も同様で、この時期に該当する竪穴が本遺跡には多い。甕は口縁部の括れが不明瞭になった25号竪穴６、34号竪穴８のような土器を典型とし、内外面のハケメの残存は甲斐型甕の名残といえる。４号竪穴の甕７、羽釜８はともにヘラナデとなり、調整方向は従来同様に外面縦、内面横を基本とするが、ハケメが消失している。２号竪穴６・７もハケメがヘラナデ化し、口縁部は緩やかに外反し、器壁の厚さは全体に厚みがある36号竪穴は甲斐型甕の系譜を引く９、それがさらに変形・形骸化しナデ調整化した12があるほか、羽釜として従来の形態に近い10、鍔が短くなり、内面ハケメ調整がない11がある。また37号竪穴では、甕類は羽釜のみであるが、いずれも内外面ハケメ調整をもつもので、鍔が短くなった12・15・16が特徴的である。50号竪穴の甕には口縁の屈曲を残す28、口縁が肥厚直立した26、緩やかに外反する29、短い鍔の羽釜30があり、この段階の甕類が出揃っている（以上、７段階）。

続く土器群として72号竪穴をあげる。土師器皿は底部が粘土円柱から糸切りで切り離した痕跡をもち、口縁部は前段階同様の丸味をもっている。甕は口縁部が退化、形骸化し、器壁は厚く、外面には縦ハケメが残るが、内面はヘラナデとなり、横ハケ技法がなくなっている。この粘土円柱の残存を目安とすると、22号竪穴も同じ一群である。坏皿類はいずれもごく短い高台状の底部をもち、口縁部は単純にのびて外反するもの、６のようにわずかに湾曲して外反するものがある。３の高台坏は脚部が長く発達するが、同類には38号竪穴７、64号竪穴10があり、長脚化が特徴といえる。甕は５号竪穴例をみると、長く緩やかに外反した口縁をもち、外面にハケメ調整をもつ甕、低い器高で内外面ナデ調整の羽釜がある。６号竪穴10は甲斐型甕の系譜を引きつつ、口径が大きく、口縁部がほぼ直線化し、内面にわずかに稜を残すハケメ甕となる（以上、８段階）。

第２節　五反田集落の変遷

本遺跡で検出された主な遺構には、竪穴住居、掘立柱建物、土坑・ピット、溝がある。ここではそれらの時期変遷について、５世紀～11世紀前半を８段階に分け、竪穴住居を中心とした遺構の特徴、集落形態について整理したい。

１段階　５世紀中頃　69号竪穴
２段階　８世紀前半～中葉　10・14？・16？・51・53・71？・75？号竪穴
３段階　８世紀後半　11・12・33・59？・46・76？号竪穴
４段階　９世紀前半～中頃　57・58号竪穴
５段階　９世紀後半　49・54・61・62・73・74号竪穴
６段階　10世紀前半　１・８・52・63・65・67号竪穴

７段階　10世紀後半　２・４・９・20・25・26・28・29・30・31・34・35・36・37・39・40・42・43・44・45・47・50・64・68

８段階　11世紀前半　３・５？・６？・７？・15・17？・18・22・32？・38・72

不明　13・19・21・27・56・77

本遺跡の竪穴住居、その他の遺構の分布状況をみると、南北に長い長方形の調査区内において、竪穴群は大きく北東、中央、南西の３つのブロックに区分できるようにみえる。それらを便宜的にⅠ群域、Ⅱ群域、Ⅲ群域とする（図６）。

Ⅰ群は３号溝の東、11号溝の南に区画されたようにして存在する。20×30ｍ程度の範囲に16軒ほどが分布し、東側にピット群がある。竪穴の重複は間層をはさんで上下に重なるものがあるなど、部分的に集中し、ちょうど調査区東壁付近で竪穴群の分布が途切れるようにみえる。

Ⅱ群は３号溝の南西側、47号竪穴以北の部分で、30×50ｍ程度の中に38軒程度が密集し、さらに調査区外の西側へと竪穴群が続いている。33号竪と10号竪の間にはピット群があり、１号掘立があるが、その部分には竪穴が及んでいない。

Ⅲ群は８号竪穴以南の30×30ｍ程度の範囲で、18軒がやや散漫に分布する。大きく重複する竪穴はⅠ・Ⅱ群に比べると少なく、隣接する竪穴が接する事例が多い。Ⅰ・Ⅱ群の境に比べ境界が明瞭ではなく、大きくはⅡ・Ⅲ群がひとつのまとまりとして認識できる可能性があるが、８号竪穴北側に竪穴やピットの分布しない空白帯があることから、一応群別できるものと考えておく。４号竪穴と63号竪穴の間にピット群があり、ピットの並びが不明瞭ながら建物になる可能性が高い。また８号竪穴と51号竪穴の間にもピット群があるが、現地では建物として認識することはできなかったものの建物の可能性がある。

以下、各段階の遺構変遷および竈の位置などの竪穴住居の特徴について概観する。

１段階（５世紀以前）では、５世紀中ごろの69号竪穴がⅡ群域の中央付近に１軒のみ存在する。それ以前の古墳時代初頭の土器が12号溝から集中的に出土したほか、本遺跡近くの熊野八反田遺跡ではＳ字甕を伴う竪穴や溝が複数検出されていることから、奈良・平安時代に先駆けて、古墳時代初頭前後に本遺跡周辺の土地利用が開始されている。ただ69号竪穴、12号溝ともに竪穴住居、溝として確実に認識できたものではなく、集落景観として確実ではない。

２段階は８世紀前半から中葉にかけての８世紀前半代の遺構で、甲斐型坏成立以前にあたる。Ⅰ群域に小形竪穴４軒が南北に列状配置し、Ⅱ群域には中・大形の10・51号竪穴２軒が存在し、Ⅲ群域にはやや小形の竪穴１軒があり、大形竪穴の周囲を小形竪穴が取り巻いている。１号掘立は時期不明ではあるが、10号竪穴と主軸を同じくし、近い位置関係にあることから、この時期の可能性があるが、その場合51号竪穴と近接することから、51号竪穴と10号竪穴とは時間差が存在した可能性を考えねばならない。これらの竪穴群は大形竪穴を中心とした社会的まとまりある一群として捉えることができよう。このように１段階に土地利用が開始されたⅡ群域に集落の拠点的な支配者層とみられる存在が占地する状況については、１段階との時間差を考慮しなければならないものの、Ⅱ群域の優位性を示すものと理解したい。竪穴の主軸方向はほぼ南北方向を向くものが多いが、Ⅰ群域北側にはわずかに西傾斜したものがある。また竈は北壁が多く、10号竪穴では北壁中央となるが、16・71・75号竪穴などでは北東隅に寄った北竈であり、小形竪穴では北東隅に寄る傾向がある。また東竈の例が51・53号竪穴に認められる。いずれも煙道は短く、袖には粘土を用いた粘土竈、または礫を袖の一部に１～２石用いた石組竈である。そのほかの特徴として、大形住居の10号竪穴で４本柱穴が検出されている。Ⅱ群域の10・51号竪穴は手捏ね土器、土製品をもつことから祭祀性を認めることができ、集落の中核的な竪穴の要素として祭祀性を伴う点を指摘したい。

３段階は、おおむね甲斐型坏が成立する８世紀後半に相当する。竪穴はⅡ群域にのみとなり、集落域を縮小するようにして存在する。大形竪穴はなく、中形、小形の竪穴からなる集落である。中でも中心に位置する33号竪穴はやや大きく、中核的な竪穴であった可能性がある。竪穴の主軸方向はほぼ南北に向き、竈は北壁中央付近、東壁中央付近の例がある。粘土竈で煙道の短いもの、長い煙道の一部に礫を用いたものがある。

４段階は９世紀前半代で、Ⅰ群域にのみ２軒がある。Ⅱ群域には竪穴がなく、Ⅰ群域に移動がみられることから、集落規模の縮小化がさらに進み、３段階からの集落の系譜性に何らかの断絶が考えられる。また竪穴の主軸方向は西傾斜の南北方向となっている。

５段階は９世紀後半代で、竪穴はⅠ群域とⅢ群域を中心とした大きく２群に分かれるようにみえる。Ⅱ群域に１軒存在するが、Ⅲ群域に近い位置にある。Ⅰ群域の76号竪穴は規模がやや大きく、それ以外はすべて

図6　集落の変遷

小形となっている。竪穴の主軸方向は南北方向を向いたもののほか、Ⅰ群域では西傾斜したもの、Ⅲ群域では東傾斜したものがあり、やや統一性に欠けている。竈の位置は北壁中央のほか、北壁北東隅寄り、東竈があるほか、76号竪穴は西壁南寄りの西竈とする。この76号竪穴はやや大形で手捏ね土器を伴うなど、中核的な竪穴として異質性がある。

6段階は10世紀前半代で、Ⅱ群域に2軒、Ⅲ群域に3軒とやや低調となる。群在性は明瞭ではなく、Ⅱ群域の67号竪穴が1軒のみ離れて存在し、それ以外がⅢ群域を中心にやや離れて分布している。後者の中でも1・8・52号竪穴は中形であり、63号竪穴を除き規模が同程度である。竪穴住居の主軸方向は南北を示すもののほか、わずかに東傾斜したものがある。竈はいずれも東壁、南東隅寄りに位置し、石組竈となる。

7段階は甲斐型土器消滅直後の10世紀後半代で、甲斐型土器の特徴が残る時期である。竪穴数が24軒と著しく増加する。Ⅱ群域には21軒と、ほとんどの

竪穴が集中し、ほかにⅠ群域に１軒、Ⅲ群域には２軒がある。Ⅱ群域では重複関係があることから、さらに細分可能である。Ⅱ群域の竪穴は、中心部分に位置する 45・47・50 号竪穴がやや大きく、その周辺部分の大半の竪穴は小形であり、Ⅰ・Ⅲ群域の竪穴もまた小形である。とくにⅡ群域の中心に位置する 50 号竪穴を中心に小形住居が群在するようにみえる。竪穴住居の主軸方向はわずかに西傾斜した南北方向を示し、北側､南側にいくほど西傾斜の角度が大きいようである。竈は南東隅に近い例が多いが、コーナー竈として対角線方向に煙道を伸ばす例はあまりない。

８段階は甲斐型土器の影響が薄れる 11 世紀前半段階である。Ⅰ群域に５軒、Ⅱ群域に２軒、Ⅲ群域に５軒があり、３つの群別に一定の距離を置いて比較的よくまとまっている。これらの中でもⅠ・Ⅲ群域内では重複関係が多数あることから、時期区分が可能と考えられる。竪穴は小規模を主とし、目立って大きいものはない。竪穴住居は主軸をわずかに西傾斜した南北方向が多い。竈は東竈を主とし、南東隅に近いものが多いが、北東隅の対角線方向に煙道を伸ばしたコーナー竈を設けたものもある。

この時期を境に集落が消滅する。遺構外では中世の遺物の存在もとくにないことから、集落の移転などが水害等を契機に行われたのであろう。

第３節　五反田遺跡の文字関連資料

墨書土器は、住居軒数の割に少なく、以下の 10 点を見出したにすぎない。

８号竪穴13（土師器皿底部外面に不明文字）
10号竪穴10（土師器坏底部外面に不明文字）
40号竪穴３（土師器皿外面に不明文字）
42号竪穴６（土師器坏体部外面に「主」）
52号竪穴２（土師器坏体部外面に「左」？）
62号竪穴４（土師器坏底部外面に不明文字、内面にも線刻）
65号竪穴１（土師器坏底部外面に「秋」）
65号竪穴２（土師器底部外面に墨痕状の不明文字）
67号竪穴５（土師器皿底部外面に「夫」）
76号竪穴３（土師器坏底部外面に「万千」？）
２号土坑１（「大内」？）

時期的には２段階の 10 号竪穴例を最古とし、10 世紀前半代の資料が多いが、新しいものでは７段階の事例がある。墨書の位置については、土師器底部外面の事例を主とするほか、体部外面例が２例ある。判読不明が多く、判読できるものでは１文字例が多く、その内容については意味不明で、「主」「夫」は所有者に関する可能性があるが、「夫」は「奉」の略字の可能性がある。

線刻土器には図化したもののほかに、観察表作成段階で確認したものがあり、全部で以下 16 例があった。

１号竪穴４（土師器坏底部外面に線刻）
12号竪穴１（土師器坏内面に線刻状沈線）
12号竪穴３（土師器坏底部外面に不明記号）
12号竪穴５（土師器坏底部外面に不明記号）
20号竪穴１（土師器坏内面見込部）
28号竪穴12（須恵器壷底部外面にヘラ描き？）
31号竪穴４（土師器底部外面に刻書「赤」？）
33号竪穴12（土師器坏底部外面にヘラ描き「十」）
49号竪穴３（土師器高台坏底部外面に刻書「木工」？）
61号竪穴２（土師器底部外面に線）
62号竪穴４（土師器坏底部内面に記号､外面に墨書）
73号竪穴７（土師器坏見込部に線刻？）
73号竪穴８（土師器底部外面線刻）
75号竪穴１（土師器皿内面見込部に線）
107号ピット（土師器坏底部外面に不明文字）
６号土坑１（土師器坏体部外面に不明記号）

刻書の位置は、墨書土器同様に底部外面を主とするほか、内面見込部が多く、体部外面例はない。ほとんどが焼成後の線刻だが、焼成前ヘラガキが１例ある。意味不明の記号的な線が多い中で、文字は２点あり、とくに 49 号竪穴の刻書文字「木工」は職能に関する記載例として注目される。

文字関係資料として須恵器甕胴部、灰釉陶器高台部などを転用した転用硯および類似資料には以下の７点がある。

39号竪穴９（須恵器甕胴部片、内面に磨耗･研磨痕、墨痕・朱墨痕あり、割れ口一部磨耗）
41号竪穴９（灰釉陶器埦見込部磨耗）
42号竪穴８（灰釉陶器埦底部高台、外面高台内朱付着）
44号竪穴７（須恵器埦、見込部摩耗、割れ口調整）
51号竪穴10（須恵器甕胴部を楕円形に整形、磨耗痕は弱い）
63号竪穴４（須恵器甕胴部、内面に磨耗痕）
68号竪穴12（灰釉陶器埦、見込部磨耗）

須恵器甕胴部片利用が４点、灰釉陶器埦底部片利用が３点である。須恵器片には、破片を楕円形に整形したもの、割れたままのものがあり、内面の磨耗については墨痕がある 39 号竪穴例を除くと、必ずしも転用

硯とはいいきれず、砥石として用いた可能性があるものが多い。また灰釉陶器高台部は、高台の輪の部分に朱を入れた一種の転用硯の例のほか、磨耗してはいるが硯とは断定できないものが多く、砥石的な利用例も多いとみられる。なお、転用硯ではないが、12号竪穴12は割れ口が摩耗した須恵器甕片である。これも須恵器片を砥石的に用いた例である。

第４節　五反田遺跡の鉄製品・砥石と鍛冶関連遺物

ここでは鉄製品・鉄滓および砥石についてまとめておく。鉄製品には刀子、鎌、鏃、鑿または釘がある。

刀子　11号竪穴10
29号竪穴７
33号竪穴33
35号竪穴10・11
47号竪穴３
49号竪穴８
51号竪穴16・18
57号竪穴14（鑿状の可能性あり）
128号ピット９

鎌　30号竪穴７
33号竪穴34
59 号竪穴２

鏃　30号竪穴８
128号ピット９

鑿釘　３号竪穴９・10
37号竪穴17
48号竪穴５
49号竪穴９・10
51号竪穴15・17
64号竪穴17

刀子11点、鎌３点、鏃２点、鑿釘９点の計24点であるが、鑿釘としたものに鏃が混じっている可能性がある。また釘には２本錆着した例がある。

鉄滓は以下の通りである。

39号竪穴10
41号竪穴17
51号竪穴19
64号竪穴18・19
６号土坑３～５
25 号ピット２
３号溝３

10点あり、中でも64号竪穴ではやや大形の碗型滓19が出土した。同じ竪穴内では鞴羽口16が出土していることから鍛冶工房の可能性があるが、竪穴内には専用の炉がないことから、通常の竪穴住居の竈での鍛冶作業を想定する。また鉄滓３点が出土した６号土坑も鍛冶関連の遺構といえるだろう。

鉄製品に関連するものとして、鎌や刀子を研ぐための砥石についてまとめておく。

２号竪穴８
３号竪穴11
９号竪穴９（中形品）
20号竪穴５
22号竪穴11（中形品）
25号竪穴11
76号竪穴18・19（大形品、置き砥）
５号溝１
遺構外20・21（20は大形品）

計11点で、小形手持ち用の砥石を主としつつ、置き砥がみられる。

第５節　祭祀遺物（手捏ね土器・土製品）

祭祀遺物と考えられる手捏ね土器、土製品について整理しておく。出土したのは以下の通り。

10号竪穴30（球埦形）
10号竪穴31（俵形）
14号竪穴４（坏形）
33号竪穴31（坏形）
33号竪穴32（球埦形）
51号竪穴12～14（球埦形）
70号竪穴３（坏形）
76号竪穴17（坏形）

計10点がある。小形の坏形を呈した手捏ね土器（ミニチュア土器）４例のほか、本遺跡に特徴的といえるのが球埦形とした、小さな球状粘土の上面に指を挿したように穴をあけたものが８世紀代の10・33・51号竪穴で出土している。いずれも大きさ、形態が類似した土製品で、餅形のようでもある。何を模した土製模造品なのか不明であるが、一応手捏ね土器の一種と考える。51号竪穴では３点が出土したことから、複数で存在することに意味があるとみたい。また10号竪穴で１点のみ出土した俵形（棒状）土製品についても、やはり何の模造品かは不明であるが、同じ10号竪穴からは球埦形土製品も出土していることから両者の関連性がうかがえる。

第６節　製塩土器とみられる小形土器

本遺跡からは製塩土器とみられる土器片が数点出土

している。被熱した小形手捏ね土器の小破片で、類例は県外での出土事例から製塩土器、あるいは焼塩土器と判断されている。2008年に山梨県内での存在が確認されて以来、県内ではいくつかの遺跡で報告が相次いでいるほか、かつての主要な遺跡出土品を再調査すると、一括遺物の中から見出されることがあり、奈良平安時代での甲斐国内の塩の流通について明らかになりつつある。本遺跡では、以下の５点が確認された。

10号竪穴26（コップ形）
14号竪穴５（やや大形の手捏ね土器）
33号竪穴29
42号竪穴９(内面ハケメ状の調整痕をもつ小形土器)
128号ピット８

時期的には８世紀前半から11世紀前半の竪穴から出土し、いずれも小形の手捏ね土器である。本遺跡周辺では山梨市三ヶ所遺跡に類例があり、「塩毛」という刻書土器が出土している。

第７節　施釉陶器（灰釉・緑釉陶器）

施釉陶器には灰釉・緑釉陶器がある。

灰釉陶器は以下のとおり、やや多い。

４号竪穴４・５（碗、４は猿投百代寺窯式１型式または美濃丸石２号窯式、11世紀第１四半期）
９号竪穴５（小皿、猿投東山窯式、10世紀後半代）
９号竪穴８（壷）
20号竪穴４（碗、東山72号窯式または虎渓山１号窯式か）
22号竪穴８・９（碗、段皿、８は百代寺１型式、11世紀第１四半期、９は東山72号窯式、10世紀後半）
26号竪穴７（小皿、東山72号窯式か、10世紀後半）
29号竪穴３・４（碗、３は百代寺１型式、11世紀前半）
34号竪穴７（碗、百代寺１型式、11世紀前半）
37号竪穴８～10（小皿、段皿、東山72号窯式、10世紀後半）
41号竪穴８・９（碗、百代寺１型式か）
42号竪穴８（皿又は埦、猿投折戸53号窯式１型式か、10世紀第１四半期）
43号竪穴７・８（碗）
44号竪穴６（碗、百代寺１型式、11世紀第１四半期）
45号竪穴２（碗、百代寺１型式か）
50号竪穴16～22（小皿、段皿、碗、壷、東山72号窯式～百代寺１型式）
64号竪穴13（段皿、東山72号窯式）
68号竪穴９～13（碗・皿・鉢、東山72号窯式）
74号竪穴３（壷）
197号ピット２（皿？）

緑釉陶器は２点の小破片が図示されている。

36号竪穴７（碗）
64号竪穴12（碗、東山72号窯式か、10世紀後半）

灰釉小皿、段皿は11世紀段階になると消失するため、その有無が時期を決める手がかりとなり、土器編年、段階設定に際しての年代観設定のメルクマールとなる。

第８節　その他

その他に注目すべき遺物や出土状況について触れておく。

33号竪穴30は内面にハケメ調整のある土器底部状を呈した皿形土器である。甕底部の製作技法で作られた皿状を呈した特殊な土器である。

71号竪穴４は斜行叩き目をもつ小形の土師器壷である。器壁は厚く、球胴状を呈している。また131号ピット１は外面に斜行叩き目をもつ大形の土師器甕である。須恵器工人が作った土師器、または焼成不良の須恵器であろう。

紡錘車には11号竪穴９（土製）、16号竪穴３（土製）がある。いずれも土製で、石製はない。

角柱状加工石材は３点ある。30号竪穴９は断面長方形の柱状石材。ハツリ痕はなく、指頭痕状のくぼみがあり、一見土製品に見える。竈手前からの出土である。43号竪穴11は斜めのハツリ痕をもつ断面長方形の柱状石材。左右の竈袖石の最前列上段に載せられていたもので、両者が接合した。48号竪穴６は断面長方形で長さ46cmの柱状石材。ハツリ痕は顕著ではない。竈袖石の最前列左右に直立していたもので、接合により、本来は１本の角柱材であったことが判明した。

加工石材の出土位置は、30号竪穴例では覆土中出土だが、43・48号竪穴では竈袖石最前列に用いられ、竈の袖石に用いられたことがわかる。周辺遺跡での類例に山梨市間之田東遺跡１・２号住で竈袖石、天井石として出土した例があり、山梨市万力などに分布する山口軽石凝灰岩であることが推測されている。他に県内では笛吹市一宮町大原遺跡や笛吹市御坂町二之宮遺跡で竈に用いられた例があり、竈以外には使用例がないことから、山梨市付近で竈石材としての用途で切り出され、おそらく採石地で加工されて各地に供給されたものと考えられる。ただしその利用実態はごく少数で、河原石などの石材が豊富にある地域であえて加工石材を用いた理由については不明である。凝灰岩は被熱には強く、加工しやすいという石材の性質から竈石材に

好まれたとみられるが、利用度の低さから普遍的ではなかったことは明らかで、何らかの転用品かもしれない。平安時代、長野県の浅間山麓などでは、竈の天井石などに加工石材を用いた地域があることから、地域間交流や影響により、山梨県域で竈部材としての加工石材が制作された可能性を想定することもできる。

第９節　おわりに

五反田遺跡の調査は、甲州市域では過去最大級の調査面積となり、検出された竪穴数も非常に多いものとなった。着手前の試掘調査の結果で相当数の竪穴の存在が想定されていたが、実際に建物予定地の表土を剥いでみると、場所によっては地山がほとんど残っていないくらい竪穴で埋め尽くされたような遺構検出状況を呈し、かつて調査担当した韮崎市宮ノ前遺跡を思い出させるものであった。

継続性の長い集落では、多数の竪穴が結果的に密集した姿として現れ、大集落と評価されることが多い。ここでも同じ地点に３軒もの竪穴が間層を挟んで重なり合った姿として現れた竪穴群があるなど、場の占地に対する居住者の強い意思を感じることができた。この集落は 10 世紀後半から 11 世紀前半にかけて隆盛をみたのち、ムラの人々はこの場を去ってしまった。現在、熊野地区に伝わる伝承として、遺跡の西に鎮座する熊野神社がかつてこの地の北側にあり、水害を避けるために現在の場所へ移ったという話を想起させる。遺跡のすぐ東を流れる重川の氾濫が集落の存続に影響したのであろう。

川や水の利用に関連した遺構に大溝（10号溝）がある。その構築年代は不明であるが、古墳初期、あるいは奈良時代前期の利水施設としての開発の可能性がある。集落が水田耕作のため水の利用を求めて川の近くに形成された結果、この地に集落として定着したが、やがてその水を避けるために集落を移転せざるを得なかったのではないだろうか。

平安後期での集落の隆盛については、他地域の一般的な集落にくらべると特徴的な点である。この地域が東山梨郡於曽郷の中心地域にあたり、のちに 13・14 世紀にかけて甲斐国の主要な地域となっていく、その前夜にあたり、灰釉陶器の流入量の多さや、緑釉陶器の存在など、集団の質の高さを示す現象もそうした点を裏付けている。

終りに、本調査及び報告にあたり、株式会社ナフコには、ご理解ご協力いただいた点をまず最初に感謝申し上げたい。また暑いさなかの発掘、その後の報告書作成のための整理作業にあたっていただいた方々には、その労苦に感謝したい。また調査に際し、ご指導いただいた甲州市役所、甲州市教育委員会をはじめ関係者、地元のすべての方々に御礼申し上げる次第である。

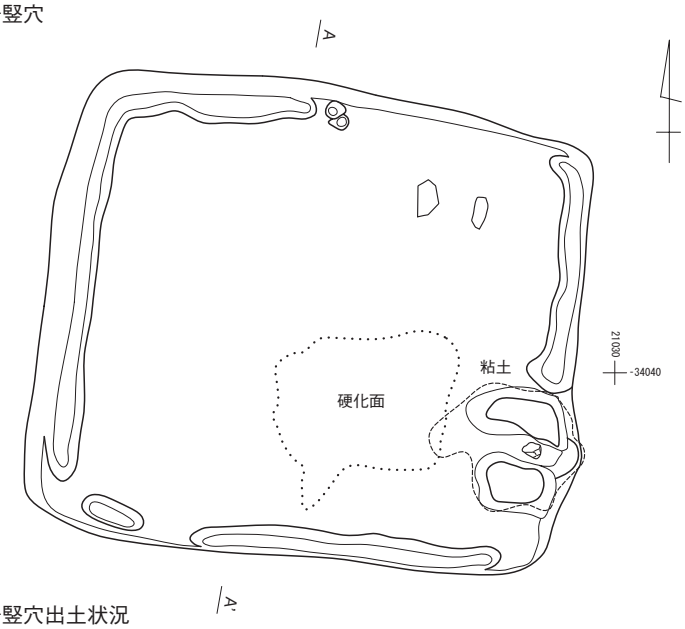
引用参考文献

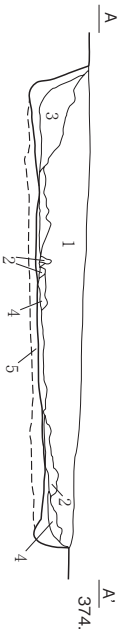
山梨市・山梨市教育委員会・（公財）山梨文化財研究所 2012『三ヶ所遺跡』
山梨市・山梨市教育委員会・（公財）山梨文化財研究所 2014『間之田東遺跡』

-33960
-33970
-33980
-33990
-34000
-34010
-34020
-34030
-34040
-34050
-34060
-34070
21070
21060
21050
21040
21030
21020
21010
21000
0
(1:300)
10m

第１図　全体図

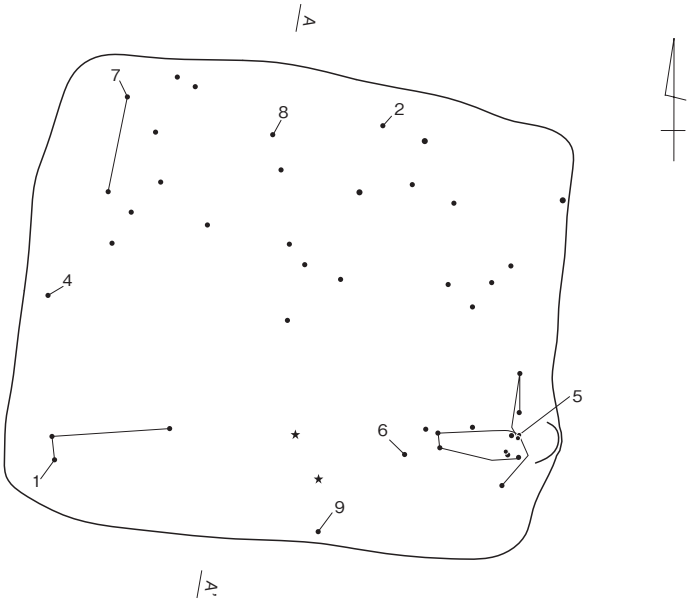
1号竪穴

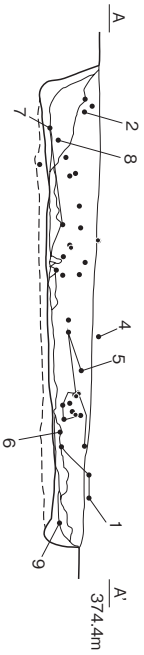




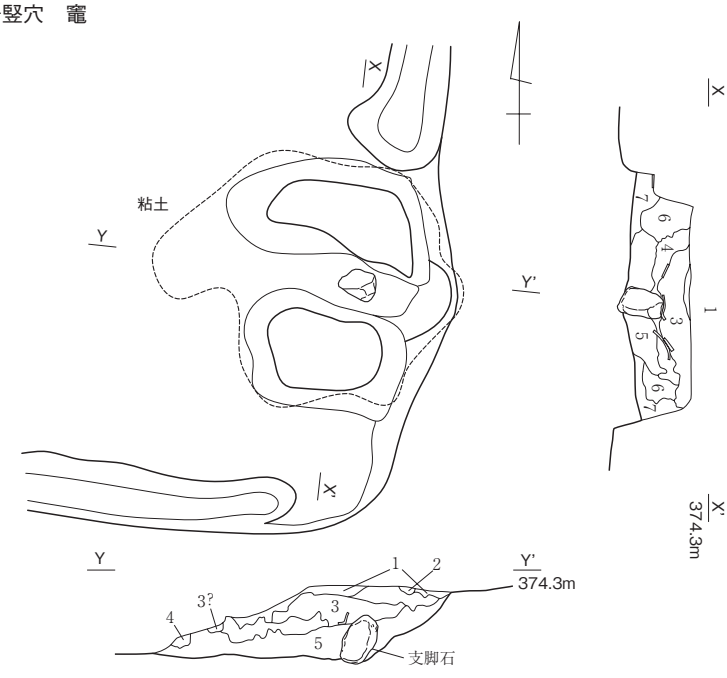
1 灰黄褐色砂質土(10YR4/2)　白色粒やや多い。炭化粒・焼土粒・褐色粒入。
　茶褐色小ブロック全体に含む。
2 灰黄褐色砂質土(10YR6/2)　やや白味のある地山に近い砂層。3層のブロックを含む。
3 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)　2層に類似。地山と同じ。
4 黒褐色砂質土(10YR2/3)　黒味強い。床直上。炭化粒を多く含む。
5 黒褐色砂質土(10YR3/2)　黄色ブロック・炭化物・焼土粒入。やや黒味強い。

1号竪穴出土状況





1号竪穴　竈



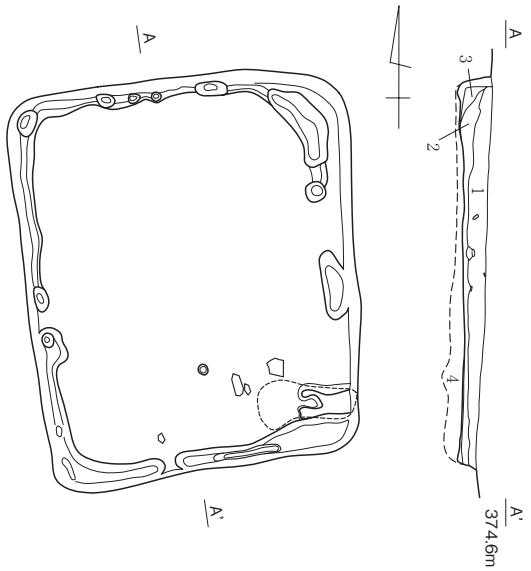
1 黒褐色砂質土(10YR3/2)　焼土小ブロック。
2 焼土層
3 褐色砂質土(10YR4/4)　黄色土ブロック多い。
　焼土小ブロックやや多い。砂粒入。
4 焼土層
5 黒褐色砂質土(10YR3/2)　炭化粒やや多い。焼土小ブロック入。
6 黄褐色土(10YR5/6)　竈袖粘土。
7 黒褐色砂質土(10YR3/2)　砂粒・炭化粒入。黒味有り。

0　(1:60)　2m

0　(1:30)　1m

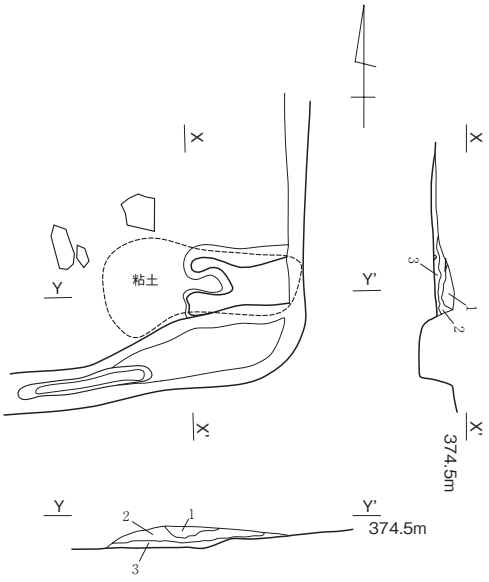
第2図　1号竪穴

2号竪穴



1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　白色砂粒入。炭化粒・灰色小ブロック・褐色小ブロックやや多い。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　1 層に似る。炭化粒入。1 層よりも黒褐色小ブロック多い。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　三角堆積土。やや黒味有り。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒・灰褐色砂小ブロック・褐色粒やや多い。

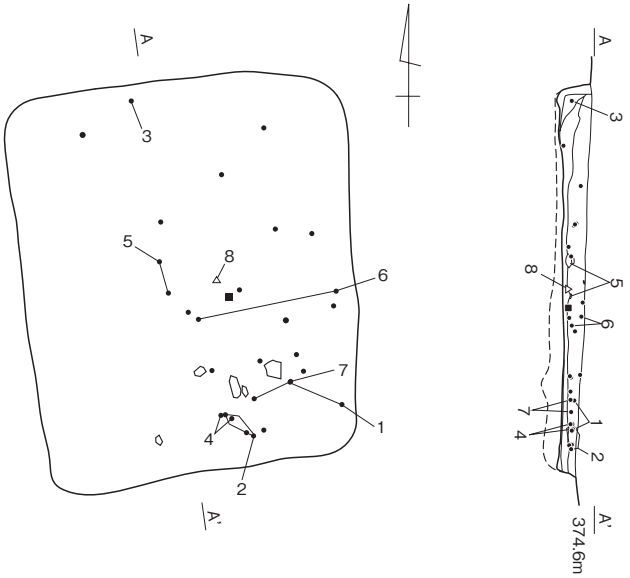
2号竪穴　竈



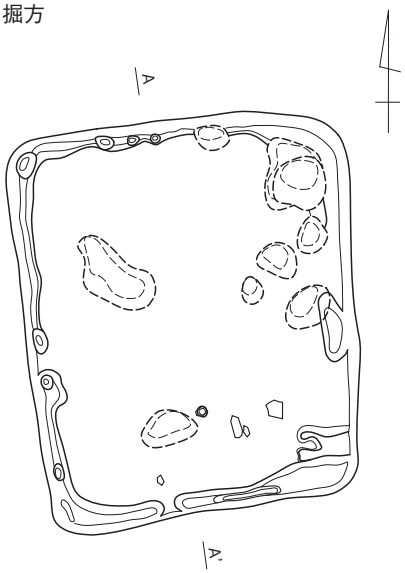
1　焼土層　焼土ブロック。
2　炭化物層
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)

0　(1:30)　1m

2号竪穴遺物出土状況



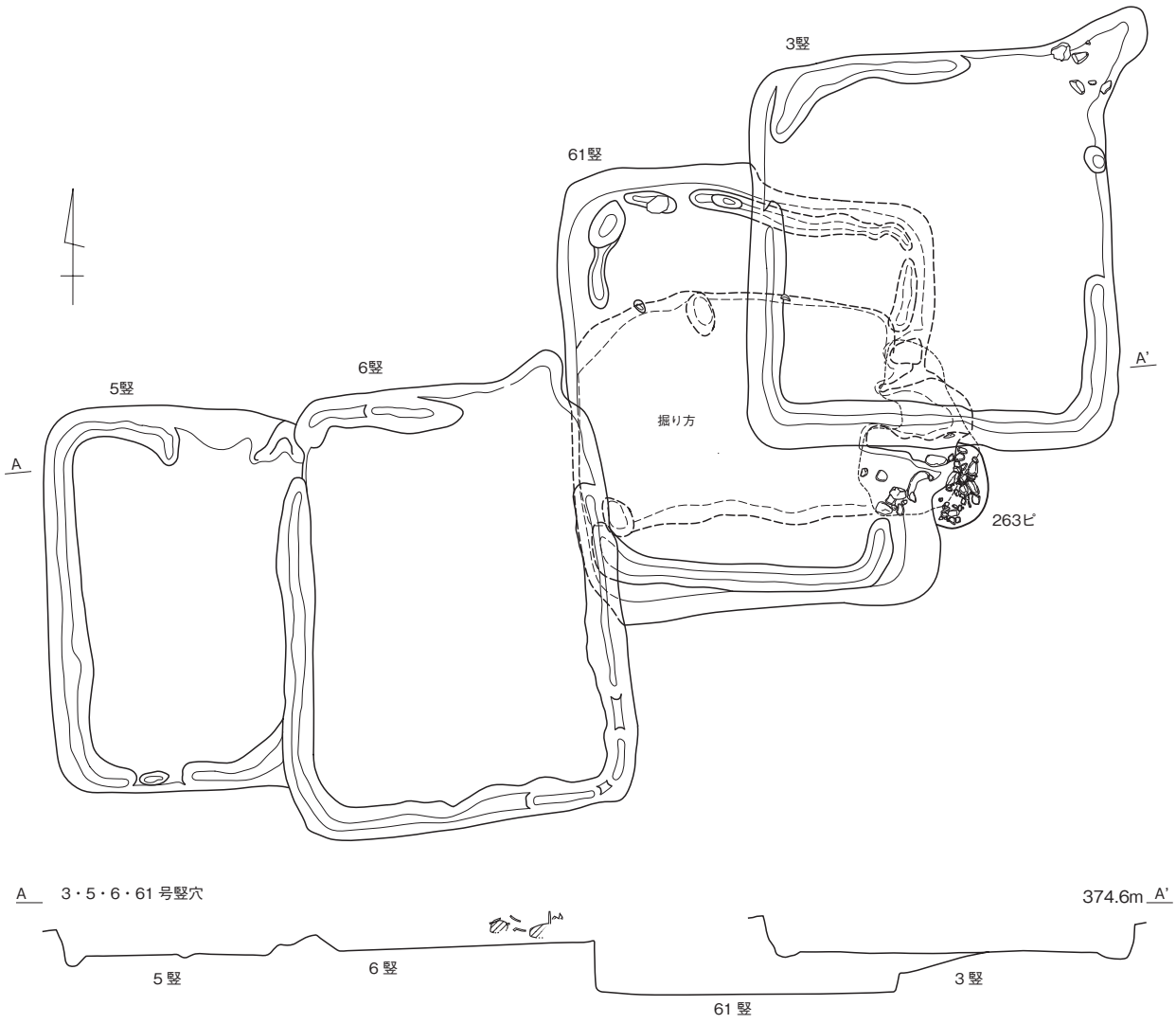
2号竪穴 掘方



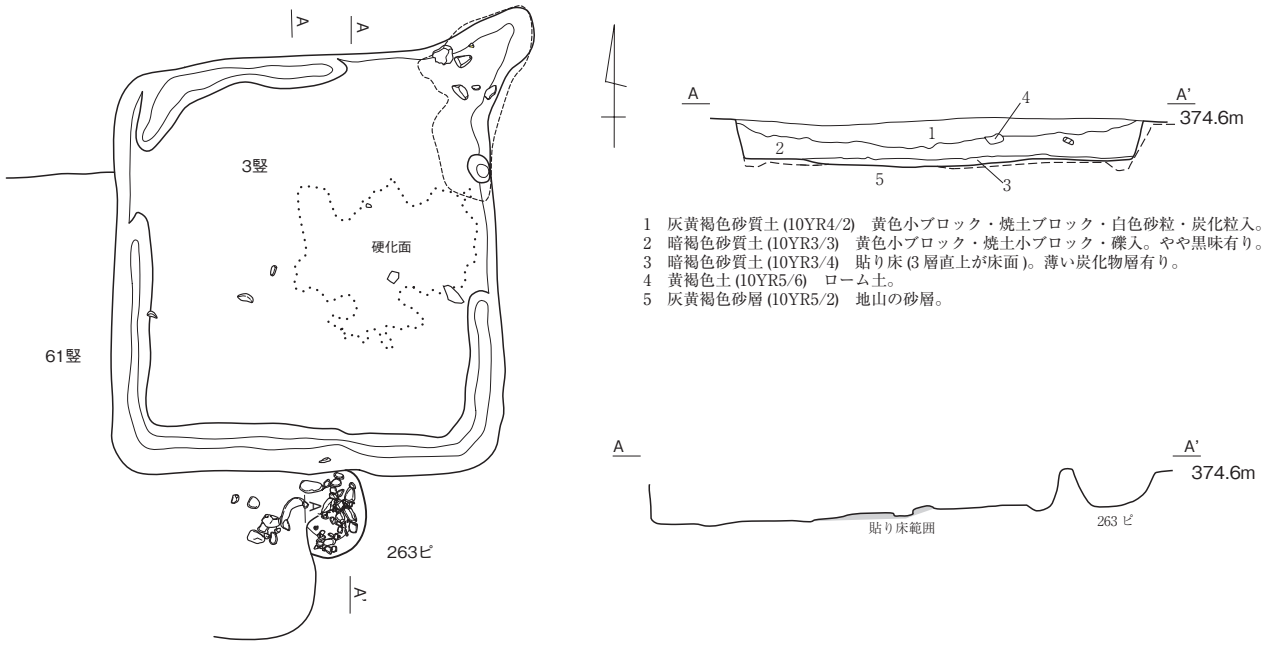
0　(1:60)　2m

第3図　1・2号竪穴

3・5・6・61号竪穴



3号竪穴

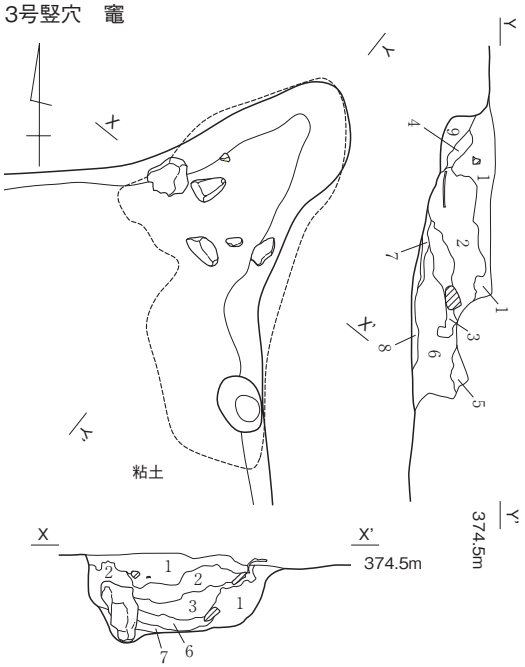


1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　黄色小ブロック・焼土ブロック・白色砂粒・炭化粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　黄色小ブロック・焼土小ブロック・礫入。やや黒味有り。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　貼り床 (3 層直上が床面)。薄い炭化物層有り。
4　黄褐色土 (10YR5/6)　ローム土。
5　灰黄褐色砂層 (10YR5/2)　地山の砂層。

0　(1:60)　2m

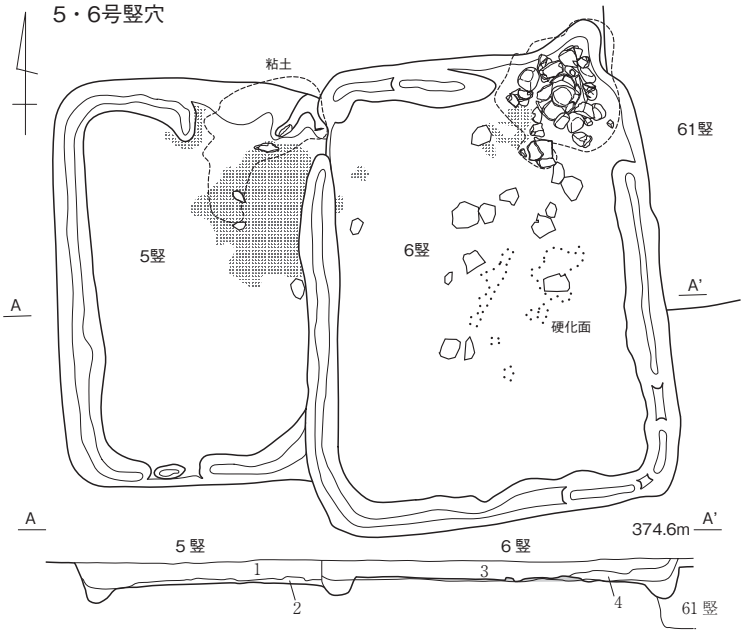
第4図　3・5・6・61号竪穴（1）

3号竪穴　竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒・炭化粒・焼土粒入。
2　褐色土 (10YR4/4)　竈粘土崩土を含む。
3　焼土層
4　焼土層 (竈煙道部内壁)
5　黄褐色土 (10YR5/6)
6　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　焼土小ブロック・炭化粒・焼土粒・砂粒入。炭化物やや多い。
7　焼土層　竈焚口底面の焼土層。
8　炭化物層
9　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山直上～地山。粗粒。

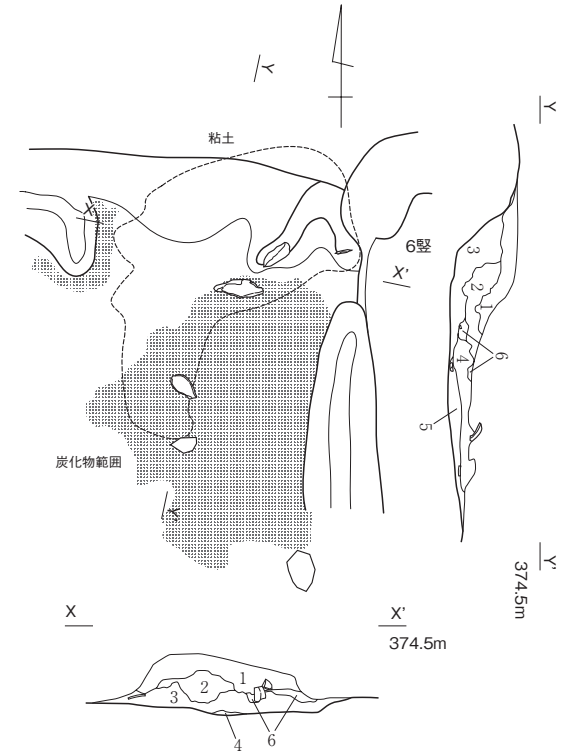
5・6号竪穴



1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　褐色小ブロック・礫・焼土粒・白色砂粒入。黄褐色に近い。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味有り。焼土ブロック・褐色土ブロック入。貼り床か。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　炭化物 (φ1cm)・焼土小ブロック入。1 層に似る。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　壁の崩土を含む。白色小ブロック入。

0　(1:60)　2m

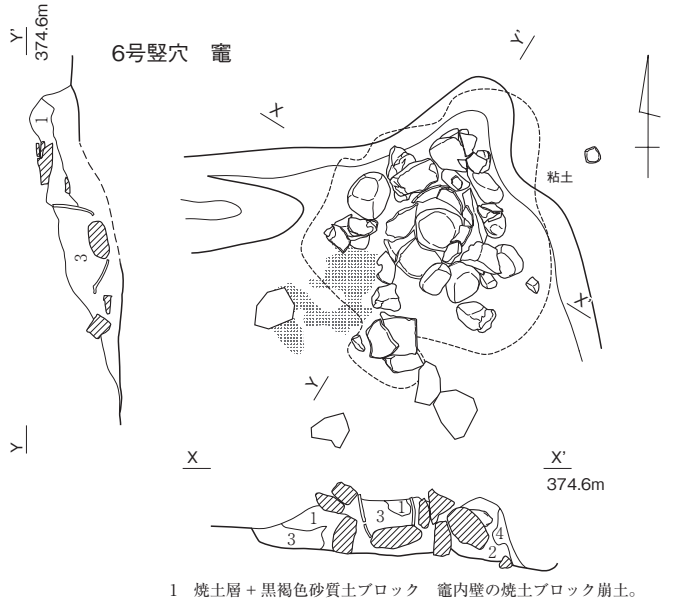
5号竪穴　竈



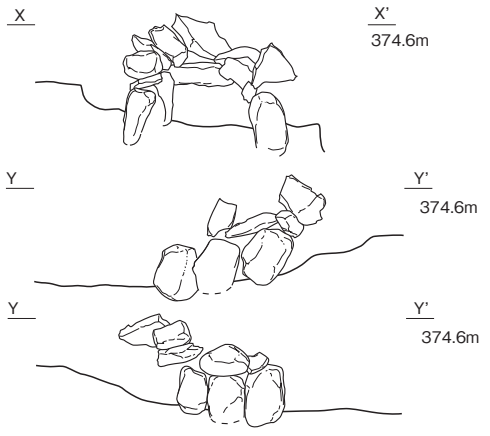
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロックやや多い。炭化粒入。
2　褐色土 (10YR4/6)　竈粘土を主とする。砂粒入。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　地山に近い。炭化粒・焼土粒は殆どない。
4　灰黄褐色砂 (10YR4/2)　焼土粒・炭化物・焼土小ブロック入。
5　炭化物層　　細かい炭化物を主とする。
6　焼土層

0　(1:30)　1m

6号竪穴　竈

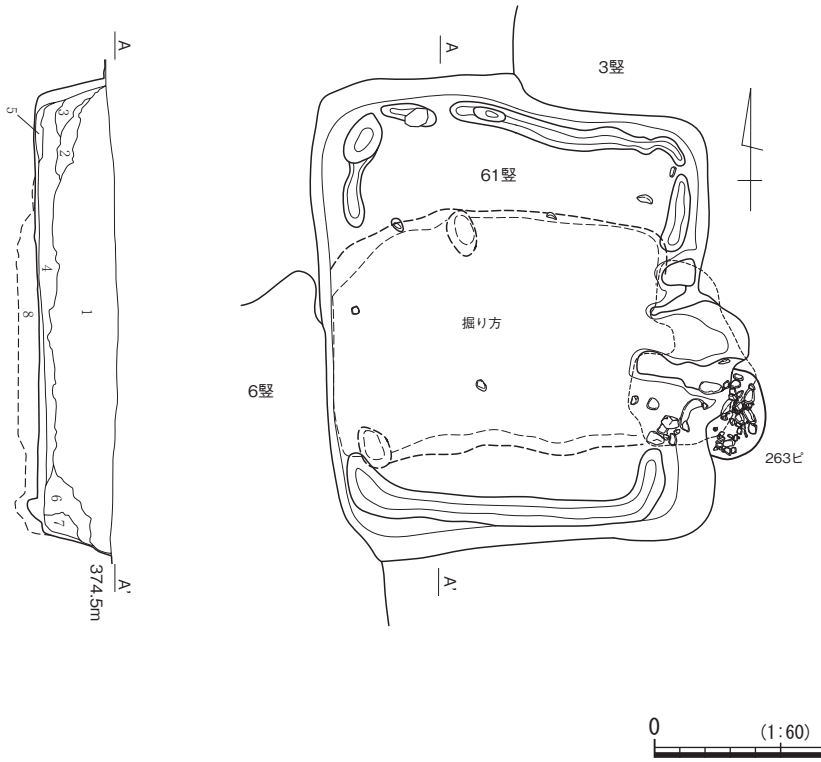


1　焼土層 + 黒褐色砂質土ブロック　竈内壁の焼土ブロック崩土。
2　黄褐色土 (10YR5/6)　竈粘土。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・砂粒・焼土小ブロック入。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　住居の覆土。褐色粒・砂粒入。



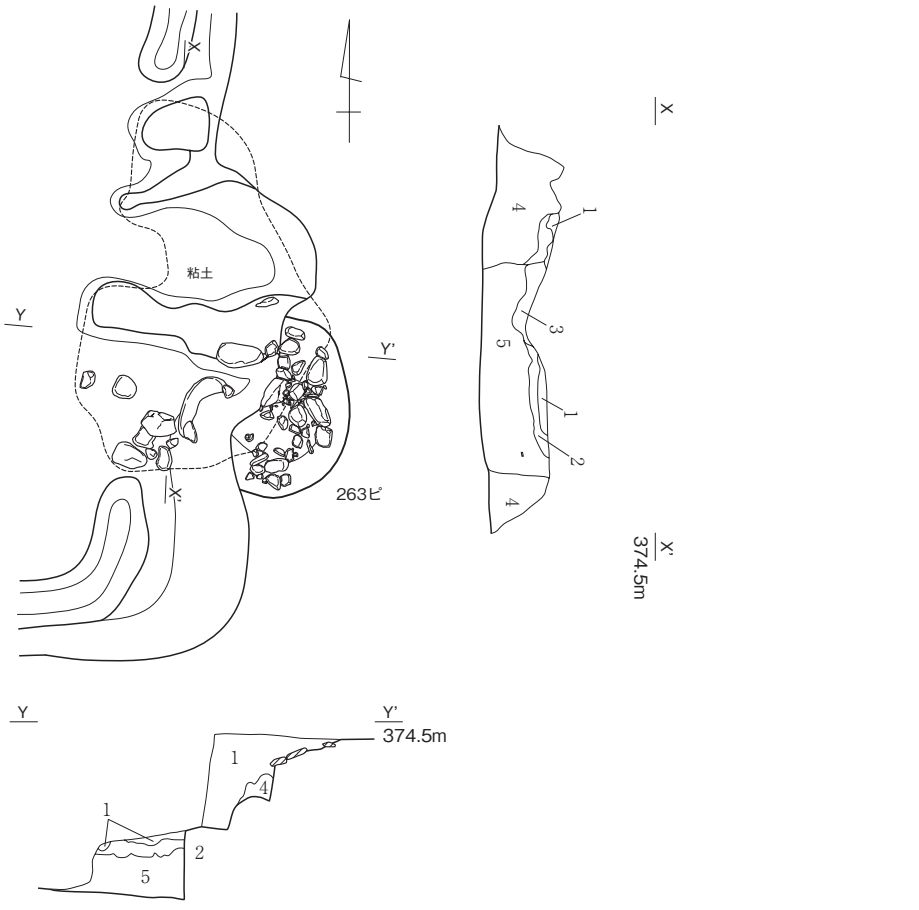
第5図　3・5・6・61号竪穴（2）

61号竪穴



1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 極細～細砂。炭化粒・焼土粒・砂粒・灰褐色砂小ブロック・焼土小ブロック入。
2 黒褐色砂質土 (10YR2/3) やや黒味強い。砂粒・灰褐色砂ブロック・焼土粒入。
3 暗褐色砂質土 (10YR3/2) 壁崩土。砂質やや粗粒。灰褐色小ブロック入。
4 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 1層よりも灰褐色砂ブロック少ない。褐色粒・炭化粒・焼土粒入。
5 灰黄褐色砂質土 (10YR4/3) 3層に近い。地山。壁崩土。やや粗砂。
6 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3) 灰褐色砂ブロック (φ1.5cm) やや多い。壁崩土に近い。
7 灰黄褐色砂質土 (10YR4/3) やや粗砂。壁と同じ砂質土。壁崩土か。
8 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 焼土小ブロック・焼土粒・炭化粒入。下層の黒色ブロック混。

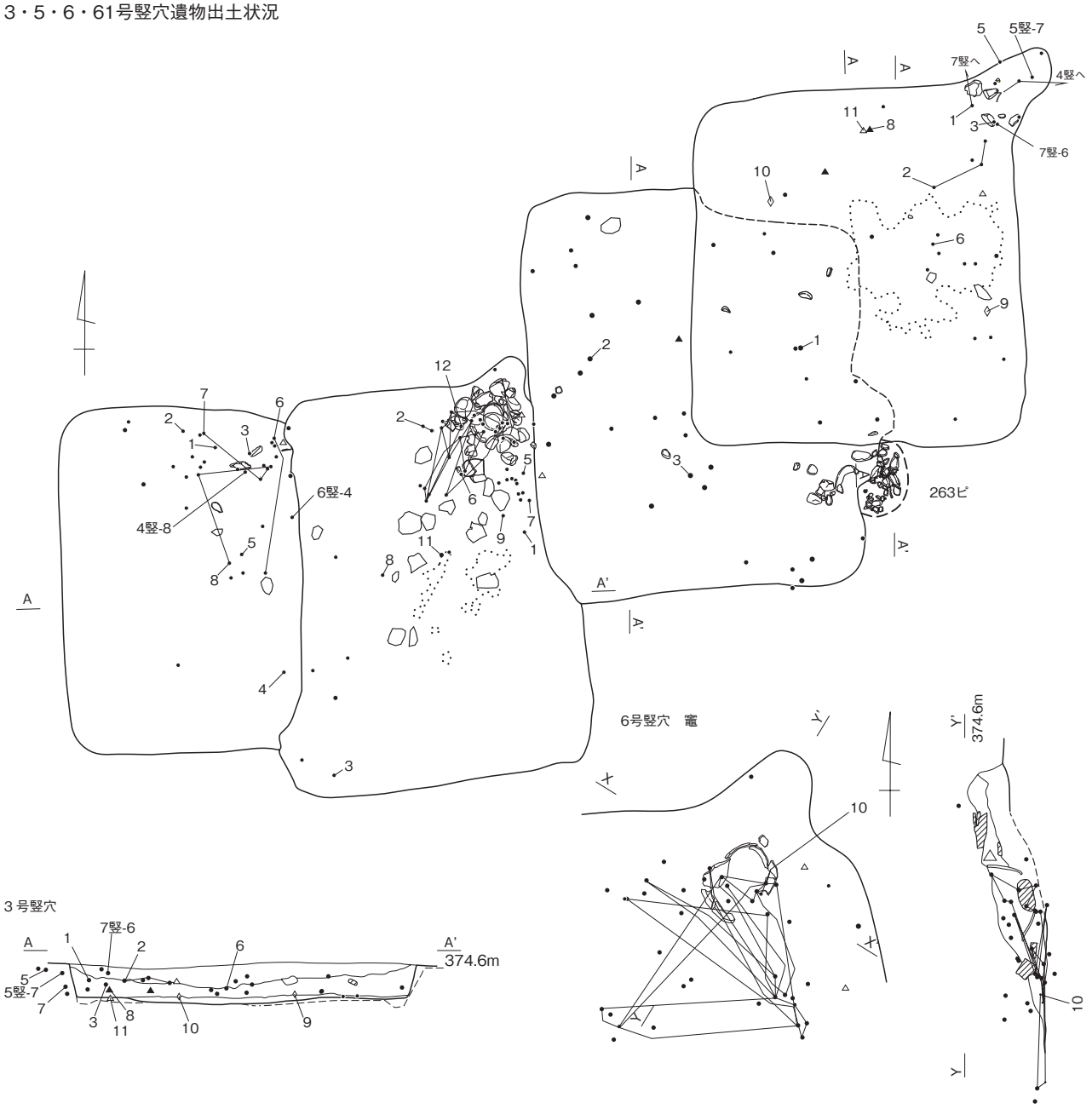
61号竪穴　竈



1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 炭化粒・焼土粒・砂粒入。
2 焼土ブロック＋褐色ブロック
3 焼土層
4 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 竈袖部
5 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 灰褐色砂質ブロックやや多い。炭化粒・焼土粒・砂粒入。

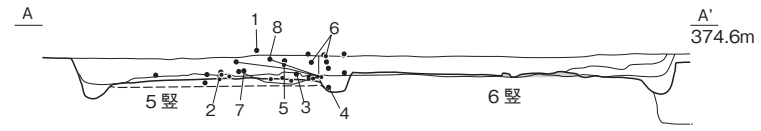
第6図　3・5・6・61号竪穴（3）

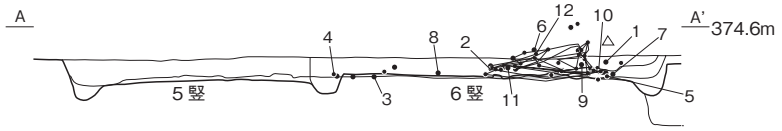
3・5・6・61号竪穴遺物出土状況



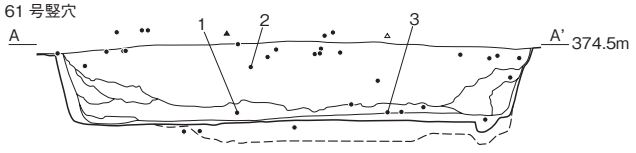
3号竪穴

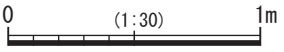
5・6号竪穴

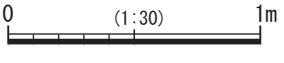




61号竪穴

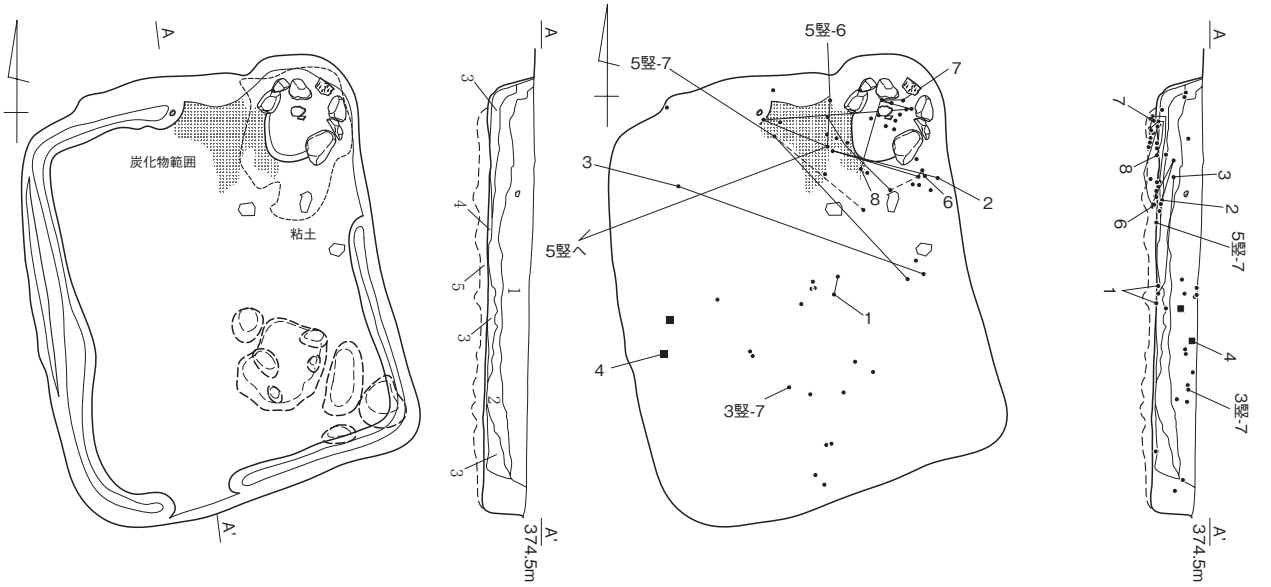






第7図　3・5・6・61号竪穴（4）

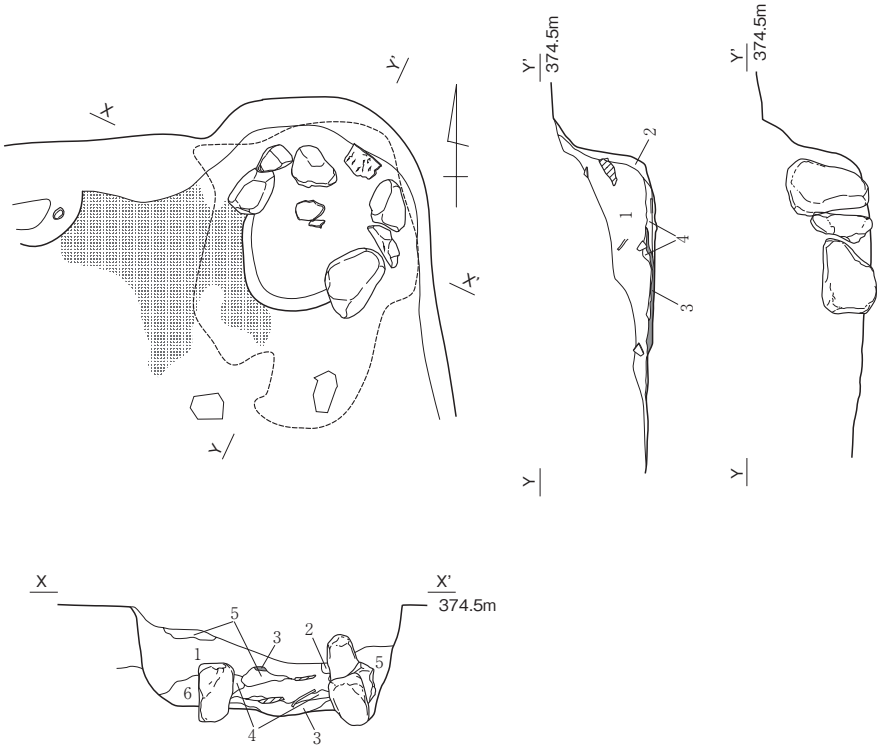
4号竪穴



1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　黄褐色小ブロック (φ2cm)、灰白色小ブロック (φ1cm) を含む。焼土粒・炭化粒入。礫少。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　灰白色のブロック多い (特に北側壁際)。地山砂質土の崩土に似る。1 層に類似。焼土粒・炭化粒入。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。焼土ブロック・炭化粒やや多い。灰白色小ブロック入。壁際の堆積土。
4　床面　褐色土 (10YR4/6)　貼り床か。
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　床下。炭化粒・焼土粒入。

0　(1:60)　2m

4号竪穴　竈

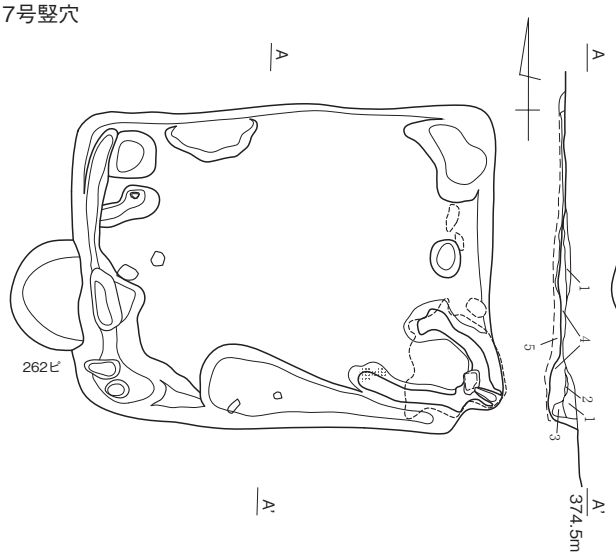


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・黄褐色小ブロック入。
2　焼土 (被熱層)　煙道壁被熱面。
3　炭化物層
4　焼土層
5　黄褐色土 (10YR5/6)　竈粘土。
6　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・砂粒入。

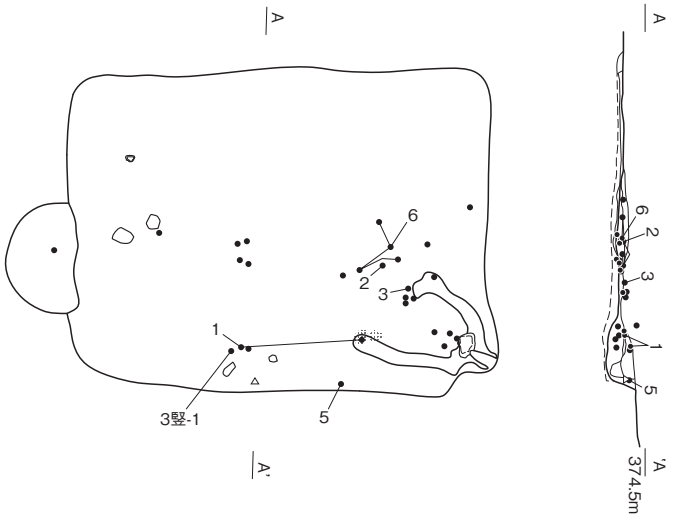
0　(1:30)　1m

第8図　4号竪穴

7号竪穴



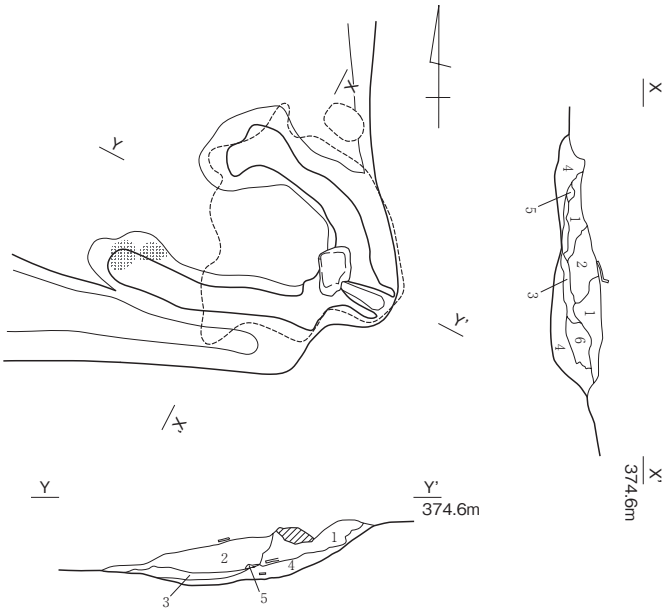
7号竪穴遺物出土状況



1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　ローム小ブロック・白色砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや黒味有り。炭化物やや多い。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　4 層に似る。炭化物・暗褐色土小ブロック入。
4　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　炭化物・土器含む。
5　黒褐色砂質土 (10YR3/-)　褐色粒入。掘り方。

0　(1:60)　2m

7号竪穴　竈

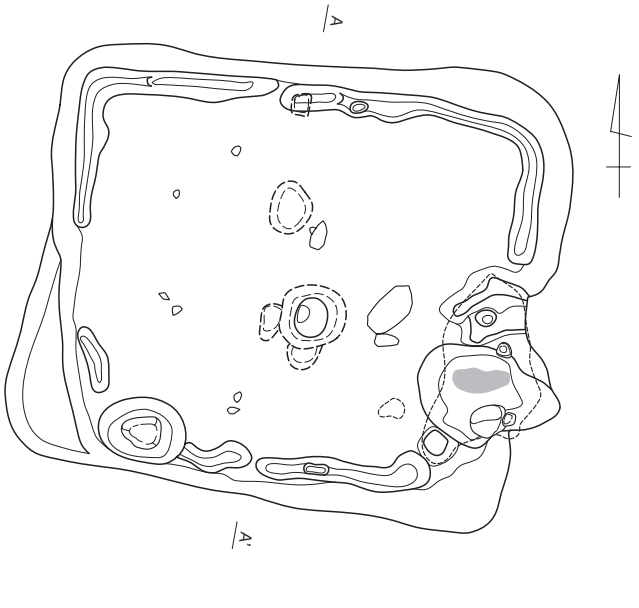


1　黄褐色土 (10YR5/6)　竈粘土。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　褐色土小ブロック・焼土小ブロック入。焼土粒・炭化粒入。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　炭化物層。
4　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に近い層。一部掘り過ぎ。
5　焼土層　ブロック状の焼土。
6　褐色土 (10YR4/4)　黒褐色土とローム土 (褐色土) の混土。1 層に近い。

0　(1:30)　1m

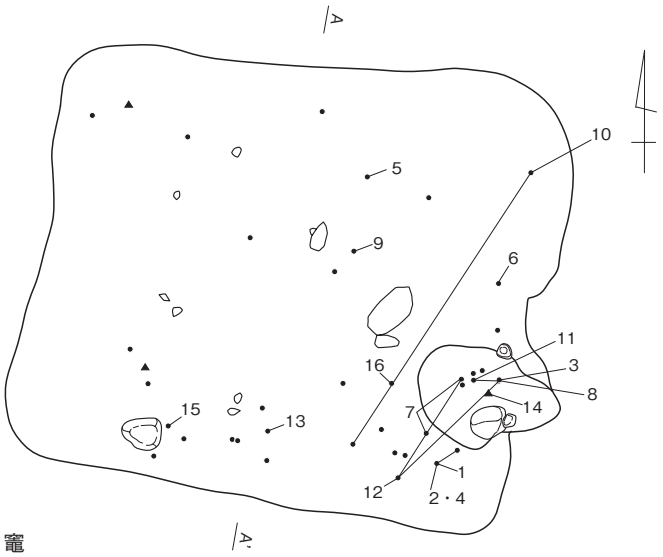
第９図　７号竪穴

8号竪穴

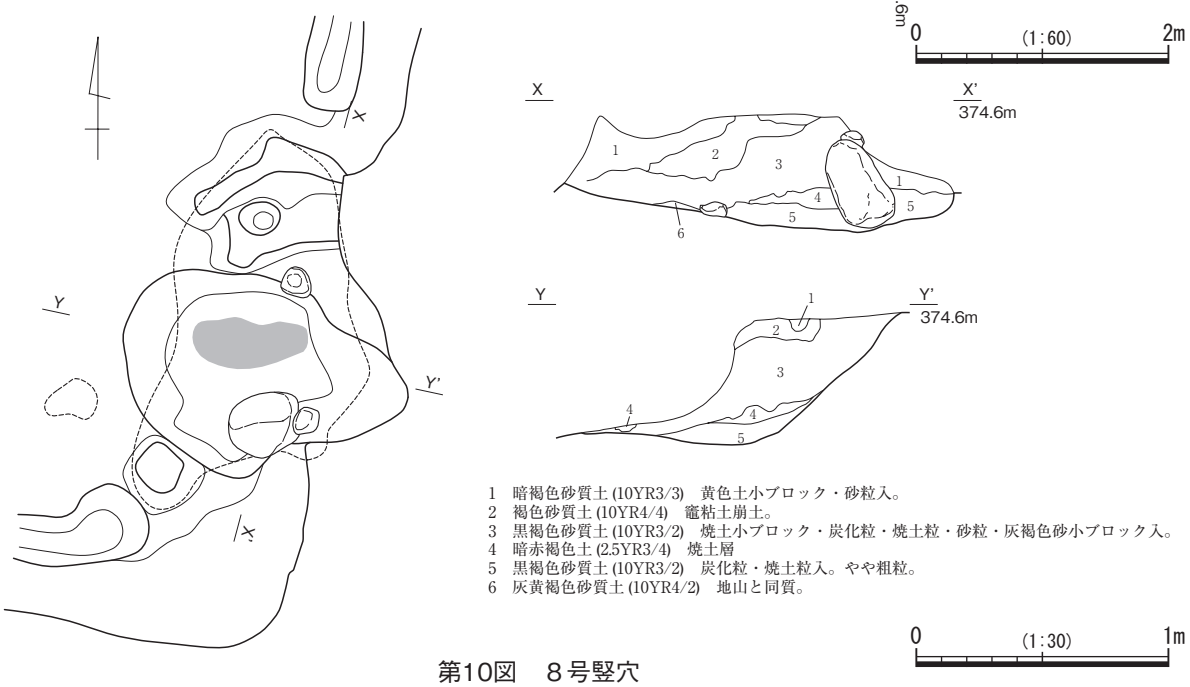


1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　褐色土小ブロックが全体的に混じる。白色砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　壁崩土及び床直のやや褐色味の強い土。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　掘り方。やや粗粒。焼土小ブロック入。

8号竪穴遺物出土状況



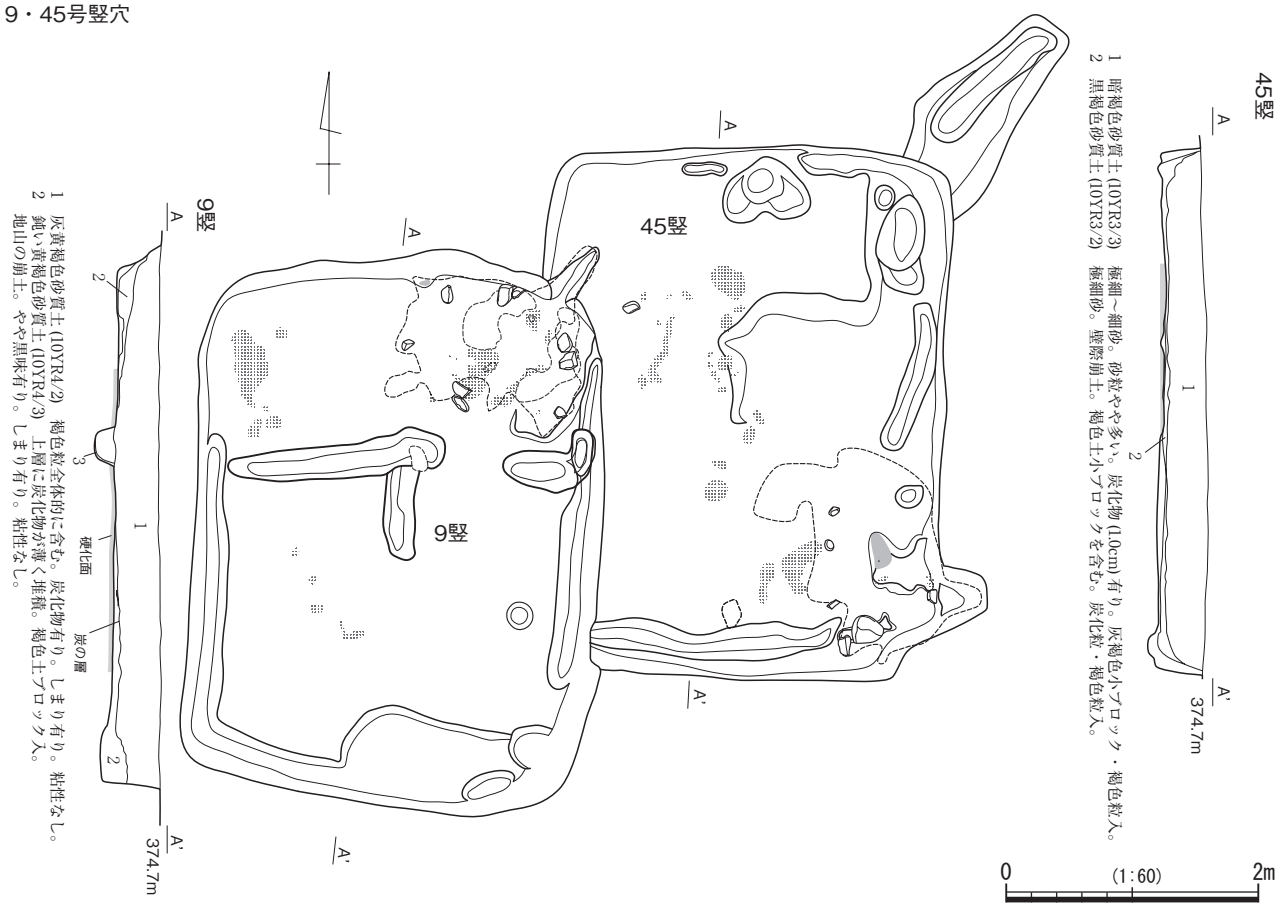
8号竪穴　竈



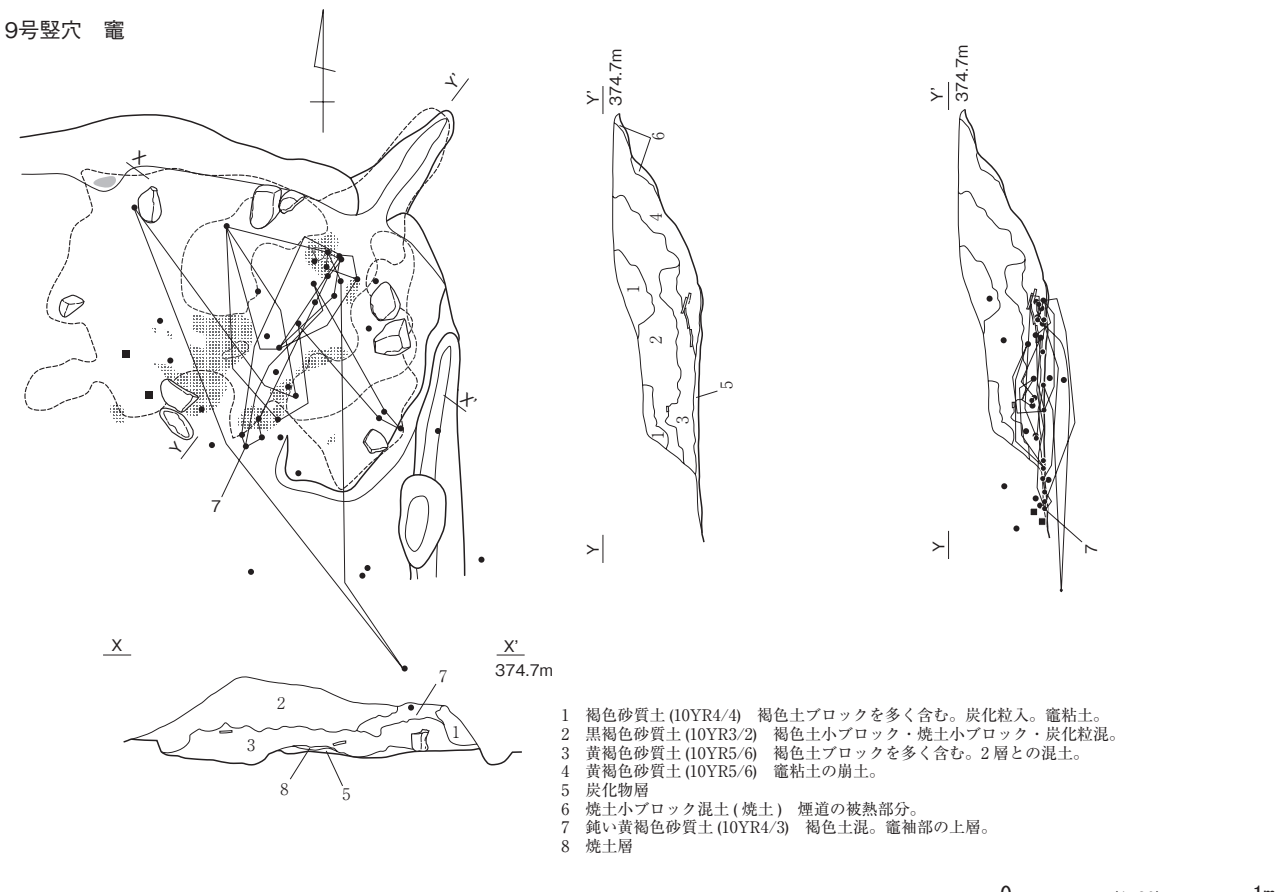
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　黄色土小ブロック・砂粒入。
2　褐色砂質土 (10YR4/4)　竈粘土崩土。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロック・炭化粒・焼土粒・砂粒・灰褐色砂小ブロック入。
4　暗赤褐色土 (2.5YR3/4)　焼土層
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。やや粗粒。
6　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山と同質。

第10図　8号竪穴

9・45号竪穴

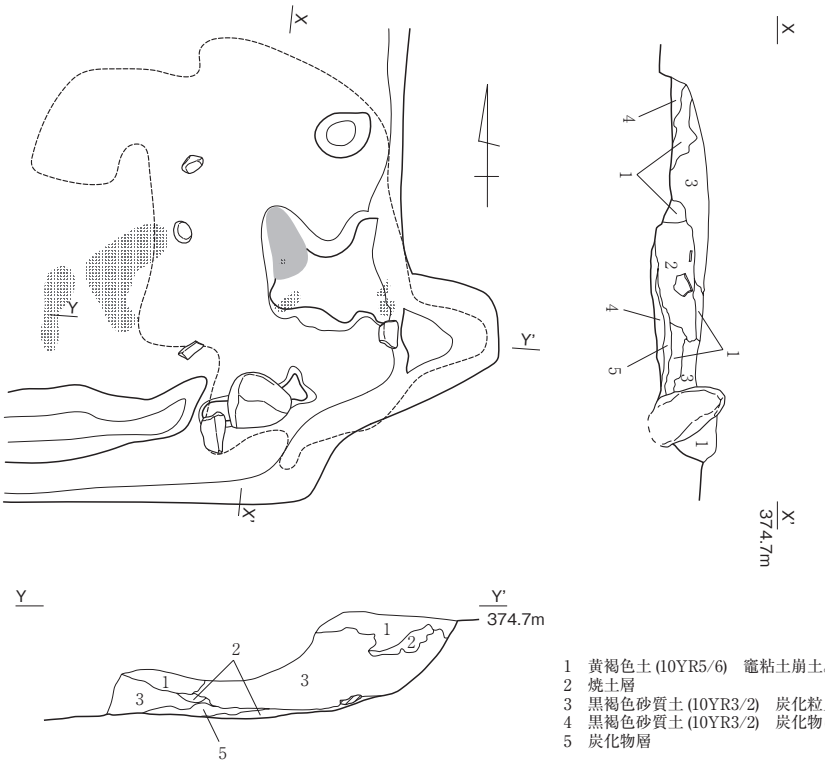


9号竪穴　竈



第11図　9・45号竪穴(1)

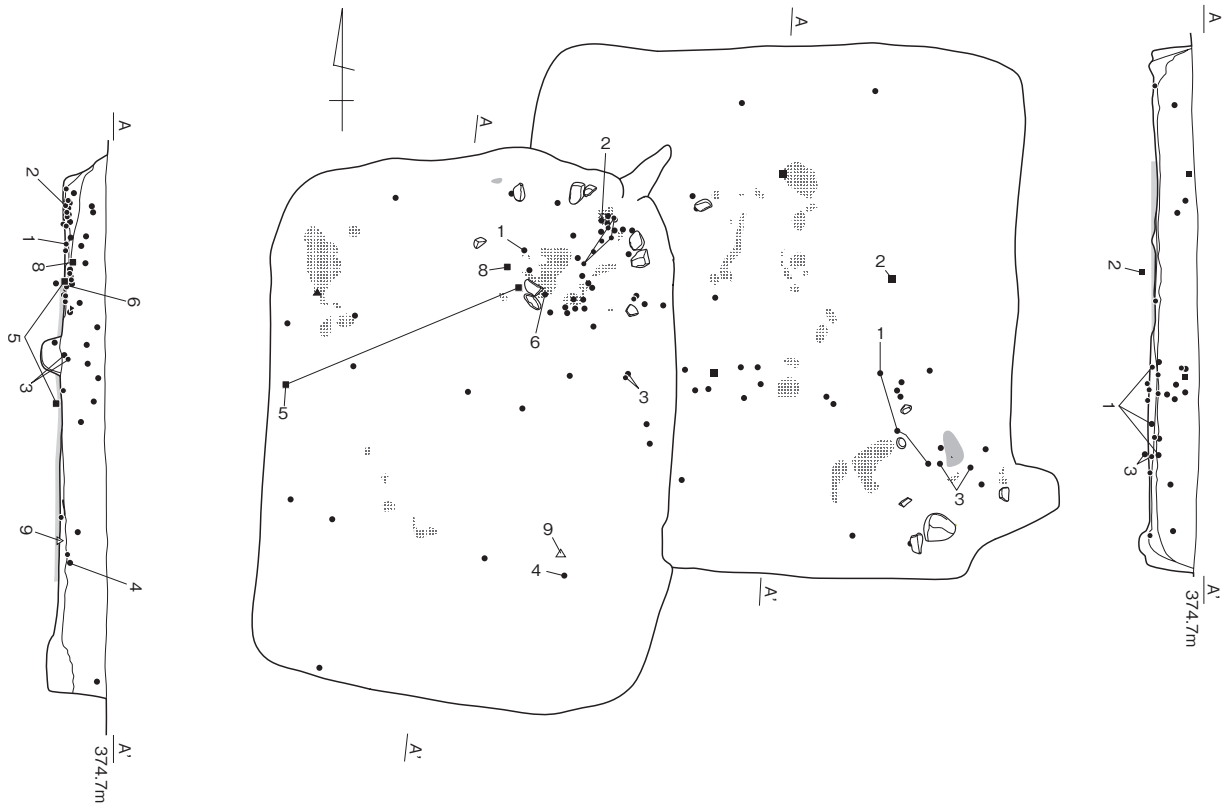
45号竪穴　竈



1　黄褐色土 (10YR5/6)　竈粘土崩土。
2　焼土層
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒入。部分的に炭化物多い。焼土ブロック入。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物はない。
5　炭化物層

0　(1:30)　1m

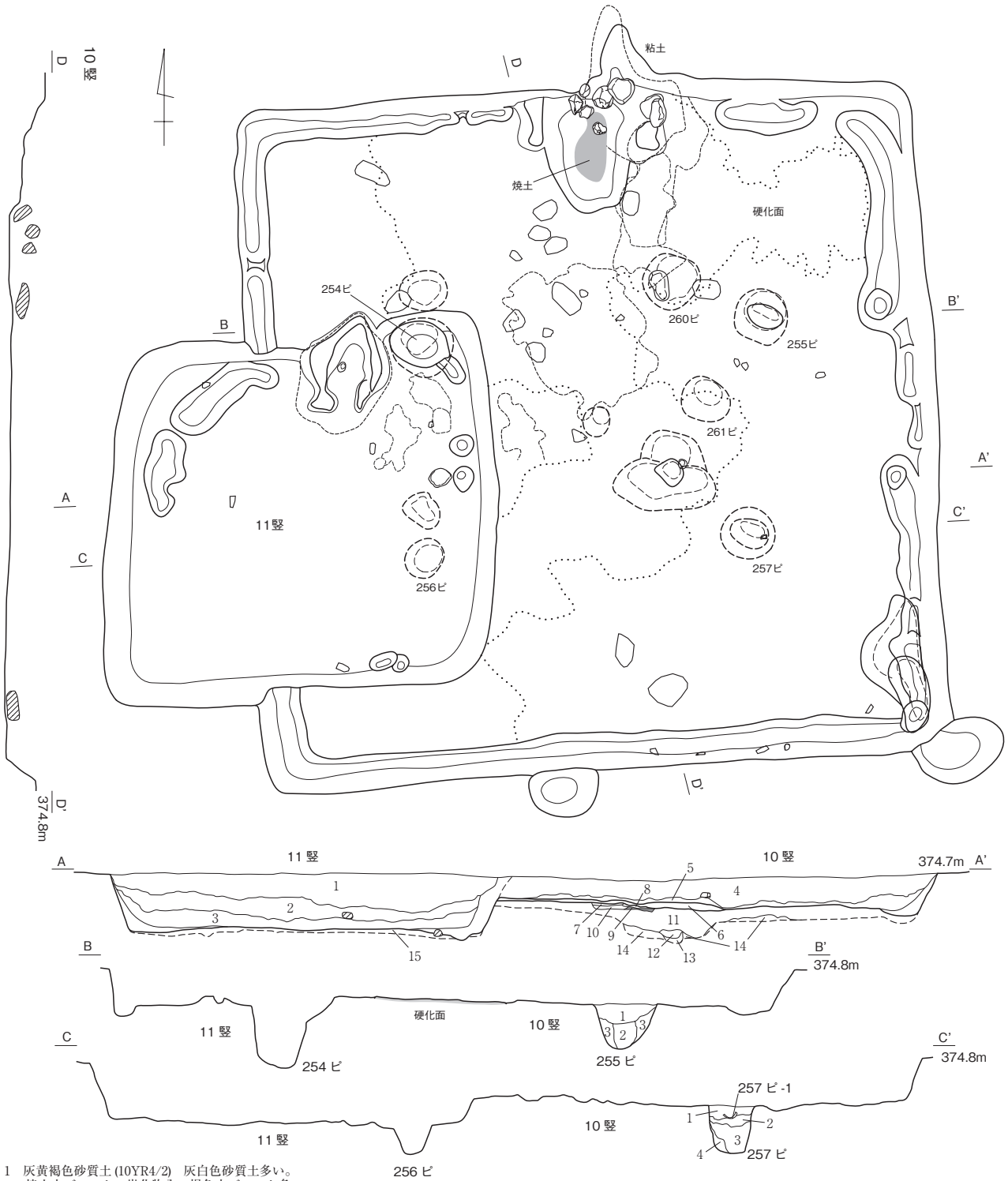
9・45号竪穴 遺物出土状況



0　(1:60)　2m

第12図　9・45号竪穴（2）

10・11号竪穴



1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰白色砂質土多い。
　焼土小ブロック・炭化物入。褐色小ブロック多い。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　1 層に似るが灰白色砂質土はやや少ない。
　焼土粒・炭化物・礫入。黒味有り。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　灰白色砂質土小ブロックは少ない。
　焼土小ブロック入。炭化粒・黄褐色砂質小ブロックやや多い。
4　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰白色砂質土小ブロック、褐色小ブロック
　やや多い。焼土小ブロック・炭化粒入。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　灰黄褐色小ブロック・炭化粒・炭化物やや多い。
　4 層よりも黒味有り。
　床直面に薄い炭化物層有り。
6　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　貼り床。砂質・砂粒多い。黄褐色ブロック・焼土
　小ブロック入。直下に薄い炭化物層有り。
7　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化物やや多い。上面 6 層との境に炭化物層有り。
8　焼土層
9　炭化物層
10　暗褐色砂質土 (10YR3/3)＋焼土ブロック・炭　炭化物・焼土ブロック多い。
11　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　焼土小ブロックやや多い。炭化粒・灰褐色砂質ブロック入。
12　炭化物層
13　焼土層
14　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山～地山直上。
15　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　貼り床。

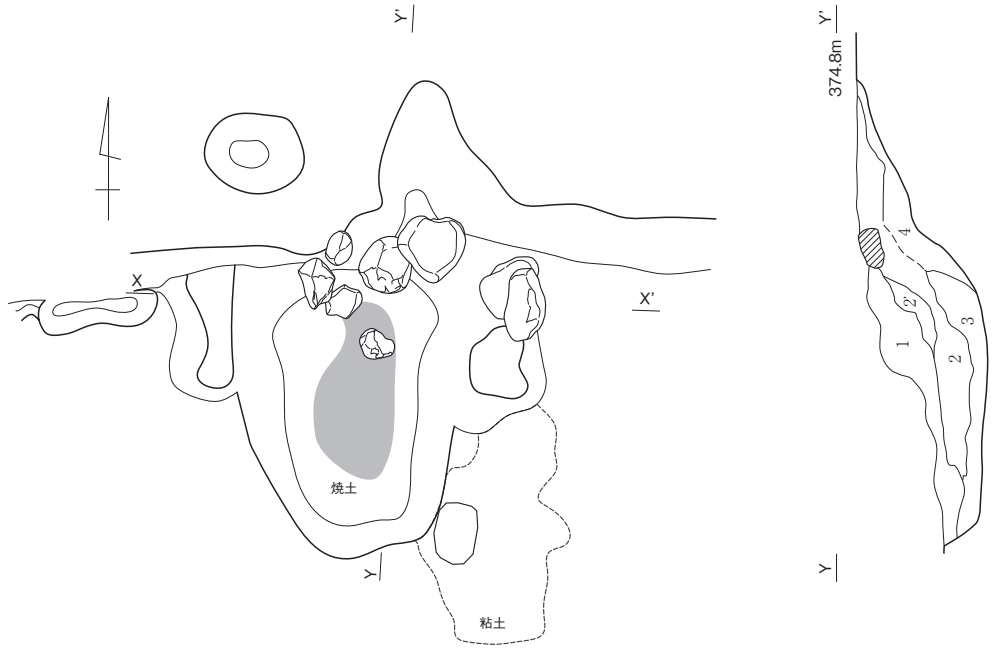
255 ピット
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロックやや目立つ。炭化粒・灰褐色小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　1 層に類似するが、焼土小ブロックはない。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。やや粗粒。

257 ピット
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・土器片入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山類似。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味強い。炭化粒・焼土粒入。極細砂。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。

0　(1:60)　2m

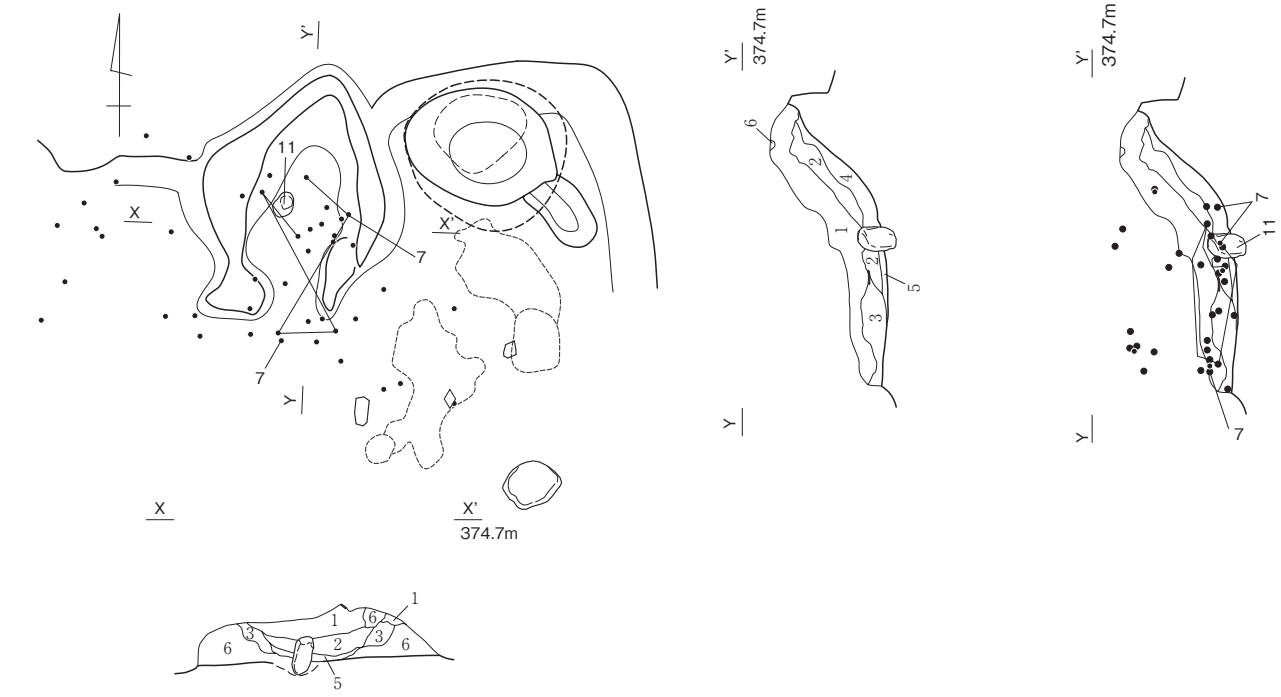
第13図　10・11号竪穴（1）

10号竪穴　竈



1　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土。炭化物含む。
2　焼土層＋黒褐色土ブロック　焼土主体。炭化物多い (2')。2 層は焼土層。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・焼土粒入。炭化粒やや多く、黒味有り。
4　鈍い黄褐色砂質 (砂) 層 (10YR4/3)　粗砂。地山に近い。
5　黄褐色ローム粘土　袖の粘土崩土。

11号竪穴　竈

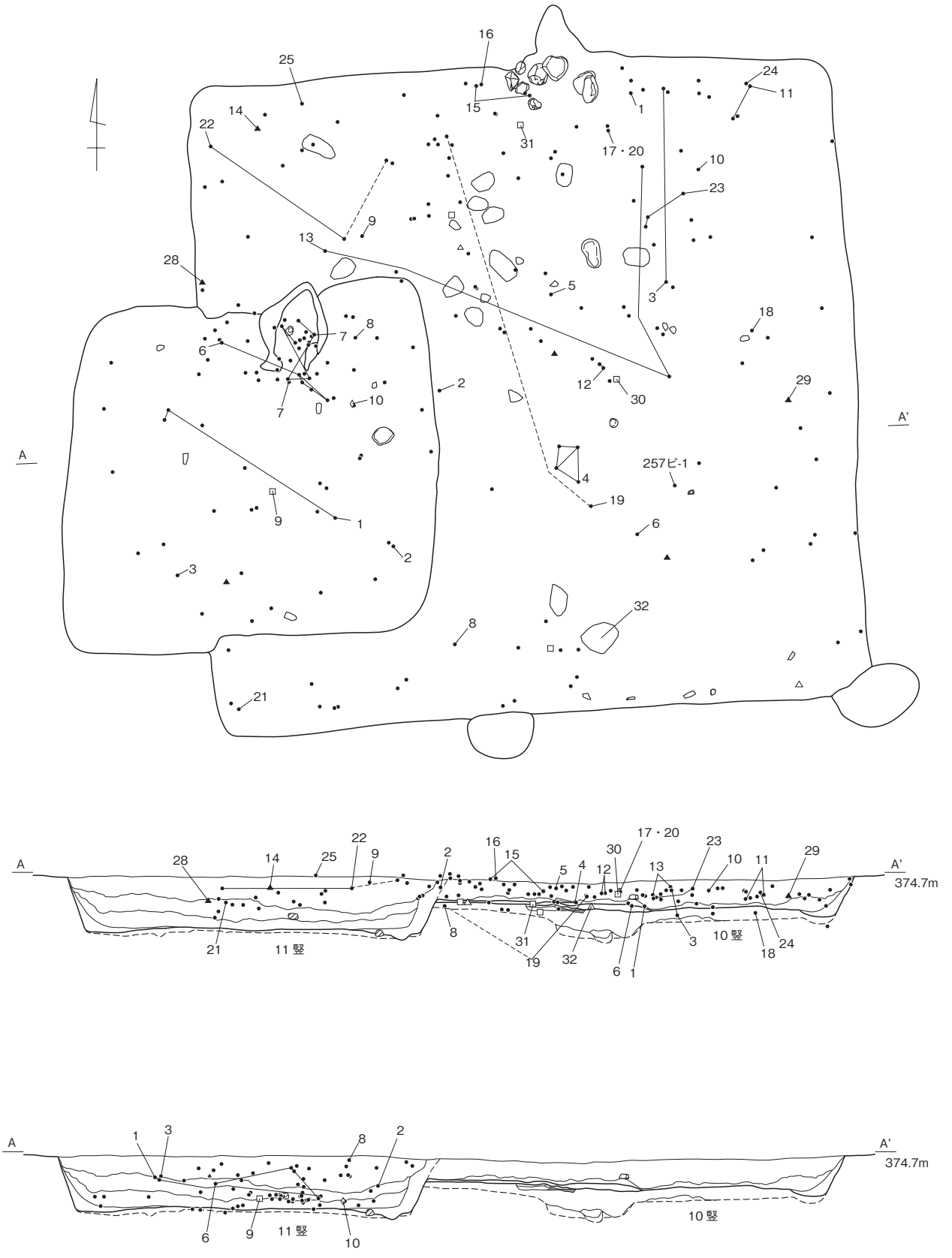


1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　黄褐色粘土と黒褐色砂質土の混土。褐色土小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロック入。
3　焼土層　焚口には焼土ブロックが堆積し、袖部には純粋な焼土となる。炭化粒入。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化粒・焼土粒入。やや黒味強い。煙道内堆積土か。
5　炭化物層
6　褐色砂質土 (10YR4/4)　竈袖粘土。砂粒入。

0　(1:30)　1m

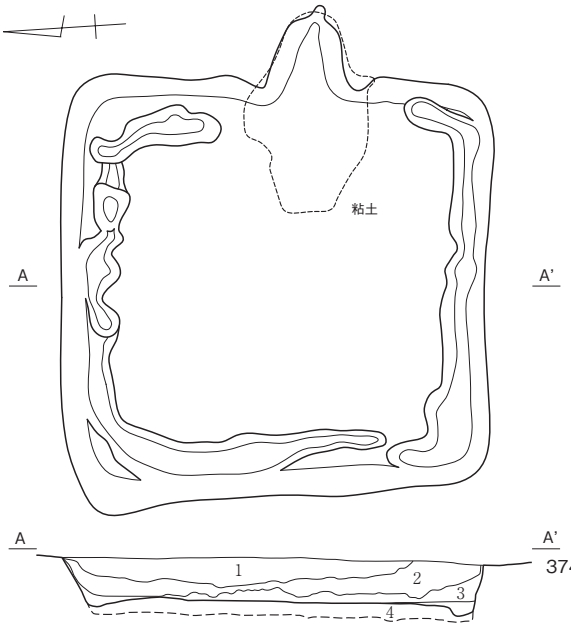
第14図　10・11号竪穴（2）

10・11号竪穴遺物出土状況

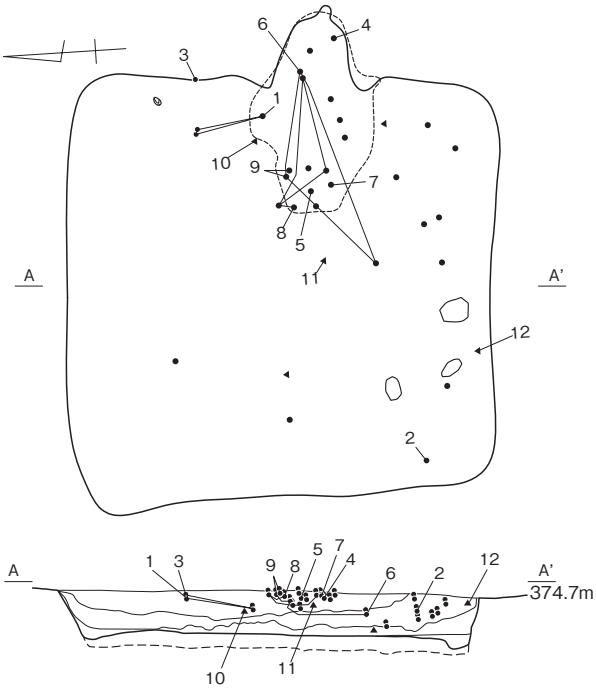


第15図　10・11号竪穴（3）

12号竪穴



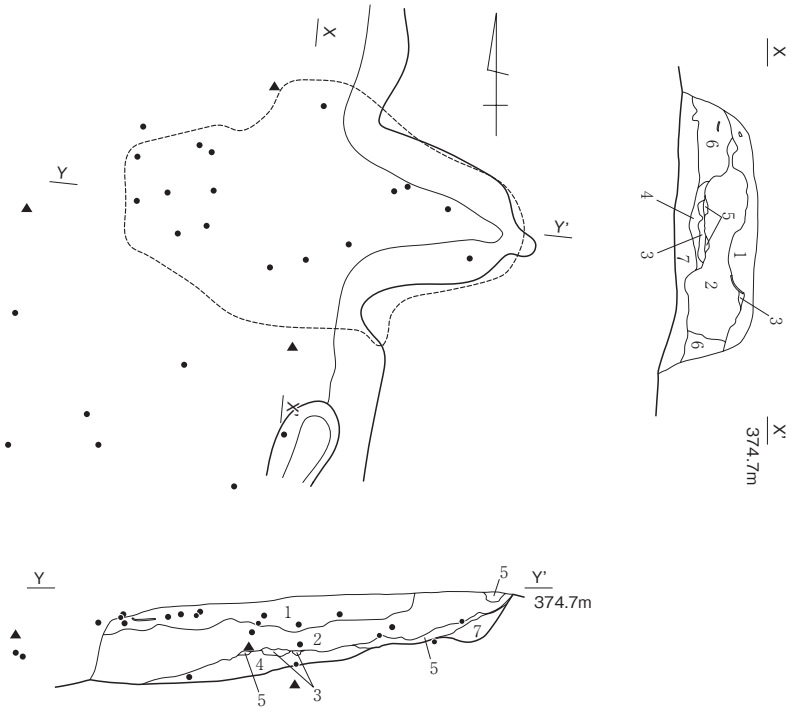
12号竪穴遺物出土状況



1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰白色砂層を主とする。
　褐色土小ブロック・白色砂粒・炭化粒入。やや粗。しまり有り。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　褐色土小ブロックは1層よりもやや少ない。
　炭化粒入。しまり有り。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや黒味有り。密。しまり有り。褐色土堆積。
4　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)＋黒褐色砂質土 (10YR2/3)　一部掘り過ぎ。
　掘り方層。

0　(1:60)　2m

12号竪穴 竈

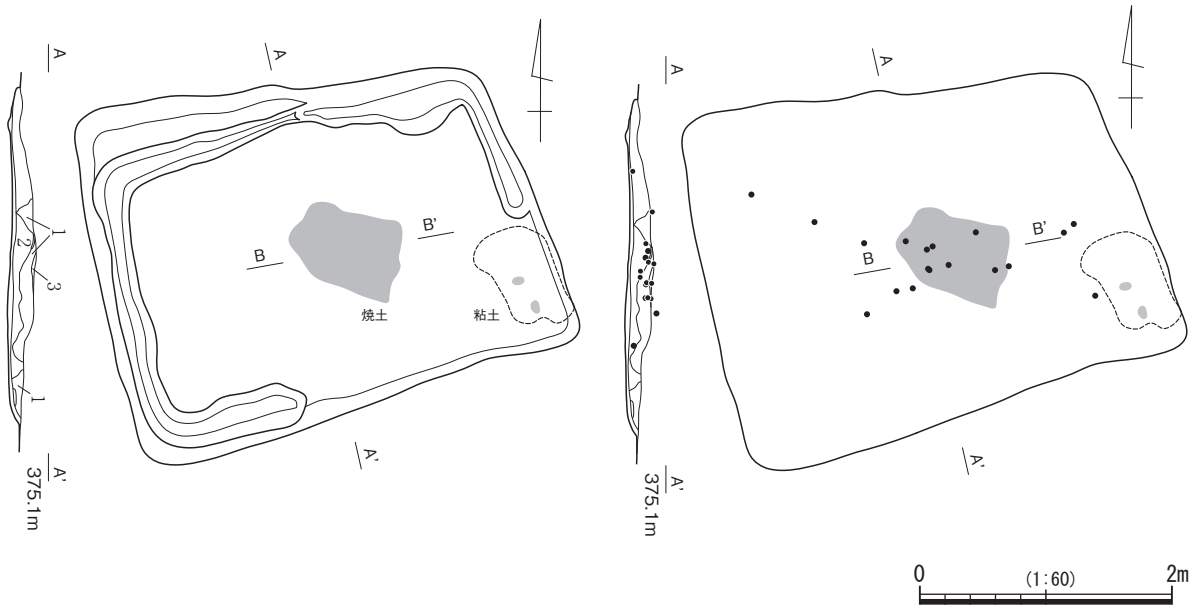


1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR5/4)　焼土小ブロックやや多い。炭化粒・焼土粒・砂粒入。やや粗粒。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・焼土小ブロック入。やや粗粒。褐色ブロック入。
3　褐色砂質土 (10YR4/6)　竈粘土か。上面焼土化。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化粒やや多い。黒味有り。
5　焼土層　竈煙道壁の被熱した粘土。
6　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　炭化粒・焼土粒入。竈袖部に相当。黄色粘土は殆ど含まない。
7　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒入。地山直上。竈煙道裏では焼土小ブロック入。

0　(1:30)　1m

第16図　12号竪穴

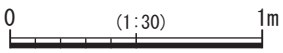
13号竪穴遺物出土状況



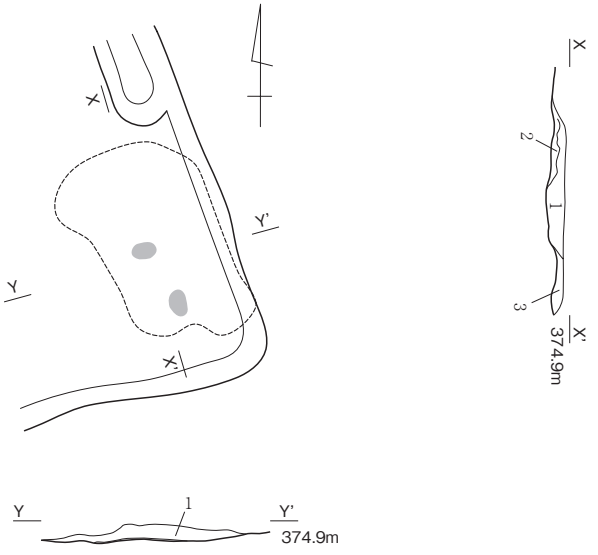
1　灰黄褐色砂質土(10YR4/2)　砂粒多い。焼土・黄褐色砂層(ブロック)・土器入。
2　鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)　やや黒味有り。砂粒やや多い。土器極めて少ない。
3　1層と同じ。焼土ブロック入。

13 号竪穴 焼土

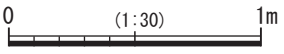
1　暗褐色砂質土(10YR3/4)　焼土小ブロック(φ0.3 ～ 1cm 大)・黄褐色土小ブロックやや多い。炭化物・白色砂粒入。
2　鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)　砂粒・焼土粒入。



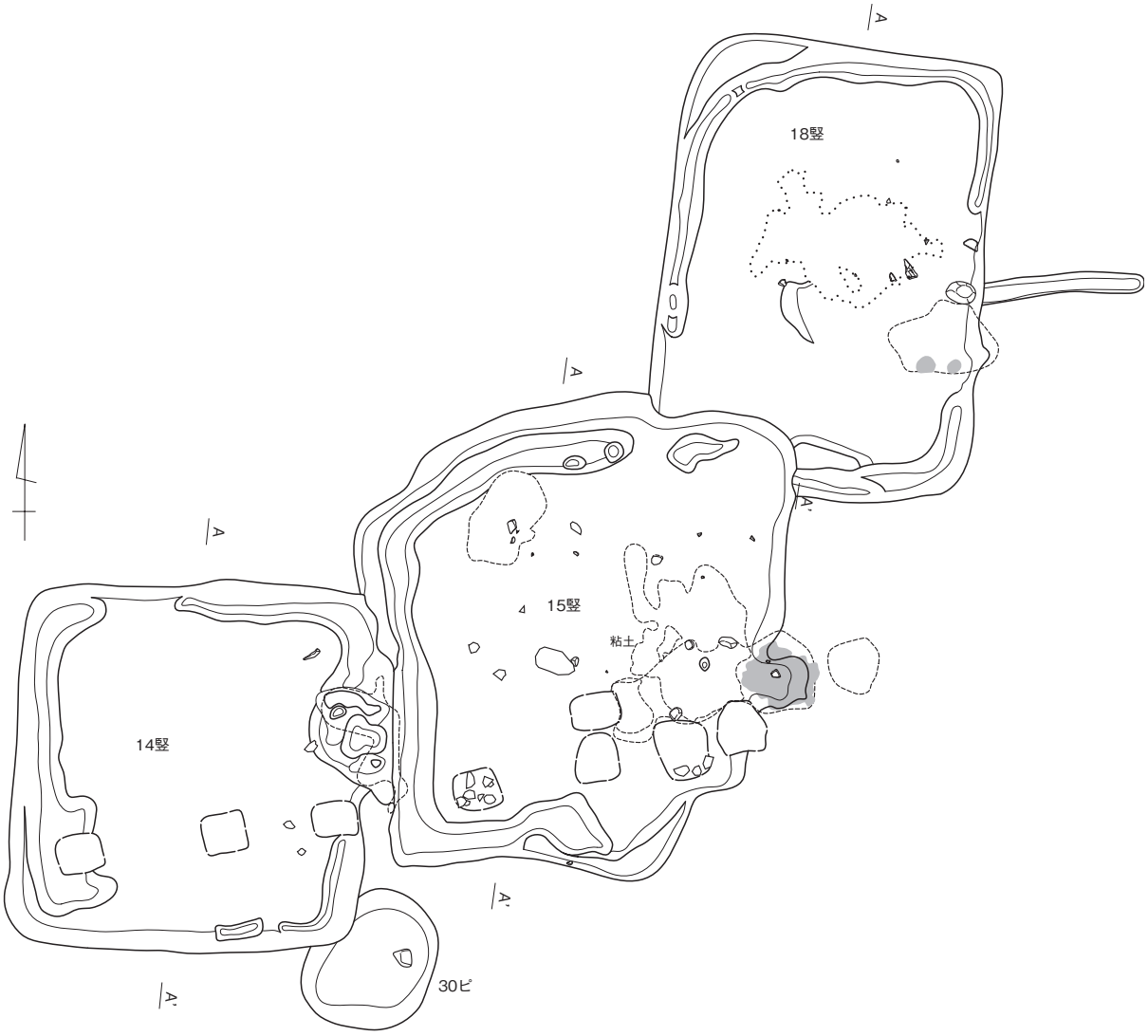
13号竪穴 竈



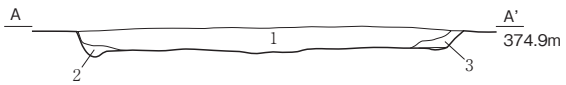
1　暗褐色砂質土(7.5YR3/4)　炭化粒・焼土粒入。
2　黒褐色砂質土(7.5YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。やや粗。
3　鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)　袖の粘土。



第17図　13号竪穴

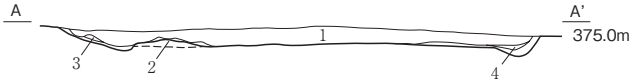


14竪



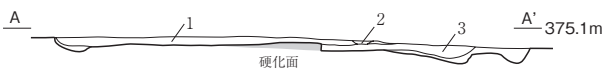
1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　白色砂ブロック入。砂粒含む。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。周溝中の覆土。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　白色砂を主とする。壁の崩土。

15竪



1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　砂粒・焼土粒・炭化粒入。
2　黄褐色土 (10YR5/6)　竈の貼り土に似た黄色土。周囲に焼土ブロックなどやや多い。
3　褐灰色砂層 (10YR5/1)　地山崩土と思われる灰白色の砂層ブロック。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや暗色の周溝覆土。

18竪

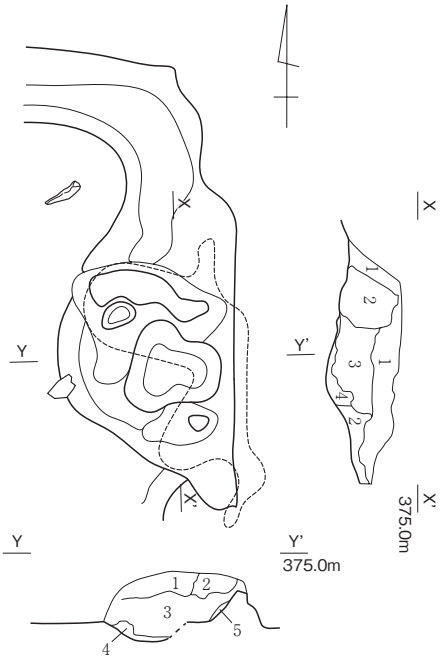


1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　砂粒やや多い。床面は褐色土。
2　褐灰色土 (10YR4/1)　撹乱溝。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　床下。掘り方。暗色。上面が床面。

0　(1:60)　2m

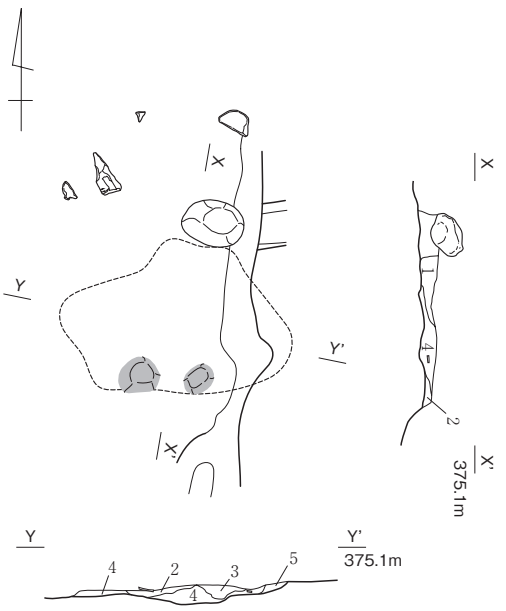
第18図　14・15・18号竪穴（1）

14号竪穴　竈



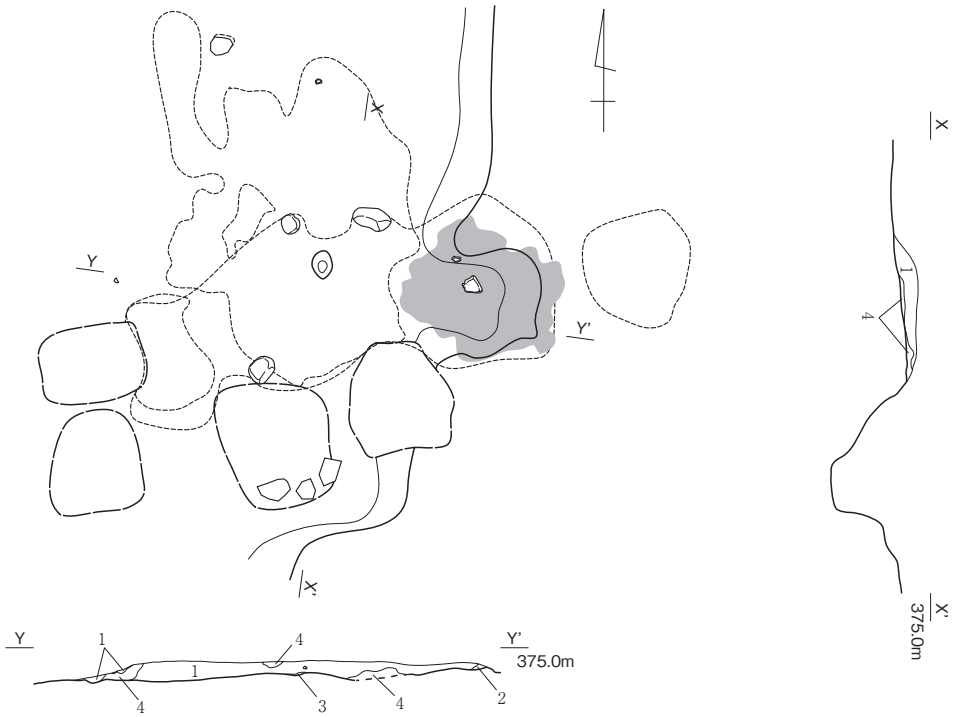
1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　焼土小ブロックやや多い。竈粘土の小ブロック入。
2　焼土層 (2.5YR4/6)　赤褐色土。赤褐色土の焼土層。竈袖部。
3　暗褐色砂質土　焼土ブロックやや多い。砂粒入。
4　焼土層　オレンジ色に近い焼土ブロックを主とする。
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　地山に近い。

18号竪穴　竈



1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　撹乱状を含む。
2　褐色砂質土 (10YR4/4)　竈粘土崩土。炭化物入。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)+ 焼土小ブロック
4　炭化物層　焼土小ブロックやや多く混。
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒入。

15号竪穴　竈

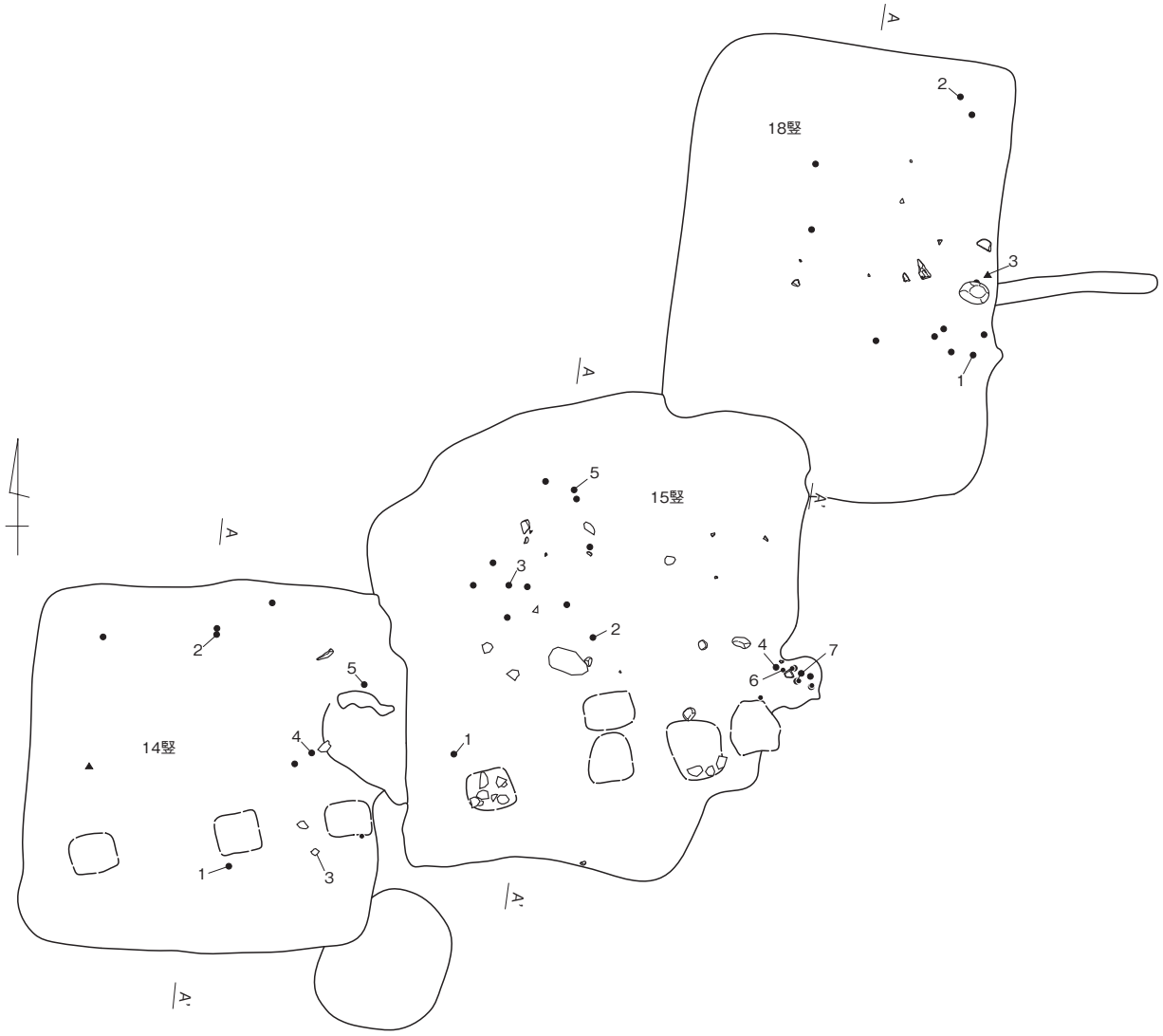


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・ローム小ブロック入。
2　焼土層　煙道の壁付近のみに分布。
3　炭化物層　薄く広がる。
4　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土崩土。

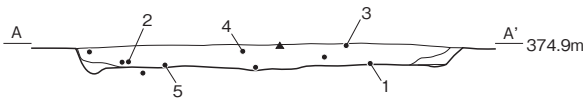
0　(1:30)　1m

第19図　14・15・18号竪穴（2）

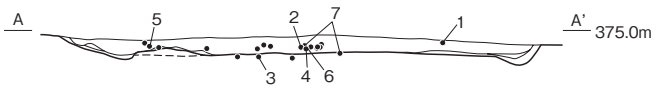
14・15・18号竪穴遺物出土状況



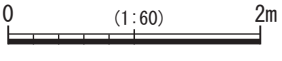
14 号竪穴



15 号竪穴

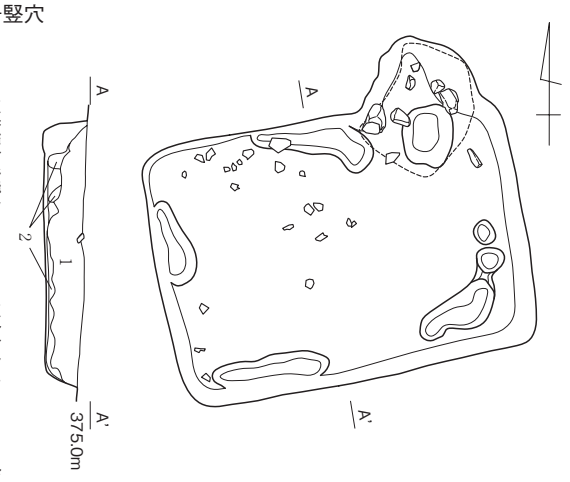


18 号竪穴



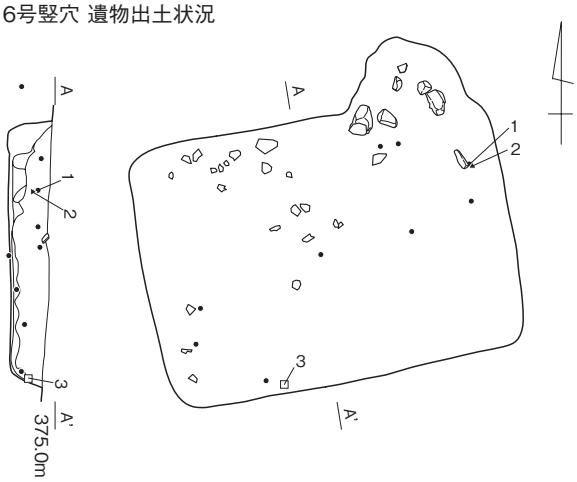
第20図　14・15・18号竪穴（3）

16号竪穴

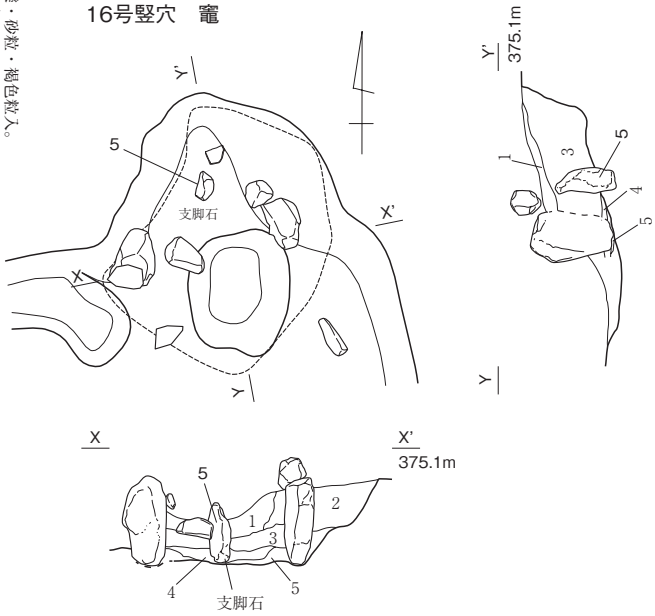


1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰白色小ブロックやや多い。礫・砂粒・褐色粒入。
2 暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや暗色。褐色粒やや多い。黒味有り。

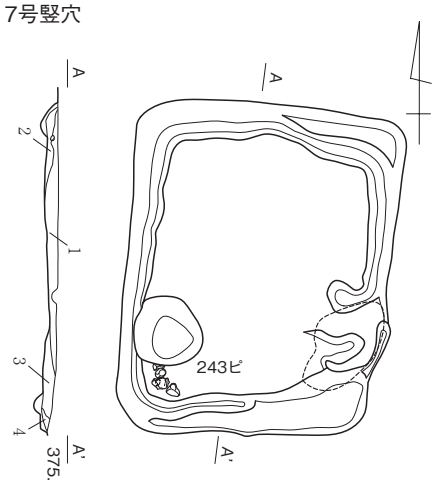
16号竪穴 遺物出土状況



16号竪穴　竈



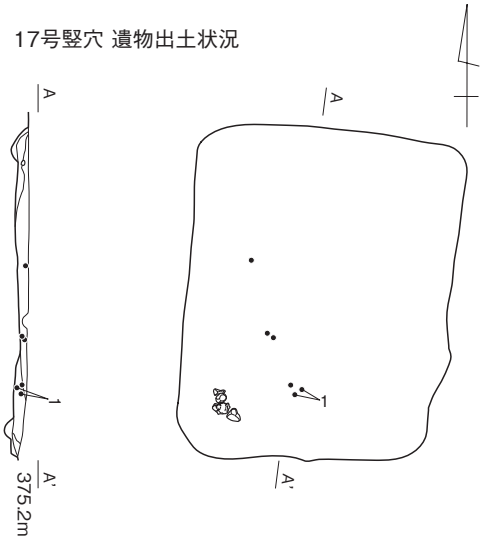
17号竪穴



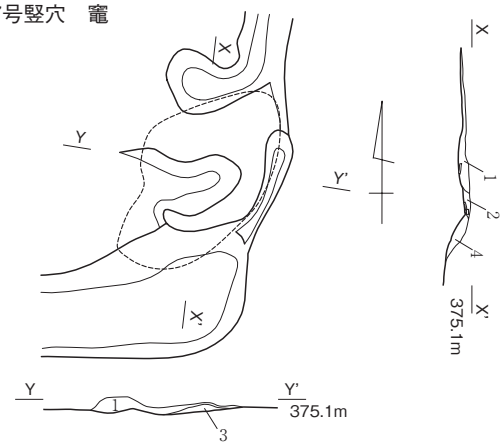
1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　砂粒。
2 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)
3 暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや暗色。炭化物やや多い。
4 褐色砂質土 (10YR4/4)　地山直上。

1 暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒・焼土小ブロック・焼土粒・炭化粒入。褐色粒。
2 褐色砂質土 (10YR4/4)　竈粘土。砂粒入。
3 暗褐色砂質土＋焼土ブロック (10YR3/3)　φ1cm 程の焼土小ブロック入。焼土粒・炭化粒・砂粒入。
4 焼土層
5 暗褐色砂質土 (10YR3/4)　焼土小ブロック入。

17号竪穴 遺物出土状況



17号竪穴　竈



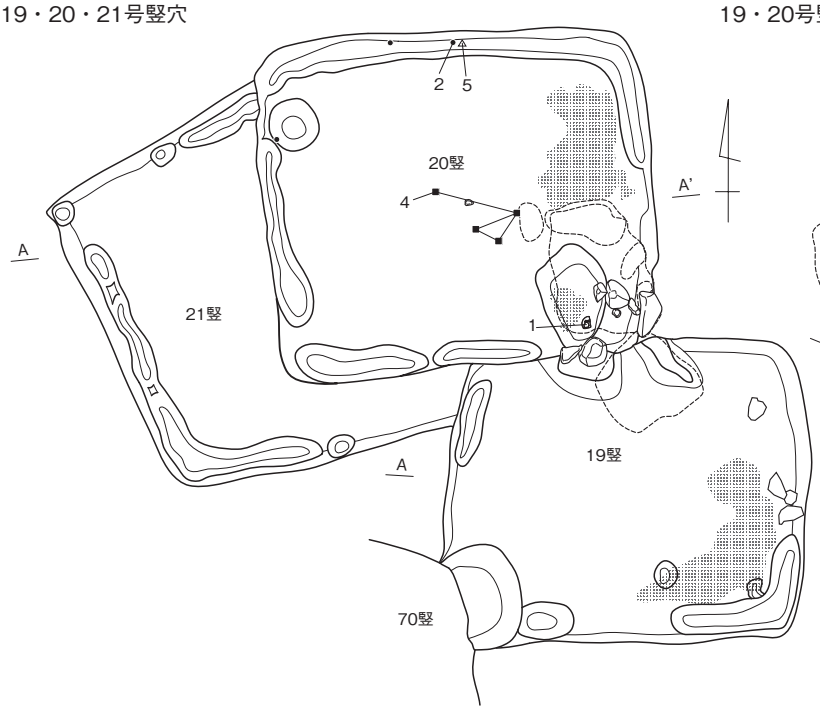
1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・灰褐色砂小ブロック入。
2 炭化物層　焼土小ブロック入。
3 褐色砂質土 (10YR4/6)　竈粘土。
4 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗粒。

0 (1:30) 1m

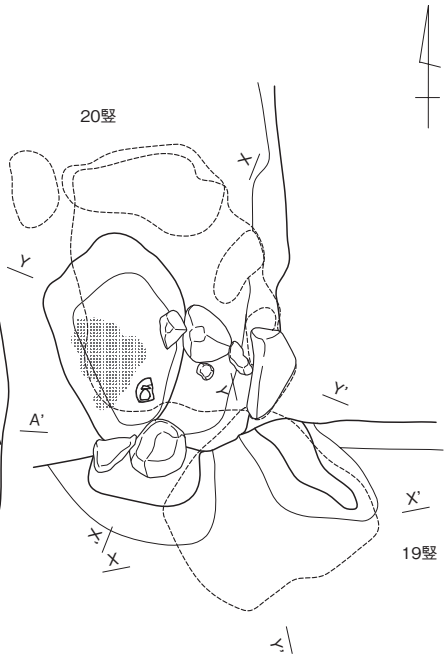
0 (1:60) 2m

第21図　16・17号竪穴

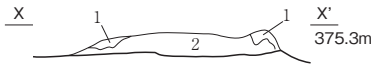
19・20・21号竪穴



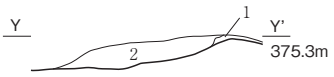
19・20号竪穴　竈



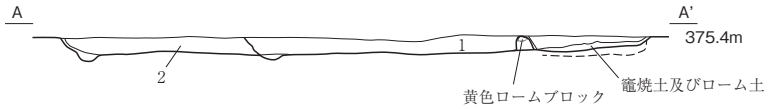
19 号竪穴 竈



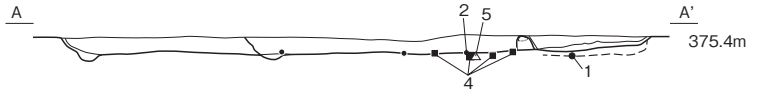
1　褐色砂質土 (10YR4/6)　竈粘土崩土。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・焼土小ブロック・褐色小ブロック入。



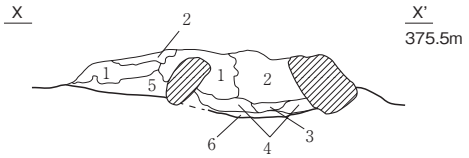
20・21 号竪穴



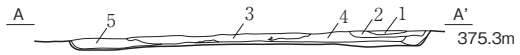
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　白色砂粒・褐色粒・焼土粒・炭化粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　1 層に似るが、1 層よりも黒味が弱い。



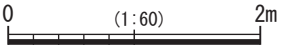
20 号竪穴 竈



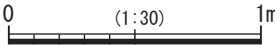
19 号竪穴



1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　褐色土小ブロックやや多い。炭化物入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒多い。全体的に黒味有り。焼土ブロック・炭化物入。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰色味強い。焼土粒・炭化物入。
4　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　3 層に似る。炭化物やや多い。
5　鈍い黄褐色砂質土 10YR4/3)　床下か。焼土粒入。褐色砂粒主体。

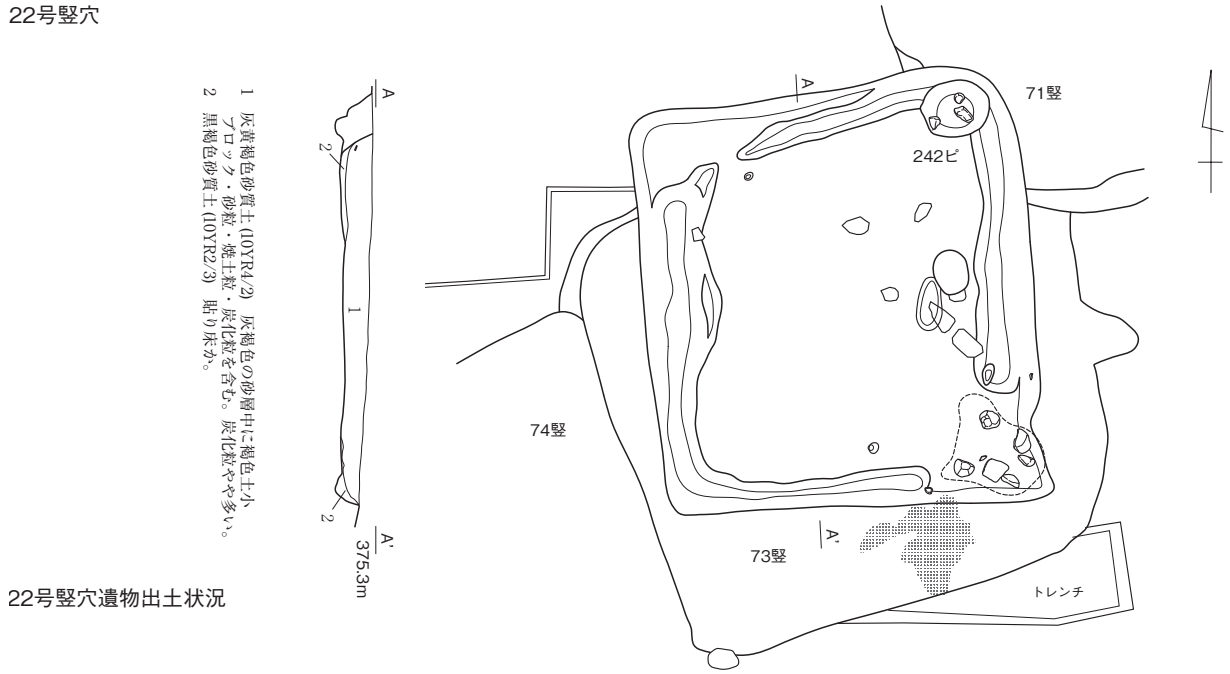


1　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈袖粘土。焼土粒・砂粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　褐色小ブロック・焼土小粒子・砂粒入。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　ローム粒入。
4　焼土層
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黄褐色小ブロック・炭化粒・焼土粒入。
6　炭化物層



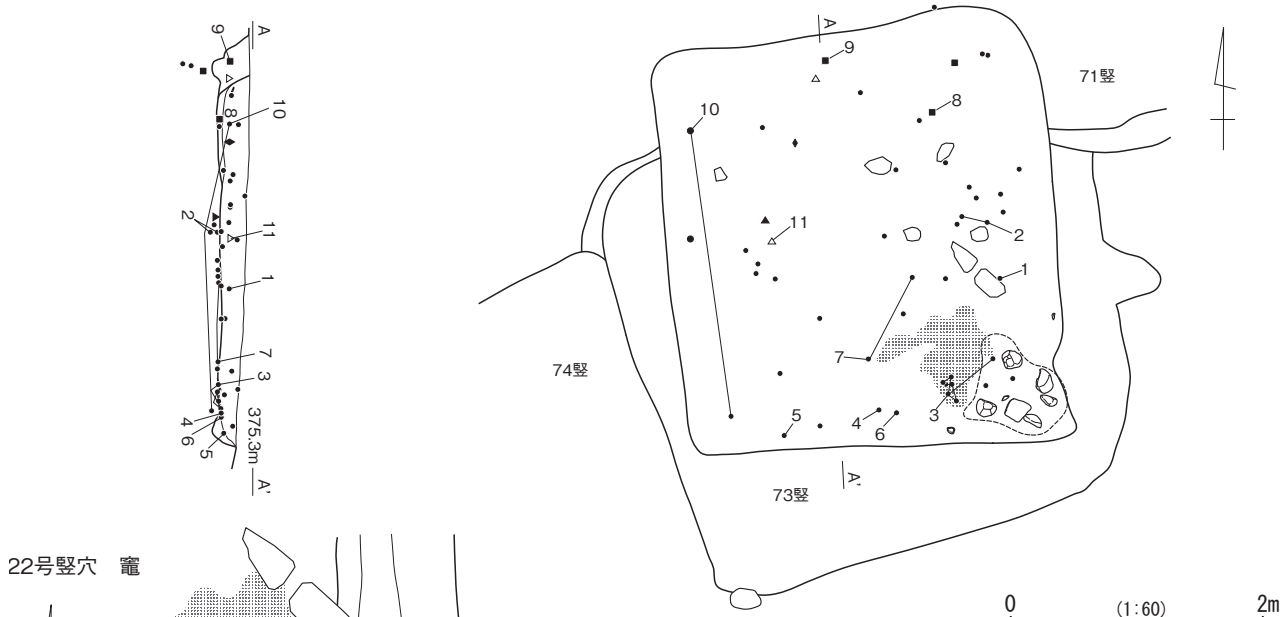
第22図　19～21号竪穴

22号竪穴

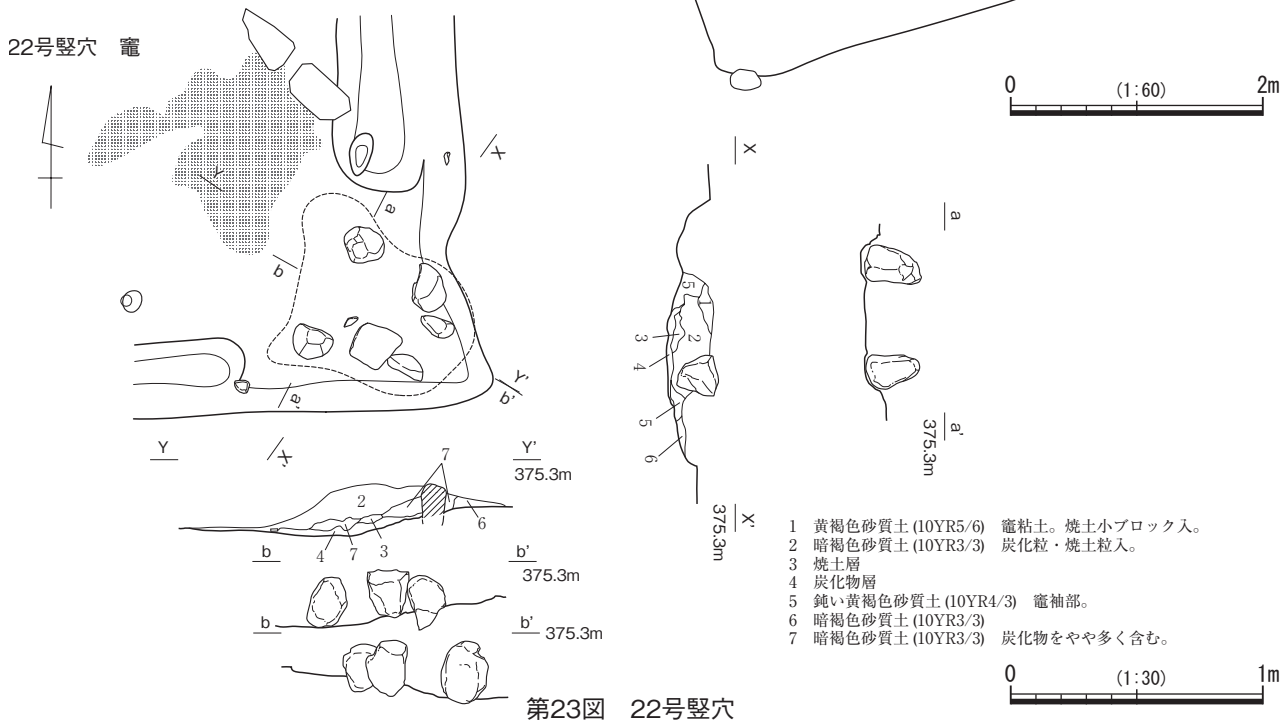


1　灰黄褐色砂質土(10YR4/2)　灰褐色の砂層中に褐色土小ブロック・砂粒・焼土粒・炭化粒を含む。炭化粒やや多い。
2　黒褐色砂質土(10YR2/3)　貼り床か。

22号竪穴遺物出土状況



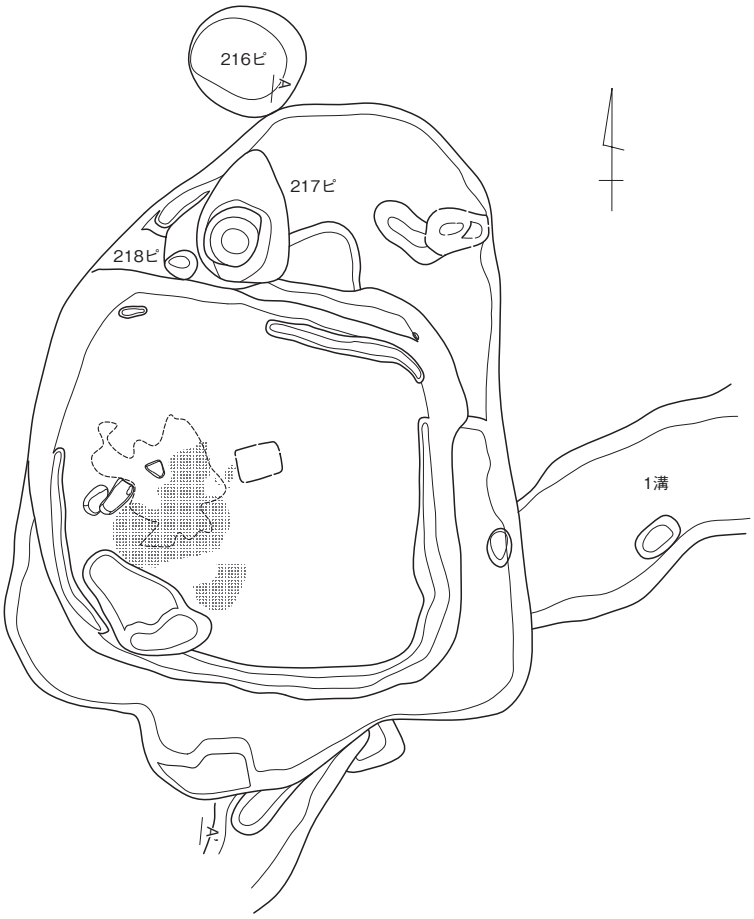
22号竪穴　竈

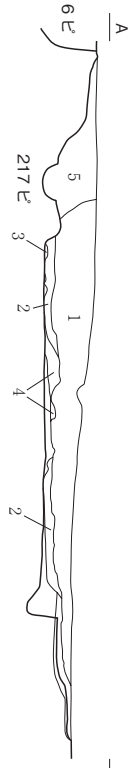


1　黄褐色砂質土(10YR5/6)　竈粘土。焼土小ブロック入。
2　暗褐色砂質土(10YR3/3)　炭化粒・焼土粒入。
3　焼土層
4　炭化物層
5　鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3)　竈袖部。
6　暗褐色砂質土(10YR3/3)
7　暗褐色砂質土(10YR3/3)　炭化物をやや多く含む。

第23図　22号竪穴

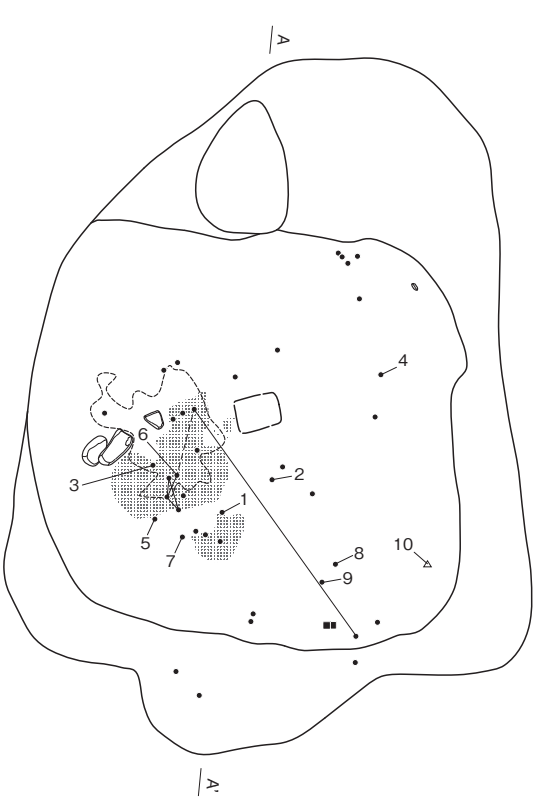
25号竪穴

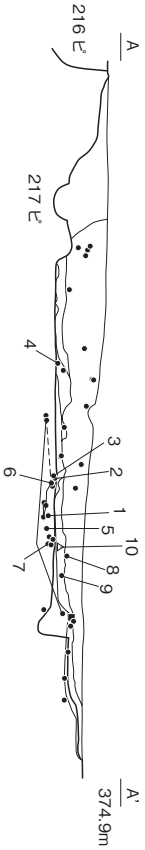


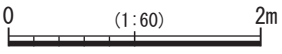


1　黒褐色砂質土(10YR3/2)　極細砂。砂粒・灰褐色ブロック・炭化物(φ1cm)入。
2　黒褐色砂質土(10YR2/3)　やや黒味強い。極細砂。褐色粒入。2層直下(床直上)薄い炭化物層有り。
3　灰黄褐色砂質土(10YR4/2)　地山に近い。貼り床かも。褐色土小ブロックやや多い。
4　褐色土(10YR4/4)　竈に似た黄褐色土のブロック堆積。
5　黒褐色砂質土(10YR3/2)　1層に似るが、やや黒味弱い。灰褐色小ブロック・褐色粒入。

25号竪穴遺物出土状況

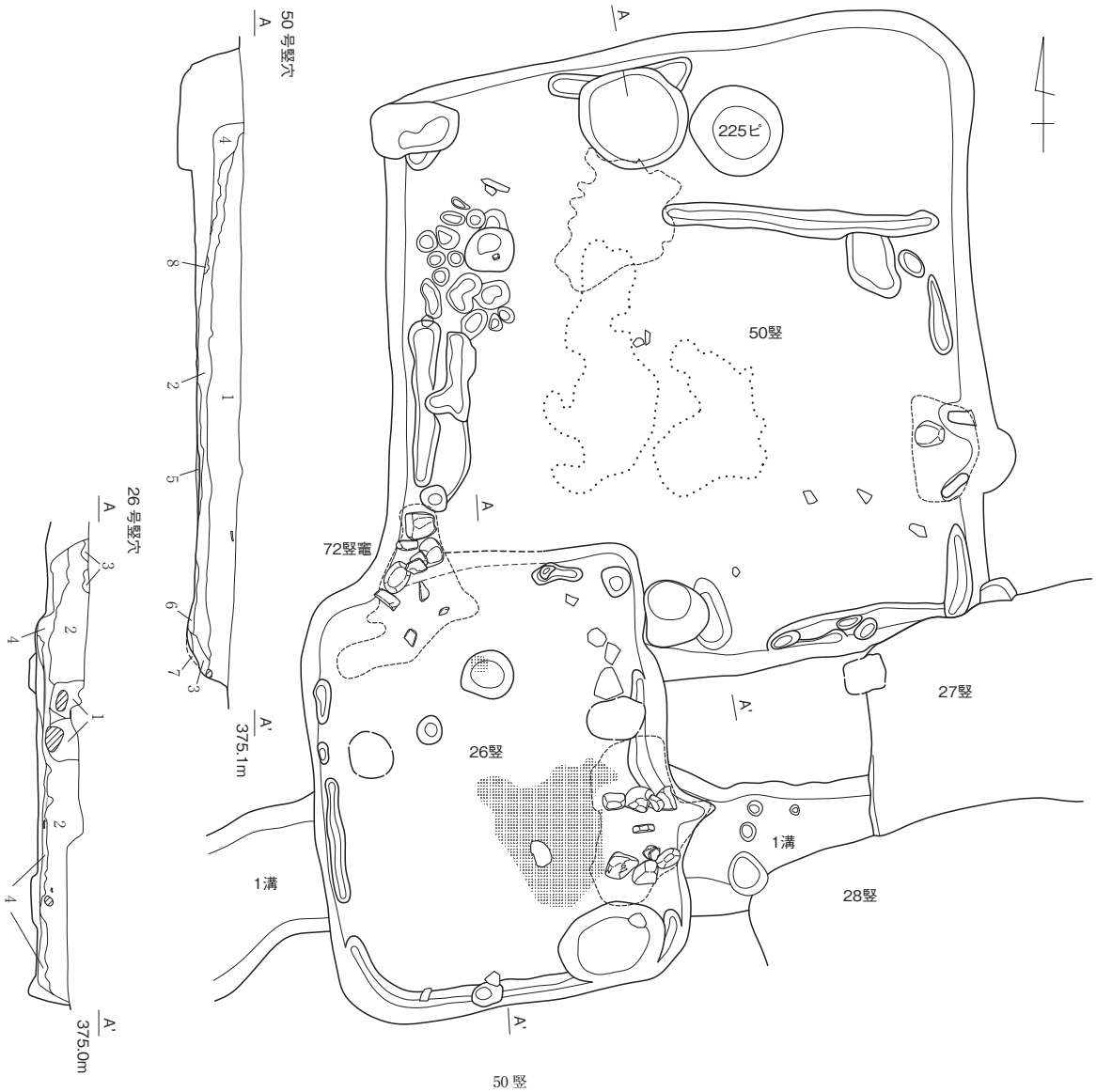






第24図　25号竪穴

26・50号竪穴

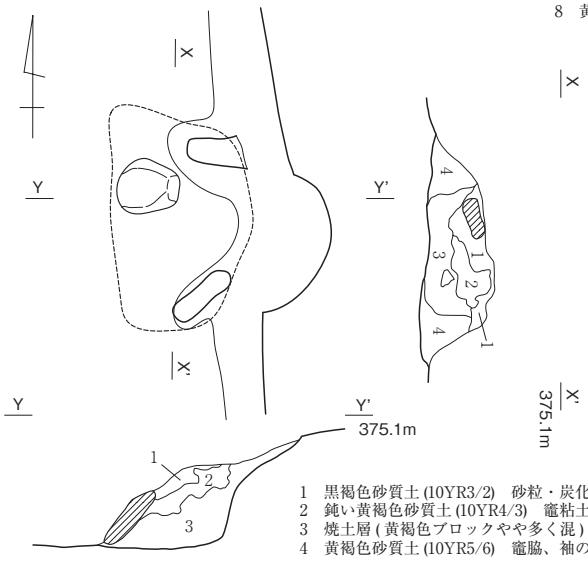


26 竪
1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　2 層と同質。葡萄支線の撹乱。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　灰黄褐色砂質土ブロック・炭化粒・焼土粒・褐色粒入。
3　黄褐色土（10YR5/6)　竈周囲に見られるロームブロックと同質。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物が薄く混じり、所々ブロック状を呈する。

50 竪
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細粒 (やや粗)。炭化物 (0.2 ～ 0.4cm)・焼土粒・砂粒・灰褐色小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物 (0.2 ～ 0.6cm) やや多い。焼土小ブロック・砂粒入。黄褐色土小ブロックやや多い。細砂～極細砂。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰黄褐色小ブロック多い。地山 (壁) 崩土。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　3 層に似る。灰黄褐色ブロックやや多い。砂粒入。細～極細砂。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　褐色土小ブロックやや多い。炭化粒入。
6　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　5 層に類似。やや黒味有り。炭やや多い。
7　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　細砂。やや粗。壁崩土か。
8　黄褐色土 (10YR5/6)　竈の袖土に似た黄色土。

0　(1:60)　2m

50 号竪穴 竈

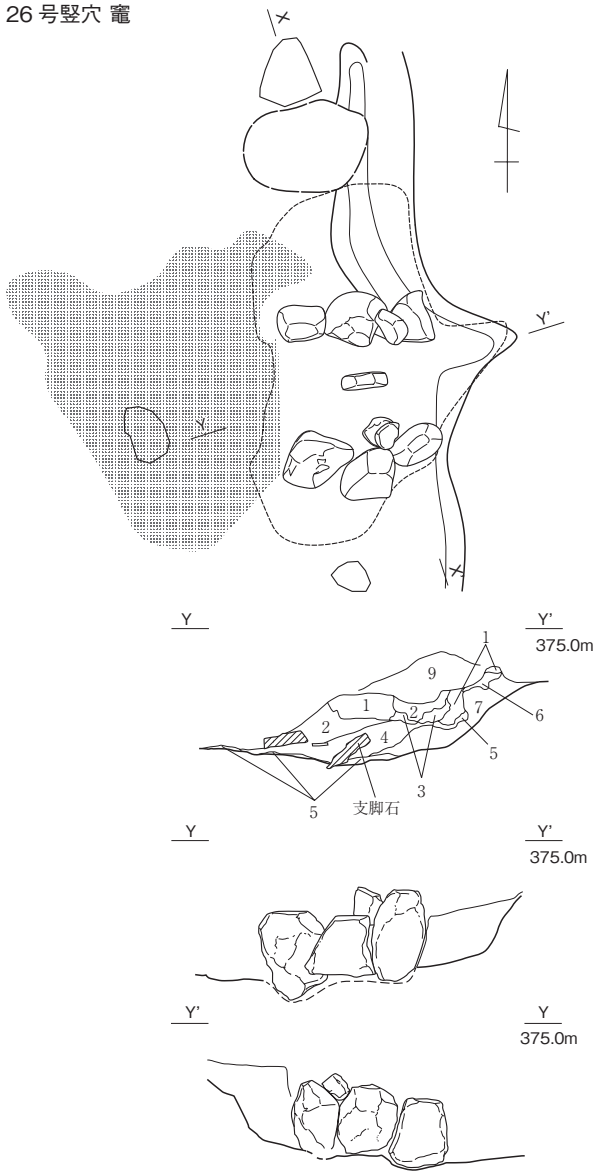


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒・炭化粒・焼土粒入。ローム (黄褐色土) 小ブロック入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　竈粘土の崩土。焼土小ブロック・褐色粒入。
3　焼土層 (黄褐色ブロックやや多く混)　炭化粒入。焼土小ブロック多い。
4　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈脇、袖の粘土。

0　(1:30)　1m

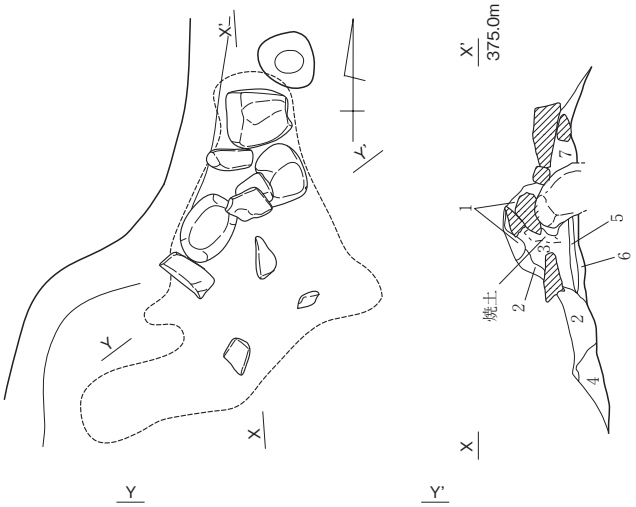
第25図　26・50・72号竪穴（1）

26 号竪穴 竈

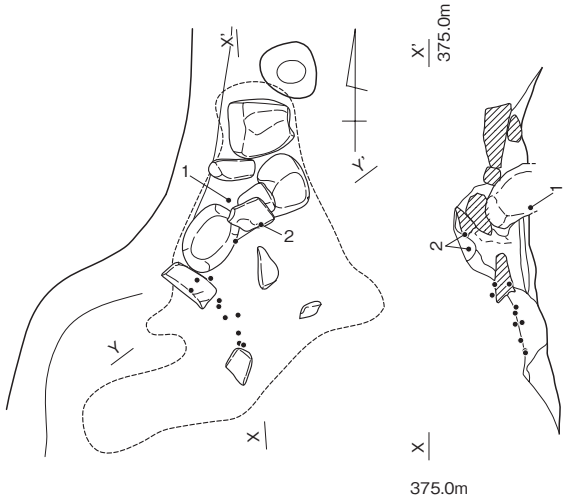


1 黄褐色土 (10YR5/6) 竈粘土。崩土。
2 暗褐色砂質土 (10YR3/2)
3 焼土 焼土ブロック主体。竈崩土か。
4 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 炭化粒・焼土粒多い。
5 炭化物層 焼土ブロック混。
6 鈍い赤褐色土 (2.5YR4/3) 被熱。赤変層。竈煙道周辺。
7 灰褐色砂層 (10YR5/2) 溝覆土の砂層。細 ~ 粗粒砂。
8 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 竈脇。覆土か。
9 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 住居覆土。炭化粒・焼土粒入。

72 号竪穴 竈



72 号竪穴 竈遺物出土状況

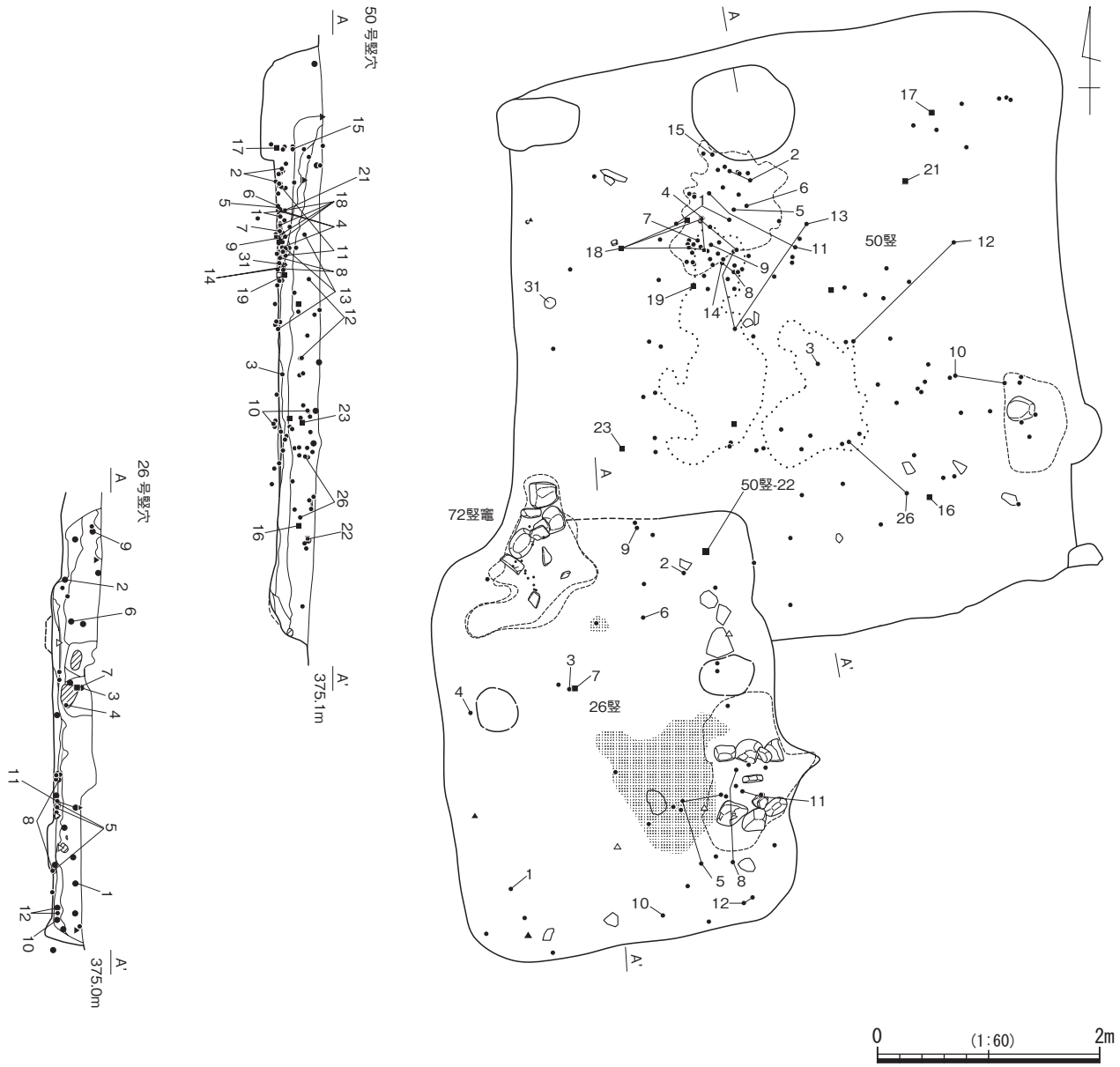


1 黄褐色土 (10YR5/6) 竈粘土。
2 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 焼土粒・炭化粒・焼土小ブロック入。土器片多い。
3 黄褐色土 + 焼土ブロック 黄褐色ブロック・焼土ブロック・炭化粒・焼土粒多い。
4 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土小ブロック・黄褐色土小ブロックやや多い。
5 炭化物層 焼土小ブロック入。
6 焼土層 竈底面の被熱。
7 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 炭化粒・焼土粒入。ローム小ブロック入。

0 (1:30) 1m

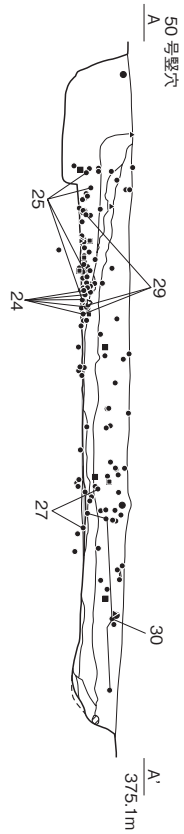
第26図 26・50・72号竪穴（2）

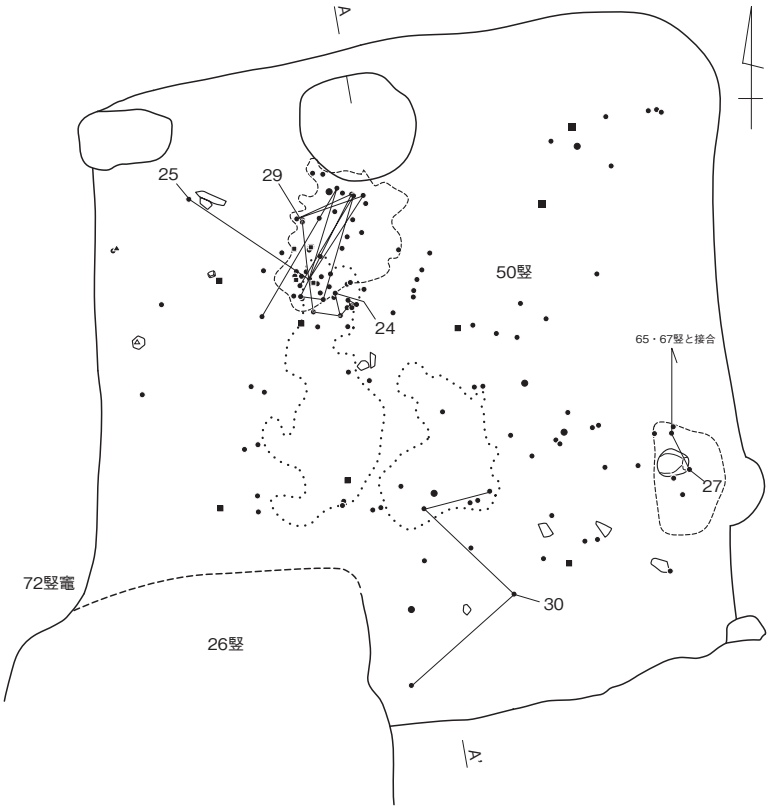
26・50号竪穴遺物出土状況

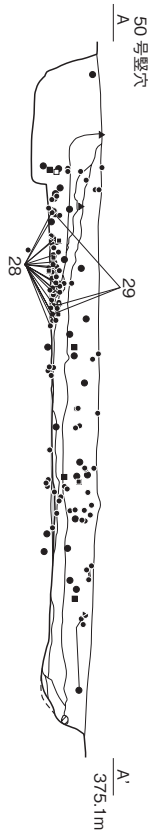


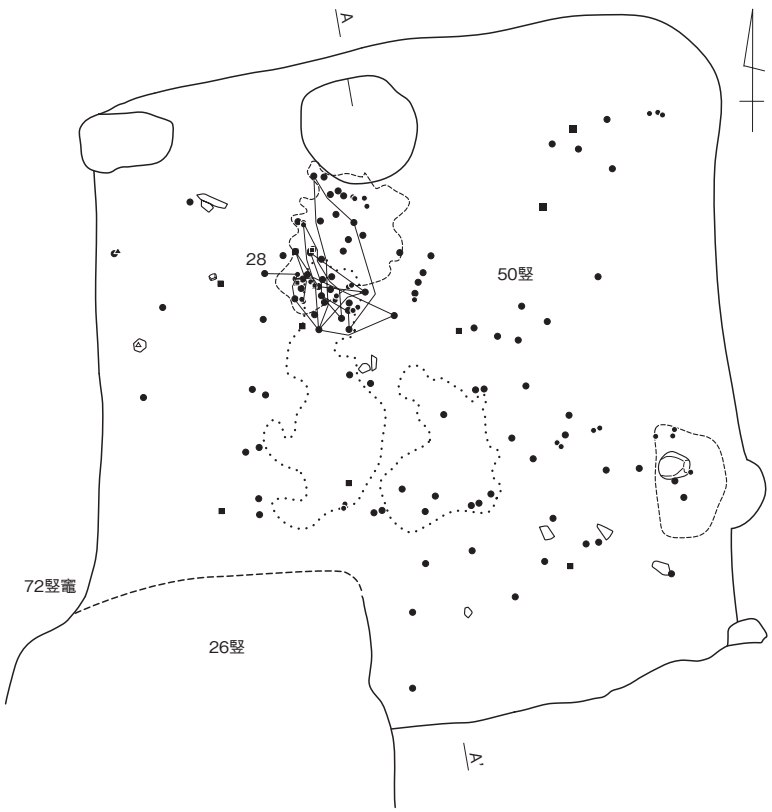
第27図　26・50・72号竪穴（3）

50号竪穴遺物出土状況



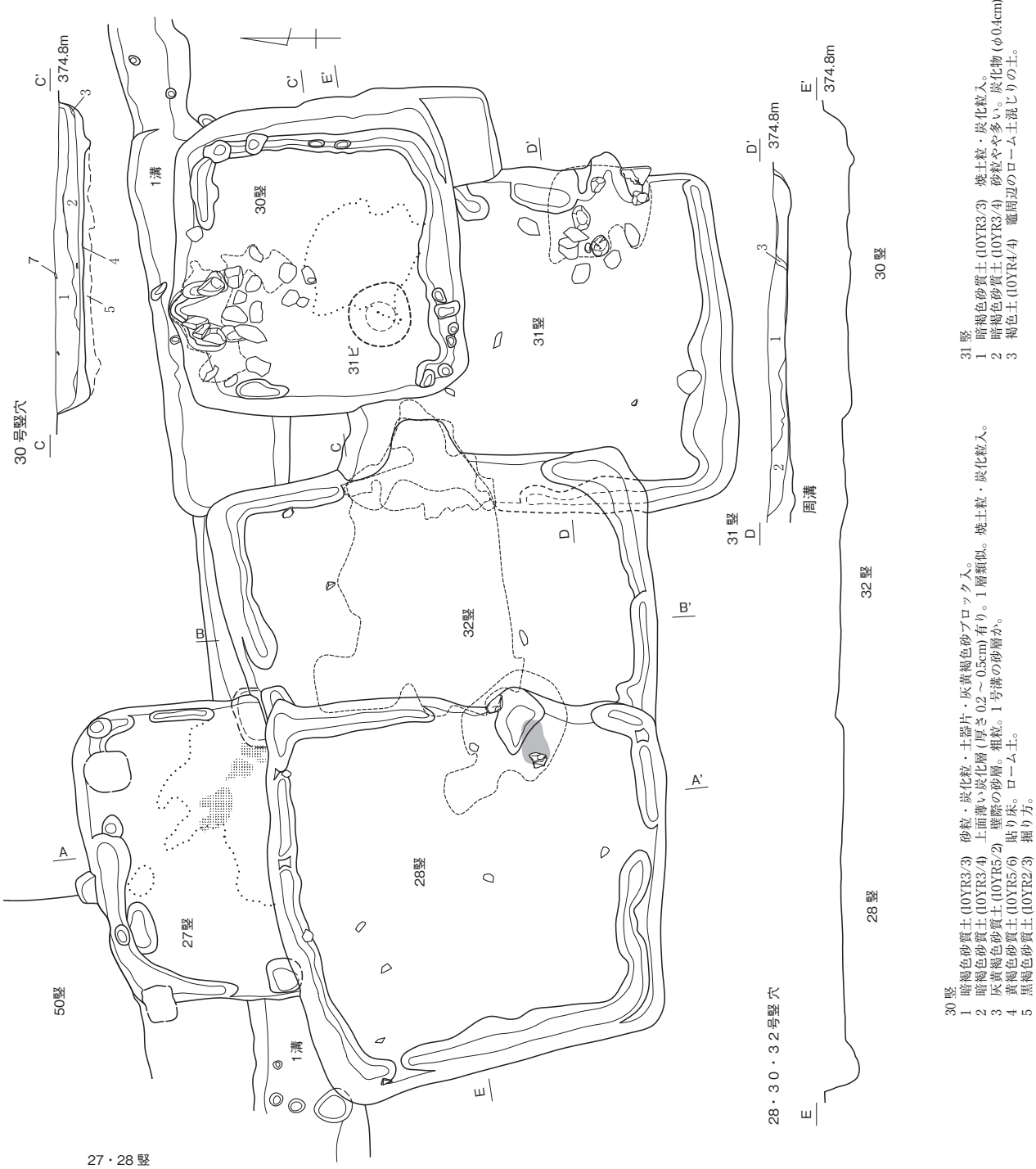


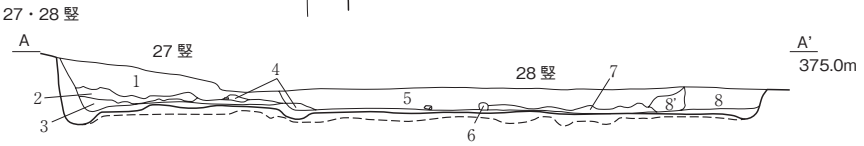




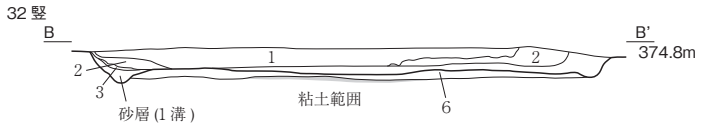
0 (1:60) 2m

第28図　26・50・72号竪穴（4）





1 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 褐色小ブロックやや多い。炭化粒入。
2 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 褐色土ブロック多い。炭化粒入。
3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 灰黄褐色砂主体。周溝埋土。
4 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)＋炭化物 炭化物多い。
5 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3) 炭化物・炭化粒有り。極細砂。密。
6 灰黄褐色砂層 (10YR5/2) ブロック状の砂層。
7 暗褐色砂質土 (10YR4/3) 炭化物 (0.2cm 程度) 多い。
8 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 粗粒砂多い。
8' 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 8 層よりは砂粒少ない。炭化粒入。



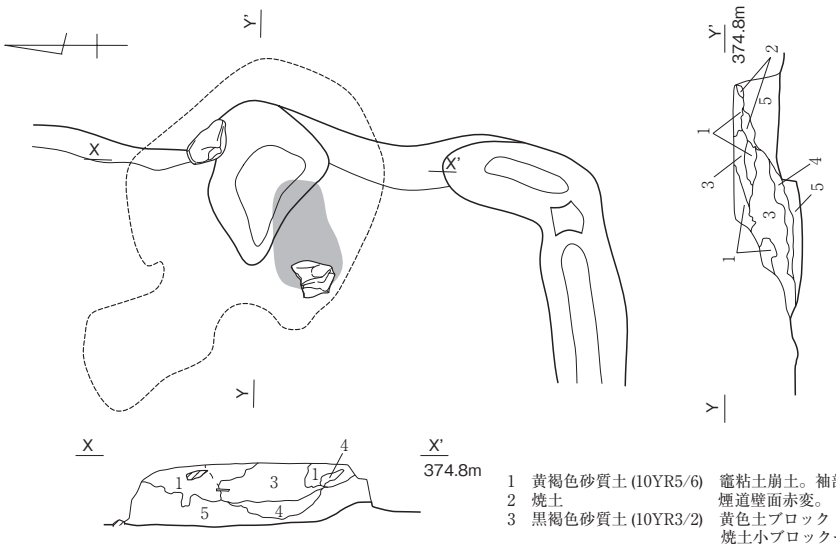
1 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 炭化粒・焼土粒・褐色粒入。
2 黒褐色砂質土 (10YR3/2) やや黒味有り。壁際崩土。やや粗い砂層。
3 灰黄褐色砂質土 (10YR5/2) 1 号溝覆土。

第29図 27・28・30～32号竪穴 (1)

0 (1:60) 2m

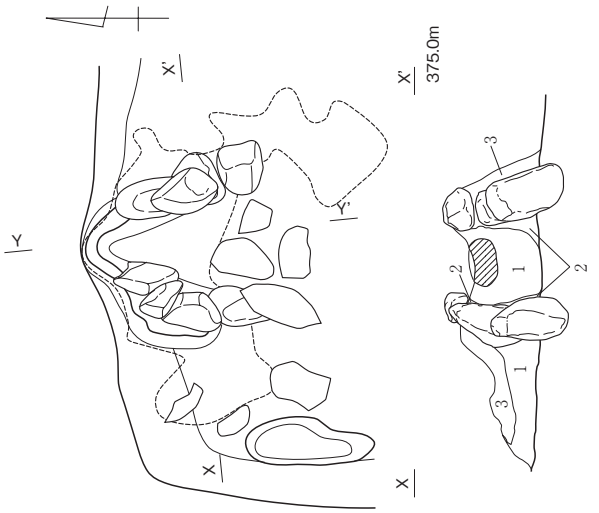
第29図 27・28・30～32号竪穴（1）

28 号竪穴 竈

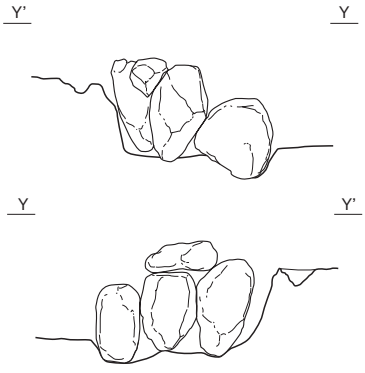


1　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土崩土。袖部。
2　焼土　煙道壁面赤変。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黄色土ブロック・焼土粒・炭化粒入。焼土小ブロックやや多い。
4　焼土層
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗粒。

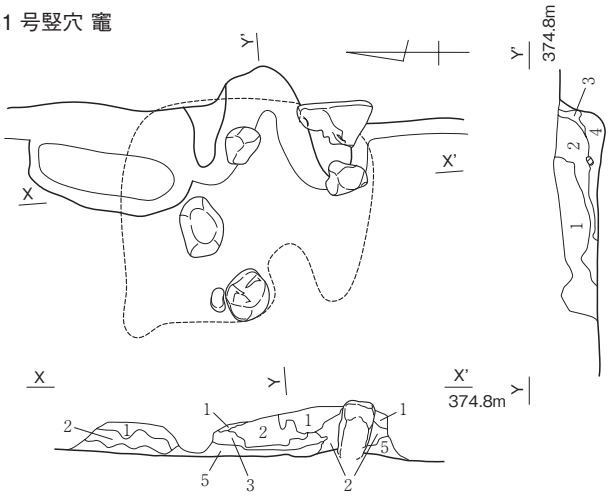
30 号竪穴 竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロック・炭化粒入。
2　焼土
3　黄褐色土 (10YR5/6)　竈粘土＋崩土。

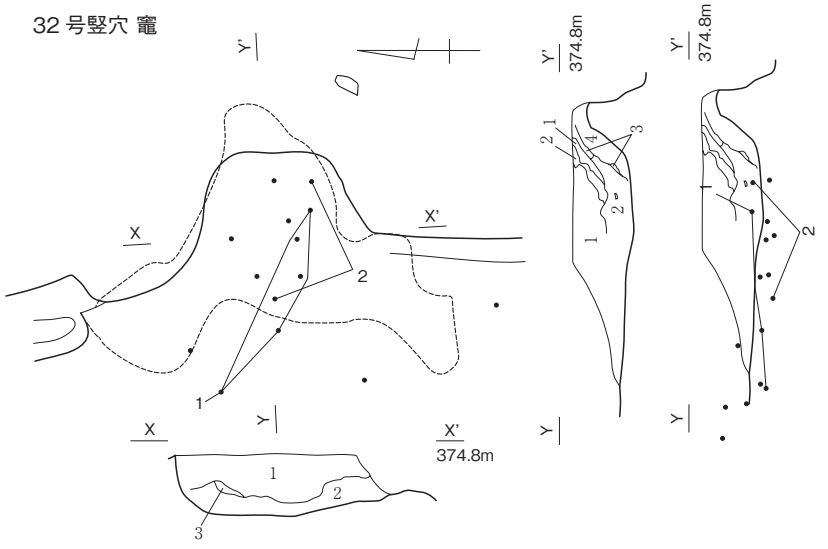


31 号竪穴 竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロック・砂粒・焼土粒・炭化粒入。
2　褐色砂質土 (10YR4/6)　竈ローム粘土。焼土小ブロック入。
3　焼土層　左側の焼土はブロック状。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化粒やや多い。黒味有り。焼土小ブロック入。
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗粒。床直～地山。

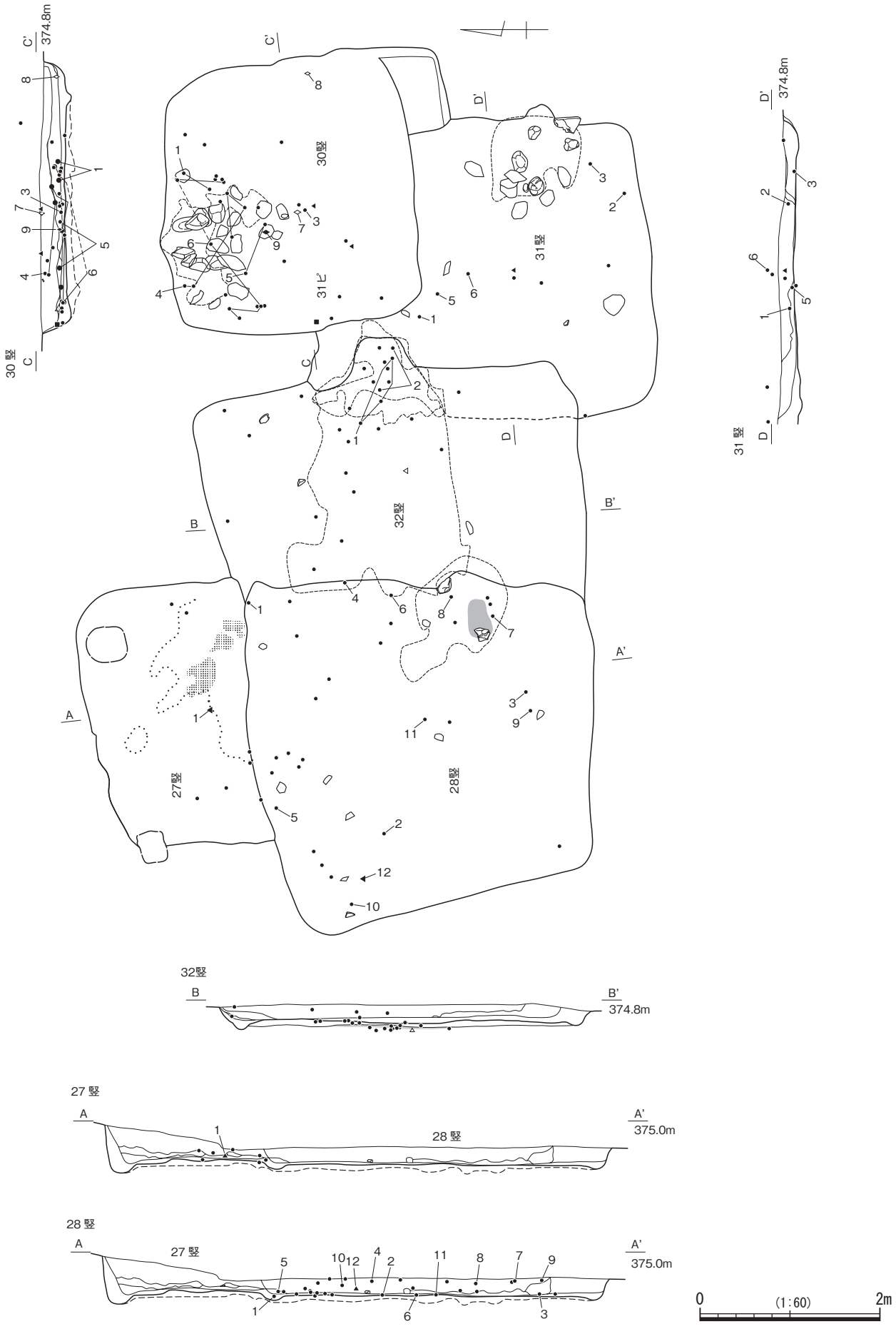
32 号竪穴 竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・黄色土ブロック入。
2　黄褐色土 (10YR5/6)　竈粘土の崩土を主とする。
3　焼土
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　地山直上。炭化粒入。やや粗粒。

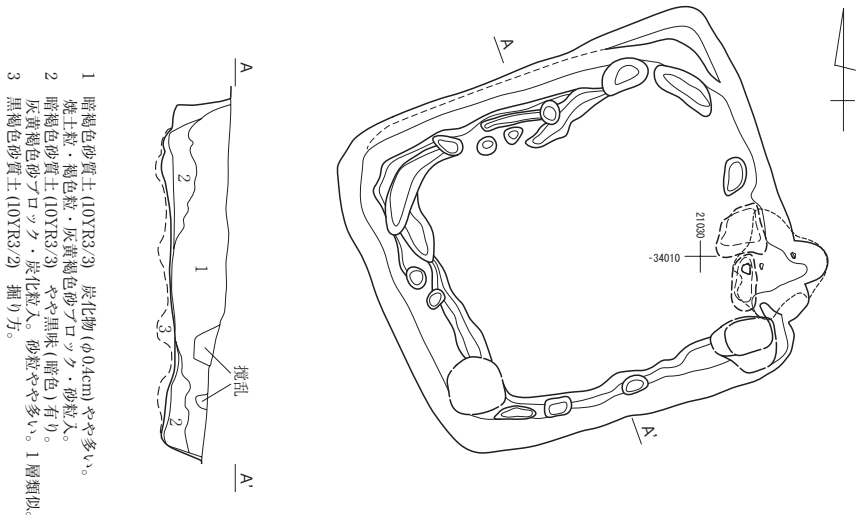
0　(1:30)　1m

第30図　27・28・30～32号竪穴（2）

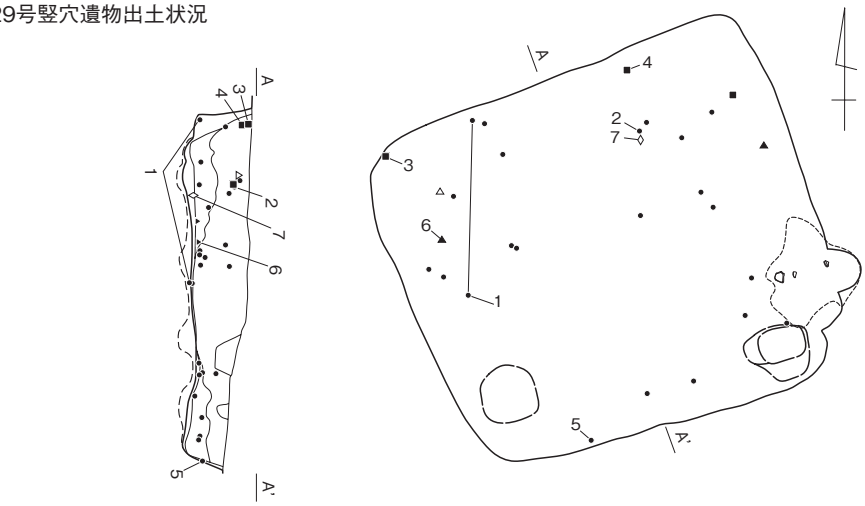


第31図　27・28・30～32号竪穴（3）

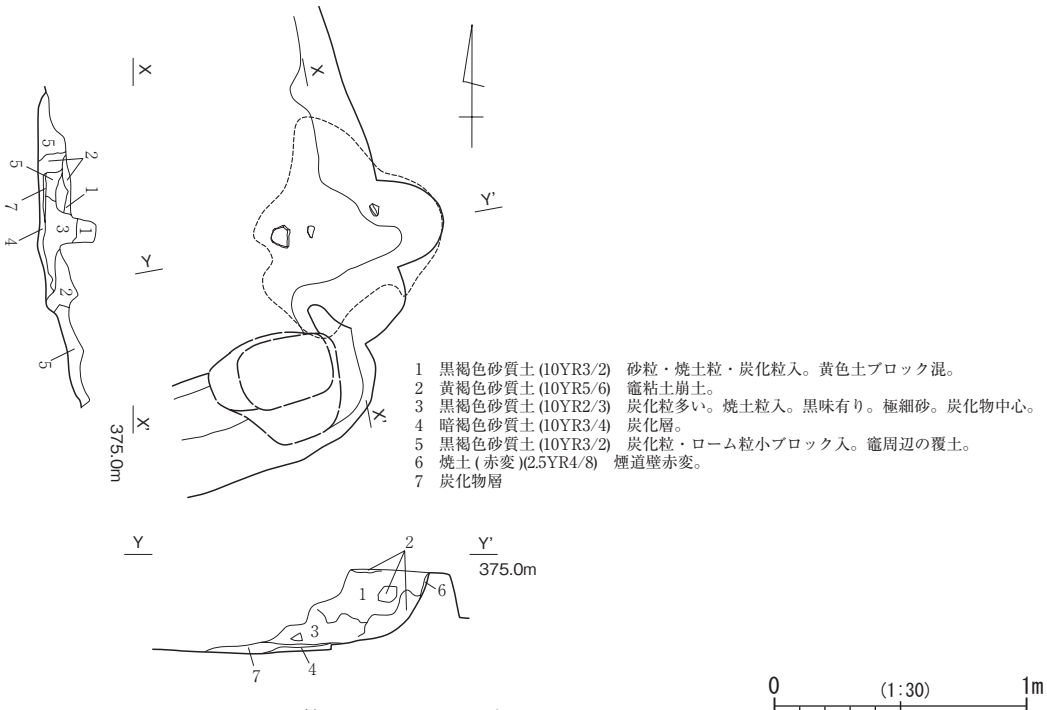
29号竪穴



29号竪穴遺物出土状況

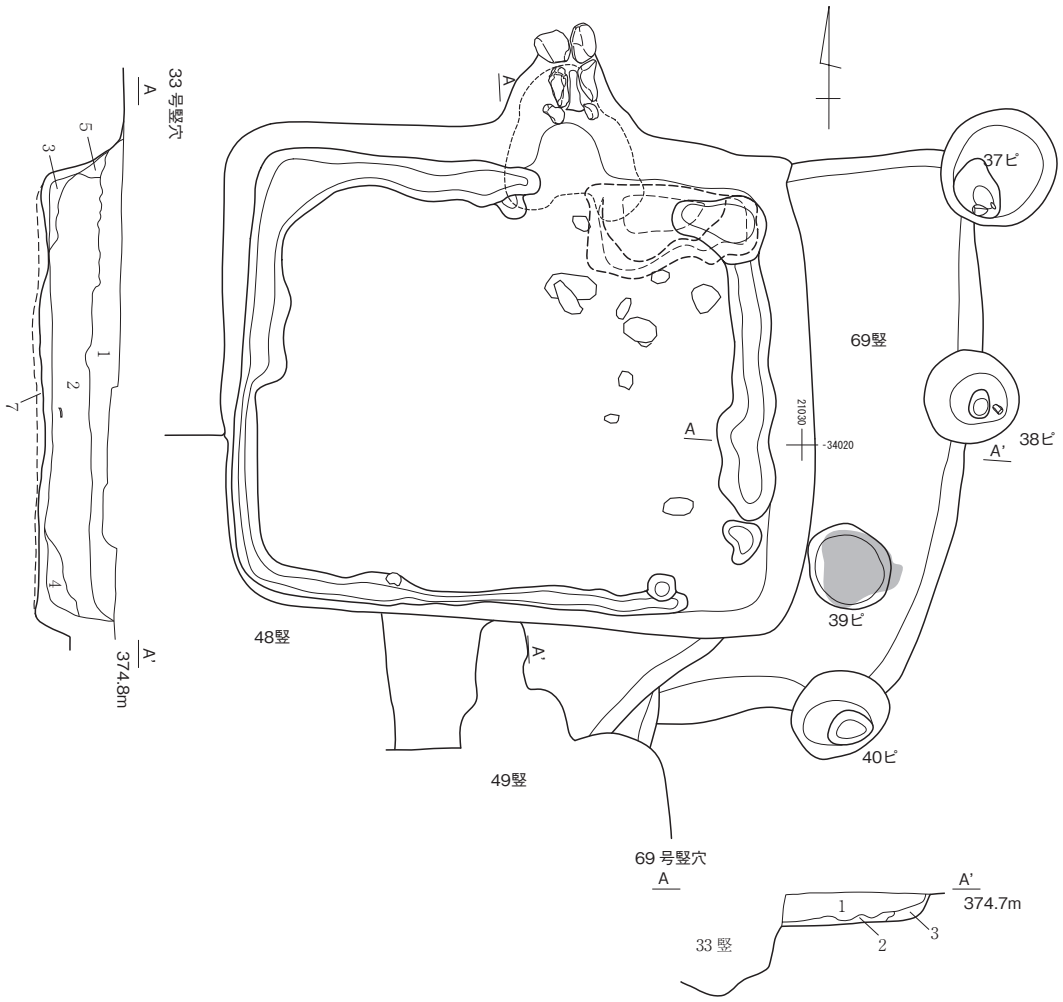


29号竪穴竈



第32図　29号竪穴

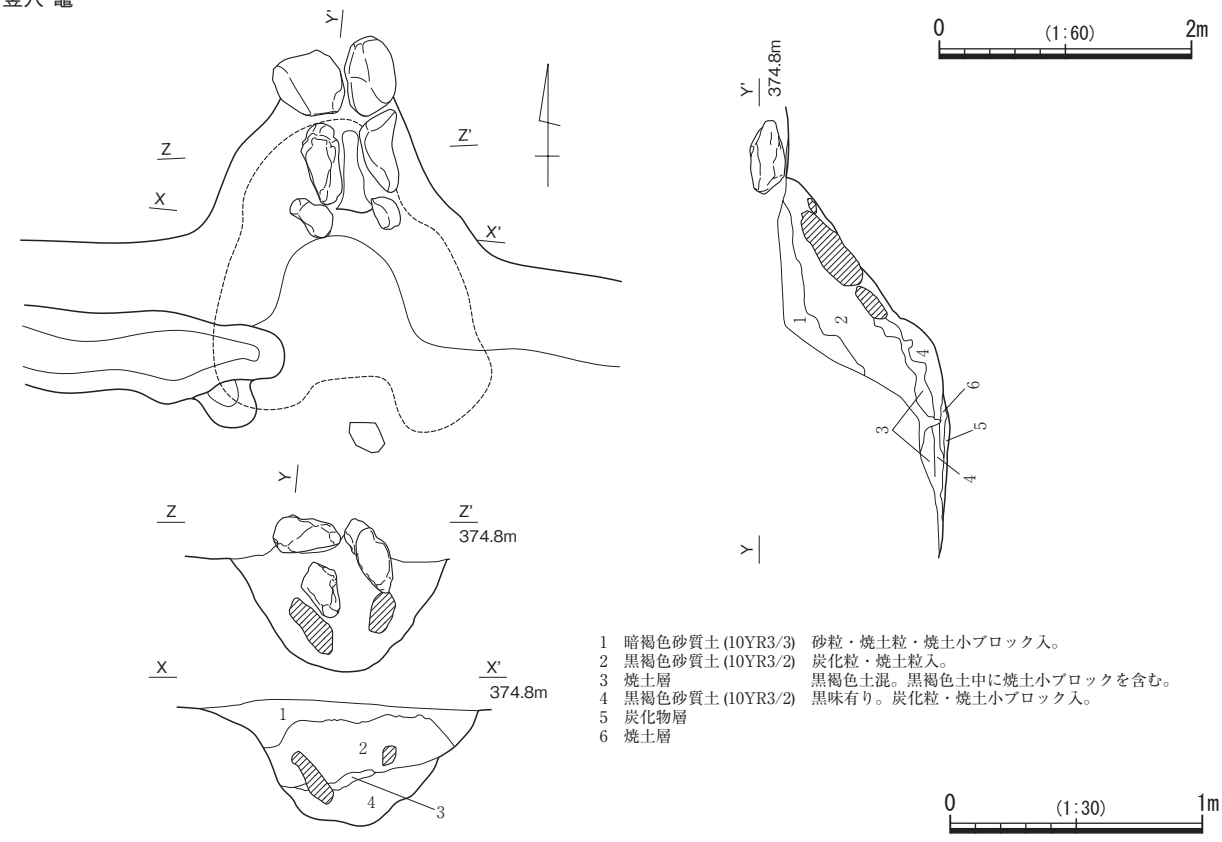
33・69号竪穴



1 暗褐色砂質土 (10YR4/4)　土器片・炭化粒・焼土粒入。
2 暗褐色砂質土 (10YR3/4)　炭化物 (φ0.5cm) やや多い。褐色粒・焼土粒・焼土小ブロック入。中～下層に土器片やや多い。
　極細砂。1 層とほとんど同じ。灰黄褐色砂質土小ブロックやや多い。
3 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　壁崩土か。
4 暗褐色砂質土 (10YR3/3)＋焼土小ブロック　φ0.5 ～ 1cm 大の焼土小ブロックやや多い。炭化物入。
5 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗い砂粒を含む。地山か。一部掘り過ぎ。
6 黒褐色砂質土 (10YR3/2)
7 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・炭化粒入。

1 暗褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土粒・炭化粒・焼土小ブロック・砂粒入。
2 暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや粗粒。地山直上。
3 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　やや粗粒。壁崩土。

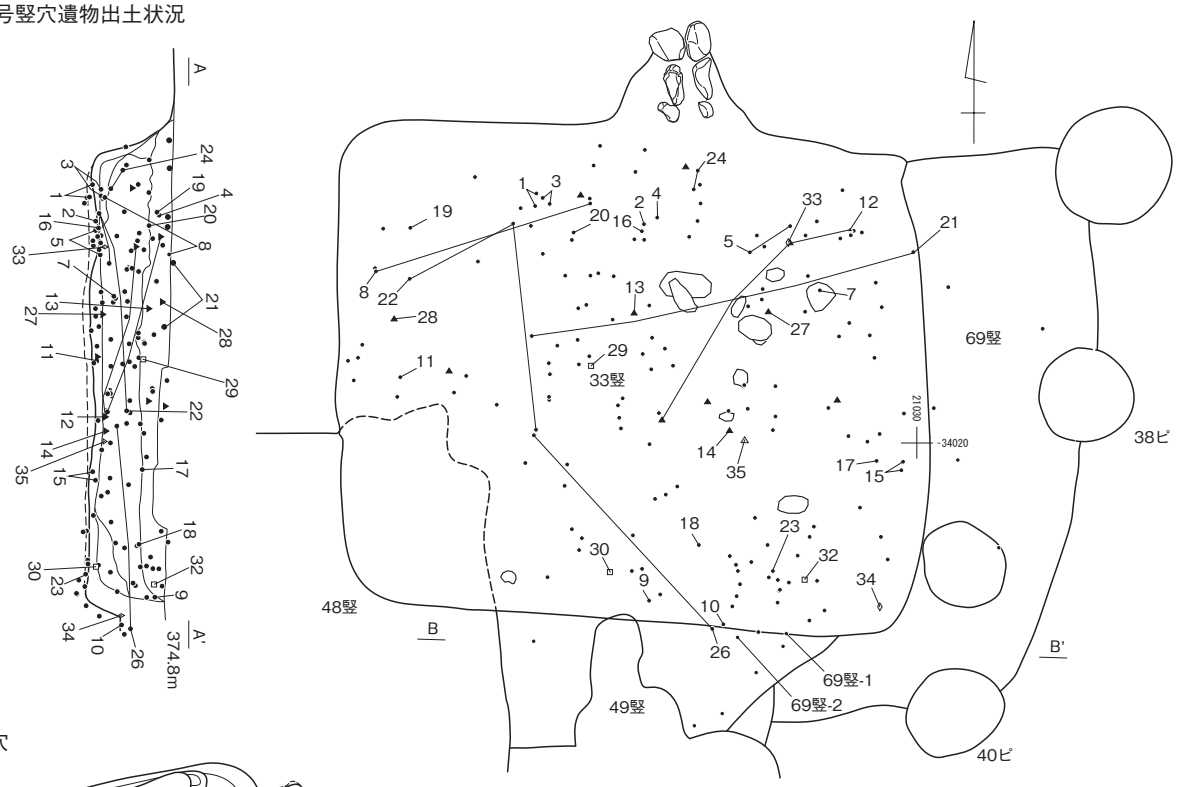
33 号竪穴 竈



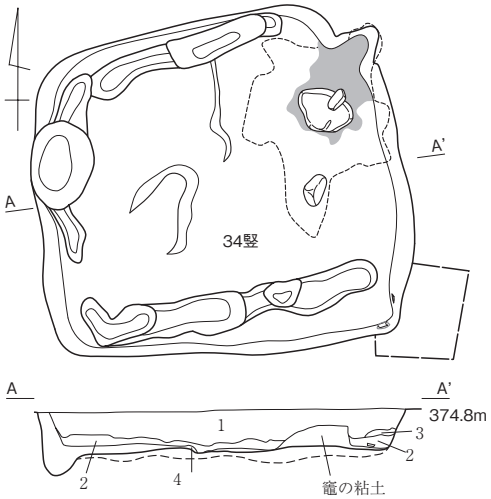
1 暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒・焼土粒・焼土小ブロック入。
2 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。
3 焼土層　黒褐色土混。黒褐色土中に焼土小ブロックを含む。
4 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。炭化粒・焼土小ブロック入。
5 炭化物層
6 焼土層

第33図　33・69号竪穴（1）

33・69号竪穴遺物出土状況

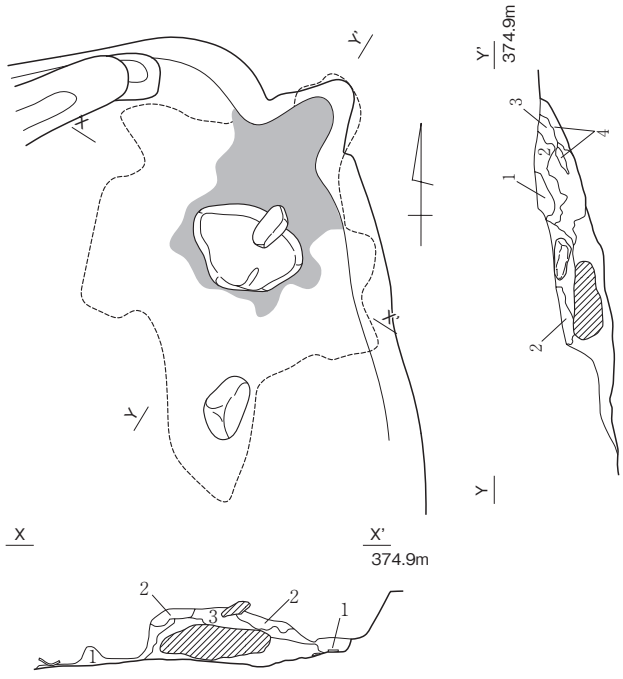


34号竪穴



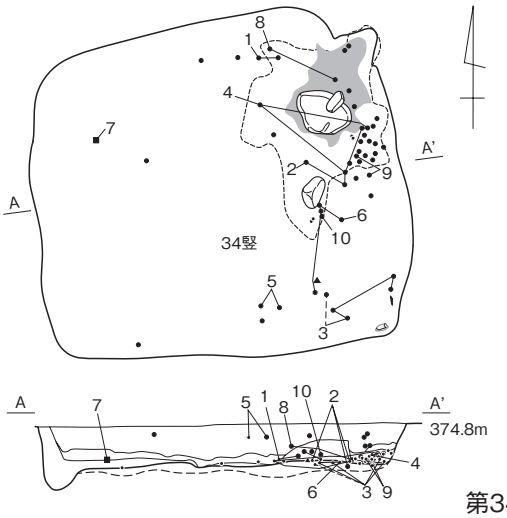
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・焼土粒・砂粒入。極細砂粒。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　極細砂粒。灰白色砂質土・褐色土小ブロックやや多い。炭化物層有り。
3　黄褐色土 (10YR5/6)　竈周辺の粘土。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　炭化物を多く含む砂層。やや粗粒。

34 号竪穴 竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黄色土ブロック入。
2　黄褐色土 (10YR5/6)　竈崩土。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・炭化粒入。焼土小ブロックやや多い。
4　赤褐色土 (焼土)　煙道被熱。

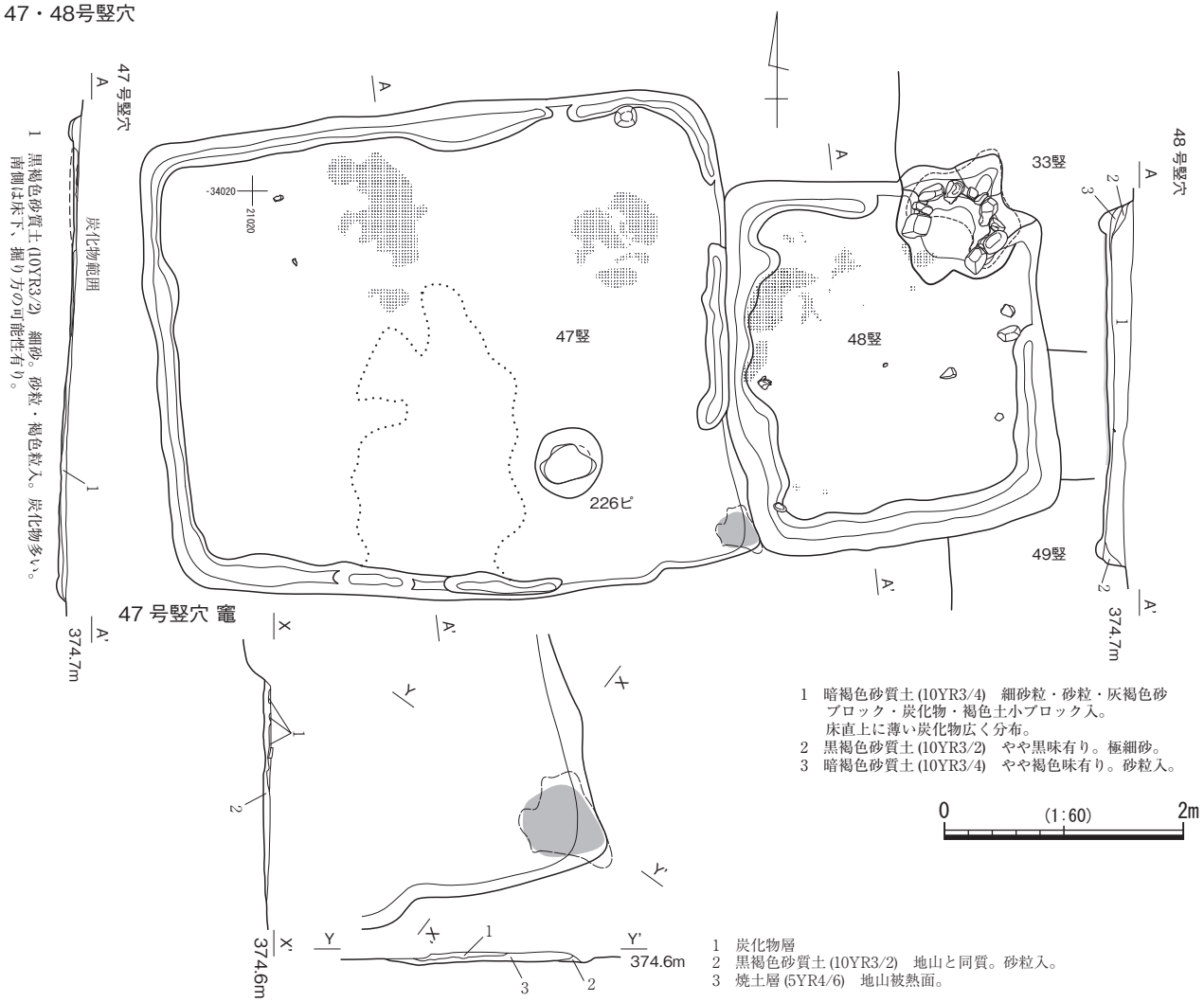
34号竪穴遺物出土状況



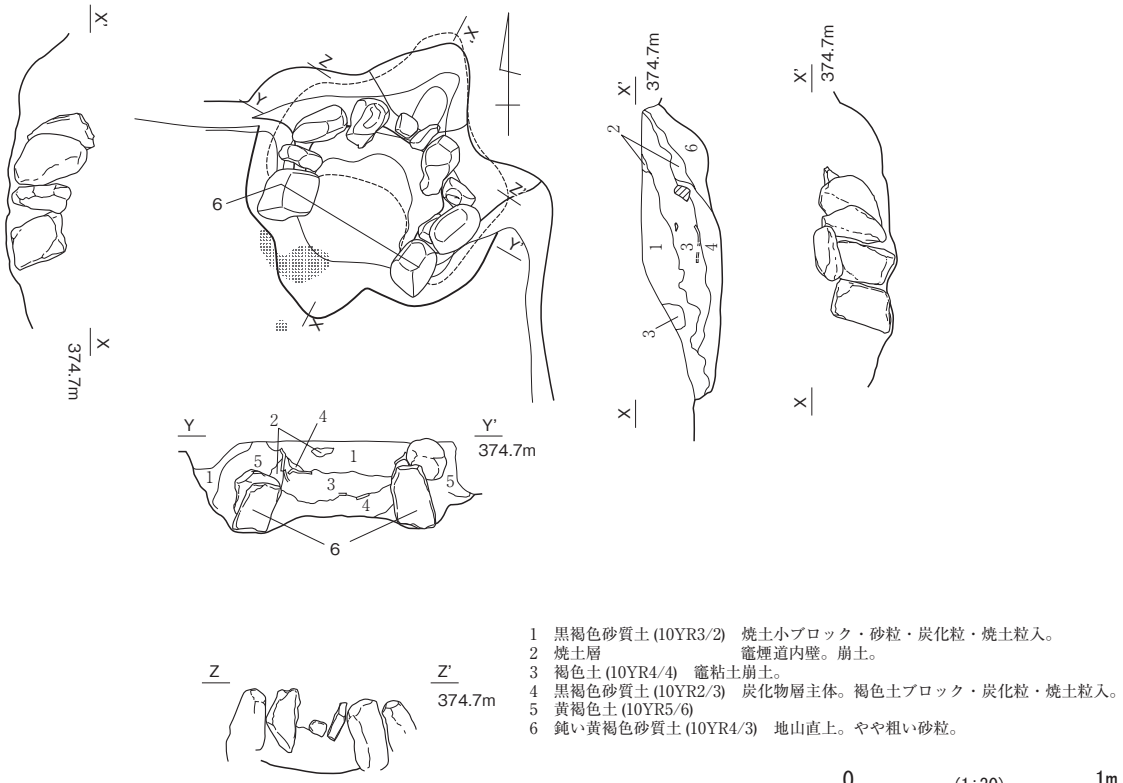
0　(1:30)　1m

第34図　33・69号竪穴（2）

47・48号竪穴

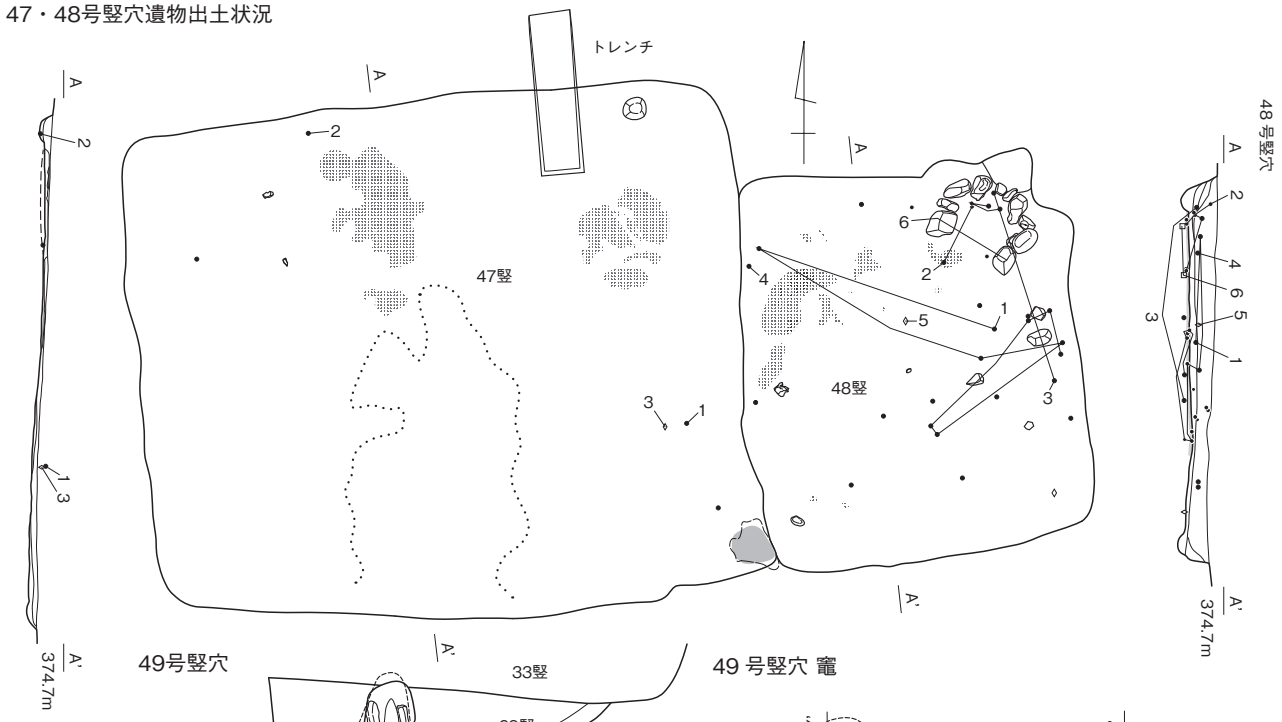


48 号竪穴 竈

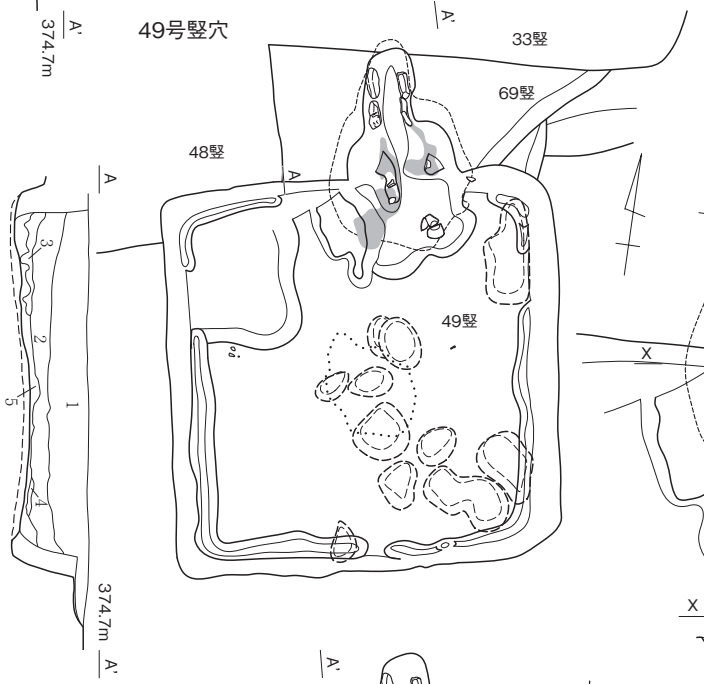


第35図　47・48号竪穴（1）

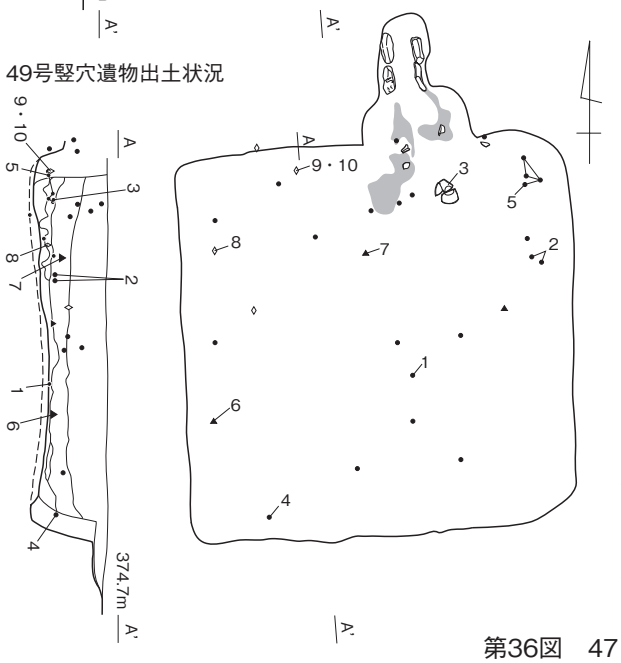
47・48号竪穴遺物出土状況



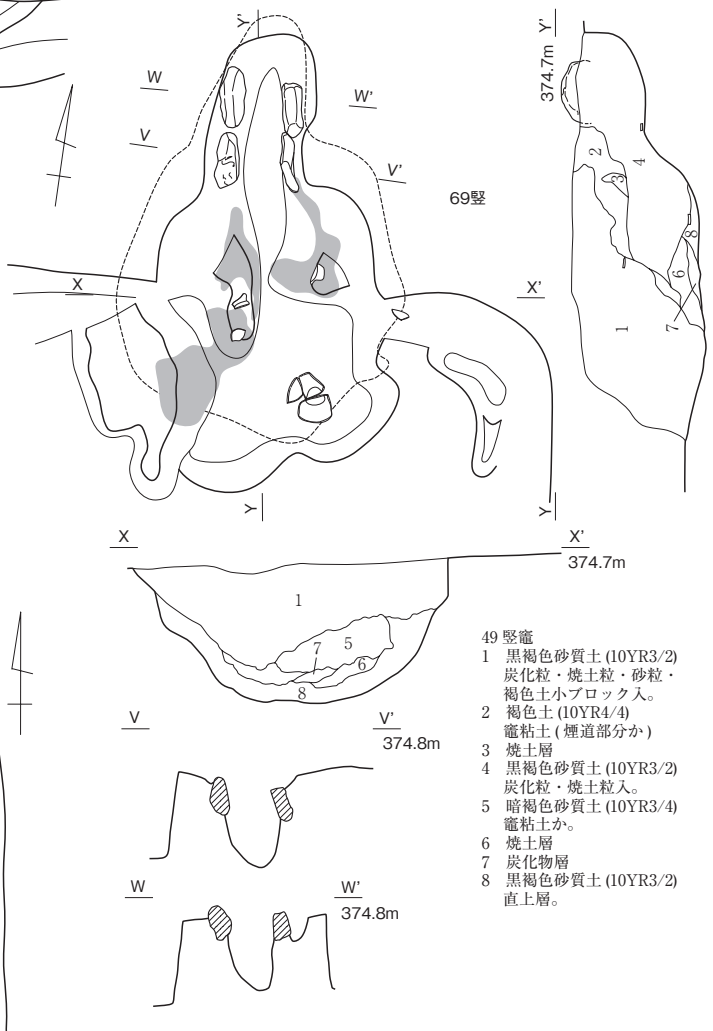
49号竪穴



49号竪穴遺物出土状況



49号竪穴 竈

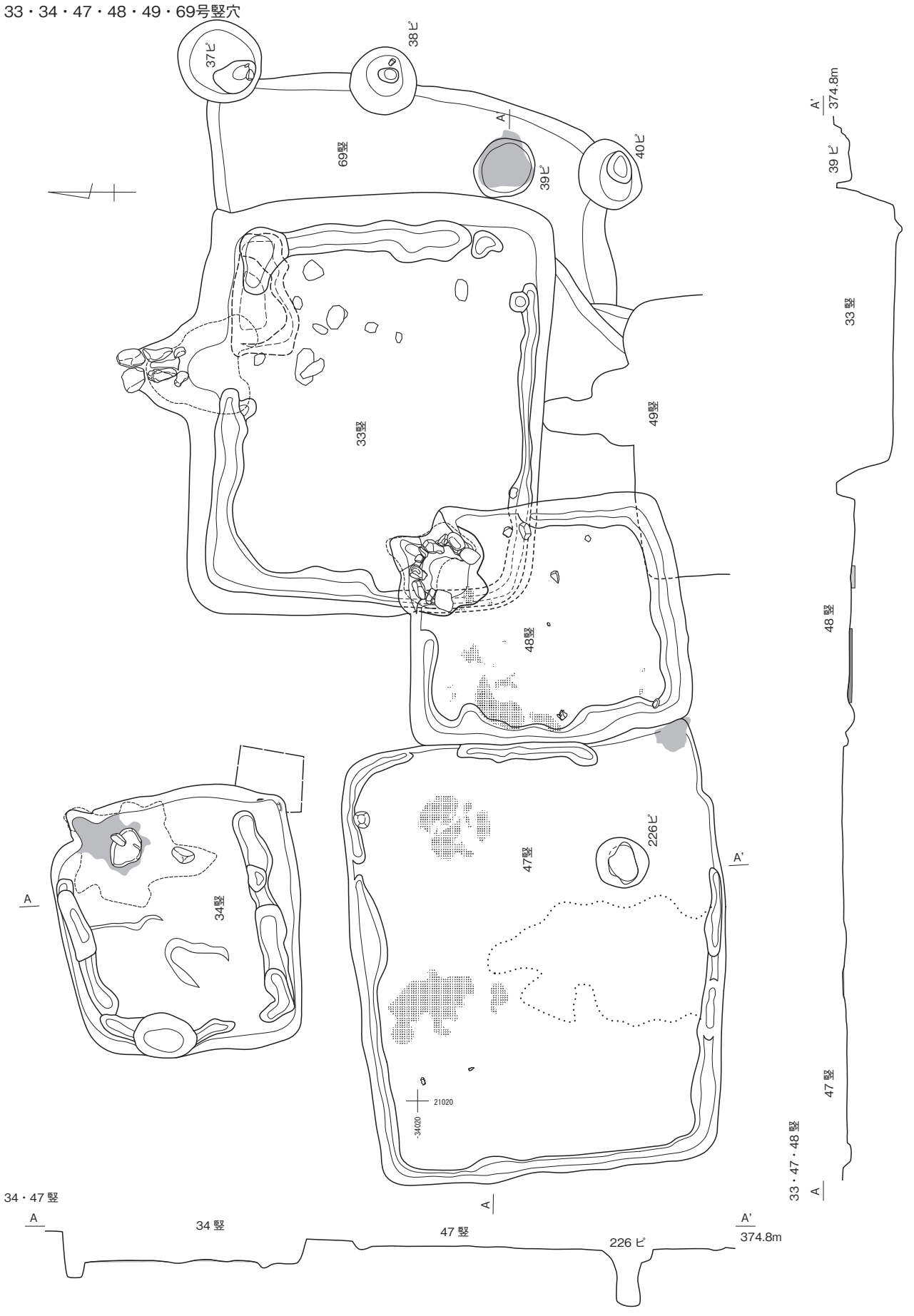


49竪竈
1　黒褐色砂質土(10YR3/2)
炭化粒・焼土粒・砂粒・
褐色土小ブロック入。
2　褐色土(10YR4/4)
竈粘土(煙道部分か)
3　焼土層
4　黒褐色砂質土(10YR3/2)
炭化粒・焼土粒入。
5　暗褐色砂質土(10YR3/4)
竈粘土か。
6　焼土層
7　炭化物層
8　黒褐色砂質土(10YR3/2)
直上層。

49竪
1　黒褐色砂質土(10YR3/2)　焼土粒・炭化粒・細粒・砂粒・灰褐色小ブロック入。
2　黒褐色砂質土(10YR2/3)　1層より黒味有り。極細砂・砂粒
(1層よりは少ない)・褐色粒入。
3　暗褐色砂質土(10YR3/4)　灰褐色ブロックを主とする。極細砂。
4　褐色砂質土(10YR4/4)　極細砂。3層類似。
5　暗褐色砂質土(10YR3/3)　壁際はやや黒味強い。極細砂。

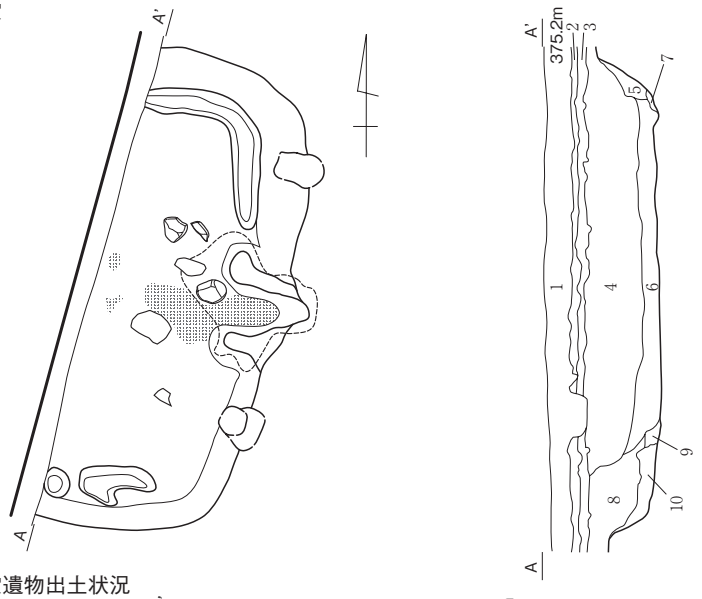
0　(1:60)　2m

第36図　47・48号竪穴(2)



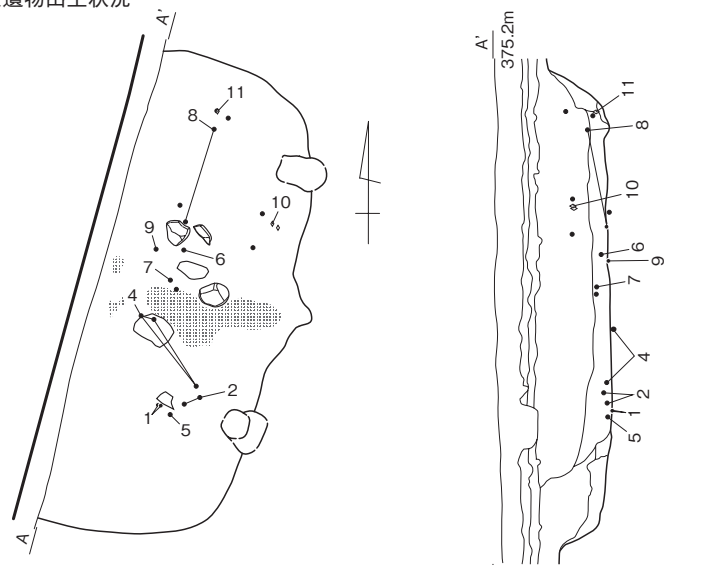
第37図　33・34・47～49・69号竪穴

35号竪穴



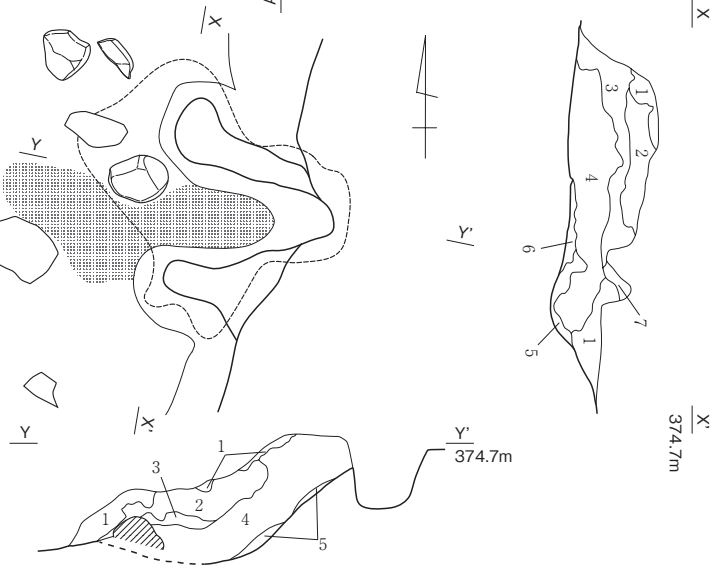
1 暗褐色砂質土(10YR3/3) 耕作土。
2 褐色砂質土(10YR4/6) 水田の止水層。
3 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3) 2層と4層の中間層。黄色のサビが薄く付着する。
4 暗褐色砂質土(10YR3/3) 砂粒・灰黄褐色砂小ブロック・炭化粒・褐色粒入。
5 黒褐色砂質土(10YR2/2) 壁際。黒色味強い。やや粗い砂粒。
6 黒褐色砂質土(10YR3/2) 炭化物やや多い。黒味有り。細砂粒。
7 灰黄褐色砂質土(10YR5/2) 地山の崩土か。粗粒砂。
8 黒褐色砂質土(10YR3/2) 砂粒やや多い。炭化粒・褐色粒入。
9 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 極細砂の地山砂土。
10 黒褐色砂質土(10YR2/3) やや粗粒。8・10層は掘り過ぎか。

35号竪穴遺物出土状況



0 (1:60) 2m

35 号竪穴 竈

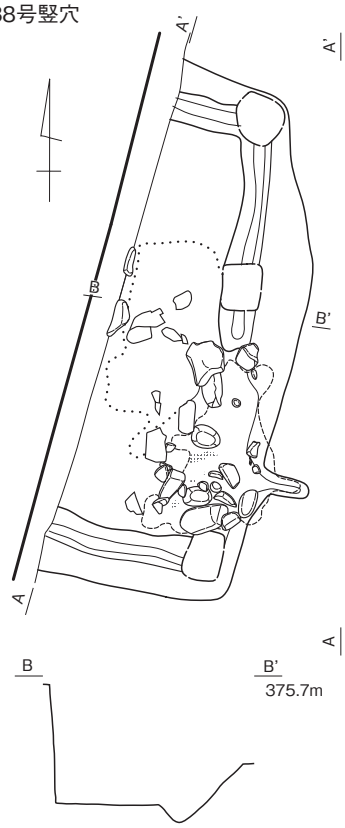


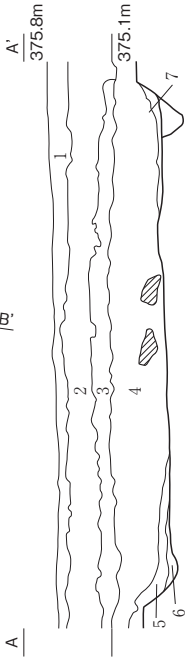
1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 炭化粒・焼土粒やや多い。ローム小ブロック(黄色土ブロック)多い。
2 褐色砂質土(10YR4/4) 竈粘土を主とする。
3 暗褐色砂質土(10YR3/3) 炭化粒・焼土粒入。
4 赤褐色砂質土(10YR4/8) 全体的に焼土ブロックを多く含む。
5 暗褐色砂質土(10YR3/2) 地山～地山直上。
6 炭化物層 焼土小ブロック混。
7 燈色土(5YR6/8) 焼土層 焼土ブロック主体。炭化粒入。竈粘土が被熱したもの。

0 (1:30) 1m

第38図 35号竪穴

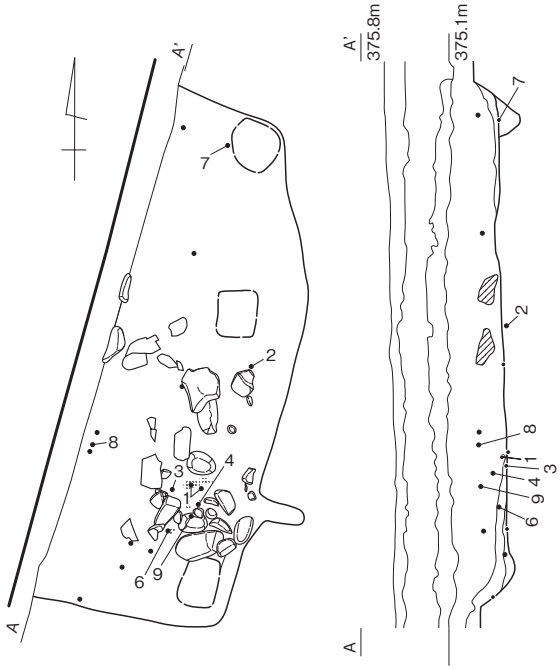
38号竪穴





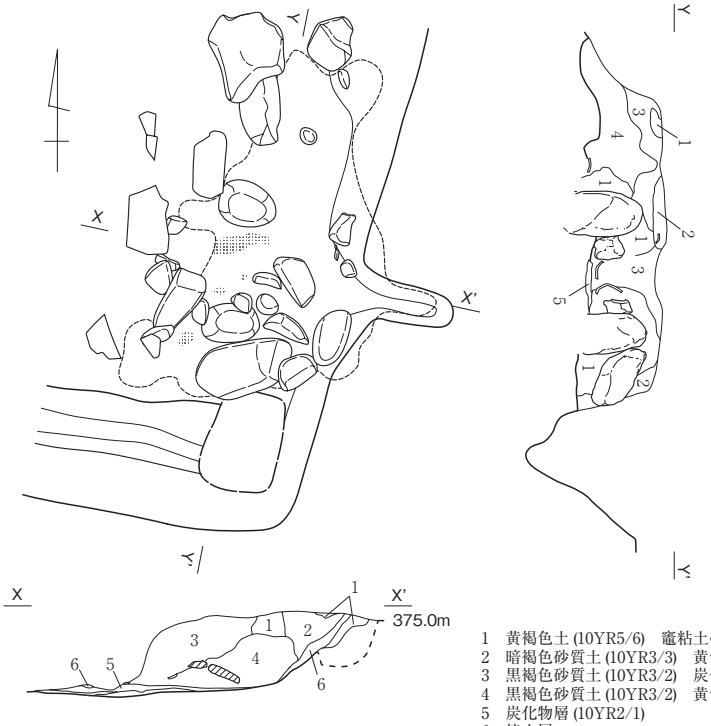
1 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 耕作土。砂粒・小礫入。
2 黄褐色砂質土 (10YR5/6) 旧水田止水層か。砂粒やや多い。炭化粒入。
3 暗褐色砂質土 (10YR3/4) サビ分が入る。炭化物・砂粒入。
4 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 炭化粒 (0.2cm)・褐色小ブロック・砂粒・灰黄褐色小ブロック入。
5 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 暗色。極細粒。炭化粒入。
6 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 極細粒。壁崩土か。
7 暗褐色砂質土 (10YR3/4) やや暗色。壁際。灰黄褐色小ブロック入。

38号竪穴遺物出土状況



0 (1:60) 2m

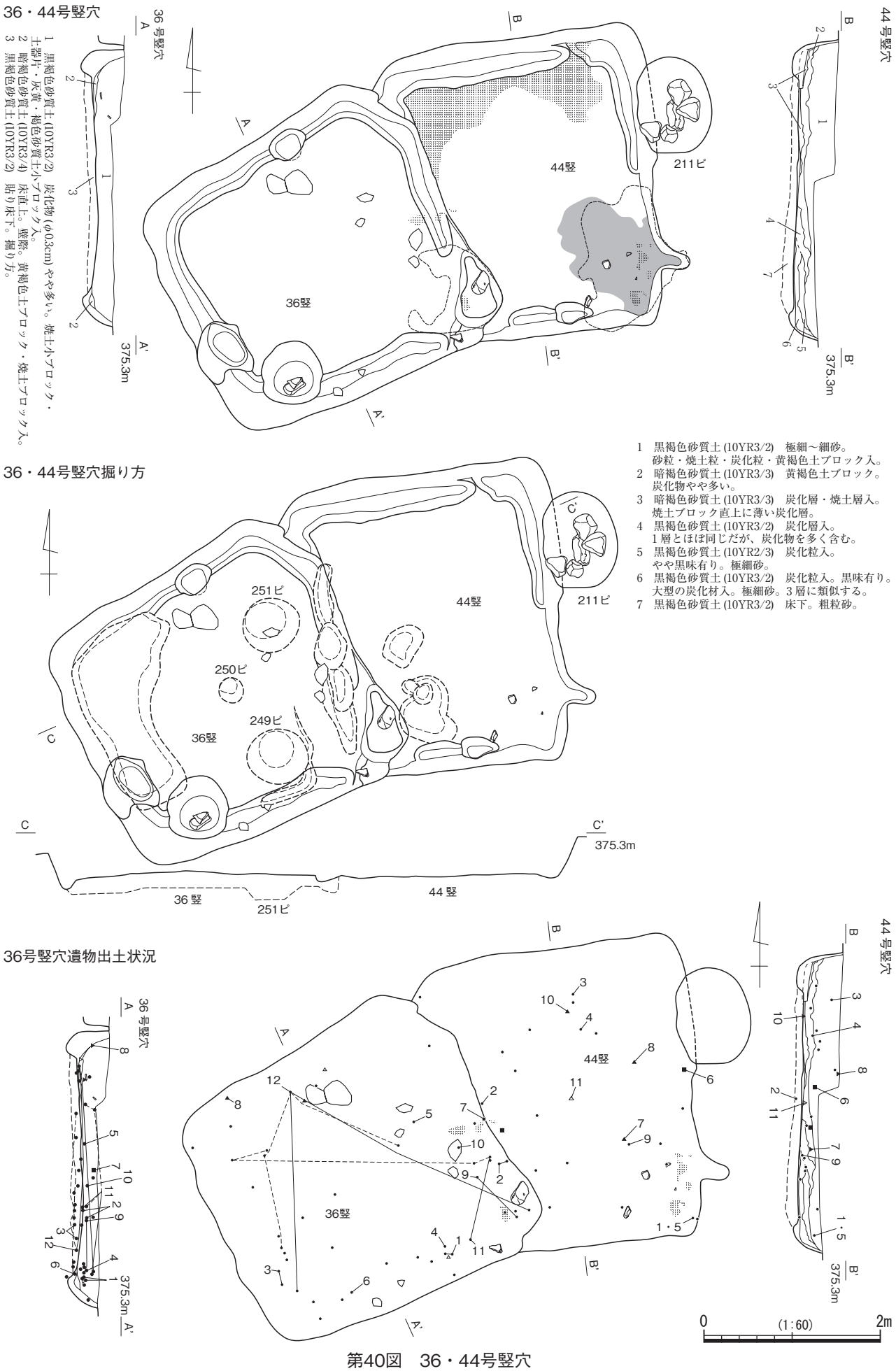
38 号竪穴 竈



1 黄褐色土 (10YR5/6) 竈粘土の崩土。袖石に貼り付けた粘土。
2 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄色土ブロックやや多い。炭化粒やや多い。
3 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 炭化粒入。黄色土小ブロック少ない。
4 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 黄色土小ブロックやや多い。
5 炭化物層 (10YR2/1)
6 焼土層

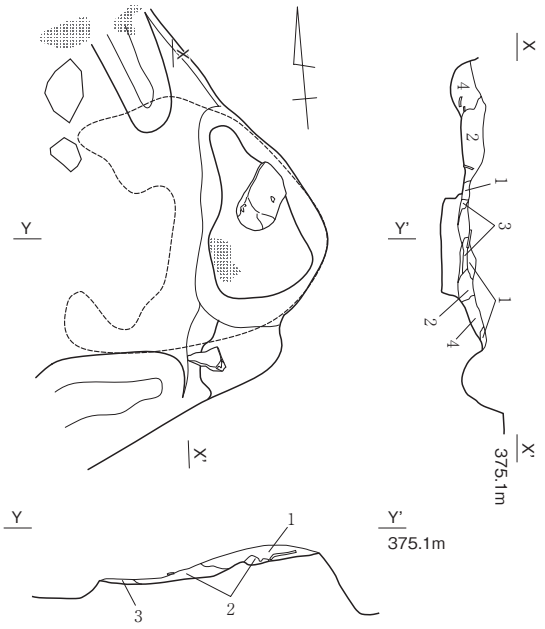
0 (1:30) 1m

第39図 38号竪穴



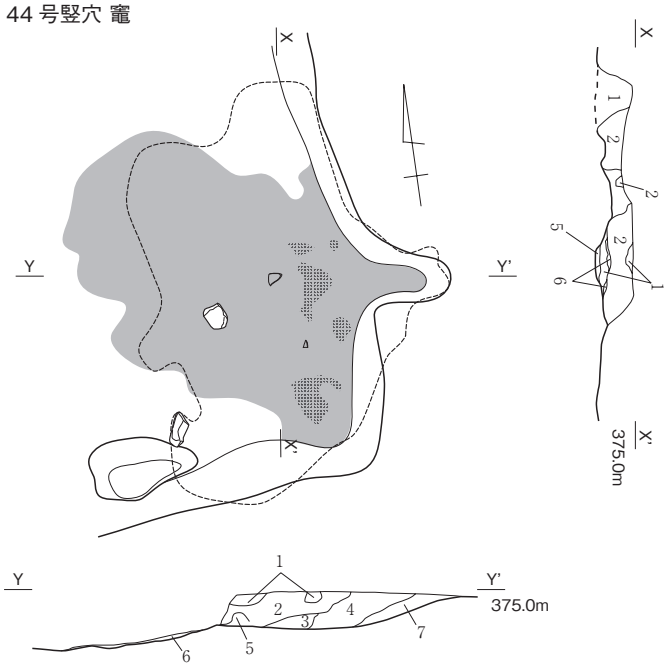
第40図　36・44号竪穴

36 号竪穴 竈



1　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈袖粘土及び崩土。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)+ 焼土小ブロック混土　焼土ブロック多い。
　炭化粒やや多い。黄色土小ブロック入。
3　炭化物層
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・ローム粒 (1 層) 入。

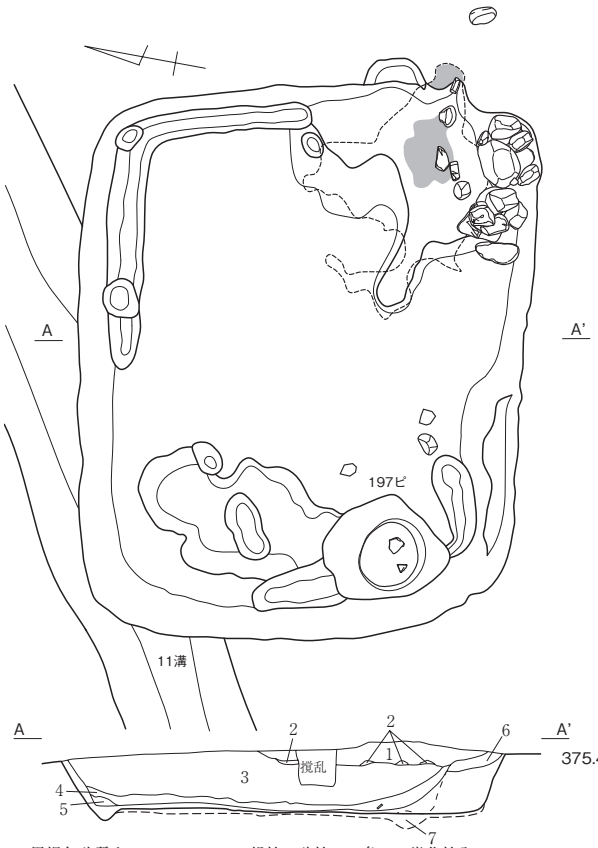
44 号竪穴 竈



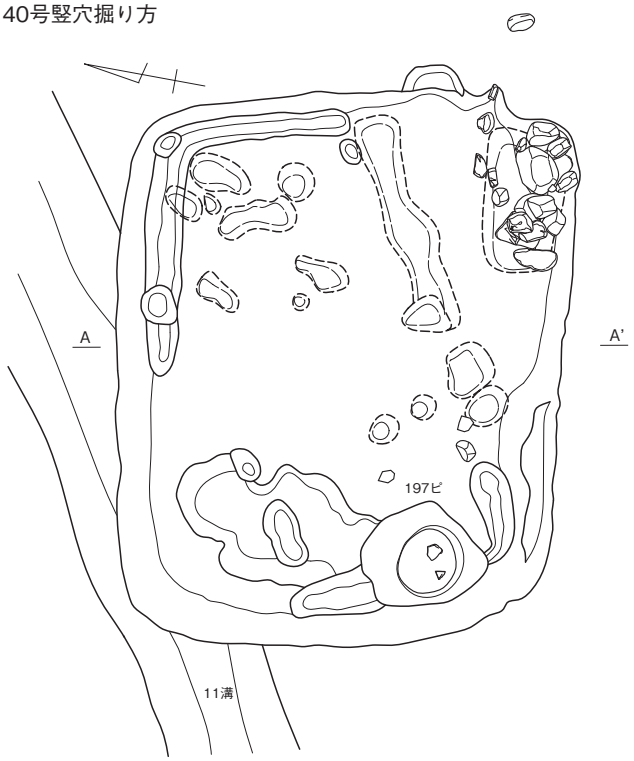
1　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈袖粘土及び崩土。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。ローム粒 (1 層) 入。
3　炭化物 + 焼土混土　炭化物主体。焼土小ブロック混。
4　暗褐色砂質土 (5YR3/4)　赤変した地山。
5　焼土層
6　炭化物層　薄い炭化物層。

0　(1:30)　1m

40号竪穴



40号竪穴掘り方

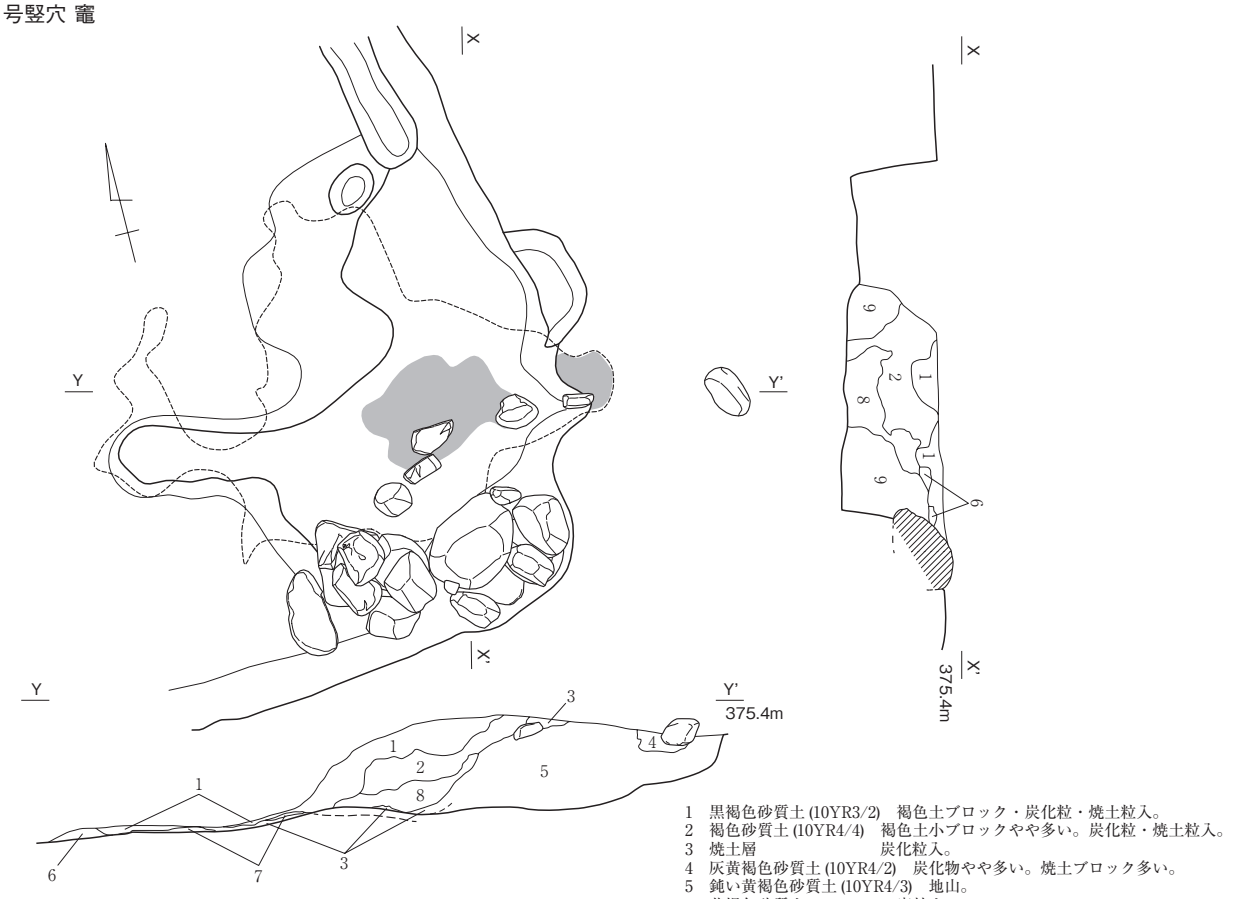


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗粒。砂粒やや多い。炭化粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　焼土粒を多く含む。焼土ブロック入。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂質ブロック・砂粒・炭化物入。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。炭化物・褐色土小ブロック入。3 層よりも暗色。
5　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　壁際崩土。極細砂。
6　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山崩土に近い。
7　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　掘り方。

0　(1:60)　2m

第41図　36・40・44号竪穴

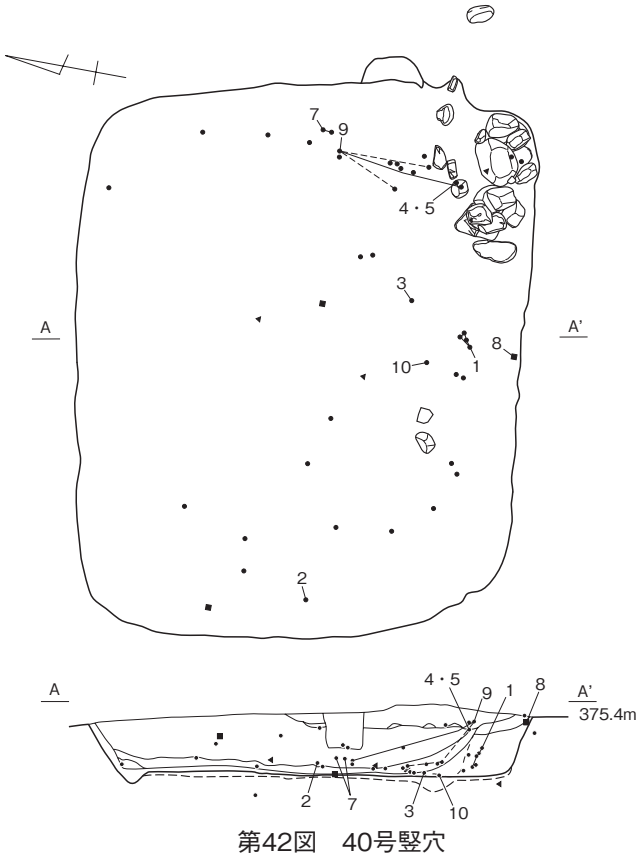
40 号竪穴 竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　褐色土ブロック・炭化粒・焼土粒入。
2　褐色砂質土 (10YR4/4)　褐色土小ブロックやや多い。炭化粒・焼土粒入。
3　焼土層　　炭化粒入。
4　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　炭化物やや多い。焼土ブロック多い。
5　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山。
6　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土。
7　炭化物層
8　鈍い赤褐色土 (5YR5/4)　焼土ブロック多い。炭化粒入。
9　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。

0　(1:30)　1m

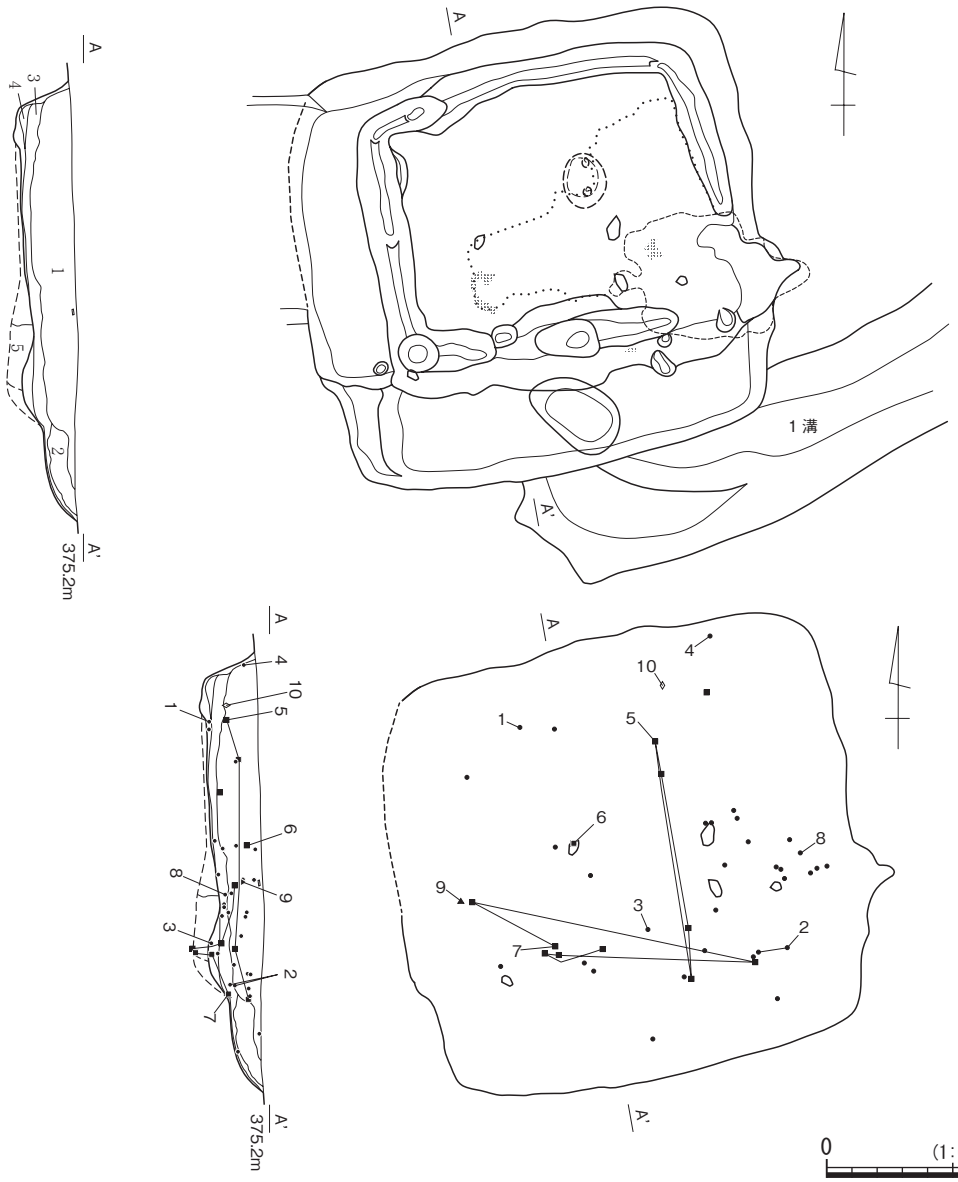
40号竪穴遺物出土状況



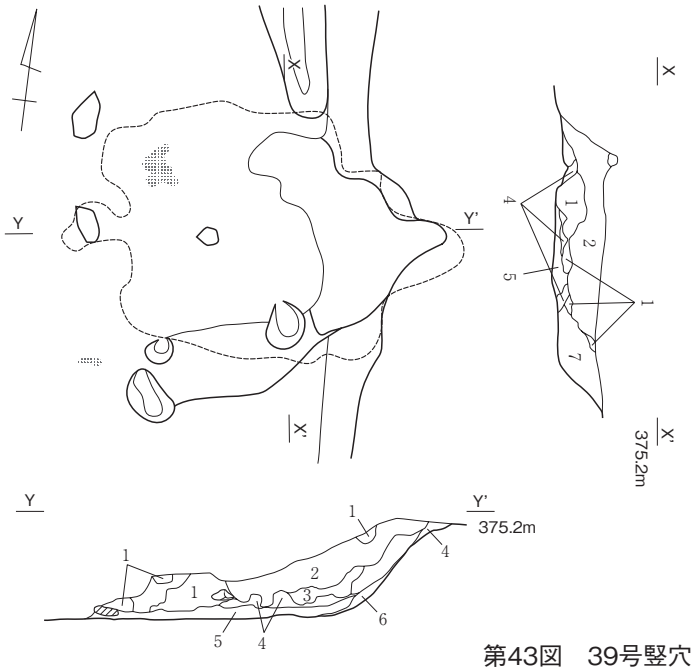
0　(1:60)　2m

第42図　40号竪穴

39 号竪穴

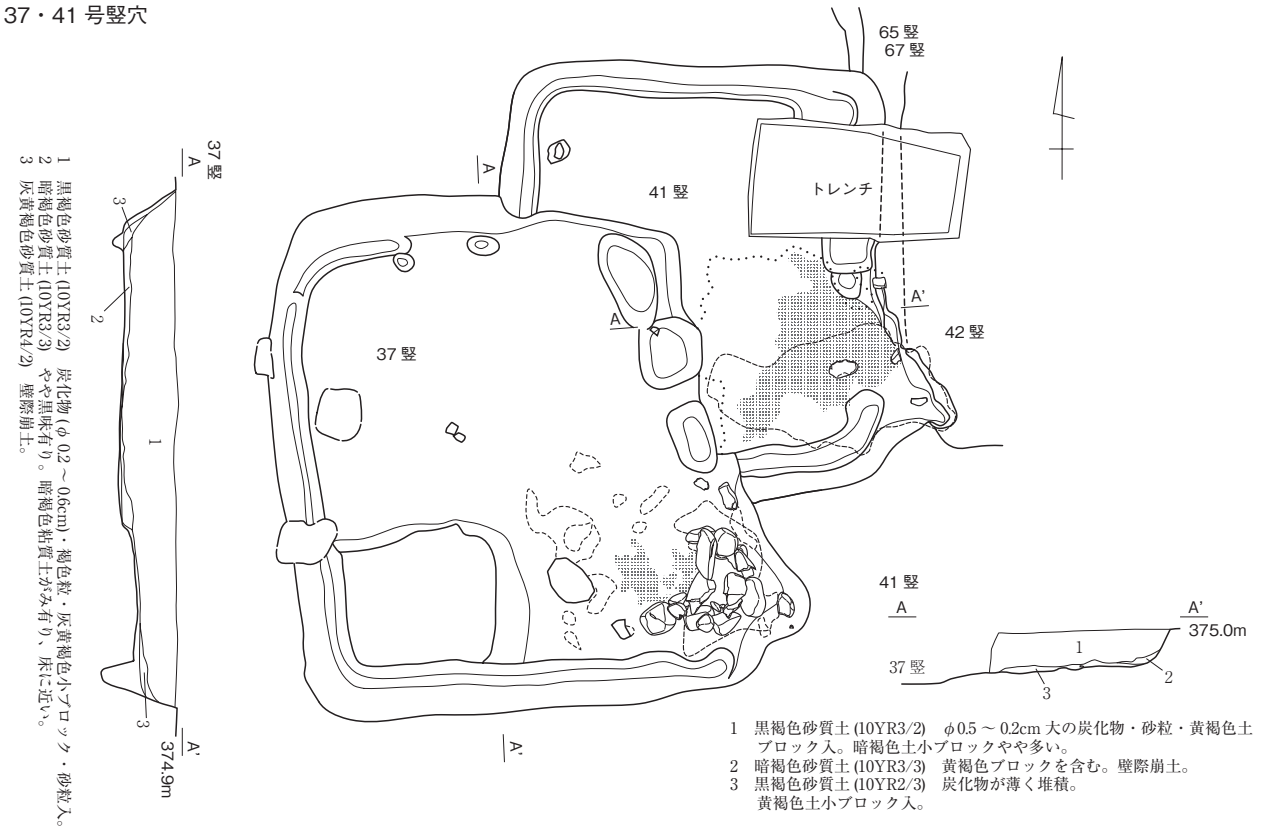


39 号竪穴 竈

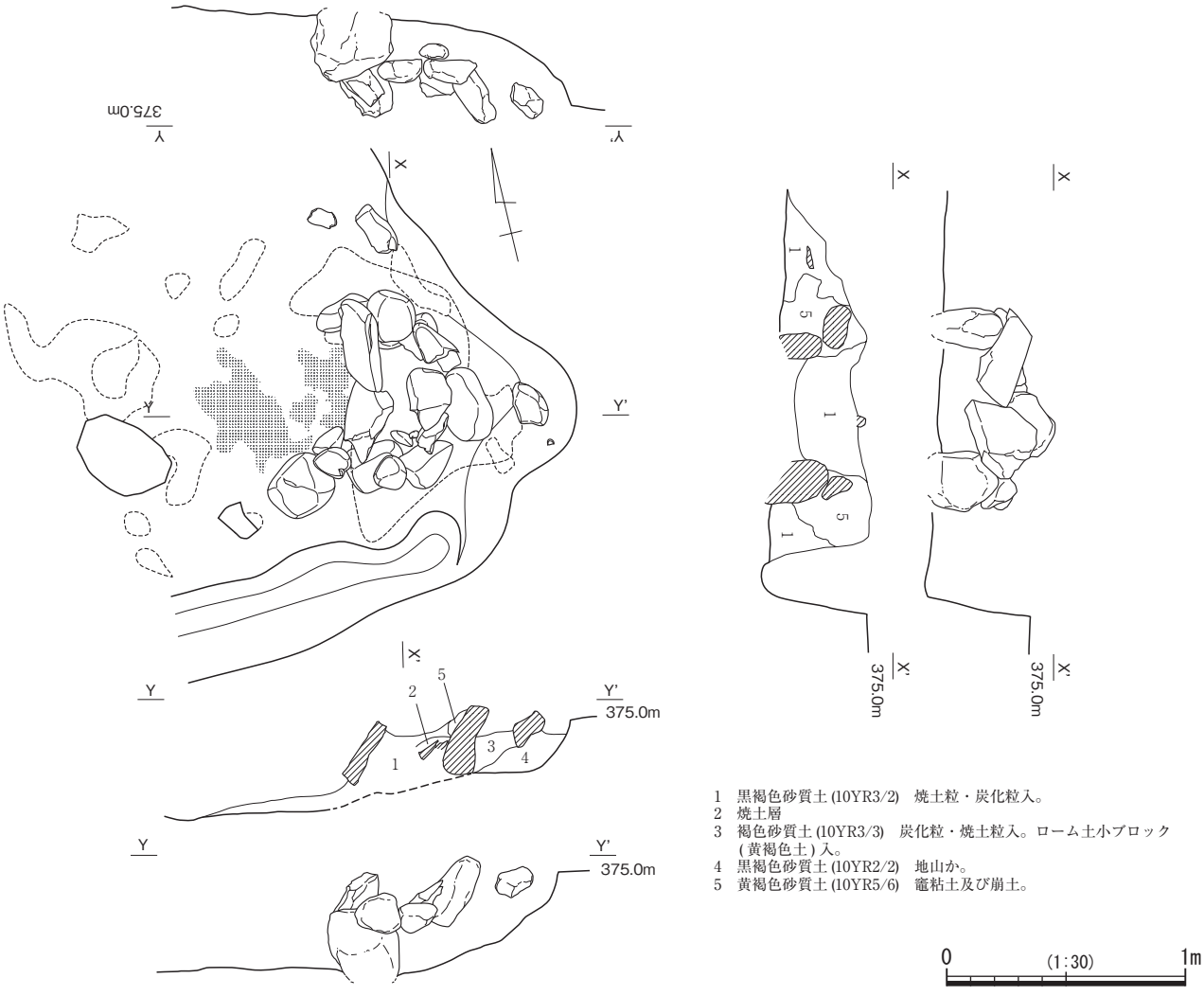


第43図　39号竪穴

37・41 号竪穴

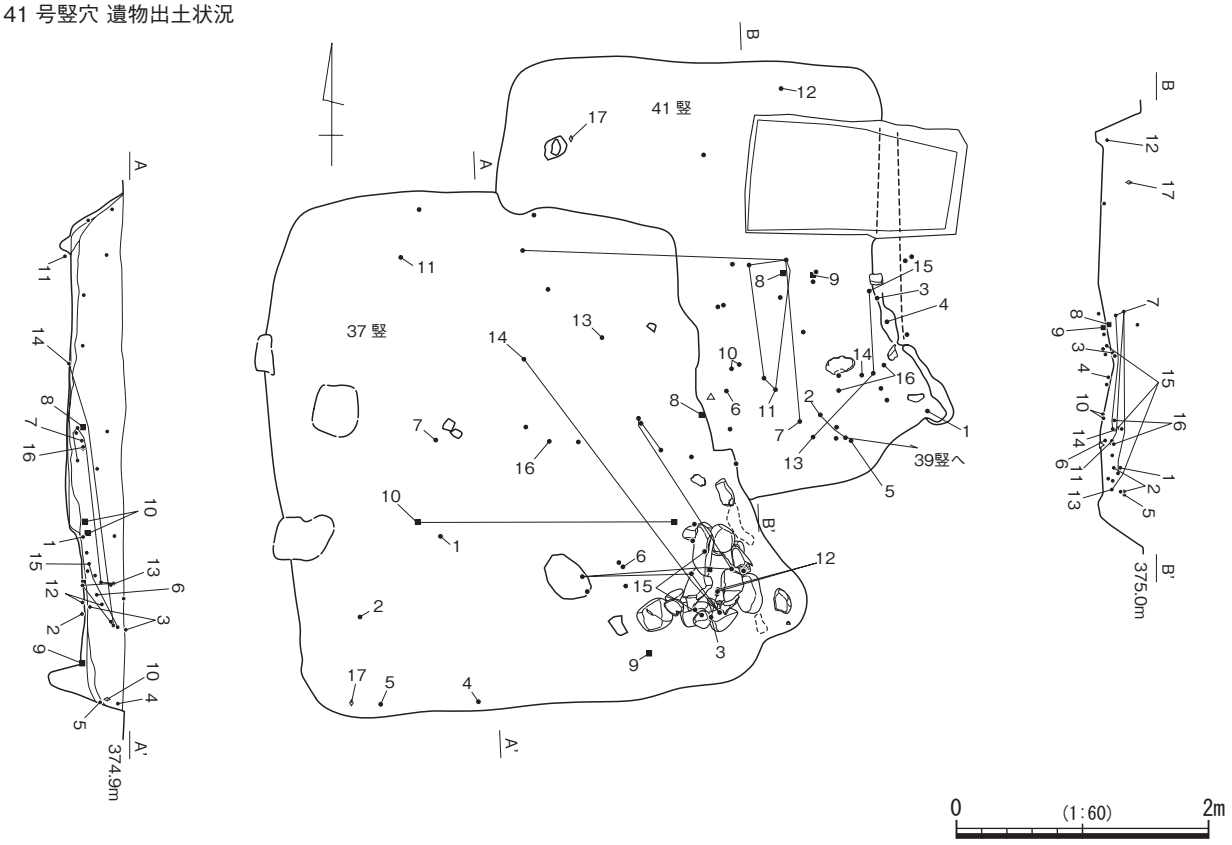


37 号竪穴 竈

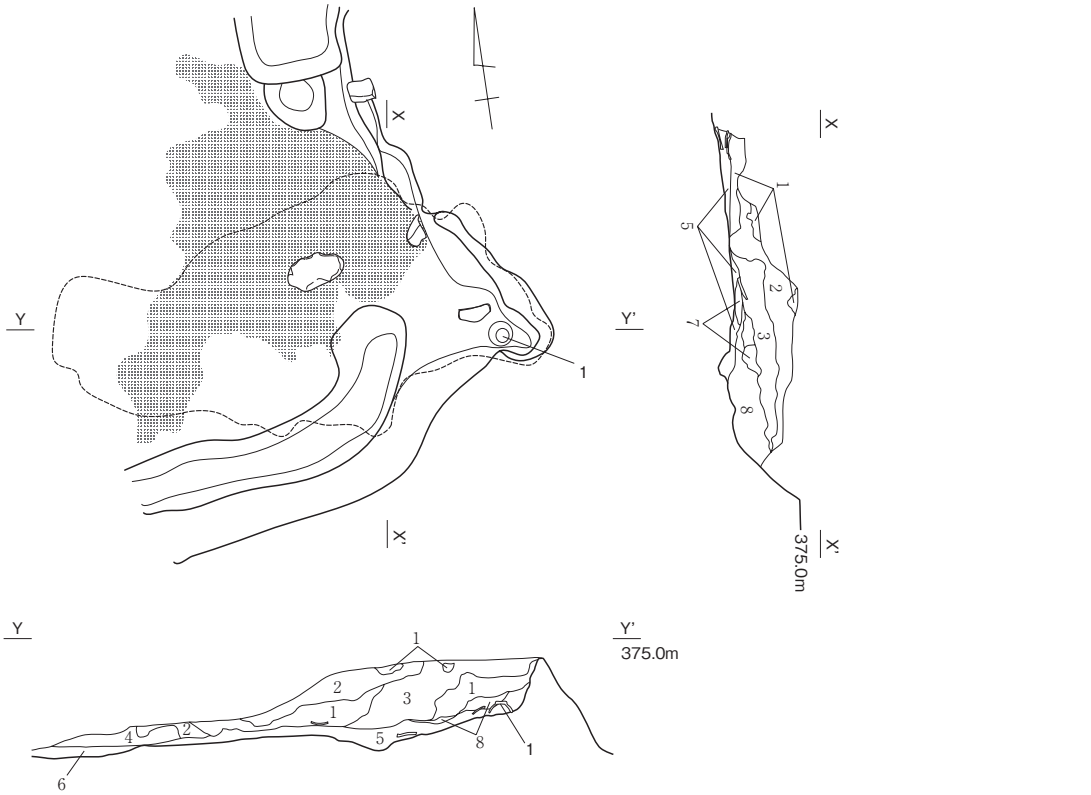


第44図　37・41号竪穴（1）

37・41 号竪穴 遺物出土状況



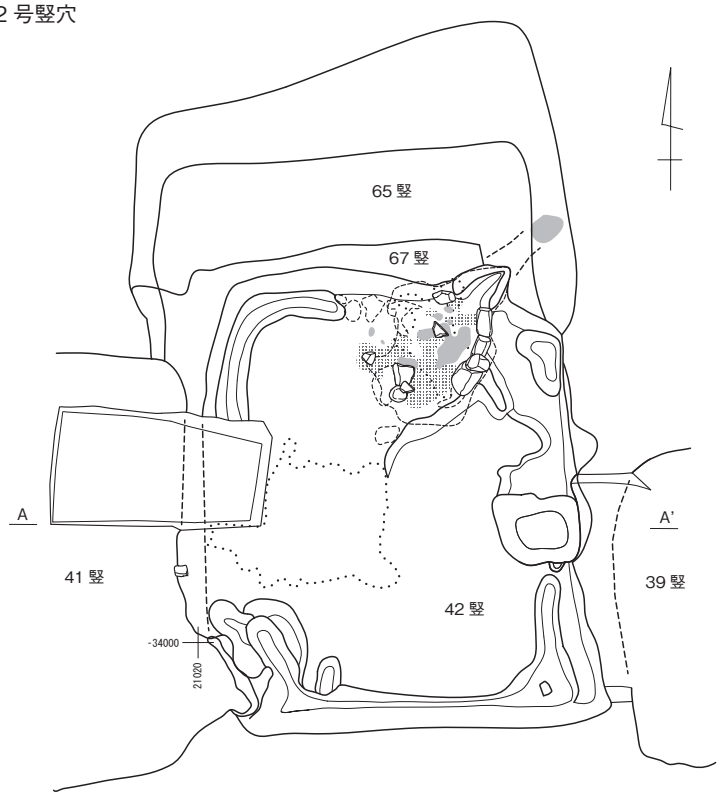
41 号竪穴 竈



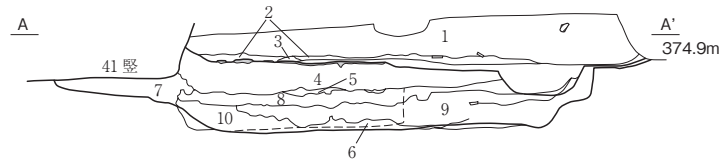
1　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土及びその崩土。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・黄褐色粒入。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロック・黄褐色小ブロックやや多い。炭化粒・焼土粒入。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)+ 黄褐色砂質土 (10YR5/6)　3 層とほぼ同じ。黄褐色ローム土多い。
5　炭化物層　　黄褐色ローム粒やや多い。
6　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山。硬い砂粒多い。
7　赤褐色砂質土 (2.5YR4/8)　焼土層
8　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・砂粒・黄褐色粒入。

第45図　37・41号竪穴（2）

42 号竪穴

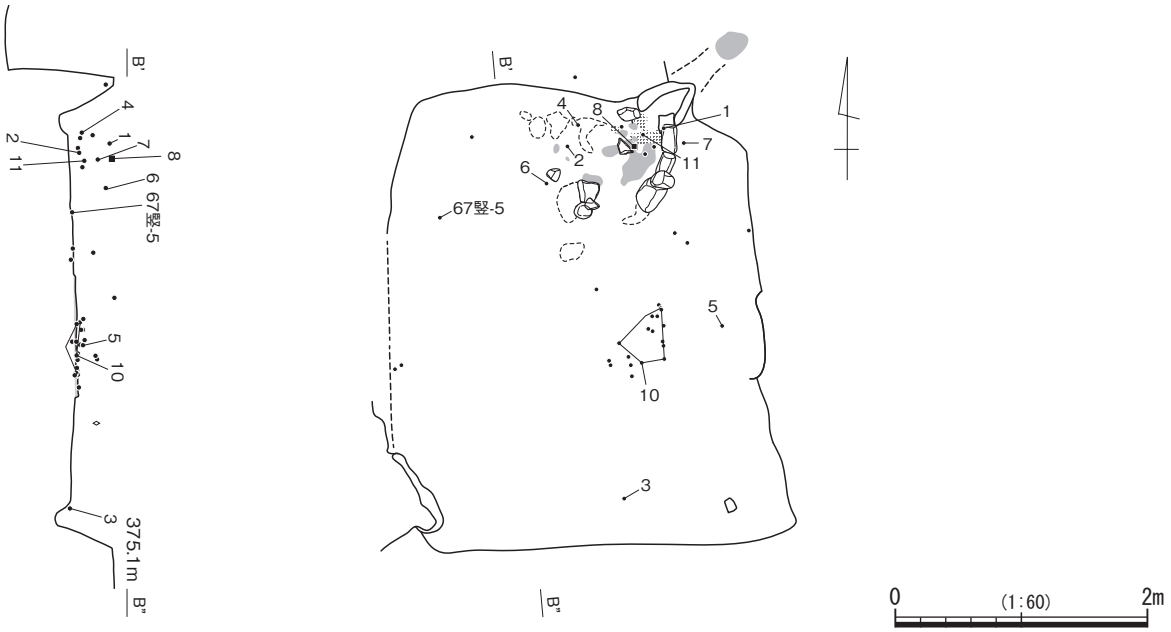


42・67 竪



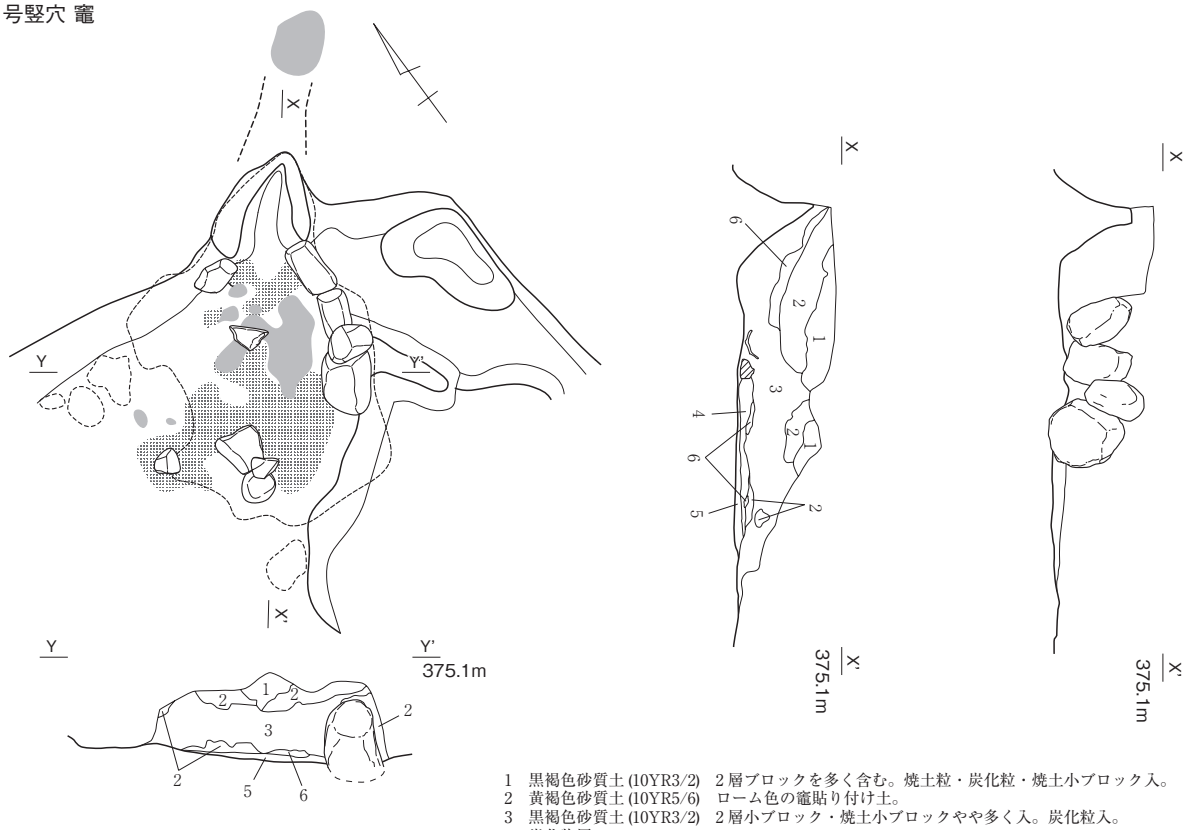
42・67 竪
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細粒・砂粒を含む。黄褐色土小ブロック・褐色粒・灰黄褐色小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細粒。1 層よりもより細かい。砂粒はない。
3　黄褐色土 (10YR5/6)　貼り床か。黄色土ブロック。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　65 竪の覆土上層。砂粒・白色砂粒・灰黄褐色砂質小ブロックを含む。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　貼り床 (黄褐色土) を主とした面。全面にはない。
6　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　灰黄褐色小ブロックを含む。5 層に類似。
7　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山の砂質土層。
8　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・砂粒・灰黄褐色砂質小ブロック入。
9　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂質ブロック多い。炭化粒入。やや粗粒。
10　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　壁際。黒味強い。灰褐色小ブロック入。

42 号竪穴 遺物出土状況



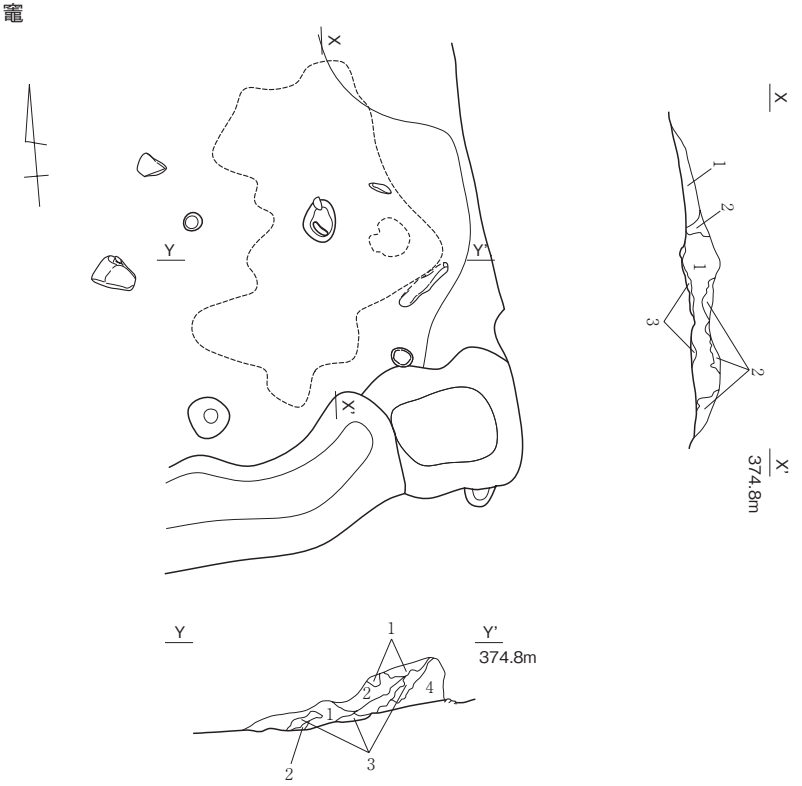
第46図　42号竪穴

42 号竪穴 竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　2 層ブロックを多く含む。焼土粒・炭化粒・焼土小ブロック入。
2　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　ローム色の竈貼り付け土。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　2 層小ブロック・焼土小ブロックやや多く入。炭化粒入。
4　炭化物層
5　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　地山直上。
6　焼土層

67 号竪穴 竈

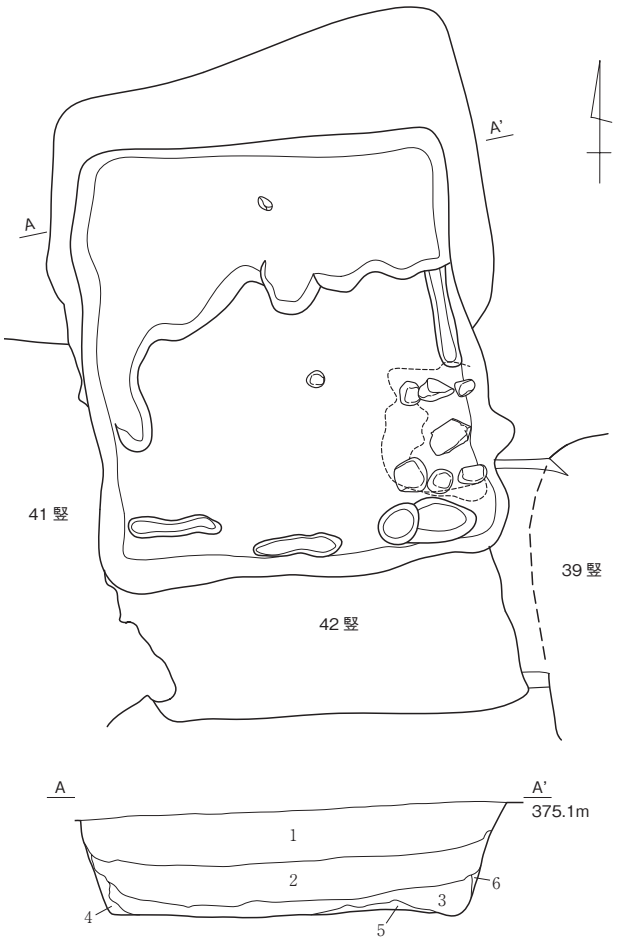


1　褐色砂質土 (10YR4/6)　砂粒入。竈粘土。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・ローム小ブロック・砂粒入。
3　焼土層　　焚口付近では焼土ブロック状を呈す。煙道部は壁被熱。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・褐色小ブロック入。極細砂。

0　(1:30)　1m

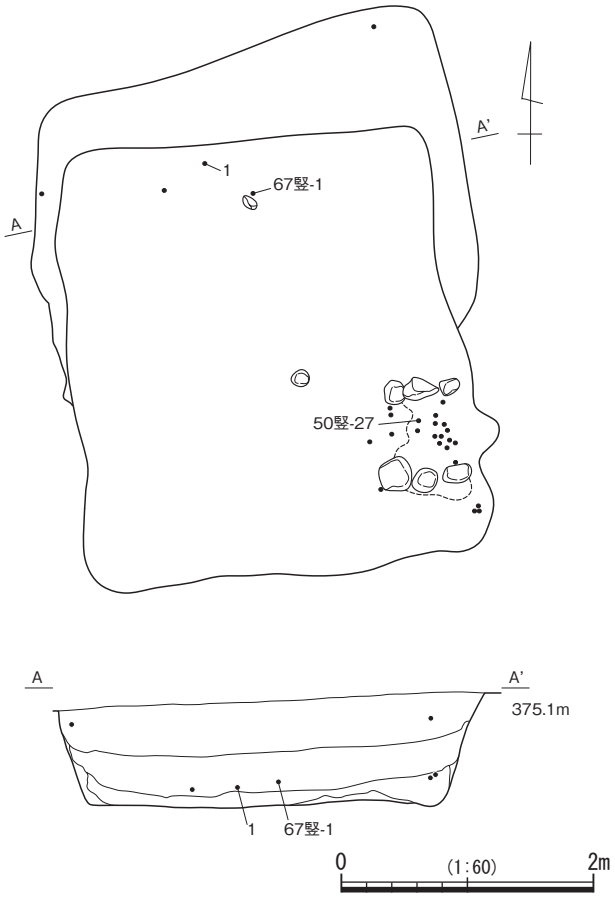
第47図　42・67号竪穴

65 号竪穴

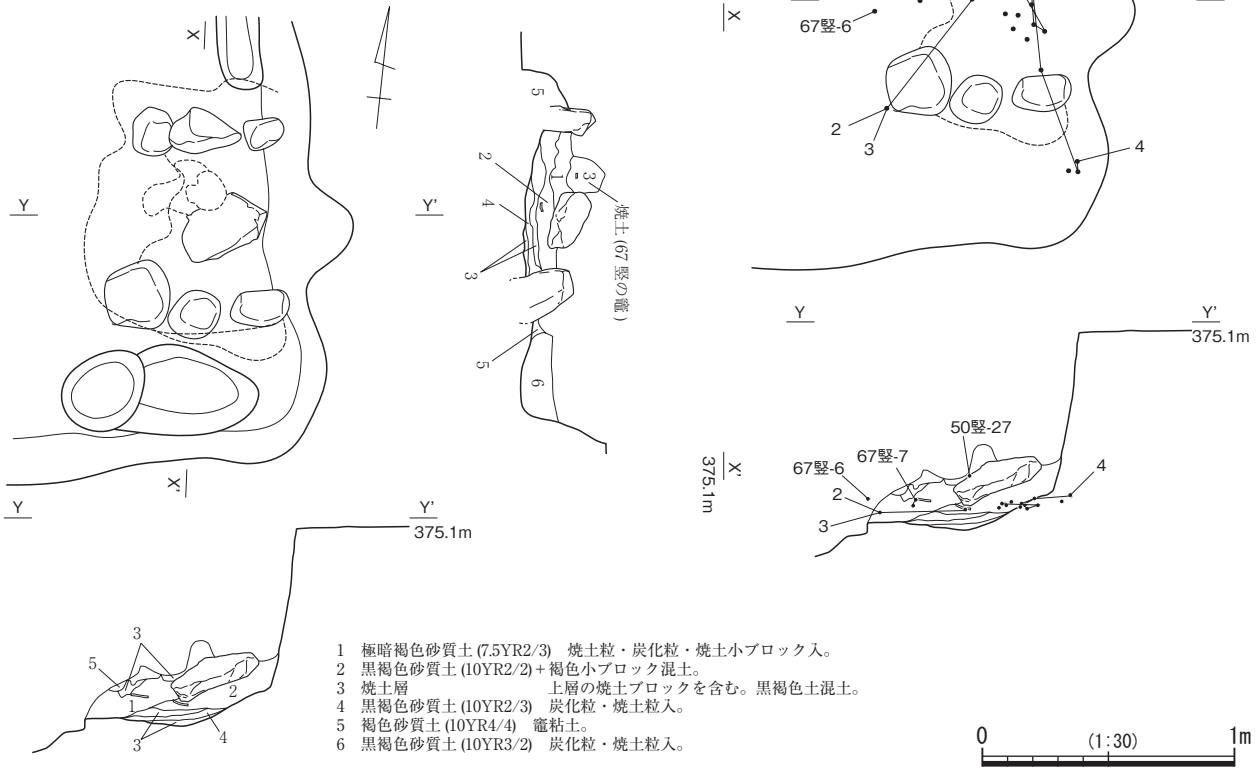


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色小ブロック・褐色粒・炭化粒・砂入。極細砂。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。炭化粒入。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　2 層よりも黒味有り。
4　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　壁崩土。5 層、地山に似る。
5　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗粒。地山直上。
6　黒褐色土 (10YR2/2)　地山中の堆積土。黒味強い。

65 号竪穴 遺物出土状況



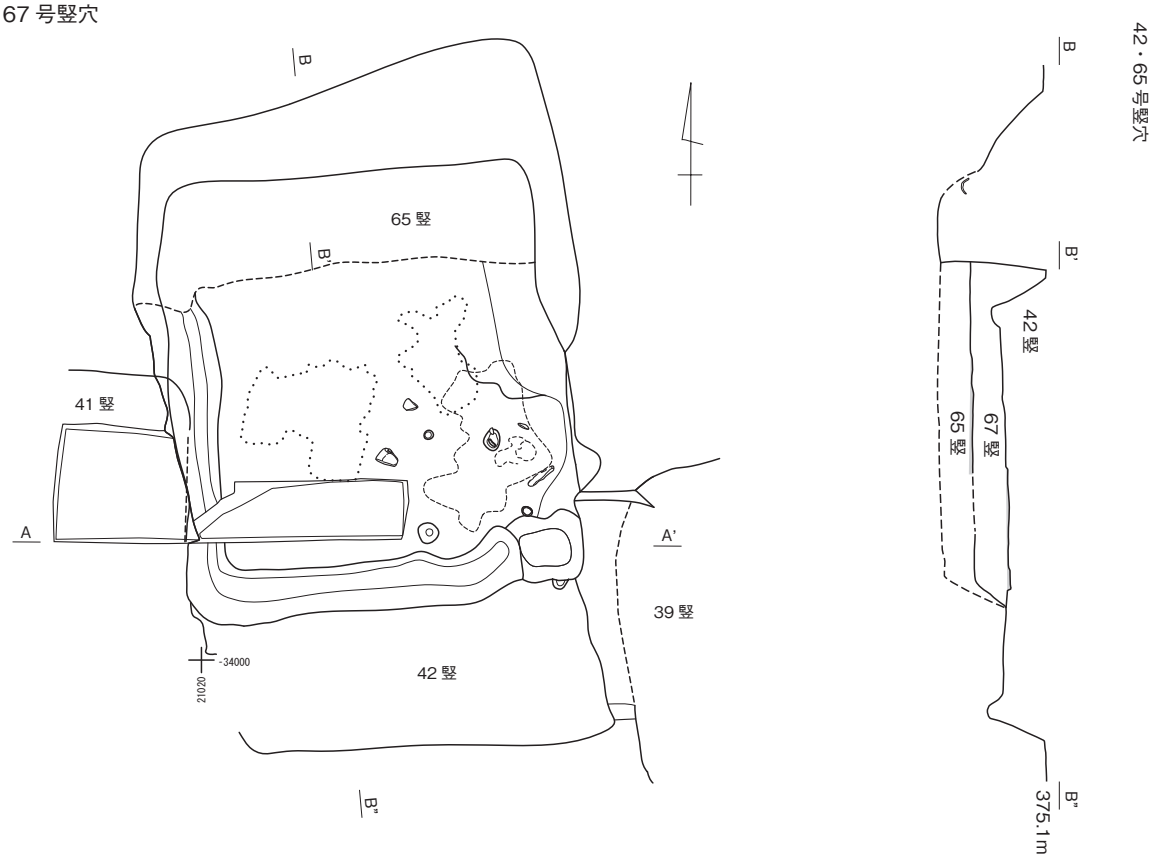
65 号竪穴 竈



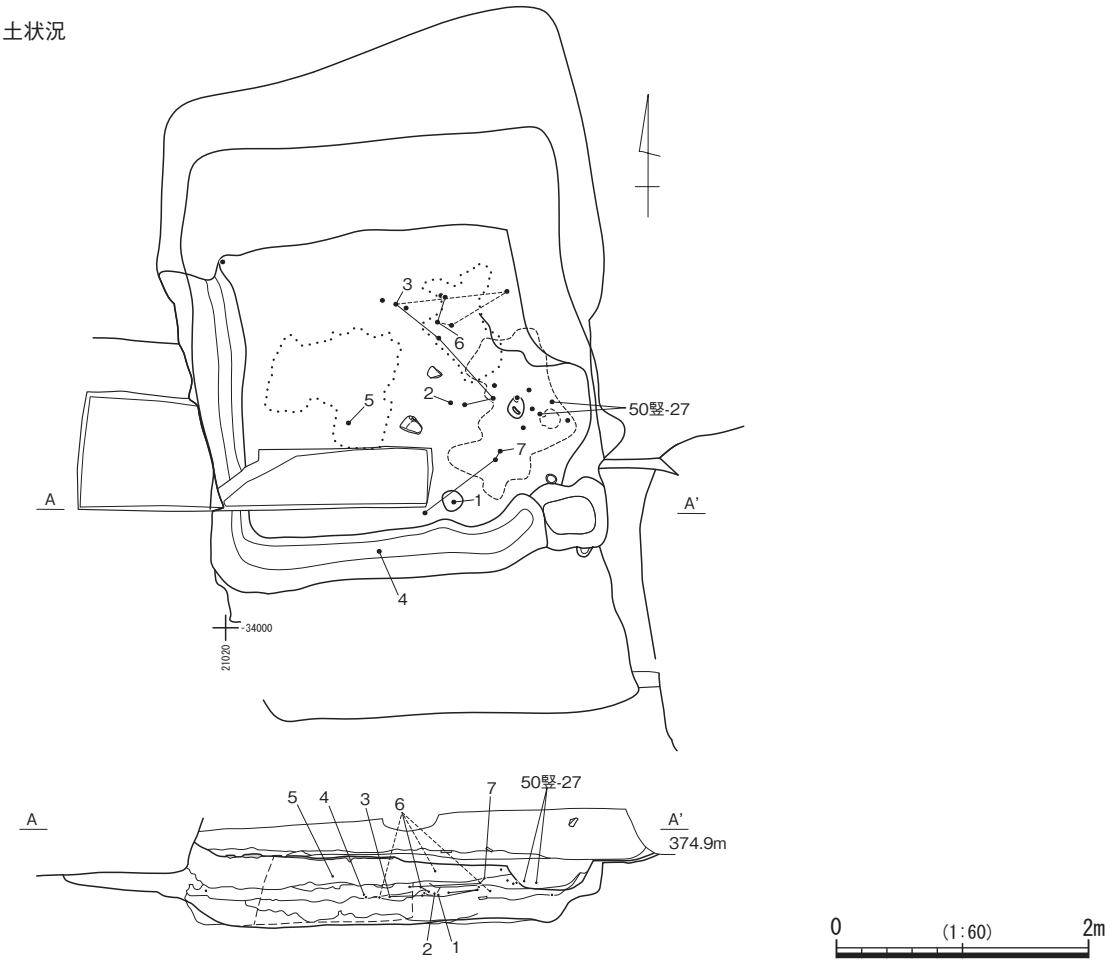
1　極暗褐色砂質土 (7.5YR2/3)　焼土粒・炭化粒・焼土小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/2) + 褐色小ブロック混土。
3　焼土層　　上層の焼土ブロックを含む。黒褐色土混土。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化粒・焼土粒入。
5　褐色砂質土 (10YR4/4)　竈粘土。
6　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。

第48図　65号竪穴

67 号竪穴

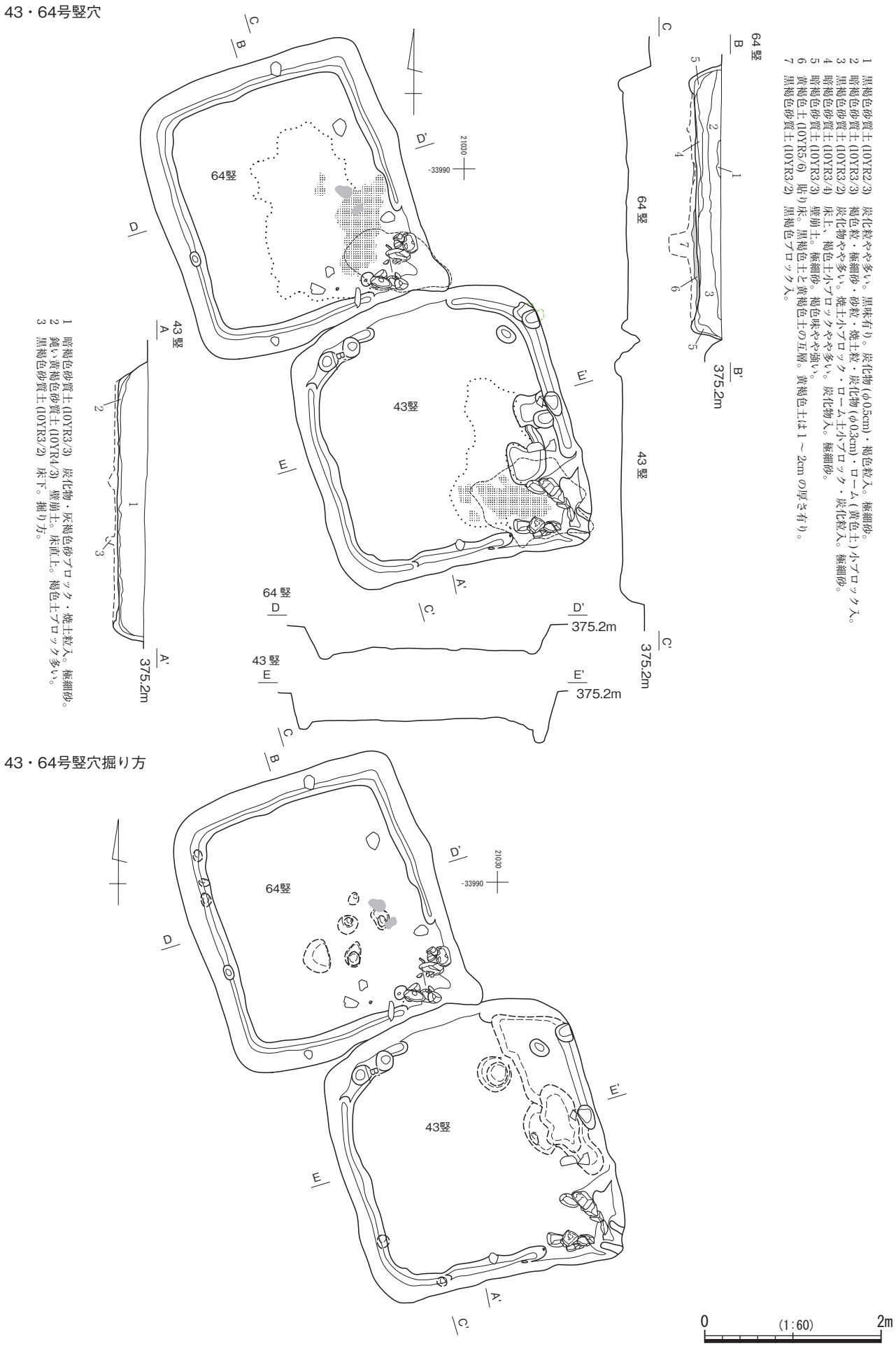


67 号竪穴 遺物出土状況



第49図　67号竪穴

43・64号竪穴

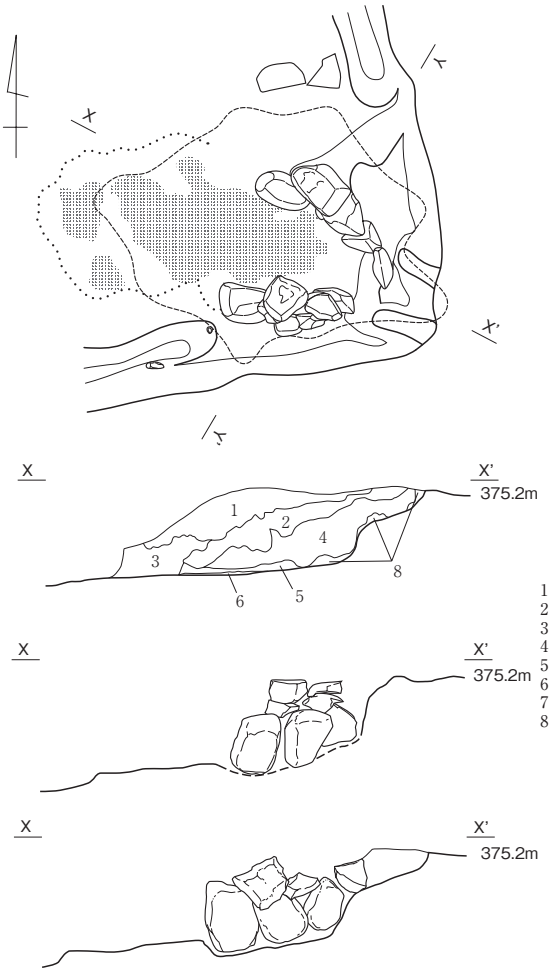


43・64号竪穴掘り方

0 (1:60) 2m

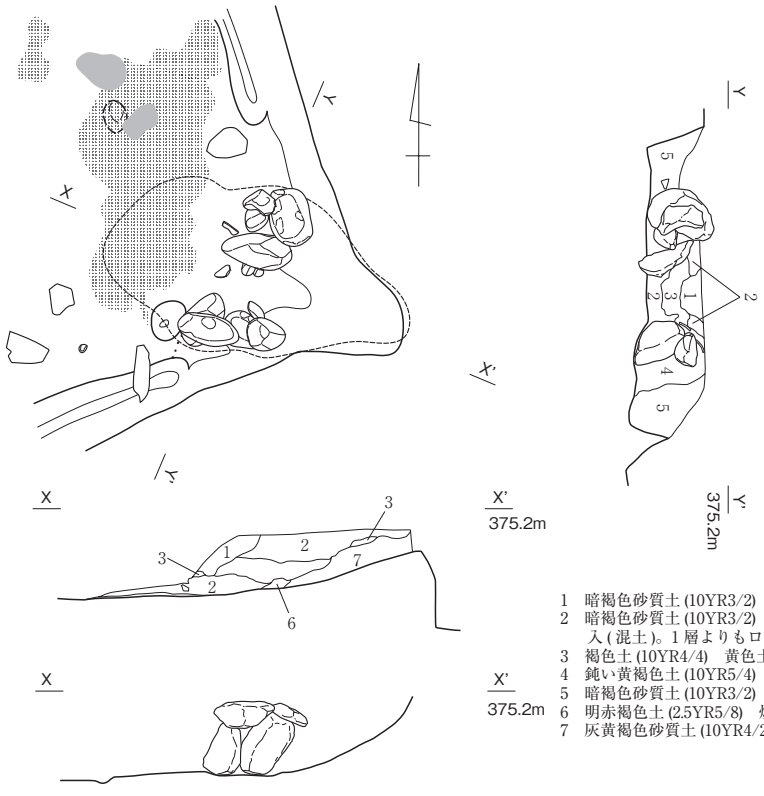
第50図　43・64号竪穴(1)

43 号竪穴 竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　褐色土小ブロック・灰褐色小ブロック・炭化粒・砂粒入。
2　褐色土 (10YR4/6)　炭化粒入。竈天井か。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　黄色土ブロック・焼土小ブロック・炭化粒混土。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　3 層類似。
5　鈍い黄褐色砂質土＋焼土層　炭化物の上に焼土層が薄く堆積。
6　黒色炭化層 (10YR1.7/1)　竈内炭化層。
7　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　袖石周囲の貼り土。
8　焼土層

64 号竪穴 竈

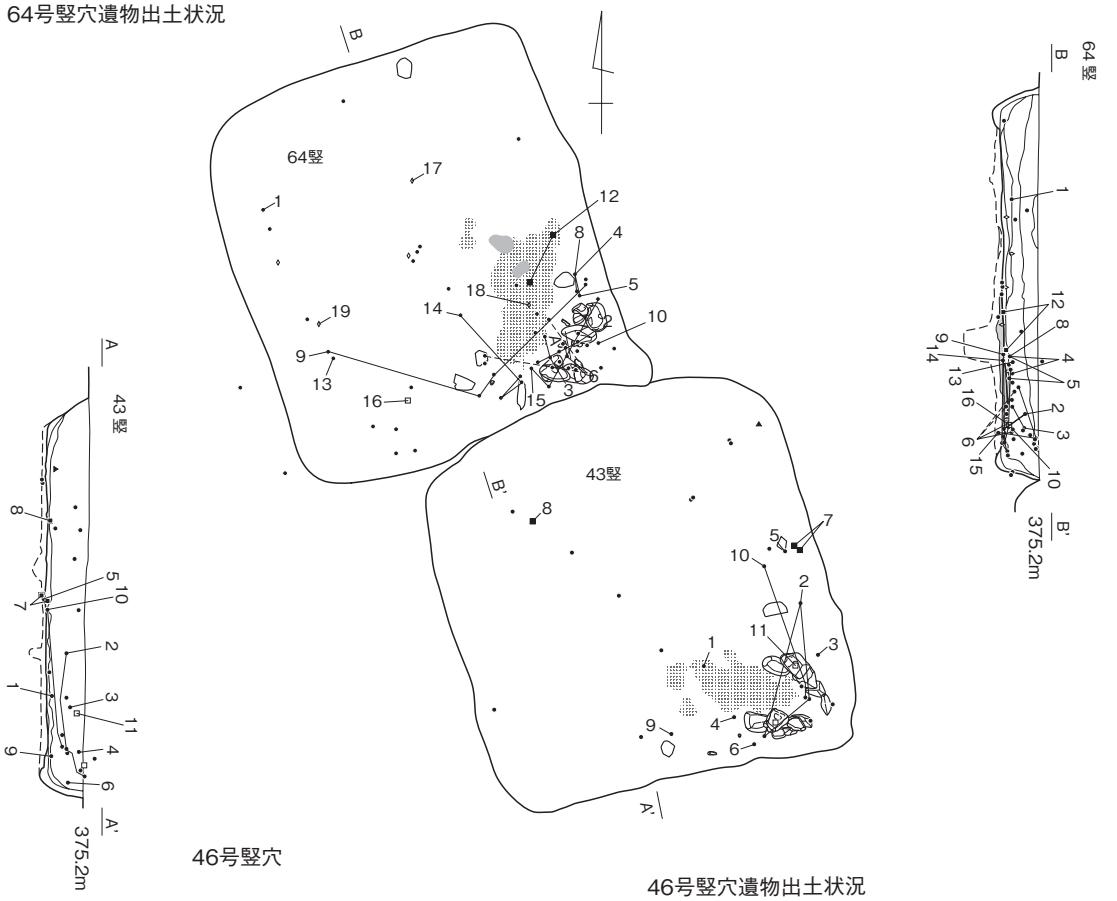


1　暗褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・黄色土ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/2)　黄色土ブロック・焼土小ブロック・炭化物入 (混土)。1 層よりもローム小ブロック多い。
3　褐色土 (10YR4/4)　黄色土ブロック崩土。焼土ブロック混。炭化粒入。
4　鈍い黄褐色土 (10YR5/4)　竈袖石周囲に貼り付けた粘土。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/2)　ローム土小ブロック・炭化粒入。
6　明赤褐色土 (2.5YR5/8)　焼土層
7　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山。灰褐色砂質土ブロック・褐色粒入。

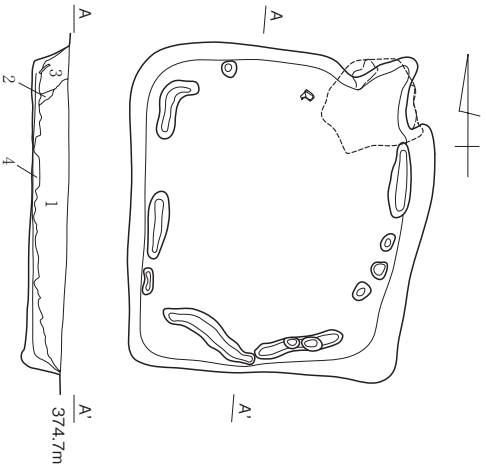
0　(1:30)　1m

第51図　43・64号竪穴（2）

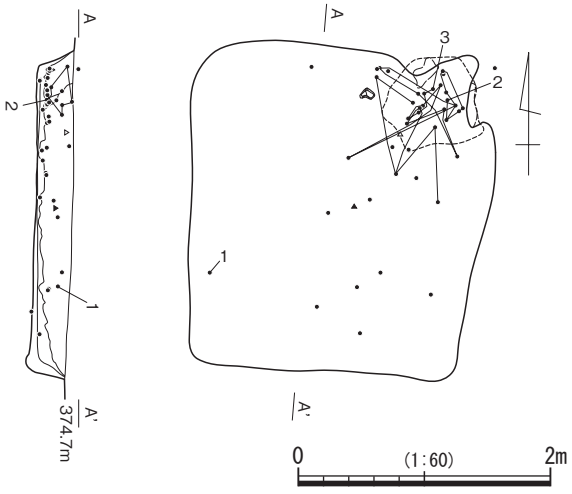
43・64号竪穴遺物出土状況



46号竪穴

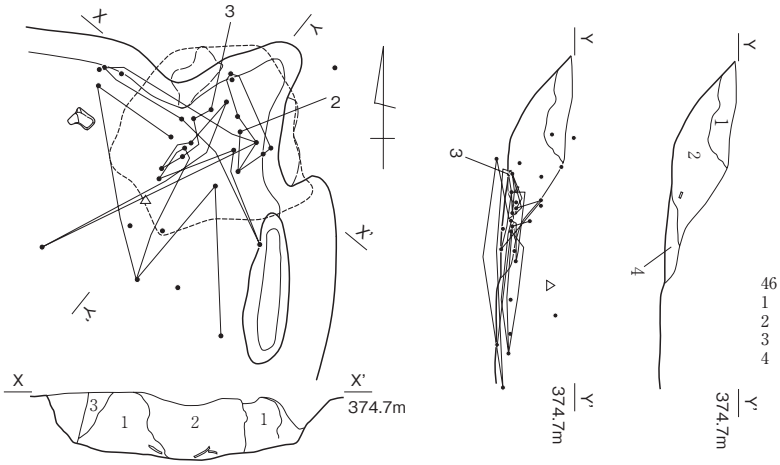


46号竪穴遺物出土状況

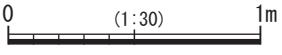


46 竪
1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 砂粒・灰褐色小ブロックやや多い。極細砂。炭化粒入。
2 灰褐色砂質土 (10YR4/2) 砂層のブロック。
3 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3) 地山の崩土。土器片入。褐色粒。
4 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 粗粒。黒味有り。砂粒入。

46 号竪穴 竈

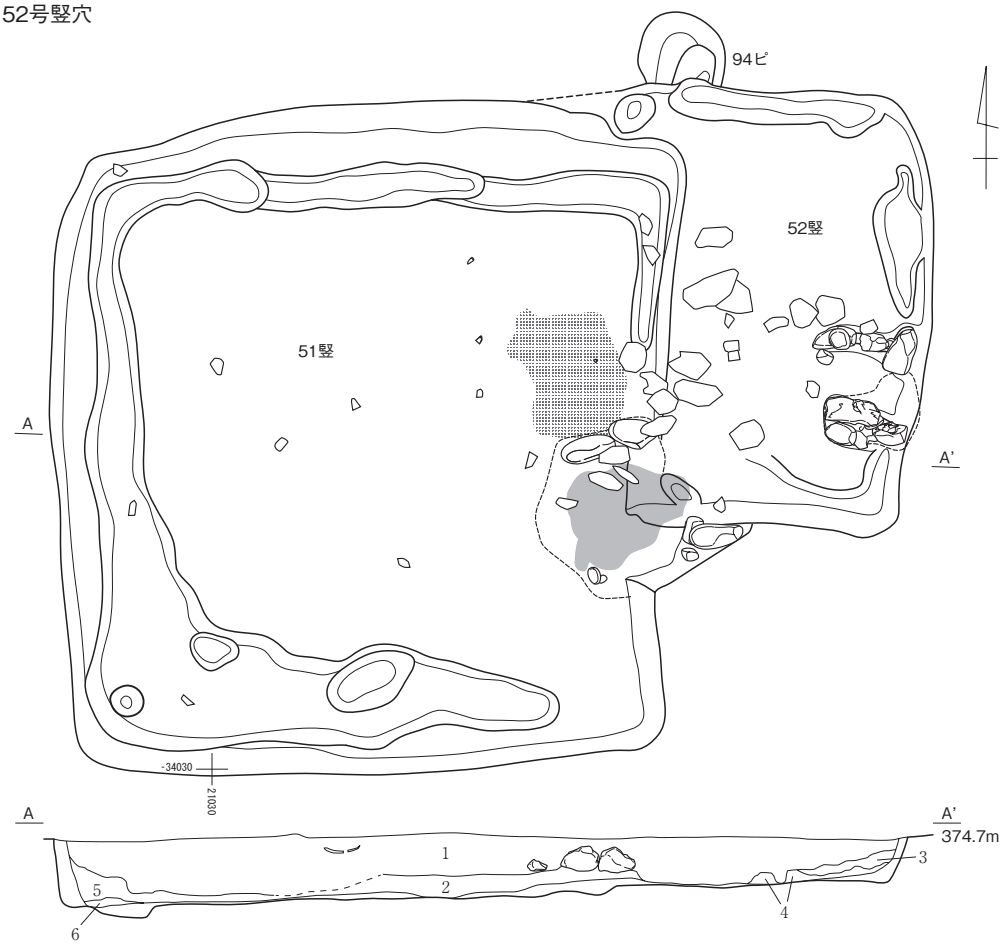


46 竪竈
1 褐色砂質土 (10YR4/4) 褐色土の竈粘土主体。
2 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 炭化粒・焼土粒入。
3 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 褐色土小ブロック入。竈周辺。
4 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 焚口付近。
焼土粒・炭化物やや多い。



第52図　43・46・64号竪穴

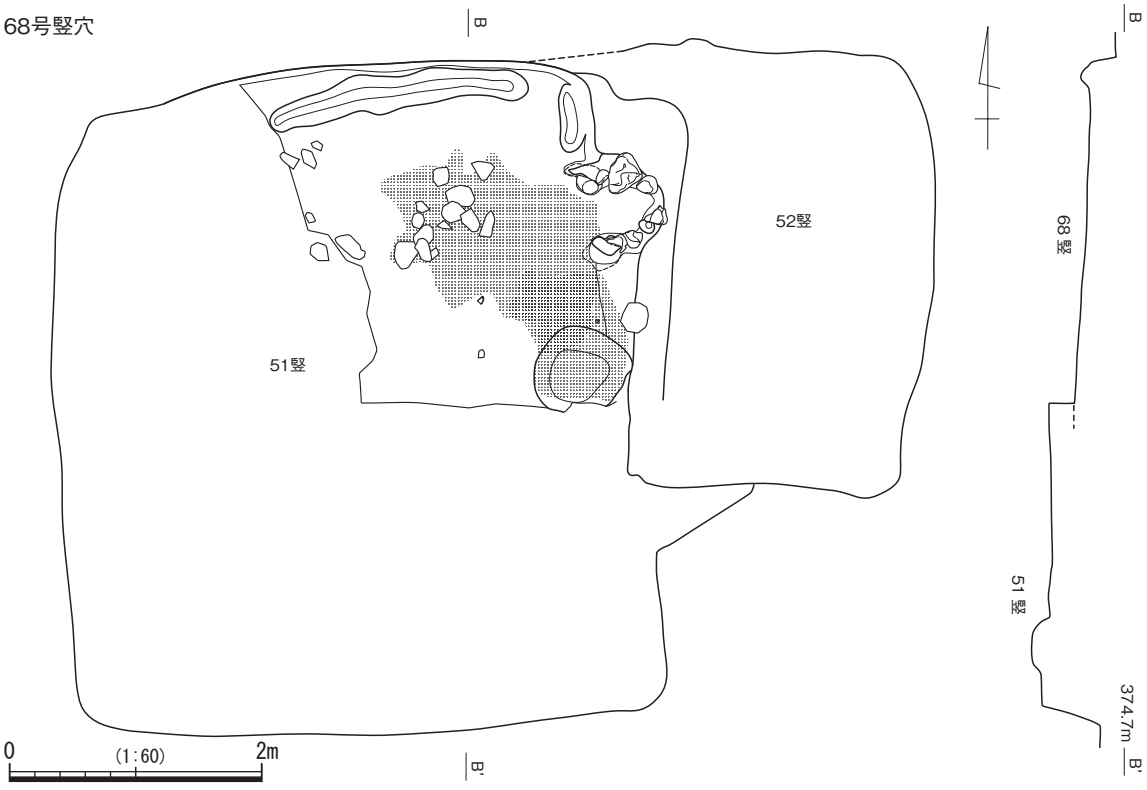
51・52号竪穴



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。炭化粒・褐色粒・砂粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰褐色砂ブロック (大) 多い。焼土粒・炭化粒・灰褐色小ブロック入。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒やや多い。(φ0.8cm)
4　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細砂 (やや粗)。地山に近い。灰褐色ブロックやや多く入。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細～細砂。灰褐色小ブロック・炭化粒・褐色粒入。
6　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。灰褐色小ブロック入。地山に近い。

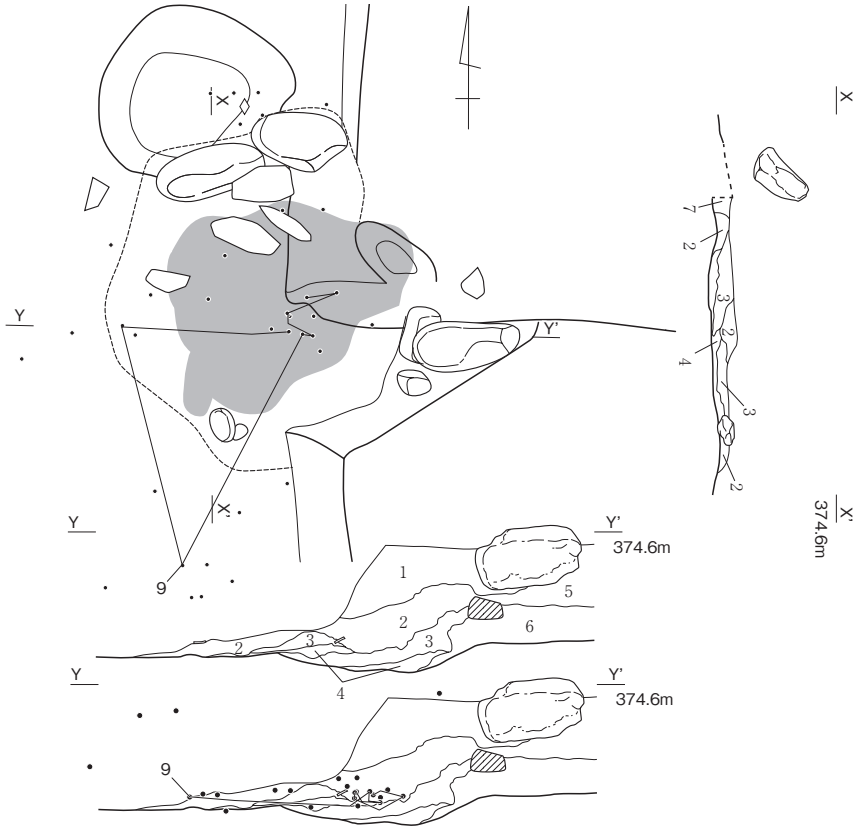
51 号竪穴 竈

68号竪穴

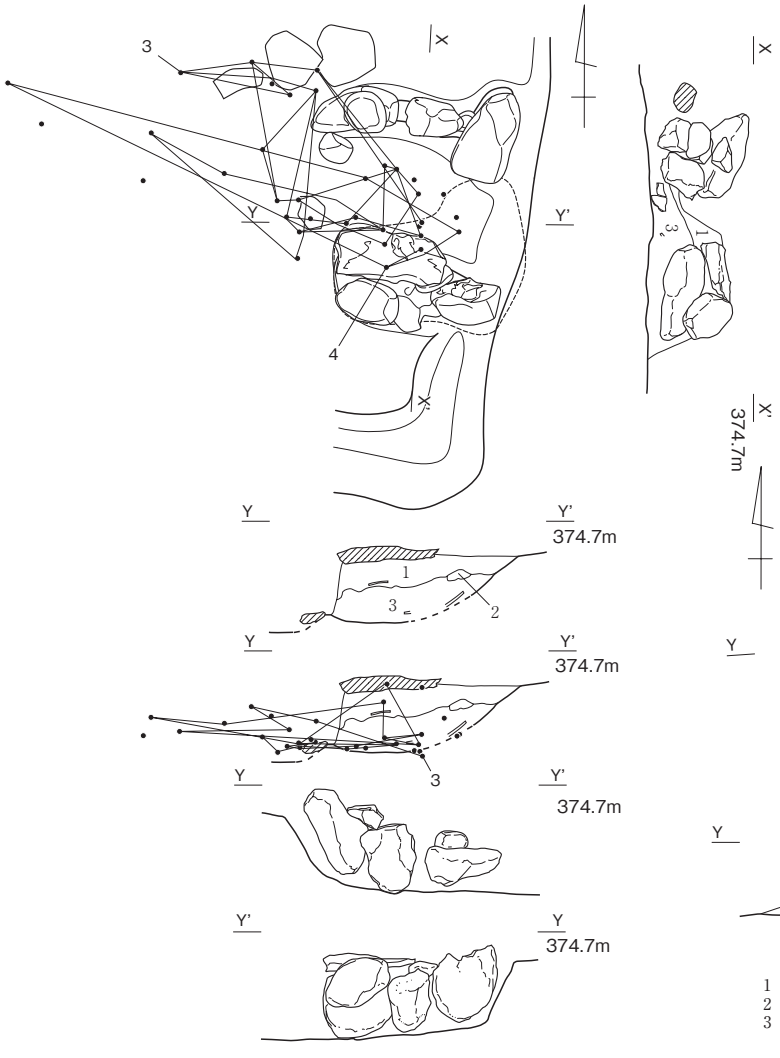


第53図　51・52・68号竪穴（1）

51 号竪穴 竈



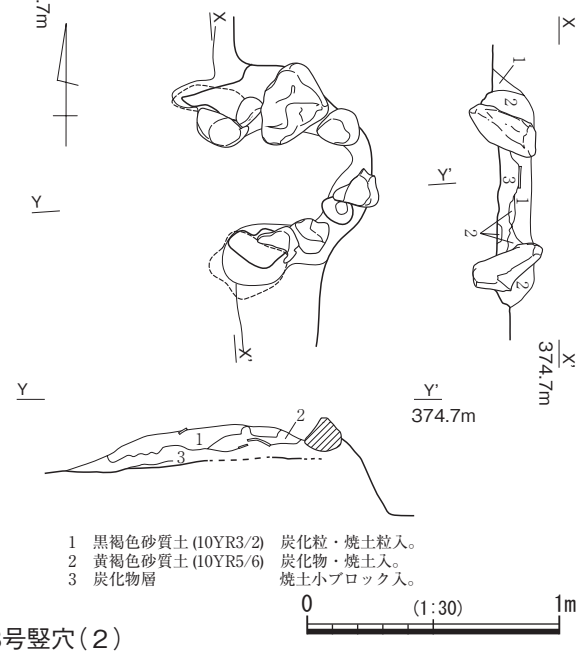
52 号竪穴 竈



51 竪竈
1　暗褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。
　灰褐色小ブロックやや多い。焼土小ブロック入。
2　褐色砂質土 (10YR4/4)　灰褐色の竈粘土を主とする。
　焼土小ブロック入。
3　焼土層
4　炭化物層
5　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山。壁の土層。
6　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　地山。壁の土層。黒味の強い土層。
7　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。炭化粒・焼土粒入。

52 竪竈
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・炭化粒入。
2　焼土層
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物・焼土小ブロック入。

68 号竪穴 竈

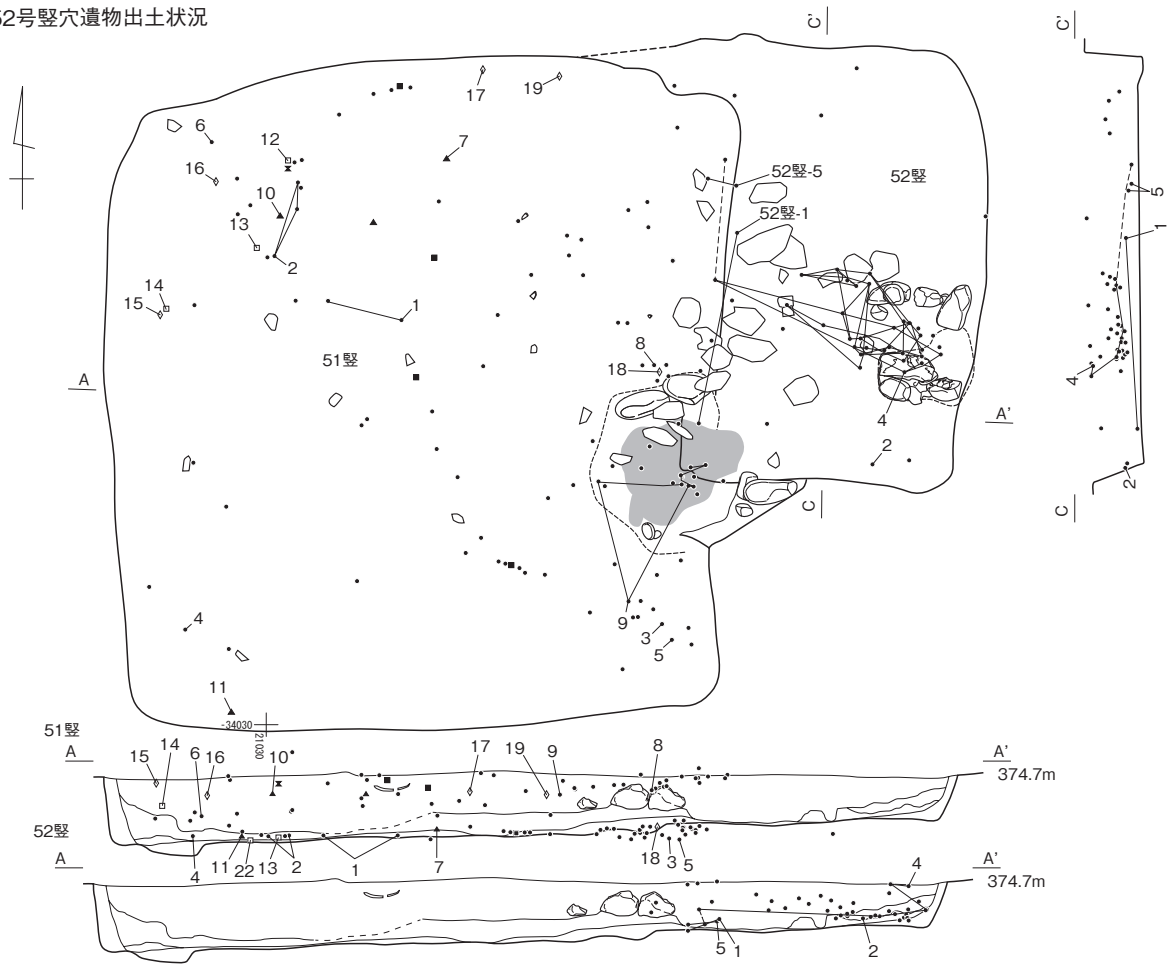


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。
2　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　炭化物・焼土入。
3　炭化物層　焼土小ブロック入。

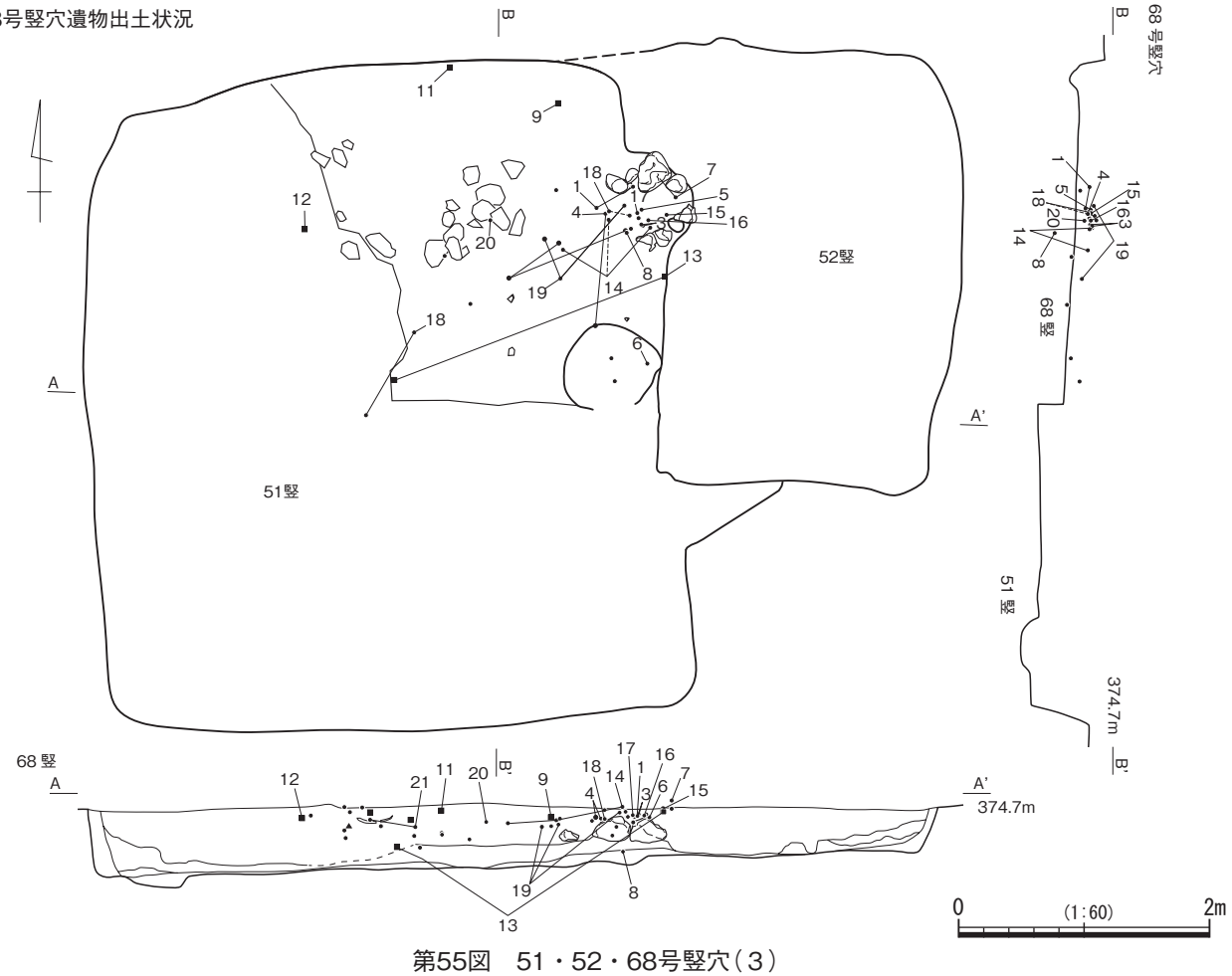
0　(1:30)　1m

第54図　51・52・68号竪穴（2）

51・52号竪穴遺物出土状況

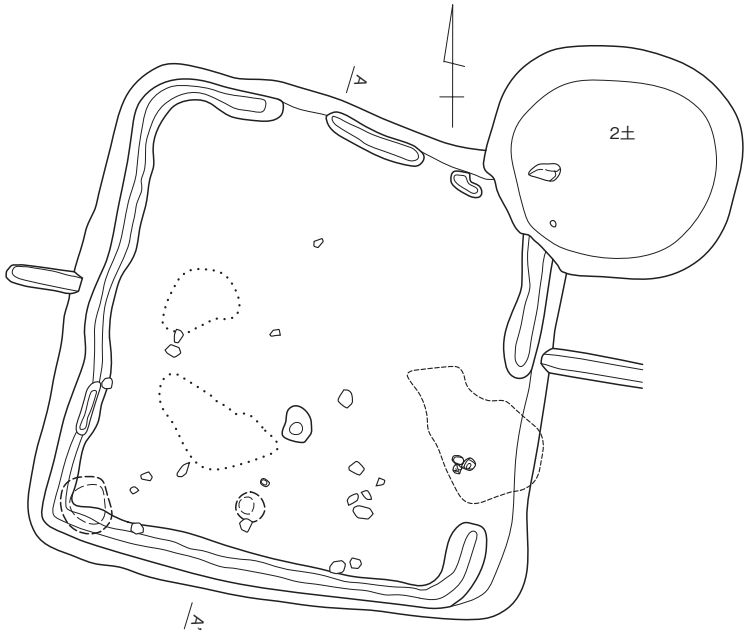


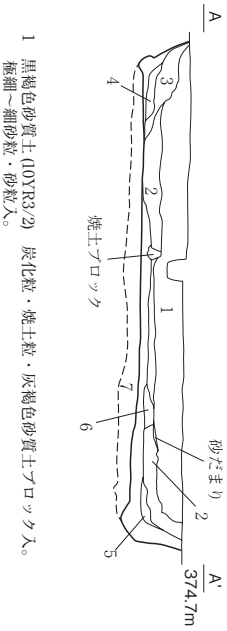
68号竪穴遺物出土状況



第55図　51・52・68号竪穴（3）

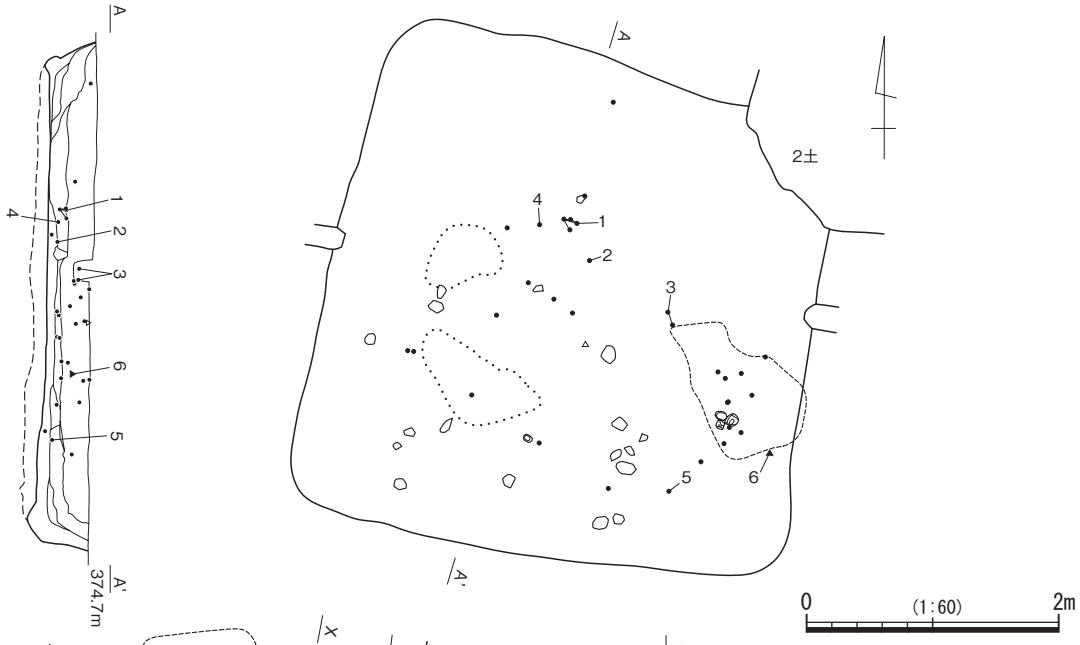
53号竪穴



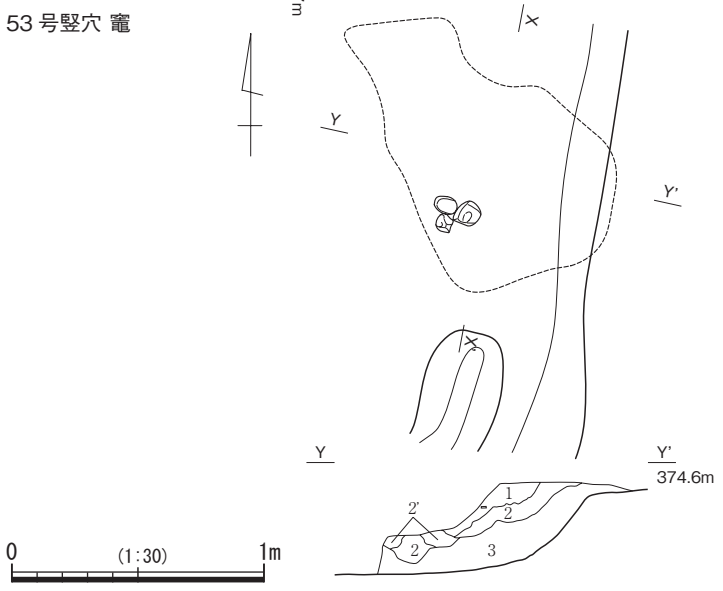


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・灰褐色砂質土ブロック入。極細～細砂粒・砂粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。焼土小ブロック (φ1cm 大) 入。極細砂。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　壁崩土。極細砂。褐色味有り。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。やや粗。砂粒入。
5　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。極細砂。
6　褐色土 (10YR4/4)　竈粘土に類似。
7　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土ブロックやや目立つ。掘り方。

53号竪穴遺物出土状況



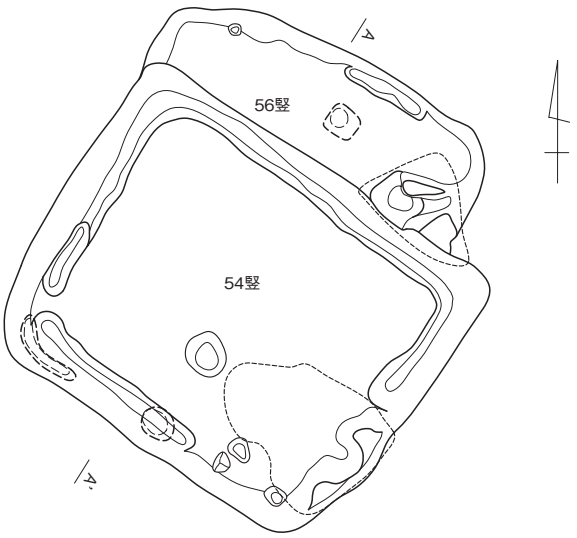
53 号竪穴 竈

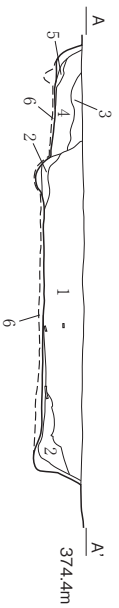


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒入。
2　焼土層 (ブロック)+ 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。焼土小ブロックやや多い。2' のブロックを含む。
2'　焼土ブロック
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロック・炭化粒・焼土粒入。
4　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰褐色砂質ブロック入。

第56図　53号竪穴

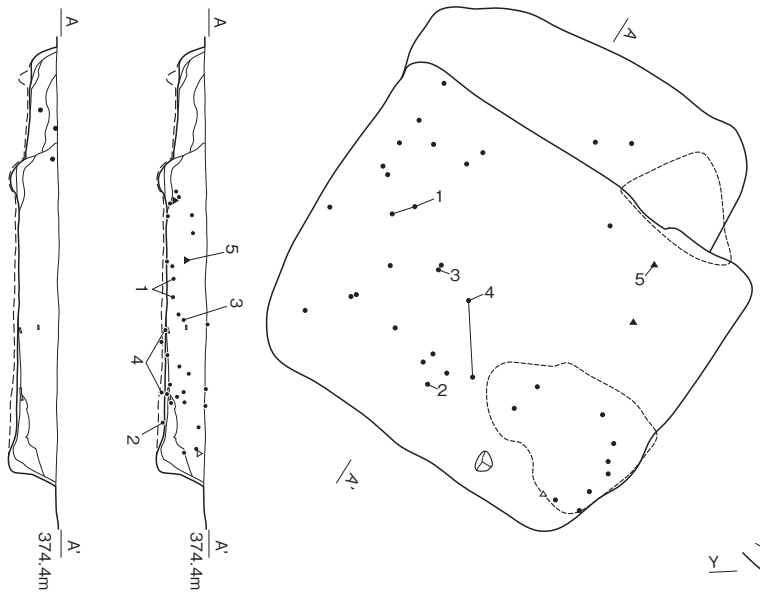
54・56号竪穴



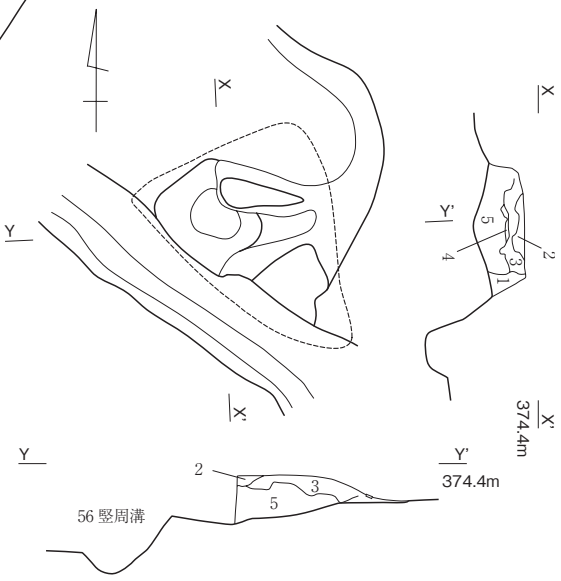


1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 細砂。砂粒入。焼土粒・炭化粒・灰褐色砂小ブロック入。
2 黒褐色砂質土(10YR2/3) 極細砂。やや黒味有り。壁崩土。
3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 1層に似る。焼土粒・炭化粒入。
4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) やや地山に近い。褐色味有り。
5 細砂(やや粗粒)。灰褐色砂ブロック多い。
6 鈍い黄褐色砂質土(10YR4/3) 壁崩土。極細砂。
黒褐色砂質土(10YR3/2) 掘り方。

54・56号竪穴遺物出土状況

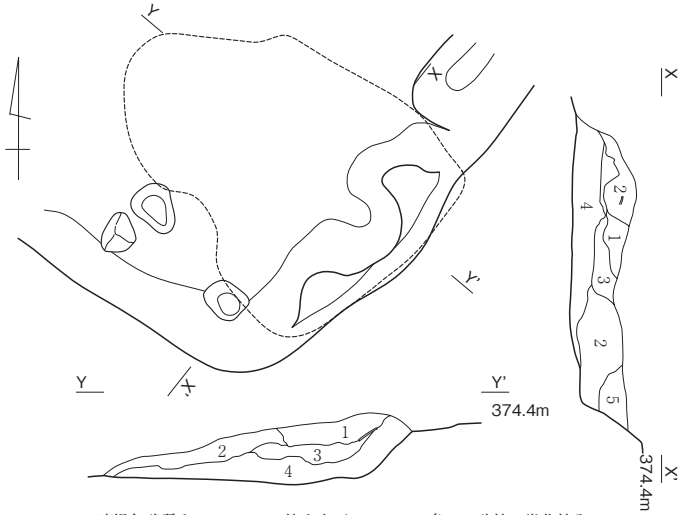


56 号竪穴 竈



1 黄褐色砂質土(10YR5/6) 竈袖部か。砂粒・焼土小ブロック入。
2 黒褐色砂質土(10YR3/2)
3 褐色砂質土(10YR4/4) 竈ローム粘土の崩土。焼土粒・焼土小ブロック入。
4 焼土層
5 黒褐色砂質土(10YR3/2) 砂粒入。

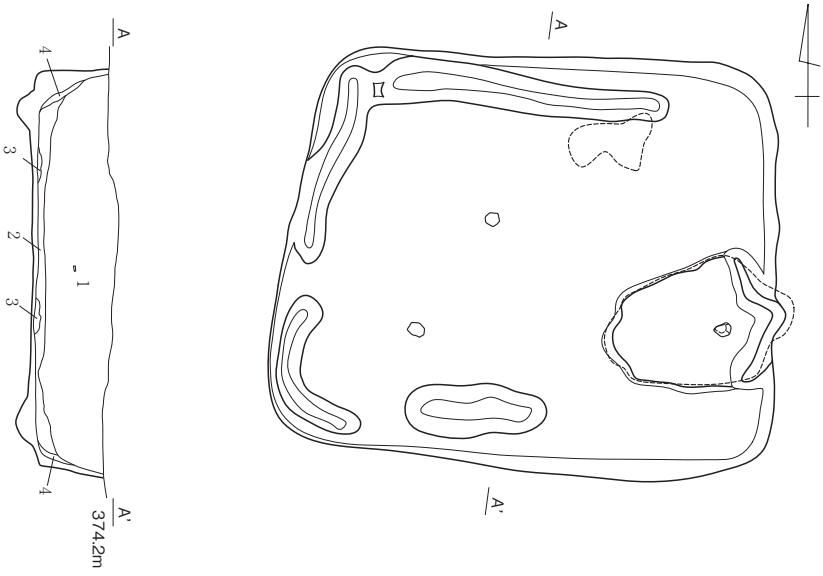
54 号竪穴 竈



1 暗褐色砂質土(10YR3/4) 焼土小ブロックやや多い。砂粒・炭化粒入。
2 褐色砂質土(10YR4/4) 竈粘土を含む。砂粒・炭化粒・焼土粒入。
3 暗褐色砂質土(10YR3/3) 炭化粒・焼土粒・褐色土入。
4 黒褐色砂質土(10YR3/2) 灰褐色小ブロック・砂粒・炭化粒・焼土粒入。
5 黒褐色砂質土(10YR3/2) 褐色粒・炭化粒入。

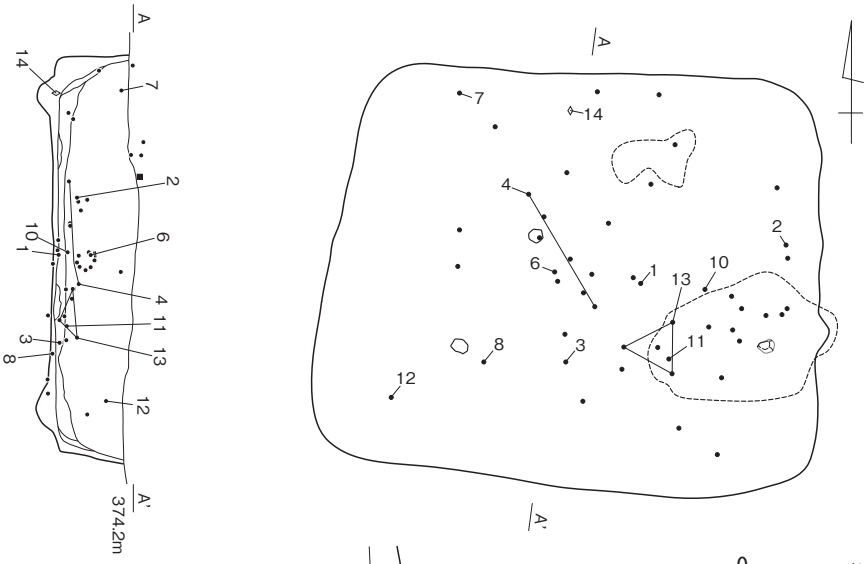
第57図 54・56号竪穴

57号竪穴

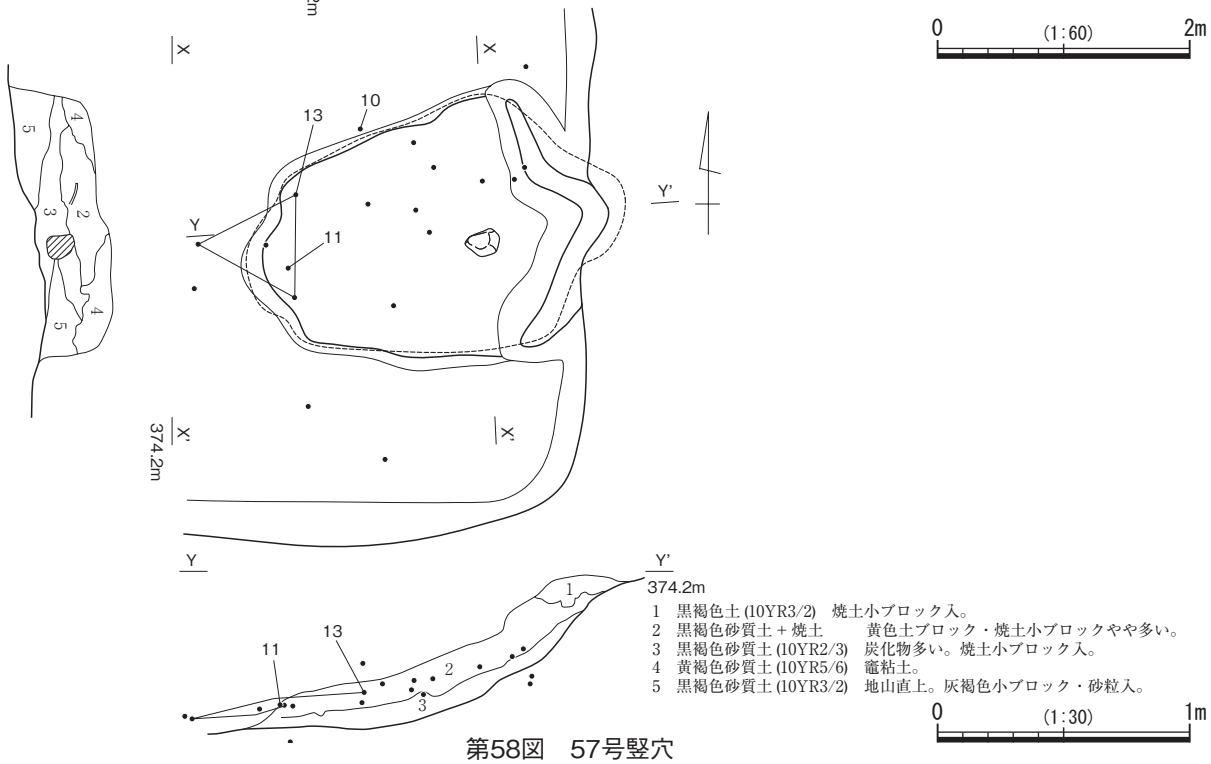


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・炭化粒・土器片入。灰黄褐色砂質ブロックやや多く入。極細～細砂・砂粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。灰黄砂ブロック入。極細砂。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山に近い。褐色ブロック入。一部貼り床状。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　褐色ブロック・焼土粒・炭化粒入。壁崩土。
2層よりも黒味弱い。

57号竪穴遺物出土状況



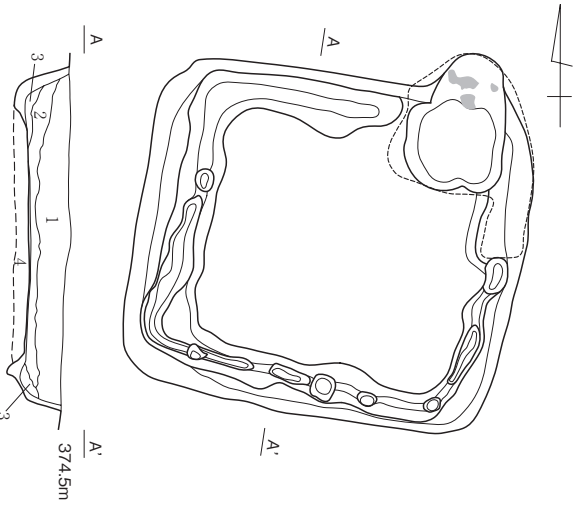
57 号竪穴 竈



1　黒褐色土 (10YR3/2)　焼土小ブロック入。
2　黒褐色砂質土＋焼土　　黄色土ブロック・焼土小ブロックやや多い。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化物多い。焼土小ブロック入。
4　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土。
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　地山直上。灰褐色小ブロック・砂粒入。

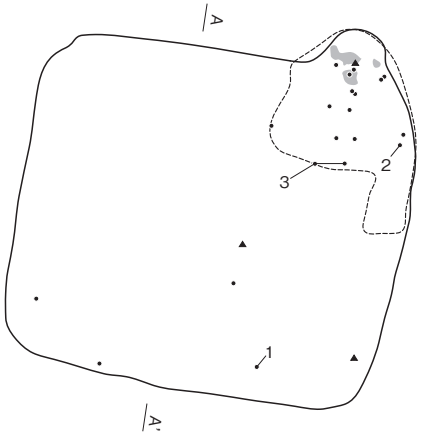
第58図　57号竪穴

58号竪穴

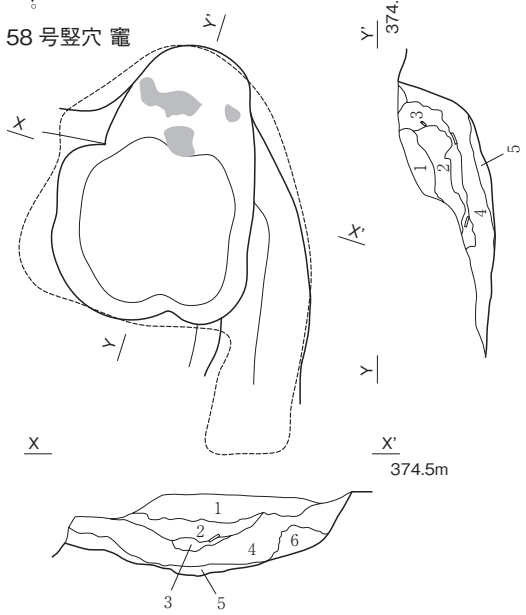


1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 細砂。灰褐色砂ブロック・砂粒・褐色土小ブロック・焼土粒・炭化粒入。
2 黒褐色砂質土(10YR2/3) 細砂。やや黒味有り。砂粒・炭化粒入。
3 暗褐色砂質土(10YR3/3) 壁崩土。極細～細砂。褐色土小ブロック・焼土粒入。
4 黒褐色砂質土(10YR3/2) 掘り方層。焼土小ブロック(φ1.0cm)やや多い。

58号竪穴遺物出土状況

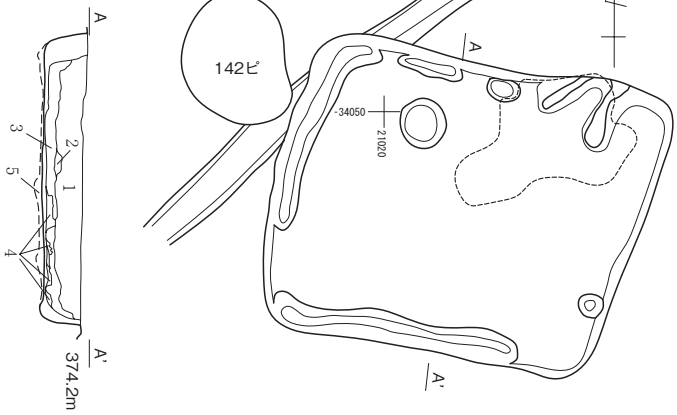


58 号竪穴 竈



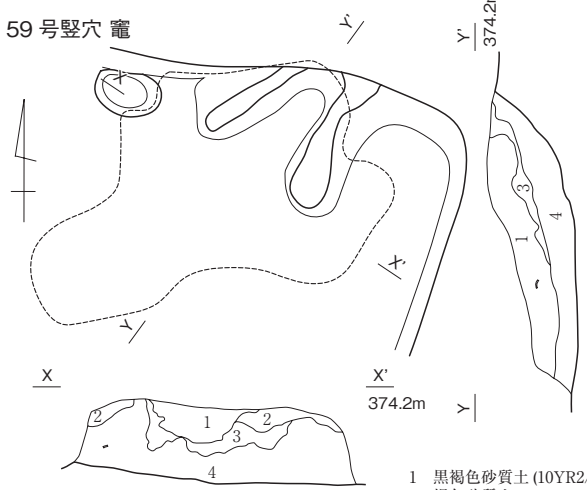
1 褐色土(10YR4/4) 竈粘土。崩土。
2 黒褐色砂質土(10YR3/2) 炭化粒・焼土粒・砂粒入。
3 焼土層
4 黒褐色砂質土(10YR3/2) 焼土小ブロック・焼土粒・炭化粒入。
5 黒褐色砂質土(10YR2/2) 炭化物やや多い。
6 褐色砂質土(10YR4/4) 竈袖粘土。

59号竪穴



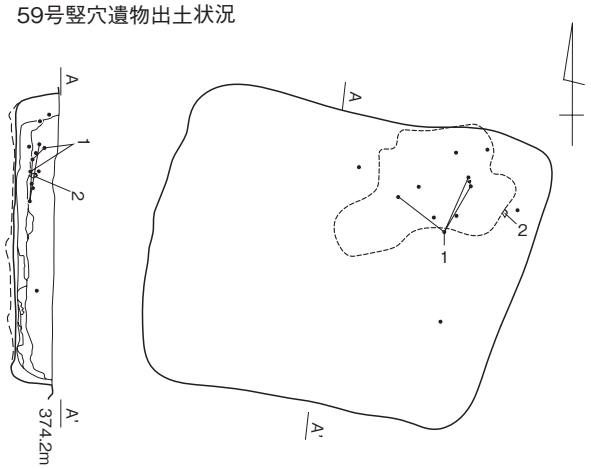
1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 細砂～極細砂。砂粒・褐色粒入。
2 褐色土(10YR4/4) 竈粘土に近い。焼土粒・炭化粒入。
3 暗褐色砂質土(10YR3/3) やや粗粒。細砂。褐色小ブロック・砂粒入。
4 黒褐色砂質土(10YR2/2) 床面の貼り床の一部か。黒味強い。
5 黒褐色砂質土(10YR3/2) 掘り方。

59 号竪穴 竈



1 黒褐色砂質土(10YR2/3) やや黒味有り。焼土小ブロック・炭化粒・焼土粒入。
2 褐色砂質土(10YR4/4) 竈粘土。
3 焼土層 1層と焼土ブロックの混土。
4 黒褐色砂質土(10YR3/2) 焼土粒・炭化粒入。

59号竪穴遺物出土状況



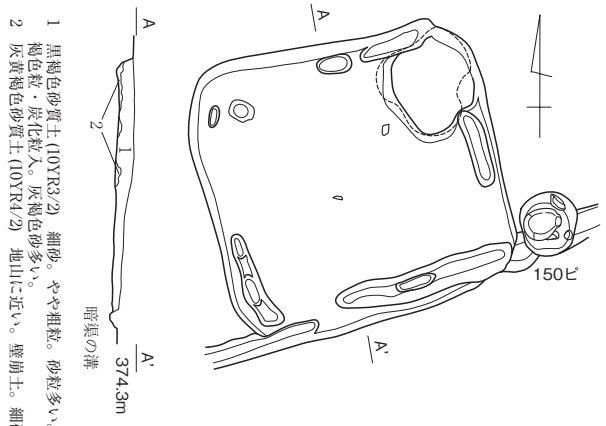
0 (1:30) 1m

0 (1:60) 2m

第59図 58・59号竪穴

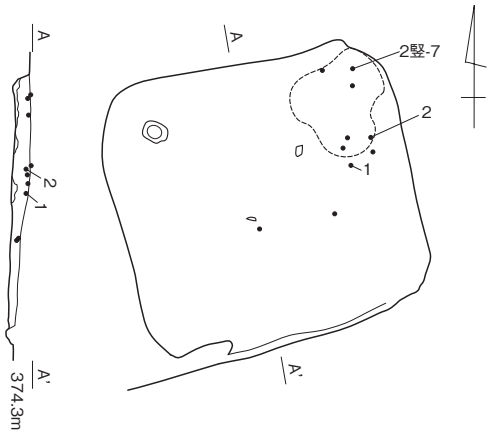
第59図 58・59号竪穴

60号竪穴

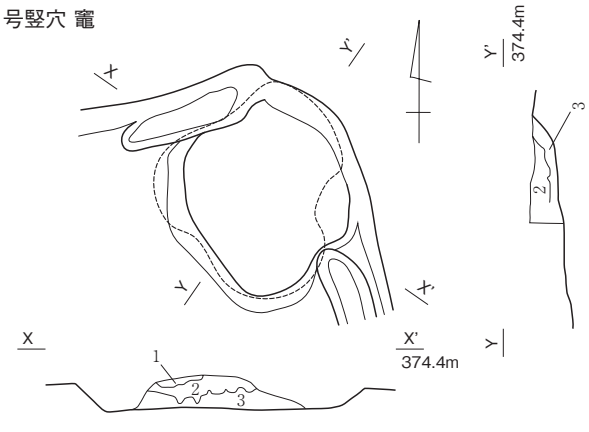


1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 細砂。やや粗粒。砂粒多い。褐色粒・炭化粒入。灰褐色砂多い。
2 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 地山に近い。壁崩土。細砂。

60号竪穴遺物出土状況

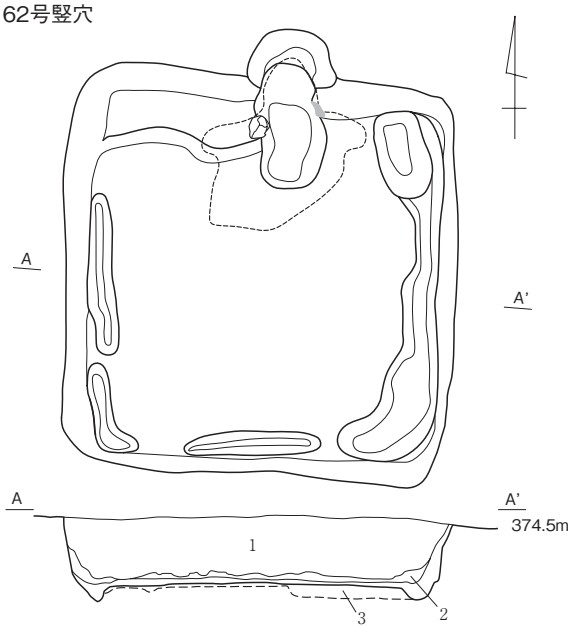


60 号竪穴 竈



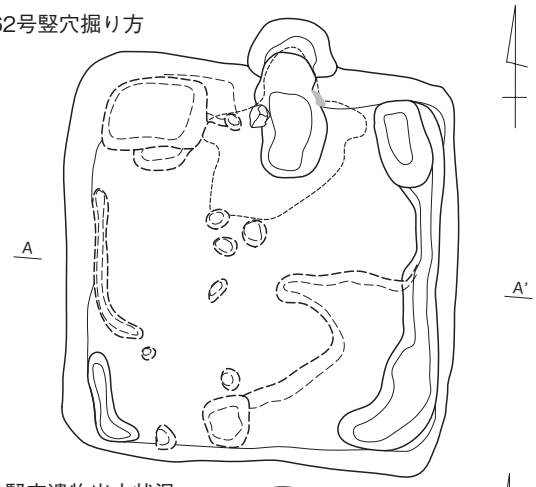
1 褐色砂質土(10YR4/4) ローム。袖の粘土。砂粒入。
2 黒褐色砂質土(10YR2/3) 炭化粒多い。焼土粒入。
3 黒褐色砂質土(10YR3/2) やや粗粒。炭化粒入。

62号竪穴

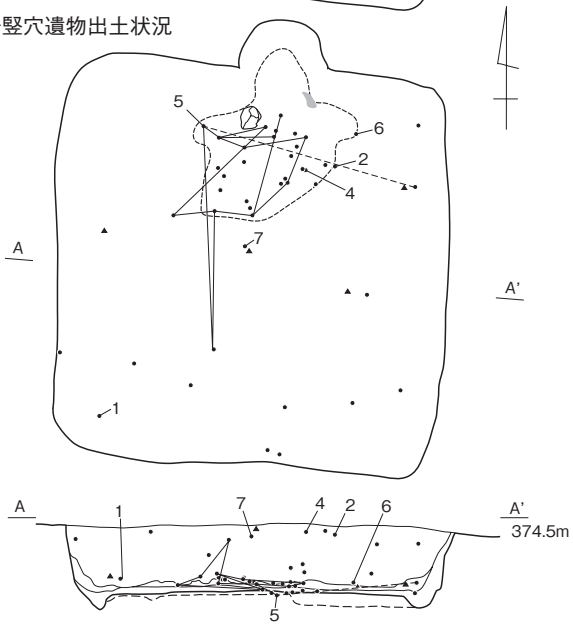


1 黒褐色砂質土(10YR3/2) 焼土小ブロック(φ0.8cm)・灰褐色小ブロック・砂粒・褐色粒入。極細砂～細砂。
2 暗褐色砂質土(10YR3/3) 灰褐色砂ブロックやや多い。地山に近い。壁崩土。極細～細砂。褐色粒入。
3 黒褐色砂質土(10YR3/2) 掘り方。褐色土ブロック入。

62号竪穴掘り方



62号竪穴遺物出土状況

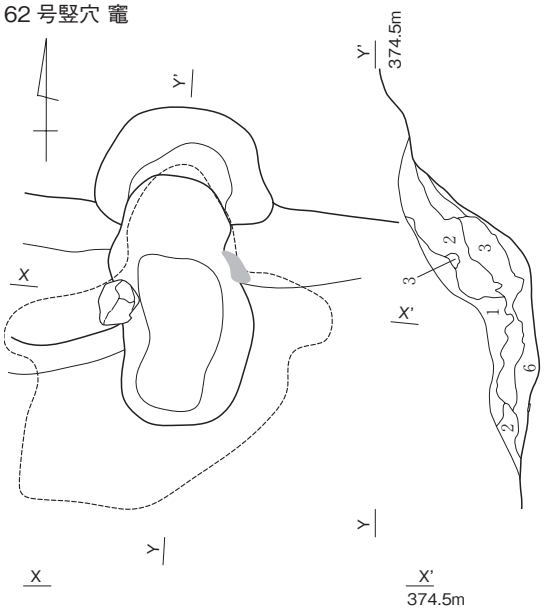


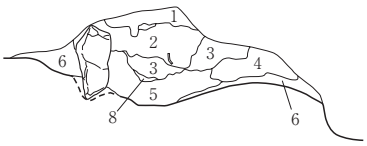
0 (1:30) 1m

0 (1:60) 2m

第60図 60・62号竪穴

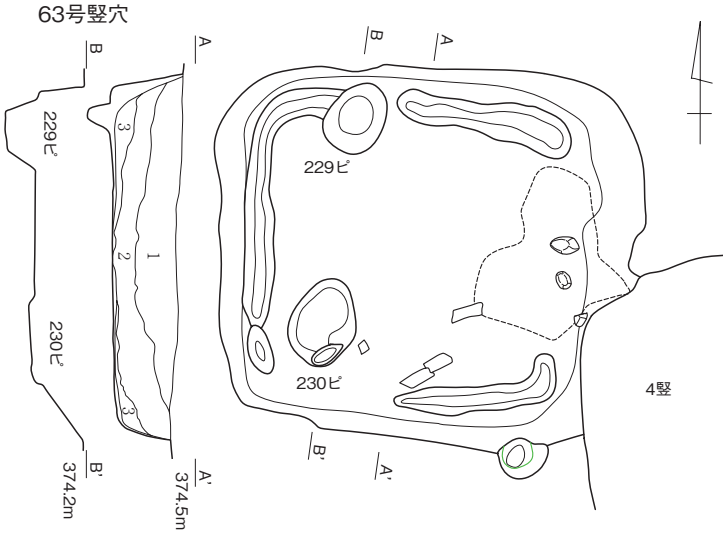
62 号竪穴 竈





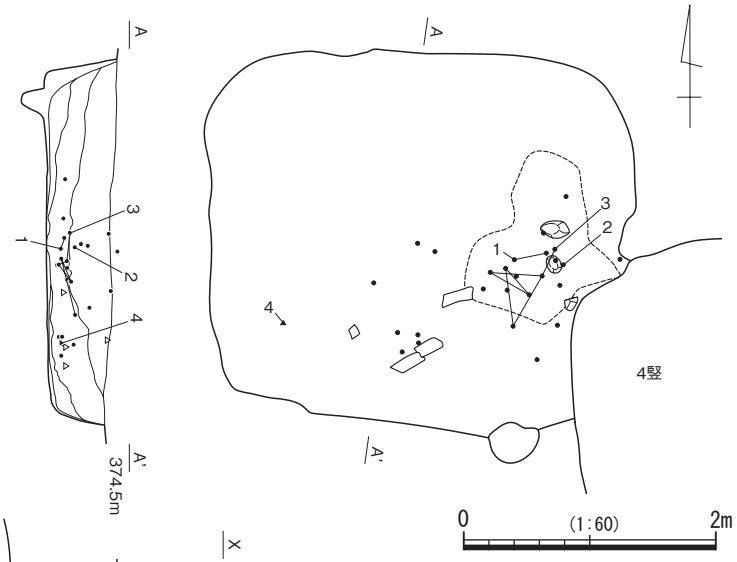
1 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　褐色土ブロック・炭化粒・焼土粒入。
2 黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土崩土。焼土ブロック入。
3 焼土層　炭化物混。ロームブロック入。
4 褐色砂質土 (10YR4/4)　竈粘土崩土か。
5 暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・焼土粒入。やや黒味有り。
6 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗。地山に近い。焼土ブロック入。炭化物やや多い。
7 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　地山に近い粗粒砂。焼土小ブロック・炭化粒・焼土粒入。
8 炭化物層

63号竪穴

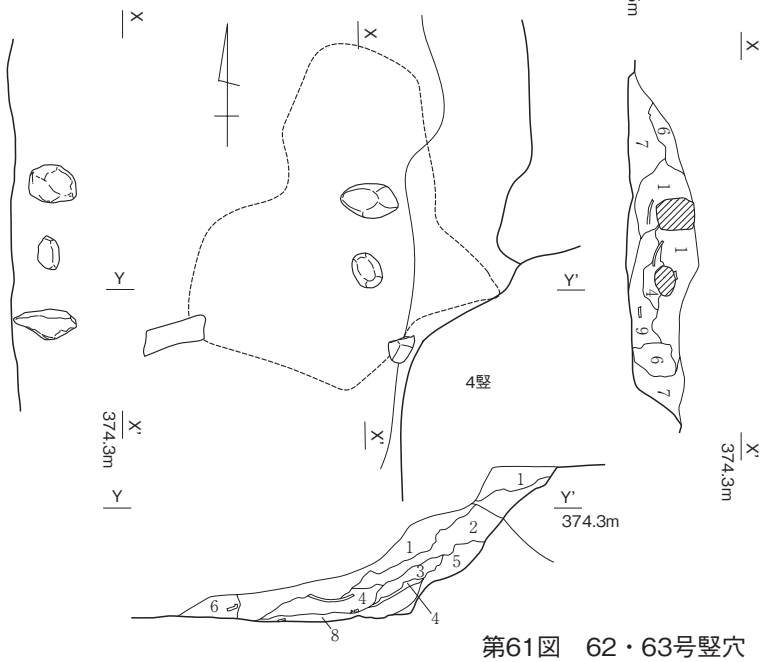


1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂質ブロック・炭化粒・焼土粒入。極細～細砂。2 層よりもやや粗粒。
2 暗褐色砂質土 (10YR3/3)　1 層に似るが、1 層よりも黒味弱い。炭化粒・焼土粒入。極細砂。
3 黒褐色砂質土 (10YR2/3)　壁崩土。褐色土ブロックやや多い。黒味強い。一部砂層のブロック入。

63号竪穴遺物出土状況



63 号竪穴 竈

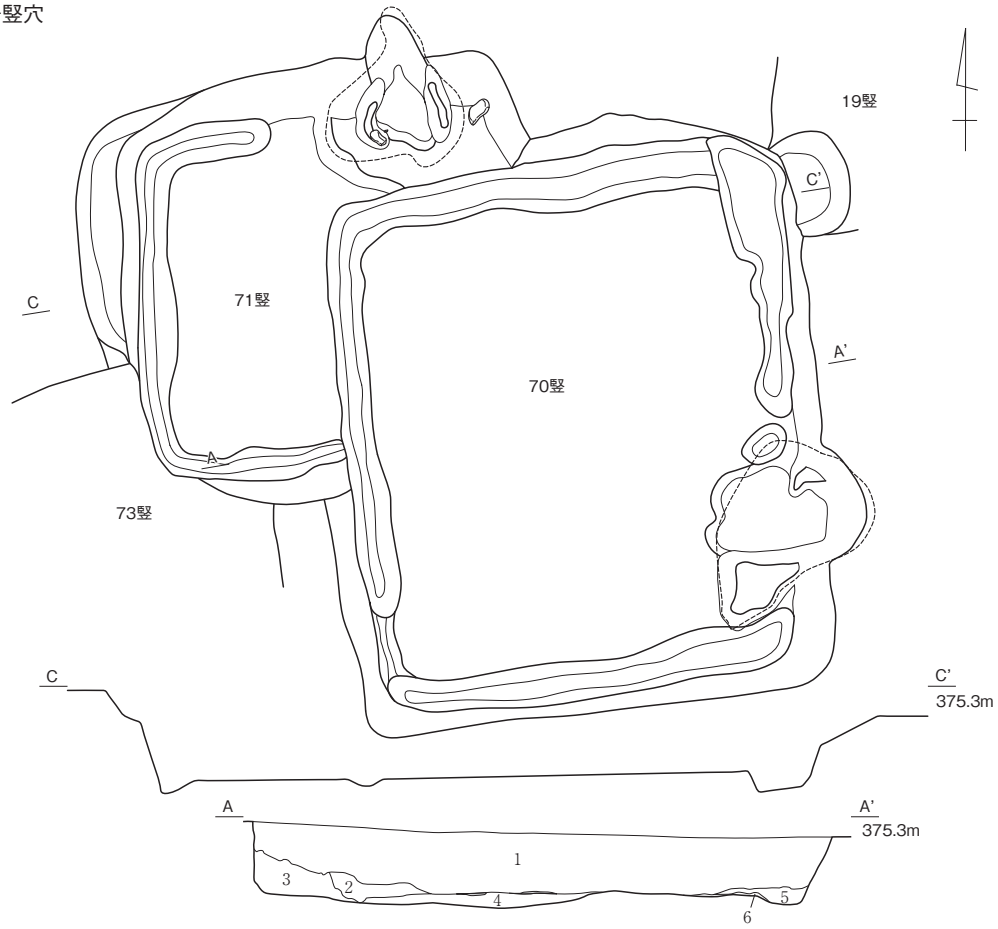


1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土ブロック多い。炭化粒入。
2 焼土
3 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・炭化粒入。
4 焼土
5 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　粗粒。砂。地山～地山直上。
6 黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土。
7 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂質ブロック・砂粒入。
8 暗褐色砂質土 (10YR3/4)　炭化粒・焼土粒入。竈焚口内炭化物多い。
9 炭化物層　焼土ブロックやや多い。褐色土ブロック入。

0 (1:30) 1m

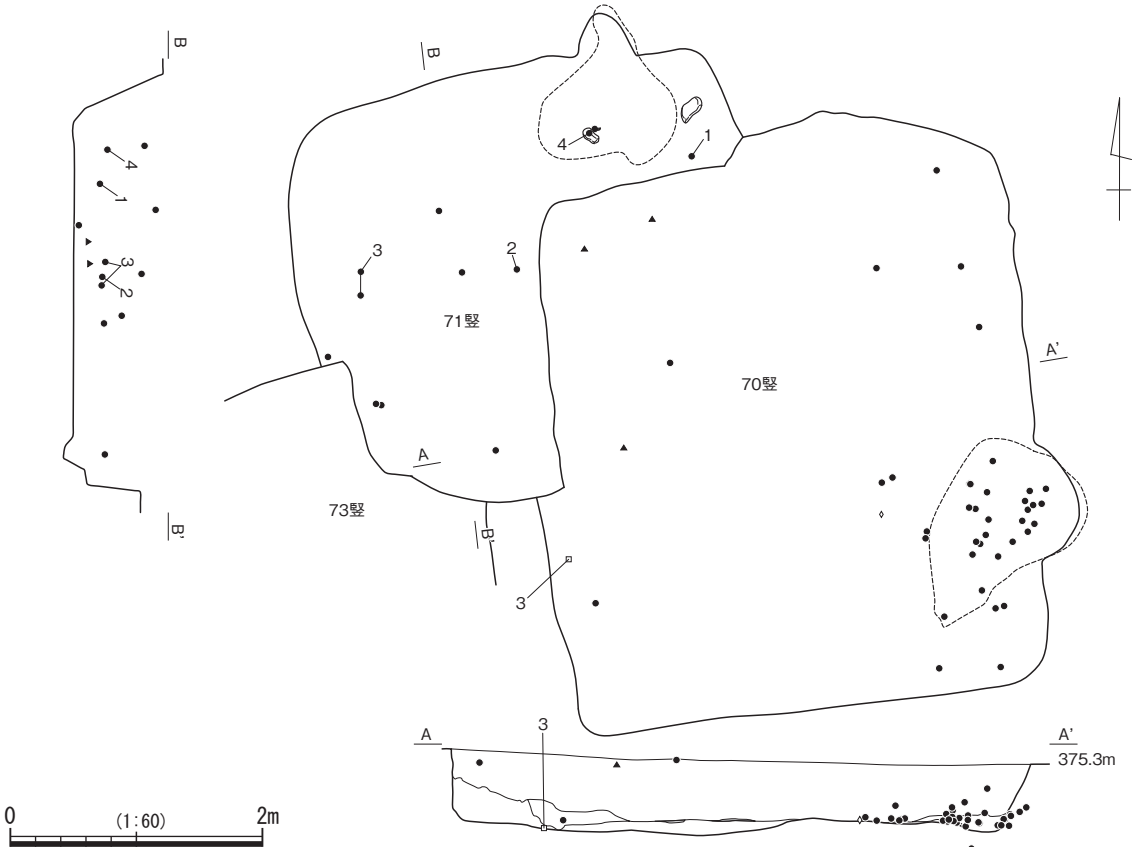
第61図　62・63号竪穴

70・71号竪穴



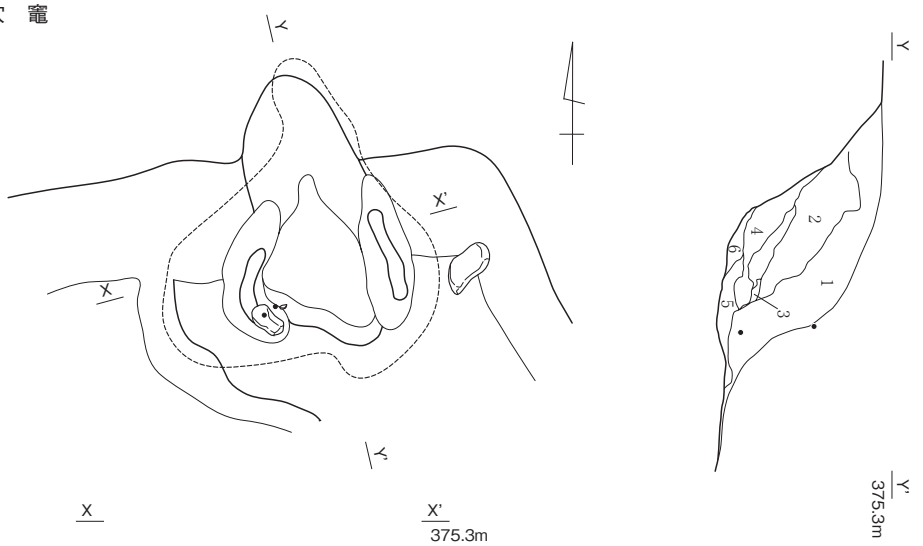
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂質土小ブロックやや多い。砂粒入。焼土粒・炭化粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　褐色小ブロック・砂粒入。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　やや黒味有り。極細～細粒。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　上層に薄い貼り床有り。褐色粘質土。炭化粒・褐色粒入。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒入。炭化粒・焼土粒入。
6　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土小ブロック入。

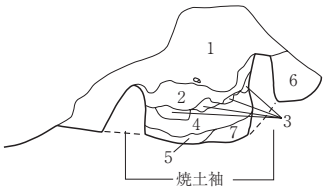
70・71号竪穴遺物出土状況



第62図　70・71号竪穴（1）

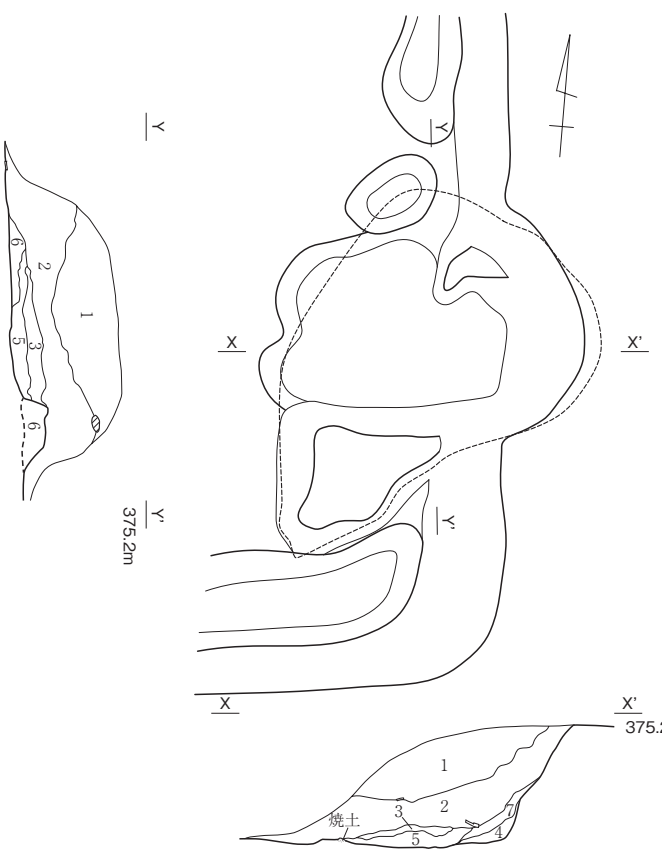
71号竪穴　竈



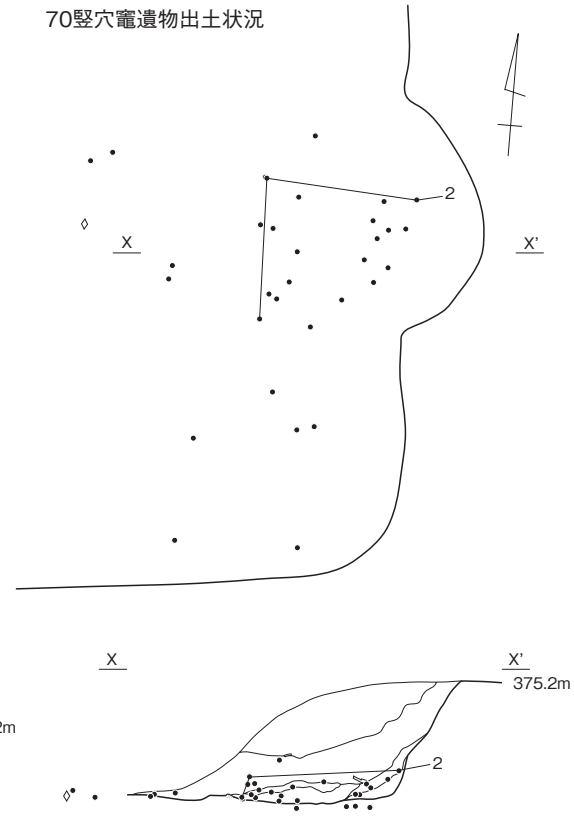


1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　灰黄褐色砂質小ブロックをやや多く含む。
2　極暗褐色砂質土 (7.5YR2/3)　焼土粒・小ブロックをやや多く含む。炭化粒・焼土粒入。極細砂。
3　焼土層
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　灰黄褐色小ブロック入。
5　黒褐色砂質土 (10YR2/3)＋焼土小ブロック　焼土ブロックをやや多く含む。
6　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗粒砂。地山と同質。壁か。
7　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。

70号竪穴　竈



70竪穴竈遺物出土状況

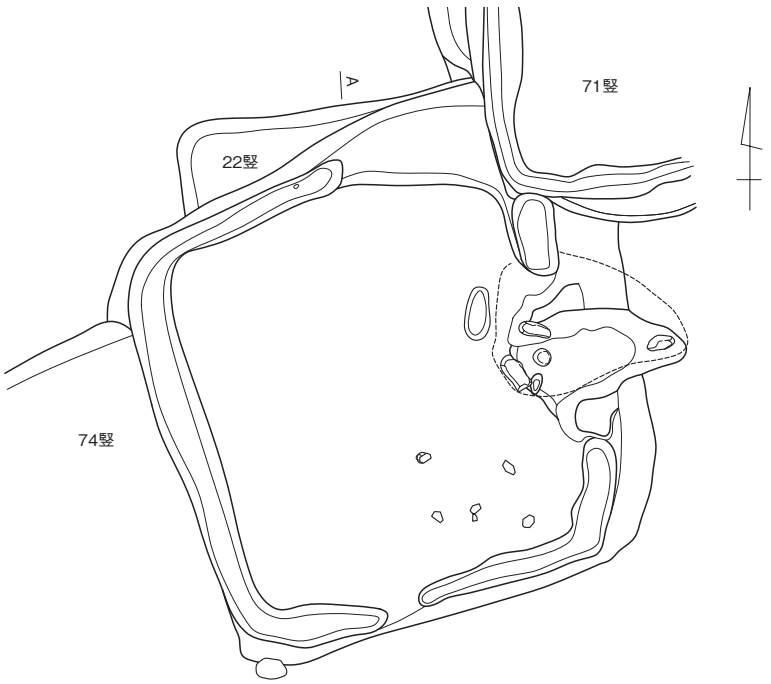


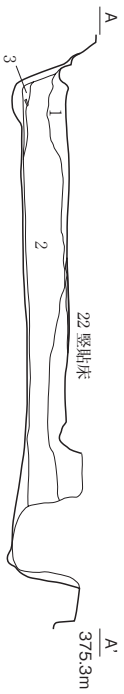
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色小ブロックやや多い。焼土小ブロック・砂粒・炭化粒・焼土粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　竈粘土に類似した砂質土。炭化粒・焼土粒入。
3　炭化物層　　焼土小ブロック・炭化粒・焼土粒入。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロック入。
5　焼土層
6　褐色砂質土＋焼土ブロック　竈袖部。焼土小ブロックやや多い。
7　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土小ブロック入。焼土やや多い。

0　(1:30)　1m

第63図　70・71号竪穴（2）

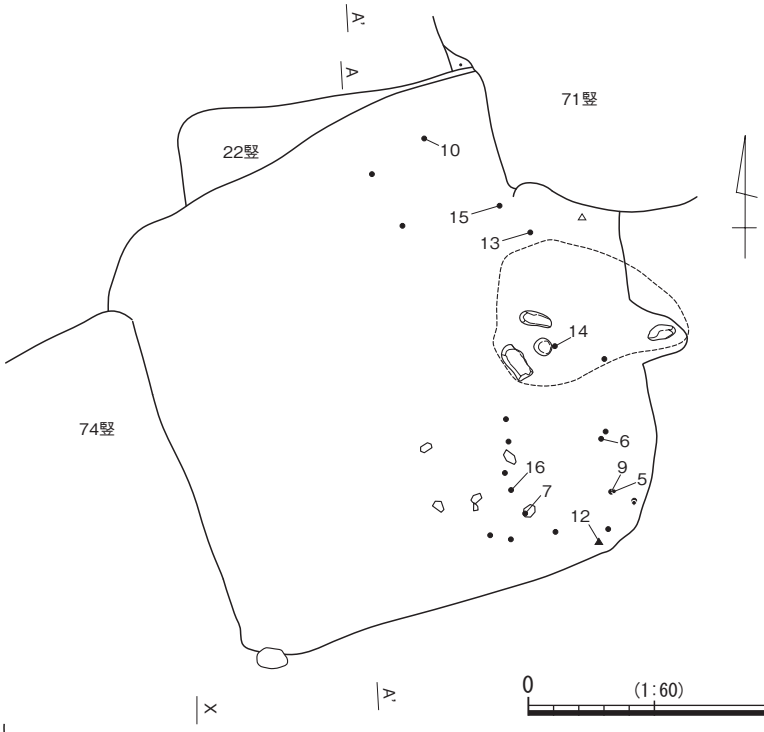
73号竪穴



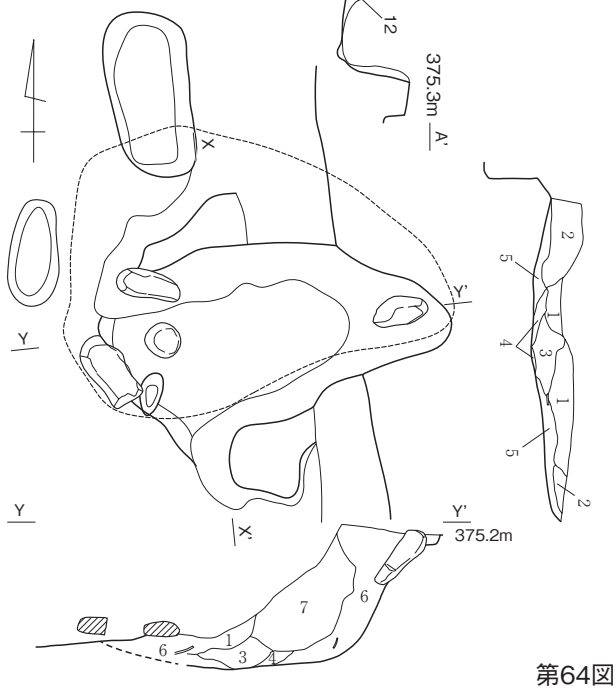


1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 炭化粒・焼土粒・砂粒入。灰褐色砂小ブロックやや多く入。
2 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 炭化粒・焼土粒・灰褐色砂小ブロック入。
3 暗褐色砂質土 (10YR3/3) やや粗粒。灰褐色砂小ブロック入。

73号竪穴遺物出土状況



73号竪穴　竈

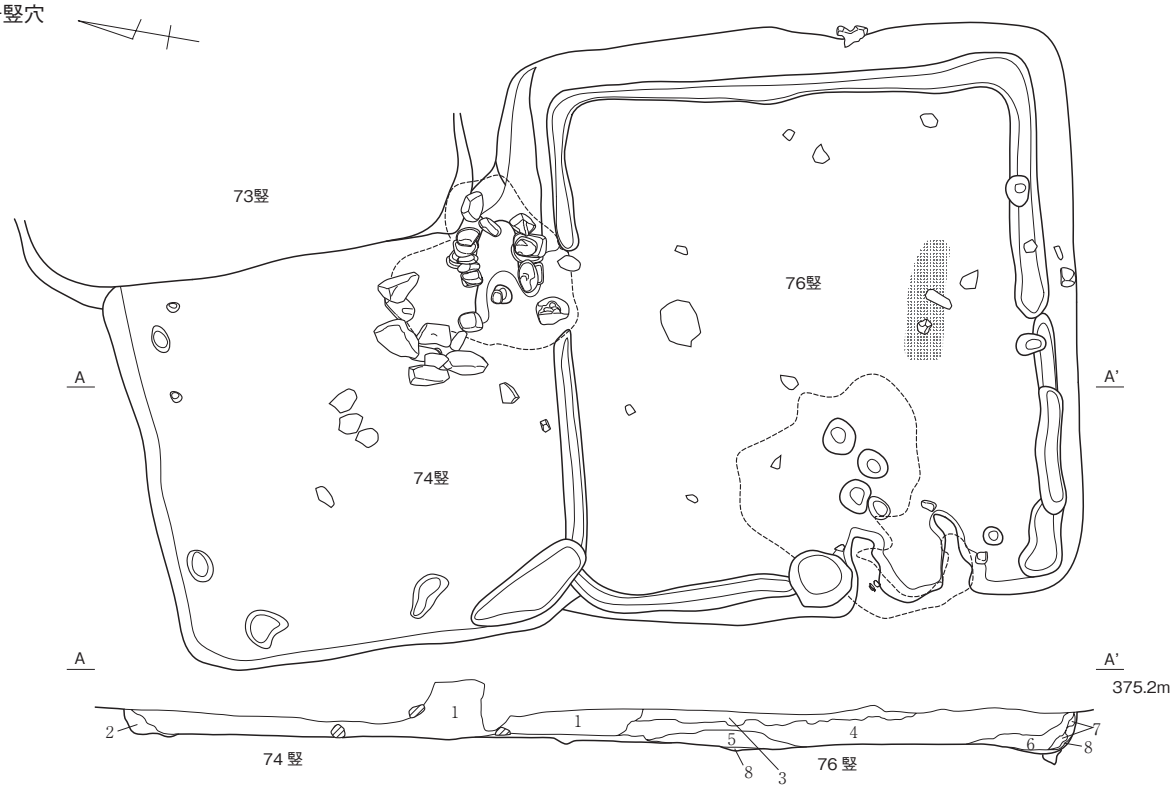


1 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒・炭化粒。黒味強い。焼土粒やや多い。
2 褐色砂質土 (10YR4/4) 竈粘土。崩土。
3 暗褐色土 (10YR3/4)+ 焼土層 焼土多い。
4 焼土層
5 暗褐色砂質土 (10YR3/4)
6 暗褐色砂質土 (10YR3/4) + 焼土 煙道内。焼土やや多い。
7 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 地山。

0 (1:30) 1m

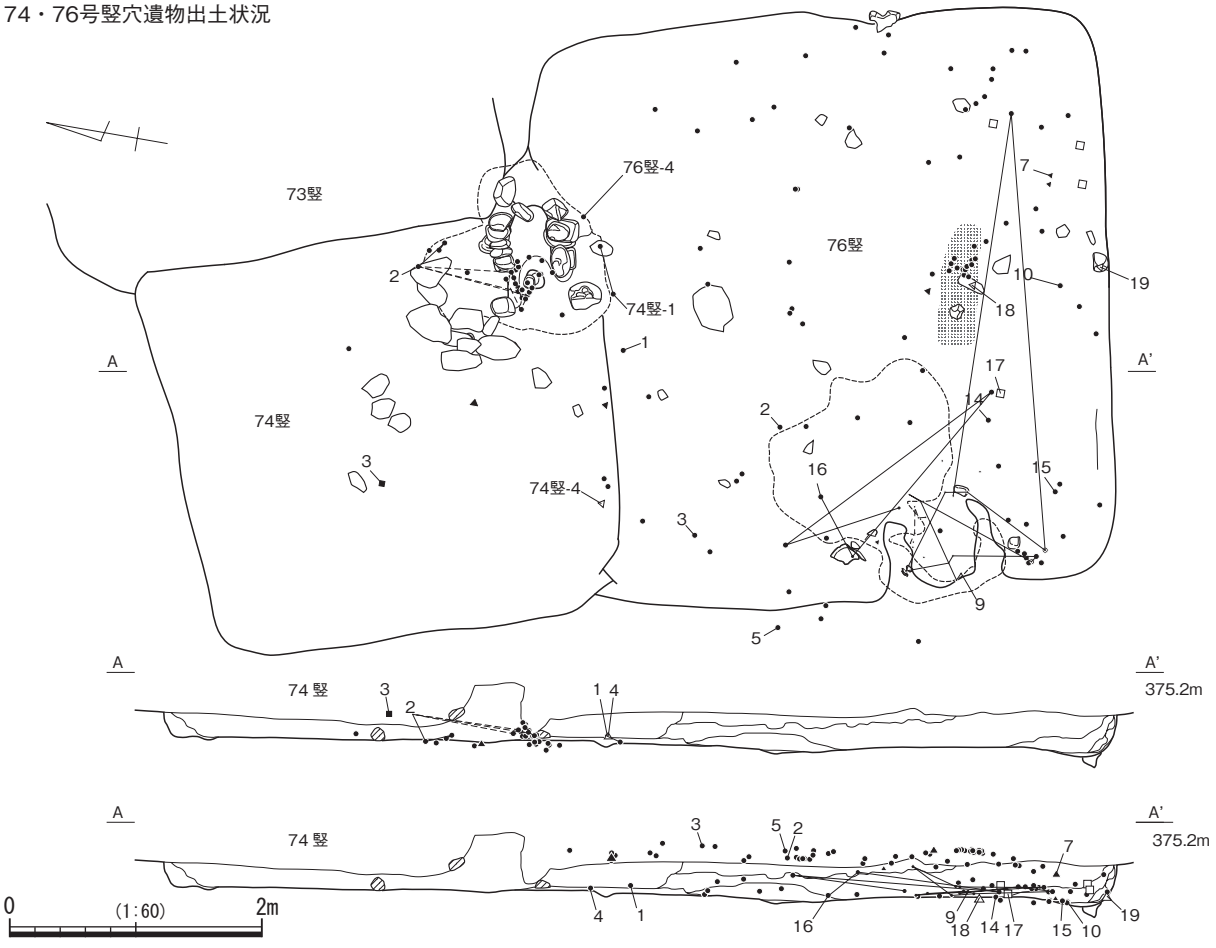
第64図　73号竪穴

74・76号竪穴



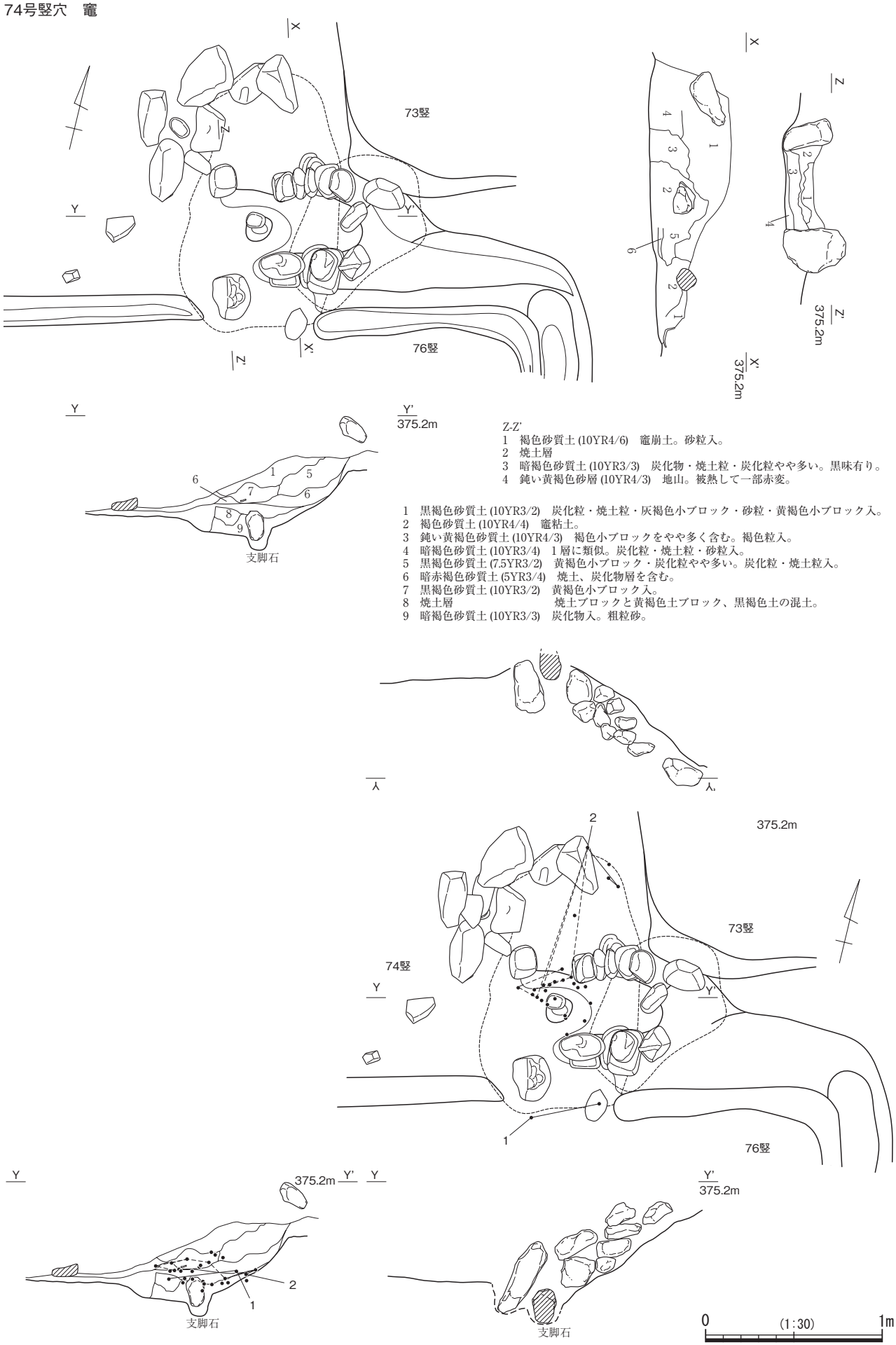
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　灰褐色小ブロック・砂粒・炭化粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗粒。壁崩土。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。灰褐色小ブロック・焼土粒・炭化粒入。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂小ブロックやや多い。焼土小ブロックやや目立つ。焼土粒・炭化粒入。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土粒・炭化粒・焼土小ブロック入。
6　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土粒・炭化粒入。4 層に似るが、灰褐色砂小ブロックが少ない。
7　黒褐色土 (10YR2/2)　黒味の強い土。
8　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗粒砂。地山と同じ。

74・76号竪穴遺物出土状況



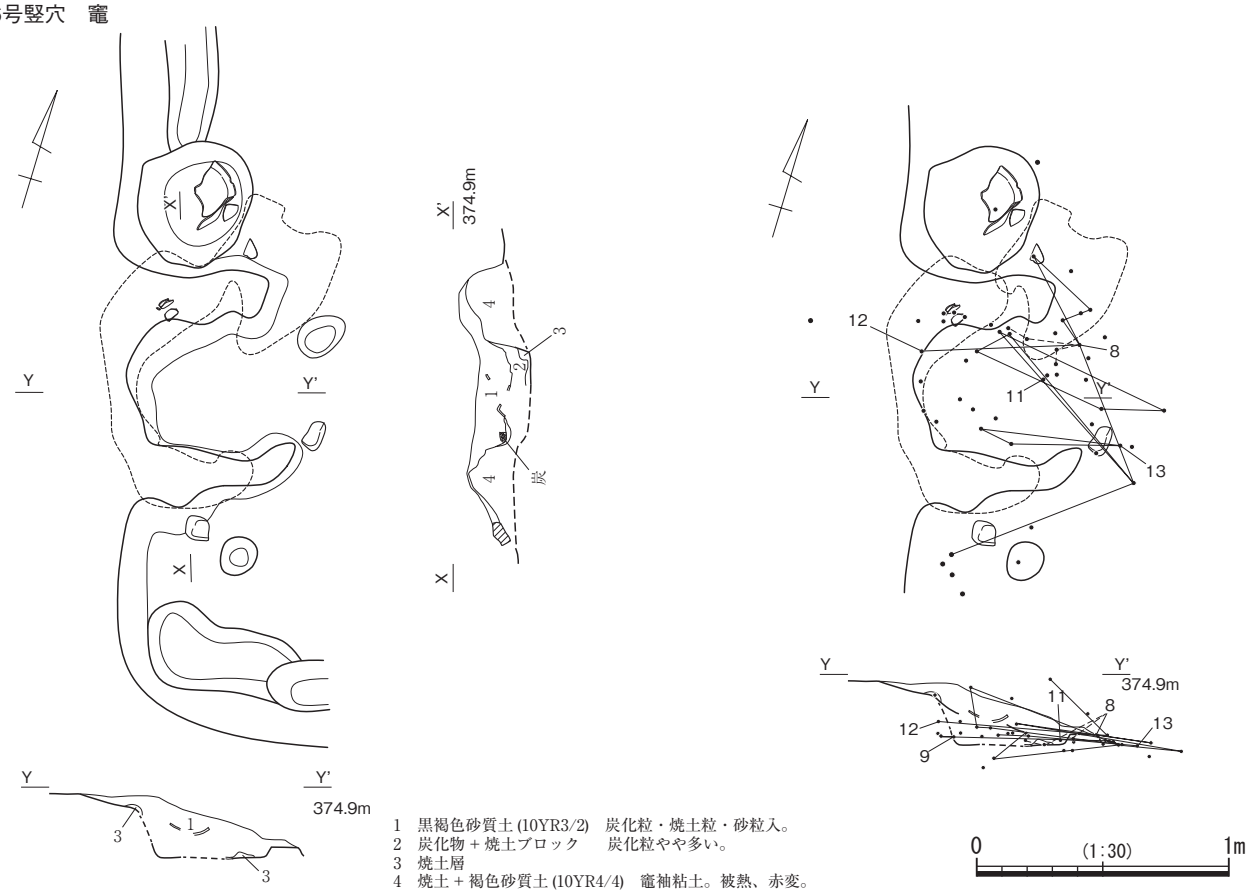
第65図　74・76号竪穴

74号竪穴　竈



第66図　74号竪穴

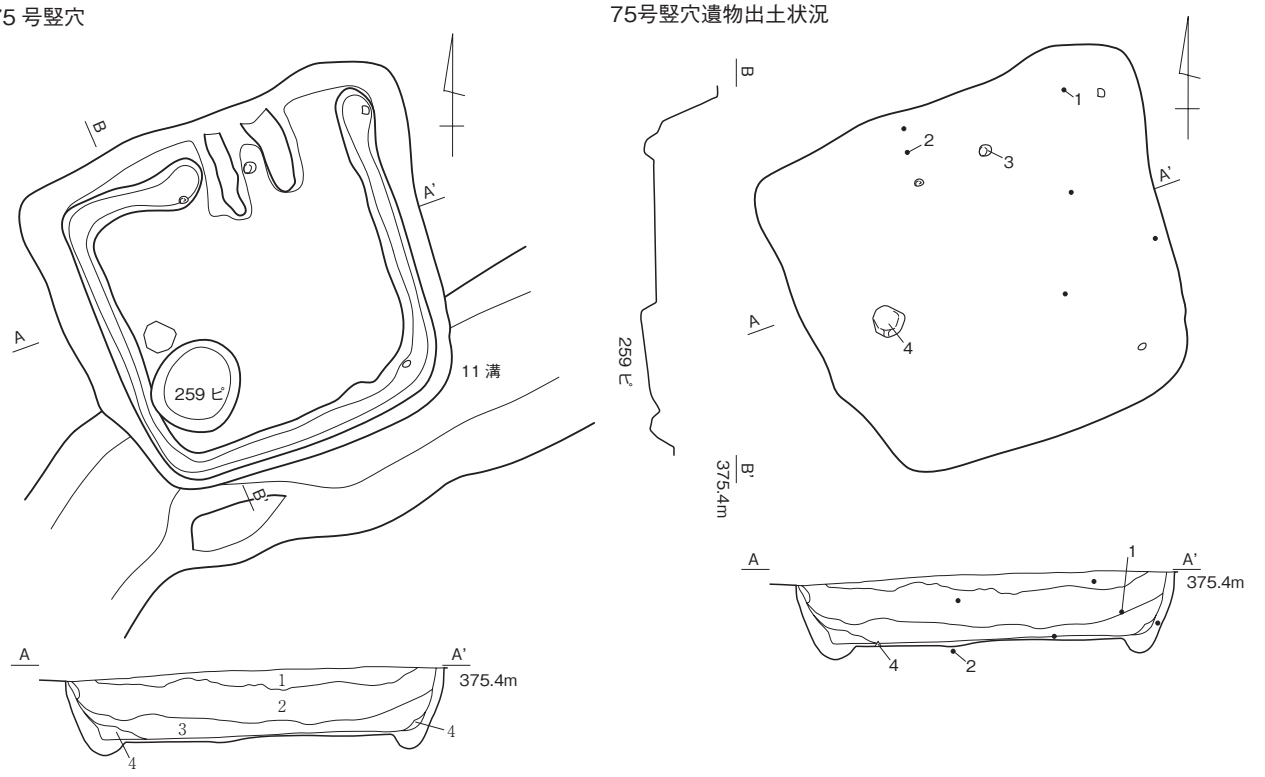
76号竪穴　竈



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・砂粒入。
2　炭化物＋焼土ブロック　　炭化粒やや多い。
3　焼土層
4　焼土＋褐色砂質土 (10YR4/4)　竈袖粘土。被熱、赤変。

75 号竪穴

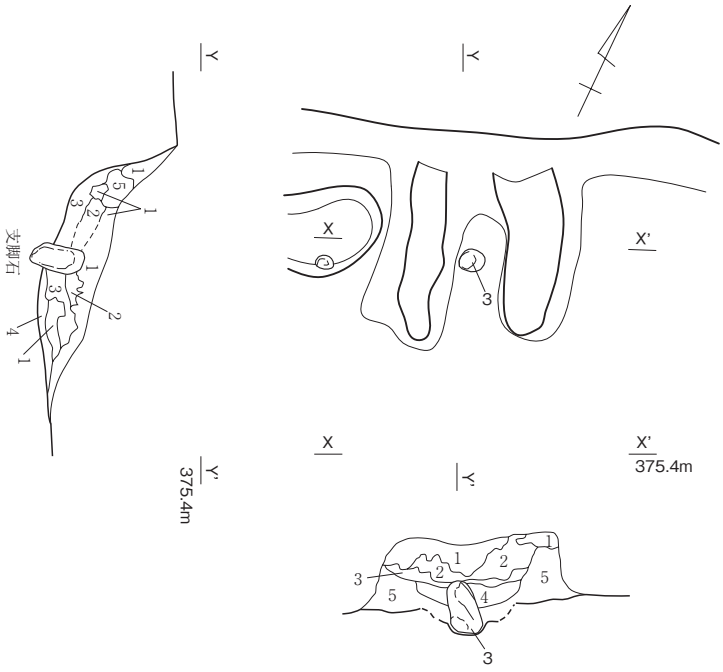
75号竪穴遺物出土状況



1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化粒・焼土粒・黄色土小ブロック・砂粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色小ブロックやや多く入。炭化粒・焼土粒入。やや粗粒。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化粒・焼土粒入。やや極細砂。灰褐色小ブロック入。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。褐色粒入。壁崩土混。

第67図　75・76号竪穴

75 号竪穴 竈

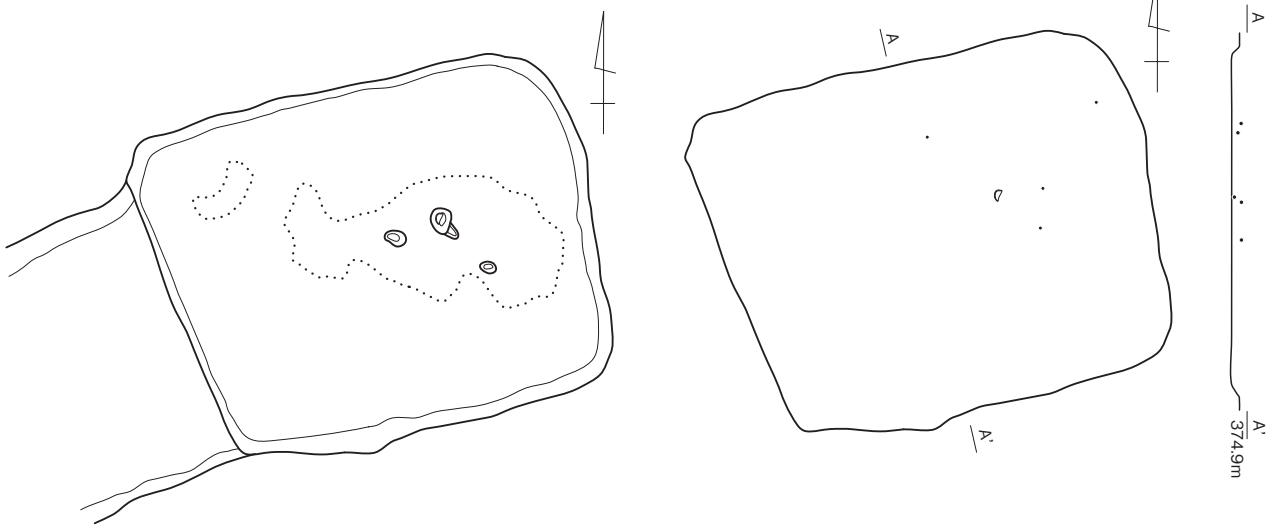


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土ブロック・炭化粒・焼土粒・黄褐色小ブロック入。
2　褐色砂質土 (10YR4/4)　竈粘土を主とする。黒褐色小ブロック・炭化粒・焼土粒・焼土小ブロック入。
3　焼土層
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化粒やや多い。黒味強い。
5　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　竈粘土。崩土。

0　(1:30)　1m

77 号竪穴

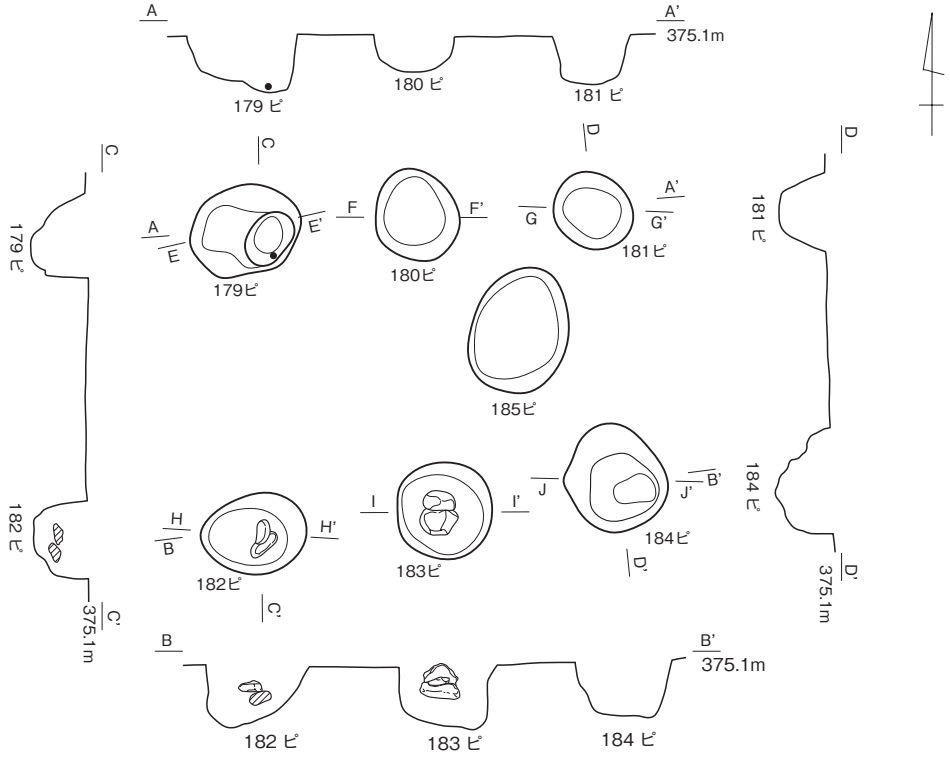
77号竪穴遺物出土状況

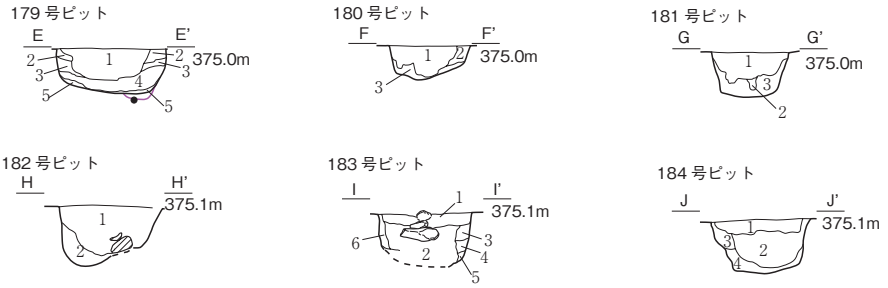


0　(1:60)　2m

第68図　75・77号竪穴

1号掘立柱建物





1号掘立

179 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒・炭化粒・灰黄褐色砂質ブロック・褐色粒入。極細砂。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に似た砂質土。灰褐色ブロック多い。極細砂。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや黒味有り。1 層に似る。褐色粒入。極細砂。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　3 層よりも黒味弱い。灰褐色ブロック入。2 層に近い。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。地山直上。

180 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。炭化物・焼土粒・砂粒・褐色粒入。灰褐色砂ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　1 層に似る。黒味有り。炭化粒入。極細砂。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　褐色味強い。極細砂。地山直上。

181 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黄褐色小ブロック・灰褐色ブロック・炭化粒・砂粒入。極細～細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味強い。極細砂。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。砂粒入。

182 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。褐色粒・灰褐色小ブロック・詰め石状の礫入。炭化粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。やや黒味有り。

183 ピ
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒入。2 層より黒味弱い。礫入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。極細砂。褐色粒入。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味有り。極細砂。
5　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
6　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。地山。

184 ピ
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。灰褐色砂質ブロックやや多い。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・褐色土小ブロック・灰褐色小ブロック入。極細砂。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒入。極細砂。地山崩土含む。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　2 層に似る。極細砂。

2号掘立

35 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細粒。炭化粒・焼土粒・灰黄褐色砂ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや黒味有り。黄褐色ロームブロック入。

36 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。1 層よりも粗粒。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に近い。

37 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂～極細砂。炭化粒・焼土粒入。密。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細砂。1 層よりは粗粒。褐色味強い。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　細～極細砂。砂粒入。褐色味強い。
4　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　粗粒。地山の砂層。

41 ピ
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化物やや多い。焼土小ブロック・焼土粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや黄味有り。炭化粒入。

42 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒・灰黄褐色砂小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや黒味有り。極細砂。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。地山直上。

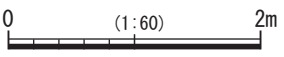
45 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰黄褐色小ブロック・焼土小ブロック (φ0.2cm) 入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。黄色砂ブロック・褐色小礫入。

92 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂～細砂。砂粒・灰褐色小ブロック・褐色粒入。やや黒味有り。

93 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色小ブロック・褐色粒・炭化物入。やや黒味有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)

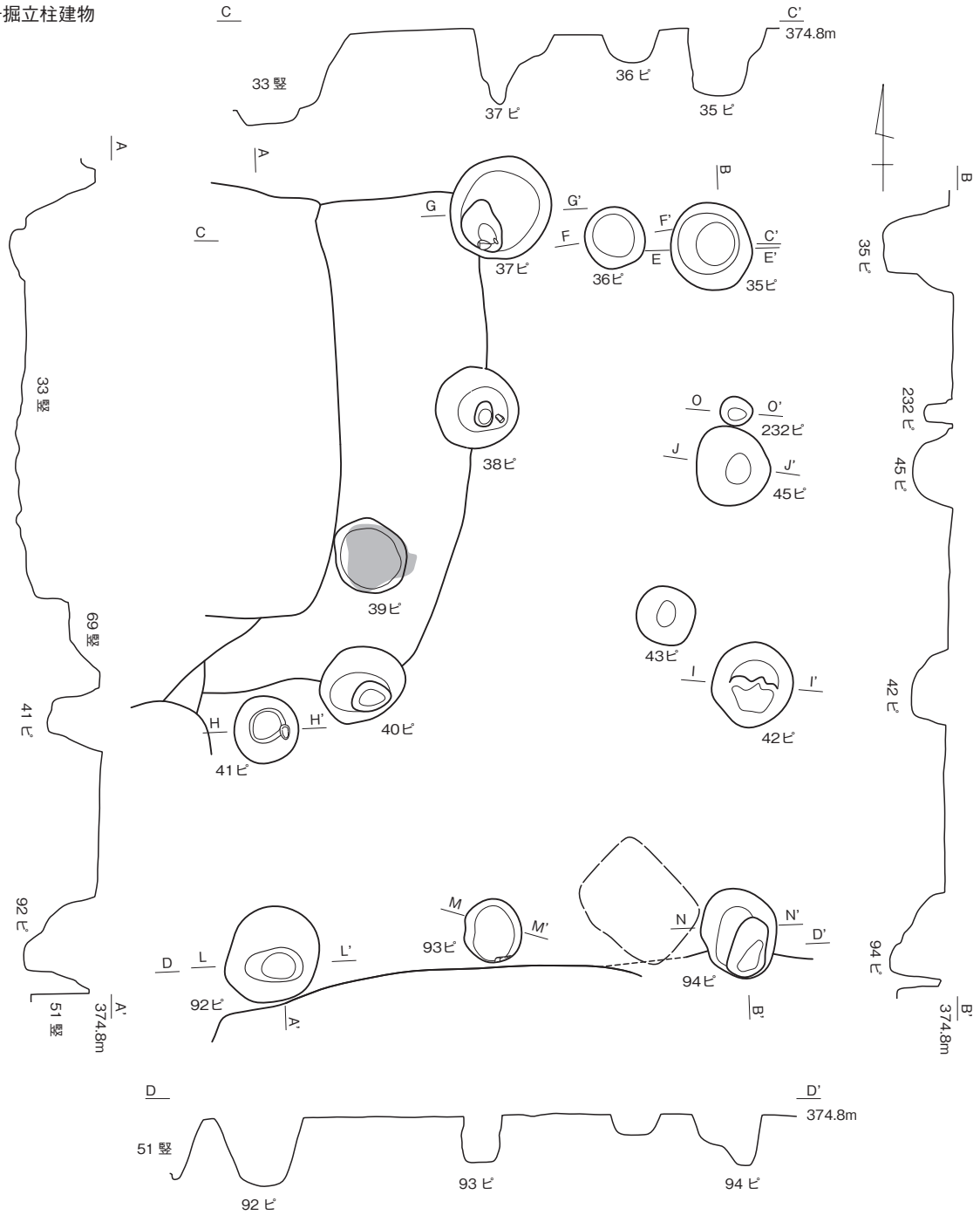
94 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3) 上層に砂粒やや多い。灰褐色ブロック・砂粒入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に近い。地山直上。

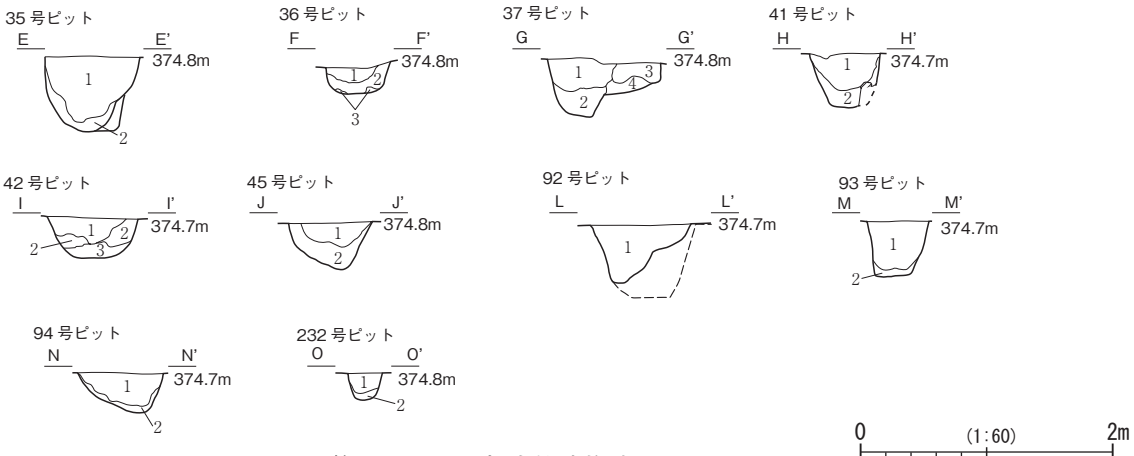
232 ピ
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　褐色粒・砂粒入。灰褐色砂小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗。砂粒入。

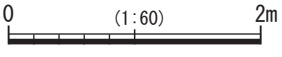


第69図　1 号掘立柱建物跡

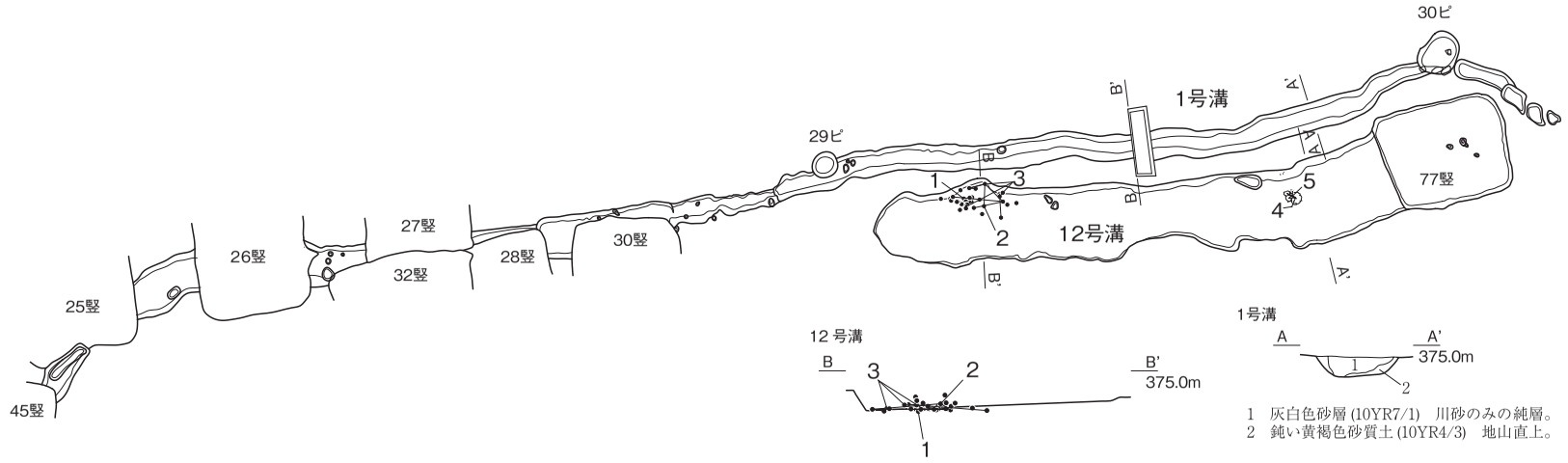
2号掘立柱建物



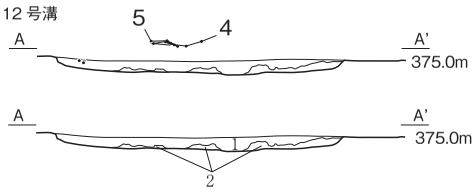




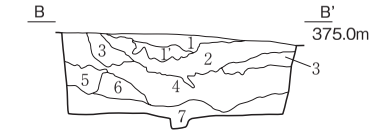
第70図　２号掘立柱建物跡



1 灰白色砂層 (10YR7/1)　川砂のみの純層。
2 鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山直上。

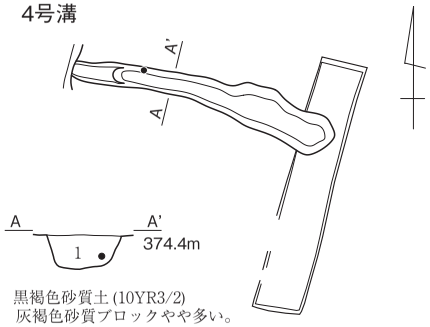


1 暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒・褐色粒入。
2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗粒砂。地山直上。



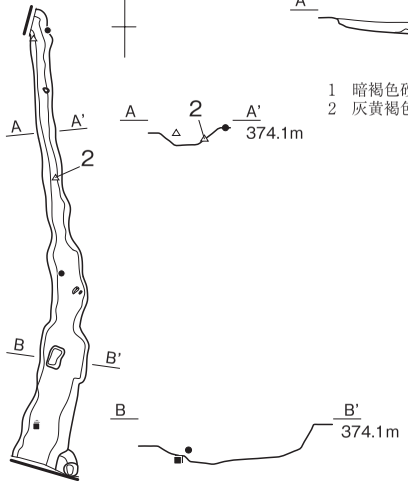
1 褐灰色砂質土 (10YR6/1)　極細砂粒。
1' 褐灰色砂質土 (10YR6/1)　粗粒砂。
2 鈍い黄褐色砂質土 (10YR5/3)　極細砂粒。
1 層よりも細かい。炭化粒入。
3 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山とした斑状の砂粒で炭化粒入。
やや暗色。
4 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) ～黒褐色砂質土 (10YR3/2)
地山としたマダラ状の砂層。砂粒を含む。
5 黒褐色砂質土 (10YR3/1)　粗粒砂。黒味有り。溝状。
6 黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。やや粗い。
7 黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細粒砂。黒味有り。

4号溝

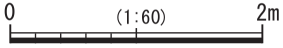


1 黒褐色砂質土 (10YR3/2)
灰褐色砂質ブロックやや多い。
砂粒・褐色粒入。

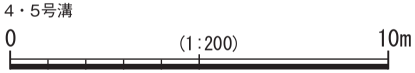
5号溝



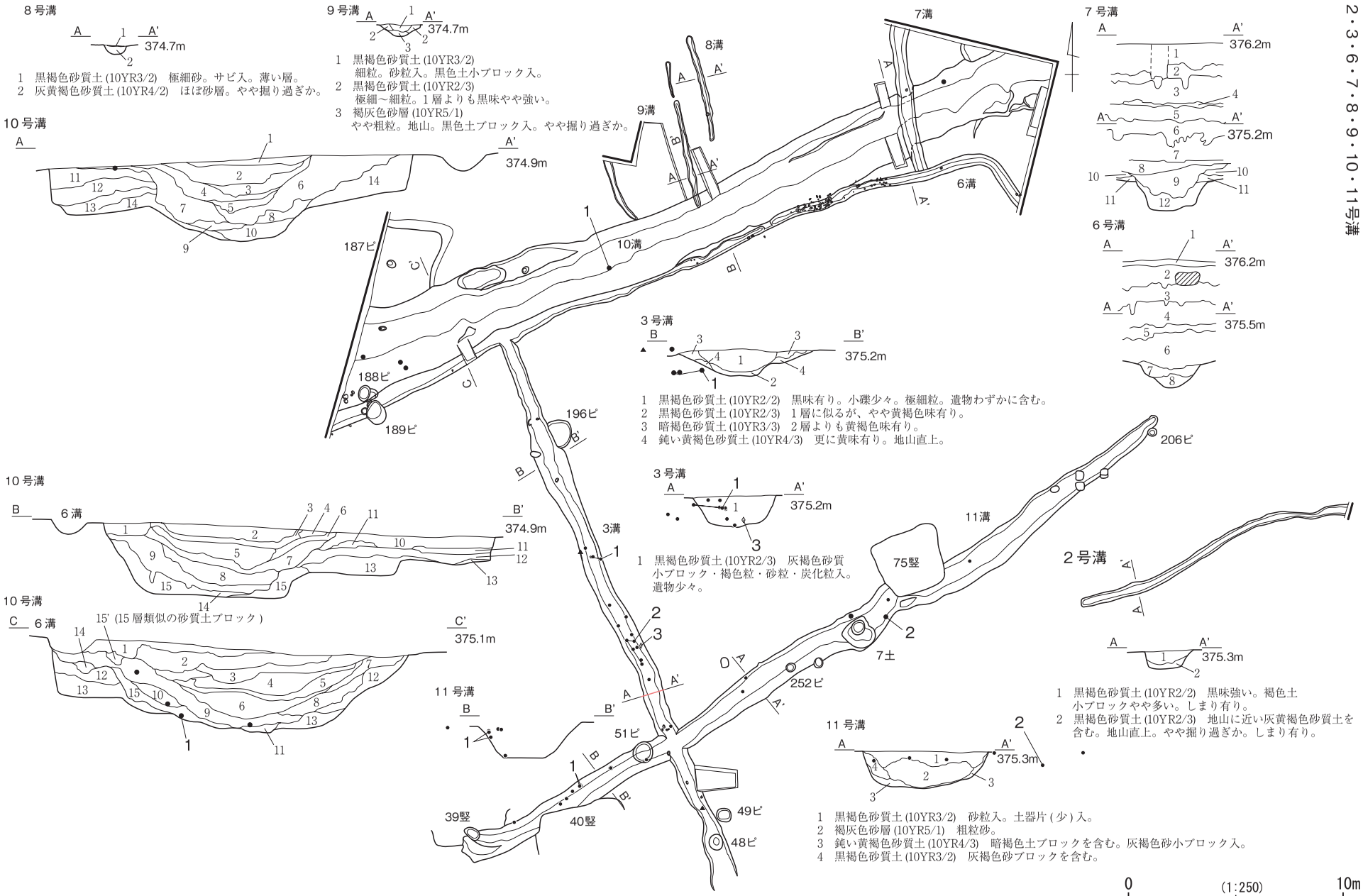
1・12号溝



4・5号溝



第71図　1・4・5・12号溝



第72図　2・3・6～11号溝

6 溝
1　褐灰色砂質土 (10YR4/1)　表土。
2　褐灰色砂質土 (10YR4/1)　耕作土。砂粒入。
3　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　水田床土か。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒・炭化粒・焼土粒・褐色粒入。
5　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　褐色ブロック主体。
6　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　炭化粒・焼土粒・砂粒入。
7　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。砂のブロック入。褐色粒・礫・炭化粒入。
8　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。黒味強い。黒色帯に似る。

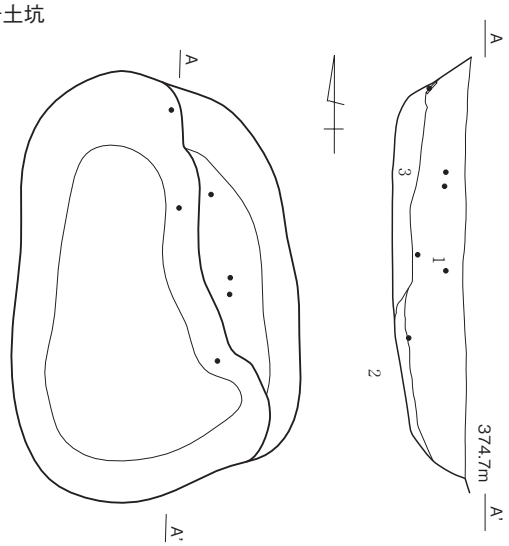
7 溝
1　灰黄褐色土 (10YR4/2)　耕作土。表土。極細粒。炭化粒・砂粒入。
2　褐色土 (10YR4/4)　ローム色。旧水田床土か。やや粗粒。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒多い。褐色土小ブロック・炭化粒入。やや粗粒。
4　褐色砂質土 (10YR4/4)　ローム土。薄い。砂粒入。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや褐色味強い。砂粒・炭化粒・褐色粒入。
6　褐色砂質土 (10YR4/4)　ローム色。砂粒やや多い。褐色粒・炭化粒入。
7　黒褐色砂質土 (10YR3/1)　黒味強い。砂粒入。9 層と類似。8・9 層よりも緻密。
8　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味強い。砂粒・褐色粒入。やや粗粒。
9　黒褐色砂質土 (10YR3/1)　黒味強い。砂粒・褐色土小ブロック入。
10　褐灰色砂層 (10YR5/1)　砂層。地山。
11　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　細粒。黒味強い。
12　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや掘り過ぎか。砂層と黒色土の混土。
やや粗粒。サビ化した色。

10 溝 B-B'
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　サビ化した極細～細砂。褐色土小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)+ 砂層混土　粗粒の砂層中に黒色土ブロック混入。
炭化粒・褐色土小ブロック入。サビ化。
3　黒色シルト (10YR2/1)　緻密。薄い砂層を挟む。
4　褐灰色砂質土 (10YR4/1)　極細砂。
5　灰黄褐色砂層 (10YR5/2)　粗い砂層。φ0.5cm の円礫を含む。サビ入。下層はやや細かい。
6　黒色シルト (10YR2/1)　3 層よりは黒味がやや弱い。
7　黒色シルト (10YR2/1)　薄い砂層を挟む。
8　黒褐色砂質土 (10YR3/1)　黒色土を含む砂層。中間がサビ化する。細～やや粗粒。
9　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒色土小ブロックを含む。砂粒入。極細～細砂。
10　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。黒味有り。
11　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　褐色味有り。極細～細砂。
12　黒色砂質土 (10YR2/1)　黒味強い。砂粒入。
13　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　やや粗～粗粒。砂粒多い。
14　黒褐色砂質土 (10YR3/2) ～赤褐色砂質土 (サビ色)　溝の最下層。サビ化する。
やや粗い砂層。
15　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰褐色味のある極細砂。地山。

10 溝 A-A'
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　極細砂～シルト。砂 (質土) ブロック入。炭化粒入。
2　灰黄褐色砂 (10YR6/2)　白色粒を主とする砂層。中間にサビ化した砂層含む。粗粒。
3　褐灰色砂～砂質土 (10YR4/2)　上層に極細～シルト。下層に砂層。
4　黒褐色シルト (10YR3/2)　5 層の上層として存在する。黒味ある層とそうでない層の互層。
炭化粒入。
5　褐灰色砂 (10YR4/2)　粗い砂層。
6　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　灰褐色ブロック・砂粒を多く含む。サビ入。炭化粒入。
7　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　6 層と類似。砂層ブロックがより多い。最下層にサビ層有り。
8　灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)　細砂。黒色土粒入。
9　灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)　砂層と黒色シルト層の互層。3 層ほど存在する。
10　黒褐色シルト (10YR2/2)　黒色土中に 14 層の褐色砂質土ブロックを含む。
11　褐灰色砂質土 (10YR4/1)　灰色味強い砂層。上面サビ化。
12　灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)　上面サビ化。
13　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味強い砂質土。やや粗粒。
14　灰黄褐色砂 (10YR5/2)　地山。

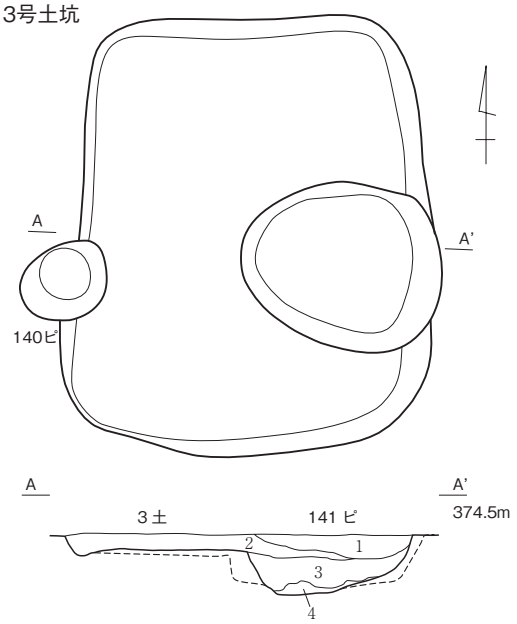
10 溝 C-C'
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　極細砂。炭化粒・サビ・褐色小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。1 層より粗。炭化粒・焼土粒・黒色土ブロック入。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。褐色粒・砂粒入。
4　褐灰色砂層 (10YR5/1)　砂層。粗粒。下層は細かく、上層は粗い。数面有り。
小礫 (φ0.4cm) 入。
5　黒褐色シルト (10YR3/1)　極細砂。黒味強い。泥状。
6　褐灰色砂層 (10YR5/1)　数面の砂 (質土) 層。2 面の薄いシルトを含む。粗粒砂。
7　黒褐色砂質土層 (10YR3/2)　やや黒味有り。極細砂。
8　黒色砂質土 (10YR2/1)　黒い極細砂。泥炭状。褐色土・炭化粒入。一部泥炭状。
植物遺体片有り。
9　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　7 層に類似。やや粗い極細砂。炭化粒・砂粒入。
植物遺体片有り。
10　黒色砂質土 (10YR2/1)　8 層に類似。黒味強い。泥炭状。
11　褐色砂層 (10YR4/4)　サビ化した粗い砂粒。
12　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山。褐色味のある砂質土層。極細砂。
13　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山。灰褐色のシルト状のブロックを含む砂質土。極細砂。
14　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色のシルト状のブロックを含む。
15　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　10 層の黒色土ブロックと 12 層の混土。
15'　15 層類似の砂質土ブロック。
16　灰黄褐色砂質土 (10YR6/2)
17　暗褐色砂質土 (10YR3/3)

1号土坑



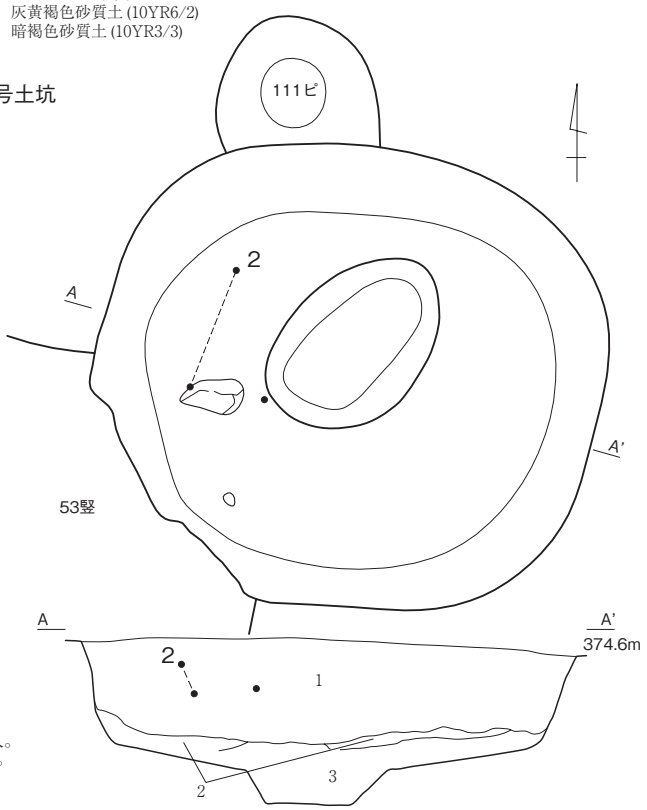
1 土
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　褐色粒・焼土粒・炭化粒やや多い。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　1 層に似る。褐色土小ブロックやや多い。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　地山か。やや粗。褐色土小ブロック入。

3号土坑



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒入。やや黒味有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　褐色味有り。極細砂。褐色土。砂粒・灰褐色砂ブロック入。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　1 層に似る。1 層よりもやや黒い。細砂。やや粗。砂粒入。
4　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山直上～地山。やや粗い砂。

2号土坑

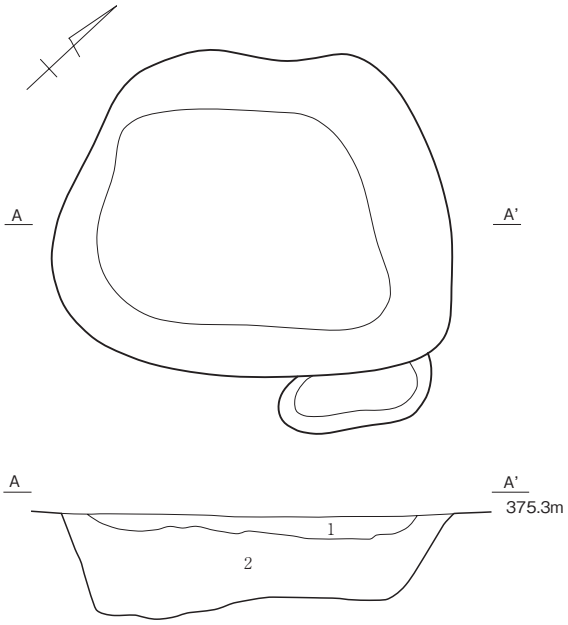


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。砂粒やや多い。炭化粒・褐色粒入。土器入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。極細砂。褐色粒入。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。地山直上。極細～細砂。灰褐色小ブロックやや多い。

0　(1:30)　1m

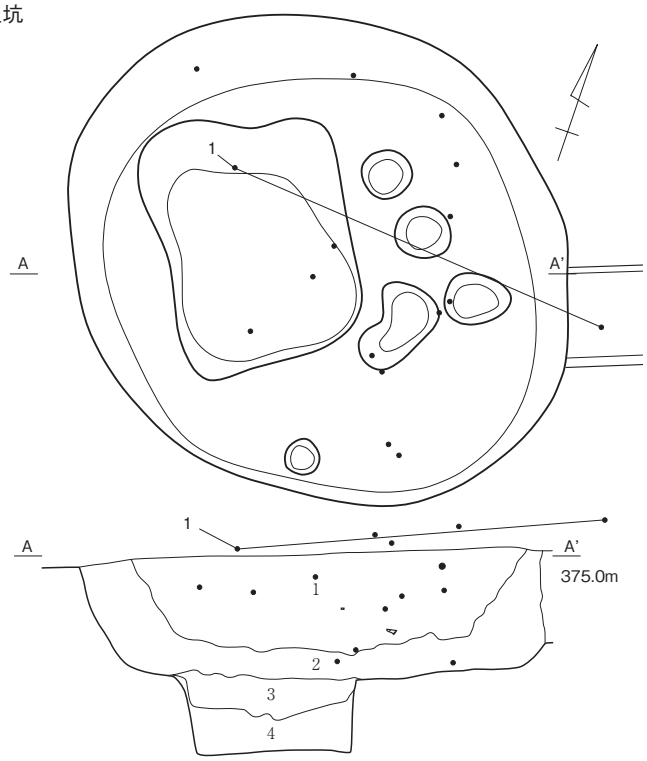
第73図　1～3号土坑

4号土坑



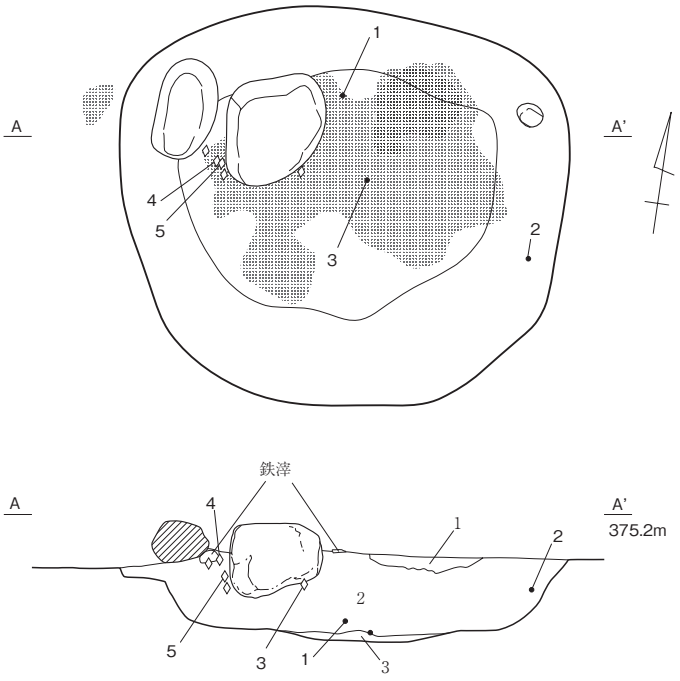
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒・褐色粒・炭化粒入。
　　周囲は暗褐色土～黒褐色。土坑部分は明るい。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　褐色粒 (サビ状) ・炭化粒入。

5号土坑



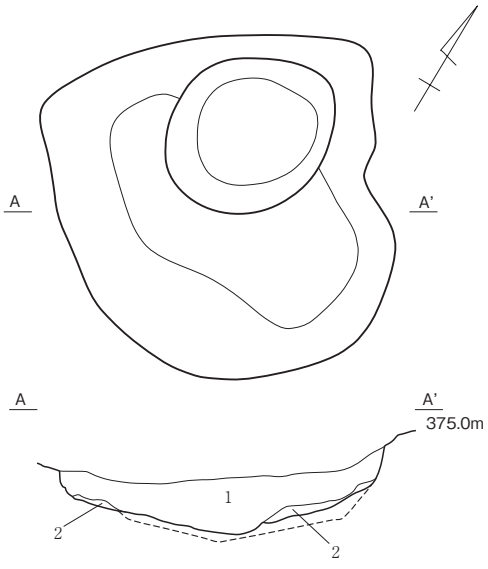
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物やや多い。砂粒・灰褐色小ブロック入。極細～細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化物入。やや黒味有り。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　2 層よりも黒味強い。灰褐色ブロック入。やや粗粒。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　極細砂。

6号土坑



1　炭化物層　　炭化物中に焼土小ブロック・鉄滓片を含む。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　平安末の土器含む。炭化物・焼土小ブロック入。極細砂。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山直上。褐色土ブロック入。

7号土坑

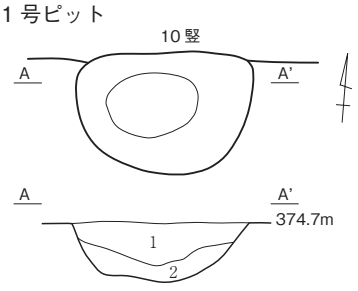


1　灰黄褐色砂 (10YR5/2)　11 溝内の砂層と同質。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　地山の黒色帯と同色。

0　(1:30)　1m

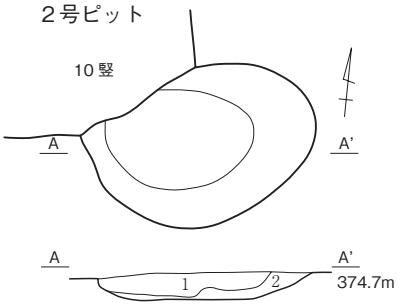
第74図　4～7号土坑

1号ピット



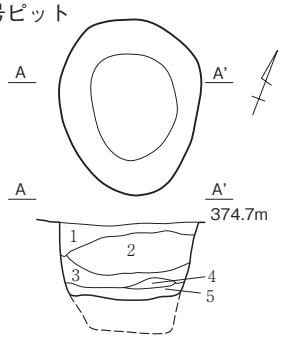
1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　白色砂粒やや多い。やや粗。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　炭化粒入。やや密。

2号ピット



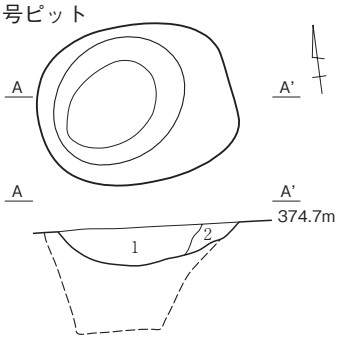
1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや黒味有り。灰白色小ブロック入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に近い砂質土。

3号ピット



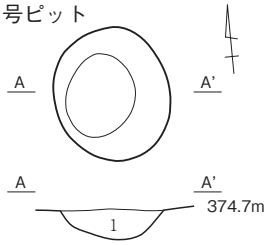
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　密。焼土入。
2　褐灰色砂層 (10YR5/1)　砂だまり状。粗い砂主体。土器片やや多く入。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒入。
4　褐灰色砂層 (10YR5/1)　粗い砂粒主体。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　1層に似る。やや密。

4号ピット



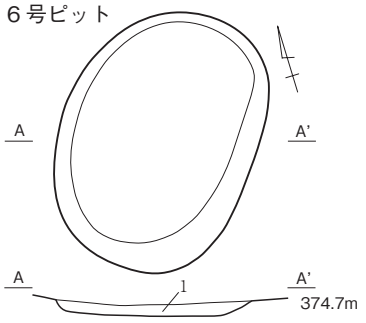
1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　やや黒味有り。やや密。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　地山に近い。

5号ピット



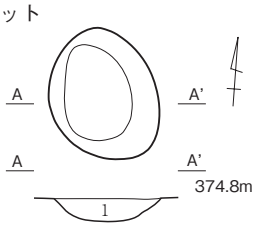
1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや粗。砂粒入。

6号ピット



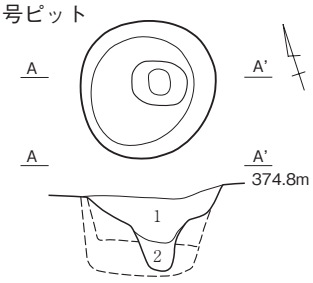
1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　白色砂粒入。やや黒味有り。

7号ピット



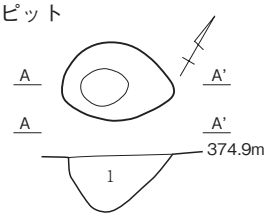
1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　砂粒やや多い。地山よりも黒味有り。

8号ピット



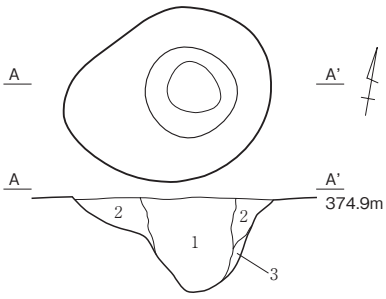
1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　灰白色小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　1層よりもやや密。黒味有り。

9号ピット



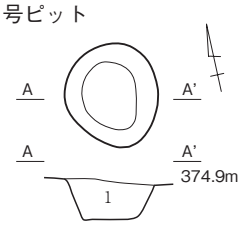
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　黒褐色小ブロック・砂粒・炭化物入。

10号ピット



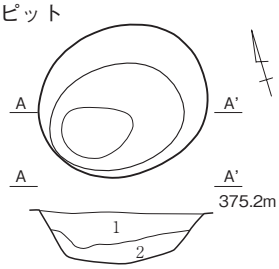
11　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　炭化物 (φ0.2 ～ 0.4cm) 入。黒味有り。砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　黒褐色土小ブロック・黄褐色小ブロック入。黒味有り。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　灰黄褐色砂質土主体。地山に近い。

11号ピット



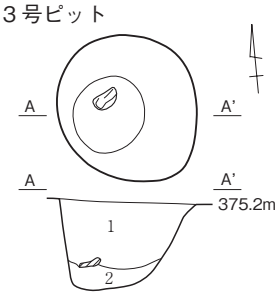
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒・炭化物入。やや粗。

12号ピット



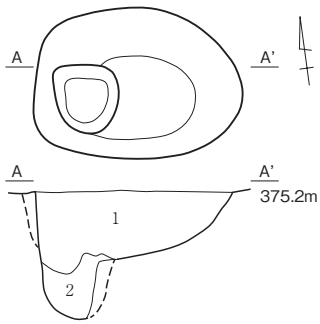
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。砂粒・黄褐色砂入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山の黄褐色砂質土主体。1層のブロックが入る。地山直上～地山。一部掘り過ぎ。

13号ピット



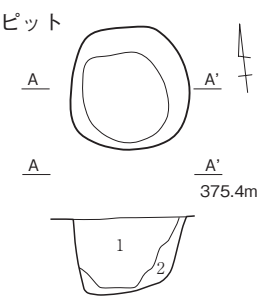
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味有り。砂粒入。しまり有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山の黄褐色砂が混入する。しまり有り。

14号ピット

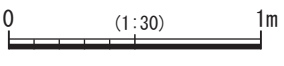


1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味強い。やや密。
2　暗褐色砂砂質土 (10YR3/3)　1層と地山の黄褐色砂質土の混土。

15号ピット

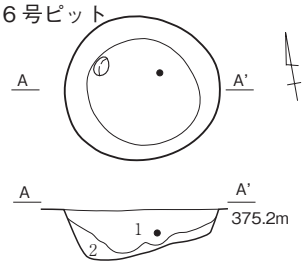


1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山の黄褐色砂を含む。



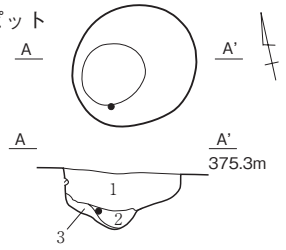
第75図　ピット（1）

16 号ピット



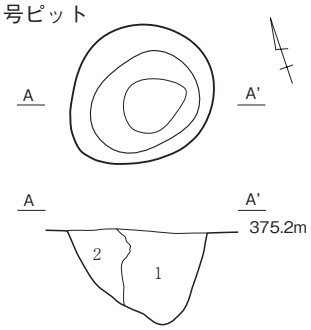
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。やや密。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山直上。

17 号ピット



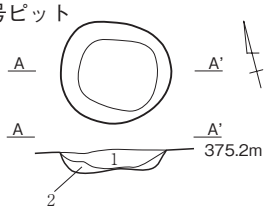
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　地山の黄褐色砂質土ブロックを含む。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山直上。壁崩土を含む。

18 号ピット



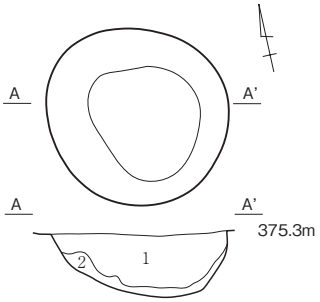
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味強い。やや密。底面の凹みは柱の当たり状。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　1 層に似るが、やや褐色味がある。砂粒入。

19 号ピット



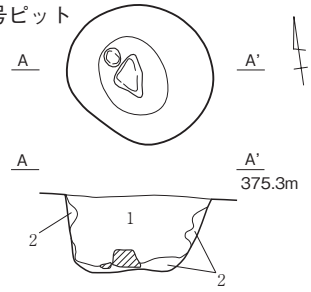
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　砂粒・褐色粒入。黒味やや弱い。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山直上。地山に近い砂質土。

20 号ピット



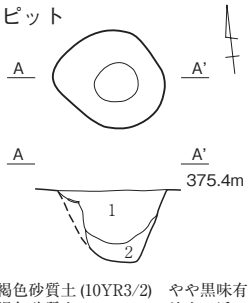
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。地山直上。砂粒主体。

21 号ピット



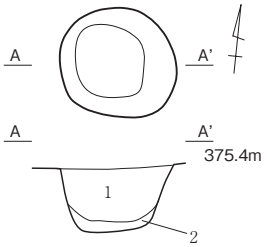
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味やや強い。黄褐色砂質ブロック入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山の崩土。地山に近い砂質土。

22 号ピット



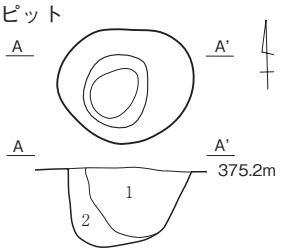
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや黒味有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い砂質土。

23 号ピット



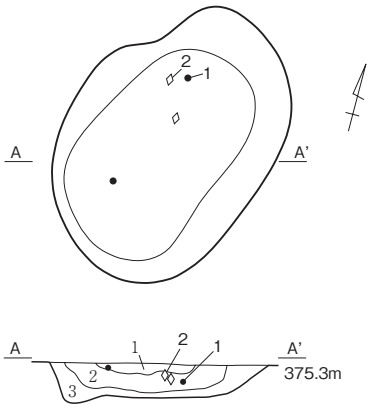
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　やや密。黒味強い。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　地山の砂質土との混土。

24 号ピット



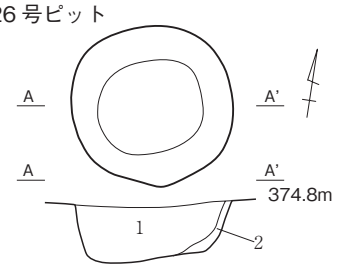
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　砂粒入。黒味有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。一部掘り過ぎか。

25 号ピット



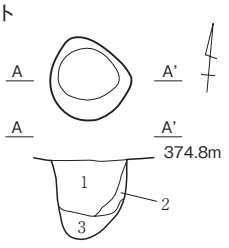
1　黒色砂質土 (10YR2/1)　炭化粒多量。炭化材は少ない。土器片入。外周に一部焼土ブロック・褐色ブロックがあり、炉状を呈している。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　褐色土小ブロックやや多い。炭化粒・焼土粒入。極細砂粒。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山直上か。地山に近い。

26 号ピット



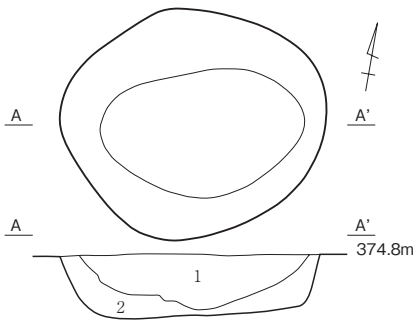
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒入。極細砂粒。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山直上～地山。一部掘り過ぎ。

27 号ピット



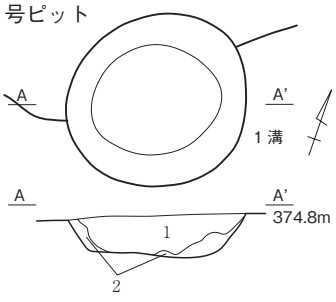
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒入。極細砂粒。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　1 層よりは粗粒。やや暗色。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　中粒砂。一部地山。やや掘り過ぎか。

28 号ピット

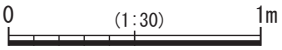


1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰白色のブロックやや多い。炭化粒・土器片入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。

29 号ピット

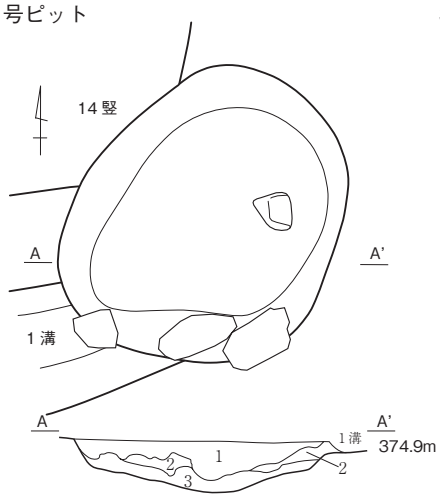


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・炭化粒入。極細砂粒。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山直上。



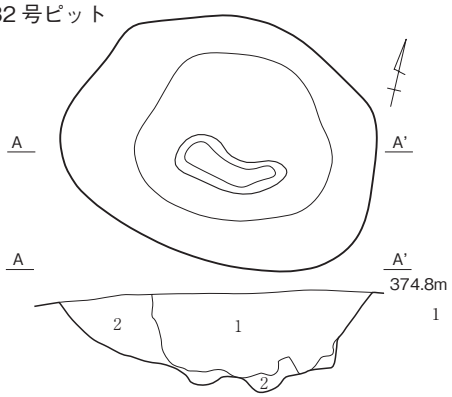
第76図　ピット（2）

30 号ピット



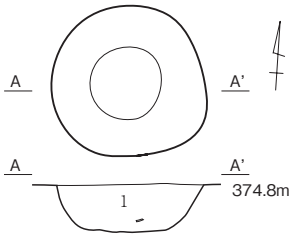
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　礫入。炭化物多い。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。1・3 層の中間的な混土。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に近い。
　灰黄褐色砂質土ブロック多い。

32 号ピット



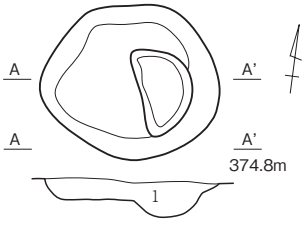
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化材・炭化物が特に上層に多い。
　灰黄褐色砂質ブロックを含む。焼土粒は殆どなし。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　粗粒の砂。
　地山よりは暗褐色を呈す。

31 号ピット (30 竪内)



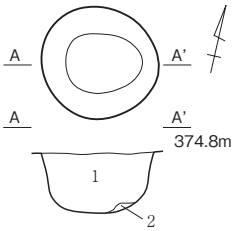
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)
　砂粒・炭化粒・焼土粒・土器片入。

33 号ピット



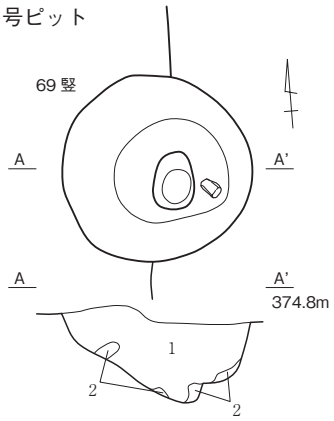
1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　炭化粒・焼土粒・砂粒入。
　やや黒味弱い。

34 号ピット



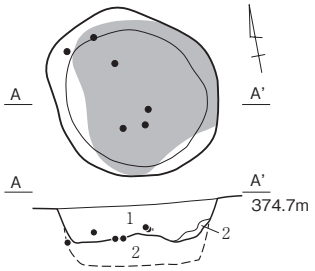
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物
　(φ1cm 大)・炭化粒入。やや黒味有り。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に近い。

38 号ピット



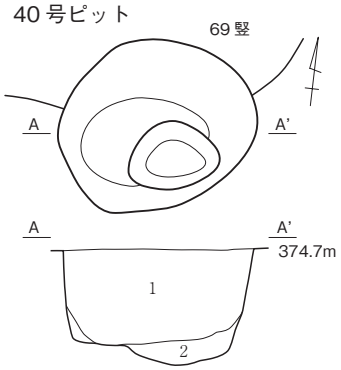
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　灰黄褐色砂質
　ブロック・炭化粒入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に近い。

39 号ピット



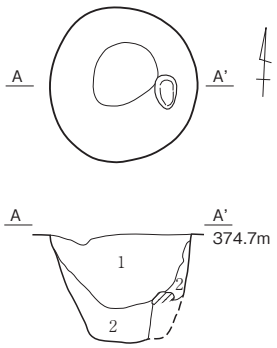
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物やや多い。焼土粒入。
2　焼土層　ブロック状の焼土が堆積する。
　上層に土器片入。

40 号ピット



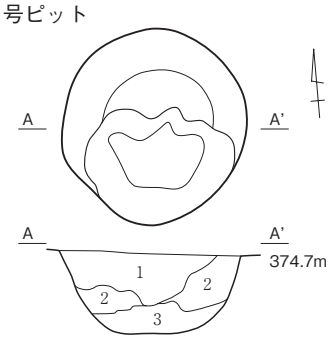
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土粒・炭化粒入。
　41 ピットと同質。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや黄味有り。
　灰黄褐色砂質土ブロック入。地山に近い。

41 号ピット



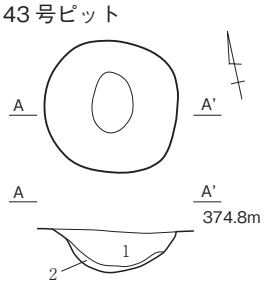
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化物やや多い。
　焼土小ブロック・焼土粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや黄味有り。
　炭化粒入。

42 号ピット



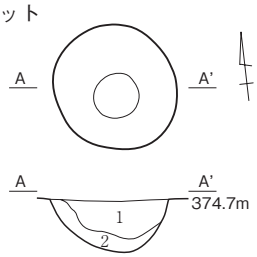
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒・灰黄褐色砂
　小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや黒味有り。極細砂。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。地山直上。

43 号ピット

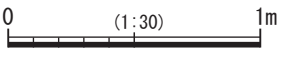


1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化物 (φ0.5cm)・焼土
　小ブロック (φ0.5cm) ともにやや多い。砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　粗粒砂。黄味強い。
　地山直上か。

44 号ピット

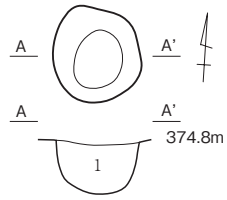


1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　焼土小ブロック
　(φ0.3cm)・炭化粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒入。やや粗。



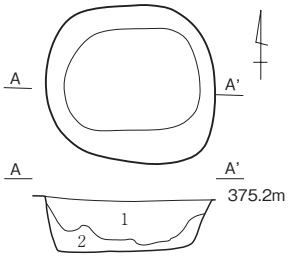
第77図　ピット（3）

46 号ピット



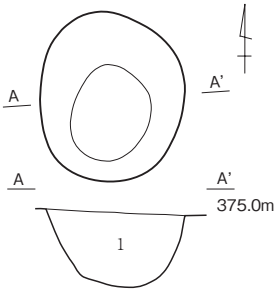
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや粗。砂粒入。
　黒味やや弱い。褐色粒多い。

49 号ピット



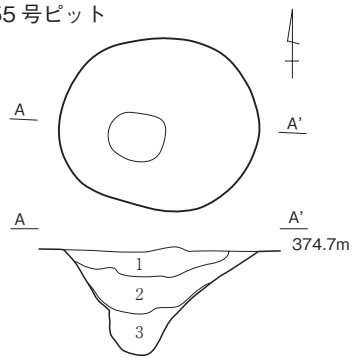
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。砂粒入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　灰褐色砂質ブロック
　やや多い。やや粗粒。

52 号ピット



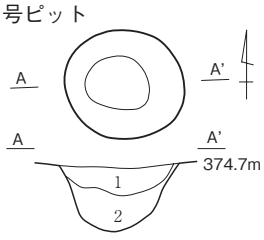
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味有り。砂粒入。
　細砂粒。溝底面に穿たれたピット。前後関係は不明。

55 号ピット



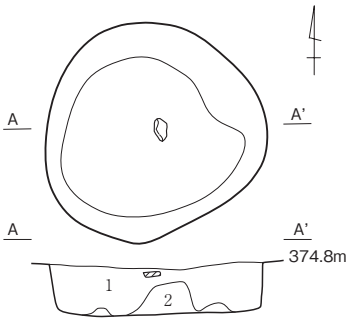
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　極細砂。
　灰褐色砂粒やや多い。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。
　炭化粒入。1 層よりは黒味有り。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　極細砂。
　2 層よりも黒味有り。

58 号ピット



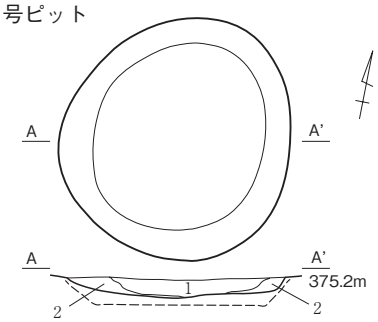
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　灰褐色砂質土主体。炭化粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや粗粒。
　黒味有り。

47 号ピット



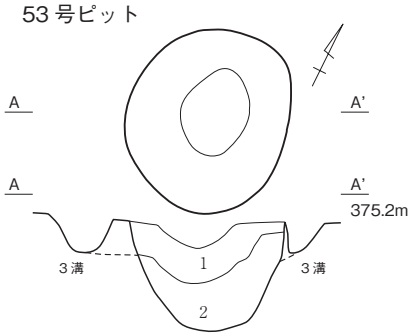
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味弱い。砂粒入。
　2 層にやや類似。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。
　灰黄褐色砂質ブロックを含む。

51 号ピット



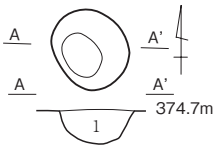
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗粒砂を主とする。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや粗粒。
　下層に 2 層と思われる白色砂層が堆積。

53 号ピット



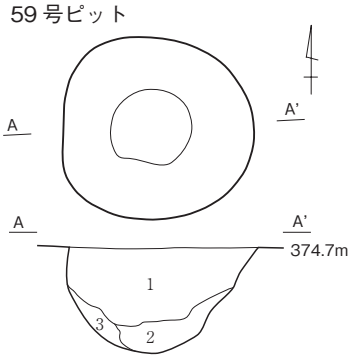
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。炭化粒 (φ0.3cm) 入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　地山 (3 溝底面) とは区別できる砂質土。
　やや粗粒。灰褐色砂ブロック入。

56 号ピット



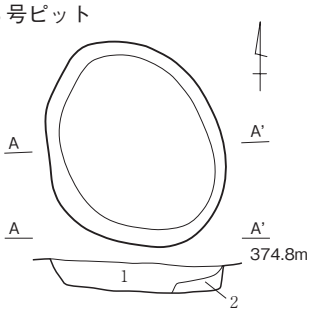
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。
　炭化粒やや多い。極細砂。

59 号ピット



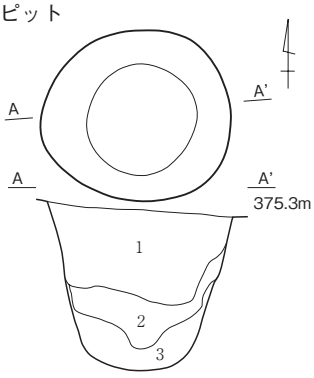
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。炭化粒・灰褐色砂質土入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　極細砂。黒味やや強い。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや粗粒。黒味強い。

48 号ピット



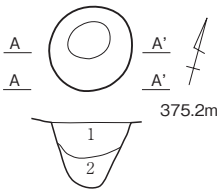
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味やや弱い。砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒の砂質土。
　地山に近い。

50 号ピット



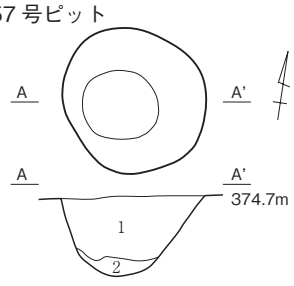
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味有り。灰褐色砂
　ブロック入。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　やや黒味弱い。極細砂。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。地山に近い。
　砂粒入。

54 号ピット



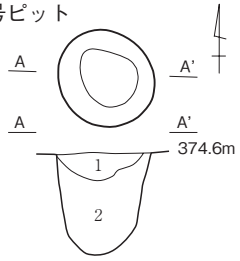
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや粗。2 層よりも細砂
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。地山に近い。

57 号ピット

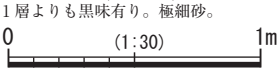


1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。
　褐色粒・炭化粒入。極細砂。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。
　1 層よりも黒味弱い。

60 号ピット

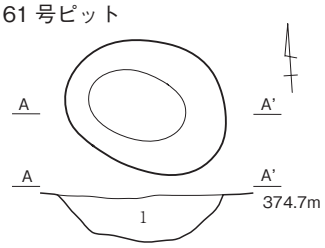


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色小
　ブロック入。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　褐色粒入。
　1 層よりも黒味有り。極細砂。



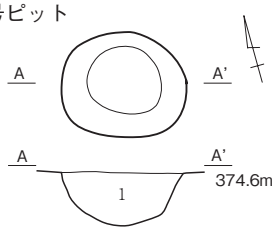
第78図　ピット（4）

61 号ピット



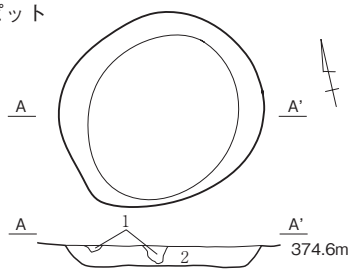
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂小ブロック・褐色粒入。極細砂。

62 号ピット



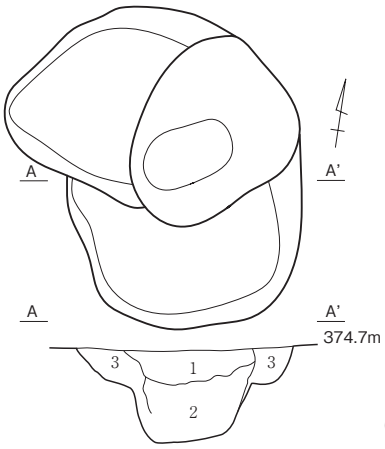
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　砂粒入。黒味やや強い。炭化物・褐色粒入。

63 号ピット



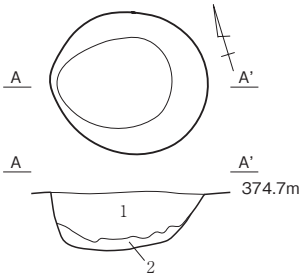
1　灰黄褐色砂層 (10YR4/2)　粗粒の砂のブロック。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味やや強い。やや粗粒。褐色粒入。

64 号ピット



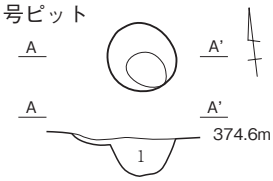
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。灰褐色砂質土ブロック・砂粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。黒味強い。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗い細砂。砂粒入。

65 号ピット



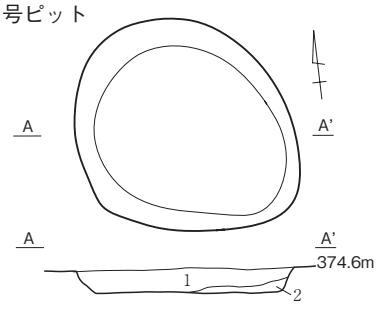
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　極細砂。砂粒入。炭化粒やや多い。炭化物入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。地山直上か。

66 号ピット



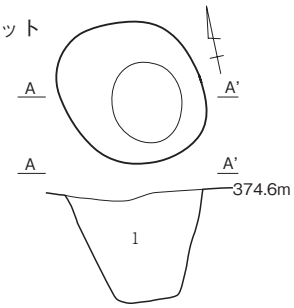
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。褐色粒・砂粒・炭化粒入。

67 号ピット



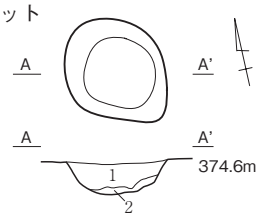
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒やや多い。黒味有り。褐色粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒やや多い。地山直上か。

68 号ピット



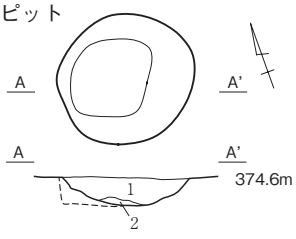
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　極細砂。やや黒味有り。

69 号ピット



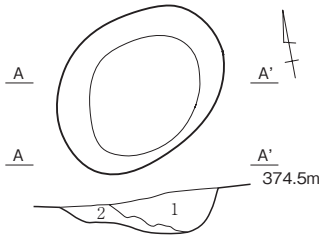
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒・褐色粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや粗粒。地山に近い砂質土。

70 号ピット



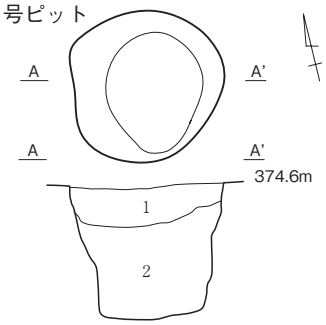
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや砂粒多い。灰褐色砂入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　砂質土のブロック。

71 号ピット



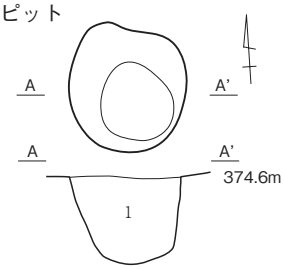
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　砂粒入。やや黒味有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや粗粒。灰黄褐色砂ブロック入。

72 号ピット



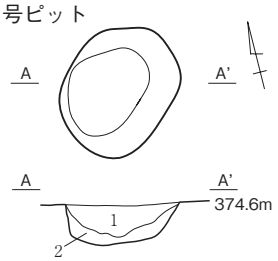
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。炭化粒・焼土粒入。灰褐色ブロックやや多い。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。土器片入。1 層に類似するが、1 層よりも暗色味有り。

73 号ピット



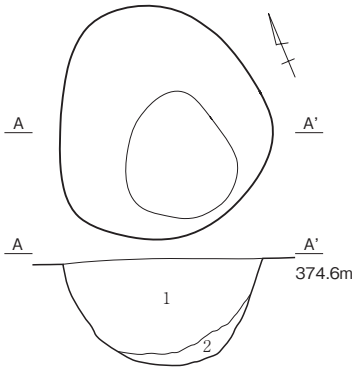
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。褐色粒・炭化粒入。

75 号ピット

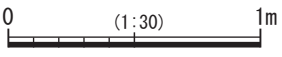


1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。炭化粒・砂粒・褐色粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　やや黒味強い。極細砂。

74 号ピット

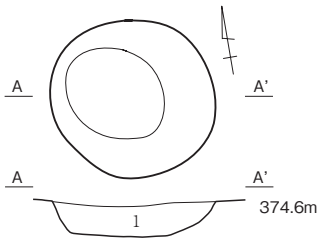


1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。砂粒・灰褐色ブロック・炭化粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　1 層よりもやや黒い。



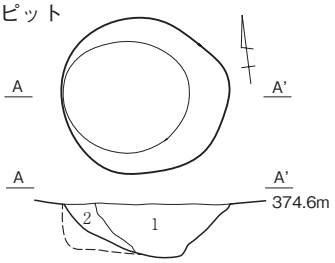
第79図　ピット（5）

76 号ピット



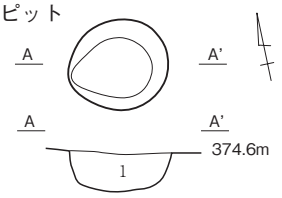
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　砂粒やや多い。
　褐色粒入。

77 号ピット



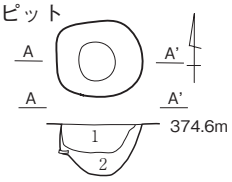
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒入。
　炭化粒・黄色ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。やや褐色味有り。

78 号ピット



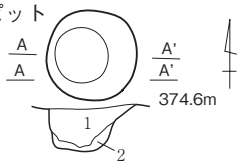
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。
　褐色粒・砂粒入。

79 号ピット



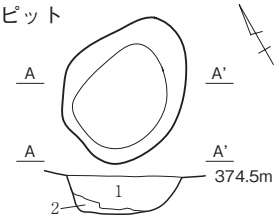
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。褐色粒。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。土器片入。
　やや黒味有り。

80 号ピット



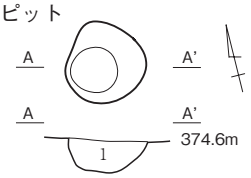
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂質ブロック
　・砂粒・褐色粒入。極細砂。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。極細砂。

81 号ピット



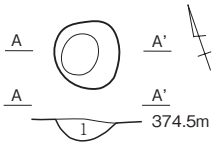
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　灰褐色ブロック・褐色粒入。
2　灰褐色砂質土 (10YR4/2)　砂粒多い。
　地山に近い。

83 号ピット



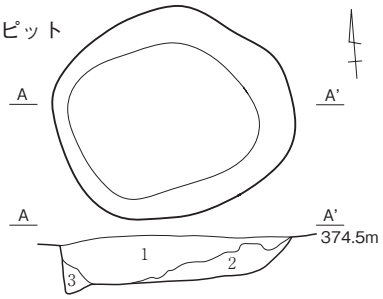
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)
　炭化物 (φ0.2 ～ 0.8cm) 入。
　灰褐色ブロック・褐色粒入。

83 号ピット



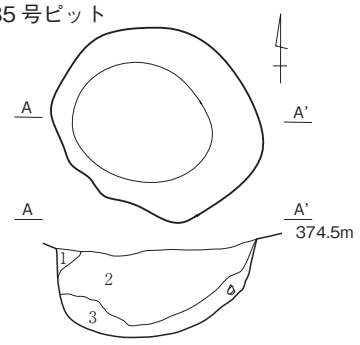
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色ブロック・褐色粒入。

84 号ピット



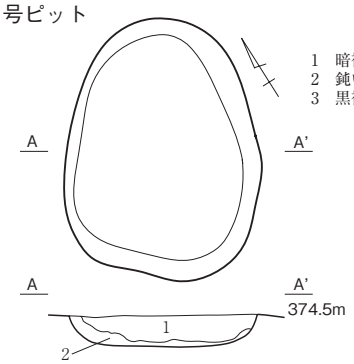
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。褐色粒・砂粒・灰褐色ブロック入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　極細砂。砂粒入。地山に近い。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。黒味強い。

85 号ピット



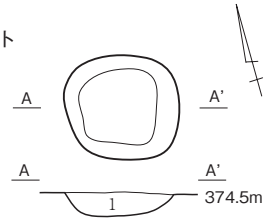
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂～細砂。砂粒入。
　黄褐色味有り。
2　褐灰色砂 (10YR6/1)　　極粗粒砂。弧状に堆積。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。2 層と同じ傾斜で
　弧状の堆積を呈す。やや黒味強い。

87 号ピット



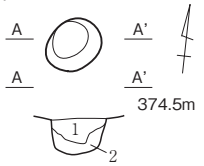
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。極細砂～細砂。
　砂粒・褐色粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。

86 号ピット



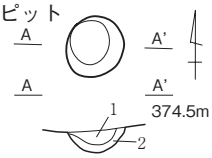
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色ブロック・褐色粒入。
　極細砂～細砂。

88 号ピット



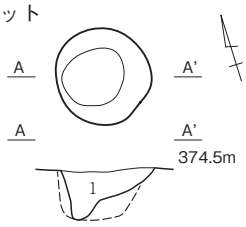
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　褐色粒・灰褐色ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細～細砂。
　地山に近い。

89 号ピット



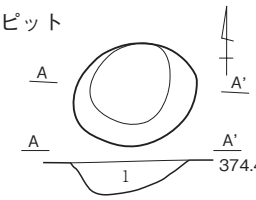
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　褐色粒・灰褐色ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細～細砂。
　地山に近い。

90 号ピット



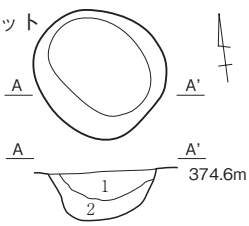
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。極細砂。

91 号ピット



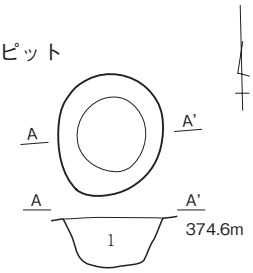
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。褐色粒・砂粒入。
　やや黒味有り。

95 号ピット

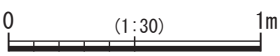


1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　灰褐色ブロック入。
　やや黒味有り。極細砂。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。

96 号ピット

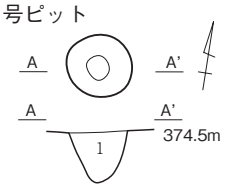


1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　灰褐色ブロック・砂粒入。
　やや黒味有り。細砂。



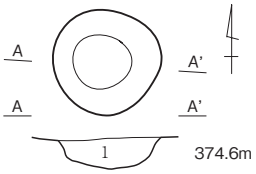
第80図　ピット（6）

97 号ピット



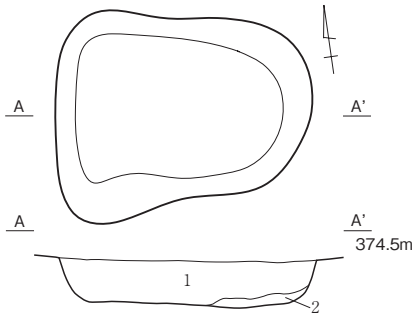
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。
　黒味有り。焼土粒・褐色粒・砂粒入。

100 号ピット



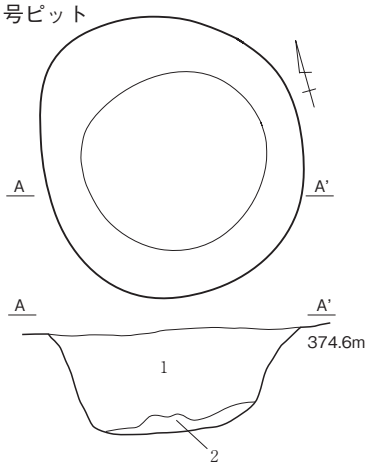
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　砂粒・褐色粒・灰褐色ブロック入。

103 ピット



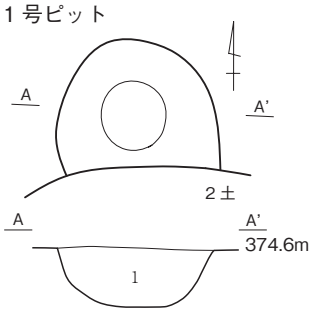
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細砂。やや粗粒。
　褐色粒・灰褐色小ブロック入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山直上～地山。

106 号ピット



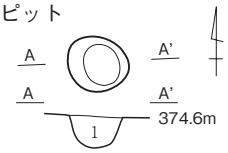
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒・褐色粒
　・灰褐色小ブロック・炭化粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　細砂。1 層よりも粗。
　やや黒味有り。

111 号ピット



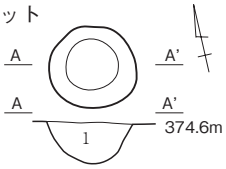
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂～細砂。
　砂粒・炭化粒・褐色粒入。灰褐色小ブロック入。

98 号ピット



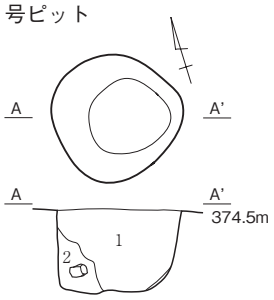
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒・褐色粒・灰褐色
　ブロック入。極細～細砂。

102 号ピット



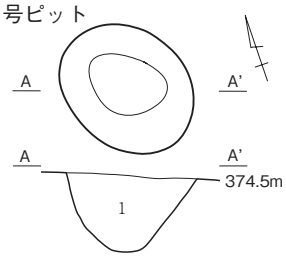
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・灰褐色
　ブロック・褐色粒・砂粒入。極細砂。

104 号ピット



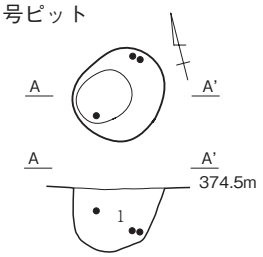
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細～細砂。
　砂粒・褐色粒・灰褐色小ブロック入。
　炭化粒・礫入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや黒味有り。
　礫入。

107 号ピット



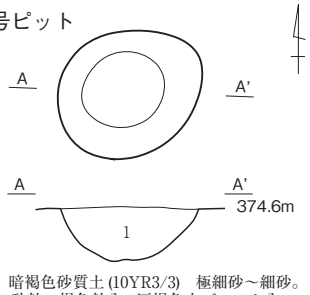
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。灰褐色
　小ブロック・褐色粒入。やや黒味有り。

108 号ピット



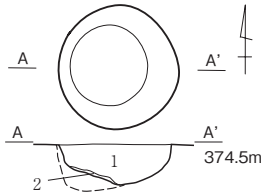
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒入。
　やや黒味有り。

112 号ピット



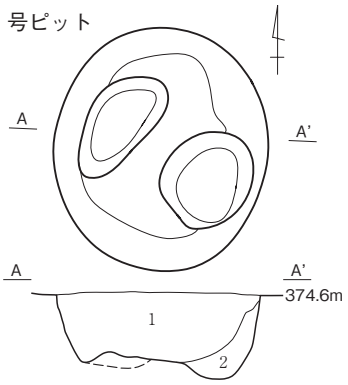
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂～細砂。
　砂粒・褐色粒入。灰褐色小ブロック入。

99 号ピット



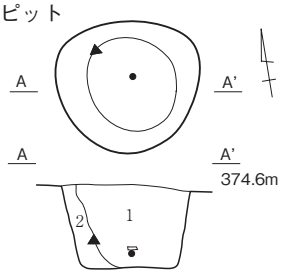
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。黒味強い。
　炭化粒・灰褐色ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。地山直上。

101 号ピット



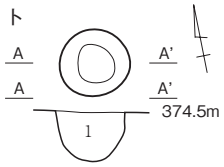
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　褐色粒・灰褐色ブロック・砂粒入。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味有り。炭化粒入。極細砂。

105 号ピット



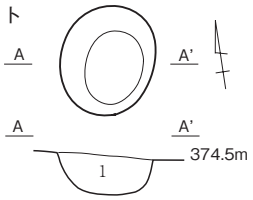
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・砂粒・灰褐色小
　ブロック入。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。褐色粒入。

109 号ピット



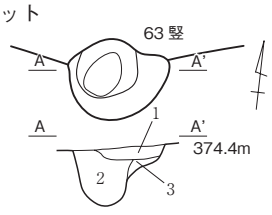
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　褐色粒・灰褐色小ブロック入

110 号ピット

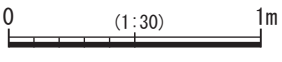


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　砂粒・灰褐色小ブロック入。

113 号ピット

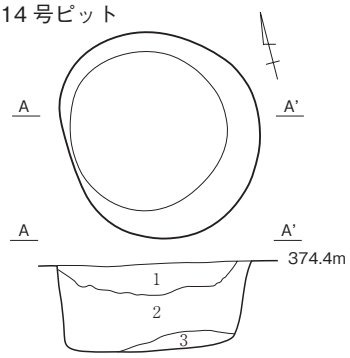


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。やや黒味有り。炭化粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。炭化粒入。やや黒味有り。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山直上～地山。



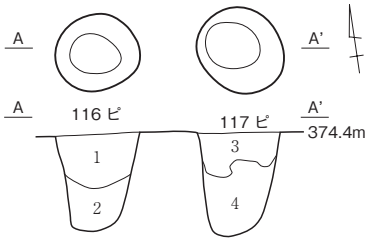
第81図　ピット（7）

114 号ピット



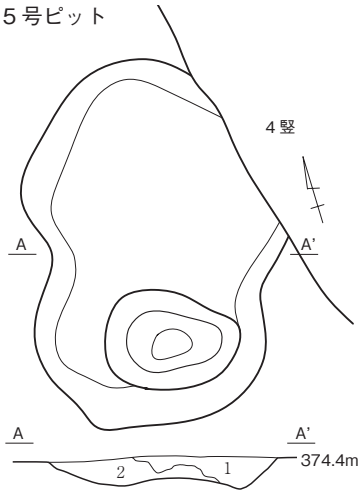
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒・焼土粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・焼土粒・灰褐色砂ブロック入。極細砂。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　細砂。やや粗。地山に近い。

116・117 号ピット



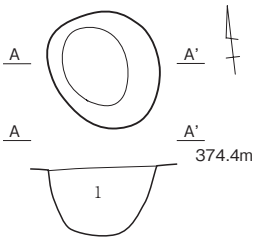
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。砂粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。やや黒味有り。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。焼土粒入。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。やや黒味有り。
2・4 層はやや掘り過ぎか。

115 号ピット



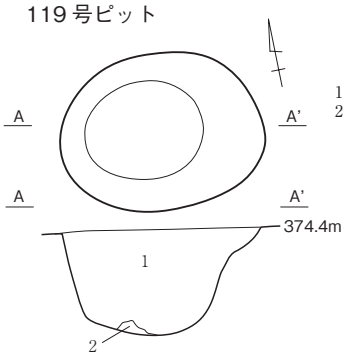
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。黒味強い。炭化粒・焼土粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　極細砂。地山直上。

118 号ピット



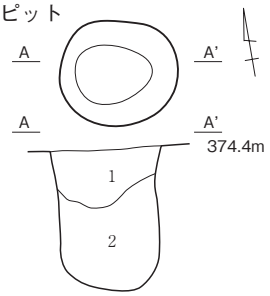
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細～極細砂。砂粒入。黒味有り。

119 号ピット



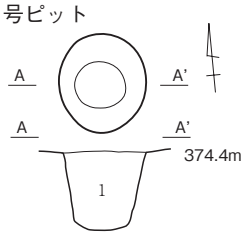
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。砂粒入。灰褐色小ブロック入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山に近い。

120 号ピット



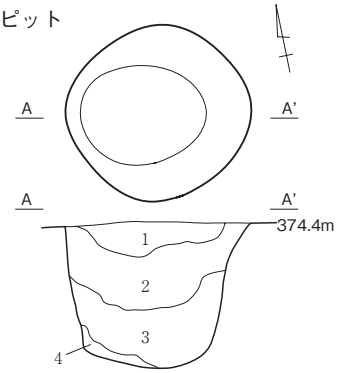
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土小ブロック (φ1.0cm)・炭化粒・砂粒入。焼土やや多い。極細～細。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。やや黒味有り。

121 号ピット



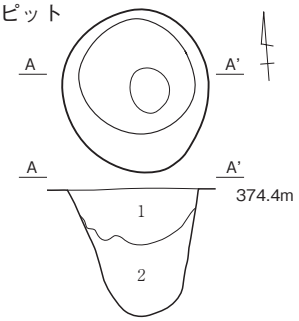
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや黒味有り。極細砂。砂粒・焼土粒入。

122 号ピット



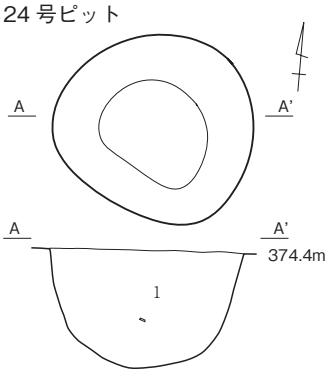
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。砂粒・炭化粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細～細砂。砂粒・灰褐色砂ブロック・炭化粒入。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。やや黒味有り。
4　灰褐色砂質土 (10YR4/2)　細砂。地山直上。

123 号ピット



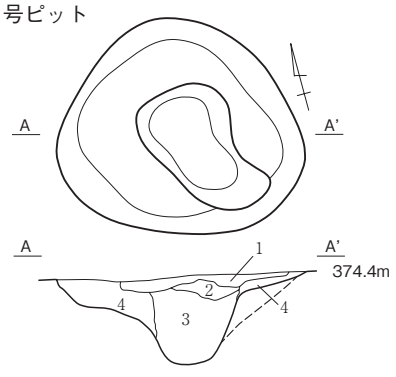
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂～細砂。砂粒・炭化粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細～細砂。炭化粒・褐色粒入。

124 号ピット



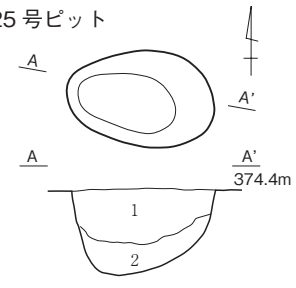
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。黄褐色砂質ブロックやや多い。極細～細砂。

126 号ピット



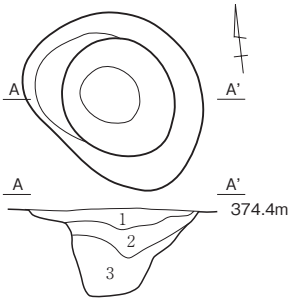
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや黄褐色味有り。4 層に近い。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細～細砂。黒味強い。砂粒・灰褐色砂ブロック入。
4　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。砂粒入。

125 号ピット

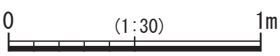


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。砂粒・褐色粒・灰褐色小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　細砂 (やや粗)。砂粒入。やや黒味有り。

127 号ピット

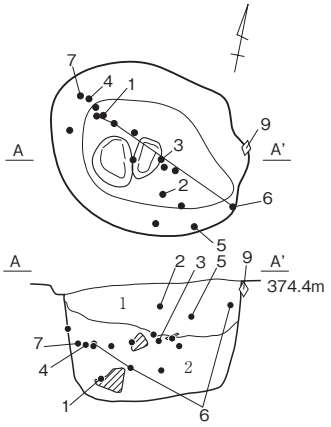


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。黒味有り。焼土粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細～細砂。砂粒入。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。黒味有り。



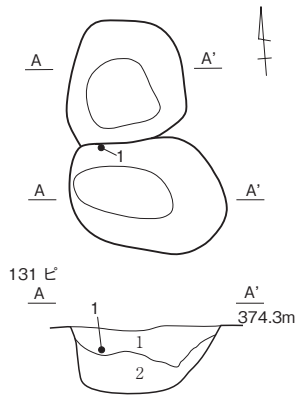
第82図　ピット（8）

128 号ピット



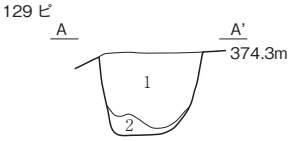
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。砂粒入。
　極細～細砂。土器片やや多い。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　礫・焼土粒入。極細～細砂。

129・131 号ピット



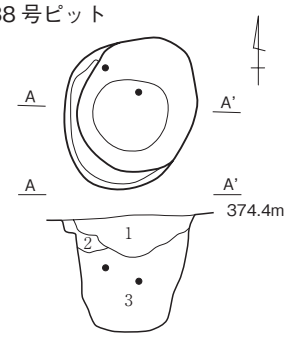
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細～細砂。
　炭化粒・砂粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　灰褐色小ブロック・褐色粒入。

129 ピ



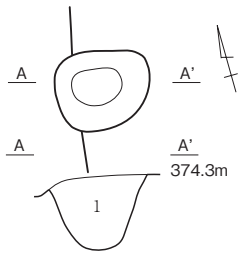
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　砂粒・炭化粒・灰褐色小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い砂 (やや粗)。

138 号ピット



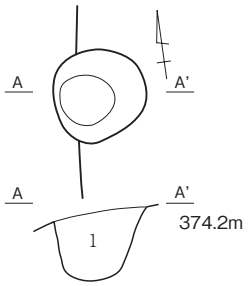
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　炭化粒・焼土粒・砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　極細砂。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。砂粒・炭化粒入。

130 号ピット



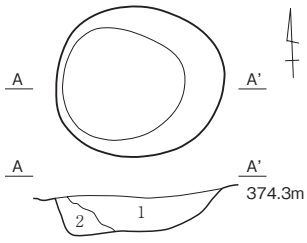
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　砂粒・焼土粒入。全体にやや粗。

133 号ピット



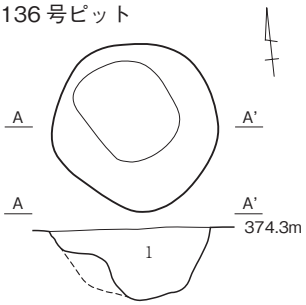
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂 (やや粗)。
　砂粒・焼土粒・黄褐色砂ブロック入。

134 号ピット



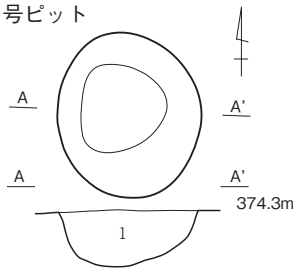
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)

136 号ピット



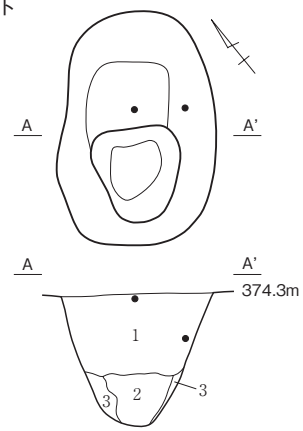
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　砂粒・炭化粒・焼土粒入。

139 号ピット



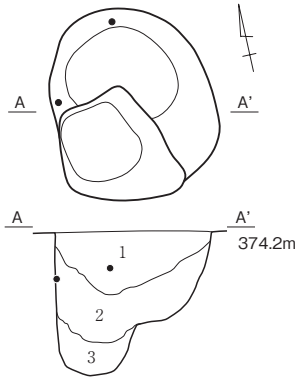
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。やや粗。砂粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　砂粒多い。細砂。
　地山に近い。地山か。

132 号ピット



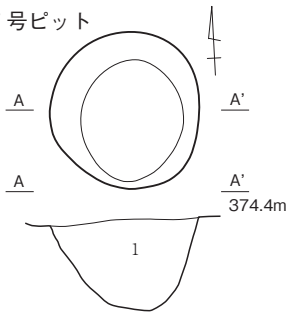
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　炭化粒・焼土粒・砂粒・褐色粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。細砂 (やや粗)。
　黄褐色砂小ブロック入。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山に近い。

135 号ピット



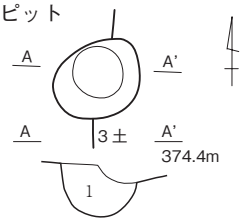
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土ブロック (φ0.6 ～ 0.3cm) やや多い。
　極細～細砂。砂粒・炭化粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　灰褐色小ブロック・砂粒・炭化粒入。
　極細～細砂。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味有り。極細砂。

137 号ピット

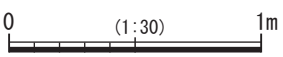


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　砂粒・焼土粒・炭化粒・灰褐色砂小ブロック入。

140 号ピット

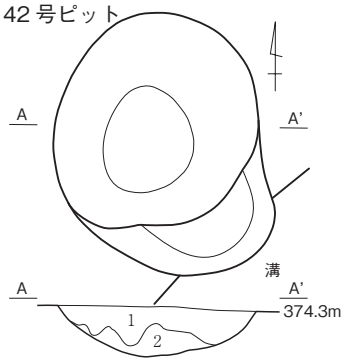


1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　土に近い。
　砂粒・灰褐色土ブロック・褐色粒入。



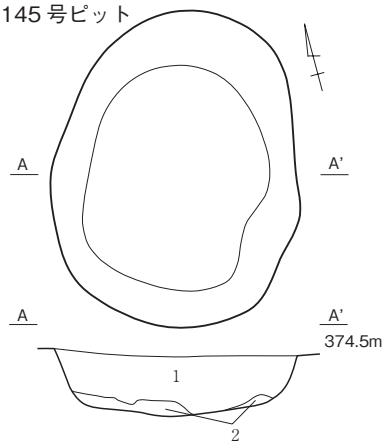
第83図　ピット（9）

142 号ピット



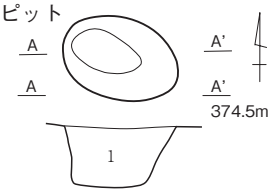
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味有り。灰褐色砂ブロック・砂粒入。極細～細砂。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。細粒砂。

145 号ピット



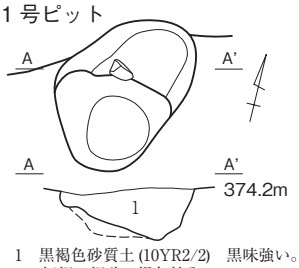
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細粒砂。砂粒・褐色粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山直上。砂粒多い。

148 号ピット



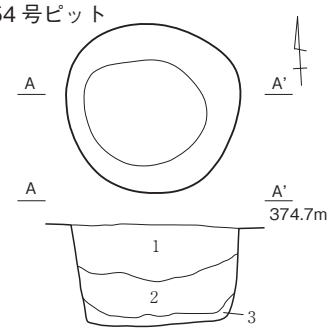
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色ブロック・褐色粒入。黒味有り。極細～細砂。

151 号ピット



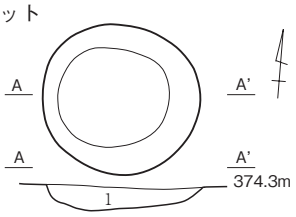
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味強い。極細～細砂。褐色粒入。

154 号ピット



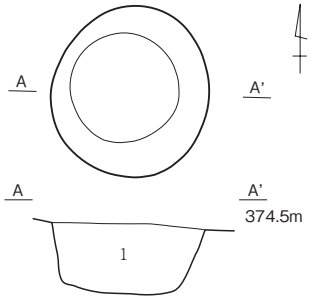
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　周囲の地山とほぼ同色同質だがやや暗い。細粒。炭化粒・灰褐色砂質小ブロック・褐色粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR5/2)　地山。砂層。細粒。やや粗。

143 号ピット



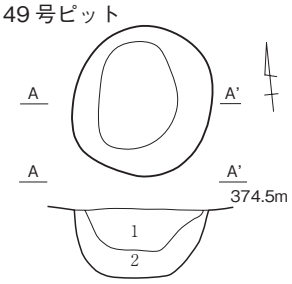
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細粒。やや粗。砂粒やや多い。褐色粒入。

147 号ピット



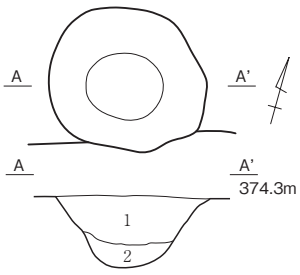
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂ブロック・褐色粒入。極細～細砂。

149 号ピット



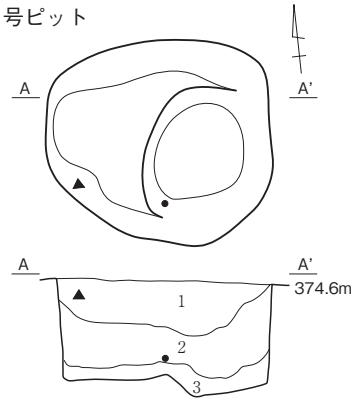
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。灰褐色砂質ブロックやや多い。灰褐色味やや強い砂質土。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。1 層よりやや粗。

152 号ピット



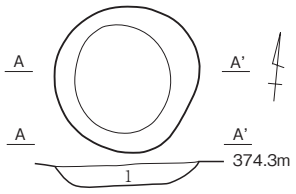
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　極細～細砂。砂粒・褐色土小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色砂ブロックやや多い。

155 号ピット



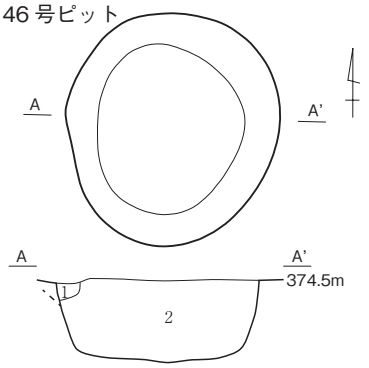
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　褐色粒やや多い。炭化粒・焼土粒・灰褐色小ブロック入。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。黒味有り。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細砂。やや粗粒。地山直上か。

144 号ピット



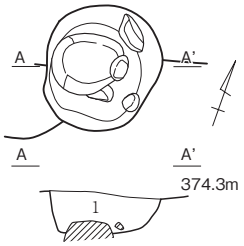
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細粒。やや粗。砂粒やや多い。褐色粒・黄褐色小ブロック入。

146 号ピット



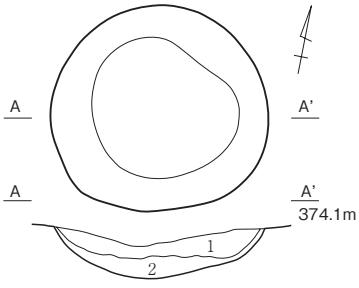
1　褐灰色砂質土 (10YR4/1)　粗粒。細粒砂。円礫入。砂主体。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・炭化粒・褐色粒・灰褐色砂ブロック入。

150 号ピット



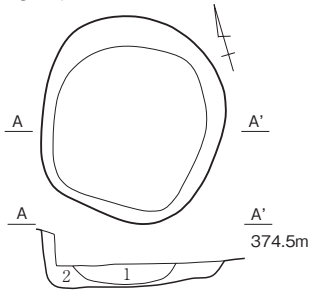
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　炭化粒・褐色土小ブロック入。黒味強い。極細～細砂。

153 号ピット

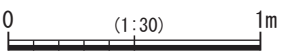


1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　極細砂。褐色粒・砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。黒味は 1 層より弱い。

156 号ピット

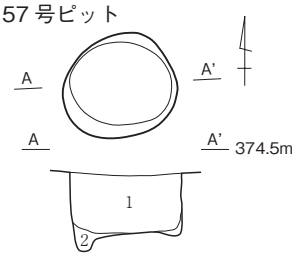


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。細砂。暗褐色粒やや多い。砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細砂。やや粗。地山直上～地山。



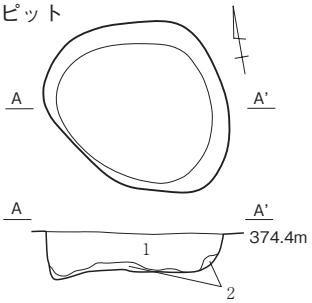
第84図　ピット(10)

157 号ピット



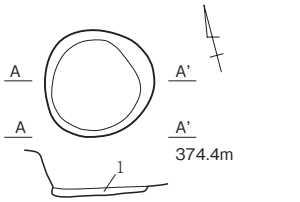
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味やや強い。
　砂粒・暗褐色粒入。細～極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　地山～地山直上か。
　極細砂。黒味有り。

158 号ピット



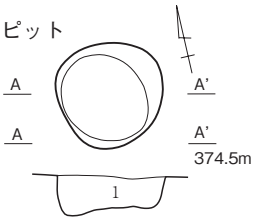
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。やや粗粒。
　砂粒・灰褐色小ブロック・褐色粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　細砂。やや粗。
　砂粒入。地山～地山直上。

159 号ピット



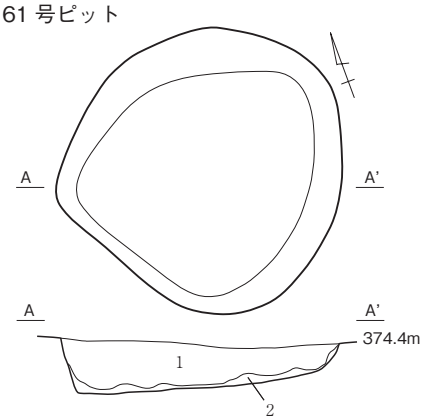
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。やや粗粒。
　灰褐色小ブロック入。砂粒やや多い。
　地山直上か。

160 号ピット



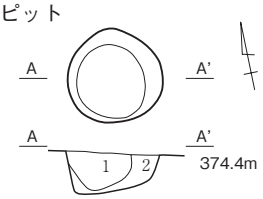
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。やや粗。砂粒入。
　褐色粒・灰褐色小ブロック入。やや黒味有り。

161 号ピット



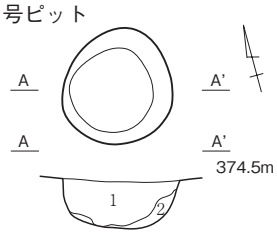
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　細砂。やや粗。砂粒やや多い。
　褐色粒入。黒味有り。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山～地山直上。細砂。粗粒。

162 号ピット



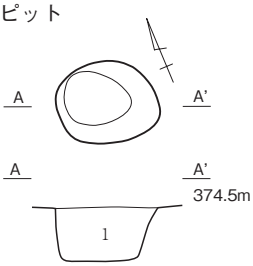
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　砂粒・褐色粒入。やや黒味有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。

163 号ピット



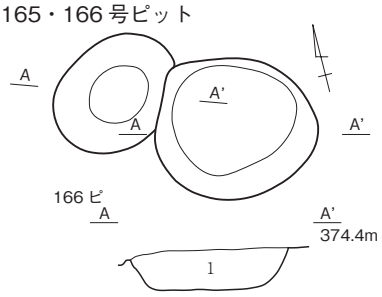
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。黒味有り。
　褐色粒・灰褐色小ブロック入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　細砂。粗粒。
　地山～地山直上。

164 号ピット

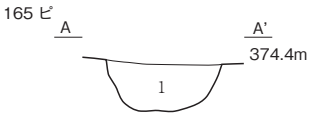


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　灰褐色小ブロック・砂粒・褐色粒入。

165・166 号ピット

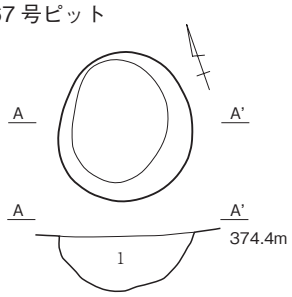


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。やや粗粒。
　砂粒・褐色粒・灰褐色小ブロック入。



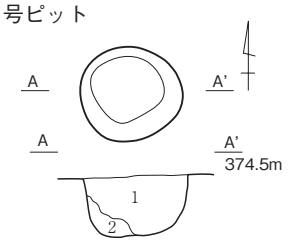
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。やや粗粒。
　砂粒やや多い。灰褐色砂ブロック・褐色粒入。

167 号ピット



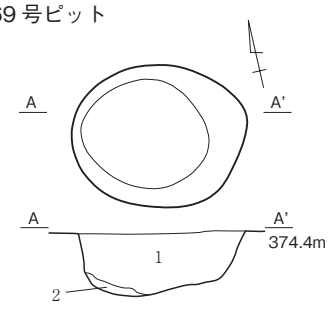
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　砂粒入。褐色粒・灰褐色小ブロック入。

168 号ピット



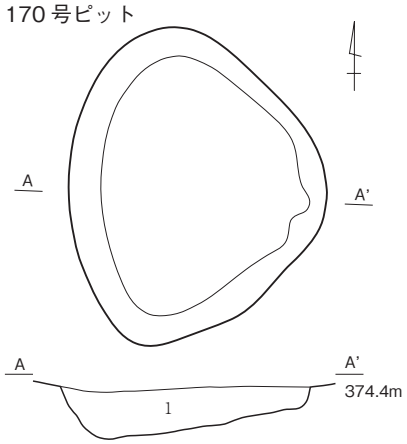
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　砂粒・褐色粒・灰褐色小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　細砂～極細砂。
　やや黒っぽい。地山直上か。

169 号ピット



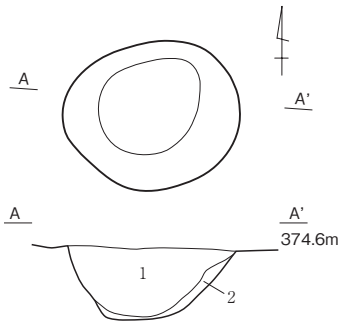
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。やや粗。
　砂粒・褐色粒・灰褐色小ブロック入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山直上。細砂。粗粒。

170 号ピット

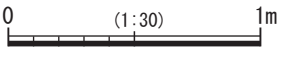


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細～極細砂。
　砂粒・褐色粒・灰褐色小ブロック入。

171 号ピット

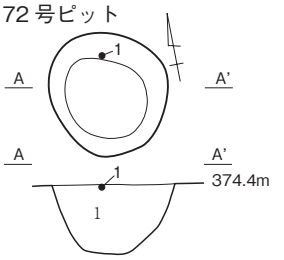


1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細砂～極細砂。やや粗。
　灰褐色小ブロック・小礫・炭化粒・褐色粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR3/2)　地山類似。



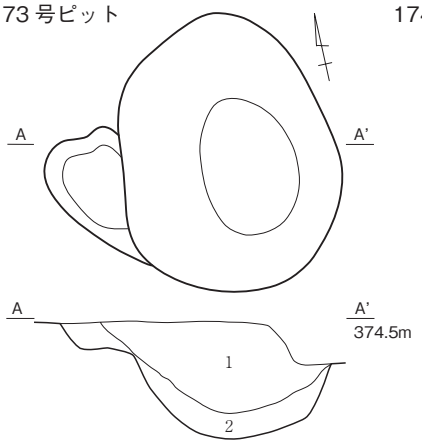
第85図　ピット(11)

172 号ピット



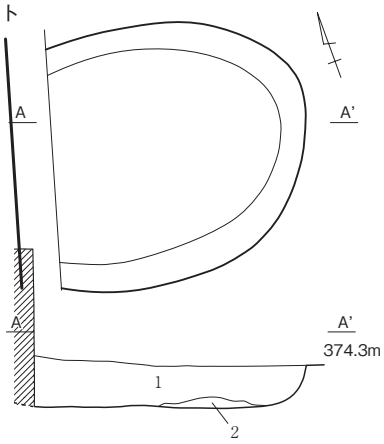
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。
　黒味やや強い。砂粒・褐色粒・炭化粒入。

173 号ピット



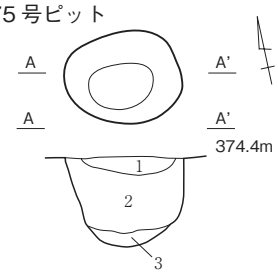
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂 (やや粗)。砂粒・炭化粒入。
　灰褐色ブロック (大) 入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。地山類似。

174 号ピット



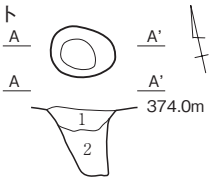
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。
　やや粗粒。砂粒多い。褐色粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　地山類似。

175 号ピット



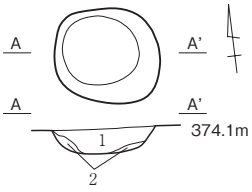
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗粒 (細砂)。
　砂粒多い。褐色粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味強い。砂粒入。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山類似。やや粗粒。

176 号ピット



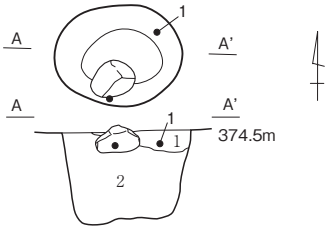
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗粒。
　砂粒多い。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　黒味強い。

177 号ピット



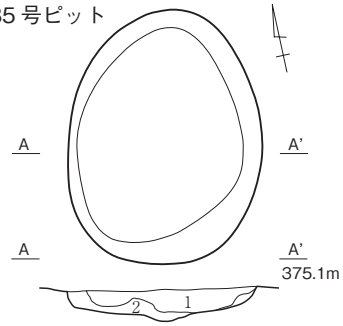
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗。細粒。
　砂粒多い。褐色粒入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山類似。
　やや粗。

178 号ピット



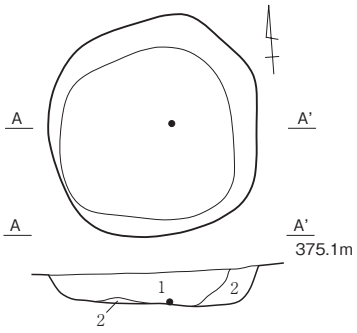
1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。
　砂粒・灰褐色砂ブロック・褐色粒入。

185 号ピット



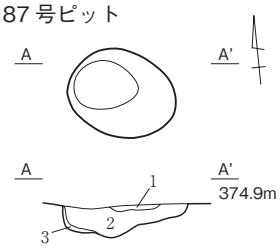
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　褐色粒入。極細砂。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　極細砂。地山類似。
　黄褐色小ブロック入。

186 号ピット



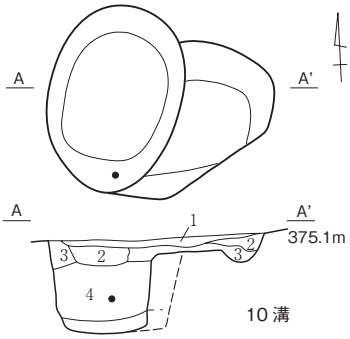
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・砂粒・褐色粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土粒・灰褐色小ブロック入。
　炭化物やや多く入。

187 号ピット



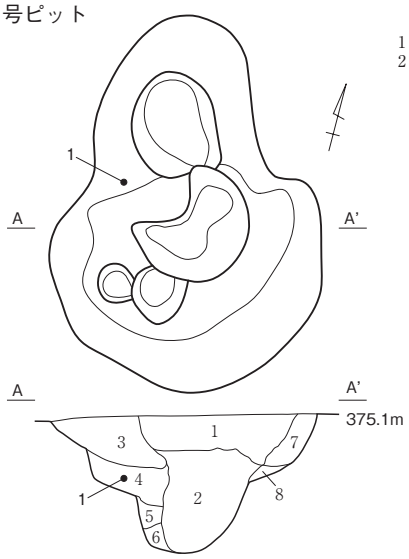
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。
　褐色粒 (ϕ0.3cm) やや多い。炭化粒入。極細砂。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　褐色粒入。極細砂。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山。極細砂。

188 号ピット



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。褐色土ブロック、
　灰褐色小ブロックやや多い。炭化粒入。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。炭化粒入。1 層に類似。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗粒。細砂。炭化粒入。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。シルトに近い。
　砂粒入。土器片入。
5　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。シルトに近い。

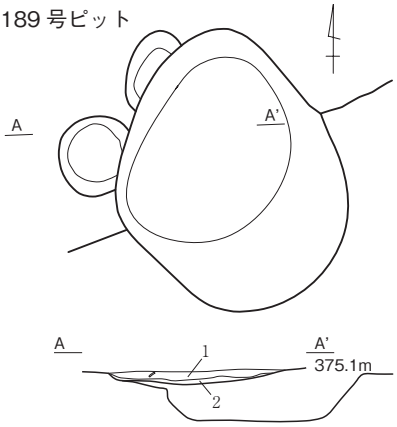
190 号ピット



1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　灰褐色ブロック・炭化粒・褐色粒
　・砂粒。2 層よりも粗い。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・褐色土小ブロック入。極細砂。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰褐色ブロック多い。やや粗。
4　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味有り。極細砂。
5　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　3 層に類似。4 層よりも粗い。
6　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。2 層に似る。
7　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　3 層に似る。灰褐色ブロック多い。
8　褐色砂質土 (10YR4/4)　地山直上。やや粗。

第86図　ピット (12)

189 号ピット

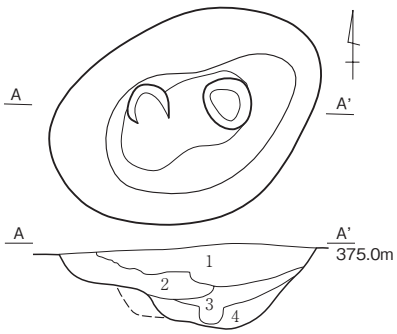


1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。黒味有り。
　炭化粒・褐色小ブロック入。
2　褐色砂質土 (10YR4/4)　地山。

第86図　ピット (12)

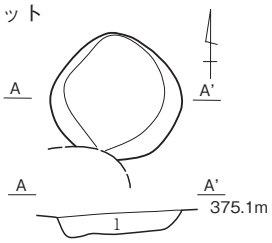
0　(1:30)　1m

191 号ピット



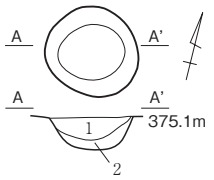
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒色土ブロック・砂粒・褐色土ブロック入。やや粗。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山に類似。黒色土混。砂粒入。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　褐色味強い。極細砂。
4　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山に近い。黒色土ブロック多い。

192 号ピット



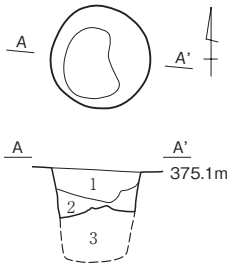
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色小ブロック・砂粒・褐色粒入。

193 号ピット



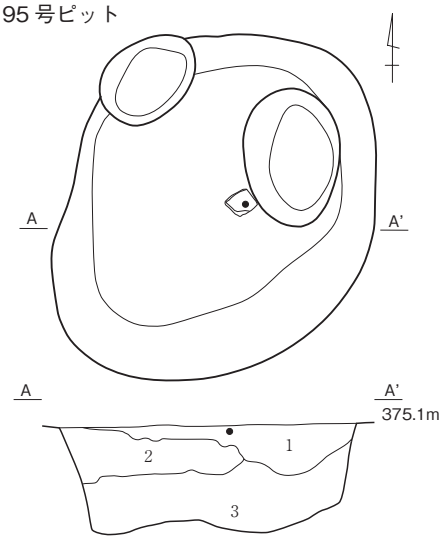
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　黒味有り。炭化粒・砂粒・褐色土小ブロック入。極細粒。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細粒。

194 号ピット



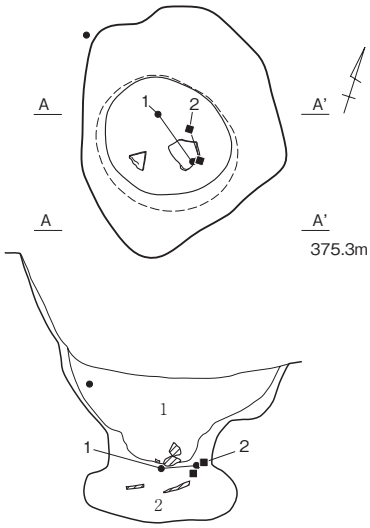
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂～極細砂。やや粗。灰褐色砂質ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　褐色土ブロック入。極細砂。地山かも (下層)
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。地山かも。

195 号ピット



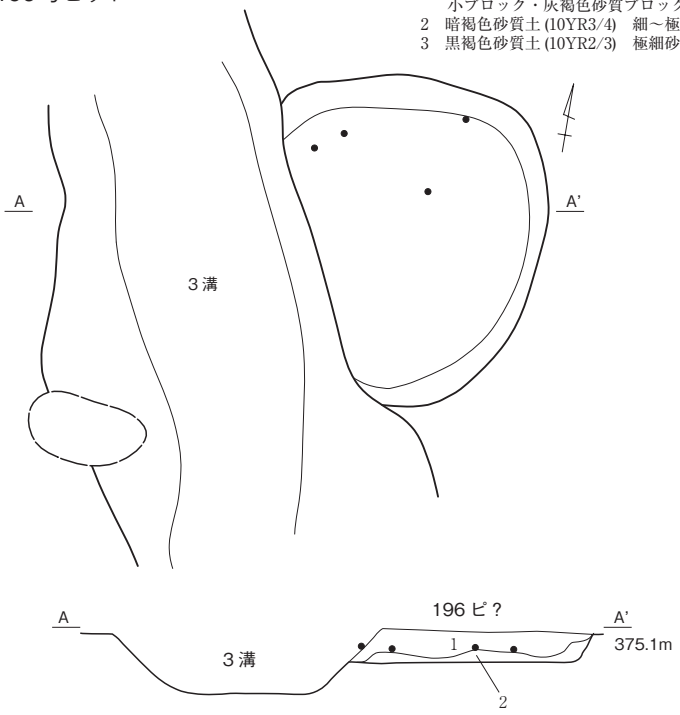
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細～極細砂。黒味強い。褐色小ブロック・灰褐色砂質ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　細～極細砂。地山かも。
3　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。黒味強い。地山か。

197 号ピット (40 竪内)



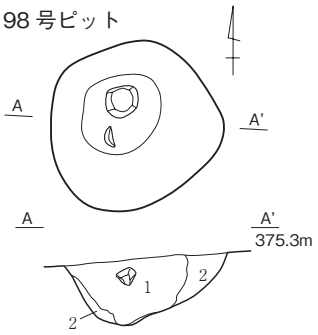
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　砂粒・焼土粒・炭化粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗粒。

196 号ピット



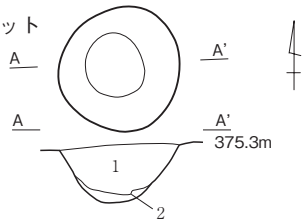
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細砂。灰褐色砂質ブロック入。炭化粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。

198 号ピット



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。砂粒・礫入。2 層より黒味有り。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細砂。砂粒入。

199 号ピット

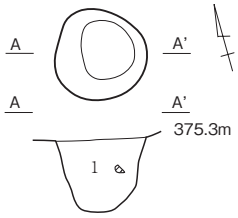


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　細砂。

0　(1:30)　1m

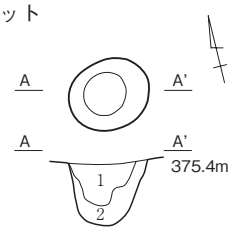
第87図　ピット(13)

200 号ピット



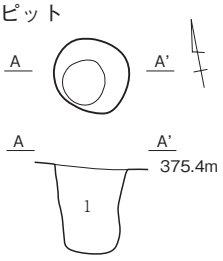
1　黒褐色砂質土 (10YR2/2)　砂粒・褐色粒・炭化粒入。細～極細砂。

201 号ピット



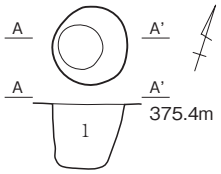
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細～極細砂。砂粒・褐色粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。

202 号ピット



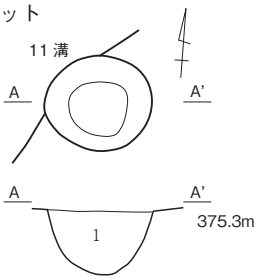
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　砂粒・褐色粒入。

203 号ピット



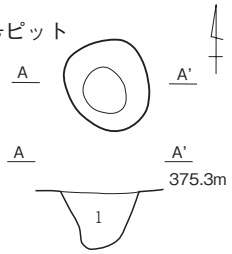
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　白色砂粒・褐色粒入。極細～細砂。

206 号ピット



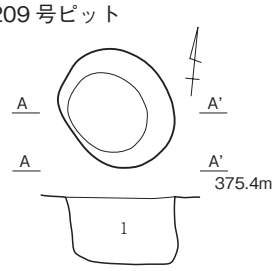
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　極細～細砂。砂粒・褐色粒入。

207 号ピット



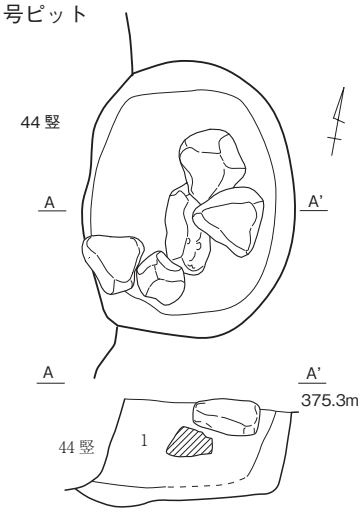
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　褐色土小ブロック・砂粒入。

209 号ピット



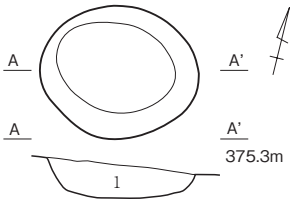
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒・褐色粒入。極細～細砂。

211 号ピット



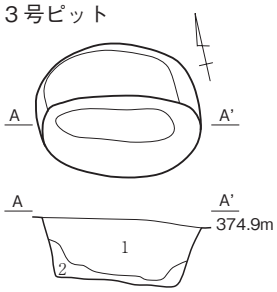
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。砂粒・炭化粒入。礫入。44 竪を切る。

212 号ピット



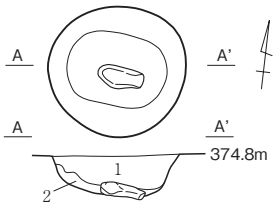
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。砂粒入。

213 号ピット



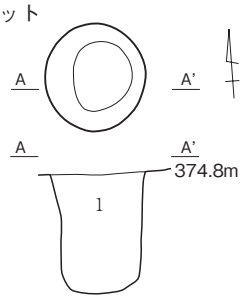
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗。焼土粒・砂粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗。細砂。地山直上。

214 号ピット



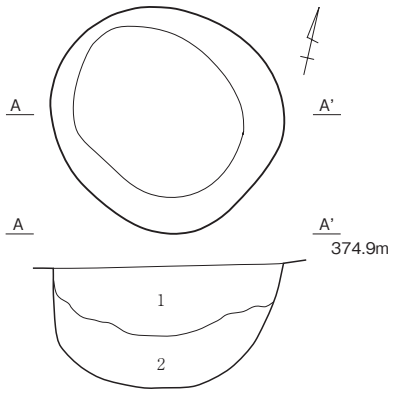
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒入。褐色粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや粗粒。細砂。地山直上。

215 号ピット



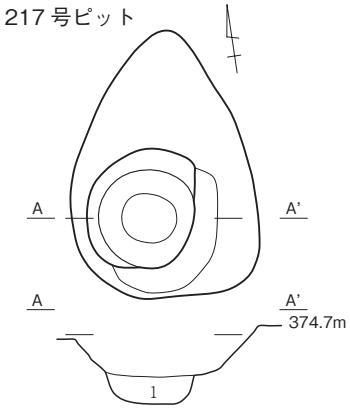
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化物 (0.1 ～ 0.4cm) やや多い。砂粒・褐色粒入。

216 号ピット



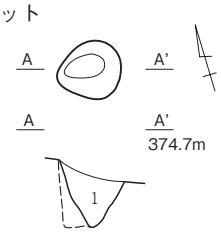
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　灰褐色砂質小ブロックやや多い。炭化粒・砂粒入。細～極細砂。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。灰色砂ブロック入。

217 号ピット

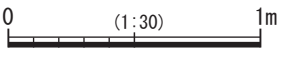


1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　緻密。極細砂。炭化粒・焼土粒・砂粒入。

218 号ピット

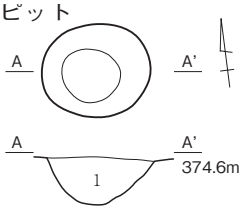


1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　極細砂。緻密。炭化粒入。灰黄褐色土との混土。



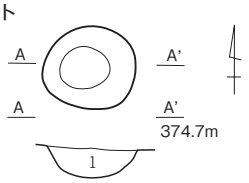
第88図　ピット(14)

219 号ピット



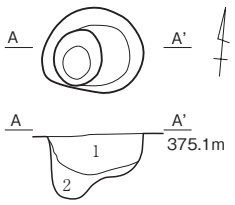
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)
　炭化粒・焼土小ブロック入。緻密。極細砂。

220 号ピット



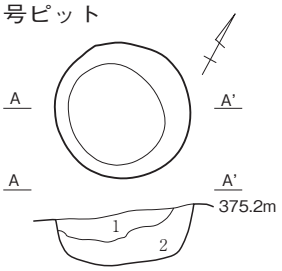
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　緻密。極細砂。

221 号ピット



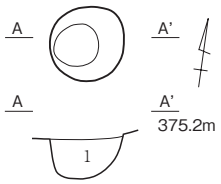
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒
　・砂粒・褐色粒・灰褐色砂小ブロック入。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　1 層よりも
　黒味強い。炭化粒入。

222 号ピット



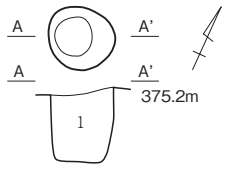
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒やや多い。
　焼土粒・灰褐色小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒やや多い。
　灰褐色小ブロック入。

223 号ピット



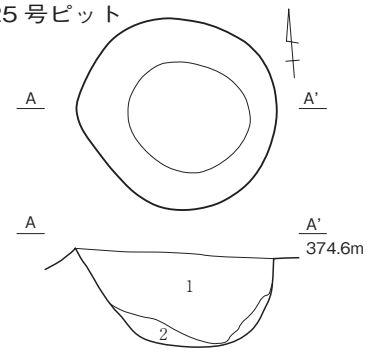
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　炭化粒・灰褐色砂
　小ブロック入。

224 号ピット



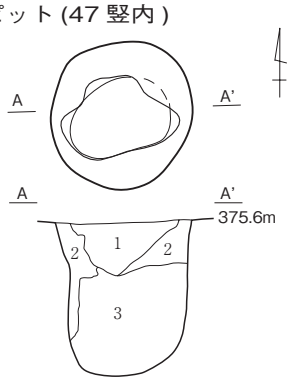
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　上層を中心に
　焼土ブロック・炭化粒やや多い。
　灰褐色小ブロック・砂粒入。

225 号ピット



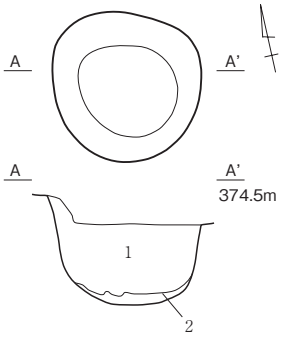
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　灰褐色土ブロック・褐色土
　ブロックをやや多く含む。炭化粒・焼土粒入。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗。砂粒多い。

226 号ピット (47 竪内)



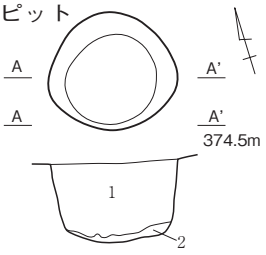
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　壁の崩土。粗砂主体。
3　黒褐色砂質土 (10YR3/2)

227 号ピット



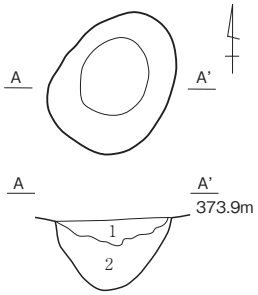
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗。細砂。
　灰褐色砂小ブロック・砂粒入。黒曜石片有り。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗。細砂。
　地山砂に近い。

228 号ピット



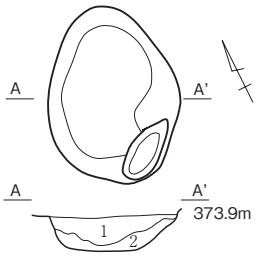
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・砂粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山砂。

229 号ピット (63 竪内)



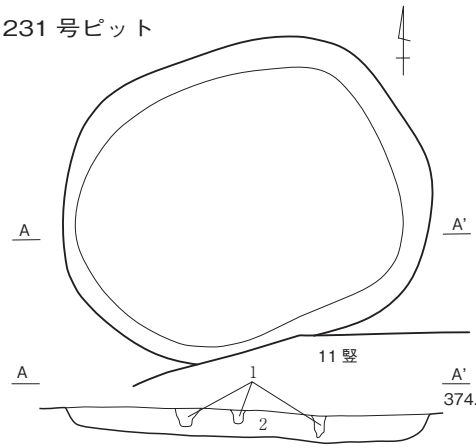
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　褐色粒・砂粒入。
　極細～細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。1 層よりも
　やや粗。砂粒入。

230 号ピット (63 竪内)



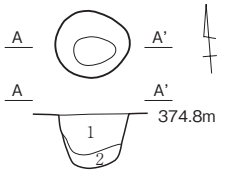
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒多い。
　黒味強い。焼土粒入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　礫粘土に似た黄色土。
　焼土ブロックやや目立つ。炭化粒多い。

231 号ピット



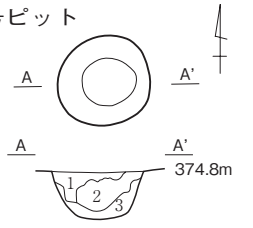
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗粒。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒・褐色粒・褐色小ブロック入。やや粗粒。

232 号ピット



1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　褐色粒・砂粒入。
　灰褐色砂小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗。砂粒入。

233 号ピット

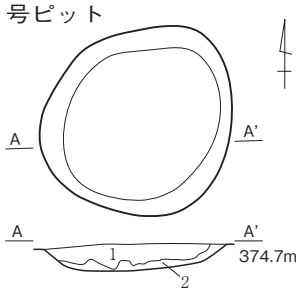


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　灰褐色砂ブロック主体。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗。

0　(1:30)　1m

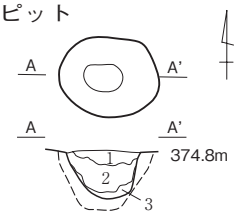
第89図　ピット(15)

234 号ピット



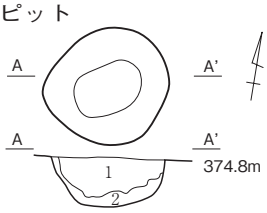
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物・焼土小ブロックやや多い。砂粒入。灰褐色小ブロックやや多い。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山に近い。粗粒砂。

235 号ピット



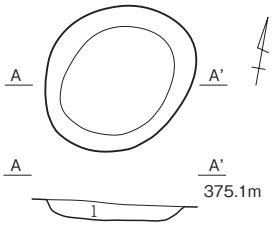
1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR5/4)　焼土小ブロック入。焼土粒か。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化物 (φ0.4cm) 入。焼土小ブロック入。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗粒。地山砂に近い。

236 号ピット



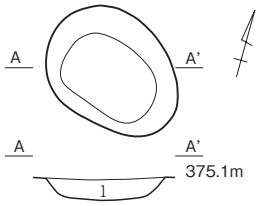
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土小ブロック・焼土粒・炭化物やや多い。褐色粒やや多い。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗粒の砂層。地山に近い。

237 号ピット



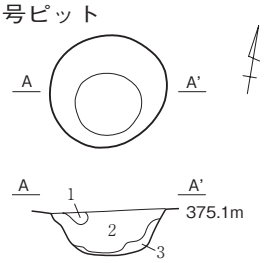
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　やや粗粒。炭化粒・灰褐色砂小ブロック入。

238 号ピット



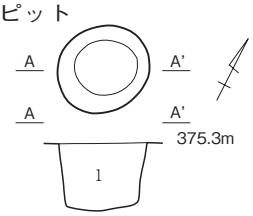
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化物やや多い。黒味強い。砂粒入。やや粗粒。

239 号ピット



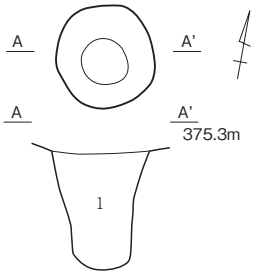
1　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　砂層。3 層と同じ。
2　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　黒味強い。炭化粒入。やや粗粒。
3　灰黄褐色砂 (10YR4/2)　地山。やや粗粒。

240 号ピット



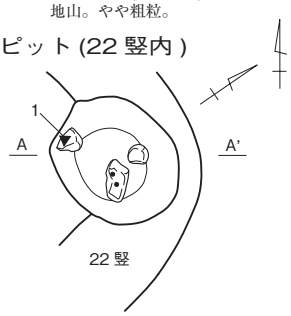
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗粒。砂粒やや多い。

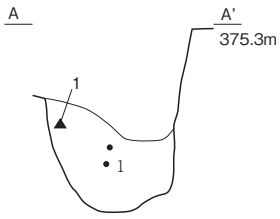
241 号ピット



1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　炭化粒・焼土粒・褐色粒入。灰褐色砂小ブロックやや多く入。

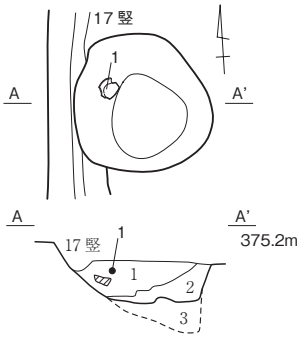
242 号ピット (22 竪内)





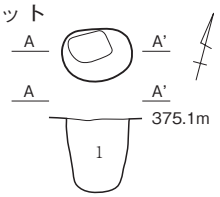
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗粒。炭化粒やや多い。土器片入。
下層の住居 (71 竪) 覆土の可能性あり。

243 号ピット (17 竪内)



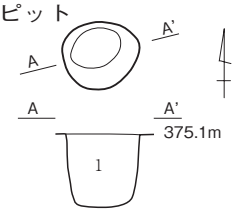
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化材・炭化物多量。砂粒・褐色小ブロック入。やや粗粒。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　砂粒入。やや粗粒。
3　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山直上～地山。掘り過ぎか。

244 号ピット



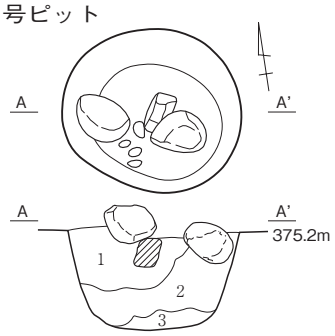
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒入。極細砂。

245 号ピット



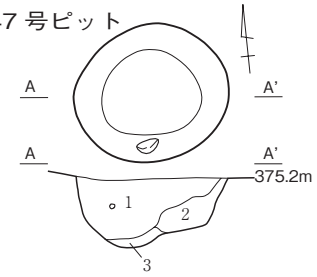
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　炭化粒・焼土粒・焼土小ブロック入。極細砂。

246 号ピット



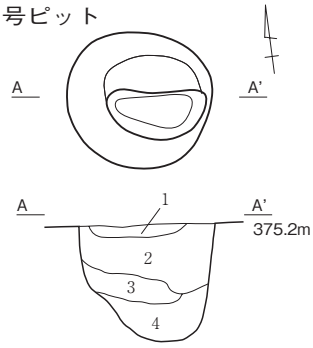
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　礫・褐色小ブロック・砂粒・灰褐色小ブロック入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　灰褐色小ブロックやや多い。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　やや粗粒。地山に近い。

247 号ピット

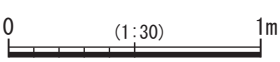


1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　礫・砂粒入。極細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　細砂。砂粒入。
3　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　粗粒。地山に近い。

248 号ピット

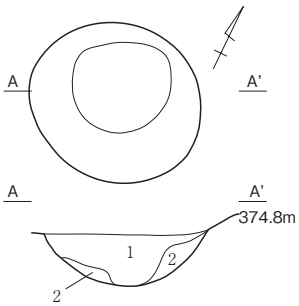


1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　やや黒味強い。極～細砂。
2　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　小礫・砂粒・褐色粒入。やや粗粒。
3　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂質。粗粒。壁の崩土。
4　黒色土 (10YR2/1)　掘り過ぎか。下層の黒色土。黒味強い。極細砂。



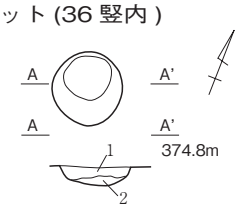
第90図　ピット(16)

249 号ピット (36 竪内)



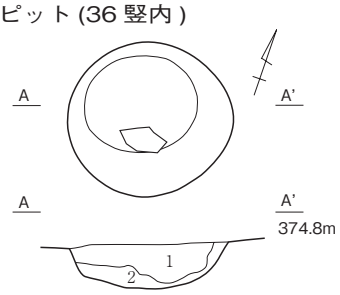
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　砂粒入。
2　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　やや粗粒。

250 号ピット (36 竪内)



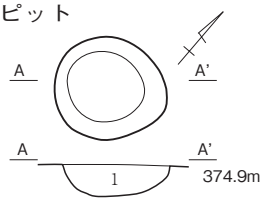
1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　　褐色粒入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　地山に近い。やや粗粒。

251 号ピット (36 竪内)



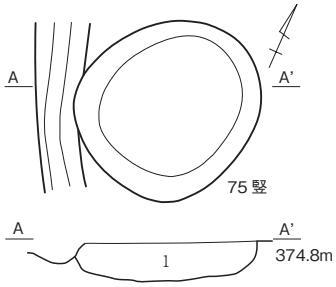
1　暗褐色砂質土 (10YR3/4)　砂粒入。
2　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　やや粗粒。地山とほぼ同質。

252 号ピット



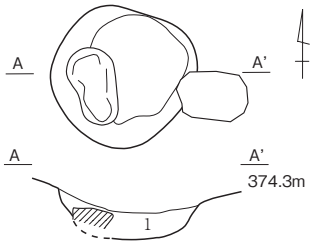
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)
　やや粗粒。砂粒・褐色小ブロック入。

259 号ピット (75 竪内)



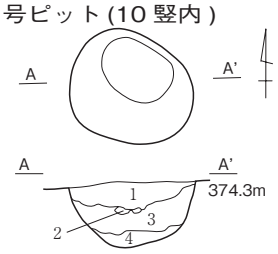
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　やや粗粒。砂粒やや多い。

260 号ピット (10 竪内)



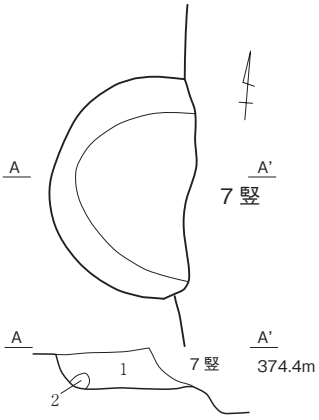
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)　極細砂。
　焼土粒・焼土小ブロック入。礫入。

261 号ピット (10 竪内)



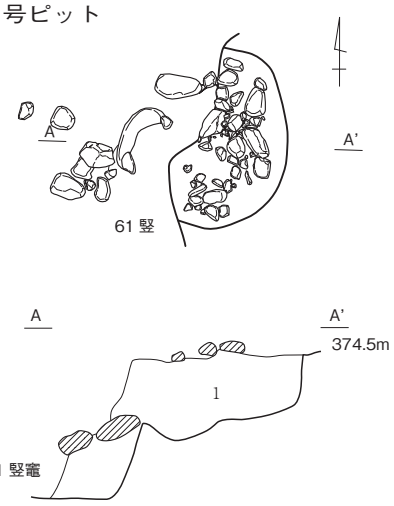
1　黒褐色砂質土 (10YR3/2)　焼土粒・炭化粒・焼土小ブロック入。
2　焼土。
3　褐色砂質土 (10YR3/3)　焼土ブロックやや多い。炭化粒入。
4　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　地山直上～地山。

262 号ピット



1　黒褐色砂質土 (10YR2/3)　極細砂。砂粒入。
2　灰黄褐色砂質土 (10YR4/2)　山砂、地山砂のブロック。

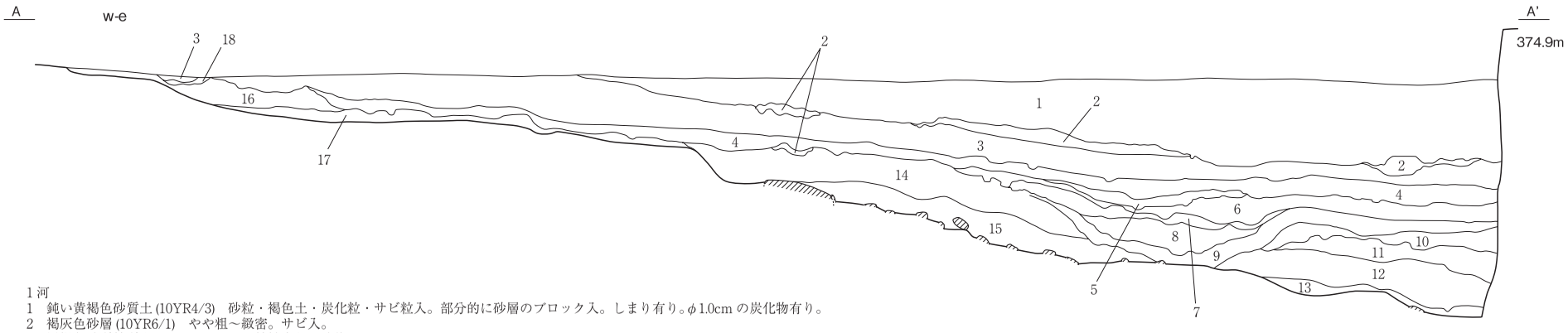
263 号ピット



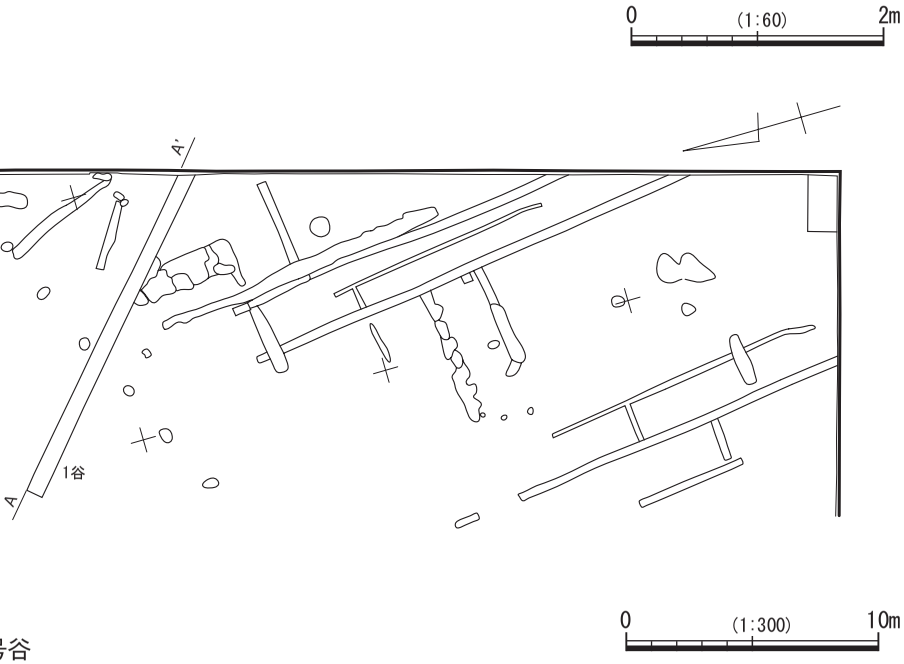
1　暗褐色砂質土 (10YR3/3)
　砂質土ブロックやや多い。上面に小礫郡有り。

0　(1:30)　1m

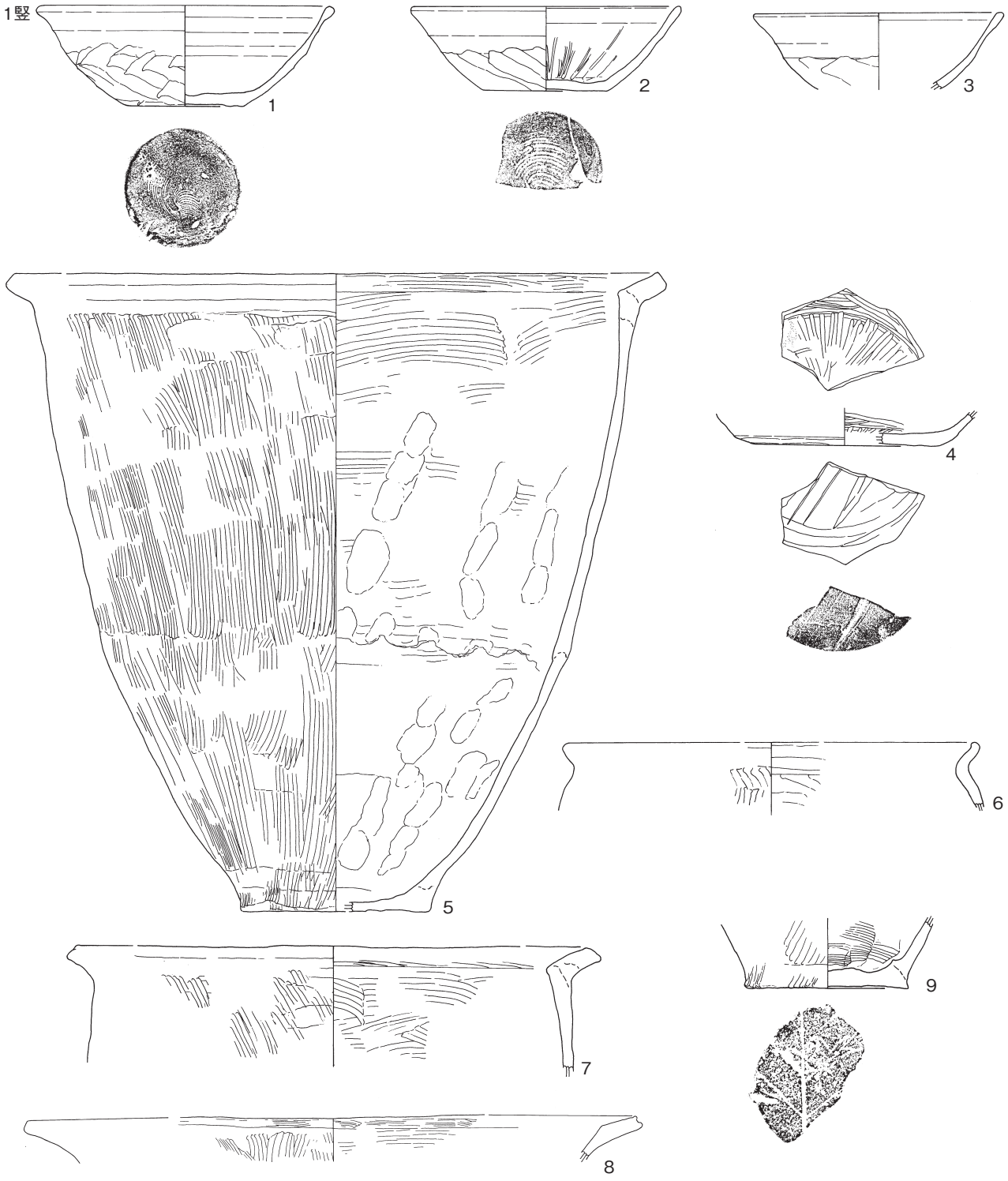
第91図　ピット(17)



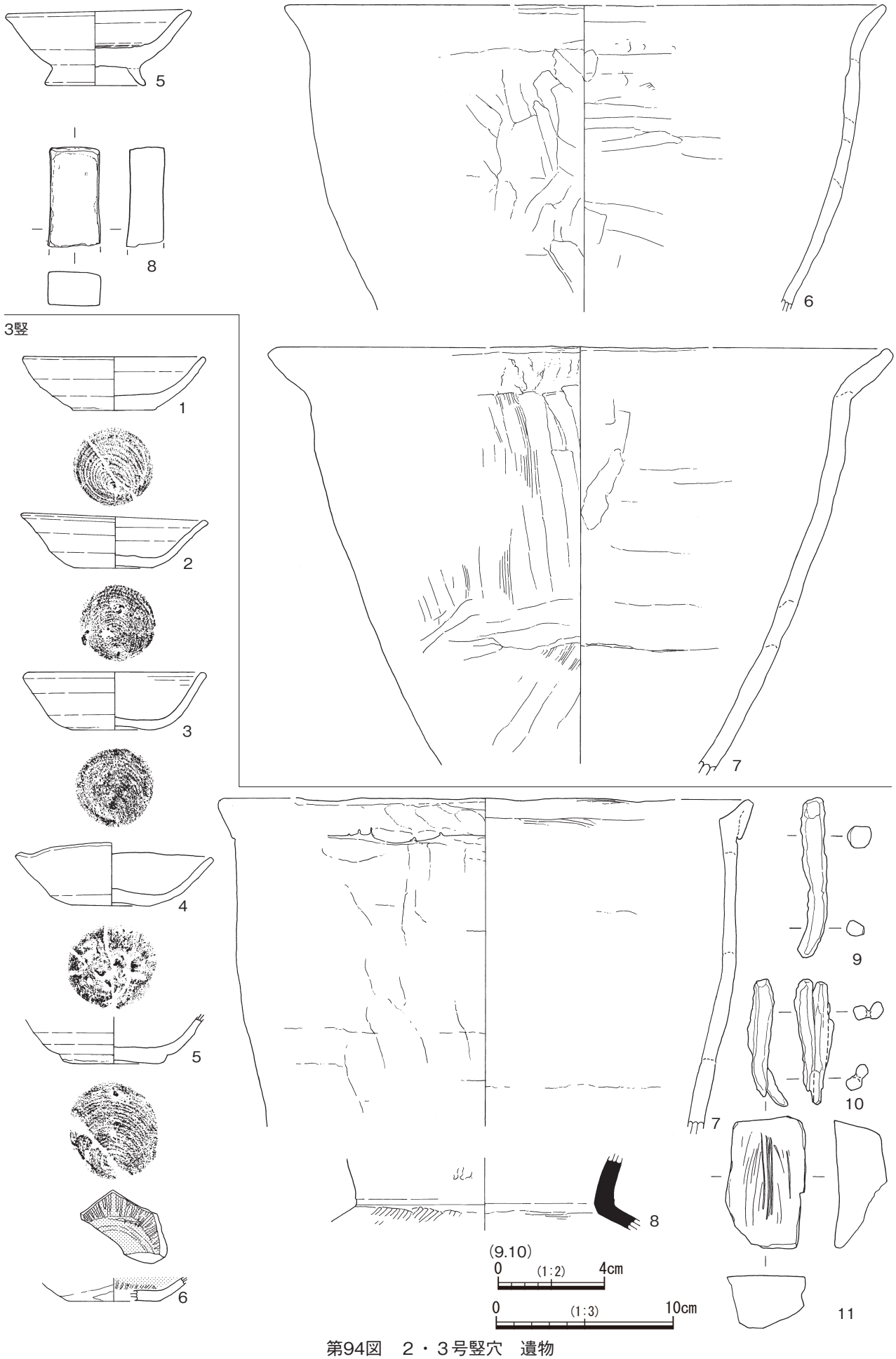
1 河
1　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　砂粒・褐色土・炭化粒・サビ粒入。部分的に砂層のブロック入。しまり有り。φ1.0cm の炭化物有り。
2　褐灰色砂層 (10YR6/1)　やや粗～緻密。サビ入。
3　黒褐色砂質粘質土 (10YR3/2)　やや粘性有り。遺物が入る。
4　黒褐色砂質土 (10YR3/1)　粘性やや強い。サビ入。黒味強い。
5　鈍い黄褐色砂質土 (10YR4/3)　砂粒をやや多く含む。4 層と 6 層の混土。
6　褐灰色砂層 (10YR6/1)　粗い砂層と細かい砂層の互層。サビ入。
7　オリーブ褐色砂質粘質土 (2.5Y4/4)　6 層直下のオリーブがかった細かい土。サビ入。
8　黒褐色粘質土＋褐灰色砂層 (10YR2/2+10YR6/1)　混土。上層に黒褐色土があり、その下は砂層と黒褐色の混土となる。
9　黒色粘土 (10YR2/1)　粘性有り。湿り気有り。黒味が非常に強い。サビ入。緻密な粘土。
10　黒褐色粘質土＋褐灰色砂層 (10YR2/2+10YR6/1)　白色の砂層と黒味のある砂層の互層。
11　黒褐色粘土 (10YR2/2)　粘性強い。
12　黒褐色砂質土 (2.5Y3/2)　黒味はやや弱い。粘性弱い。摩耗した甕底部出土 (古墳か)。
13　褐色砂質土 (7.5YR4/6)　やや粗い砂層。サビ化する礫層の上層か、川底か。
14　暗オリーブ褐色砂質土 (2.5Y3/3)　やや砂粒多い。
15　オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3)　密。色は 14 層に似る。粘性はない。
16　褐色砂質土 (7.5Y4/6)　黄褐色の砂層を主とする。
17　黄褐色砂質土 (10YR5/6)　16 層よりも更に黄味が強い砂層。
18　褐灰色砂層 (10YR6/1)　ピット状のくぼみの下層に堆積した粗い砂層。



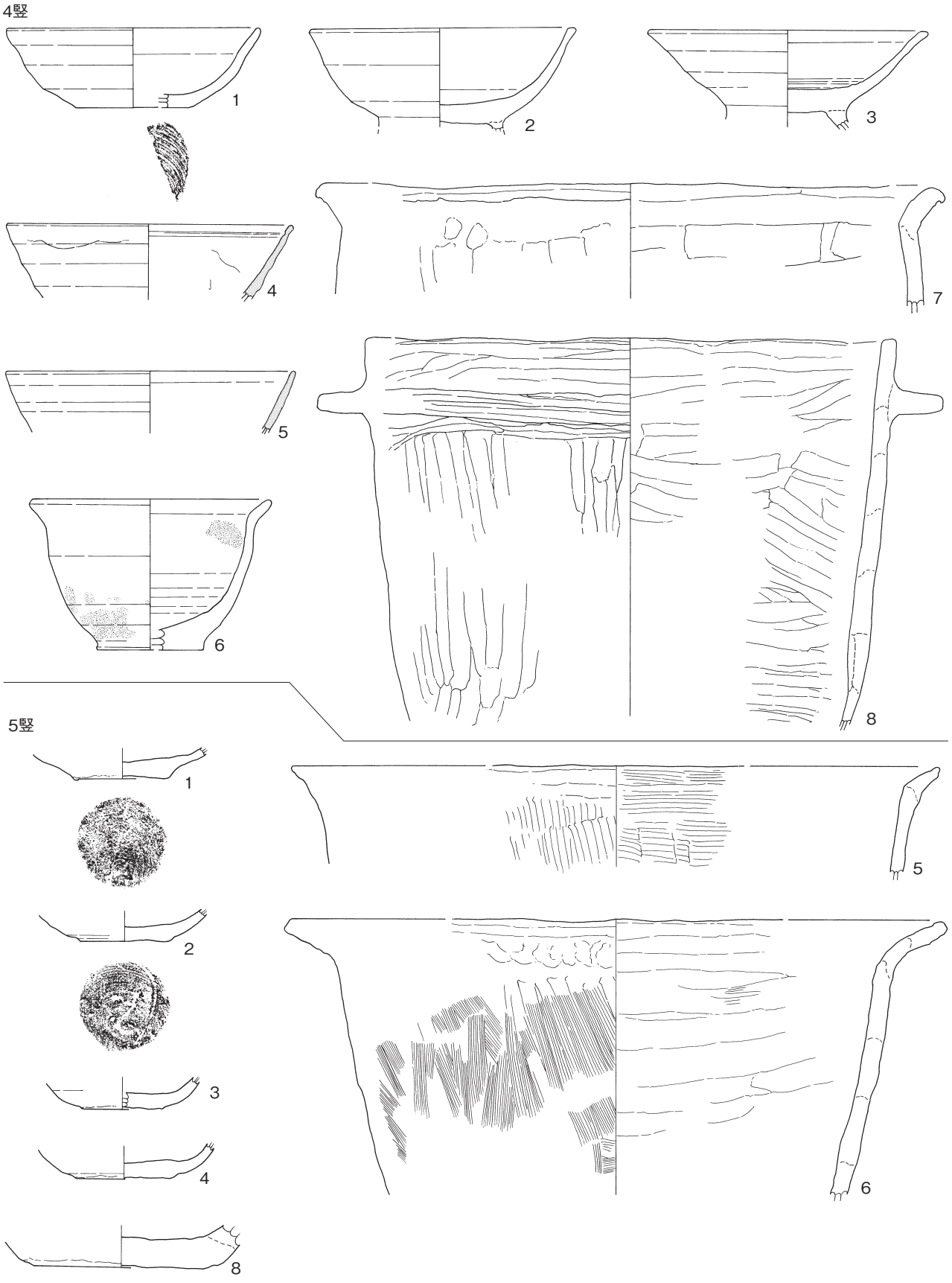
第92図　1 号谷



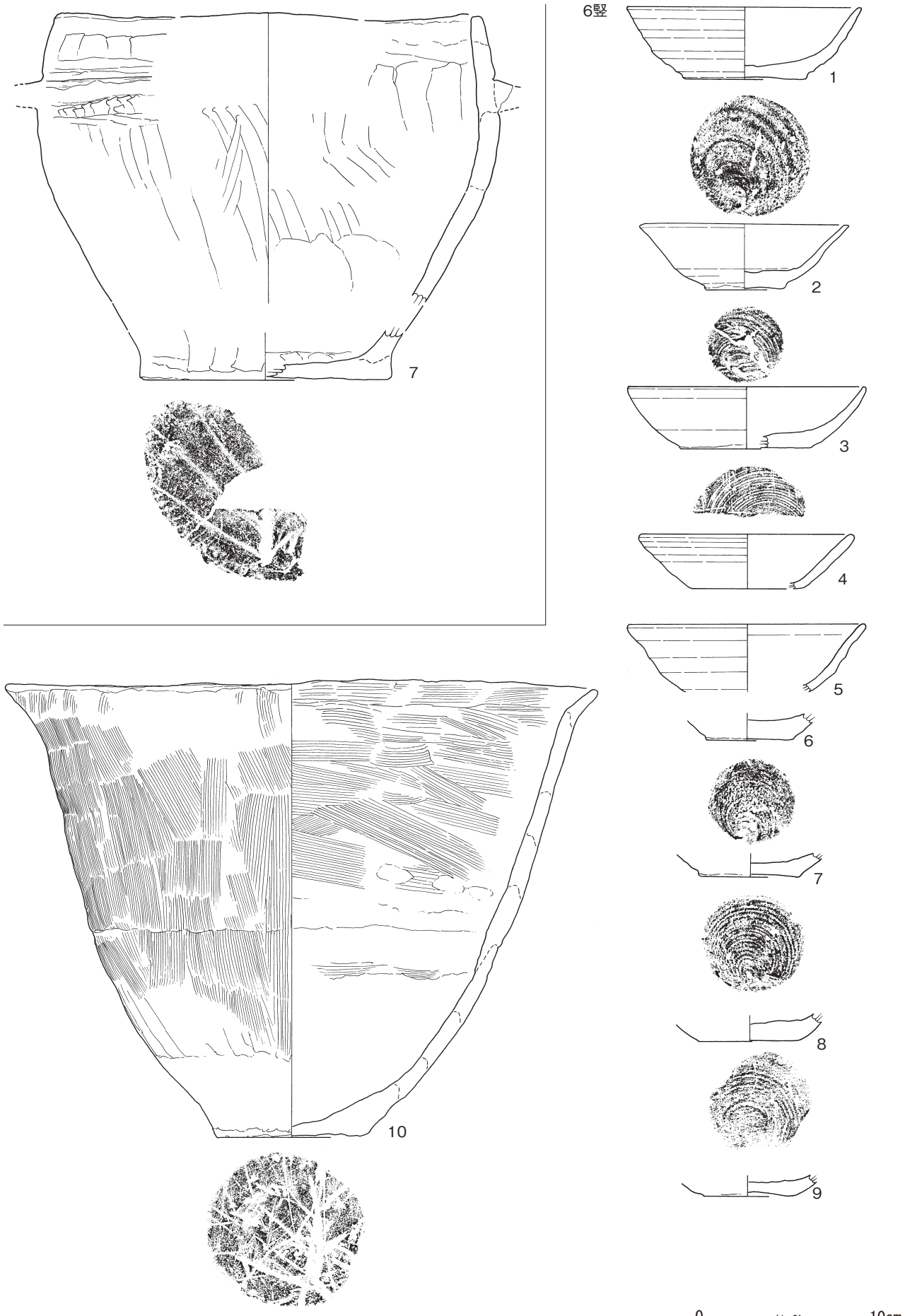
第93図　1・2号竪穴　遺物



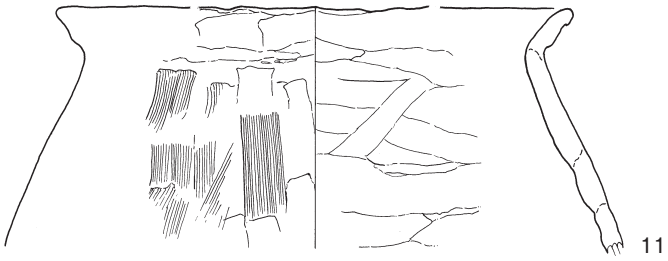
第94図　２・３号竪穴　遺物

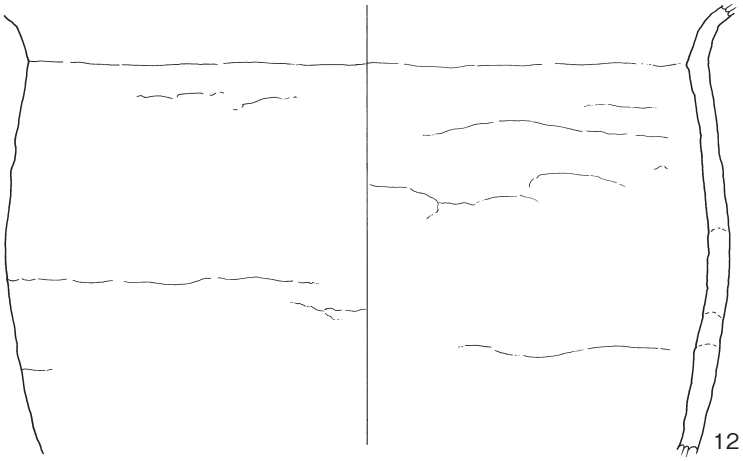


第95図　４・５号竪穴　遺物

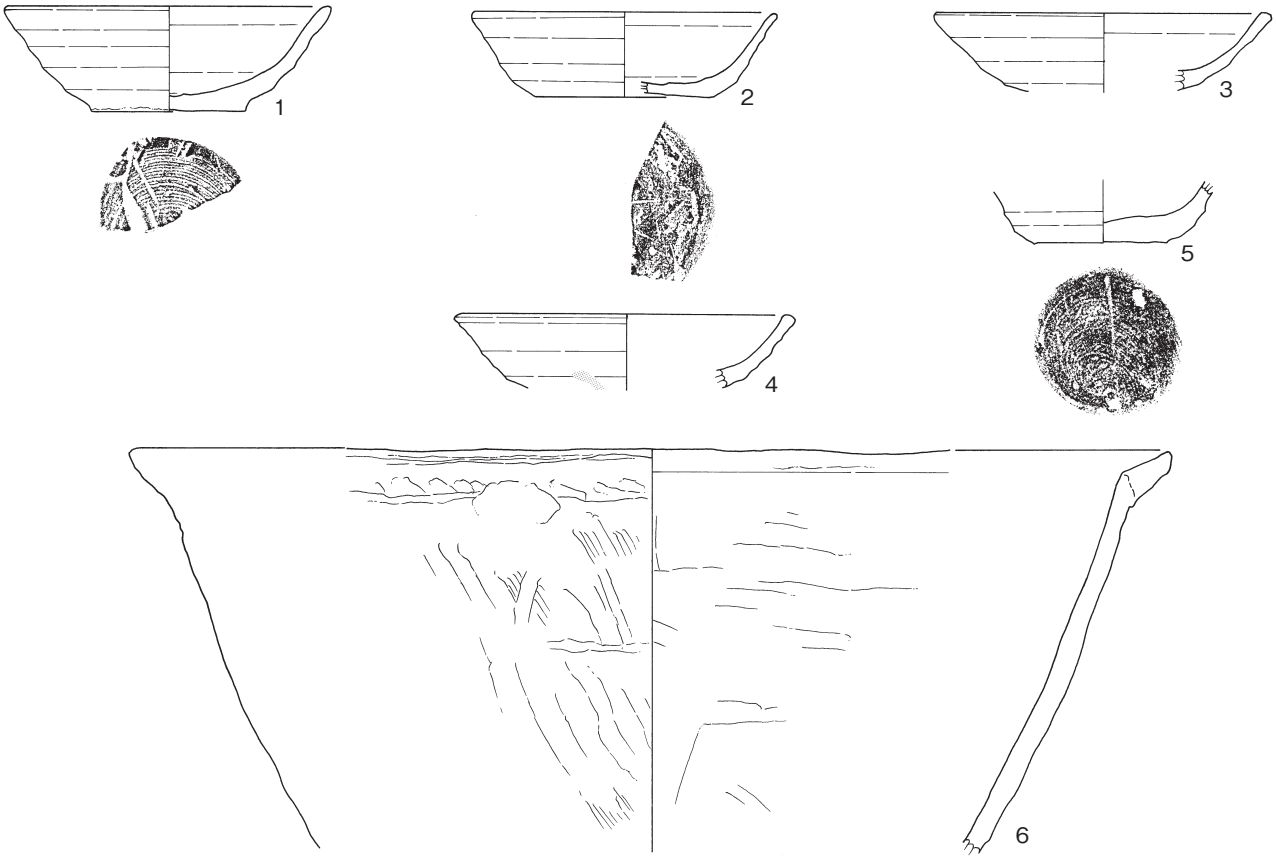


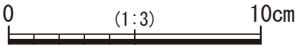
第96図　５・６号竪穴　遺物



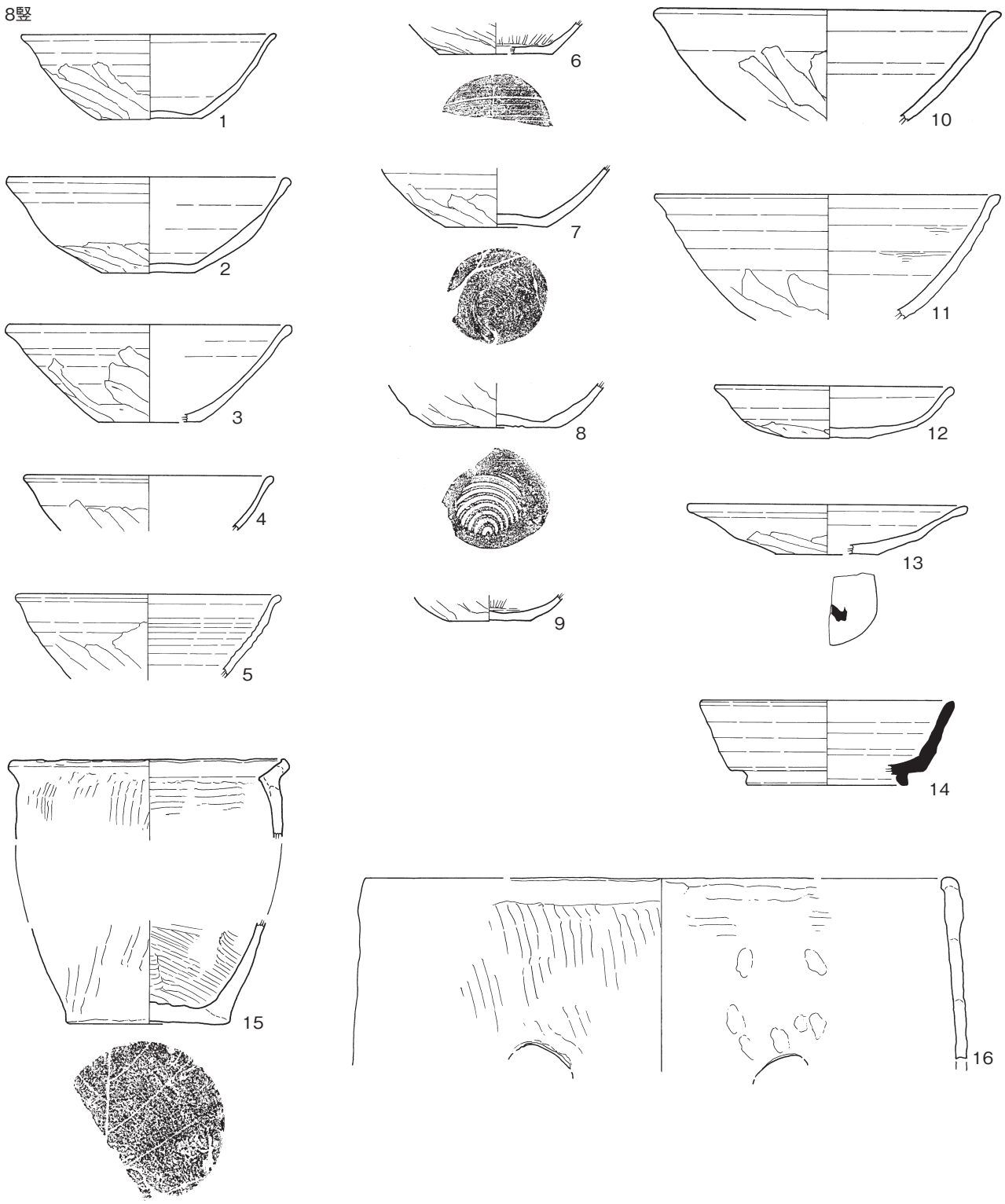


7竪

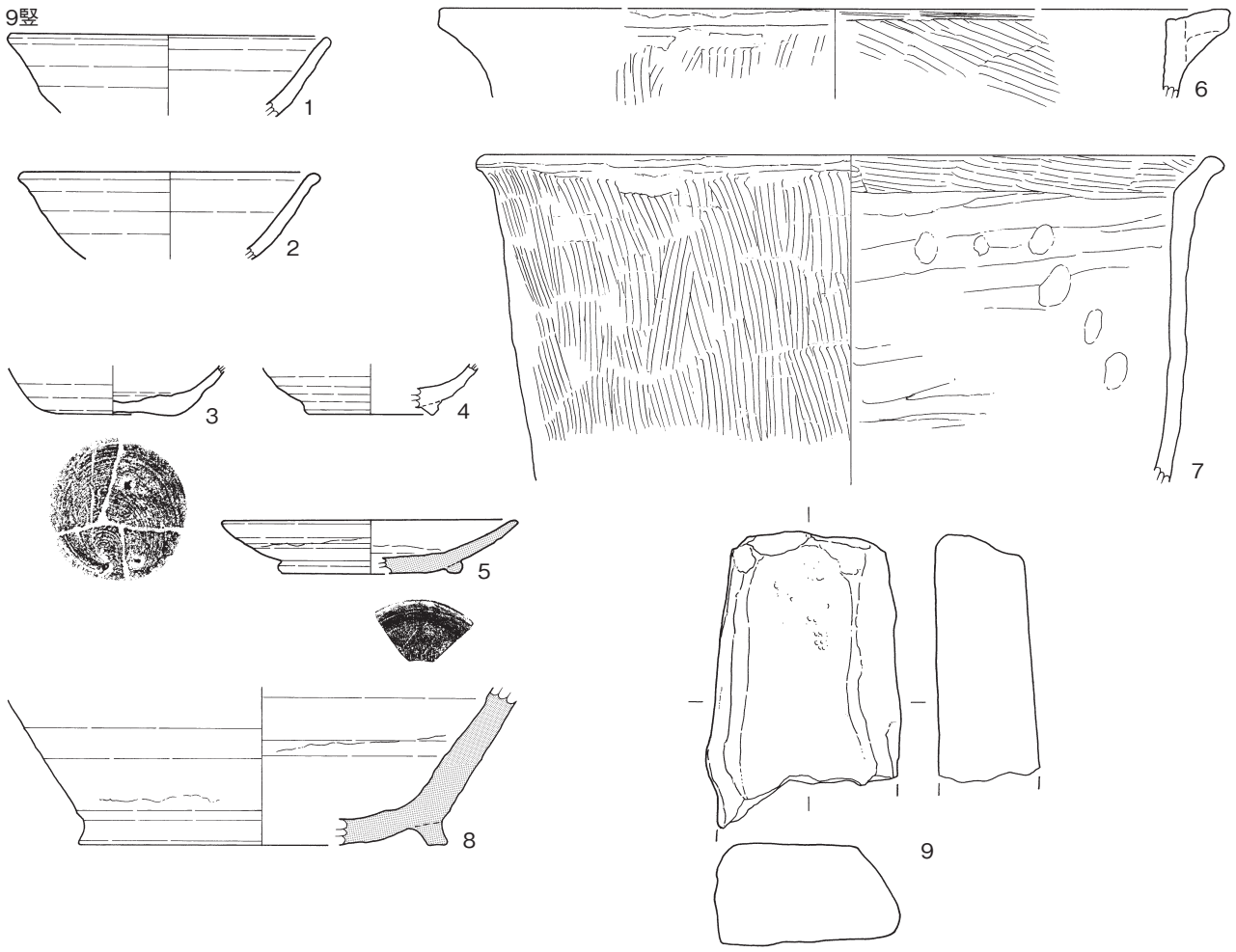


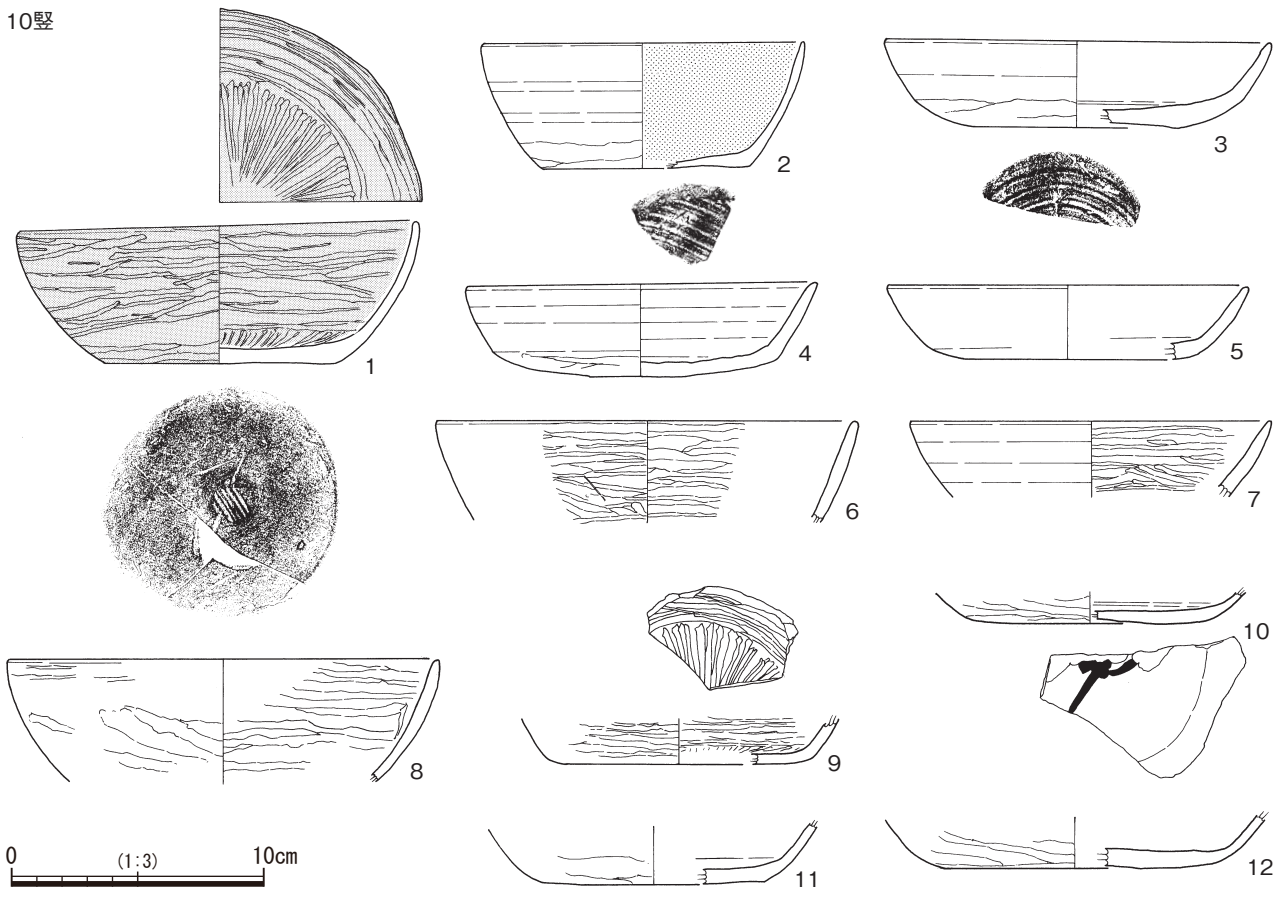


第97図　６・７号竪穴　遺物



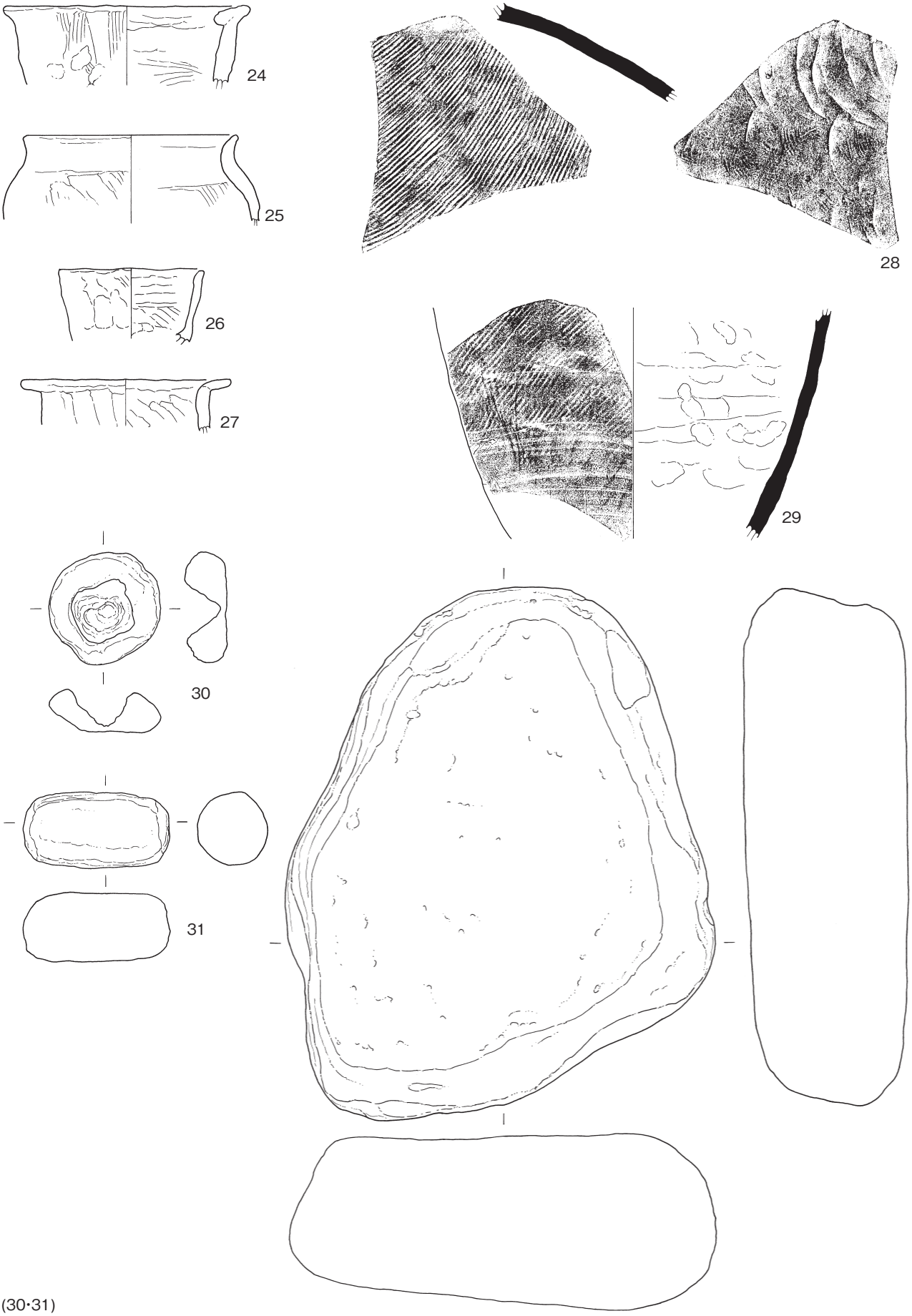
第98図　８号竪穴　遺物



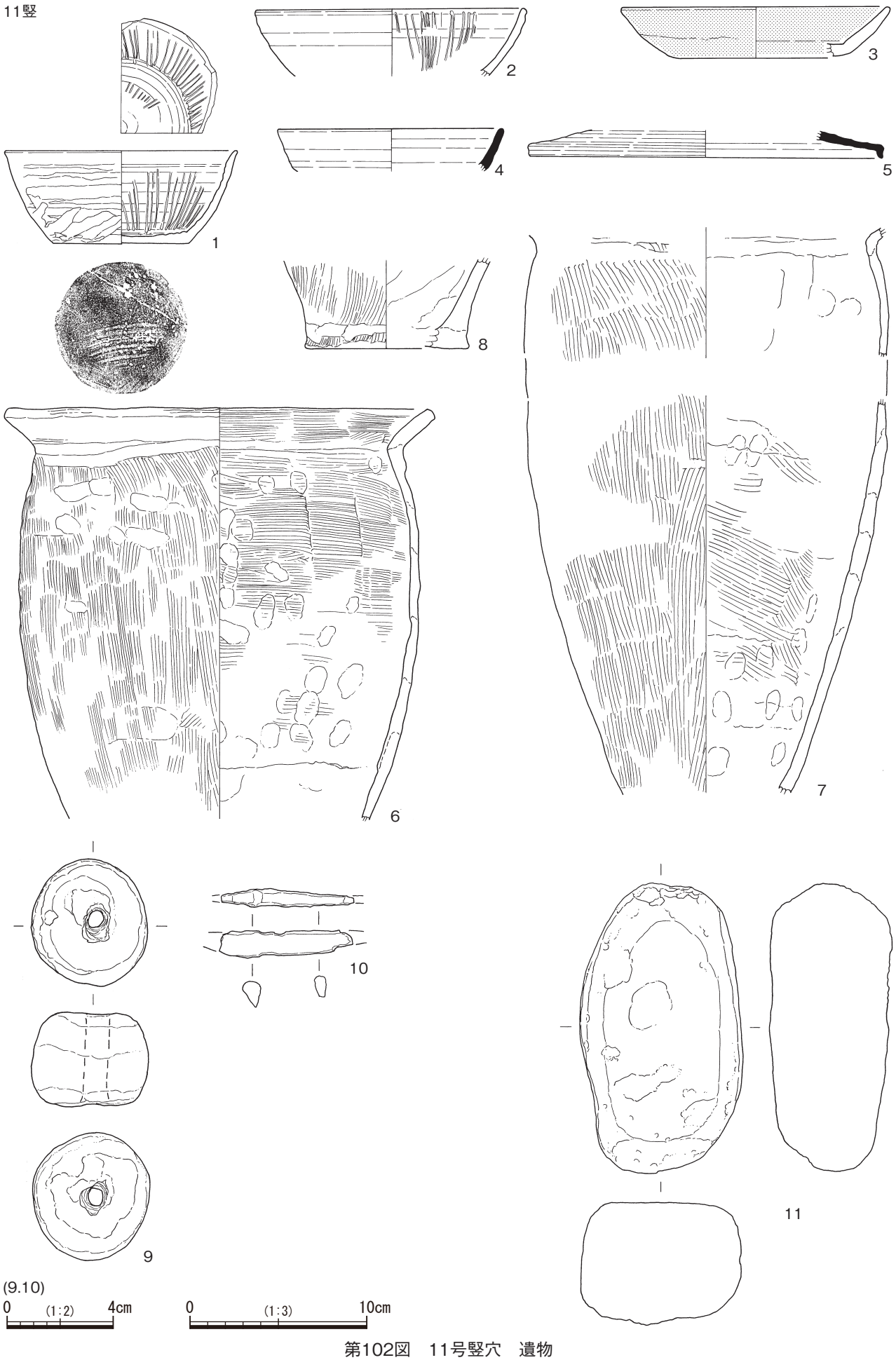


第99図　9・10号竪穴　遺物

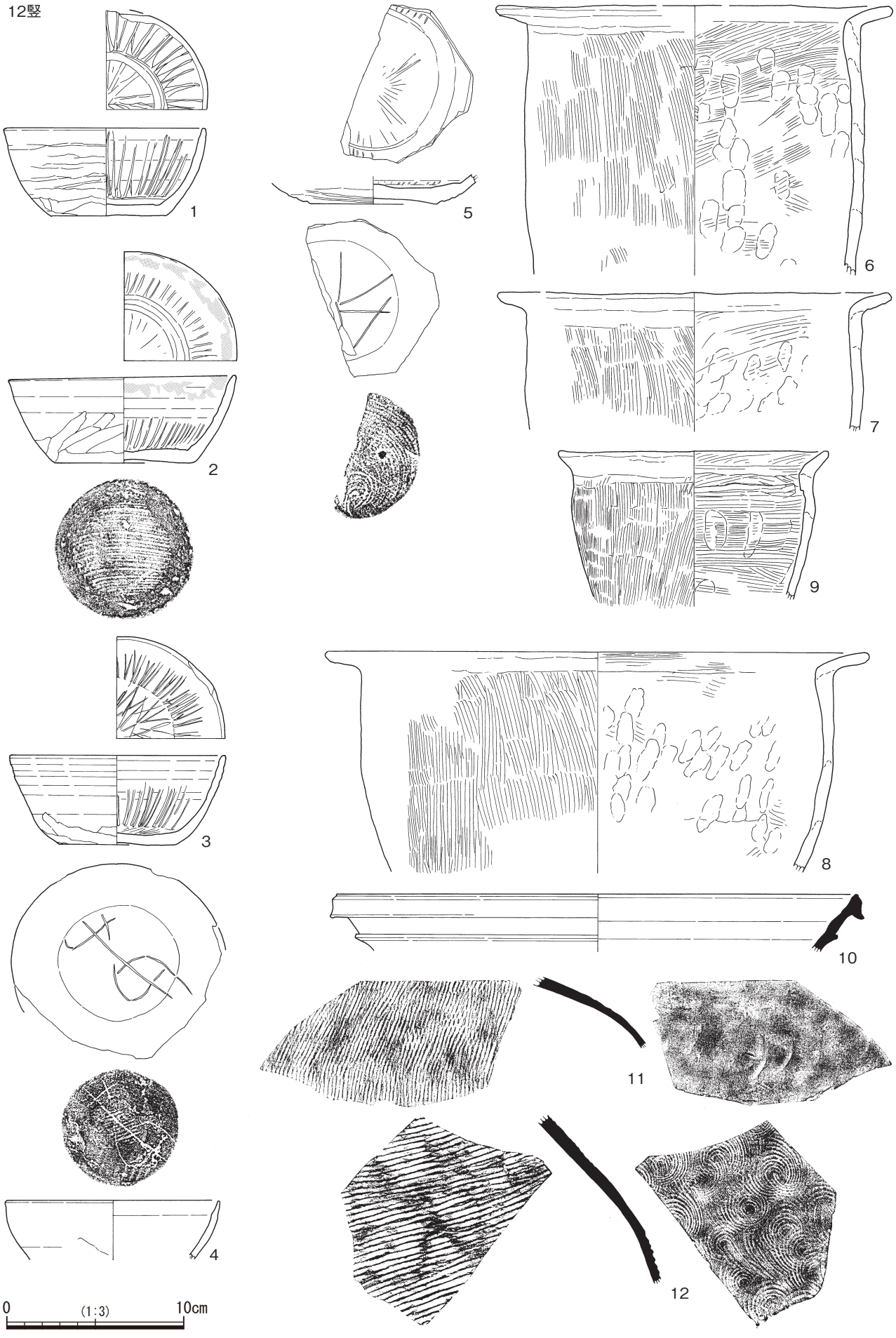
第100図　10号竪穴　遺物



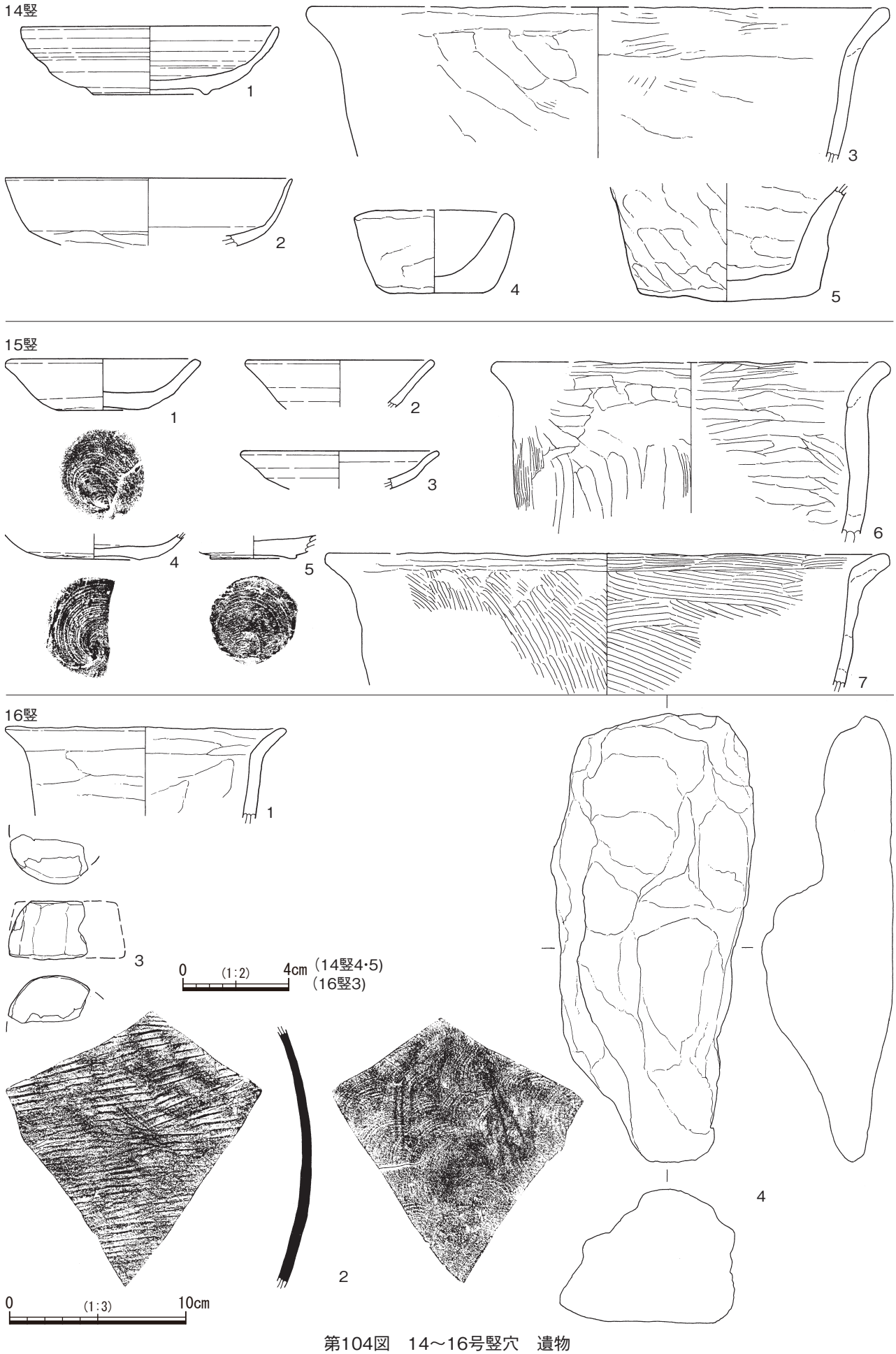
第101図　10号竪穴　遺物



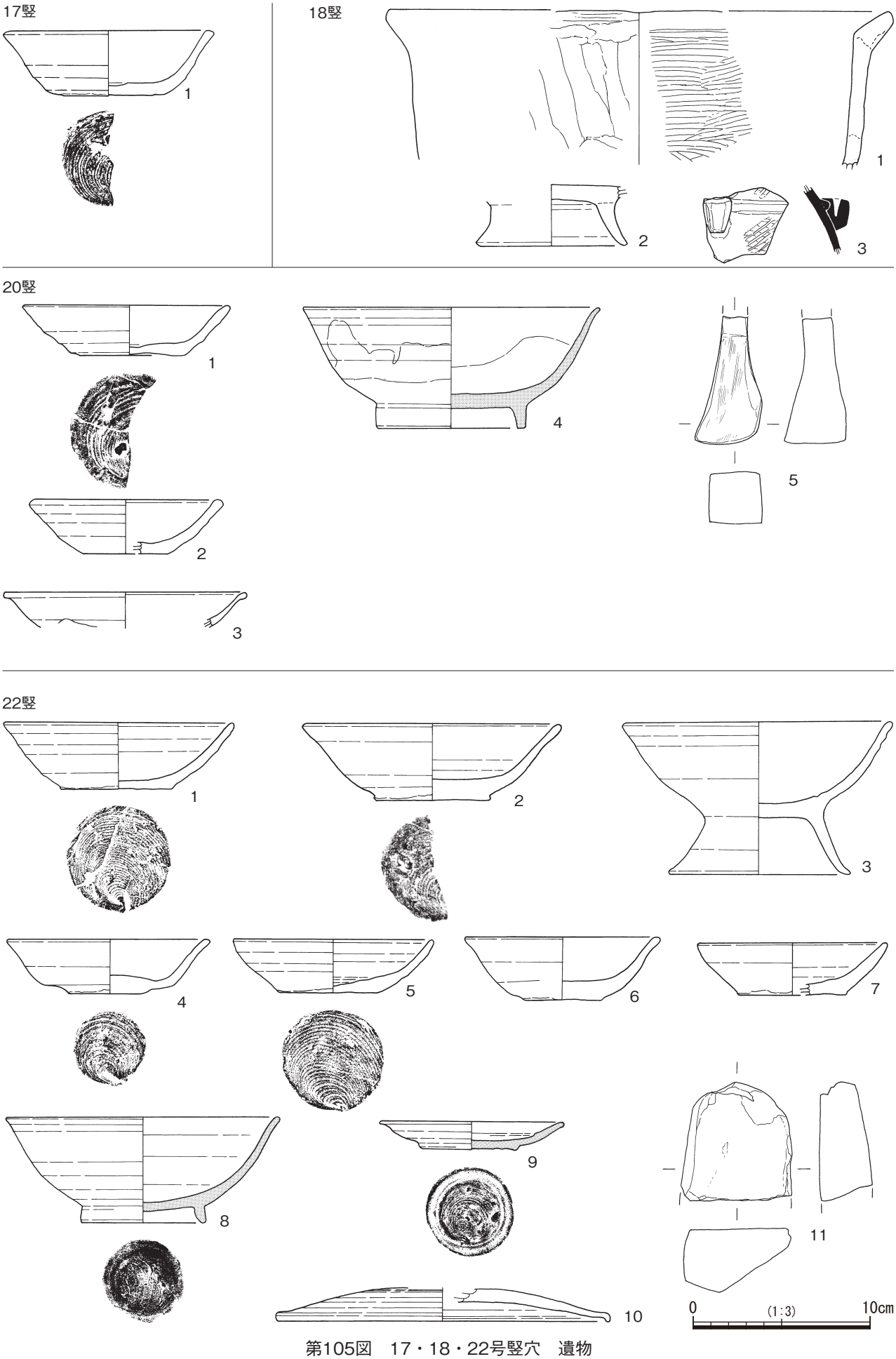
第102図　11号竪穴　遺物



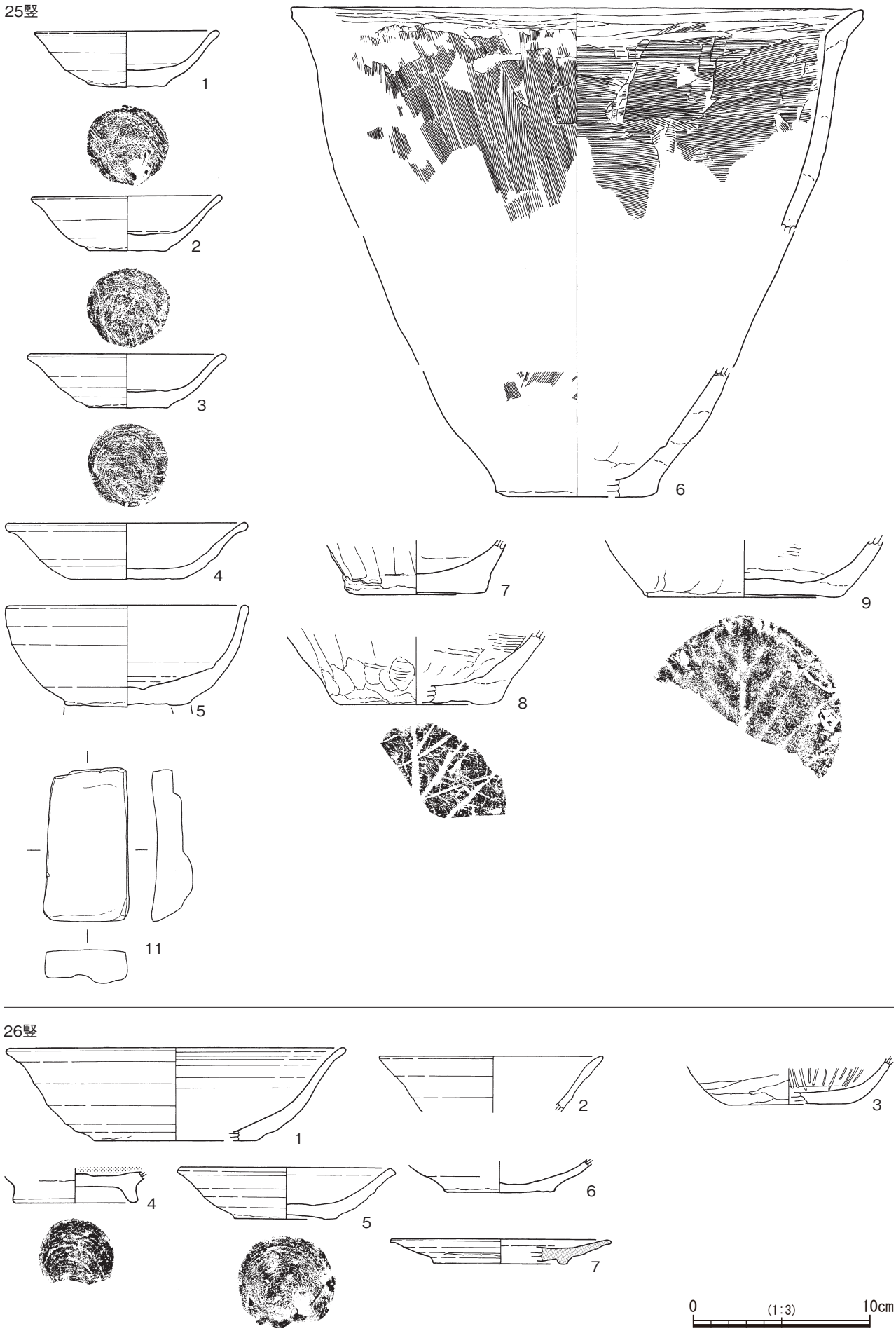
第103図　12号竪穴　遺物



第104図　14～16号竪穴　遺物



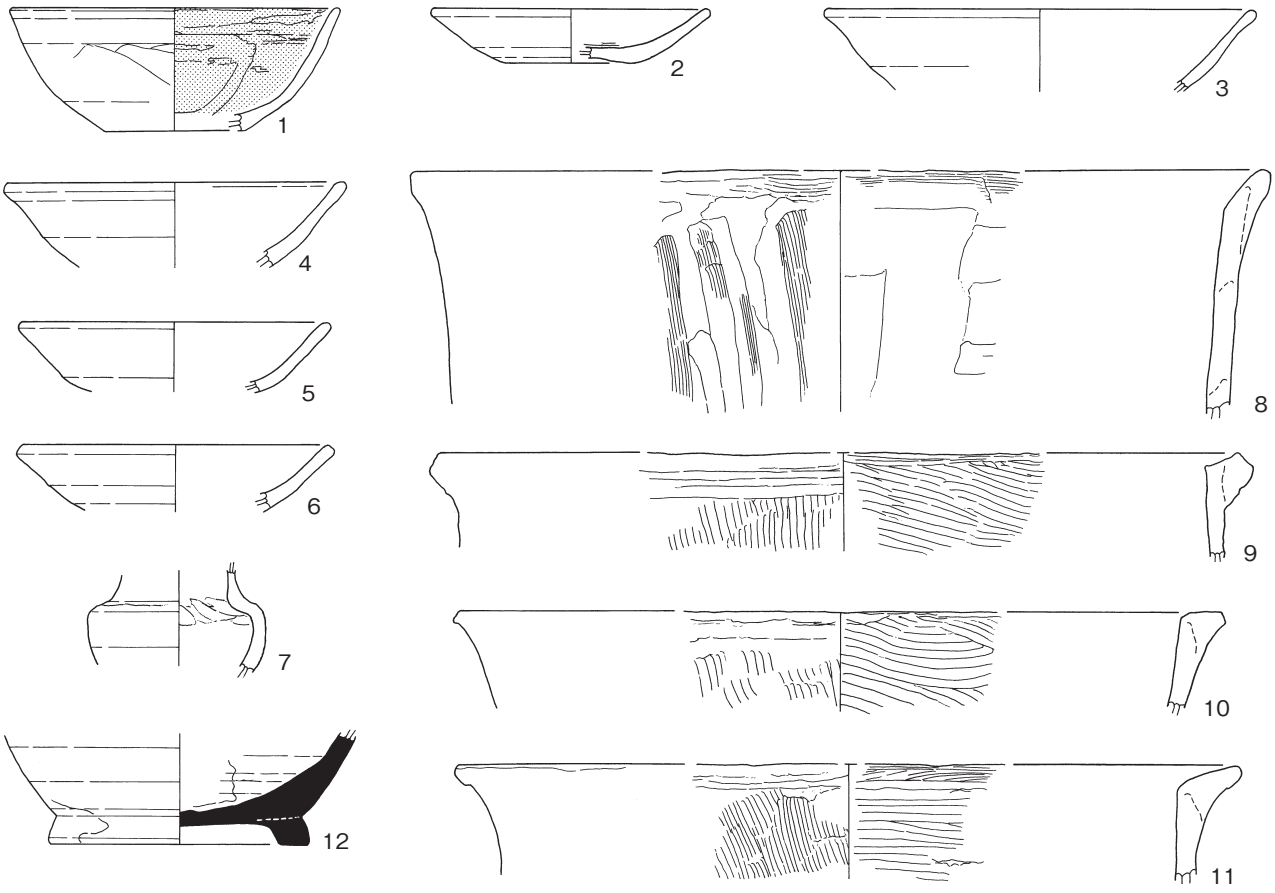
第105図　17・18・22号竪穴　遺物



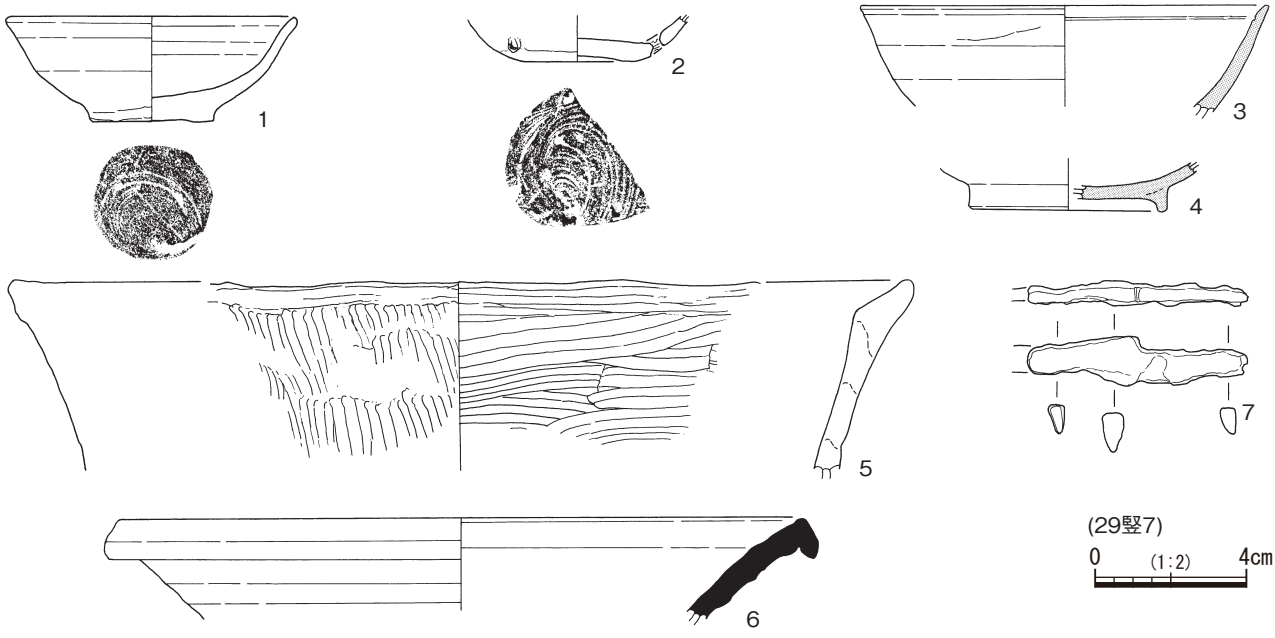
第106図　25・26号竪穴　遺物

27竪

28竪



29竪

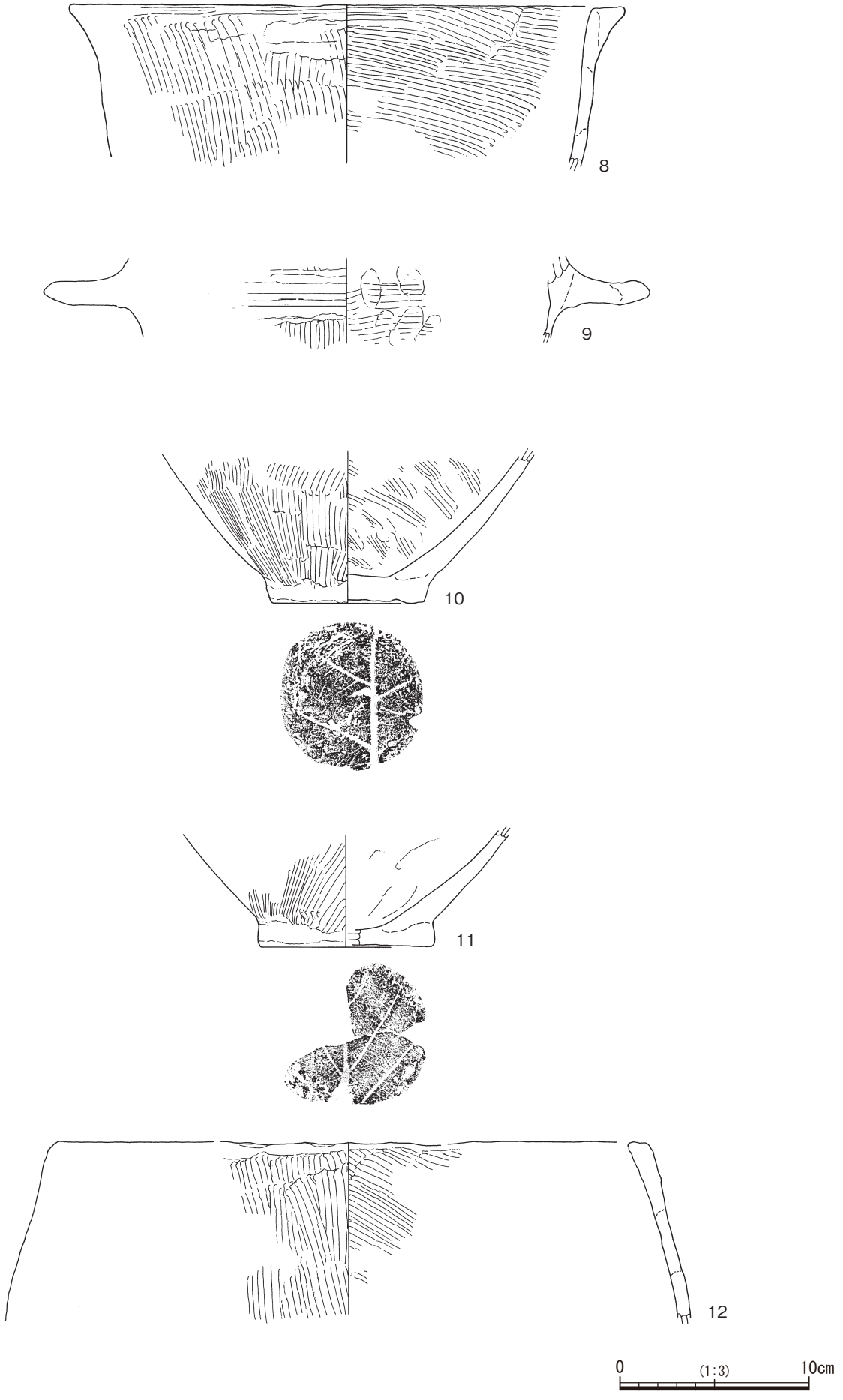


(29竪7)

0 (1:2) 4cm

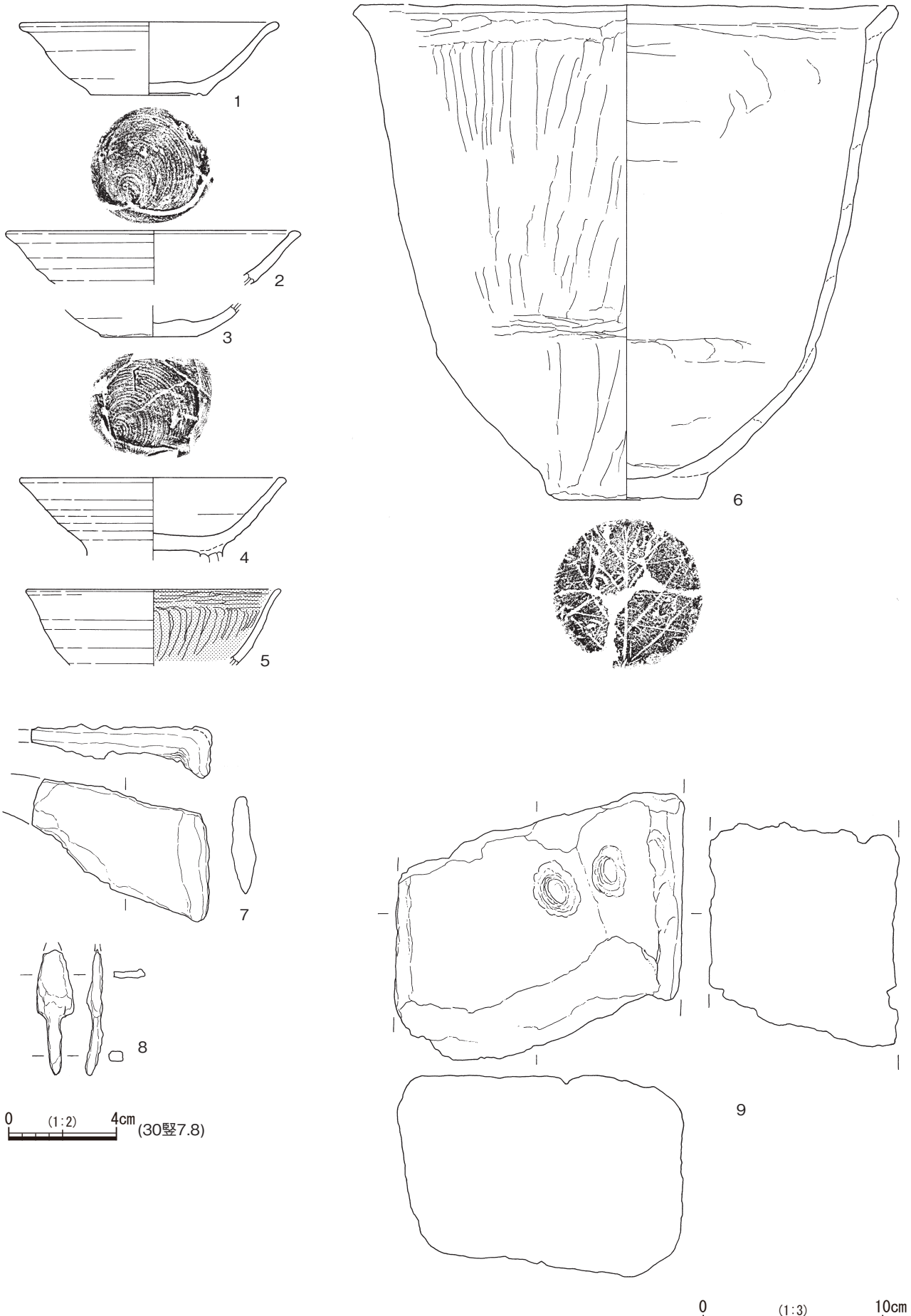
0 (1:3) 10cm

第107図　27～29号竪穴　遺物



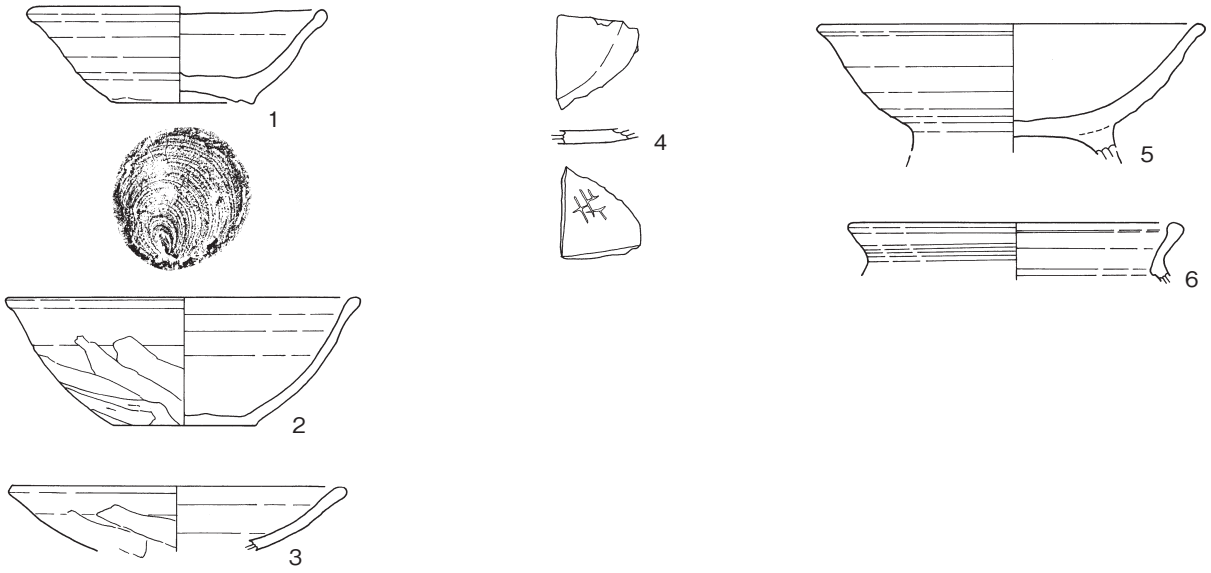
第108図　29号竪穴　遺物

30竪

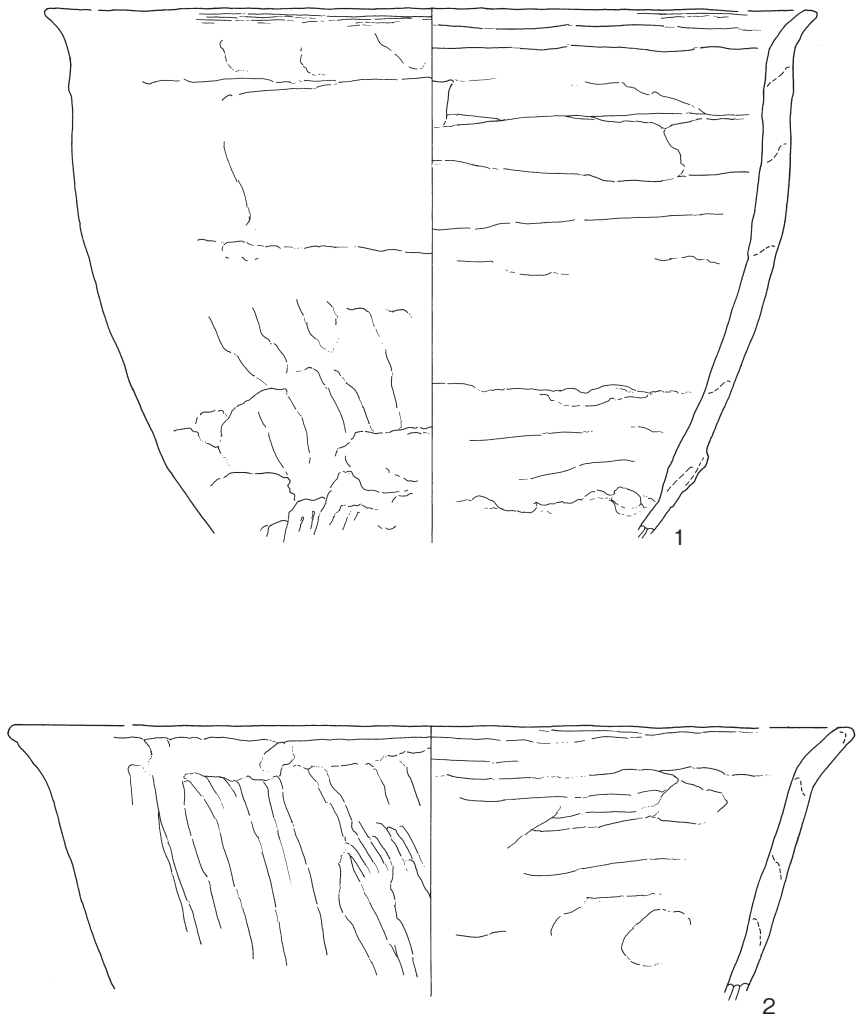


第109図　30号竪穴　遺物

31竪

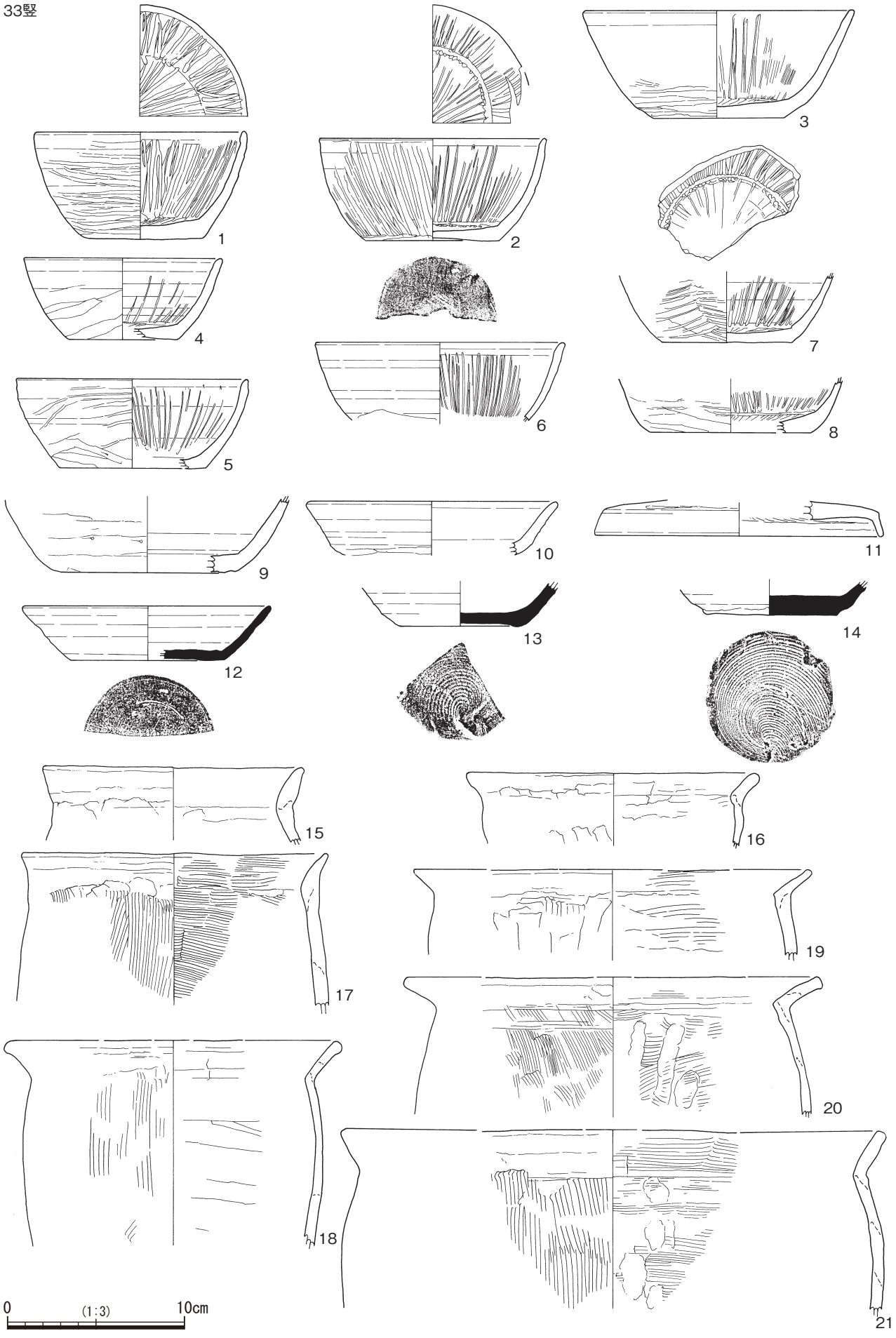


32竪

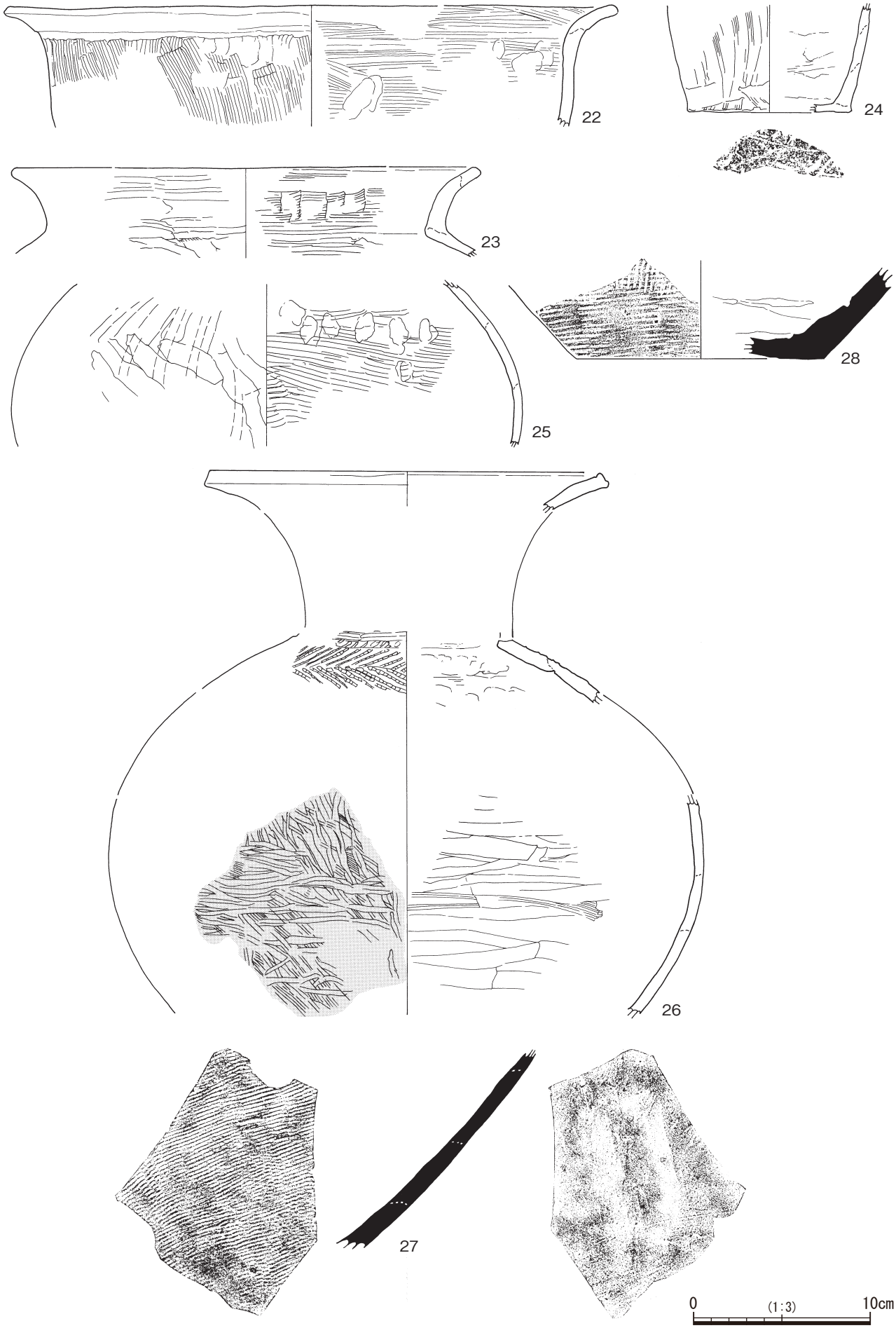


0 (1:3) 10cm

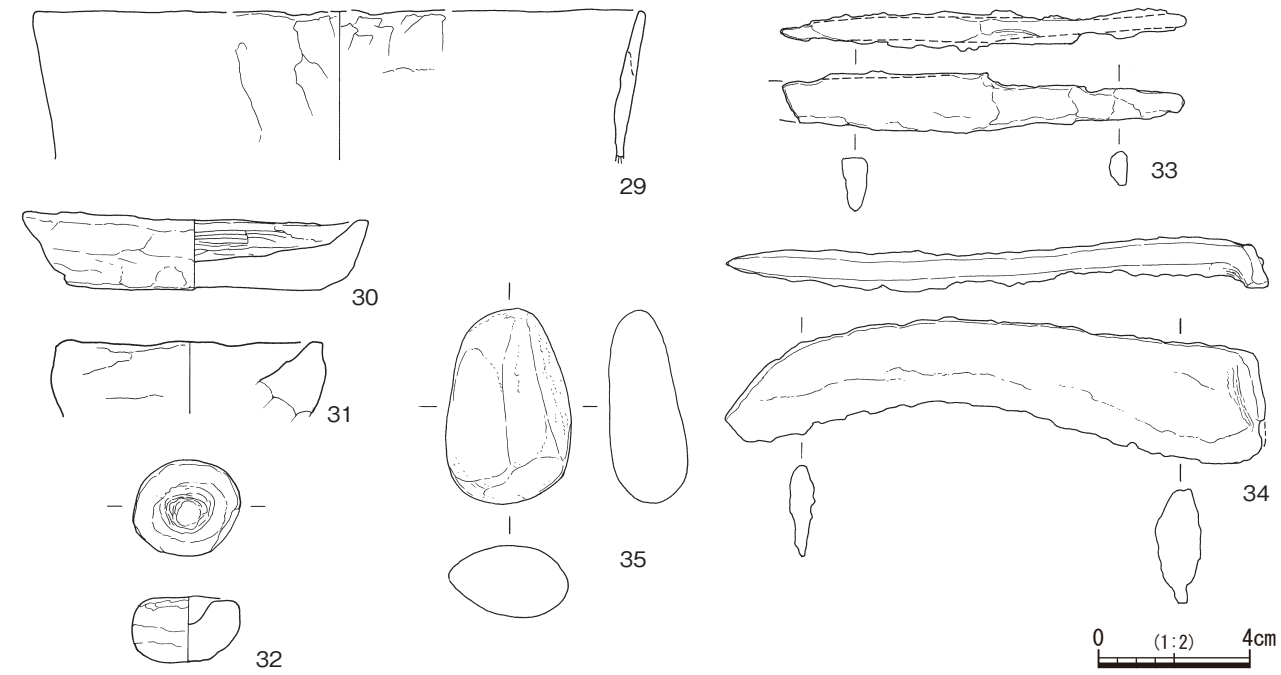
第110図　31・32号竪穴　遺物

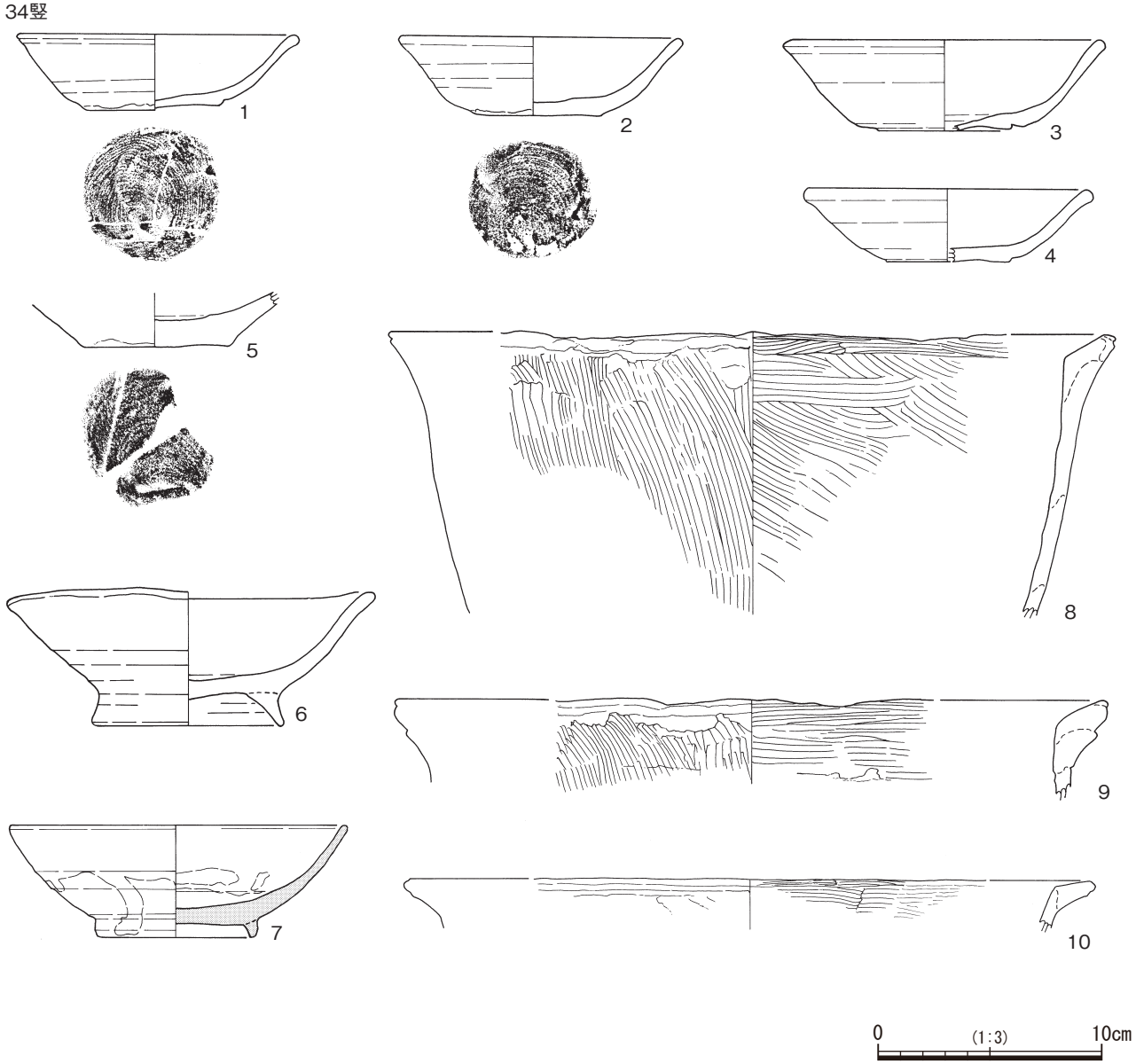


第111図　33号竪穴　遺物



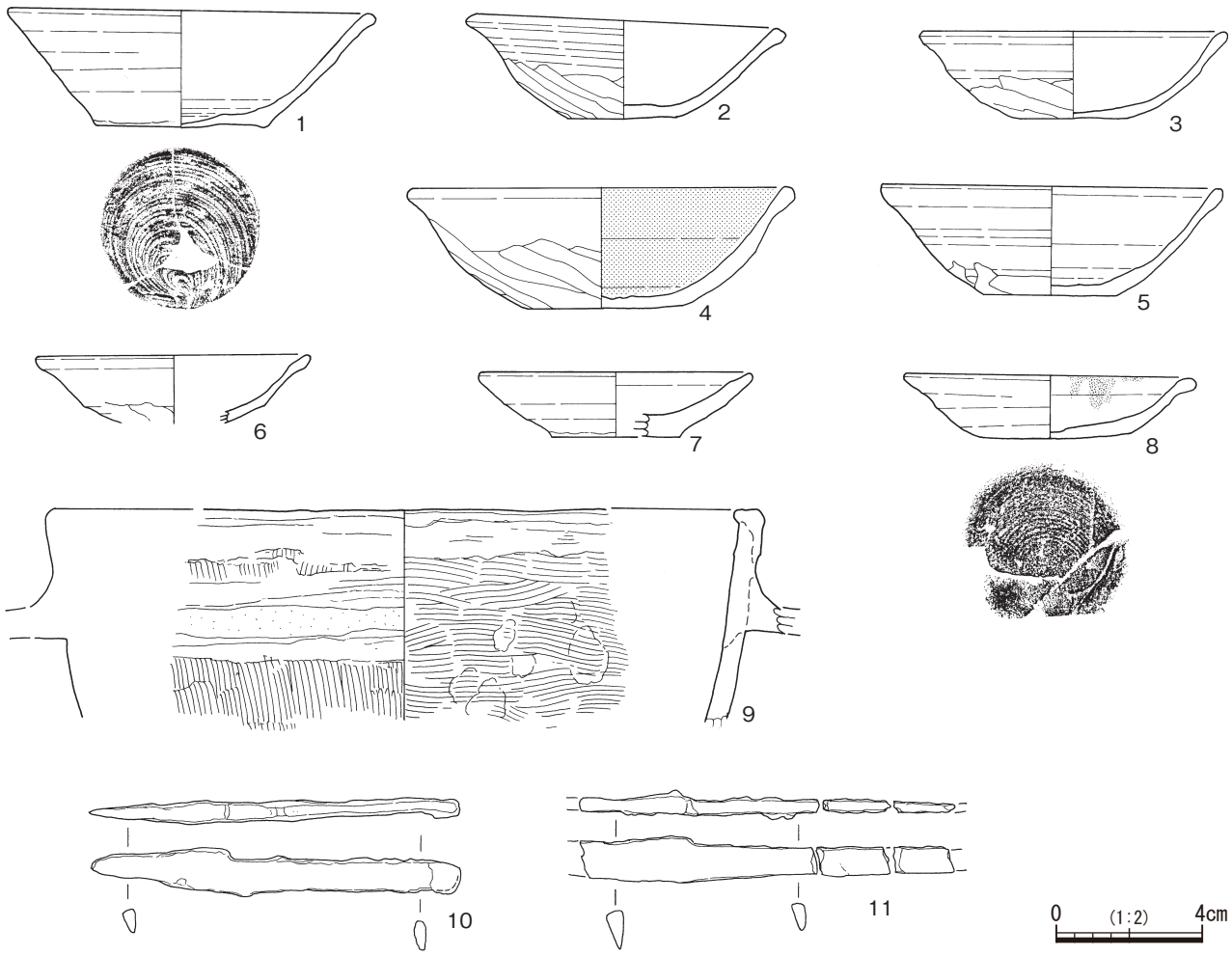
第112図　33号竪穴　遺物



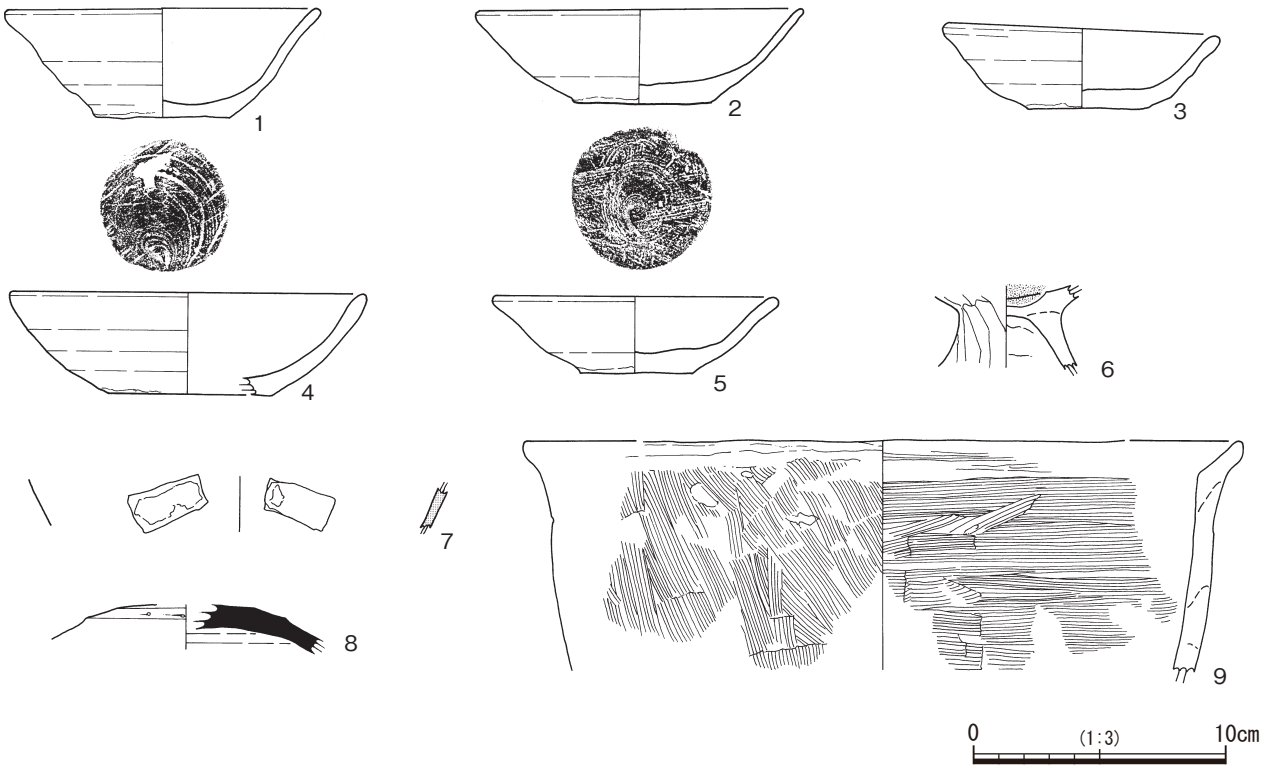


第113図　33・34号竪穴　遺物

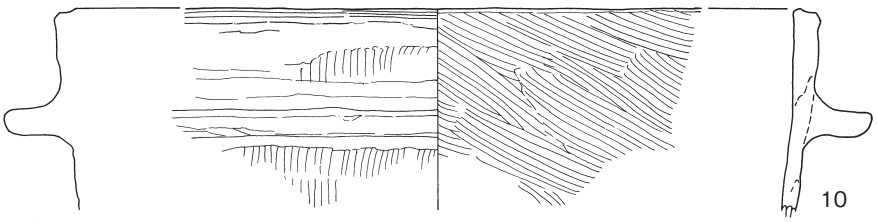
35竪

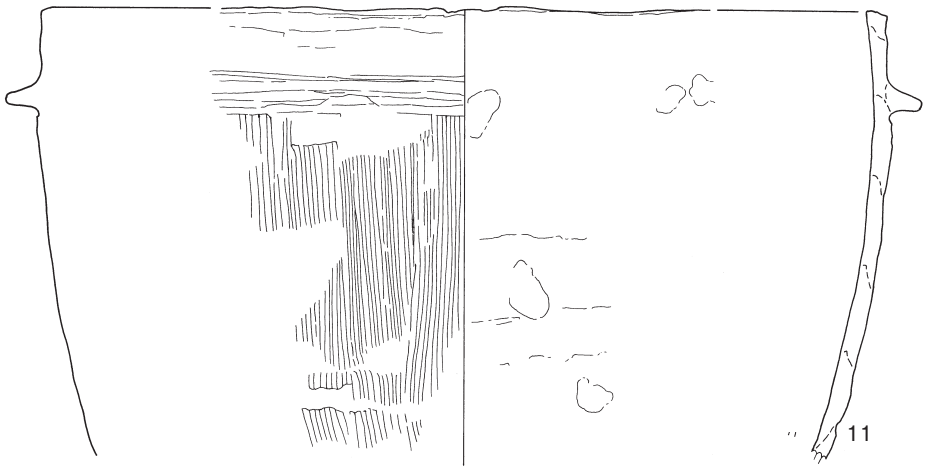


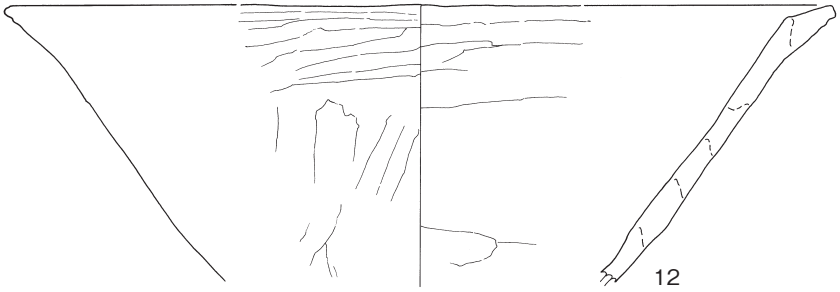
36竪



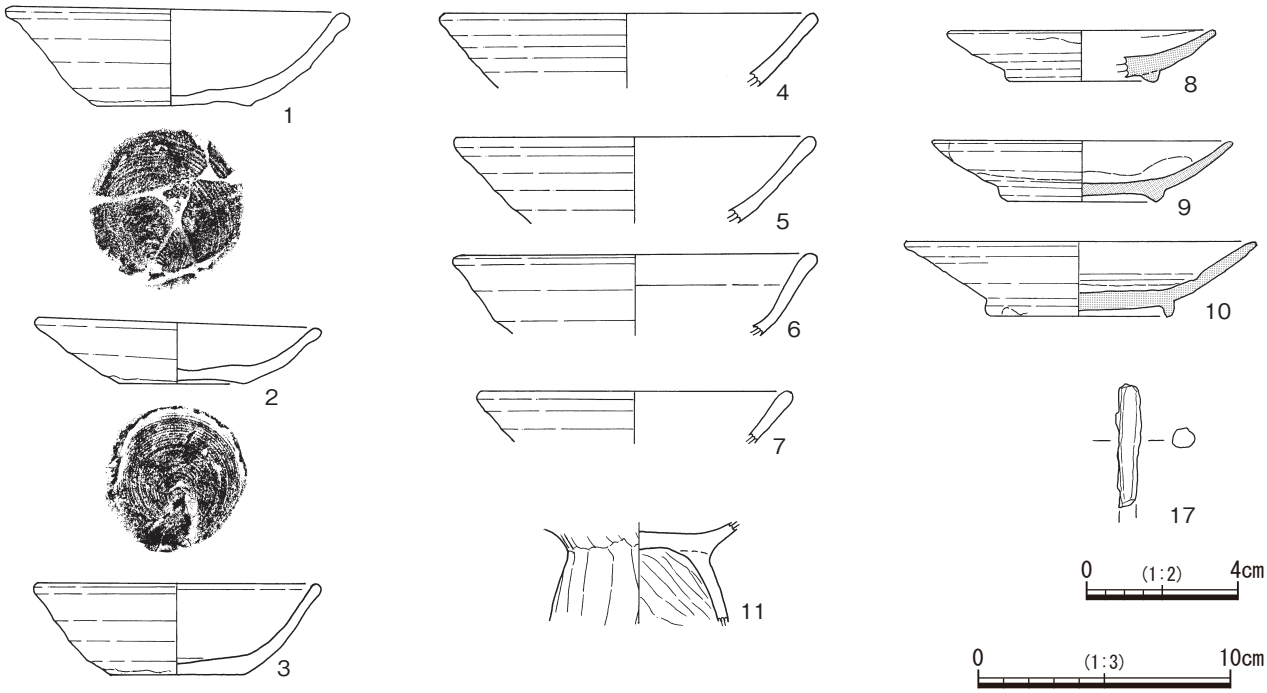
第114図　35・36号竪穴　遺物



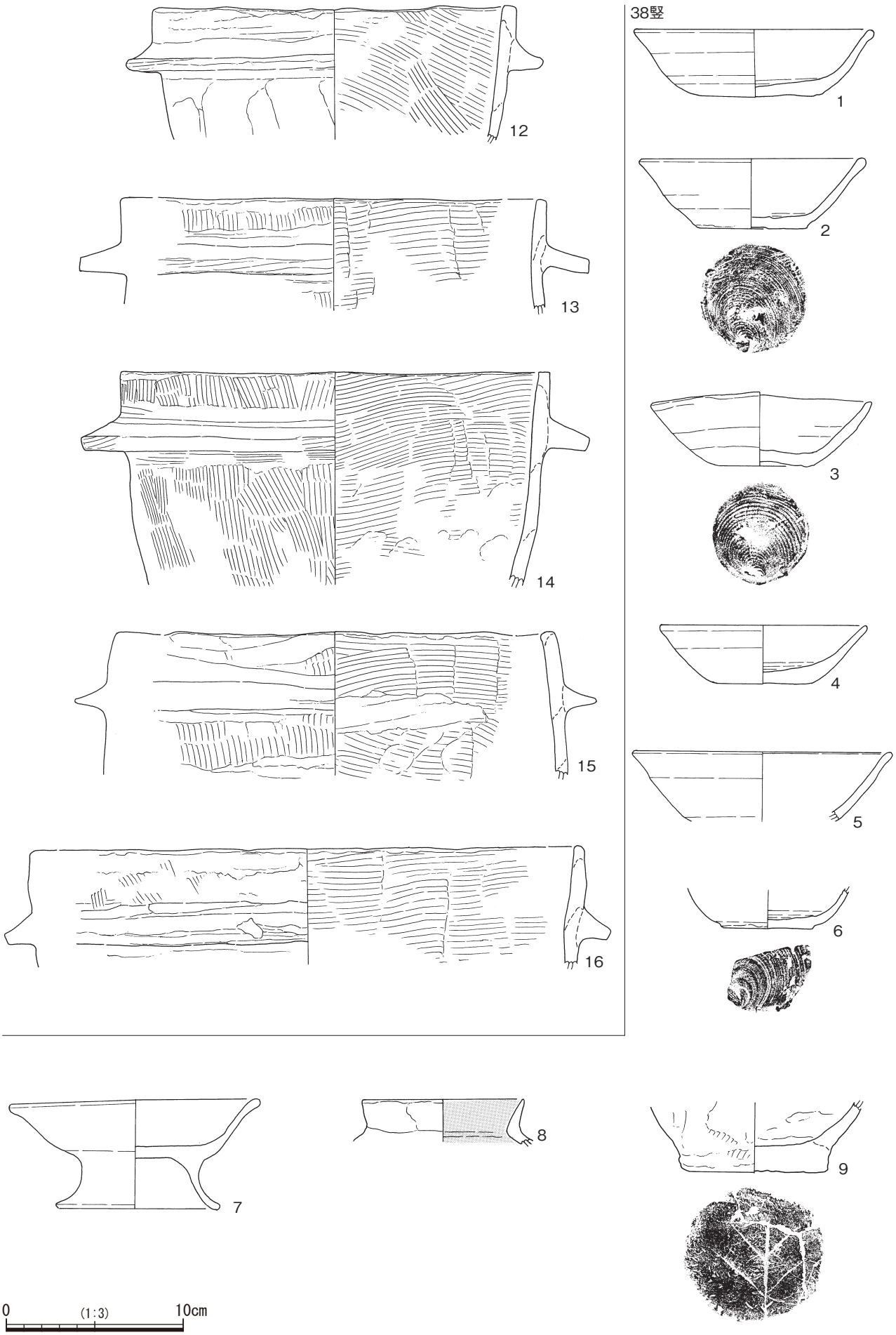




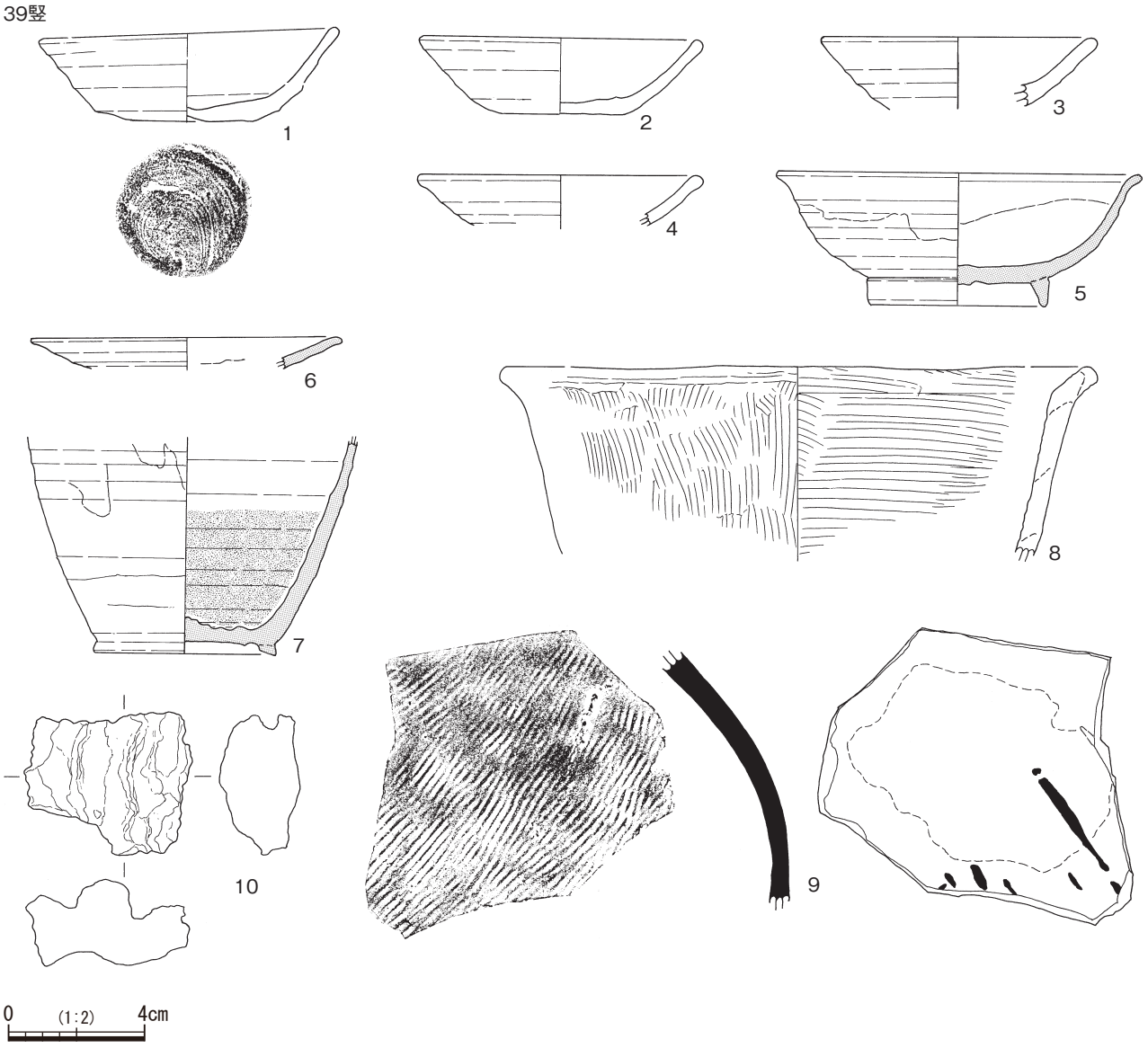
37竪



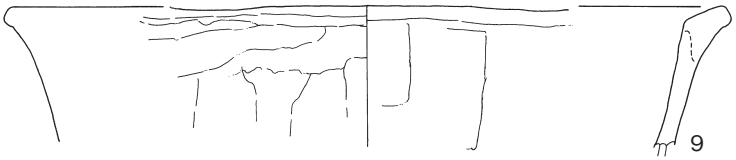
第115図　36・37号竪穴　遺物

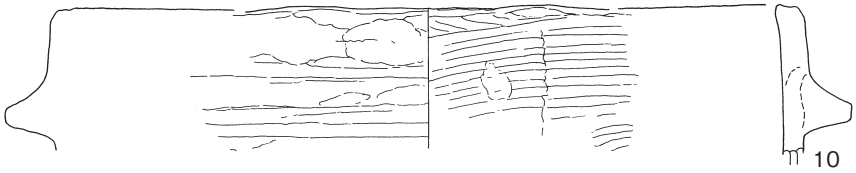


第116図　37・38号竪穴　遺物

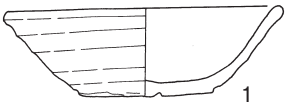


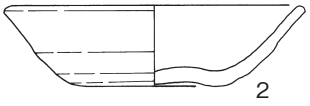
第117図　39・40号竪穴　遺物

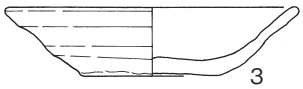


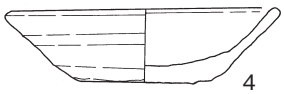


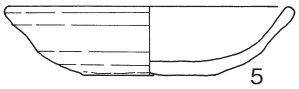
41竪

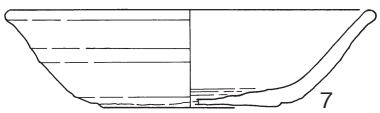


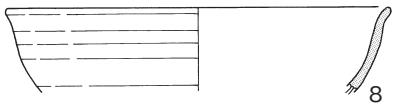


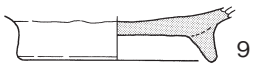


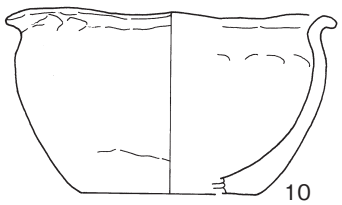


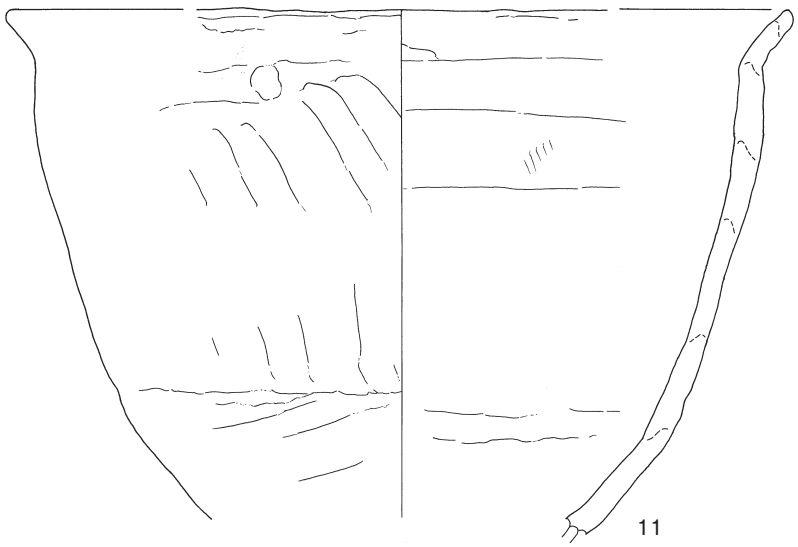


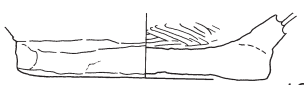


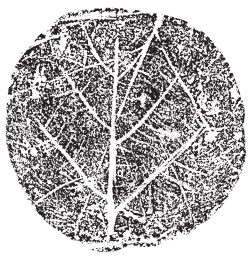


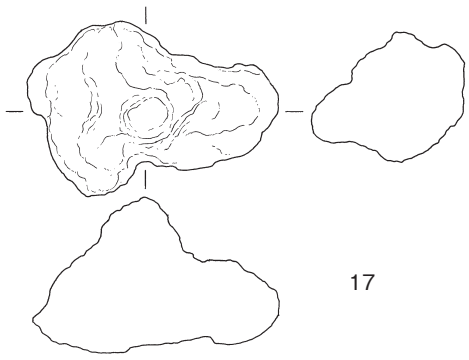


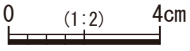


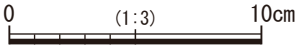




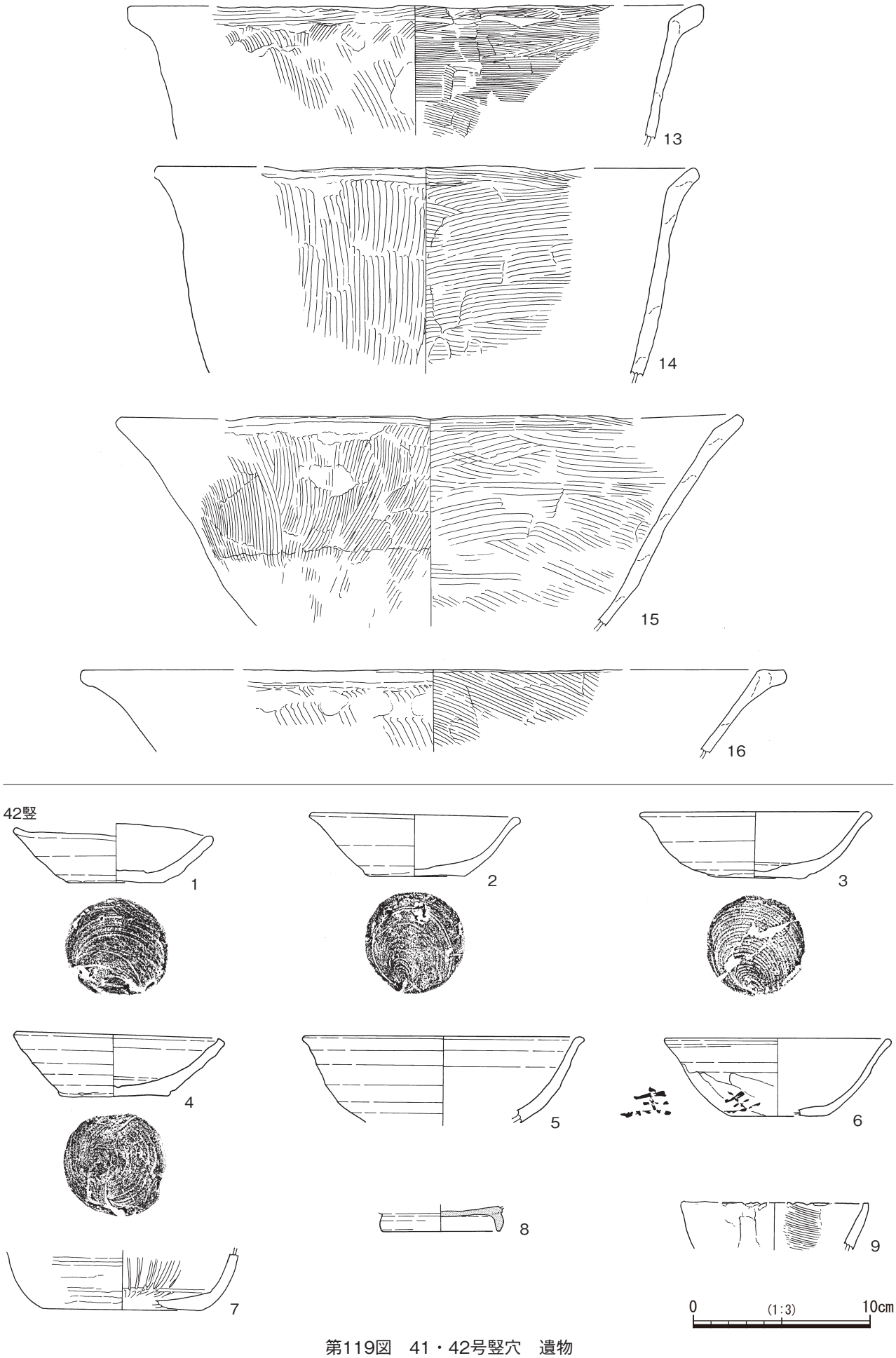




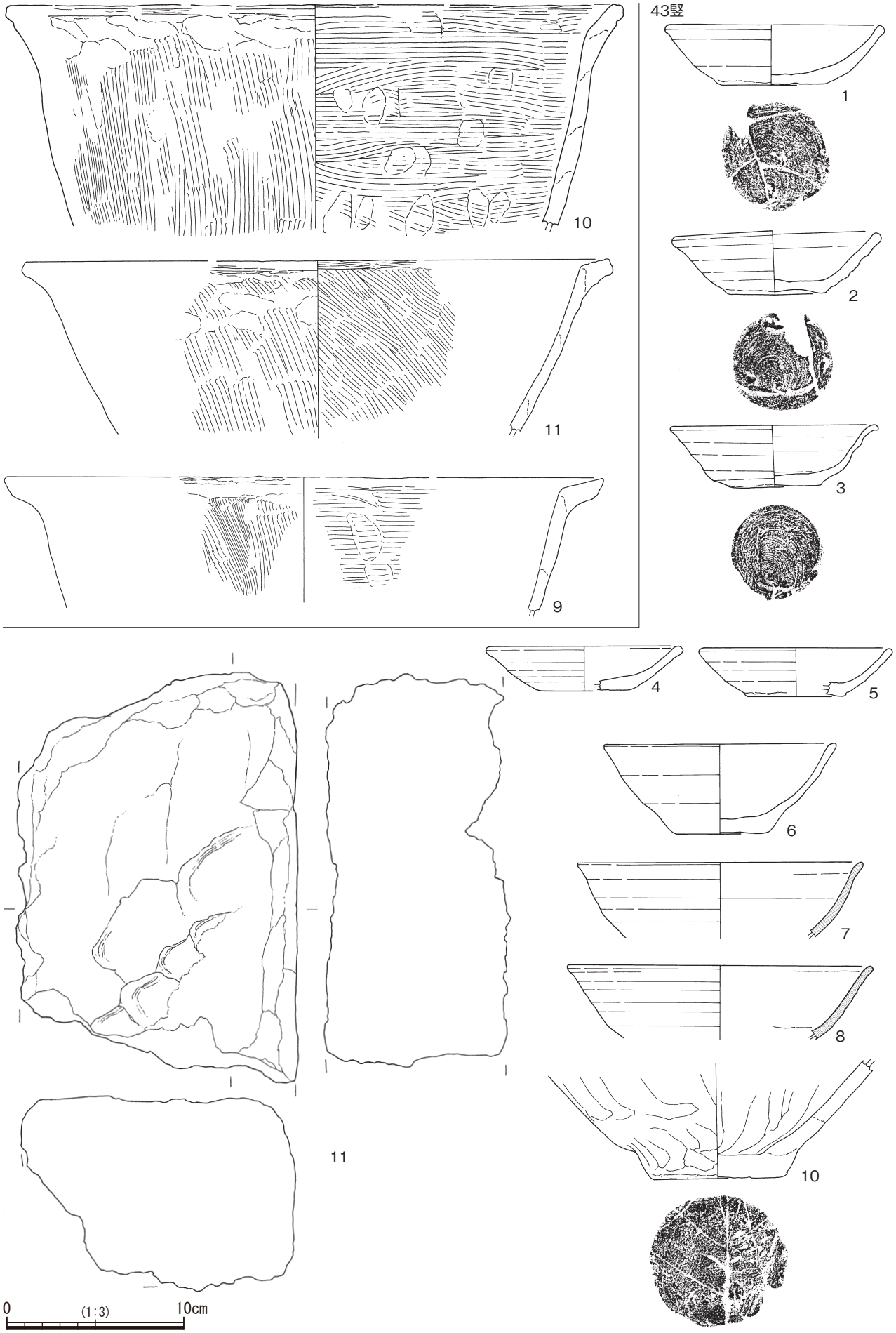




第118図　40・41号竪穴　遺物

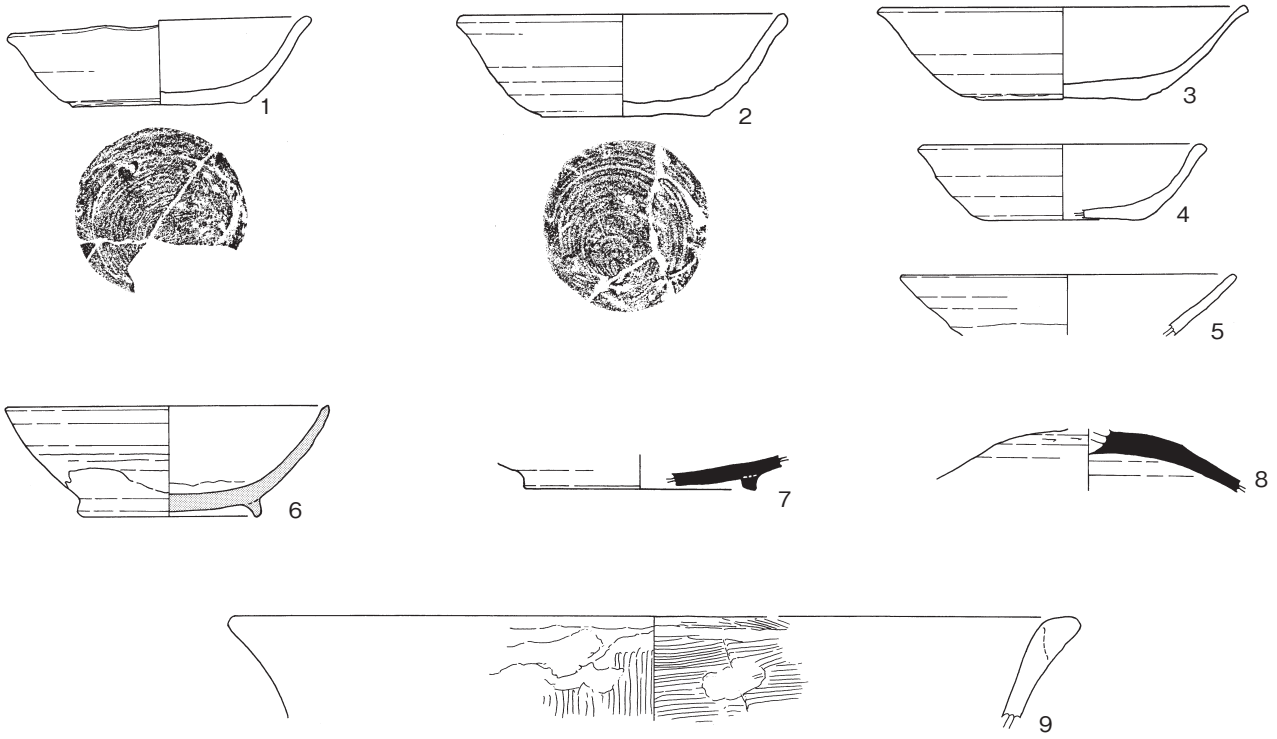


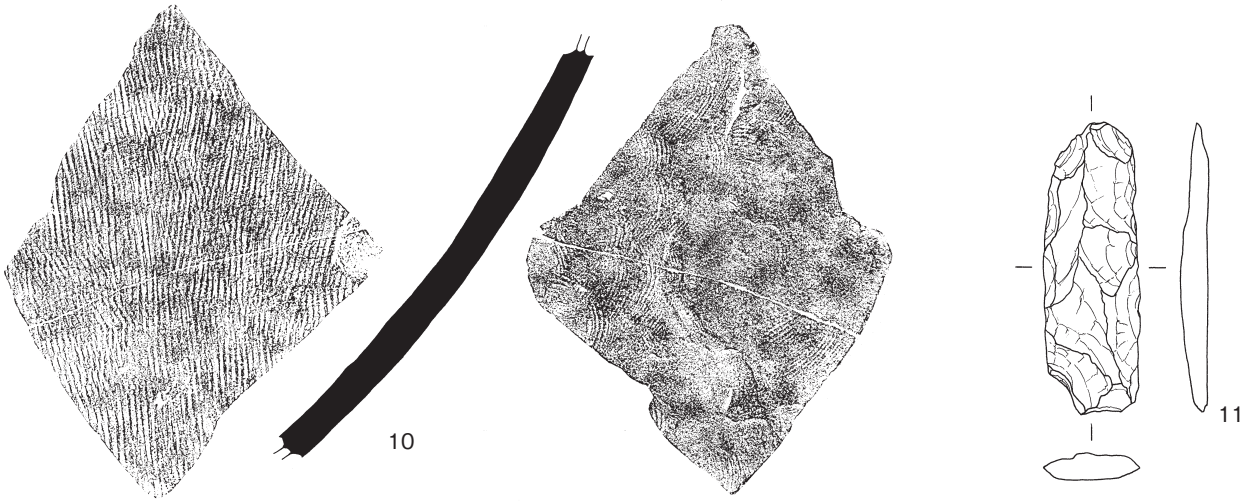
第119図　41・42号竪穴　遺物



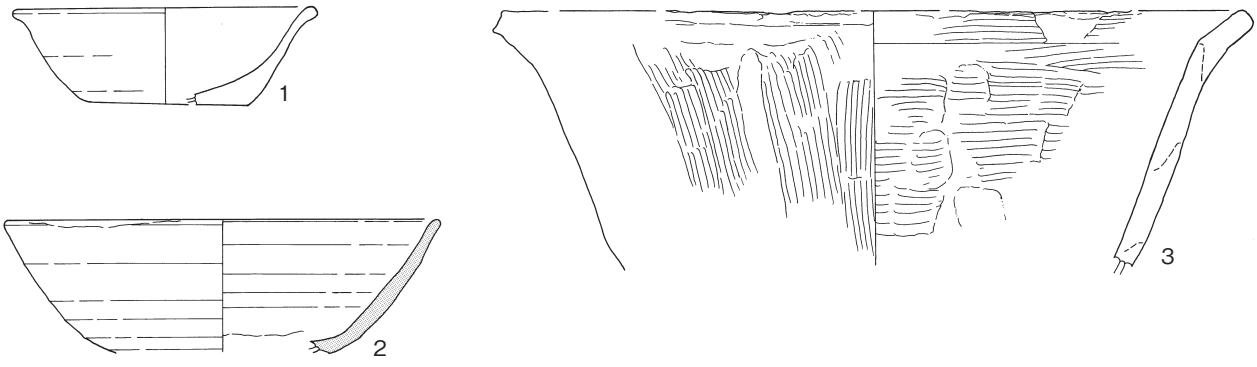
第120図　42・43号竪穴　遺物

44竪



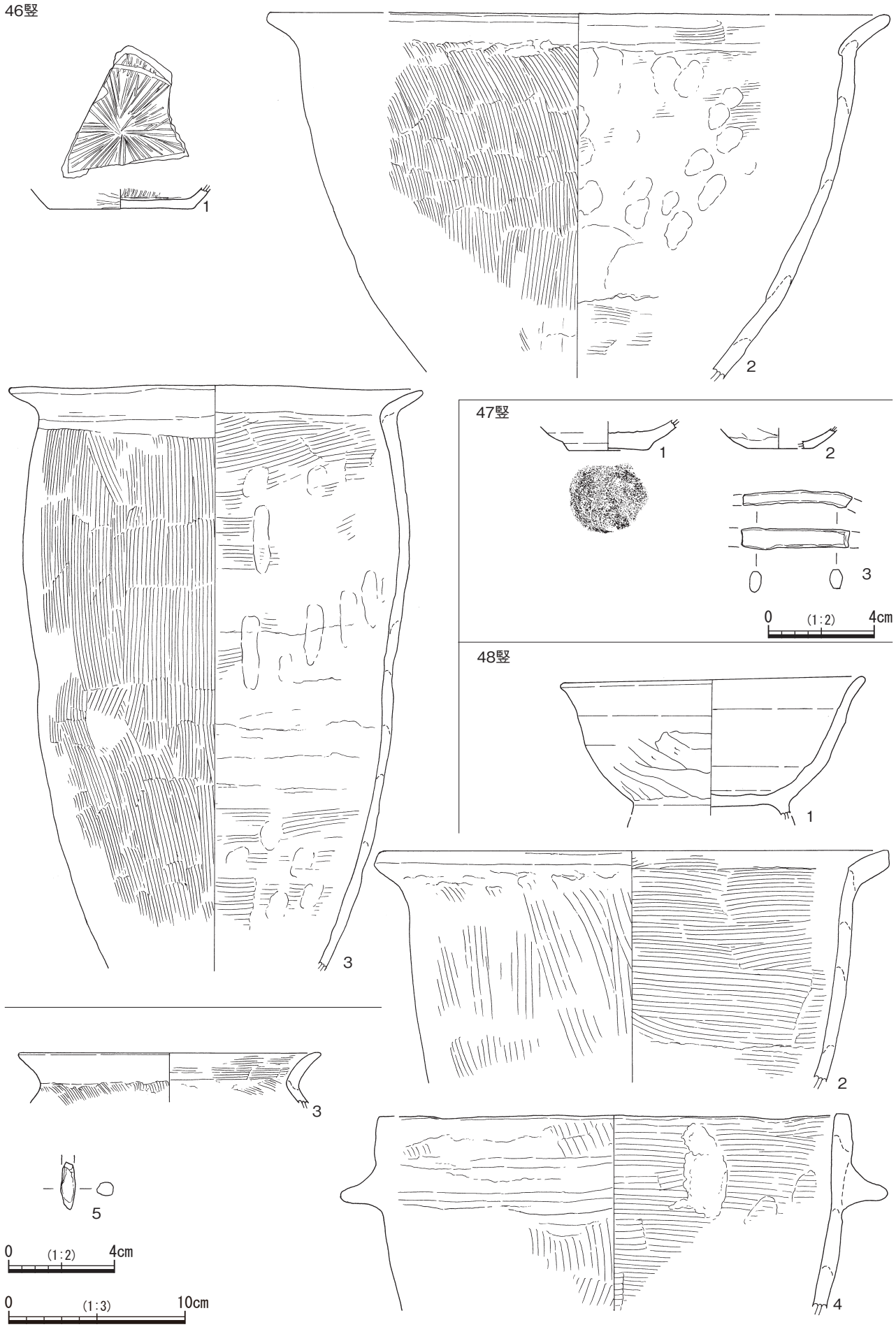


45竪



0 (1:3) 10cm

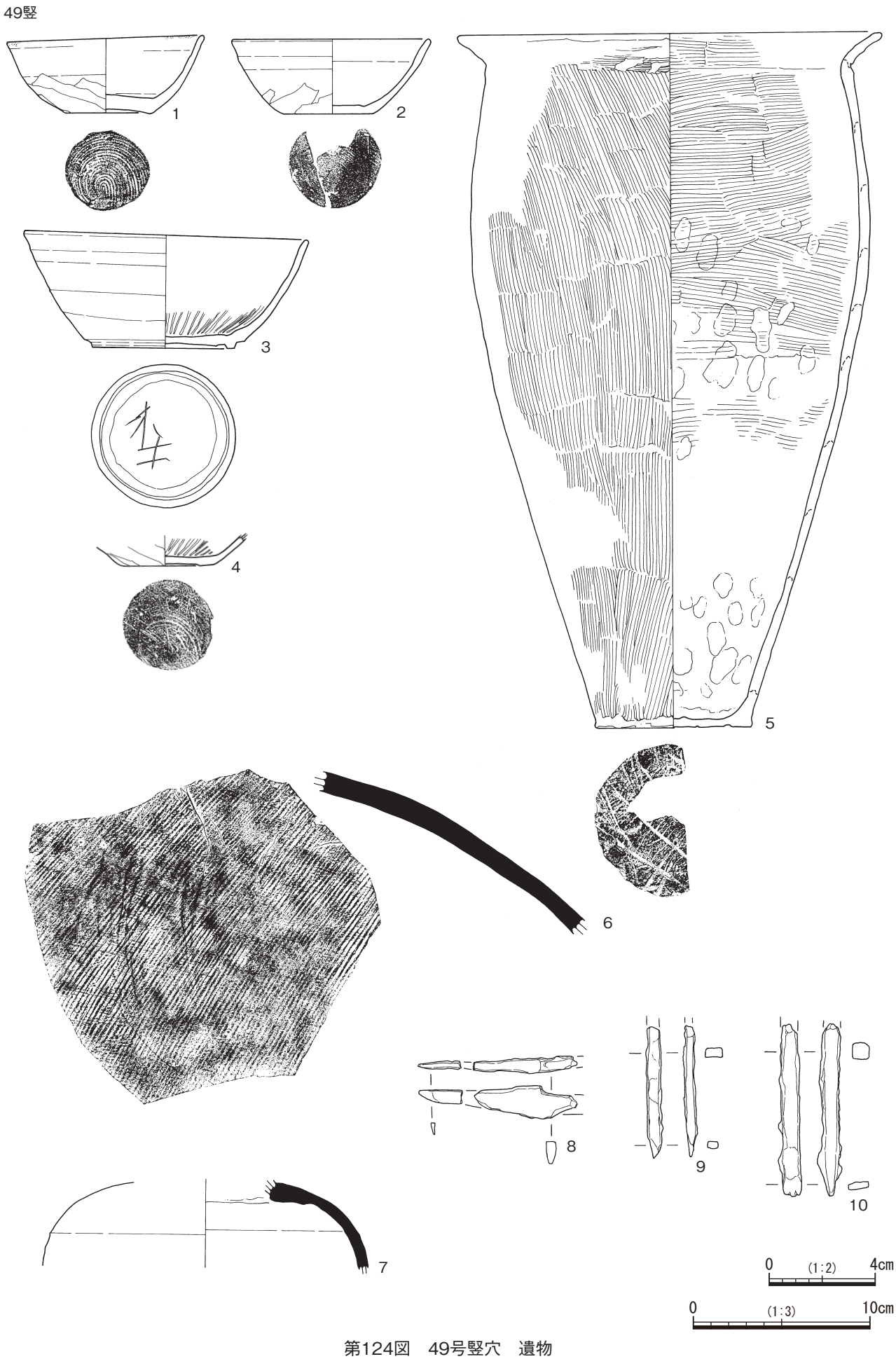
第121図　44・45号竪穴　遺物



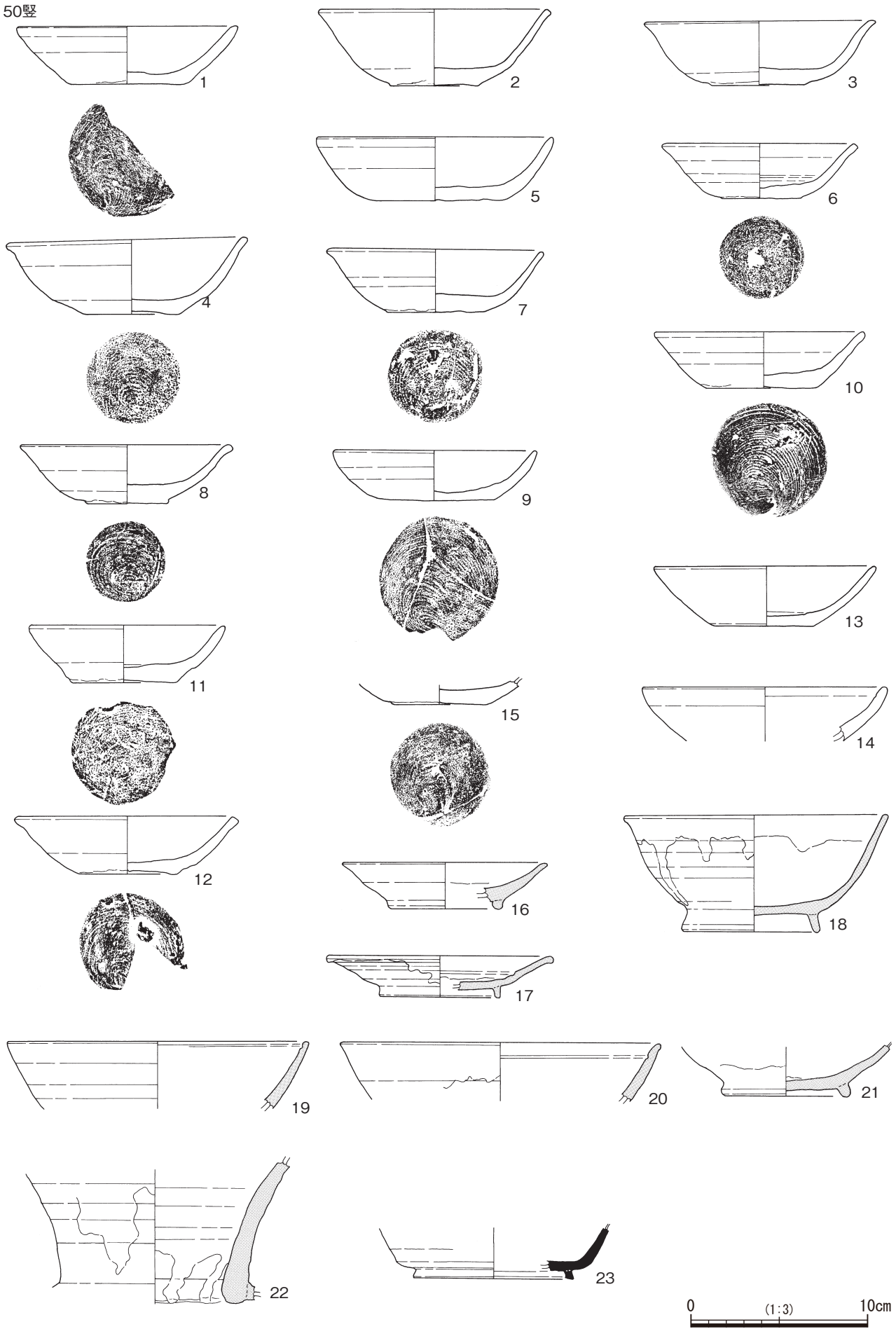
第122図　46～48号竪穴　遺物

48竪

第123図　48号竪穴　遺物

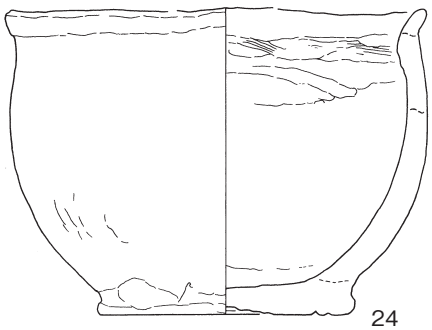


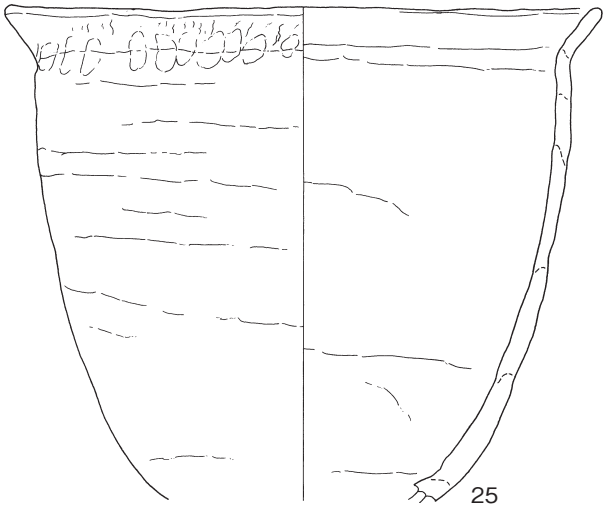
第124図　49号竪穴　遺物

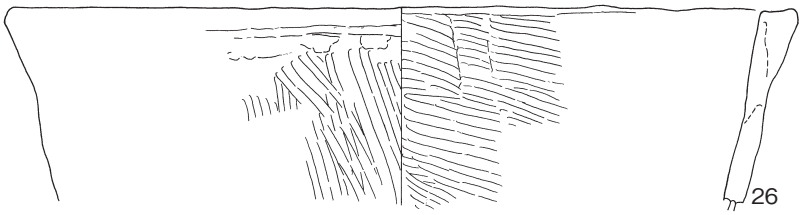


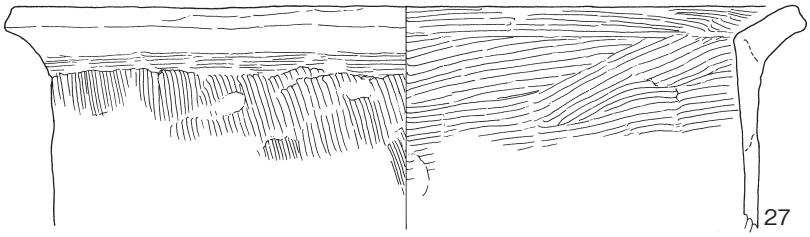
第125図　50号竪穴　遺物

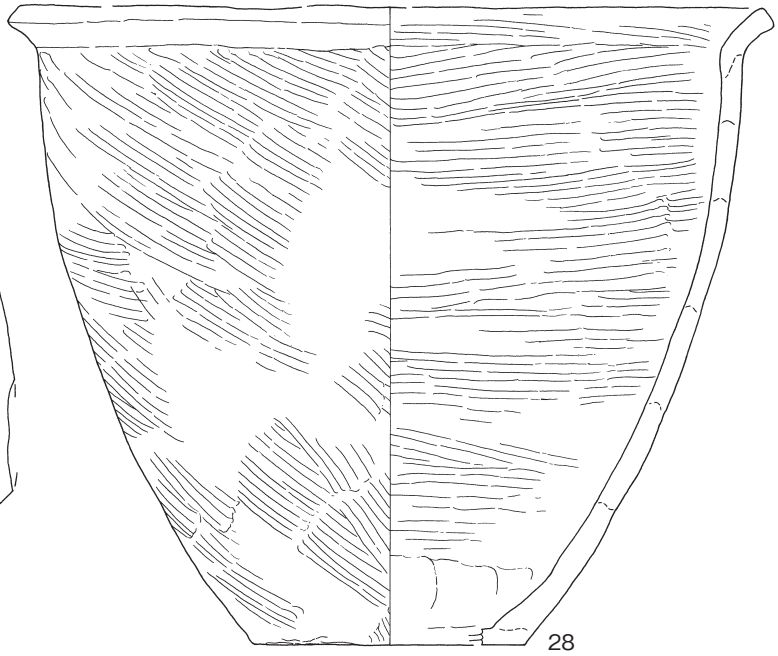
(50竪)

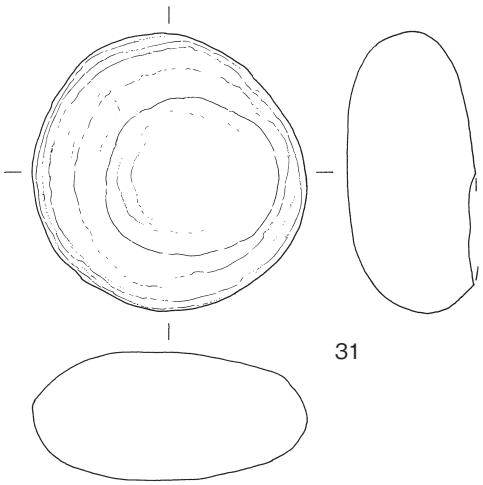

24

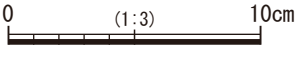

25


26


27

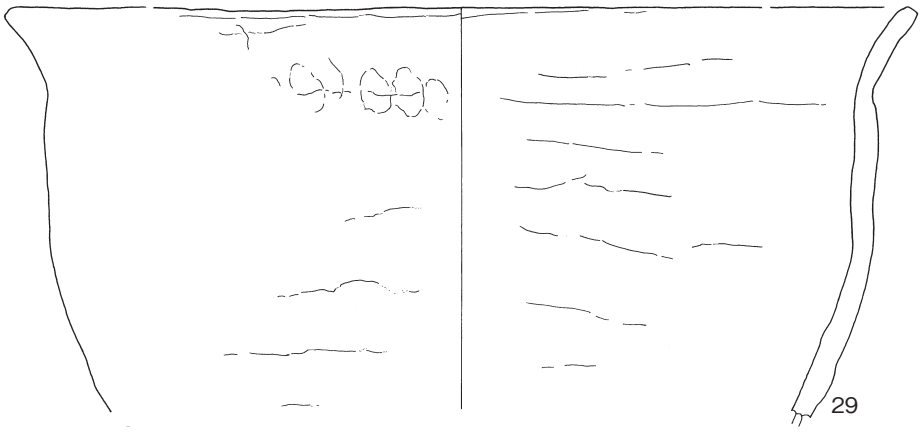

28

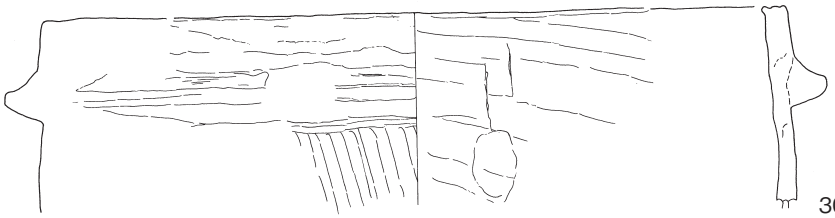

31



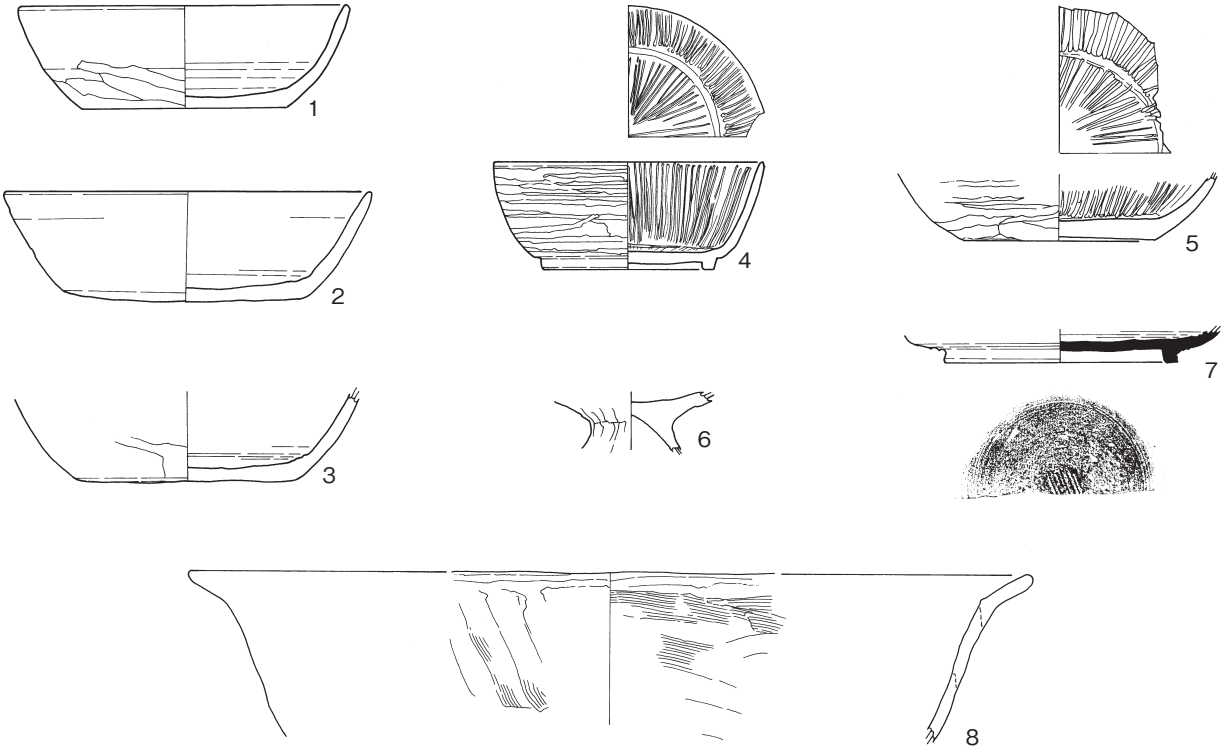
第126図　50号竪穴　遺物

(50竪)



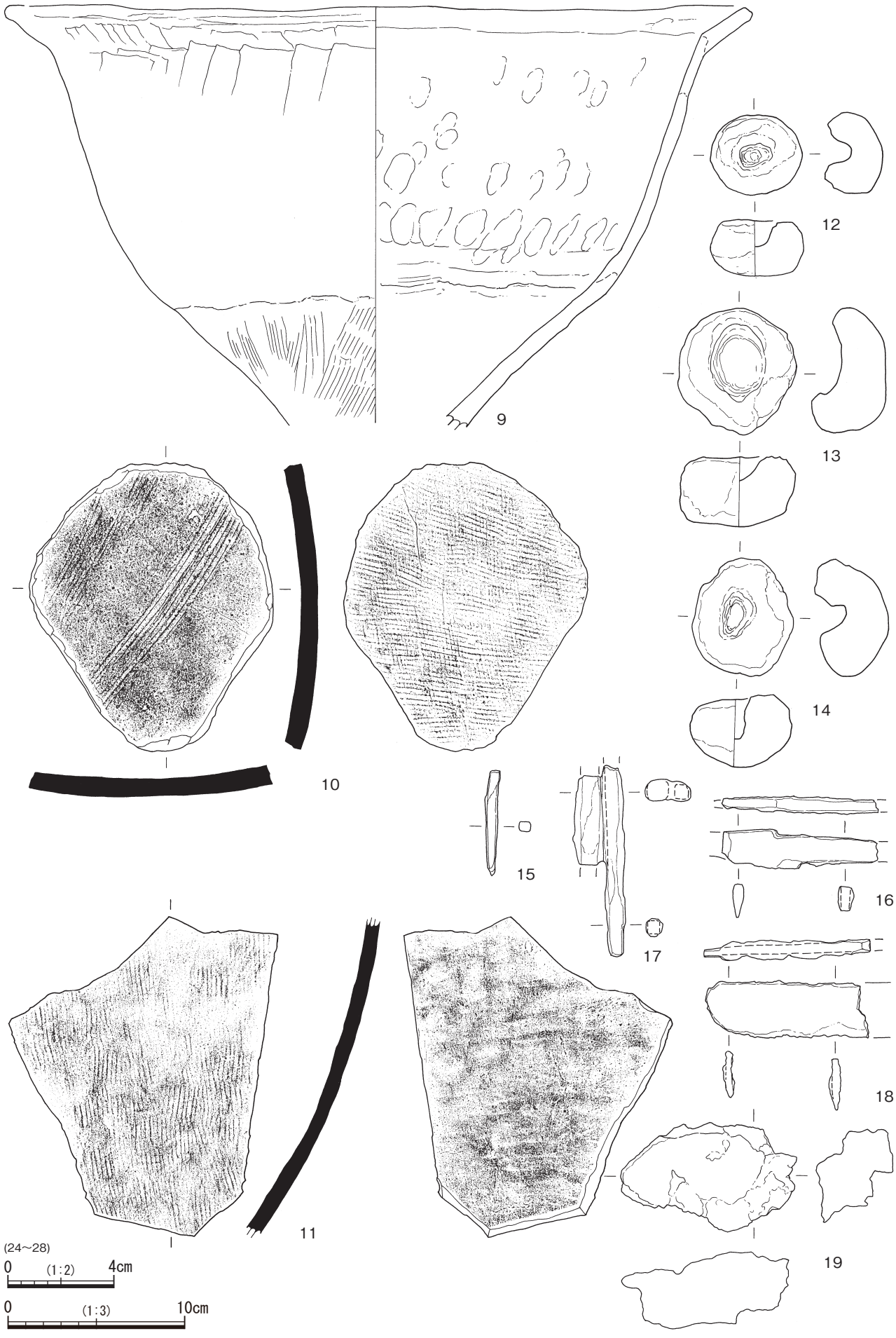


51竪



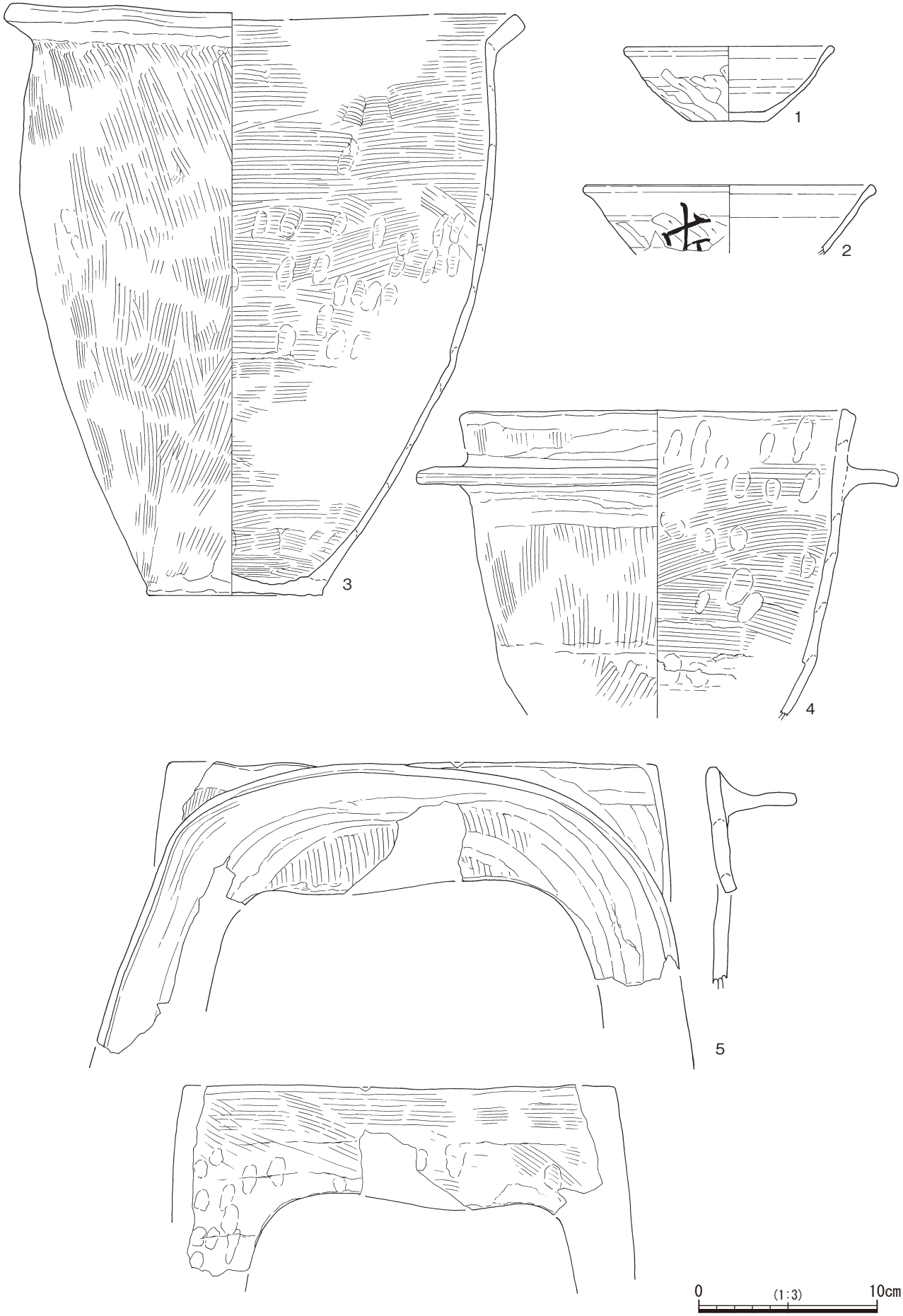
0 (1:3) 10cm

第127図　50・51号竪穴　遺物

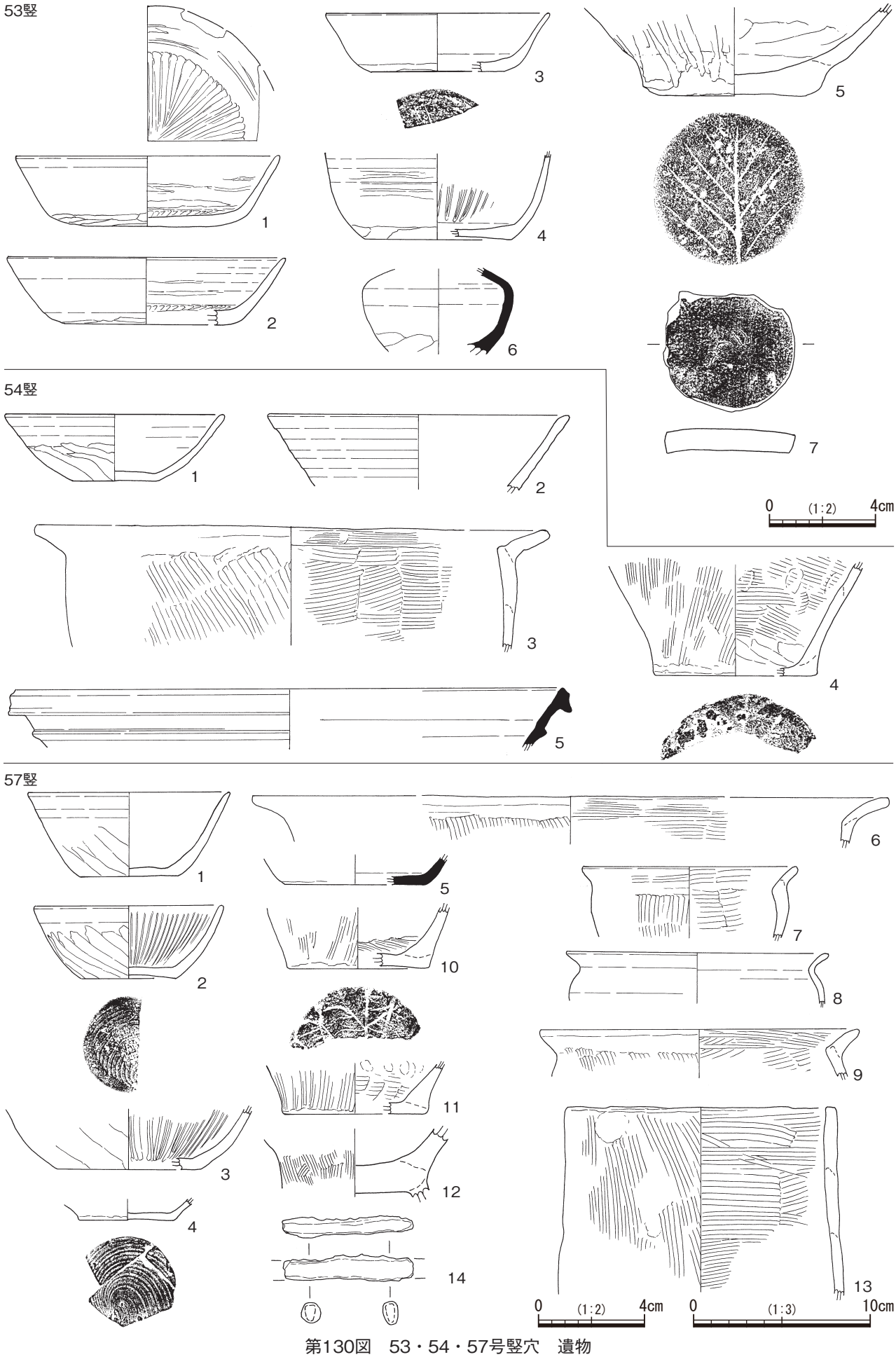


第128図　51号竪穴　遺物

52竪

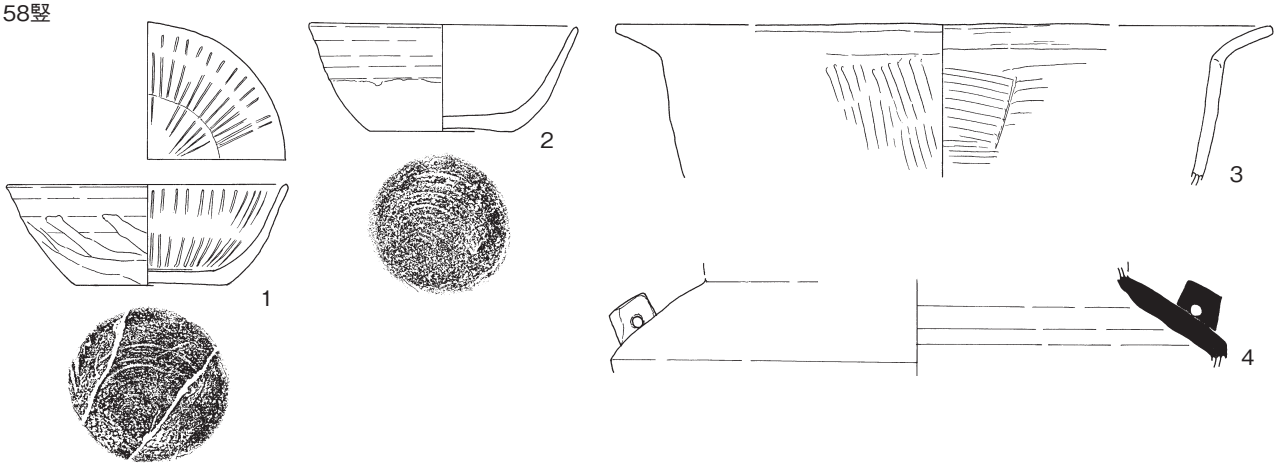


第129図　52号竪穴　遺物

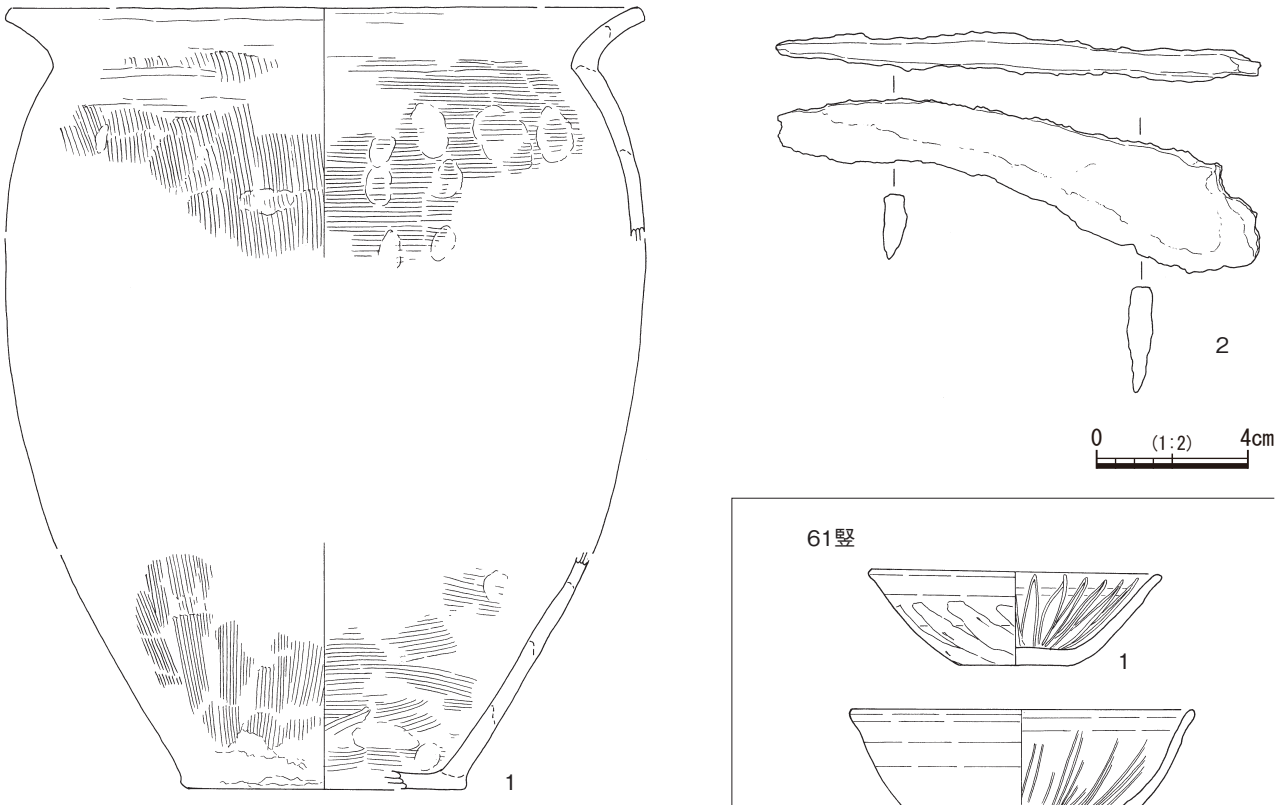


第130図　53・54・57号竪穴　遺物

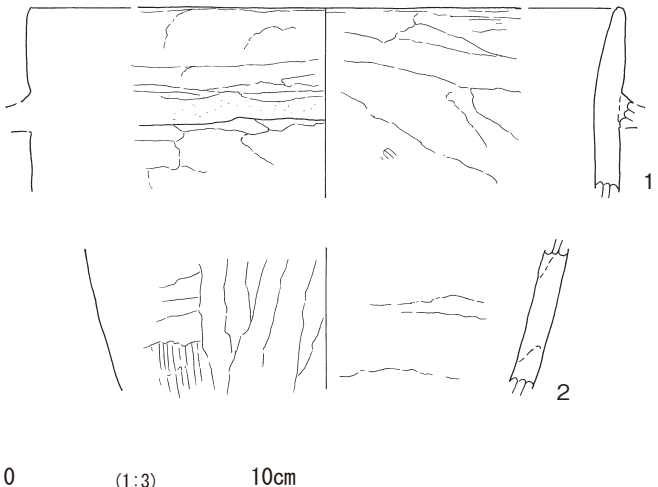
58竪



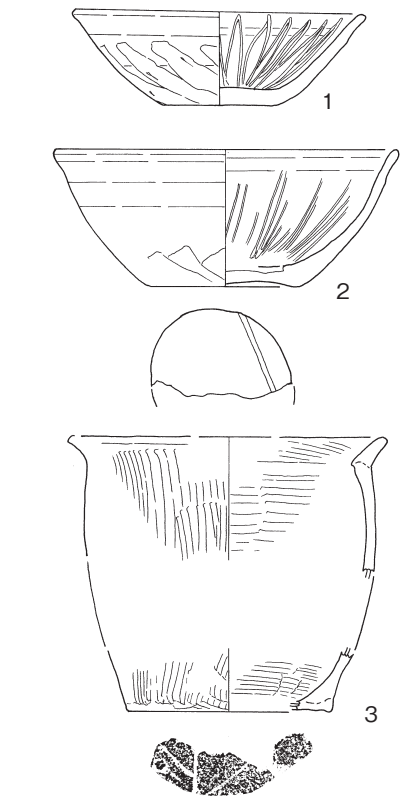
59竪



60竪



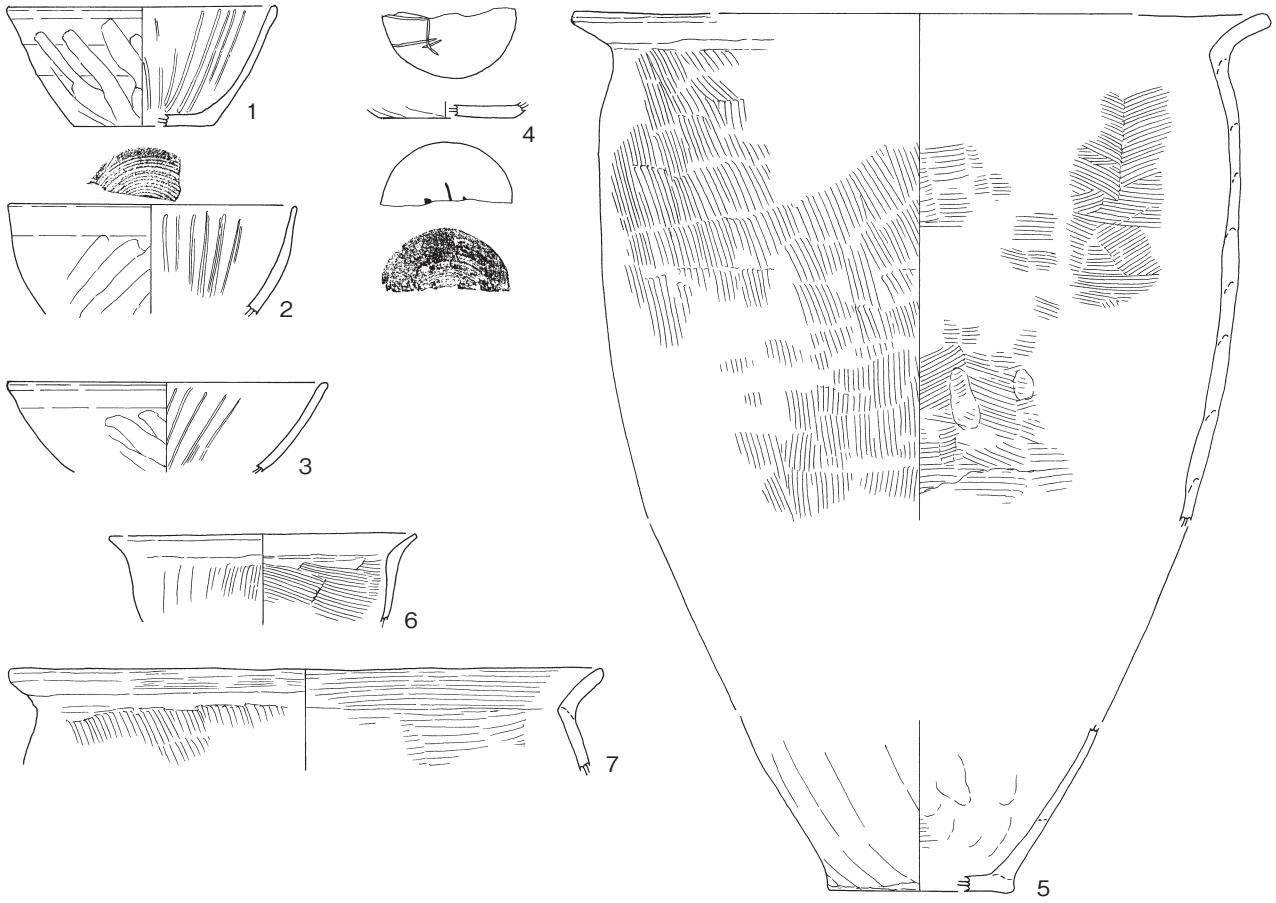
61竪



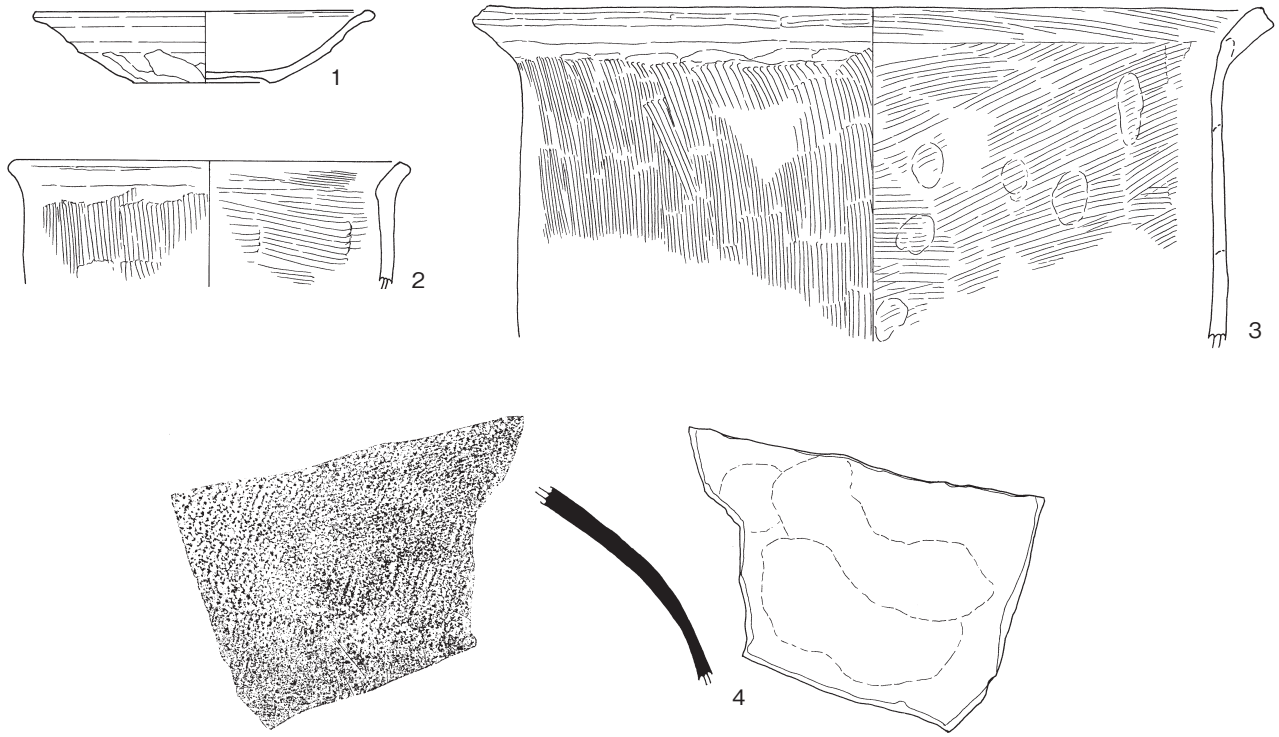
0 (1:3) 10cm

第131図　58～61号竪穴　遺物

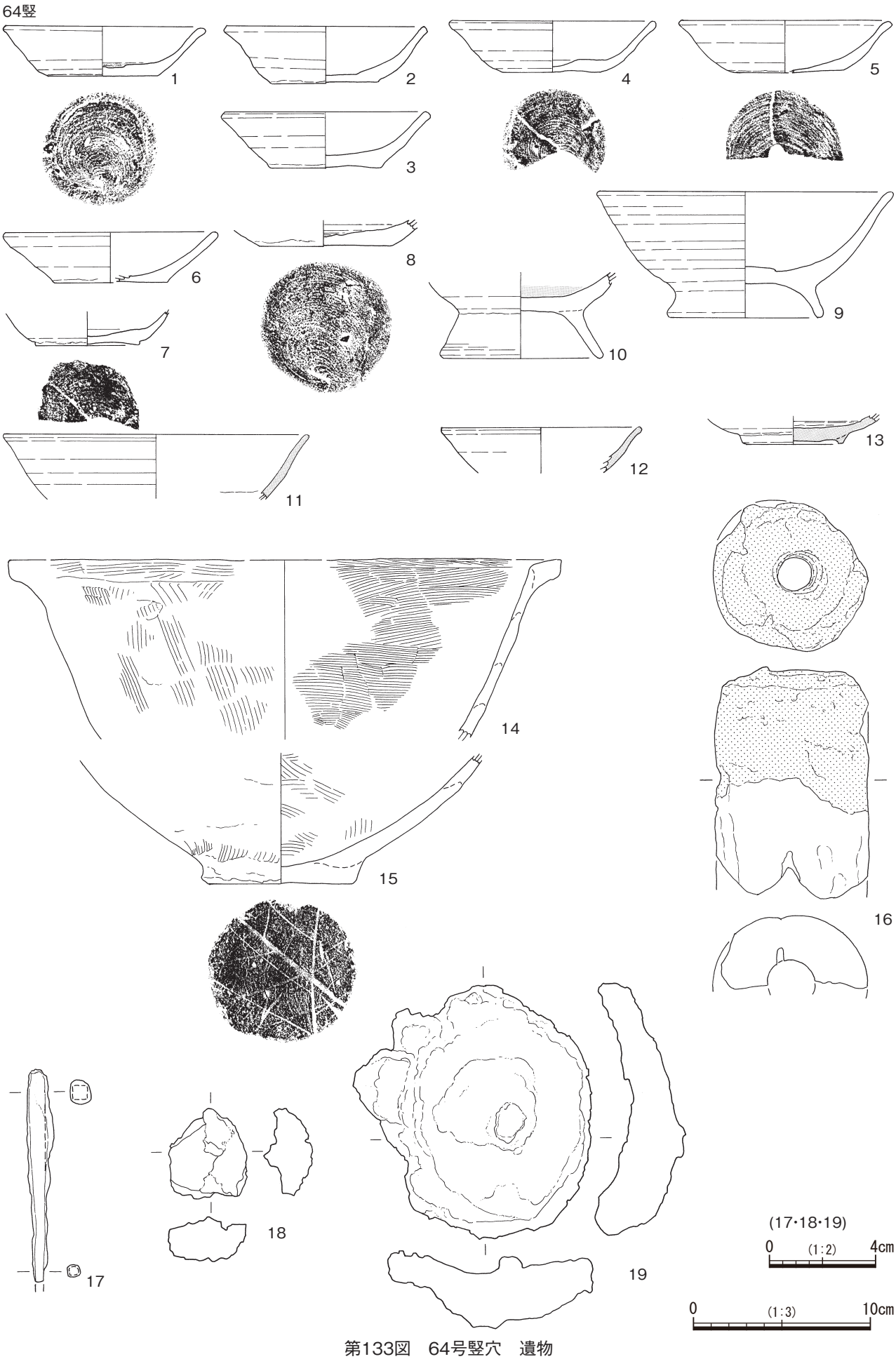
62竪



63竪



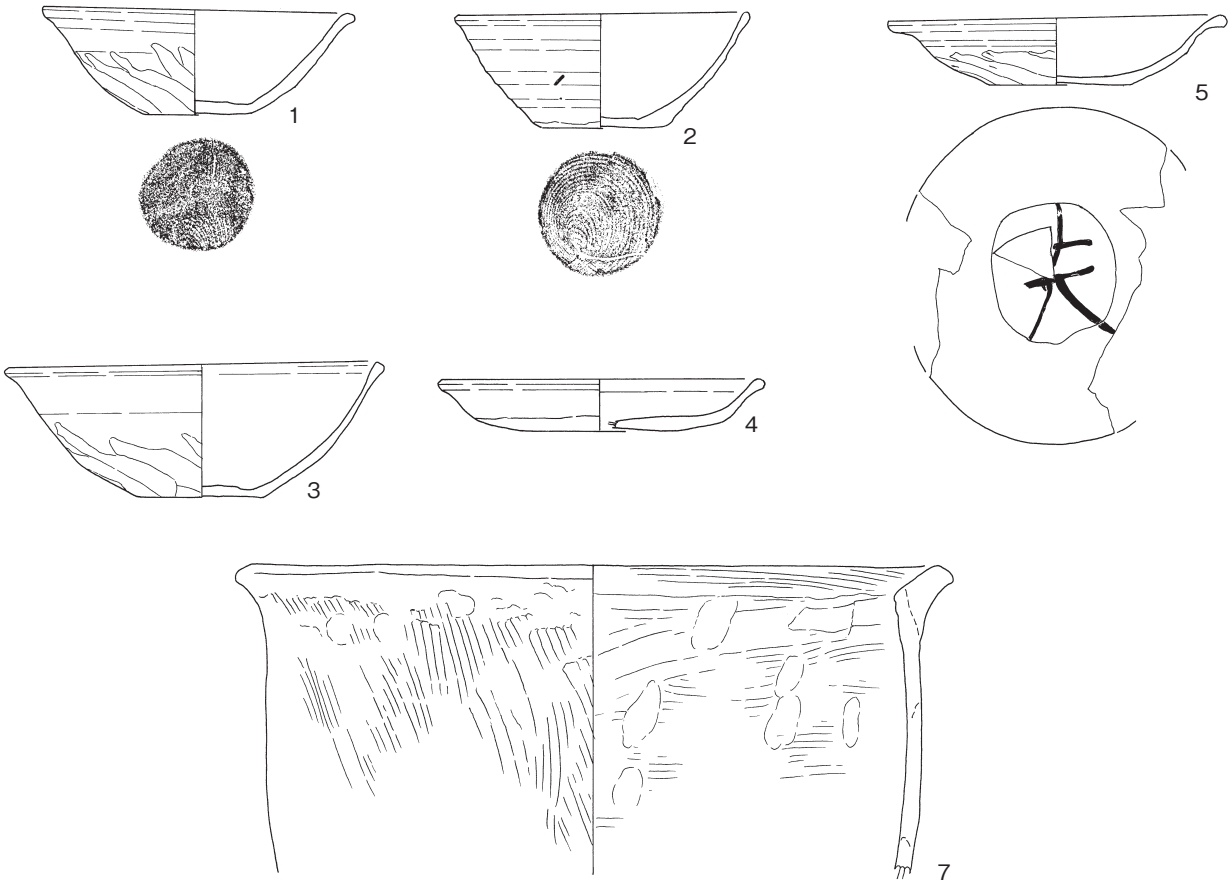
第132図　62・63号竪穴　遺物



第133図　64号竪穴　遺物

65竪

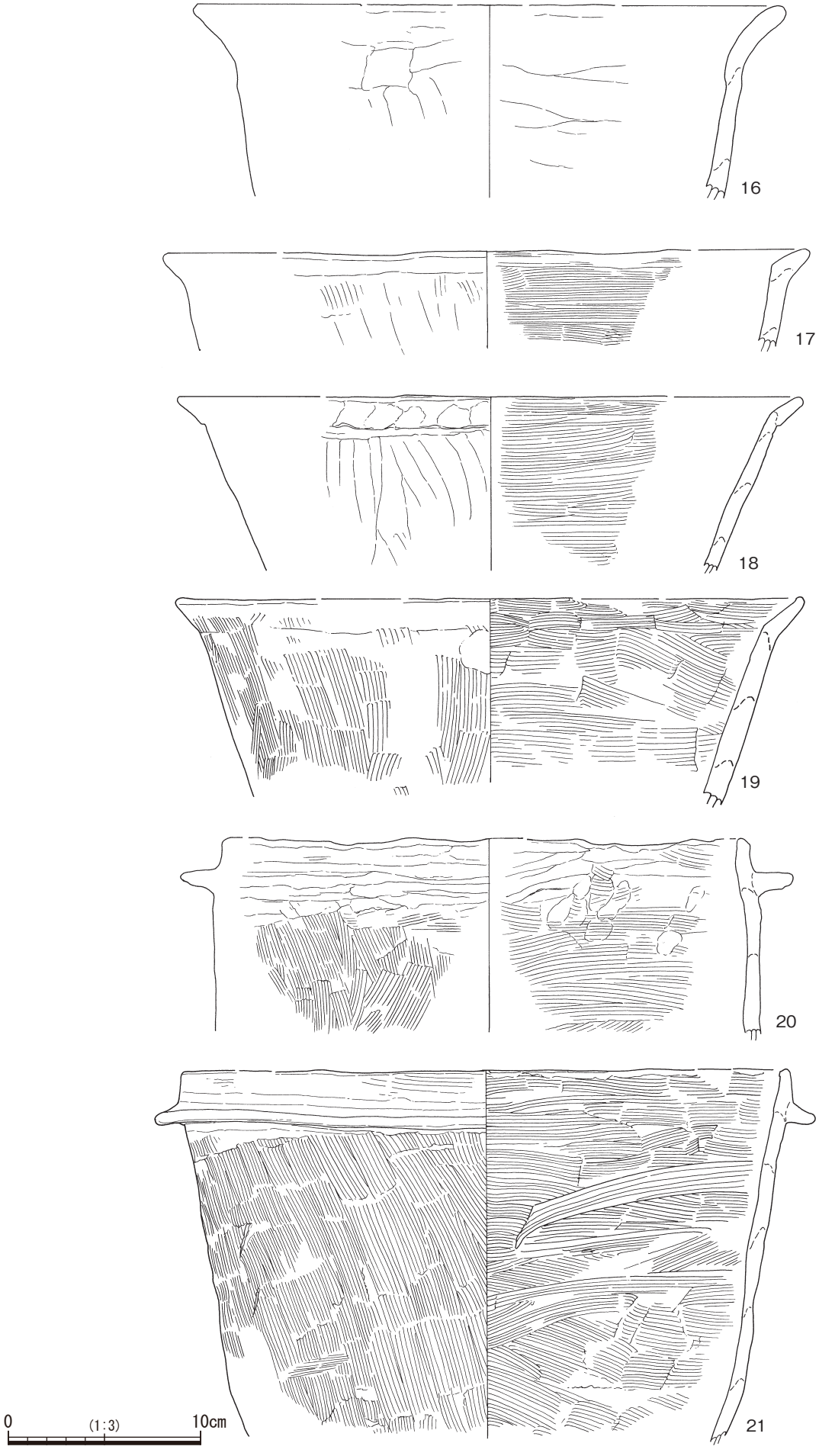
67竪



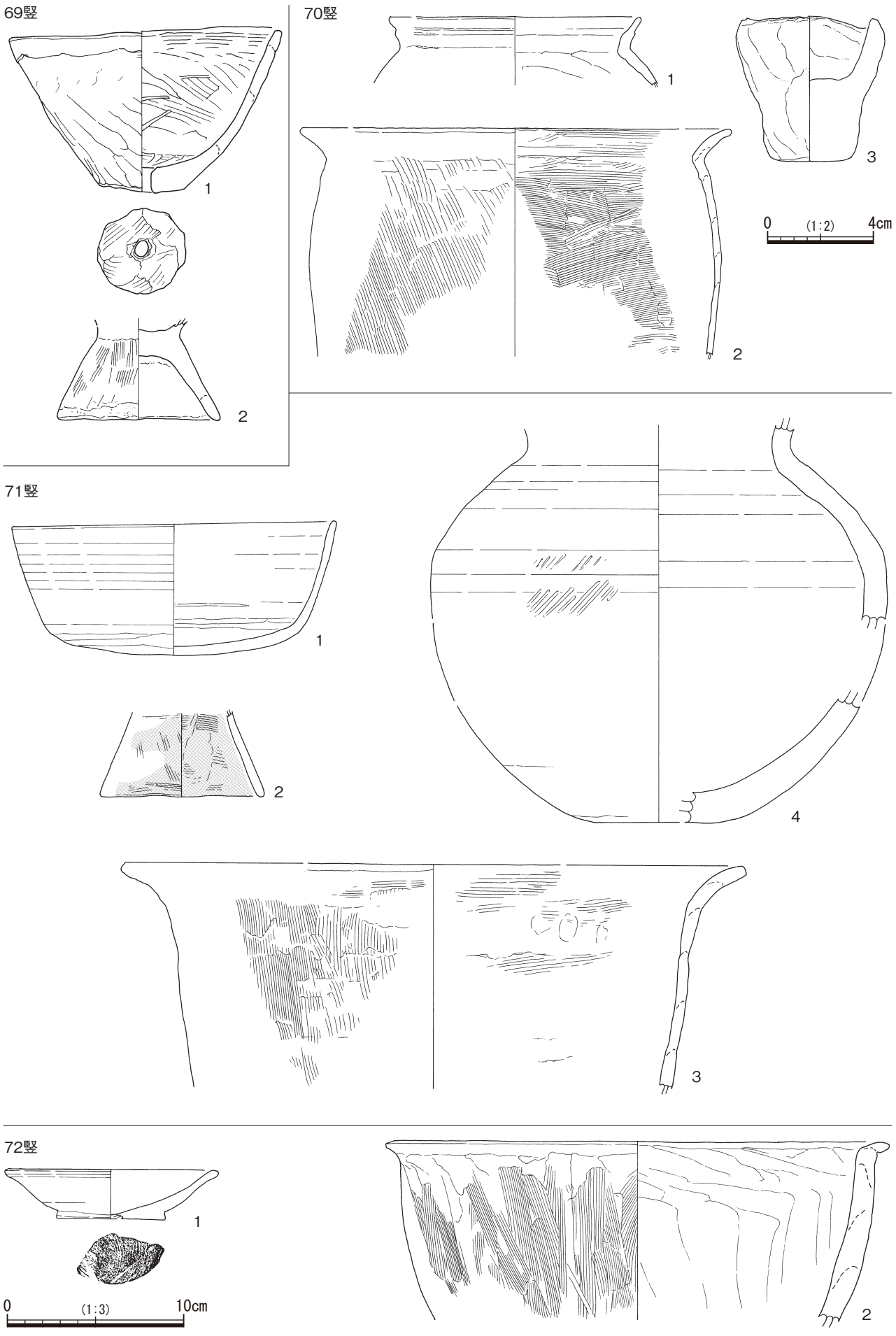
0 (1:3) 10cm

第134図　65・67号竪穴　遺物

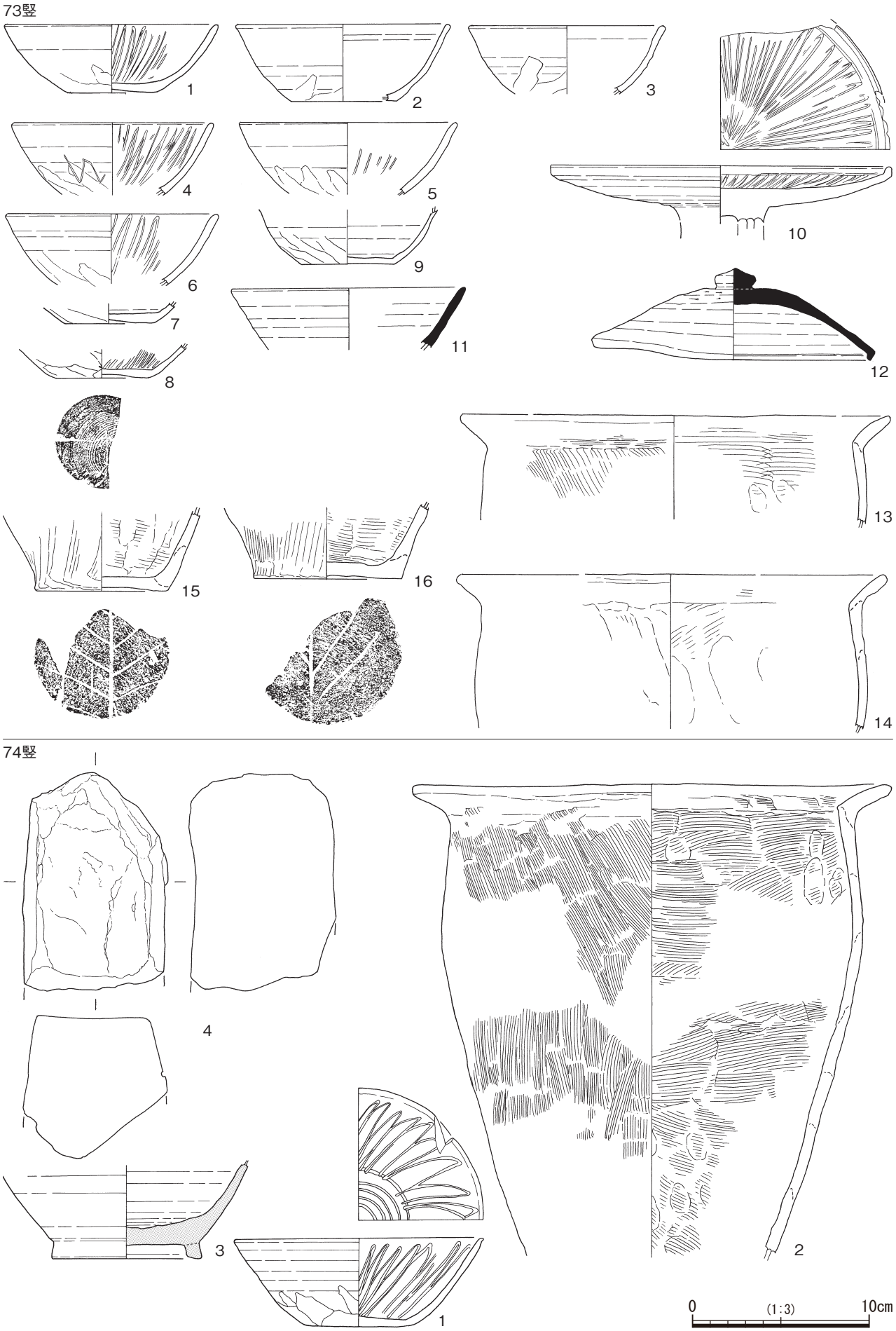
第135図　67・68号竪穴　遺物



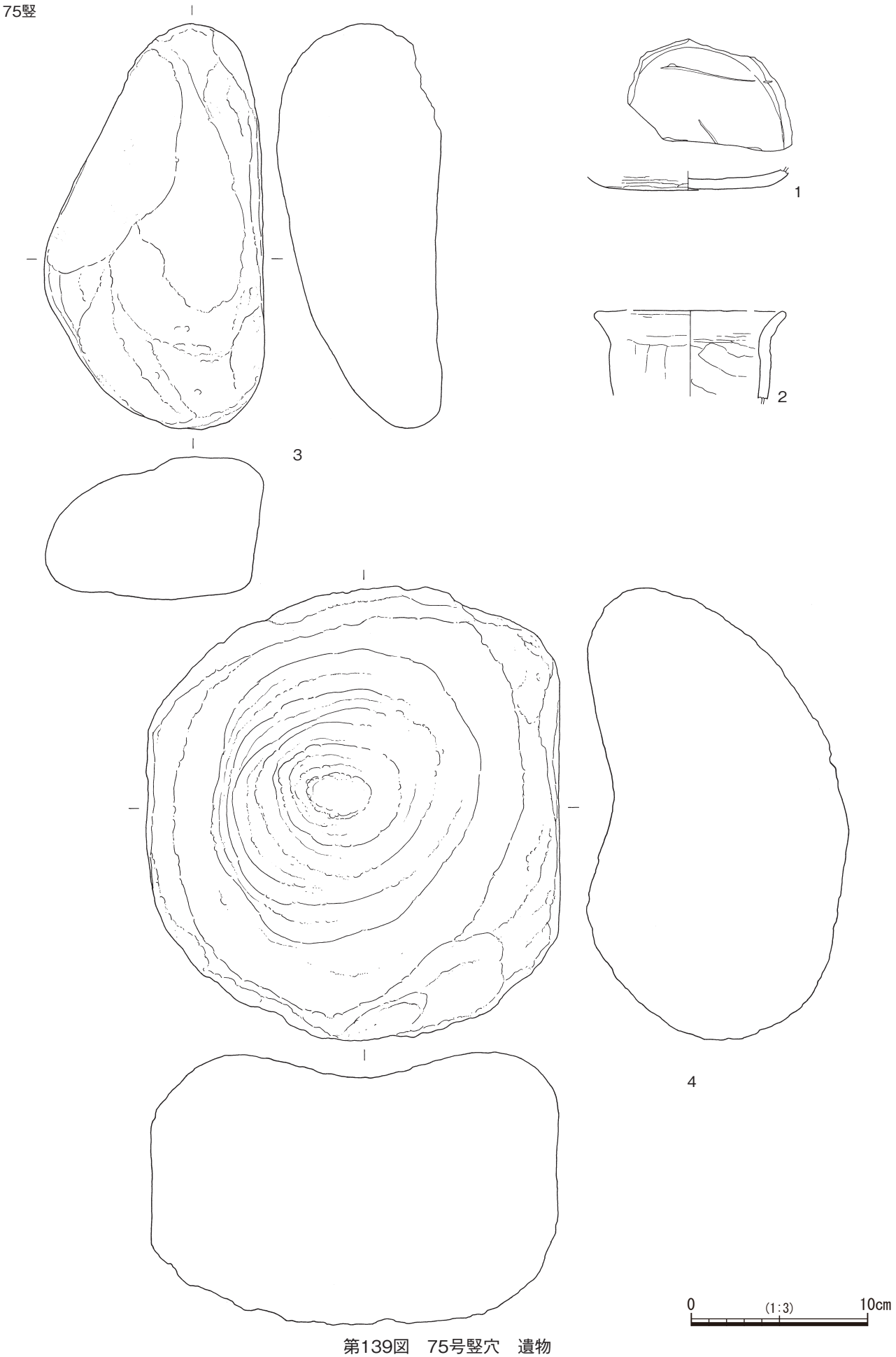
第136図　68号竪穴　遺物



第137図　69～72号竪穴　遺物

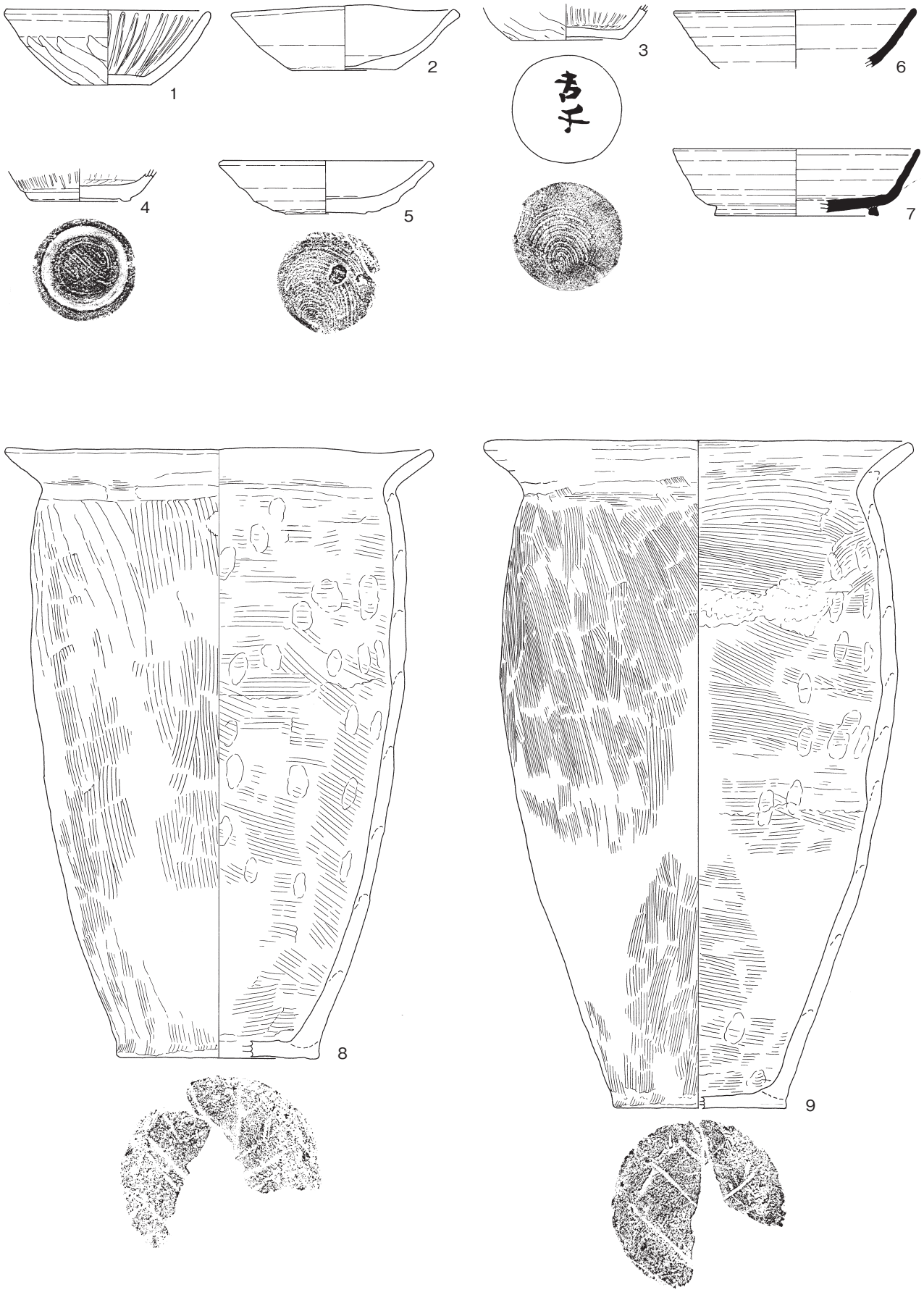


第138図　73・74号竪穴　遺物



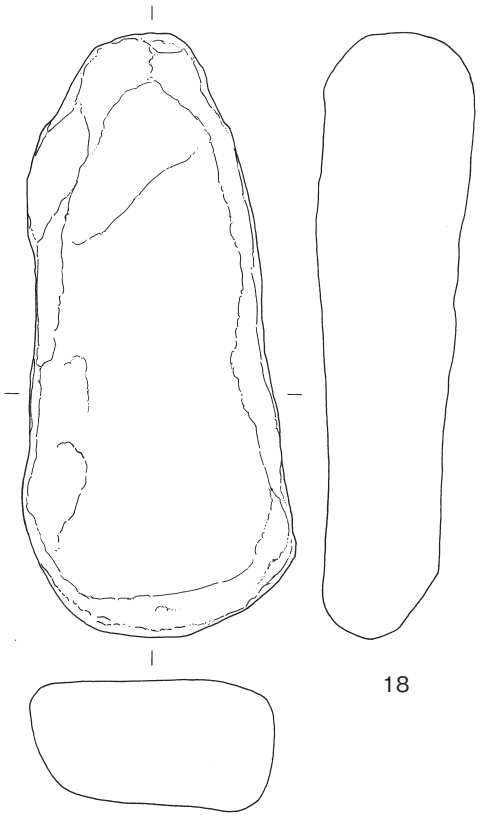
第139図　75号竪穴　遺物

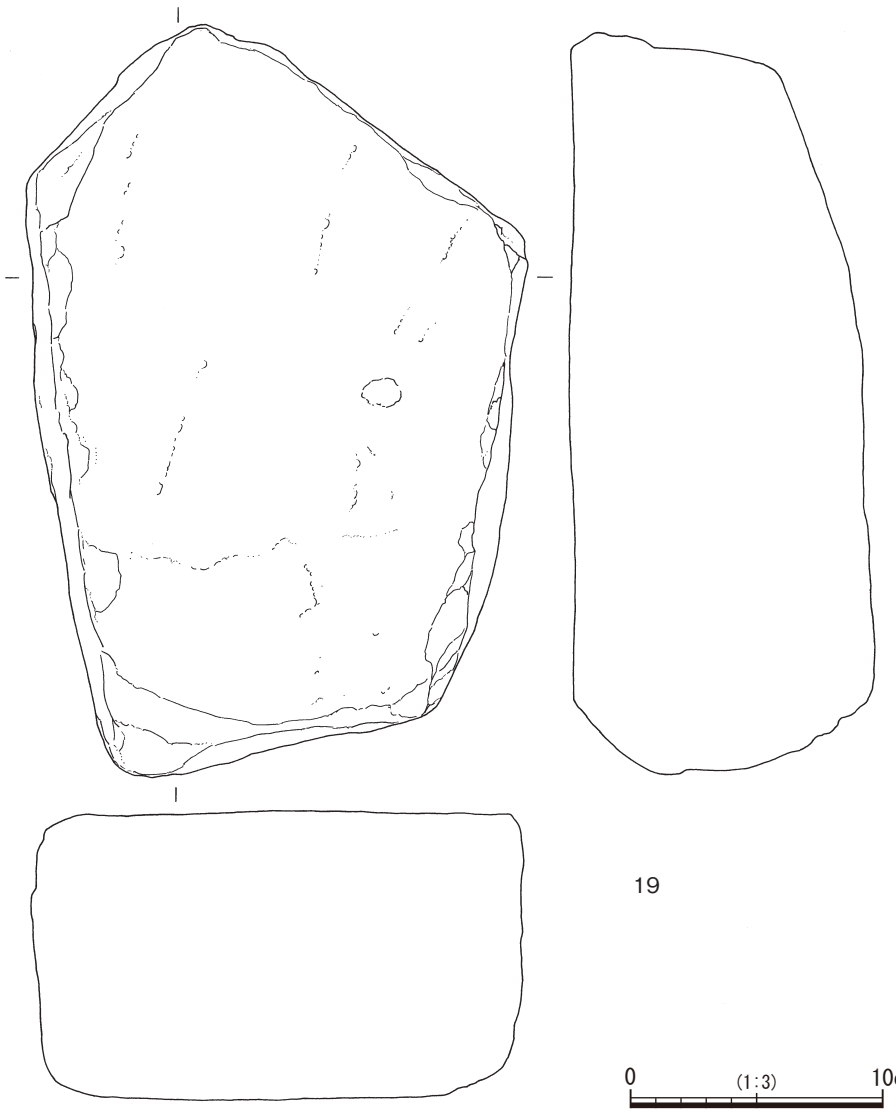
76竪



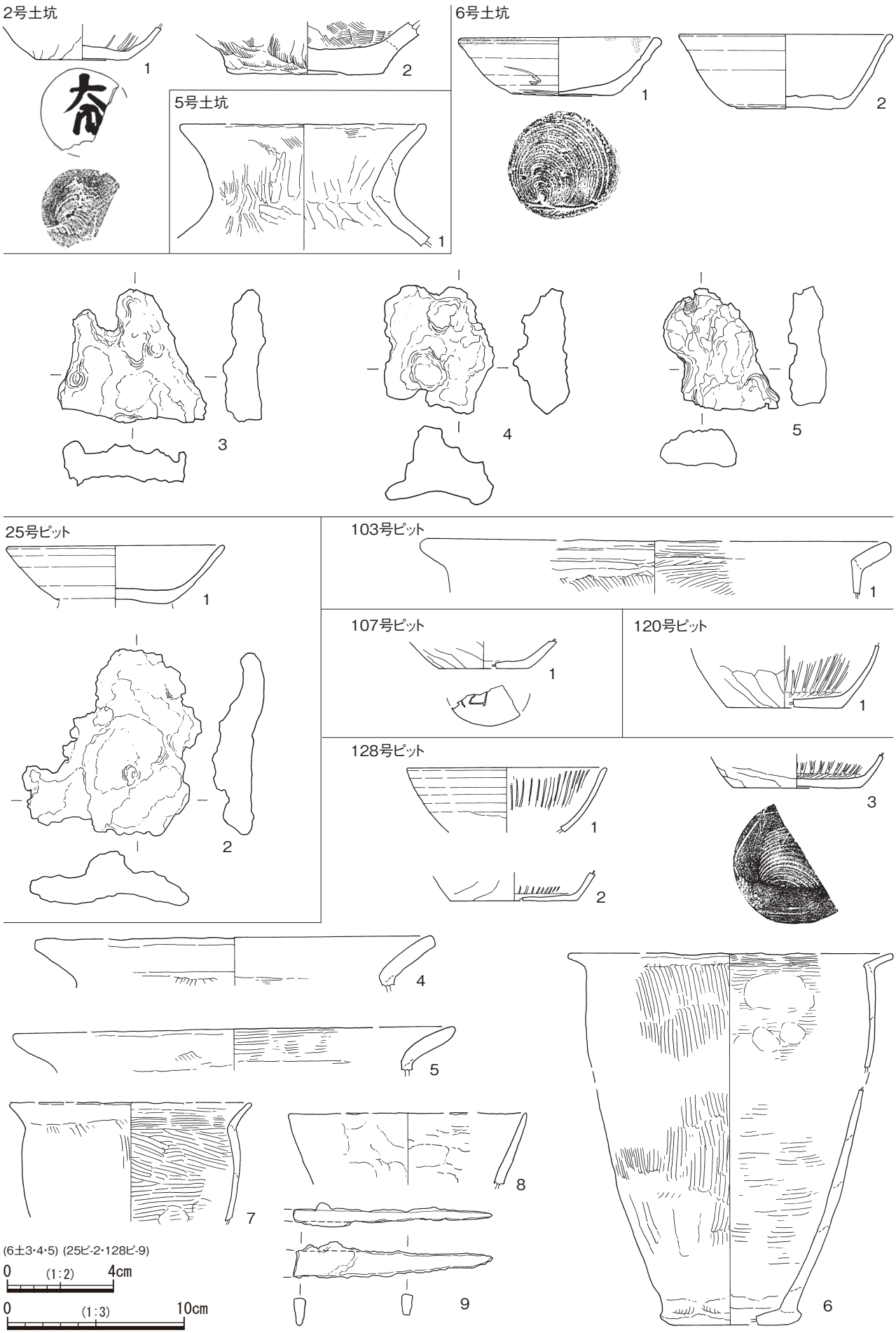
第140図　76号竪穴　遺物

第141図　76号竪穴　遺物

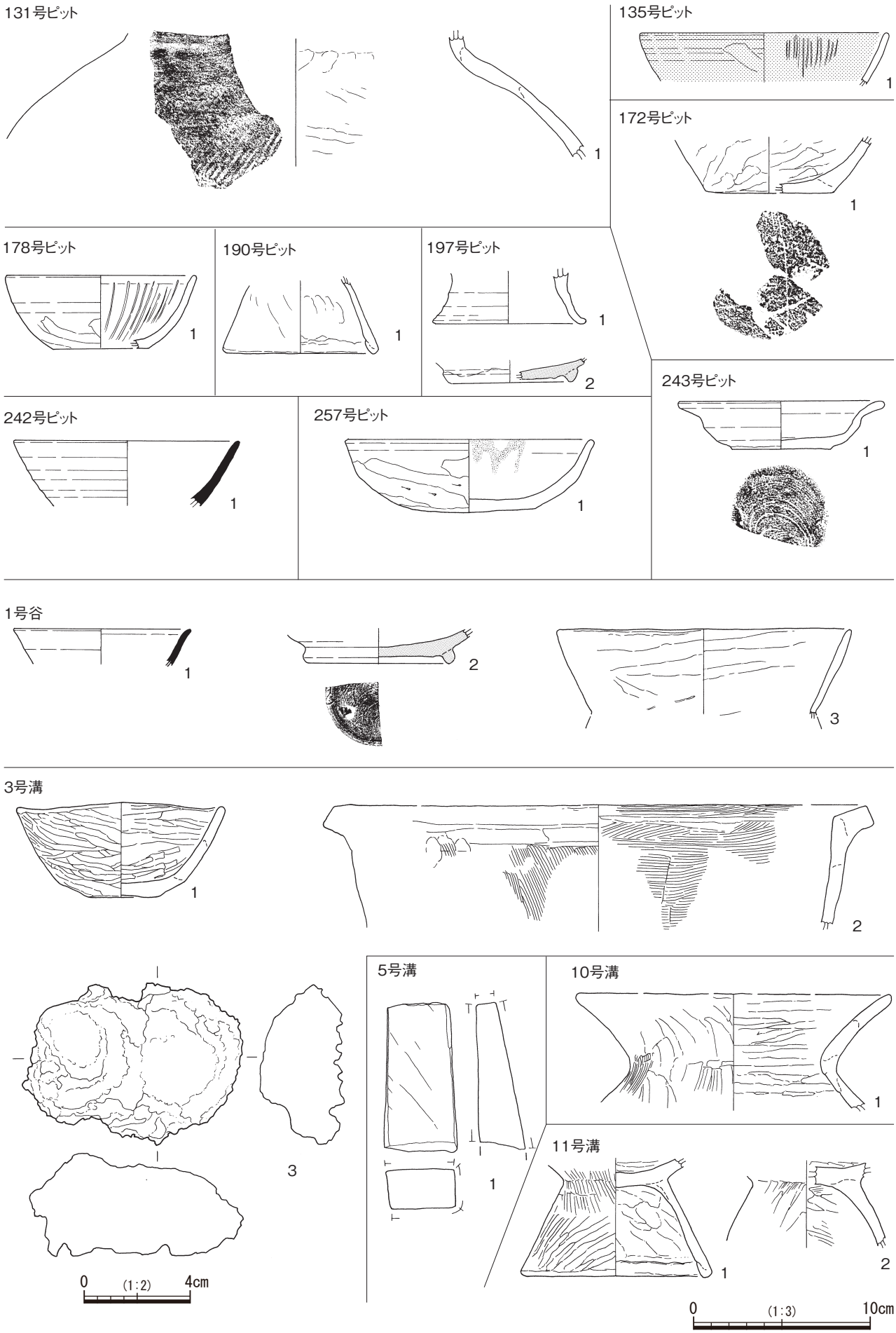




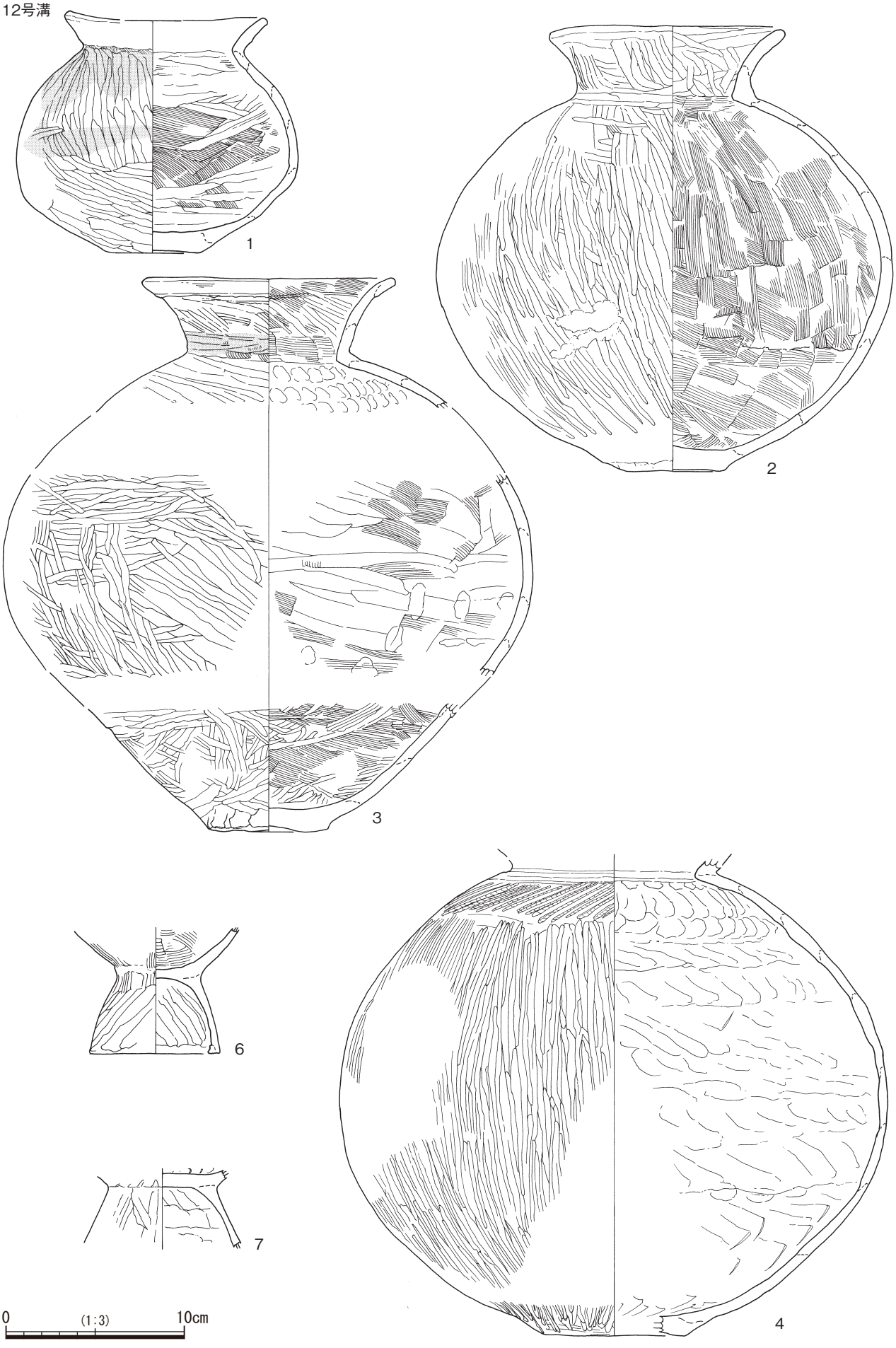
第142図　76号竪穴　遺物



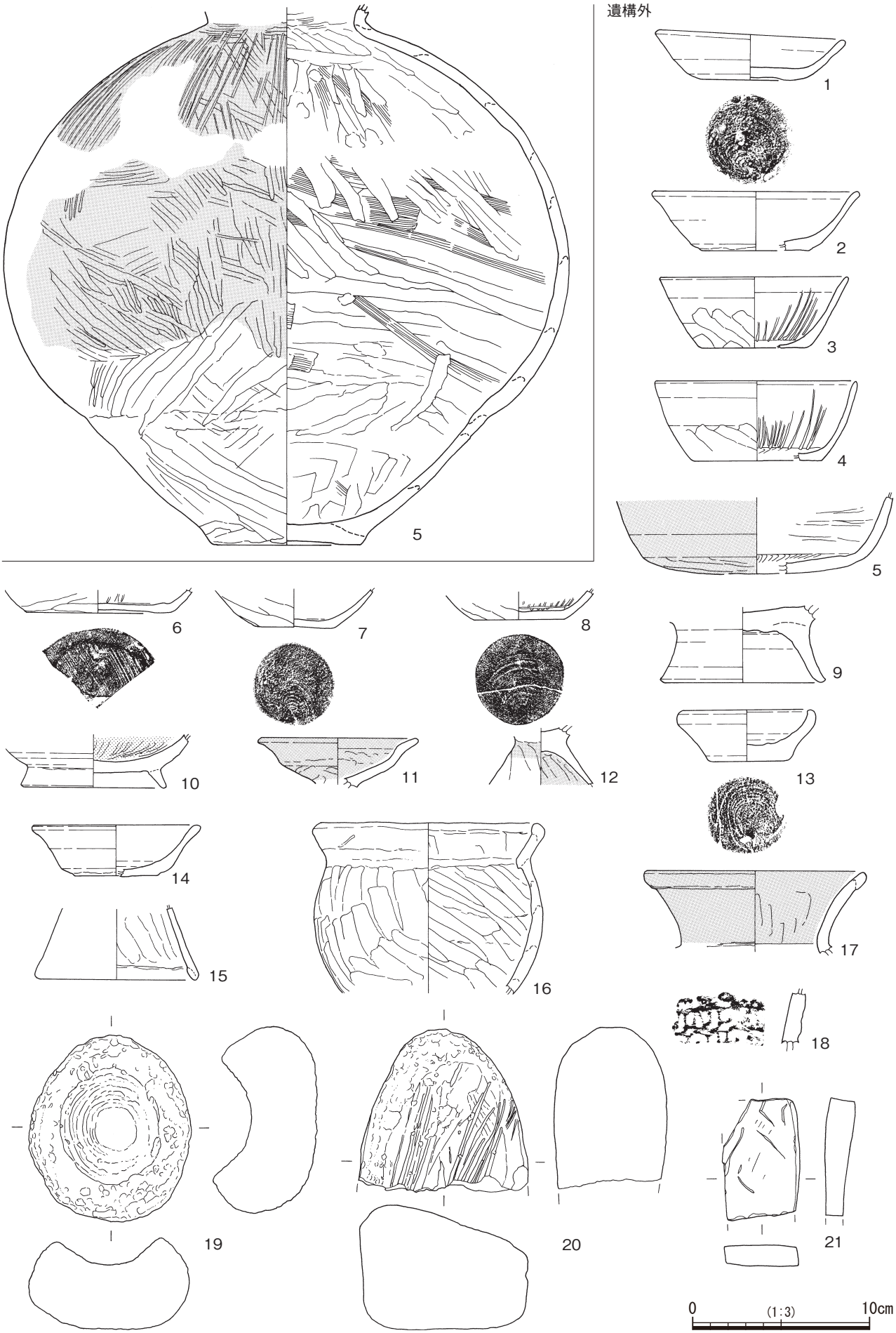
第143図　土坑・ピット　遺物



第144図　ピット・１号谷・溝　遺物



第145図　溝　遺物



第146図　溝・遺構外　遺物